

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第321集

年 保 遺 跡 鳥 山 下 遺 跡

(主) 太田大間々線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

2003

群 馬 県 土 木 部
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

年保・鳥山下遺跡 正誤表

位置	誤	正
凡例 9行目	掘立柱建物跡 1:80	掘立柱建物跡 1:60
7頁 第4図	Y=43,400 ~ Y=42,600	Y=-43,400 ~ Y=-42,600
21頁左段 1行目	2号住居(図12、PL3)	2号住居(図11、PL3)
21頁右段第11図		土層A-A' 5層下に「10層」追記
55頁 第53図		土層A-A' 1層下に「6層」追記
56頁右段15行目	28号土坑(図59、PL14・21)	28号土坑(図59、PL14)
57頁 第55図		12号土坑の右に「13号土坑」追記
105頁 第106図		図の左上に「196号土坑」追記
120頁左段9行目	82号溝(図122、PL37、48、49)	82号溝(図121・122、PL37、48、49)
122頁左段1行目	83・108号溝(図124、PL37)	83・108号溝(図123・124、PL37)
129頁 第130図	34499 34499 -43455 -43445	34499 34499 -43445 -43443
135頁 第136図	104号溝	104溝
135頁 第136図	鳥山下10区103・104号溝実測図	鳥山下10区103号溝実測図
136頁左段1行目	104号溝(図136・137、PL39)	104号溝(図137、PL39)
157頁 第151図	141号溝	114号溝
157頁 第151図	34467 -43417	34468 -43417
174頁右段12行目	集落営まれた	集落が営まれた
195頁	9区 85号溝 2	9区 86号溝 1
付図1		凡例 古代以前は黒色 中世以降は茶色
付図2		凡例 古代以前は黒色 中世以降は青色 時期不明は赤色

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第321集

年 保 遺 跡 鳥 山 下 遺 跡

(主) 太田大間々線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

2003

群 馬 県 土 木 部
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺跡遠景〈金山を望む〉（西上空より）



年保3区14号住居出土遺物



鳥山下9・10区掘立柱建物跡群(上空より)



鳥山下9区12号井戸出土墨書土器

序

『年保遺跡・鳥山下遺跡』は太田市大島町・鳥山中町に所在し、主要地方道太田大間々線改築工事に伴い平成12・13・14年度に発掘調査された遺跡です。発掘調査は、群馬県土木部から委託を受け、群馬県教育委員会の調整により財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施しました。

本遺跡の周辺には、大間々扇状地末端の集落跡、金山丘陵西辺の古墳群、寺井廃寺や入谷遺跡などの古代官衙・東山道に関連する遺跡、平安時代の製鉄跡などが存在しております。また、河川改修、土地改良工事などに伴う発掘調査も数多く行われてきました。

本遺跡はそれらの遺跡地間に延びる沖積低地中央を南北に縦断する部分にあたり、発掘調査の結果、古墳時代、奈良・平安時代、中近世の遺構を中心に多くの遺物が発見されています。古墳時代後期の集落跡や奈良時代の規模の大きな掘立柱建物跡などは、当地域の歴史を究明する上で貴重な資料を提供することと思います。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団では、発掘に引き続き、平成14年度に群馬県土木部から委託を受け整理作業を実施し、この度報告書が刊行されることになりました。

本報告書の刊行にいたるまでには、群馬県土木部道路建設課、太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会の諸機関並びに地元関係者の皆様に大変な尽力を賜りました。銘記して心から感謝申し上げますとともに、本報告書が広く基本的な歴史資料として活用されることを念願し、序とします。

平成15年9月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本報告書は、「年保遺跡」・「鳥山下遺跡」の報告である。(同事業に伴う前沖遺跡は平成15年度の整理・報告書刊行である。)

平成12年度 (主)太田大間々線(BP)住宅宅地関連公共施設整備促進事業<発掘>

平成13年度 (主)太田大間々線(BP)地方特定道路整備事業<発掘>

(主)太田大間々線(BP)太田大間々線住宅宅地関連公共施設整備促進事業<発掘>

平成14年度 (主)太田大間々線(バイパス)住宅宅地関連公共施設等総合整備事業<発掘・整理>

平成15年度 (主)太田大間々線地方特定道路整備事業<整理>

2. 遺跡は、群馬県太田市大島町、大字鳥山に所在する。発掘調査区は、以下の通りである。

年保遺跡 太田市大島町505・506-1・2・507・518～520・567・568

鳥山下遺跡 太田市大字鳥山字稲荷250～252・254・255-2・256・257・268-2・269～271・273～275・
277-1・2・279・280・316-3 字前田324 字島ヶ谷戸1704 字道木1768

なお、当地域は平成9年度に町名変更されており、大字鳥山は鳥山上町・鳥山中町・鳥山下町となった。

鳥山下遺跡は鳥山中町に帰属する。

3. 事業主体 群馬県土木部道路建設課・太田土木事務所

4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 契約期間<()内調査期間>

年保遺跡・前沖遺跡 平成12年度 2000年9月1日～2001年3月31日(9月1日～12月31日)

前沖遺跡・鳥山下遺跡 平成13年度 2001年4月1日～2002年3月31日(10月25日～3月31日)

鳥山下遺跡 平成14年度 2002年4月1日～2003年3月31日

(2002年5月13日～5月16日、7月17日～7月23日)

6. 調査組織

平成12年度は本部調査研究部、平成13年度は東毛調査事務所調査研究部で対応した。

理事長 小野宇三郎

常務理事 吉田 豊(平成12・13年度)、赤山容造(平成12・13年度、12年度は事務局長兼任)

管理部長 住谷 進(平成12・13年度)

調査研究部長 能登 健(平成12・13年度)

総務課長 坂本敏夫(平成12年度) 大島信夫(平成13年度)

調査研究第三課長 中東耕志(平成12年度)

東毛調査事務所 所長 水田 稔(平成13年度)

調査研究部長 津金沢吉茂(平成13年度)

調査研究第一課長 佐藤明人(平成13年度)

事務担当 笠原秀樹、小山健夫、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、森下弘美、片岡徳雄、田中賢一

大沢友治、吉田恵子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、

北原かおり、狩野真子、若田 誠、松下次男、吉田 茂、蘓原正義

調査担当 年保遺跡 新倉明彦(主幹兼専門員)、亀山幸弘(主任調査研究員)、

小林大悟(調査研究員)、小宮山達雄(囑託員)

鳥山下遺跡 新倉明彦・坂井 隆(主幹兼専門員)、齊藤和之・庭山邦幸(専門員)
齊藤利子(主任調査研究員)、齊藤幸男・西原和久・田村 博(調査研究員)

7. 整理主体 財団法人 埋蔵文化財調査事業団
8. 整理期間 平成14年4月1日～平成15年3月31日とし、報告書の刊行は平成15年度とした。
9. 整理組織 財団法人 埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野宇三郎
常務理事 吉田 豊
事業局長 神保侑史
管理部長 萩原利通
調査研究部長 中 隆之
総務課長 植原恒夫
資料整理課長 西田健彦
事務担当 小山健夫、高橋房雄、須田朋子、吉田有光、森下弘美、田中賢一、今井もと子、内山佳子、
佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、若田 誠、松下次男、吉田 茂、蘓原 正義
整理担当 亀山幸弘
整理補助 黒沢はるみ(整理嘱託員)、高橋順子(整理補助員)、茂木範子(同)、千代谷和子(同)、
矢野純子(同)、阿久津久子(同)
機械実測 田中精子、酒井史恵
木 器 横倉知子、湯浅美枝子
保存処理 関 邦一、土橋まり子、小材浩一
10. 本報告書作成の担当
編集・本文執筆 亀山幸弘
遺物観察 縄文土器・石器 田村 博 陶磁器 大西雅弘 石器・石製品(縄文以外) 桜井美枝
その他 亀山幸弘
なお、本書の編集、本文執筆、遺物観察全般にあたり神谷佳明の指導助言を得た。
遺構写真撮影 発掘調査担当者、(空撮) 株式会社パスコ、シン技術コンサル
遺物写真撮影 佐藤元彦
分析・委託 石材鑑定 群馬地質研究会 飯島静男
地質調査、テフラ同定 (株)古環境研究所
樹種同定 パリノ・サーヴェイ株式会社
11. 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
12. 発掘調査に当たっては、地元太田市をはじめとして、桐生市、足利市、館林市、新田町等から多くの方々に発掘調査に従事していただいた。ここに改めて感謝の意を表します。
13. 発掘作業・整理作業を行うにあたっては、次の機関・諸氏から貴重なご教示やご指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。(敬称略、五十音順)
太田市教育委員会、太田市役所、太田土木事務所、群馬県教育委員会文化課、地元関係者各位、当事業団職員

凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、国家座標の北を表示している。
2. 遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
3. 遺跡の位置を示す数値は、その遺構がかかるとする国家座標の南東隅の数値である。
4. 遺構名称は、発掘調査時の利便性を考慮して、太田大間々線関連の年保遺跡・前沖遺跡・鳥山下遺跡を通して遺構種別に通し番号を付した。整理にあたり記録写真、図面、出土遺物の注記等の混乱を避けるため調査時の遺構番号を使用した。
5. 遺構図は原則として下記の通りとしたが、一部縮尺の異なるものがあるので各挿図中にスケールを付した。
住居跡 1:60 住居跡の竈 1:30 掘立柱建物跡 1:80
土坑・井戸 1:40 溝(平面) 1:100 溝(断面) 1:40
6. 本報告書では、浅間A(天明)テフラをAs-A、浅間B(天仁)テフラをAs-B、榛名ニッ岳渋川テフラをHr-FA、榛名ニッ岳伊香保テフラをHr-FP、浅間CテフラをAs-C、浅間板鼻黄色テフラをAs-YPと略記した。
(『火山灰アトラス』 町田洋 新井房夫1992)
なお、遺構覆土中の白色軽石粒は前沖遺跡の科学分析結果からHr-FAに伴うものの可能性が高い。
7. 遺構図中のスクリントーンは、下記の通りである。



粘土



焼土



炭化物

8. 遺物図は、基本的には土器1:3、石器1:3、石製模造品1:1、1:2、大型遺物1:4、1:6の縮尺で掲載した。他の縮尺も必要に応じて使用したがその都度明記してある。
9. 遺物中のスクリントーンは、下記の通りである。



内黒土器



炭化物付着



被熱



磨面

10. 遺物写真は、1:4を原則とし、大型遺物1:8、石製模造品等は1:1で掲載した。
写真下の数字は、「図版番号-遺物番号」を示している。
11. 本書で使用した地形図は下記の通りである。
国土地理院 地勢図1/200,000 「宇都宮」
地形図1/25,000 「桐生」「上野境」
太田市都市計画図 1/5,000
12. 遺構の面積は、デジタルプランイメーターで3回計測した平均値を採用した。
13. 遺物観察表(土器)の法量は、①が口径、②が底径、③が器高で単位はcmである。推定径及び残存高の場合()を使用した。色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に拠った。
14. 遺物観察表(石器)は、長さ・幅・厚さ・重量及び石材を記し、原則として単位はcm、重量は断りのない限りgである。

目次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

図版目次

I 発掘調査の経過	
1. 調査に至る経緯	2
2. 調査の経過	3
II 調査の方法	
1. 調査区の設定	6
2. グリッドの設定	6
3. 調査の手順	6
4. 基本層序	8
III 周辺の環境	
1. 地理的環境	9
2. 歴史的環境	11
IV 年保遺跡の遺構と遺物	
1. 遺跡の概要	17
2. 古代の遺構・遺物	
(1) 住居	20
(2) 掘立柱建物跡	51
(3) 井戸	54
(4) 土坑	56
(5) 溝	64
3. 中世以降の遺構・遺物	
(1) 土坑	65
(2) 溝	65
4. 遺構外出土遺物	69
V 鳥山下遺跡の遺構と遺物	
1. 遺跡の概要	71
2. 古代の遺構・遺物	
(1) 住居	78
(2) 掘立柱建物跡	96
(3) 井戸	101
(4) 土坑	103
3. 中世以降の遺構・遺物	
(1) 竪穴状遺構	109
(2) 井戸	109
(3) 土坑	110
(4) 溝	120
4. 時期不明の遺構・遺物	
(1) 掘立柱建物跡・柵列	138
(2) 井戸	141
(3) 土坑	141
(4) 溝	152
5. 遺構外出土遺物	162
VI 自然科学分析	
1. 年保遺跡住居跡出土木材の樹種	165
2. 鳥山下遺跡の火山灰分析	167
3. 鳥山下遺跡における植物珪酸体分析	170
4. 鳥山下遺跡における珪藻分析	173
VII まとめ	174
遺物観察表	
年保遺跡	175
鳥山下遺跡	184
報告書抄録	
写真図版	
年保遺跡 (遺構、遺物)	
鳥山下遺跡 (遺構、遺物)	

插图目次

第 1 图	年保・鳥山下遺跡位置図	1
第 2 图	遺跡調査区位置図	2
第 3 图	年保・鳥山下遺跡調査地点図	4
第 4 图	調査区設定図	7
第 5 图	年保・鳥山下遺跡基本土層模式図	8
第 6 图	年保・鳥山下遺跡周辺地形分類図	10
第 7 图	周辺遺跡図	13

年保遺跡

第 8 图	年保遺跡古代遺構概念図	18
第 9 图	年保遺跡中世以降遺構概念図	19
第 10 图	年保 1 区 1 号住居・出土遺物実測図	20
第 11 图	年保 1 区 2 号住居実測図	21
第 12 图	年保 1 区 3 号住居実測図	21
第 13 图	年保 1 区 4 号住居実測図	22
第 14 图	年保 1 区 4 号住居実測図	23
第 15 图	年保 1 区 4 号住居出土遺物実測図(1)	23
第 16 图	年保 1 区 4 号住居出土遺物実測図(2)	24
第 17 图	年保 1 区 5 号住居実測図	25
第 18 图	年保 1 区 5 号住居出土遺物実測図	25
第 19 图	年保 1 区 6 号住居・出土遺物実測図	26
第 20 图	年保 1 区 7 号住居実測図	27
第 21 图	年保 2 区 8 号住居実測図	28
第 22 图	年保 2 区 9 号住居実測図	29
第 23 图	年保 2 区 9 号住居・出土遺物実測図	30
第 24 图	年保 3 区 10 号住居実測図	31
第 25 图	年保 3 区 11 号住居実測図	32
第 26 图	年保 3 区 11 号住居実測図	33
第 27 图	年保 3 区 11 号住居出土遺物実測図	33
第 28 图	年保 3 区 12 号住居・17 号址実測図	34
第 29 图	年保 3 区 12 号住居出土遺物実測図	35
第 30 图	年保 3 区 13 号住居実測図	36
第 31 图	年保 3 区 14 号住居実測図	37
第 32 图	年保 3 区 14 号住居掘り方実測図	38
第 33 图	年保 3 区 14 号住居実測図	38
第 34 图	年保 3 区 14 号住居出土遺物実測図(1)	39
第 35 图	年保 3 区 14 号住居出土遺物実測図(2)	40
第 36 图	年保 3 区 14 号住居出土遺物実測図(3)	41
第 37 图	年保 3 区 14 号住居出土遺物実測図(4)	42
第 38 图	年保 3 区 15 号住居・出土遺物実測図	43
第 39 图	年保 3 区 16 号住居・出土遺物実測図	44
第 40 图	年保 3 区 18 号住居・19 号址実測図	46
第 41 图	年保 3 区 18 号住居実測図	47
第 42 图	年保 3 区 18 号住居出土遺物実測図(1)	47
第 43 图	年保 3 区 18 号住居出土遺物実測図(2)	48
第 44 图	年保 3 区 18 号住居出土遺物実測図(3)	49
第 45 图	年保 3 区 20 号住居・出土遺物実測図	50
第 46 图	年保 1 区 1 号掘立柱建物跡実測図	51
第 47 图	年保 3 区 2 号掘立柱建物跡実測図	51
第 48 图	年保 3 区 2 号掘立柱建物跡実測図	52
第 49 图	年保 3 区 3 号掘立柱建物跡実測図	52
第 50 图	年保 3 区 4 号掘立柱建物跡実測図	53
第 51 图	年保 3 区 5 号掘立柱建物跡実測図	54
第 52 图	年保 1 区 1 号井戸・出土遺物実測図	54
第 53 图	年保 1 区 2 号井戸・出土遺物実測図	55
第 54 图	年保 1 区 1~3 号土坑実測図	56
第 55 图	年保 1~3 区 6・7・9・10・12・13 号土坑 ・出土遺物実測図	57

第 56 图	年保 3 区 14~19 号土坑・出土遺物実測図	58
第 57 图	年保 3 区 20・21 号土坑・出土遺物実測図	59
第 58 图	年保 3 区 22~27 号土坑・出土遺物実測図	60
第 59 图	年保 3 区 27・28 号土坑・出土遺物実測図	61
第 60 图	年保 3 区 3 号溝実測図	64
第 61 图	年保 1・2 区 4・5・11 号土坑実測図	65
第 62 图	年保 3 区 1 号溝実測図	66
第 63 图	年保 3 区 2 号溝実測図	67
第 64 图	年保 3 区 2 号溝出土遺物実測図	68
第 65 图	年保遺構外出土遺物実測図(1)	69
第 66 图	年保遺構外出土遺物実測図(2)	70

鳥山下遺跡

第 67 图	鳥山下遺跡古代遺構概念図	72
第 68 图	鳥山下遺跡中世以降遺構概念図	74
第 69 图	鳥山下遺跡時期不明遺構概念図	76
第 70 图	鳥山下 9 区 90 号住居・出土遺物実測図	78
第 71 图	鳥山下 9 区 91 号住居・出土遺物実測図	79
第 72 图	鳥山下 9 区 92 号住居・出土遺物実測図	80
第 73 图	鳥山下 9 区 94 号住居・出土遺物実測図	81
第 74 图	鳥山下 9 区 95・98 号住居実測図	82
第 75 图	鳥山下 9 区 97 号住居・出土遺物実測図	83
第 76 图	鳥山下 10 区 99 号住居実測図	84
第 77 图	鳥山下 10 区 100 号住居・出土遺物実測図	85
第 78 图	鳥山下 10 区 101 号住居・出土遺物実測図(1)	86
第 79 图	鳥山下 10 区 101 号住居出土遺物実測図(2)	87
第 80 图	鳥山下 10 区 102 号住居実測図	87
第 81 图	鳥山下 10 区 103 号住居・出土遺物実測図	88
第 82 图	鳥山下 10 区 104 号住居・出土遺物実測図	89
第 83 图	鳥山下 10 区 105 号住居・出土遺物実測図	90
第 84 图	鳥山下 10 区 106・107 号住居実測図	91
第 85 图	鳥山下 10 区 106 号住居出土遺物実測図(1)	91
第 86 图	鳥山下 10 区 106 号住居出土遺物実測図(2)	92
第 87 图	鳥山下 10 区 108 号住居実測図	92
第 88 图	鳥山下 10 区 109 号住居・出土遺物実測図	93
第 89 图	鳥山下 10 区 109 号住居出土遺物実測図	94
第 90 图	鳥山下 10 区 110 号住居・出土遺物実測図	94
第 91 图	鳥山下 10 区 111 号住居実測図	95
第 92 图	鳥山下 10 区 112 号址・出土遺物実測図	95
第 93 图	鳥山下 9 区 9 号掘立柱建物跡実測図	96
第 94 图	鳥山下 9 区 9 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	97
第 95 图	鳥山下 10 区 10 号掘立柱建物跡実測図	98
第 96 图	鳥山下 10 区 10 号掘立柱建物跡出土遺物実測図	99
第 97 图	鳥山下 10 区 11 号掘立柱建物跡実測図	99
第 98 图	鳥山下 10 区 11 号掘立柱建物跡実測図	100
第 99 图	鳥山下 10 区 13 号掘立柱建物跡実測図	100
第 100 图	鳥山下 10 区 13 号掘立柱建物跡実測図	101
第 101 图	鳥山下 9 区 10 号井戸・出土遺物実測図	101
第 102 图	鳥山下 9 区 10 号井戸出土遺物実測図	102
第 103 图	鳥山下 9 区 11 号井戸実測図	102

第104図	鳥山下9区12号井戸・出土遺物実測図	103
第105図	鳥山下9区188号土坑・出土遺物実測図	104
第106図	鳥山下9区196号土坑・出土遺物実測図	105
第107図	鳥山下9区197・198・201・203・231・505号土坑 ・出土遺物実測図	106
第108図	鳥山下9・10区231・252・294号土坑・出土遺物 実測図	107
第109図	鳥山下10区295・322・401・427号土坑・出土 遺物実測図	108
第110図	鳥山下9区5号竪穴状遺構実測図	109
第111図	鳥山下10区13号井戸実測図	109
第112図	鳥山下9区146号土坑・出土遺物実測図	111
第113図	鳥山下9区147・199・200号土坑・出土 遺物実測図	112
第114図	鳥山下9・10区200・271・272号土坑・出土 遺物実測図	113
第115図	鳥山下9・10区204・276号土坑・出土 遺物実測図	114
第116図	鳥山下10区277・279・286・287・289・298・308・318 号土坑・出土遺物実測図	115
第117図	鳥山下10区319・320・325・329・331号土坑・出土 遺物実測図	116
第118図	鳥山下10区332・333・335・337・363号土坑実測図	117
第119図	鳥山下10区363・367号土坑・出土遺物実測図	118
第120図	鳥山下10区376・502号土坑実測図	119
第121図	鳥山下9区82号溝実測図	120
第122図	鳥山下9区82号溝出土遺物実測図	121
第123図	鳥山下9・10区83・108号溝実測図	122
第124図	鳥山下9区83号溝出土遺物実測図	123
第125図	鳥山下9区87号溝・出土遺物実測図	124
第126図	鳥山下9区87号溝出土遺物実測図	125
第127図	鳥山下9・10区90・111・112・117号溝・出土 遺物実測図	126
第128図	鳥山下10区96～100号溝実測図	128

第129図	鳥山下10区99・100号溝実測図	129
第130図	鳥山下10区96号溝実測図	129
第131図	鳥山下10区96号溝出土遺物実測図(1)	130
第132図	鳥山下10区96号溝出土遺物実測図(2)	131
第133図	鳥山下10区96号溝出土遺物実測図(3)	132
第134図	鳥山下10区96・97・(97・98・100)号溝出土遺物 実測図(4)	133
第135図	鳥山下10区99号溝出土遺物実測図	134
第136図	鳥山下10区103・104号溝実測図	135
第137図	鳥山下10区104・105号溝実測図	136
第138図	鳥山下10区107・115号溝実測図	137
第139図	鳥山下10区8号掘立柱建物跡実測図	138
第140図	鳥山下10区12号掘立柱建物跡実測図	139
第141図	鳥山下10区1号柵列実測図	140
第142図	鳥山下9区9号井戸実測図	141
第143図	鳥山下9区時期不明土坑実測図(1)	142
第144図	鳥山下9区時期不明土坑実測図(2)	143
第145図	鳥山下9・10区時期不明土坑実測図	144
第146図	鳥山下10区時期不明土坑実測図	145
第147図	鳥山下9区80・81号溝・出土遺物実測図	152
第148図	鳥山下9区84・85号溝実測図	154
第149図	鳥山下9区84・85・86号溝・出土遺物実測図	155
第150図	鳥山下9・10区88・101号溝実測図	156
第151図	鳥山下9・10区89・114号溝・出土遺物実測図	157
第152図	鳥山下9区91・92号溝実測図	158
第153図	鳥山下10区93～95号溝実測図	159
第154図	鳥山下10区109・110・113号溝実測図	160
第155図	鳥山下10区109・110号溝実測図	161
第156図	鳥山下10区116号溝実測図	161
第157図	鳥山下遺構外出土遺物実測図(1)	162
第158図	鳥山下遺構外出土遺物実測図(2)	163
第159図	鳥山下遺構外出土遺物実測図(3)	163
第160図	鳥山下遺構外出土遺物実測図(4)	164
第161図	鳥山下遺構外出土遺物実測図(5)	164

付 図

付図1 年保遺跡 全体図(1:300)

付図2 鳥山下遺跡 全体図(1:300)

表 目 次

年保遺跡

第1表	周辺遺跡一覧表	14
第2表	1号掘立柱建物跡柱穴計測表	51
第3表	1号掘立柱建物跡柱穴計測表	52
第4表	1号掘立柱建物跡柱穴計測表	52
第5表	1号掘立柱建物跡柱穴計測表	53
第6表	1号掘立柱建物跡柱穴計測表	54
第7表	年保遺跡土坑一覧表(古代面)	62
第8表	年保遺跡ピット一覧表	62
第9表	年保遺跡土坑一覧表(中世以降)	65
第10表	9号掘立柱建物跡柱穴計測表	97

鳥山下遺跡

第11表	10号掘立柱建物跡柱穴計測表	99
第12表	11号掘立柱建物跡柱穴計測表	100
第13表	13号掘立柱建物跡柱穴計測表	101
第14表	鳥山下遺跡土坑一覧表(古代面)	108
第15表	鳥山下遺跡土坑一覧表(中世以降)	119
第16表	8号掘立柱建物跡柱穴計測表	138
第17表	12号掘立柱建物跡柱穴計測表	141
第18表	1号柵立柱穴計測表	141
第19表	鳥山下遺跡土坑一覧表(時期不明)	146

写真図版目次

PL1 年保・鳥山下遺跡全景(上空より)

年保遺跡

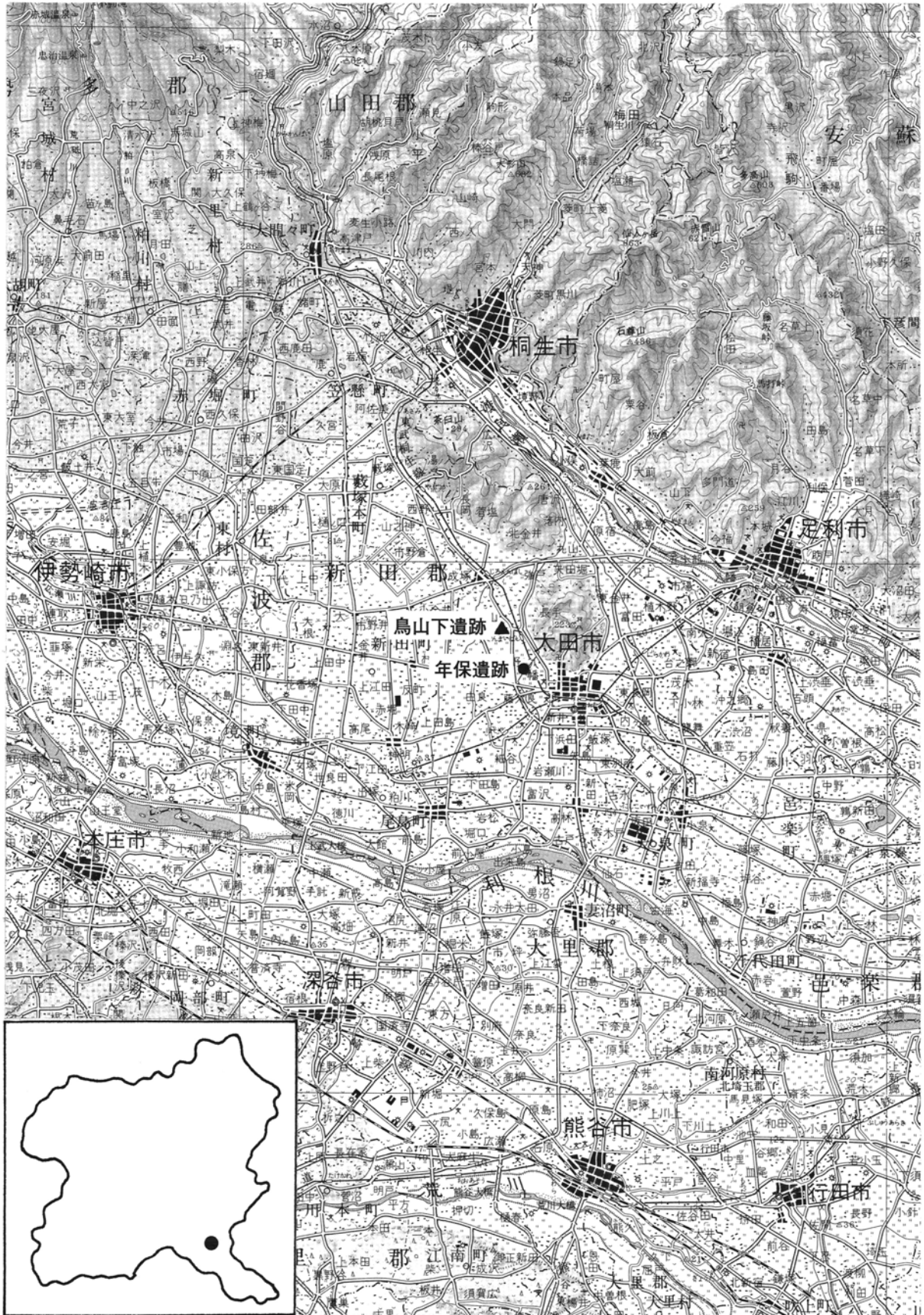
- PL2 年保遺跡遠景(西上空より)
年保1区(上空より)
年保2・3区(上空より)
- PL3 年保1区作業風景(南より)
年保3区作業風景(南西より)
年保1区1号住居掘り方全景(東より)
年保1区住居貯蔵穴(南より)
年保1区2号住居全景(南より)
年保1区2号住居掘り方全景(南より)
年保1区3号住居全景(北より)
年保1区3号住居掘り方全景(北より)
- PL4 年保1区4号住居遺物出土状況全景(西より)
年保1区4号住居竈全景(東より)
年保1区4号住居遺物出土状況(西より)
年保1区4号住居遺物出土状況(西より)
年保1区4号住居貯蔵穴遺物出土状況(西より)
- PL5 年保1区4号住居掘り方全景(西より)
年保1区4号住居竈掘り方全景(東より)
年保1区5号住居遺物出土状況(南より)
年保1区5号住居掘り方全景(北より)
年保1区6号住居遺物出土状況(北西より)
年保1区6号住居掘り方セクション(南西より)
年保1区7号住居掘り方セクション(西より)
年保2区8号住居掘り方全景(東より)
- PL6 年保2区9号住居焼土・炭出土状況(北より)
年保2区9号住居ピットセクション(北より)
年保2区9号住居掘り方全景(北より)
年保2区9号住居ピット(南より)
年保3区10号住居遺物出土状況(東より)
年保3区10号住居掘り方全景(東より)
年保3区11号住居全景(西より)
年保3区11号住居掘り方全景(西より)
- PL7 年保3区11号住居竈全景(西より)
年保3区11号住居竈掘り方セクション(西より)
年保3区12号住居全景(西より)
年保3区12号住居ピット2遺物出土状況(南より)
年保3区12号住居ピット1セクション(南より)
- PL8 年保3区12号住居遺物出土状況(南より)
年保3区12号住居掘り方全景(西より)
年保3区13号住居遺物出土状況(北より)
年保3区13号住居掘り方全景(西より)
年保3区14号住居遺物出土状況(南より)
- PL9 年保3区14号住居全景(南より)
年保3区14号住居竈全景(南より)
年保3区14号住居遺物出土状況(東より)
年保3区14号住居貯蔵穴(南より)
年保3区15号住居遺物出土状況(西より)
年保3区15号住居セクション(南より)
年保3区15号住居全景(西より)
年保3区15号住居掘り方全景(西より)
- PL10 年保3区16号住居遺物出土状況(西より)
年保3区16号住居掘り方全景(西より)
年保3区16号住居遺物出土状況(西より)
年保3区17号址掘り方全景(西より)
年保3区18号住居遺物出土状況(南より)
- PL11 年保3区18号住居遺物出土状況(南より)

- 年保3区18号住居竈全景(南より)
年保3区18号住居遺物出土状況(南より)
年保3区18号住居貯蔵穴セクション(南より)
年保3区18号住居掘り方全景(南より)
年保3区19号址掘り方全景(南より)
年保3区19号址全景(南より)
- PL12 年保3区20号住居掘り方全景(南より)
年保3区20号住居貯蔵穴セクション(東より)
年保1区1号掘立柱建物跡全景(北東より)
年保3区2号掘立柱建物跡全景(南東より)
年保3区3号掘立柱建物跡全景(南より)
年保3区4・5号掘立柱建物跡全景(東より)
年保1区1号井戸全景(南東より)
年保1区1号井戸セクション(南東より)
- PL13 年保1区2号井戸全景(南より)
年保1区2号井戸遺物出土状況(北東より)
年保1区6号土坑遺物出土状況(西より)
年保1区6号土坑セクション(南東より)
年保3区21号土坑遺物出土状況(南より)
年保3区21号土坑セクション(南より)
年保3区27号土坑遺物出土状況(東より)
年保3区27号土坑掘り方全景(南より)
- PL14 年保3区28号土坑セクション(東より)
年保2区11号土坑セクション(東より)
年保3区3号溝全景(西より)
年保3区1・2号溝全景(上空より)
年保3区1号溝セクション(南より)
年保3区2号溝セクション(南より)
- PL15 年保1区1・4・5・6号住居出土遺物
- PL16 年保2区9号住居、3区11・12・14号住居出土遺物
- PL17 年保3区14号住居出土遺物
- PL18 年保3区14・15・16号住居出土遺物
- PL19 年保3区16・18号住居出土遺物
- PL20 年保1区1・2号井戸、6号土坑、2区9号土坑、3区18号住居、18・21号土坑出土遺物
- PL21 年保3区21・26・27号土坑出土遺物
- PL22 年保3区2号溝、1・2・3区遺構外出土遺物

鳥山下遺跡

- PL23 鳥山下遺跡全景(南上空より)
鳥山下遺跡全景(北西上空より)
- PL24 鳥山下遺跡北半全景(上空より)
鳥山下遺跡南半全景(上空より)
- PL25 鳥山下9区90号住居掘り方全景(南より)
鳥山下9区91号住居全景(西より)
鳥山下9区91号住居竈全景(西より)
鳥山下9区91号住居遺物出土状況(西より)
鳥山下9区92号住居セクション(西より)
鳥山下9区94号住居掘り方全景(西より)
鳥山下9区94号住居ピットセクション(西より)
鳥山下9区95・98号住居セクション(北より)
- PL26 鳥山下9区97号住居掘り方全景(東より)
鳥山下9区97号住居掘り方遺物出土状況(東より)
鳥山下10区99号住居全景(東より)
鳥山下10区100号住居掘り方全景(東より)
鳥山下10区100号住居内土坑(南より)
鳥山下10区101号住居掘り方全景(東より)
鳥山下10区101号住居遺物出土状況(東より)
鳥山下10区102号住居掘り方全景(東より)

- P L 27 鳥山下10区103号住居掘り方全景(西より)
鳥山下10区104号住居掘り方全景(西より)
鳥山下10区105号住居掘り方全景(北西より)
鳥山下10区105号住居竈掘り方全景(西より)
鳥山下10区106号住居全景(西より)
鳥山下10区106号住居掘り方全景(西より)
鳥山下10区107号住居掘り方全景(西より)
鳥山下10区108号住居掘り方全景(西より)
- P L 28 鳥山下10区109号住居全景(北東より)
鳥山下10区109号住居掘り方全景(北東より)
鳥山下10区110号住居掘り方全景(西より)
鳥山下10区111号住居掘り方全景(西より)
鳥山下9区112号全景(南より)
鳥山下10区104号住居竈掘り方セクション(南より)
鳥山下9区9号掘立柱建物跡ピット7全景(北より)
鳥山下9区9号掘立柱建物跡ピット7セクション(西より)
- P L 29 鳥山下9区9号掘立柱建物跡全景(南より)
鳥山下10区10号掘立柱建物跡全景(上空より)
- P L 30 鳥山下10区11号掘立柱建物跡全景(南より)
鳥山下10区13号掘立柱建物跡全景(西より)
- P L 31 鳥山下10区13号掘立柱建物跡ピット4全景(南より)
鳥山下10区13号掘立柱建物跡ピット8・3セクション(南西より)
鳥山下9区10号井戸全景(南より)
鳥山下9区10号井戸遺物出土状況(南東より)
鳥山下9区10号井戸遺物出土状況(南より)
鳥山下9区11号井戸全景(南より)
鳥山下9区12号井戸全景(南より)
鳥山下9区12号井戸遺物出土状況(南より)
- P L 32 鳥山下9区188号土坑遺物出土状況(東より)
鳥山下9区196号土坑セクション(南より)
鳥山下9区197号土坑セクション(南より)
鳥山下9区198号土坑セクション(南より)
鳥山下9区201号土坑セクション(東より)
鳥山下9区203号土坑遺物出土状況(南より)
鳥山下9区231・505号土坑セクション(北西より)
鳥山下9区252号土坑セクション(南より)
- P L 33 鳥山下10区294号土坑遺物出土状況(南より)
鳥山下10区294号土坑セクション(南より)
鳥山下10区295号土坑全景(南より)
鳥山下10区322号土坑セクション(南より)
鳥山下10区401号土坑遺物出土状況(南より)
鳥山下9区5号竪穴状遺構全景(北より)
鳥山下10区13号井戸完掘状況(南より)
鳥山下10区13号井戸セクション(南より)
- P L 34 鳥山下9区146号土坑遺物出土状況(南より)
鳥山下9区147号土坑遺物出土状況(南より)
鳥山下9区199号土坑セクション(北より)
鳥山下9区200号土坑遺物出土状況(東より)
鳥山下9区204号土坑全景(西より)
鳥山下10区271・272号土坑セクション(西より)
鳥山下10区276号土坑遺物出土状況(南より)
鳥山下10区277号土坑セクション(南より)
- P L 35 鳥山下10区279号土坑セクション(南より)
鳥山下10区286・287号土坑遺物出土状況(南より)
鳥山下10区289号土坑セクション(南より)
鳥山下10区308号土坑セクション(西より)
鳥山下10区318・319号土坑全景(東より)
鳥山下10区320号土坑全景(東より)
鳥山下10区325号土坑セクション(西より)
鳥山下10区329号土坑セクション(西より)
- P L 36 鳥山下10区331号土坑セクション(西より)
鳥山下10区332・333号土坑セクション(西より)
鳥山下10区335号土坑セクション(西より)
鳥山下10区335号土坑遺物出土状況(西より)
鳥山下10区337号土坑セクション(南より)
鳥山下10区363号土坑セクション(東より)
鳥山下10区367号土坑遺物出土状況(北東より)
鳥山下10区502号土坑セクション(南より)
- P L 37 鳥山下9区82号溝全景(北東より)
鳥山下9区82号溝セクション(西より)
鳥山下9区82号溝遺物出土状況(西より)
鳥山下9区83号溝全景(東より)
鳥山下9区83号溝セクション(西より)
鳥山下9区93号溝遺物出土状況(南より)
- P L 38 鳥山下9区87号溝全景(北西より)
鳥山下9区90号溝全景(東より)
鳥山下10区96号溝遺物出土状況第1面(東より)
鳥山下10区96号溝遺物出土状況第4面(東より)
- P L 39 鳥山下10区97・99・100号溝全景(北より)
鳥山下10区103号溝全景(北より)
鳥山下10区104号溝全景(東より)
鳥山下10区105号溝全景(北より)
- P L 40 鳥山下10区107号溝全景(東より)
鳥山下10区108号溝セクション(東より)
鳥山下10区112号溝全景(東より)
鳥山下10区111号溝全景(東より)
鳥山下10区115号溝全景(東より)
- P L 41 鳥山下9区8号掘立柱建物跡全景(南より)
鳥山下9区9号井戸全景(南より)
鳥山下10区12号掘立柱建物跡、1号柵列跡(上空より)
鳥山下9区142号土坑全景(南より)
鳥山下9区190号土坑全景(南より)
鳥山下9区169号土坑全景(南より)
鳥山下9区215号土坑セクション(南より)
- P L 42 鳥山下9区80・81号溝全景(上空より)
鳥山下9区80号溝セクション(南より)
鳥山下9区81号溝セクション(南より)
鳥山下9区84号溝全景(北より)
鳥山下9区85号溝全景(北より)
- P L 43 鳥山下9区86号溝全景(東より)
鳥山下9区88号溝全景(西より)
鳥山下9区91・92号溝セクション(北より)
鳥山下10区93・94・95号溝セクション(東より)
鳥山下10区103・109・110号溝セクション(南より)
鳥山下9区調査風景(北より)
- P L 44 鳥山下9区90・91・92・97号住居、10区100・101号住居出土遺物
- P L 45 鳥山下10区101・103・104・105・106・109・110号住居出土遺物
- P L 46 鳥山下9区9号掘立柱建物跡、10・12号井戸、188・196号土坑、10区10号掘立柱建物跡出土遺物
- P L 47 鳥山下9区203・231・146・200号土坑、10区294・322・401号土坑出土遺物
- P L 48 鳥山下9区200・204号土坑、82号溝、10区272・276・289・329・363・367号土坑出土遺物
- P L 49 鳥山下9区82・83・87号溝、10区96号溝出土遺物
- P L 50 鳥山下10区96号溝出土遺物
- P L 51 鳥山下9区81・85・89号溝、10区96・97・98・99・100・111号溝、9・10区遺構外出土遺物
- P L 52 鳥山下10区10号掘立柱建物跡、9・10区遺構外出土遺物
- P L 53 年保遺跡出土木材の切片の光学顕微鏡写真
- P L 54 植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真



第1図 年保・鳥山下遺跡位置図

I 発掘調査の経過

1. 調査に至る経緯

主要地方道太田大間々線は太田市から藪塚本町、笠懸町、桐生市を通り大間々町を結ぶ県南東部における南北方向の基幹的地方道であり、地域住民が日常生活に利用する生活基盤路線である。本地域でも近年の交通量の増加による慢性的な渋滞の発生があり、また本路線にほど近い太田市新野町などに大規模な住宅団地の造成が計画されていることもあり、新たにバイパスを建設する計画が持ち上がった。バイパスは第1期工事分として太田市西本町の前橋館林線合同庁舎東交差点から鳥山中町までの約3.6km間について建設を実施することになった。

道路建設に先立つ平成11年1月及び平成12年2・3月に群馬県教育委員会文化財保護課(以下保護課)が試掘調査を実施し埋蔵文化財の有無について協議を行ったところ、用地解決済みの主要地方道前橋館林線接続部分から鳥山下町太田警察署東方農業用水路までの区間のうち、太田市大島町内八瀬川放水路以南及び以北の計約2000㎡及び市道以北用水路間の約10,800㎡で古墳時代を中心とする住居跡が確認され、また水田跡が残存する可能性も疑われた。そこで太田市大島町、鳥山下町で発掘調査を行う必要が認められたため、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団で発掘調査を実施することになった。平成12年9月より調査の準備を開始し10月より調査に着手した。

その後発掘調査と並行して、鳥山下町、鳥山中町地内においても平成12年度、13年度に保護課による試掘調査が行われた。鳥山竜舞線との交差点付近及び鳥山中町内においても遺跡の存在及び範囲が確認されたため、その区域についても継続して発掘調査を実施することになった。



第2図 遺跡調査区位置図

2. 調査の経過

年保遺跡、鳥山下遺跡は、間に前沖遺跡を挟んで太田市大島町から鳥山下町、鳥山中町に位置する。発掘調査対象が道路予定地であることから南北方向に線状で細長いため道路を横断する形で存在する現道や農業用水路で調査区を設定して調査を行った。

試掘調査の結果①大島町の八瀬川の南北端、250mほど空いて②現太田大間々線以東の農業用水路を中心とする部分さらに400mほど空いて、③現鳥山の集落西の微高地斜面部の3箇所にも本調査実施部分が想定されたことから地名等をもとに①を年保遺跡、②を前沖遺跡③を鳥山下遺跡とした。

道路建設の工程や用地買収、試掘調査の実施時期等の関係から、調査区南端の年保遺跡より発掘調査を開始し概ね北側へと調査を進めていった。年保遺跡は平成12年9月上旬より調査準備に入り、下旬に重機による表土掘削を開始し、同年12月に調査が終了した。調査は並行して10月から前沖遺跡分の表土掘削を開始し平成13年3月まで実施した。途中試掘調査の進展により調査範囲が鳥山龍舞線接続部分まで確定した。さらに平成13年度5月の試掘により鳥山下遺跡までの調査区が確定した。平成13年10月に前沖遺跡の調査が終了し、同月から平成14年3月まで鳥山下遺跡の調査を実施した。

なお、鳥山下遺跡調査に伴って現道下に伸びる古代の掘立柱建物跡が検出されたため太田土木事務所との協議の結果現道工事の折りに立ち会い、追加調査を実施することになり平成14年5月及び7月に計11日間行い調査を終了した。

なお、整理作業は平成14年度より実施したが、整理工程の都合により平成14年度に年保遺跡・鳥山下遺跡分を、15年度に前沖遺跡分をまとめ、同年度中に2冊の報告書を刊行することになった。

調査日誌抄録

平成12年度

9, 11 プレハブ整地開始
 9, 25 発掘区確認、太田土木立ち会い
 9, 27 1区重機による表土掘削開始
 10, 10 発掘機材搬入、作業員作業開始
 10, 11 2区表土剥ぎ開始
 10, 16 3区表土剥ぎ開始
 10, 19 5区表土剥ぎ開始
 10, 23 文化財保護課飯塚氏試掘(7区部分)
 11, 1 作業員2名増加
 11, 7 6区表土剥ぎ開始
 11, 28 1・2・3・5区空撮
 12, 5 工程会議太田土木横倉氏、文化財保護課、事業団
 12, 7 1区埋め戻し
 12, 11 2区埋め戻し
 12, 14 5区トレンチ深堀
 12, 19 5区埋め戻し
 12, 22 現場仕事納め
 1, 9 現場仕事始め
 1, 15 4区重機による表土剥ぎ開始
 1, 17 6区空撮
 1, 19 2・3区駐車場用地整備
 1, 22 6区土山除去開始
 1, 25 6区試掘トレンチ
 2, 1 担当小林大悟・作業員19名合流
 2, 15 7区重機による表土剥ぎ開始
 3, 5 4区ベルトコンベアー搬入
 3, 21 ハイライザーによる7区水田6区南全景写真、4～7区プラントオパール採取
 3, 23 現場作業最終日
 3, 29 4・6区深堀トレンチ
 3, 31 4・6区埋め戻し

平成13年度

4, 9 現場作業開始
 4, 9 4区溝
 4, 11 7区
 5, 18 7区用水路部分終了
 5, 28 保護課試掘(仮称8区)
 5, 24 保護課試掘(仮称10区)
 5, 25 保護課試掘(仮称9区)
 5, 29 10区新プレハブ用地整備開始
 6, 15 担当齊藤和之、庭山楽前遺跡へ
 6, 18 プレハブ引っ越し
 6, 19 旧プレハブ駐車場破砕除去(6. 28完了)
 7, 23 楽前遺跡班合流
 8, 9 8区重機による表土剥ぎ開始
 9, 3 担当齊藤、庭山浜町遺跡へ
 9, 6 7区空撮
 9, 7 7区引き渡し
 9, 13 8区遺構確認
 10, 17 築場遺跡より作業員10名合流
 10, 24 8区空撮
 10, 25 8区埋め戻し
 9区重機による表土剥ぎ開始
 11, 1 築場班担当坂井、西原、作業員17名合流
 11, 6 8区埋め戻し8区動力線(湧水対策用)
 11, 15 10区(駐車場部分か)採石除去開始
 11, 19 10区表土剥ぎ確認
 11, 27 9区空撮
 12, 7 プレハブ引っ越し
 12, 17 9区仮置土運搬
 12, 21 年内作業終了
 1, 7 庭山、齊藤幸男合流
 1, 15 庭山高林三入遺跡へ齊藤利子高林三入遺跡より
 2, 21 空撮
 3, 14 前沖遺跡遺物本部へ搬送

平成14年度

5, 13～16 10区追加調査
 7, 17～23 9区追加調査





第3図 年保・鳥山下遺跡調査区図(1:5000)

II 調査の方法

1. 調査区の設定 (第3図参照)

発掘調査区は、太田市大島町、鳥山地内に所在する。太田大間々線関連の平成12年度から14年度に係る一連の埋蔵文化財調査について、工事工程、用地買収及び、試掘調査の進展に伴って、遺跡範囲の確定が徐々に行われた。調査の結果、地名や微地形、本線内の調査部分のまとまり等から、最終的に年保遺跡・前沖遺跡・鳥山下遺跡の3つの遺跡として認定、報告することとなった。

しかし、調査時点においては、遺構番号の重複を避け、調査を効率的に進めるため、路線内全体を通して一連のものとして、それぞれを現在の水路・道路・畦畔で分けて、南より1・2・3・4・5・6・7・8・9・10区と通番で呼称した。

なお、発掘区と遺跡名の対応関係は以下の通りである。

1・2・3区	年保遺跡
4・5・6・7・8区	前沖遺跡
9・10区	鳥山下遺跡

2. グリッドの設定 (第4図参照)

遺構・遺物等の記録については、周辺や隣接地の調査と照合しやすいように国家座標軸第IX系を用い、測量図化した。国家座標IX系の原点は、北緯36° 00' 00"、東経139° 50' 00" (千葉県野田市)である。グリッド杭・水準点杭等の測量・打設は測量会社に委託した。

ただし、グリッド名をアルファベットと算用数字で呼称することはせず、座標値をそのまま用いて記録した。座標値は調査範囲の南東を基点として用いることとした。

3. 調査の手順

(1)文化財保護課試掘資料を踏まえて、太田土木事務所担当立ち会いのもと、発掘範囲の確認をした。

(2)排出土の置き場や地元地権者の水田への出入口の確保などに配慮しつつ、調査区南端の1区より表土掘削を開始した。なお、調査の効率化を図るため、表土及び黒褐色土の掘削については大型掘削機械で行い、また、取去の完了した土地から順次作業を進めた。

(3)遺構確認作業をし、竪穴住居跡、土坑、掘立柱建物跡、溝等を検出した。遺構名称は年保遺跡・前沖遺跡・鳥山下遺跡を通して遺構の種別毎に通し番号を付した。

(4)竪穴住居や土坑などは2分割ないしは4分割、溝などは1～3箇所の埋没土層堆積状況観察用ベルトを残して遺構を掘削した。遺物の取り上げに際しては、遺構単位を基本とし、その遺構に伴うと考えられるある程度の大きさが残存する物については番号を付し、図面上に記録し、その他の遺物については一括して取り上げた。また、遺構に所属しない遺物に付いては概ね区毎に取り上げたが、必要に応じて層位・グリッド単位で取り上げた部分もある。

(5)遺構の測量にあたっては、竪穴住居跡、土坑等は20分の1を基本として、竈は10分の1、全体図は40分の1とした。原則として測量会社に委託したが、断面図(セクション、エレベーション)の一部を作業員による手実測とした。

(6)記録写真の撮影には、基本的に6×7・35mmの白黒、35mmのリバーサルで行い、全体写真の撮影は、ラジコンヘリ・高所作業車にて行った。

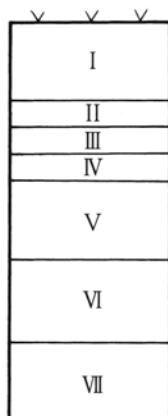
(7)遺跡付近の古環境を復元するための火山灰、植物珪酸体等に関わる自然科学分析を実施した。その結果はVI自然化学分析の項に掲載した。

4. 基本層序

年保遺跡

遺跡地は沖積低地内の微高地にあたる。付近一面は昭和40年代に圃場整備が行われ、現在水田となっている。現道西側の2区は現水田面から遺構確認面であるローム層直上までの覆土が25cm程であり、遺構の残存状態は良好とはいえない。反対側の1・3区は現水田面が西側より50cmほど高い。

I層は現耕作土で暗褐色土である。下位は現水田の床土で鉄分の凝集が見られる。II層は暗褐色土である。III層より黒色味がありさらさらしている。白色軽石粒・小石を少量含む。白色粒子中には角閃石を含むものがあり、隣接する前沖遺跡の自然科学分析結果を勘案するとHr-FAに伴うパミスと考えられる。III層は暗褐色土でII層より土壌の粒径が細かく白色軽石粒を均一に含む。IV層は黒褐色土で上位に白色軽石粒を少量含む。最大で10cm程残存するが、後世の攪拌を受け、残存しない範囲が広い。古墳時代住居跡はこの層を掘り込んで構築されている。V層は黄色砂質ローム土である。本遺跡の遺構確認面である。20cm程堆積している。VI層は砂礫層である。古墳時代の井戸の透水層になっていたものと考えられる。VII層は淡黄～黄灰色砂質ローム土である。V層、VII層のローム層に挟まれて砂礫層があることやローム土の状態からローム層は水成堆積に依るものと考えられる。



鳥山下遺跡

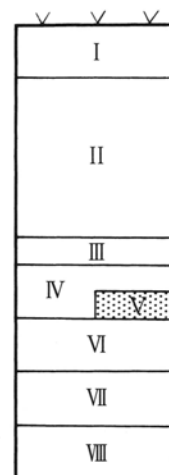
遺跡地は大間々扇状地の南東部に伸びる張り出し部分西側の緩い斜面にあたる。西には蛇川が南流している。部分的に黒色土層、ローム漸移層が残る部分があるが、大半で昭和40年代に行われた圃場整備のためにローム層上面まで削平されていた。

なお、ローム面上での遺構調査の後ローム層下の深掘りを行っている。鳥山下遺跡の基盤層については後述の「VI 自然科学分析」の項に詳しく記載されているので参照していただきたい。

I層は褐色砂質土で、現耕作土である。II層は圃場整備時の客土である。最大径100mm程のロームブロックを多量に含む部分などが層位を成している。周囲の地形から10区寄りの現鳥山集落ののる台地上の削平により供給されたものと考えられる。

III層はローム漸移層。部分的にこの上位に黒褐色土を載せる部分もあるが、圃場整備時客土下の遺構確認面はIII層上面である。IV層は灰～灰黄色粘土ローム層。V層はAs-YP層。VI層は灰色砂混じりシルト層。VII層は灰色砂層。VIII層は灰色砂礫層である。

自然科学分析の結果、本遺跡の基盤層にあたる水成層は少なくともAs-YP降灰以前に離水したものと考えられる。



第5図 年保・鳥山下遺跡基本土層模式図

Ⅲ 周辺の環境

1. 地理的環境

年保遺跡、鳥山下遺跡は、群馬県太田市大島町・鳥山中町に所在する。太田市は群馬県の南東部に位置し、北東は渡良瀬川を挟んで栃木県足利市と南は利根川を挟んで埼玉県大里郡妻沼町と県境をなしている。地形的に見ると市域の大半は平坦な地形を成し、北側から茶臼山丘陵が張り出している。平坦部は、更新世の扇状地を含む洪積台地と沖積低地からなる地形となる。標高は、市域の北西から南東へと緩やかに傾斜している。年保遺跡付近の標高は47.0m、鳥山下遺跡付近の標高は、51.9m程である。

遺跡地は太田市街地より北西3km程新田郡新田町に程近い、東武桐生線三枚橋駅西方の現鳥之郷地区に位置する。

付近は、昭和40年代に進められた圃場整備により長方形に区画された水田となっており、所々に畑として残る小さな高まりが点在している。

本遺跡地付近の地形を概観すると、北は大間々扇状地の先端部、東は八王子丘陵・金山丘陵、西は由良台地に囲まれた北西から南西に伸びる扇端低地となっている。現在では、金山丘陵の西端を八幡川が、由良台地の東端を蛇川が幅約1.5kmの川底低地を囲むようにして北西から南東方向へ流れている。

大間々扇状地は、渡良瀬川が更新世に形成した関東地方有数の大型扇状地である。大間々町を扇頂として太田市北西部から新田町、境町を経て伊勢崎市東部に至る海拔50~60m付近を扇端とする、南北約18km、扇端の幅約13kmの扇形の範囲に発達する。形成時代を異にする5つの地形面で構成される合成扇状地であるが、その中でも扇状地の西半分を占める桐原面と、ほぼ東半分を占める藪塚面が最も広く、本扇状地の主体を成している。

桐原面はAg-UP(赤城湯ノ口テフラ)以上の中部および上部ローム層によっておおわれており、早川をはじめとする浸食谷によって樹脂状に浸食されてい

る。

藪塚面は、扇頂から扇端まで連続して典型的な扇状地を形成する範囲と扇端の南方に広がる沖積低地(扇端低地)の中に島状に散在するものと二分出来る。前者には厚さ1m以下の薄い上部ローム層だけが堆積しており、面形成層の藪塚礫層の直上に上部ローム層基底の浅間板鼻褐色(群)テフラが存在する。一方後者は扇端以南で、藪塚面形成後関東ローム層が降下堆積している時に浸食し尽くされずに残った微高地という性格の地形面と考えられる。本面には、上部ローム層の一部または二次堆積(再堆積)の上部ローム層が見られ、明らかに沖積台地とは区別されるものである。

八王子丘陵は海拔200m強の標高をもつ山頂が連なり、分水界は北北東—南南西の方向に延びていて、北半では稜線が市域の境となっている。

金山丘陵は、かつては八王子丘陵と一続きのものと考えられるが、今は吉沢字萩原のごく低い鞍部を境にして離れている。山頂部を中心とした孤立山塊としての地形が読みとれ、最高地点は235.8mであり、高度42~63mを測る周辺の麓との比高は160mないし180mとなる。主な山脚は北と東及び南西の方向に延びる。西部には長手の谷が入り込んでいる。

地質的には古生層を基盤としており、丘陵の東と北に馬蹄形に広がっている古生層の上を古第3紀の流紋岩質火砕岩類である金山流紋岩類が不整合に覆っており、さらに新第3紀の藪塚類層が不整合に覆っている。

金山丘陵の西辺に沿うように八瀬川が、由良台地の東側に沿うようには蛇川が大間々扇状地の末端から利根川方面へと流れている。両河川ともに現在のルートになるまでに流路の変遷を経てきたものと考えられている。その間に囲まれた地域は沖積低地になっており、北西から南東へと延びている。

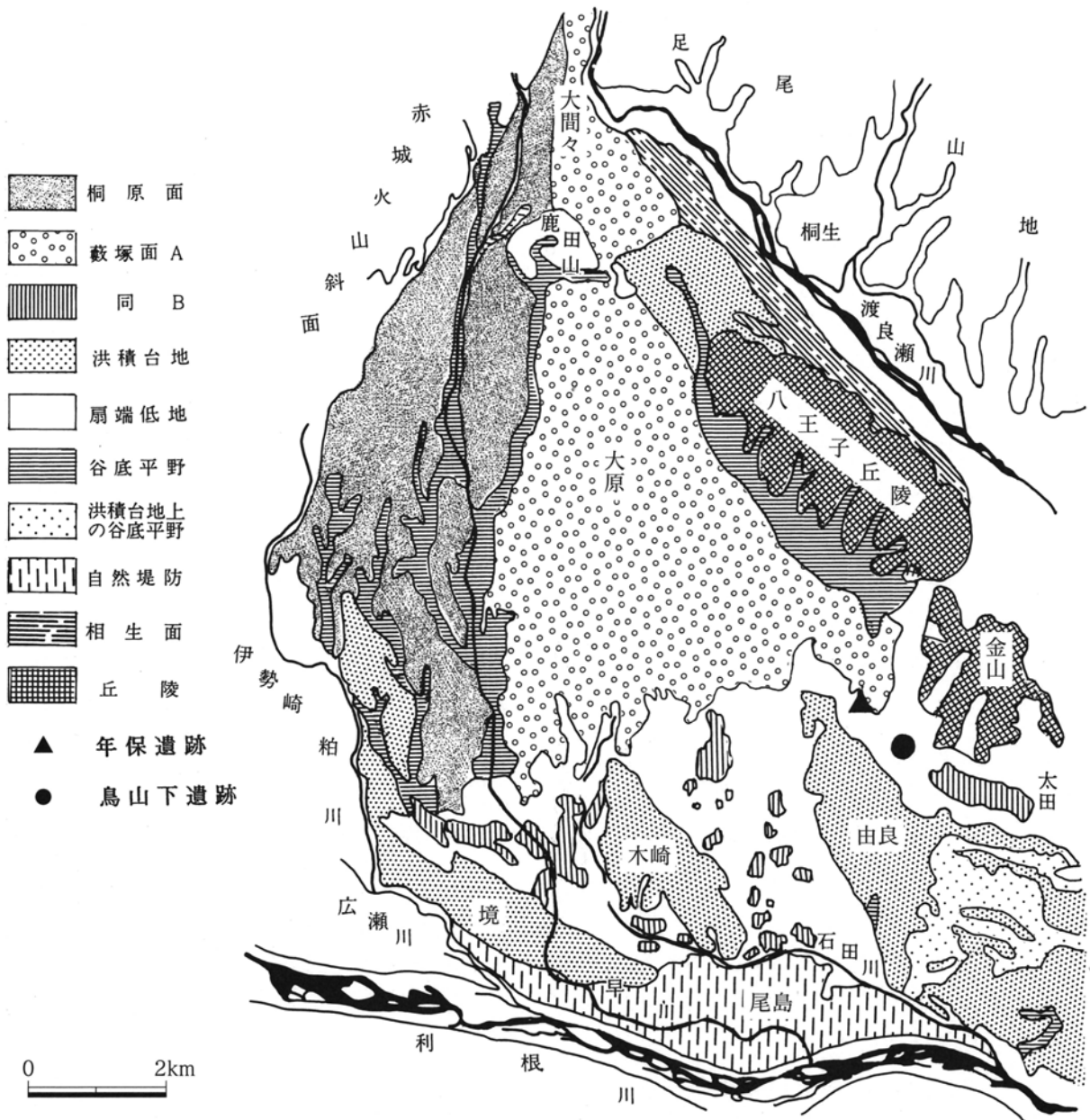
沖積低地では、藪塚礫層の上にさらに上流側の藪塚面上の火山灰が浸食されここに再堆積し、それが低湿な環境下で粘土化して沖積層になったものと考えられる。層厚は概ね1m前後で厚いところでも2

Ⅲ 周辺の環境

m程である。シルト～粘土からなり、全体に腐食物を含んでいる。沖積層の堆積環境は全般に排出不良の低湿地で由良台地周辺には泥炭や黒泥が形成される湿原が分布していたと推定される。本地域では地表下に、完新世のうち弥生時代以前の堆積物は明瞭な地層として残存していないが、As-B、Hr-FP、Hr-FA、さらに下層にAs-Cと思われる軽石が認められることから沖積層の大部分は弥生時代以降の堆積物と考えられる。

参考文献

- 『太田市史』 通史編 自然 太田市 1996
- 『太田市史』 通史編 原始古代 太田市 1996
- 『新田町誌』 第2巻資料編(下) 新田町誌刊行委員会 1987



第6図 年保・鳥山下遺跡周辺地形分類図

2. 歴史的環境

年保遺跡、鳥山下遺跡は1500mほど離れており、細かく見ると立地条件に違いがあるものの、大きく捉えると北に大間々扇状地の扇端部、西に由良台地、東に金山に挟まれ、南に延びる低地の空間に存在している。現在の太田市市内の地区名で言うと鳥之郷地区にあたり、北は強戸地区、南は太田地区と接している。周辺は古墳群の存在で知られる地域であり、年保遺跡の位置する東武桐生線三枚橋駅の南西部一帯は平成三年改訂版発行の「太田市文化財地図」によれば、三枚橋南遺跡と命名される縄文土器・弥生土器・土師器を出土する包蔵地とされている。

近年本地域でも開発に伴う発掘調査が徐々に実施され、その成果が公表されつつある。また、市史が編纂・刊行され地域史の解明が行われている。本項では、これらの資料をもとに周辺の遺跡について時代毎に概観したい。なお、()内の数字は第7図周辺遺跡図・第1表周辺遺跡一覧表と対応しているので参照されたい。

旧石器時代

市域では、八王子丘陵・金山丘陵周辺と市街地南部の沖積低地内にのこるローム層低台地に遺跡が分布している。周辺では、金山丘陵南端の大島口遺跡(29)で刃器状剥片、八幡山遺跡(30)で茂呂型のナイフ型石器が発見されている。

縄文時代

草創期・早期の遺跡は金山丘陵、八王子丘陵周辺や平野部の台地部分に位置するものが多く、堂原遺跡(45)では貝殻痕文系の土器を出土している。前期の遺跡は竜舞台地をはじめ平野部の台地部分で遺跡が増加しており、周辺では由良台地状上に堂原遺跡がみられ、三枚橋駅の西方大間々扇状地の末端に舌状に南下する低台地の南端付近で諸磯期土器類が広く分布している。中期の遺跡は、前半では竜舞・大泉・由良台地などで遺物類が希薄な分布を示すが、

後半の加曾利E式期の遺跡は急激に増加している。加曾利E式土器を出土する遺跡は由良台地では市立宝泉小学校南方の台地縁辺や新野町堂原地区、さらに成塚町成塚住宅団地遺跡(21)や上遺跡(11)鳥山・三枚橋駅西方に濃厚な分布が見られる。当時の集落は低地に面した台地の縁辺、あるいはそれに連絡する微高地形を選んで選地しており、その地は河川や湧水池などに近いところでもある。後期には、竜舞台地や大泉台地・由良台地・大間々扇状地末端台地などに分布する遺跡に充実したものが認められる。周辺では堂原遺跡(45)では後期前半の遺物が多く発見されている。晩期には市域における遺跡は極端に減少し、衰退しており、周辺には遺跡の分布は認められない。

弥生時代

金山丘陵北東部の小丸山遺跡・高林の丘陵性台地付近に遺跡が分布しているが、市域における弥生時代の遺跡は極めて少ない。太田西部から南部の広大な平野地域にこの文化は進出することはなかったと考えられる。

古墳時代

本地域は県内でも有数の古墳が構築された地域として知られる。周辺には、市域で最も古い様相をもつ前方後円墳である八幡山古墳(58)・丘陵の突端を利用して占地する寺山古墳(55)など4世紀代の構築とされる古墳が出現している。5世紀から6世紀前半にかけては良好な甲冑の出土で知られる鶴山古墳(51)、帆立貝型の亀山古墳(50)、市域で唯一周堀内に一對の中島をもつ鳥崇神社古墳(49)が築かれていく。さらに6世紀代になると、八王子丘陵の南西方から金山丘陵の西方大間々扇状地末端に開けた沖積地を中心に成塚古墳群(53)、長手口古墳群(55)等の群集墳が発展した。

一方集落遺跡も前期から遺跡数の増大が見られる。石田川式土器を出土する遺跡としては屋敷内B遺跡(34)、成塚住宅団地遺跡(21)・堂原遺跡(45)・

Ⅲ 周辺の環境

脇屋深町遺跡(46)・唐桶田遺跡(43)等があり、石田川期の集落は低湿な沖積地内の微高地に立地する傾向がある。和泉式土器の分布は成塚町や鳥山地区、また由良台地では新野堂原から脇屋にみられ、中期以降には周辺の高乾地へと集落は移動している。後期の集落遺跡の多くは広々とした沖積地内の小規模微高地を避けて、その周辺に広がる大間々扇状地の末端の台地や金山・八王子丘陵の台地、利根川左岸の高林台地などの周辺部に分布する傾向があり、堂原遺跡(45)・川窪遺跡などがみられる。また、市域で最も古い寺院跡と考えられる寺井廃寺(48)は7世紀後半には建立されたと推定されている。

奈良・平安時代

天良七堂遺跡(47)は礎石建物跡が一軒調査されており倉庫と考えられている。小金井入谷で発見された礎石や瓦屋根構造をもつ奈良朝の建物跡は奈良時代の官衙的性格をもつ建築群の一つと考えられている。境ヶ谷戸は地方官衙的遺跡であったと推定されている。また、釣堂遺跡(44)は瓦類が発見され、寺院跡と考えられている。

金山西北方の大間々扇状地末端の市域の寺井・天良地域から新田町小金井・市野井にかけてこのような遺跡が分布し、七世紀後半から十世紀にかけて存続しており、しかも地方官衙的性格を示すものである。また、東山道に関連する遺構も検出されつつあり、この地域を通ったものと考えられている。

本地域は十世紀前半に編まれた『和名類聚抄』にみられる上野国14郡のうち、新田郡の南東部地域を占めると考えられ、新田郷を当てられている。

また、生産域としては、金山北東麓にある二の宮遺跡や太田市南部にも条里制水田が想定されているが、北関東自動車道に伴う発掘調査などにより浅間B軽石に覆われた水田跡の検出も行われつつある。

市域における奈良・平安時代の村落社会は、基本的には前代の古墳時代を発展的には受け継いでいるが、集落分布のありかたは多様に展開している。

太田市史では七区域に区分できるとしているが、

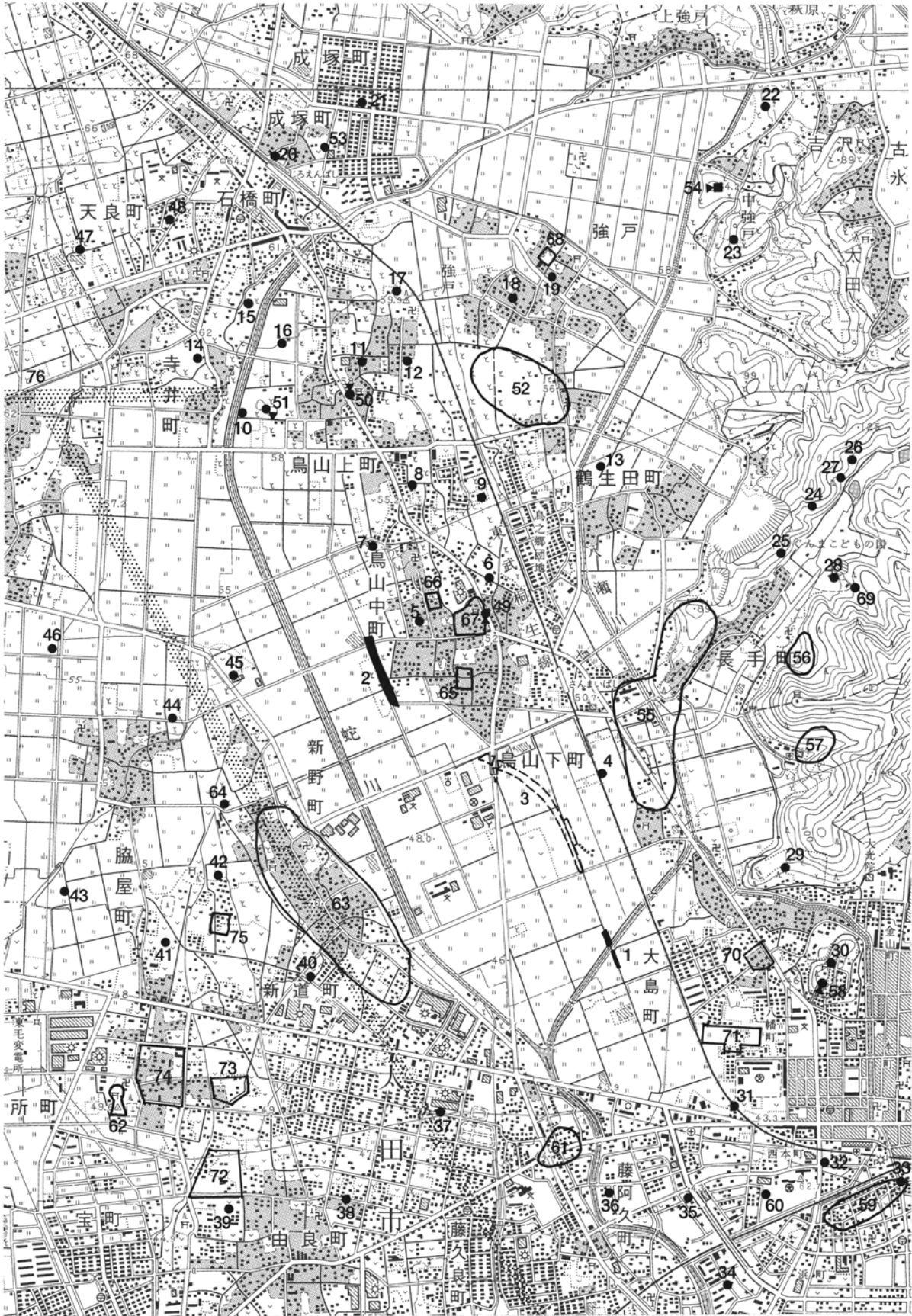
大間々扇状地末端地域では、八幡遺跡(10)、久保遺跡(16)などの広範な範囲を占めて分布する奈良・平安時代の集落遺跡があり、寺井町から鳥山にかけての広範な地域に、奈良・平安時代の地方官衙とも関係する村落が形成されていたことが推定される。

鎌倉・室町時代以降

本地域は、平安時代の終わり頃から新田庄の範囲に繰り込まれていき、嘉応二年(1170)の「新田御荘嘉応二年目録」には、大島郷が見られる。また、鎌倉時代には、新田氏の系譜に連なる里見氏から鳥山郷に鳥山氏大島郷に大島氏などが現れる。室町時代には、新田庄は岩松氏の治めるところとなり、大島郷・鳥山郷は、岩松氏、鳥山郷の一部は庶子の鳥山氏の所領となっている。室町時代のおわり戦国時代を迎える頃にはかつて新田庄を支配していた岩松氏とは別系との岩松氏が文明元年(1469)戦国時代を通して太田・新田地方の象徴であった金山城を築城している。しかし、明応四年(1495)家臣の横瀬成繁に実権を奪われた。横瀬氏は由良姓を名乗り金山城の実権を掌握したが、上杉氏の関東進出、後北条氏の上野国進出に際してはその支配下に属した。

所謂中世城館跡を見ると典型的な山城である金山城をはじめ大島城・大島館・鳥山環濠遺構群がある。大島城(71)は、戦国期の金山城の出城であったと推定されている。大島館(70)は、北西-南東100m、北東-南西250mの外郭があったと推定されている大島氏の館跡である。鳥山環濠遺構群は、鳥山中・下町にあり、鳥山城(66)・鳥山館(67)・鳥山屋敷(65)の三カ所で、15・16世紀に存続したとされる鳥山城が鳥山氏の居館と考えられている。

やがて、江戸時代を迎えると新田郡鳥山村と大島村は館林城主となった榊原氏の所領となり、この地域も幕藩体制に繰り込まれていった。



第7図 周辺遺跡図(1:25,000)

Ⅲ 周辺の環境

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	時代等	主な文献
1	年保遺跡	太田市大島町	本遺跡	
2	鳥山下遺跡	太田市鳥山中町	本遺跡	
3	前沖遺跡	太田市鳥山下町	古墳時代後期住居跡。掘立柱建物跡、土坑、溝、井戸等。	団：『年報』20
4	三枚橋南遺跡	太田市鳥山町	縄文(前期～後期)式土器、弥生(後期)、土師(前期～後期)を出土。	県遺跡台帳
5	鳥ヶ谷戸遺跡	太田市鳥山中町	古墳時代。散布地。	文化財情報
6	鎧着遺跡	太田市鳥山中町	古墳時代。散布地。	文化財情報
7	鳥山宿屋敷遺跡	太田市鳥山上町	縄文時代。散布地。	文化財情報
8	上泉開戸遺跡	太田市鳥山中町	古墳時代。散布地。	文化財情報
9	中道遺跡	太田市鳥山上町	古墳時代。散布地。	文化財情報
10	八幡遺跡	太田市鳥山上町	縄文時代前期・中期・後期、古墳時代中期、飛鳥時代、白鳳時代、奈良時代、平安時代の集落。発掘された遺構は、竪穴住居27軒、掘立柱建物7軒、溝11条、井戸3基、円形土坑2基。主体となるのは9世紀代の集落。	市史 団：報告書
11	上遺跡	太田市鳥山上町	古墳時代。散布地。	文化財情報
12	寺中遺跡	太田市鳥山上町	古墳時代。散布地。集落。	文化財情報
13	中妻遺跡	太田市鶴生田町	古墳時代。集落。古墳。	文化財情報
14	久保畑遺跡	太田市寺井町	古墳、奈良時代。集落。	文化財情報
15	鷲ノ宮遺跡	太田市寺井町	平安時代。散布地。	文化財情報
16	久保遺跡	太田市鳥山上町	奈良、平安時代集落。国分期を中心とする竪穴住居址27軒、土坑46基。	市：『年報』1
17	寺裏遺跡	太田市鳥山上町	古墳時代後期を中心にした集落。古墳時代後期の住居址8軒以上。	市史
18	畑中遺跡	太田市強戸町	古墳時代。集落	文化財情報
19	強戸宮西遺跡	太田市強戸町	縄文、古墳時代。集落。	文化財情報
20	成塚石橋遺跡	太田市成塚町	主に古墳時代の集落と墓域。検出された遺構は、住居址116軒、掘立柱建物址1棟、古墳址9基、円筒埴輪棺1基、旧河川址1条、溝址38条、土坑96基、井戸9基、道路状遺構2条。	市史 団：報告書
21	成塚住宅団地遺跡	太田市成塚町	縄文時代以降の複合遺跡。縄文時代中期後半、弥生時代後期、古墳時代前期・中期。	市史 団：報告書
22	峯山遺跡	太田市強戸町	旧石器時代の石器。縄文時代草創期～後期の土器片、土師・須恵器片のほか、製鉄址を思わせる鉄滓が散布する複合遺跡。	市史
23	強戸口峯遺跡	太田市強戸町	旧石器時代遺物包蔵地。採集資料は1点で、彫刻刀である。	市史
24	高太郎Ⅰ遺跡	太田市長手町	古墳時代後期の須恵器窯跡5基、工房址1軒、時期不明。	団：『年報』13
25	高太郎Ⅱ遺跡	太田市長手町	製鉄窯址3基、炭窯址と思われるもの3基。10世紀前半。	市：『年報』1
26	高太郎Ⅲ遺跡	太田市長手町	古墳時代。生産遺跡。	文化財情報
27	鍛冶ヶ谷戸遺跡	太田市長手町	縄文、古墳、平安時代。中世。集落。生産遺跡。	文化財情報
28	山去・十八曲遺跡	太田市長手町	井戸址1基、金山城跡関連の大堀切り。	団：『年報』12
29	大島口遺跡	太田市大島町	旧石器時代晩期、縄文時代草創期・早期・前期、古墳時代の遺物散布地。	市史
30	八幡山遺跡	太田市大島町	旧石器時代遺物包蔵地。採集資料、ナイフ形石器1点。	市史
31	三島木遺跡	太田市大島町	縄文、奈良～近世。竪穴住居1軒、掘立柱建物1棟、溝6条、土坑7基。ピット4基。	団：『年報』20
32	稲荷前遺跡	太田市本町	平安時代の竪穴住居1軒。近世溝1条、土坑1基。	団：『年報』20
33	浜町遺跡	太田市浜町	出土遺物の様相からして、古墳時代前期から平安時代初頭の集落遺跡と考えられる。	市史
34	屋敷内B遺跡	太田市浜町	4世紀後半の前方後円墳の周溝墓1基と6世紀代の円墳2基。中世末から江戸時代中期にかけての溝址、土坑墓、井戸址等。	市史 市：報告書
35	舞台A・D遺跡	太田市西本町	6世紀初頭～7世紀中頃にかけての集落址。65軒の住居址。多量の炭化米が出土した土坑等。	市史 市：報告書
36	大道北遺跡	太田市藤久町	古墳時代。集落。	文化財情報
37	由良北原遺跡	太田市由良町	古墳時代。散布地。	文化財情報
38	天狗林遺跡	太田市由良町	縄文、古墳、平安時代。散布地。集落。	文化財情報
39	北之庄Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡	太田市由良町	古墳時代後期の住居址2軒、国分期の住居址8軒、井戸跡1基、鍛冶工房1軒、瓦塔片1点。	団：『年報』13
40	下原遺跡	太田市脇屋町	古墳時代。散布地。	文化財情報

2. 歴史的環境

41	岡原遺跡	太田市脇屋町	古墳時代。散布地。	文化財情報
42	脇屋中原遺跡	太田市脇屋町	古墳後期土坑1基。平安時代。散布地	団：『年報』19
43	唐桶田遺跡	太田市脇屋町	古墳時代前期・中期の集落・周溝墓。竪穴住居址18軒、掘立建物址3軒、溝址4条、方形周溝墓1基、土坑1基である。板材や柱材・種子等。	市：報告書
44	釣堂廃寺	太田市脇屋町	寺院跡。集落内の一角に営まれた小規模な寺院、あるいは仏堂である可能性が高い。8世紀中頃。	市史
45	堂原遺跡	太田市脇屋町	縄文・古墳時代を中心とする集落址。縄文時代の土坑6基、埋設土器1個体、古墳時代前期方形周溝墓3基、古墳時代後期住居跡1軒、中世の土坑数基、溝1条等。	市史
46	脇屋深町遺跡	太田市脇屋町	古墳時代前・中期。竪穴住居址3軒、掘立柱建物址1棟、方形周溝墓2基、円形周溝墓1基、溝址71条。	市：『年報』1
47	天良七堂	新田郡新田町	古墳～平安時代の官衙・集落。礎石建物2棟、掘立柱建物2棟、住居跡5軒、溝13条。炭化米。	市史、報告書
48	寺井廃寺	太田市天良町	寺院跡。寺院主要部にかかわる遺構は見つかっていない。古瓦の散布。7世紀後半～10世紀の瓦。	市史
49	鳥崇神社古墳	太田市鳥山中町	前方後円墳。くびれ部に左右一対の中島。全長推定66m。5世紀末から6世紀前半。	市史 市：報告書
50	亀山古墳	太田市鳥山上町	『総覧』には前方後円墳として掲載。径35mの円墳であった可能性も考えられる。墳頂と中段に円筒・朝顔形埴輪の樹立が想定出来る。5世紀第Ⅲ四半紀。	市史
51	鶴山古墳	太田市鳥山上町	前方後円墳。墳丘全長95m。主体部は竪穴式石室。良好な甲冑の資料が出土。5世紀後半。	市史
52	鶴生田・下強戸古墳群	太田市鶴生田町	横穴式石室を主体部に持ち、墳丘径20mを測る円墳群で構成。6世紀に築造されたものが多いと考えられる。	市史
53	成塚古墳群	太田市成塚町	『総覧』によれば、成塚町地内に分布する古墳の総数は41基。6世紀中頃には形成され、6世紀後半に最盛期。	市史
54	寺山古墳	太田市強戸町	前方後円墳。全長55m。主体部は粘土礫が推定される。4世紀代。	市史
55	長手口古墳群	太田市長手町	3基の前方後円墳を中核とする。ほとんど消滅。埴輪類、鉄器類、玉類、金銅環、馬具類。6世紀後半を主体に形成。	市史
56	武反田古墳群	太田市長手町	数基の円墳からなる。	市史
57	貧乏塚古墳群	太田市長手町	約30基の円墳よりなる群集墳。6世紀後半。	市史
58	八幡山古墳	太田市大島町	前方後円墳。墳丘規模全長84m。竪穴式石室が想定される。4世紀前半。	市史
59	浜町古墳群	太田市浜町	古墳時代。古墳。	文化財情報
60	稲荷山古墳	太田市西本町	径約20mの円墳。人物埴輪(武人)。馬形埴輪の出土記録あり。	市史
61	藤阿久古墳群	太田市藤阿久町	直径15m内外の円墳が多く、横穴式石室施設したものが主体であったと推定する。太刀、刀子、鉄鏃。人物埴輪、飾り馬、円筒類。6世紀代に形成。	市史
62	別所茶臼山古墳	太田市別所町	前方後円墳。全長168m。5世紀前半。	市史
63	新野古墳群	太田市新野町	古墳時代。	文化財情報
64	脇屋古墳群	太田市脇屋町	『総覧』に6基の古墳が記載。群中のオクマン山古墳は径36mの円形で埴輪人物像、飾り馬等出土。6世紀後半。	市史
65	鳥山屋敷跡	太田市鳥山下町	堀。	城館跡
66	鳥山城	太田市鳥山中町	15・16世紀。鳥山氏。(堀、土居、戸口)。	城館跡
67	鳥山館	太田市鳥山中町	堀。	城館跡
68	強戸の寄居	太田市強戸町	16世紀。強戸地衆。堀。	城館跡
69	長手口砦跡	太田市長手町	中世。城館。	文化財情報
70	大島館	太田市大島町	14世紀。大島氏(里見氏)。土居、戸口。	城館跡
71	大島城	太田市八幡町	16世紀。堀。土壇。	城館跡
72	由良の砦	太田市由良町	14～16世紀。由良氏。(堀、土居、戸口)。	城館跡
73	台源氏館	太田市由良町	14世紀。新田氏。	城館跡
74	新田館	太田市別所町	14世紀。新田氏。堀。	城館跡
75	脇屋館	太田市脇屋町	14世紀。脇屋義助。義助館跡の碑。	城館跡
76	推定東山道		古代	企画展資料

* 県：群馬県教育委員会、 市：太田市教育委員会、 町：新田町教育委員会、 県博：群馬県立歴史博物館
 団：財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
 文化財情報：文化財情報システムCD-ROM版 城館跡：群馬県の中世城館跡

Ⅲ 周辺の環境

参考文献

[全般]

『群馬県文化財情報システムCD-ROM版』	群馬県教育委員会	2001年
『群馬県遺跡台帳東毛編』	群馬県教育委員会	1971年
『群馬県の中世城館跡』	群馬県教育委員会	1989年
『太田市史通史編原始古代』	太田市教育委員会	1996年
『群馬県史通史編』	群馬県史編纂委員会	1990年
『群馬県史資料編3』	群馬県史編纂委員会	1981年
『群馬県古城址の研究』上	群馬文化事業振興会	1972年

[個々の遺跡]

『太田市八幡遺跡』	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	1990年
『久保遺跡』『埋蔵文化財発掘調査年報1』	太田市教育委員会	1991年
『成塚石橋遺跡』	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	1988年
『成塚石橋遺跡II』	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	1991年
『成塚住宅団地遺跡』	太田市教育委員会	1990年
『高太郎I遺跡』『年報年報13』	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	1994年
『高太郎II遺跡』『埋蔵文化財発掘年報1』	太田市教育委員会	1991年
『三島木遺跡』『年報20』	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	2001年
『稲荷前遺跡』『年報20』	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	2001年
『屋敷内B遺跡』	太田市教育委員会	1985年
『舞台A・D遺跡』	太田市教育委員会	1989年
『北之の庄I・II・III遺跡』『年報13』	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	1994年
『脇屋中原遺跡』『年報19』	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	2000年
『脇屋深町遺跡』『埋蔵文化財発掘調査年報1』	太田市教育委員会	1991年
『市内遺跡XVIII(鳥崇神社古墳)』	太田市教育委員会	2002年
『古代のみちーたんけん!東山道駅路ー』	群馬県立歴史博物館	2001年
『唐桶田遺跡発掘調査報告書』	太田市教育委員会	1999年
『市内遺跡II』	太田市教育委員会	1985年
『山去・十八曲り遺跡』『市内遺跡IX』	太田市教育委員会	1993年
『堂原遺跡発掘調査報告書』	太田市教育委員会	1973年
『脇屋深町遺跡発掘調査概報』	太田市教育委員会	1990年
『天良七堂遺跡・笠松遺跡』	新田町教育委員会	2000年

IV 年保遺跡の遺構と遺物

1. 遺跡の概要

年保遺跡では古墳時代の遺構中心にして、近世の遺構若干と、縄文時代から近世に至る遺物を検出した。遺跡全体が圃場整備された水田下であり、そのために遺構確認面での遺構残存の状態は良好とはいえない。以下、各時代毎に遺跡の概要を記すことにする。

旧石器時代

旧石器時代のもものと認定できる遺物は検出されていない。また、基本土層で示したように部分的に遺構掘り込み時の地山である黒褐色土層・ローム層の残る部分があるものの遺構確認面の直下や住居掘り方、更に1区の北側では遺構確認面上に砂礫層が露出していた。地理的環境で示したようにローム層も2次堆積によるものと考えられ、旧石器時代の遺構、遺物は存在しないと判断した。

縄文時代・弥生時代

遺構外の遺物として縄文時代の土器片、石器が少量検出された。土器片はいずれも小片で摩耗の激しいものが多いが、中期から後期にかけての遺物と考えられる。これに伴う遺構は検出されていない。遺物は遺構外の項で報告している。弥生時代の遺構・遺物は検出されていない。群馬県遺跡台帳東毛編によれば、本遺跡周辺からは縄文時代(前期～後期)弥生時代(後期)土師(前期～後期)を出土するとあるが、東武桐生線の線路沿いの部分に存在するのかもしれない。

古墳時代

本遺跡で検出した遺構は、古墳時代以降のもものと推定される。圃場整備による削平やそれ以前の耕作等により遺構の残存状況が悪く、火山灰等の時期確定の鍵になる層も明確には残存しない。従って、僅かな出土遺物と埋土からの推定となり時期を明確に出来ないものも多いが、出土遺物や形態から時期を推定できる住居等のほとんどは古墳時代後期に属す

るものである。

住居については、1区で6軒、2区で2軒、3区で12軒の合計20軒が検出された。1軒は前期の可能性があり、15軒は後期(6世紀代)のものと考えられる。4号住居跡ではカマド周辺にややまとまった遺物の出土があるが、概して出土遺物は少ない傾向がある。残る4軒については部分的な検出であり出土遺物もごく少量であることから時期は不明である。なお、12号住居跡柱穴内より木材の出土があった。

井戸は1区で2基検出された。湧水点に見られるアグリが認められず根拠がやや弱い³⁾が、その形状等から井戸と判定した。2号井戸では底面に接するようにして底部を欠損した甕が出土している。

土坑は24基検出した。性格が推定できるものはなかったが³⁾、埋没土は古墳時代の住居と近似しており、出土遺物も古墳時代後期のものが多い。

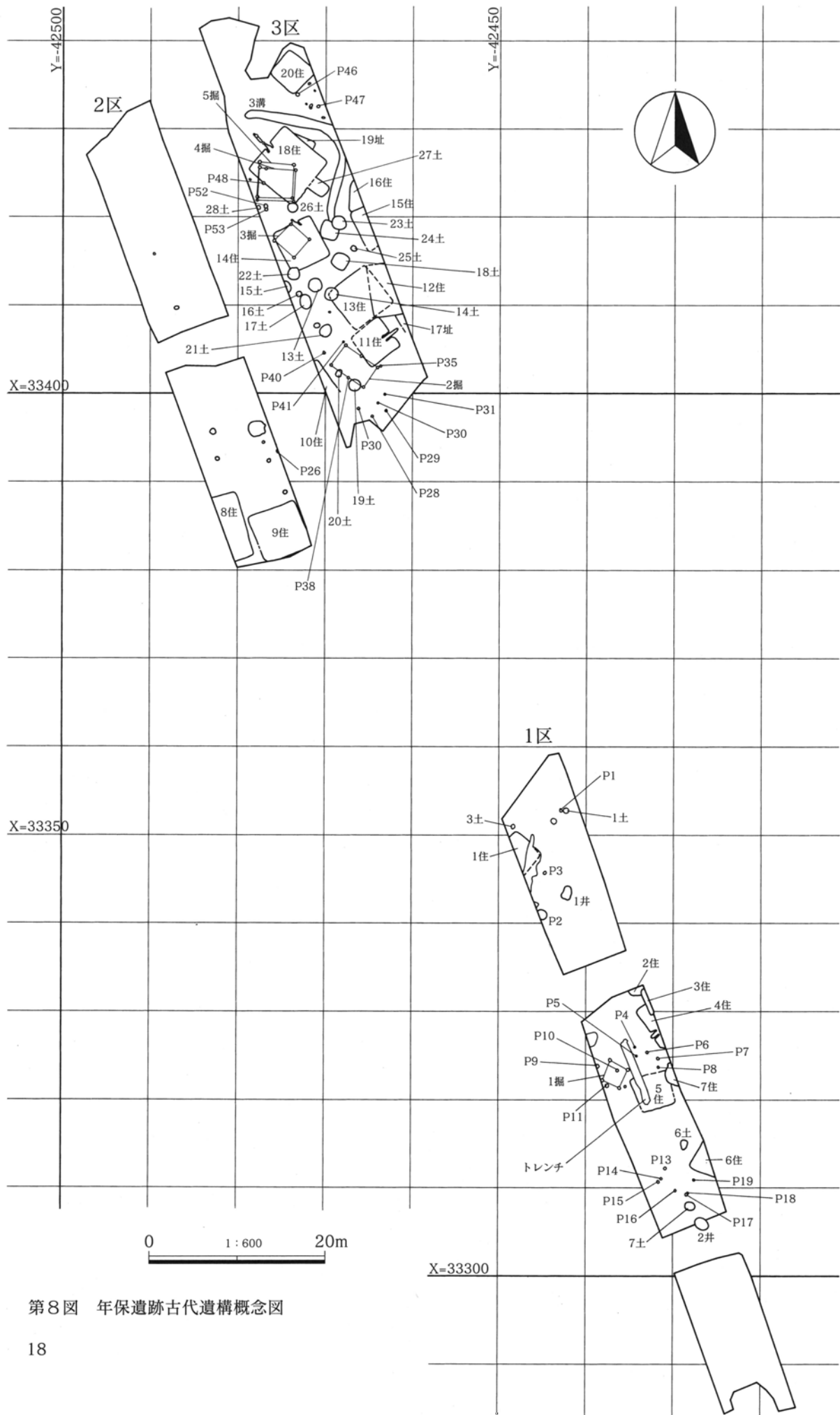
奈良・平安時代

明らかに奈良・平安時代のもものと認定できる遺構は存在しない。遺物も摩耗の激しい土師器片など極少量が出土するだけである。

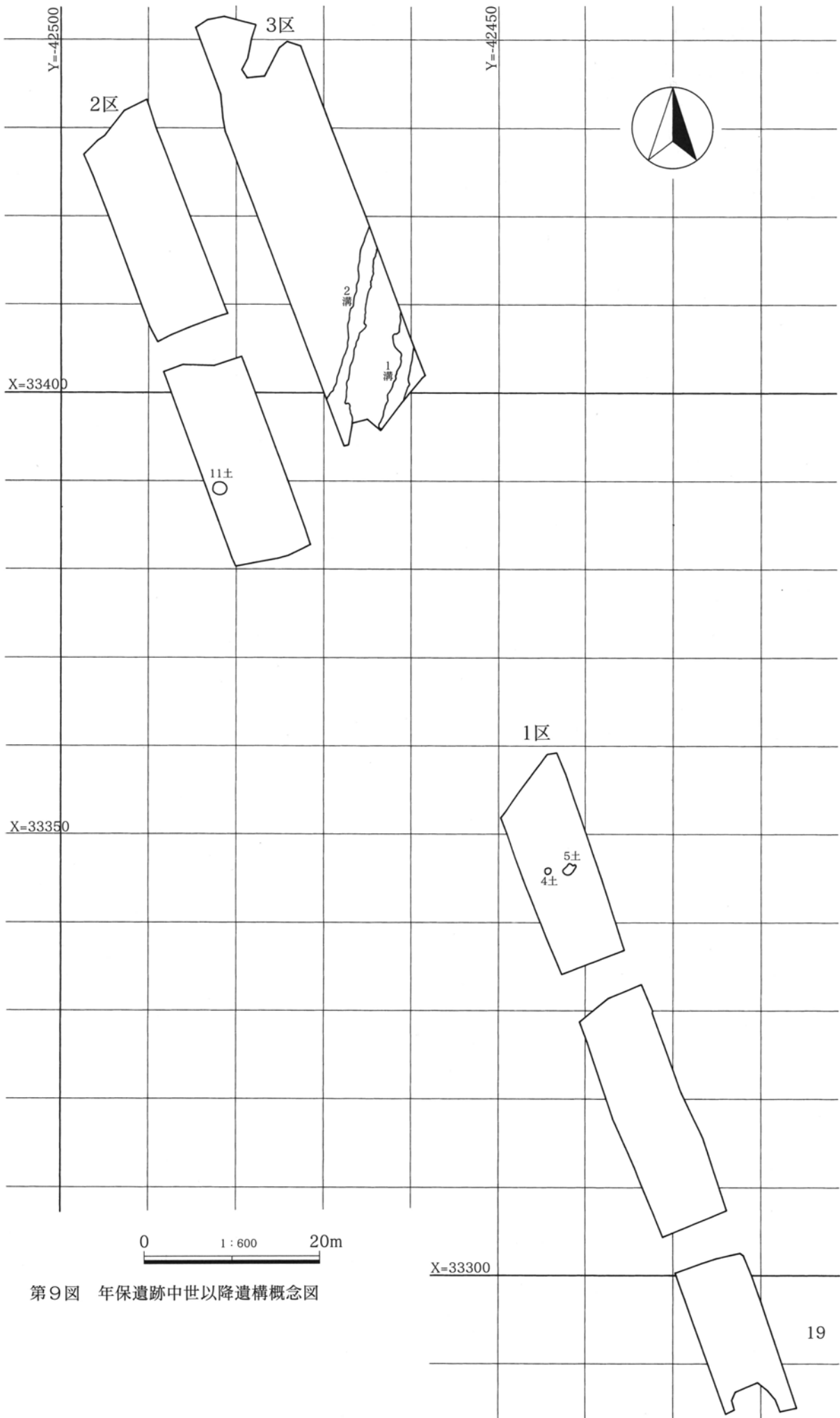
なお、溝1条及び掘立柱建物跡柱建物5棟については埋没土が古墳時代の住居跡の埋没土に近似することから古代以前のもものと考えられるが³⁾、明確な時期判定の出来る資料を欠いている。

中世以降

近世以降の溝2条が検出された。溝内および遺構外から若干の陶磁器片も出土している。2条の溝は3区にあり、南北方向に直線的に伸びている。2条とも砂質土で埋没しており、流水があった可能性が高い。近世の絵図によれば付近は近世以降水田となっており、圃場整備前までは網目状に用水路が残る低湿な土地であったことから考えると用水路の一部であった可能性が高い。



第8図 年保遺跡古代遺構概念図



第9図 年保遺跡中世以降遺構概念図

2. 古代の遺構・遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居(図10、PL3・15)

位置 1区X=33345~50, Y=-42445~48

重複 なし

形態 住居の半分程は調査区外に伸び、南東部は攪乱を受けるため全形は確認できなかったが、方形を呈すると想定される。

方位 N-39° -W

規模 (2.84)m×(2.28)m

面積 調査区内で5.09㎡

壁高 4cm

床面 住居南東部は後世の削平を受け、残存していない。北半は、掘り方面から厚さ6cmほどの埋め土を施して平坦な面を造る。掘り方面は、細かな凹凸

を残す。

柱穴 P1は直径30cm深度50cmを測り、位置・形状から柱穴の可能性はある。攪乱のため対応するピットは検出されなかった。

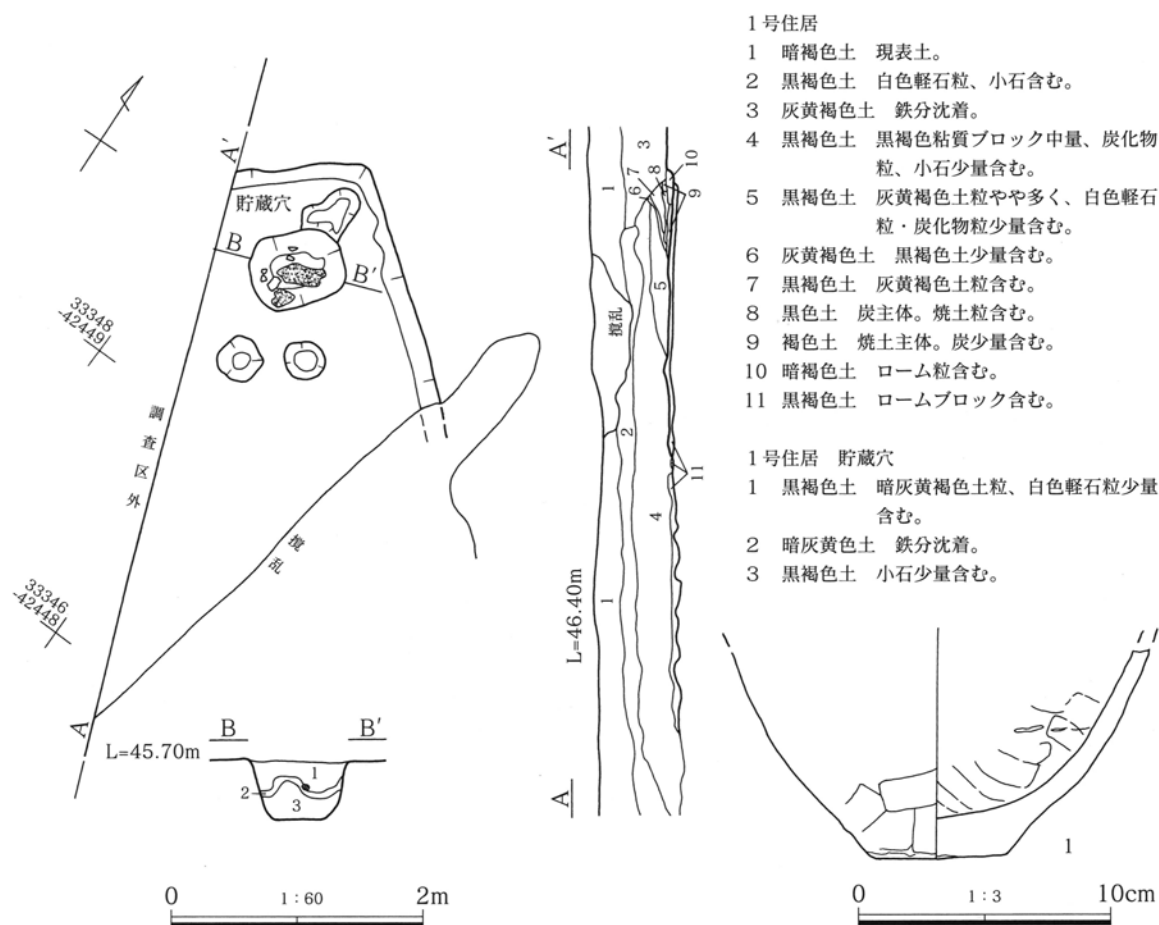
貯蔵穴 住居の東北隅に設置され、長軸74cm、短軸60cm、深度約44cmで、平面形は隅丸方形を呈する。埋土中位に灰黄色粘質土が薄い層状に堆積する。

周溝 調査範囲では未確認。

竈 調査区外で確認できなかったが、北西壁東寄り部分のセクションに焼土・炭を主体とする薄い層がある。貯蔵穴西側の位置にあたり竈と考えられる。

遺物 貯蔵穴内より土師器の甕、坏破片が少量出土している。

所見 本住居の時期は出土遺物から古墳時代後期に比定される。

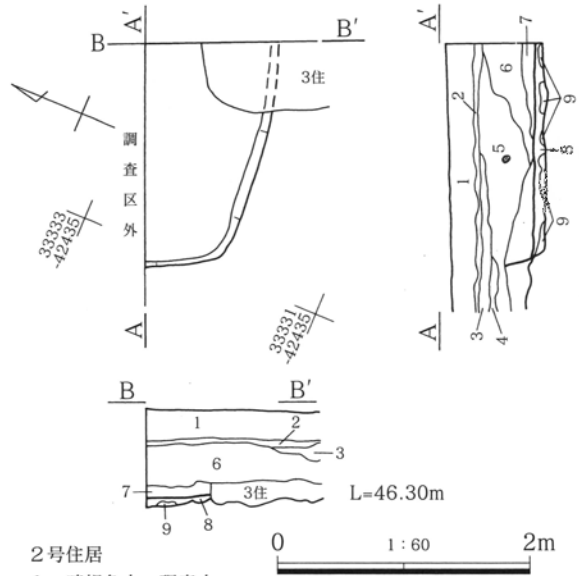


第10図 年保1区1号住居・出土遺物実測図

2. 古代の遺構・遺物

2号住居 (図12、PL3)

位置 1区X=33331~33, Y=-42433~35
 重複 3号住。3号住の床面が本住居の床面の上位に重なっていたため、本住居の方が前出である。
 形態 住居の大部分が調査区外になるため、全形は確認できなかった。南西隅部のみを検出した。
 方位 計測不能。
 規模 (1.75)m×(1.00)m
 面積 調査区内で1.42㎡ 壁高 20cm
 床面 掘り方面から8cmほど黒褐色土を入れて平坦面を作っている。掘り方面は、壁周辺が僅かに窪む。
 柱穴 調査範囲では未確認。
 貯蔵穴 調査範囲では未確認。
 周溝 調査範囲では未確認。
 竈 調査範囲では未確認。
 遺物 土師器甕破片が2片出土しているが、小片のため図示できなかった。
 所見 形状、床面から住居と判断した。本住居の時期は重複関係から古墳時代後期以前に比定される。

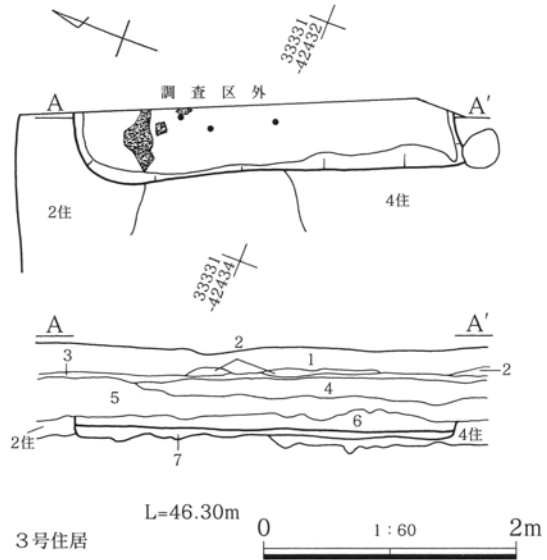


- 2号住居
- 1 暗褐色土 現表土。
 - 2 にぶい黄褐色土 鉄分沈着。赤褐色味帯ひる。
 - 3 暗褐色土 黒色味有り。やや砂質。
 - 4 暗褐色土 白色軽石粒少量含む。
 - 5 黒褐色土 白色軽石粒、ローム・ブロック中量含む。
 - 6 黒褐色土 白色軽石粒、小石少量含む。
 - 7 黒褐色土 やや粘性有り。ローム粒・ブロック少量含む。
 - 8 黒褐色土 ローム混じる。
 - 9 にぶい黄褐色土 ローム主体。
 - 10 暗褐色土 白色粒上位に少量含む。

第11図 年保1区2号住居実測図

3号住居 (図12、PL3)

位置 1区X=33329~32, Y=-42432~33
 重複 2・4号住と重複。床面が2・4号住床面の上位に構築されているため、本住居が最も後出である。
 形態 全形は確認できなかった。
 方位 N-19°-W
 規模 3.00m×(0.51)m
 面積 調査区内で1.27㎡ 壁高 8cm
 床面 掘り方面から厚さ約10cmの埋め土を施して平坦な面を造る。掘り方面は北側がやや窪む。
 柱穴 調査範囲では未確認。
 貯蔵穴 調査範囲では未確認。
 周溝 調査範囲では未確認。
 竈 調査範囲では未確認。
 遺物 土師器甕、坏の小破片が出土しているが、小片のため図示できなかった。
 所見 本住居の時期は出土遺物から古墳時代後期に比定される。



- 3号住居
- 1 暗褐色土 現表土。
 - 2 にぶい黄褐色土 小石少量含む。
 - 3 にぶい黄褐色土 鉄分沈着。
 - 4 暗褐色土 黒色味有り。やや砂質。
 - 5 黒褐色土 白色軽石粒、小石少量含む。
 - 6 黒褐色土 ローム、焼土粒やや多く、白色軽石粒、小石、炭化物粒少量含む。
 - 7 にぶい黄褐色土 ローム主体。

第12図 年保1区3号住居実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物

4号住居(図13~16、P L 4・5・15)

位置 1区X=33325~31, Y=-42431~34

重複 3号住。3号住の掘り方が4号住の床面を掘り壊していることから、4号住の方が前出である。

形態 住居の大半は調査区外に伸びるため全形は確認できなかった。

方位 N-125° -W

規模 5.16m×(1.82)m。

面積 調査区内で5.81㎡ 壁高 15cm

床面 掘り方面から厚さ10cmほどの埋め土を施して平坦な面を造る。竈周辺は固く締まる。掘り方面は中央がやや高く周囲が窪む。

柱穴 住居の北西部に1本検出した。直径30cm、深度27cmを測る。

貯蔵穴 住居の南西隅に設置され、竈の左袖方向に位置する。長軸64cm、深さ50cmで、平面形は隅丸

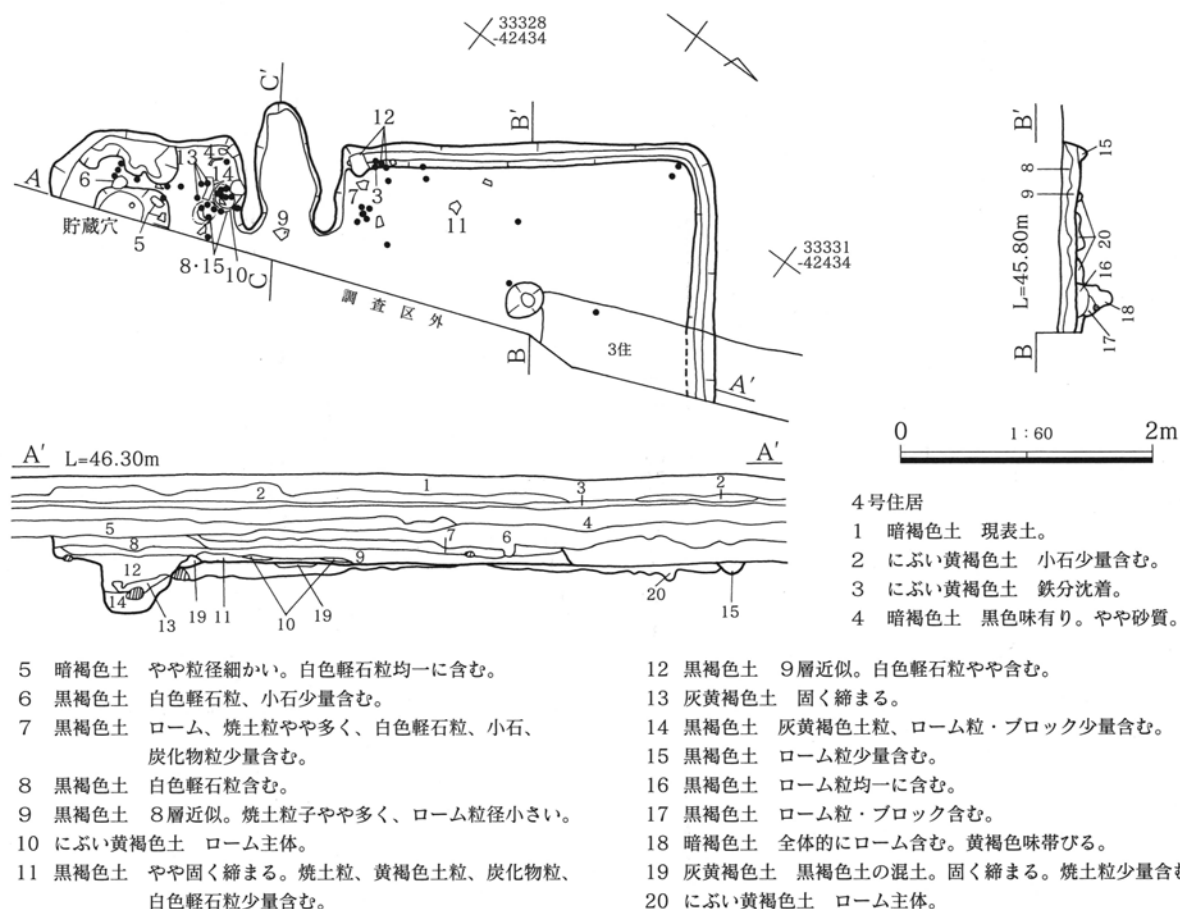
方形と想定される。埋土の中位に灰黄褐色粘質土塊を含む。

周溝 北東壁から南西壁下で検出され、幅20cm程、深度9cm程である。

竈 南西壁やや南寄りに構築されている。燃烧部は壁内、煙道は僅かに壁外に突出する部分が残存。全長106cm、幅88cm。灰黄褐色粘質土を主体に袖を構築し、右袖内には楕円形の川原石を補強材として使用している。天井部の崩落と思われる部分にも袖と同様の粘質土を検出した。

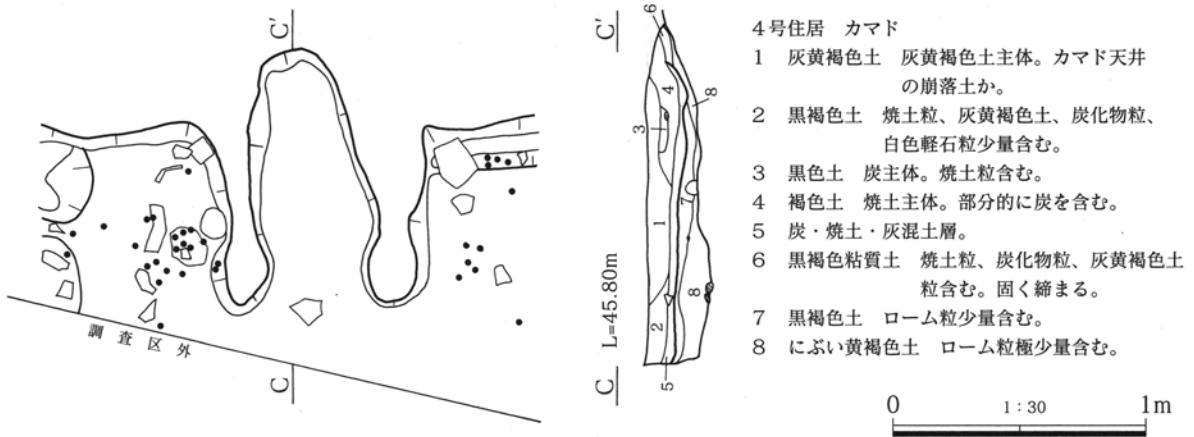
遺物 土師器甕、坏、甑片などがほぼ床面に近い位置から出土している。竈周辺や貯蔵穴内に5・6の坏や8の甑等の完形遺物があり、住居の廃棄時期を示すものと考えられる。

所見 本住居の時期は出土遺物や重複遺構から6世紀前半に比定される。

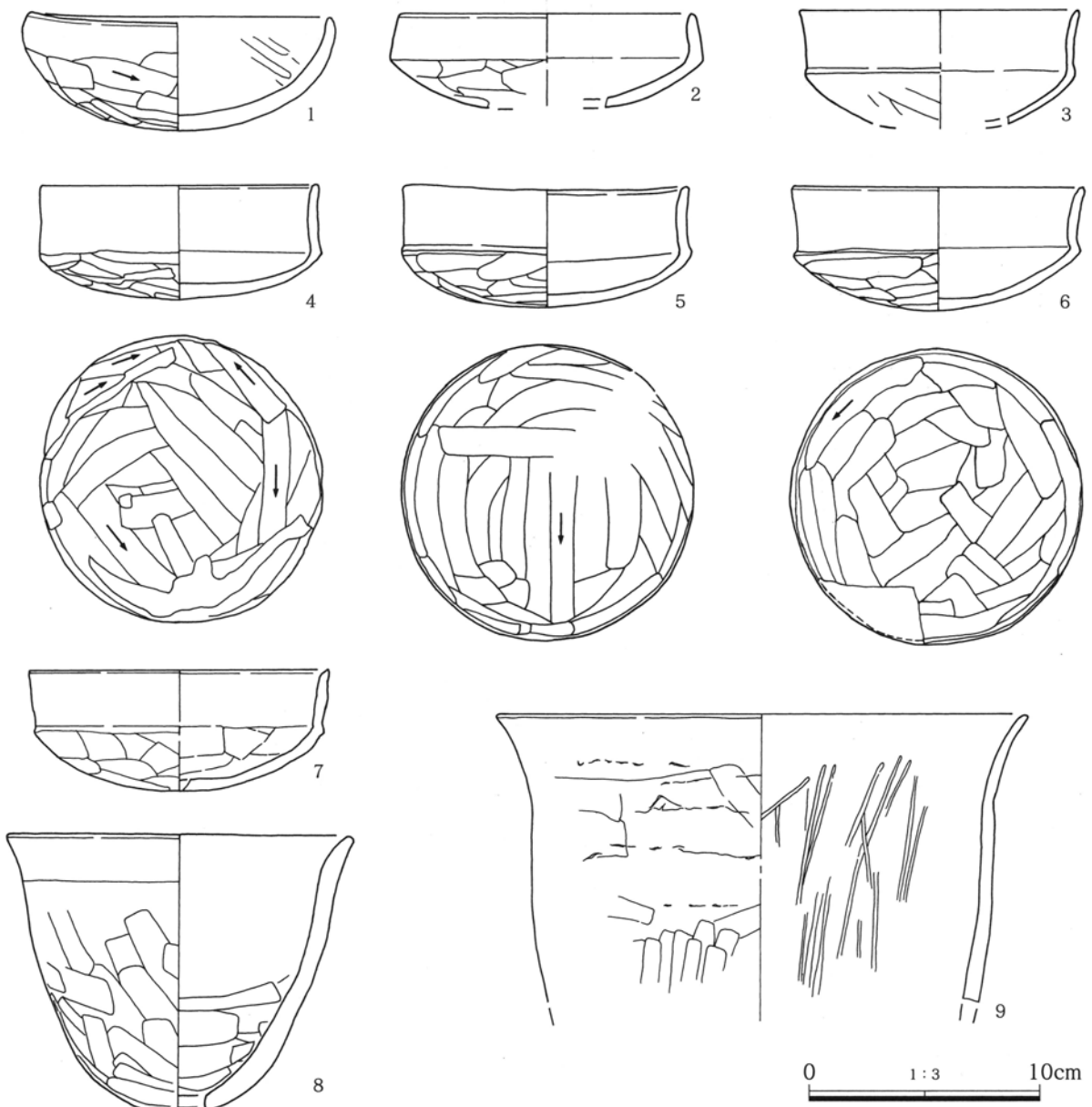


第13図 年保1区4号住居実測図

2. 古代の遺構・遺物

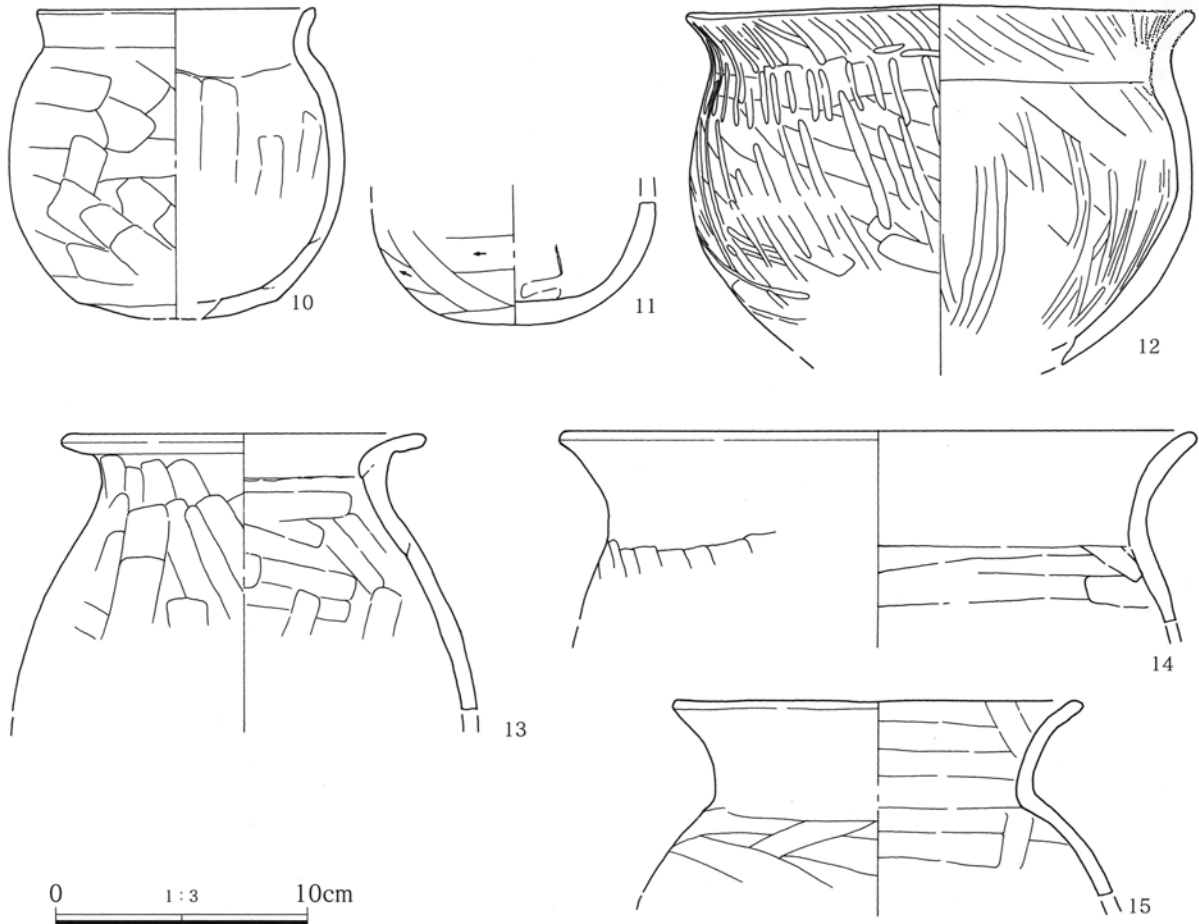


第14図 年保1区4号住居竈実測図



第15図 年保1区4号住居出土遺物実測図(1)

IV 年保遺跡の遺構と遺物



第16図 年保1区4号住居出土遺物実測図(2)

5号住居(図17・18、PL5・15)

位置 1区X=333318~23, Y=-42429~34

重複 7号住。5号住が前出。

形態 ほぼ正方形

方位 N-20° -W

規模 4.10m×4.03m

面積 調査区内で15.48㎡

壁高 15cm

床面 掘り方面から厚さ12~14cm程の埋め土を施して平坦な面を造る。掘り方面は東壁下に溝状の浅い窪みがあるが、ほぼ平坦である。

周溝 調査範囲では未確認。

柱穴 床面上では不鮮明で確認できなかったが、掘り方調査時に複数のピットを確認した。住居のほぼ

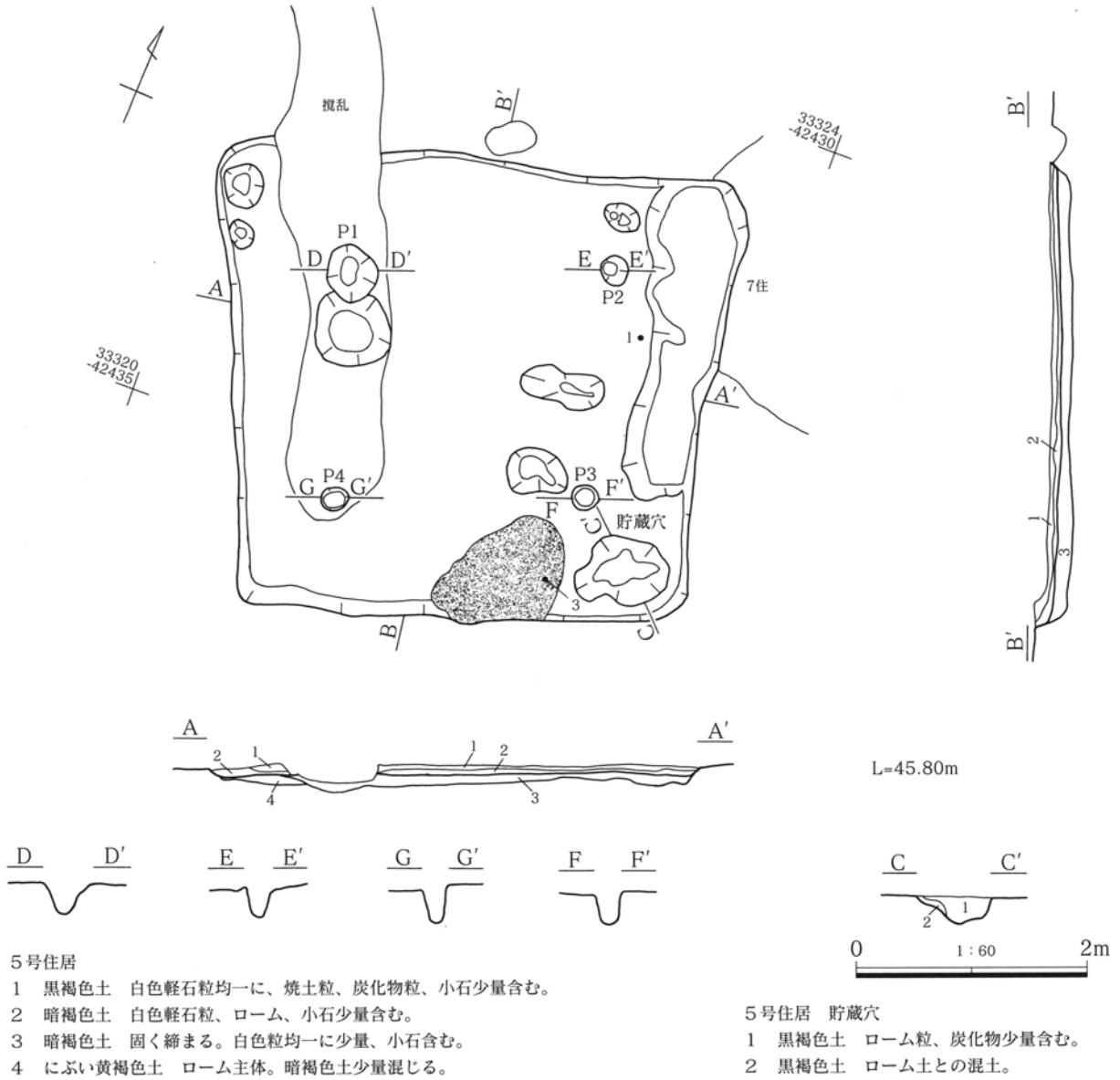
対角線上に並ぶP1~P4を柱穴と判断した。4本のピットはほぼ同規模で直径20~25cm、深度26~30cmである。

貯蔵穴 住居の南東隅に設置される。長軸86cm短軸66cmで、平面形は楕円形と想定される。

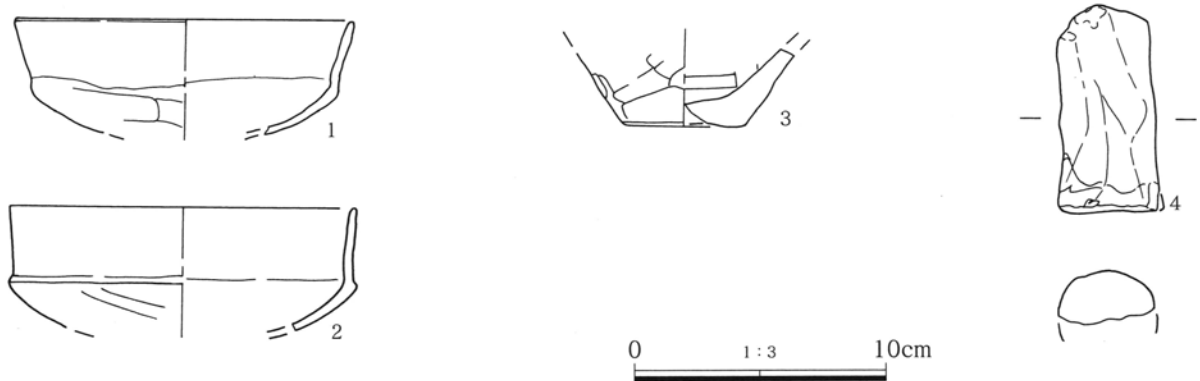
竈 南壁やや東の貯蔵穴寄りに120cm×90cmほどの粘土の塊が見られたが、炭化物や焼土は混入しておらず竈と断定するには至らなかった。

遺物 土師器甕、坏の小破片、支脚破片を出土。1の坏は床面付近、2の坏は貯蔵穴内の出土である。

所見 本住居の時期は出土遺物から6世紀中頃に比定される。



第17図 年保1区5号住居実測図



第18図 年保1区5号住居出土遺物実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物

6号住居(図19、PL5・15)

位置 1区X=33311~15, Y=-42425~28

重複 なし

形態 住居の大部分が調査区外になるため全形は確認できなかった。南西隅部のみを検出した。

方位 N-21° -W

規模 (1.55)m×(1.80)m

面積 調査区内で5.10㎡

壁高 13cm

床面 掘り方面から10cm程の埋め土を施して平坦な面を造る。床面の硬化は弱い。掘り方面は中央部がやや高く、周辺部がやや窪む。

柱穴 掘り方面で柱穴1本を確認。直径24cm、深度32cmを測る。

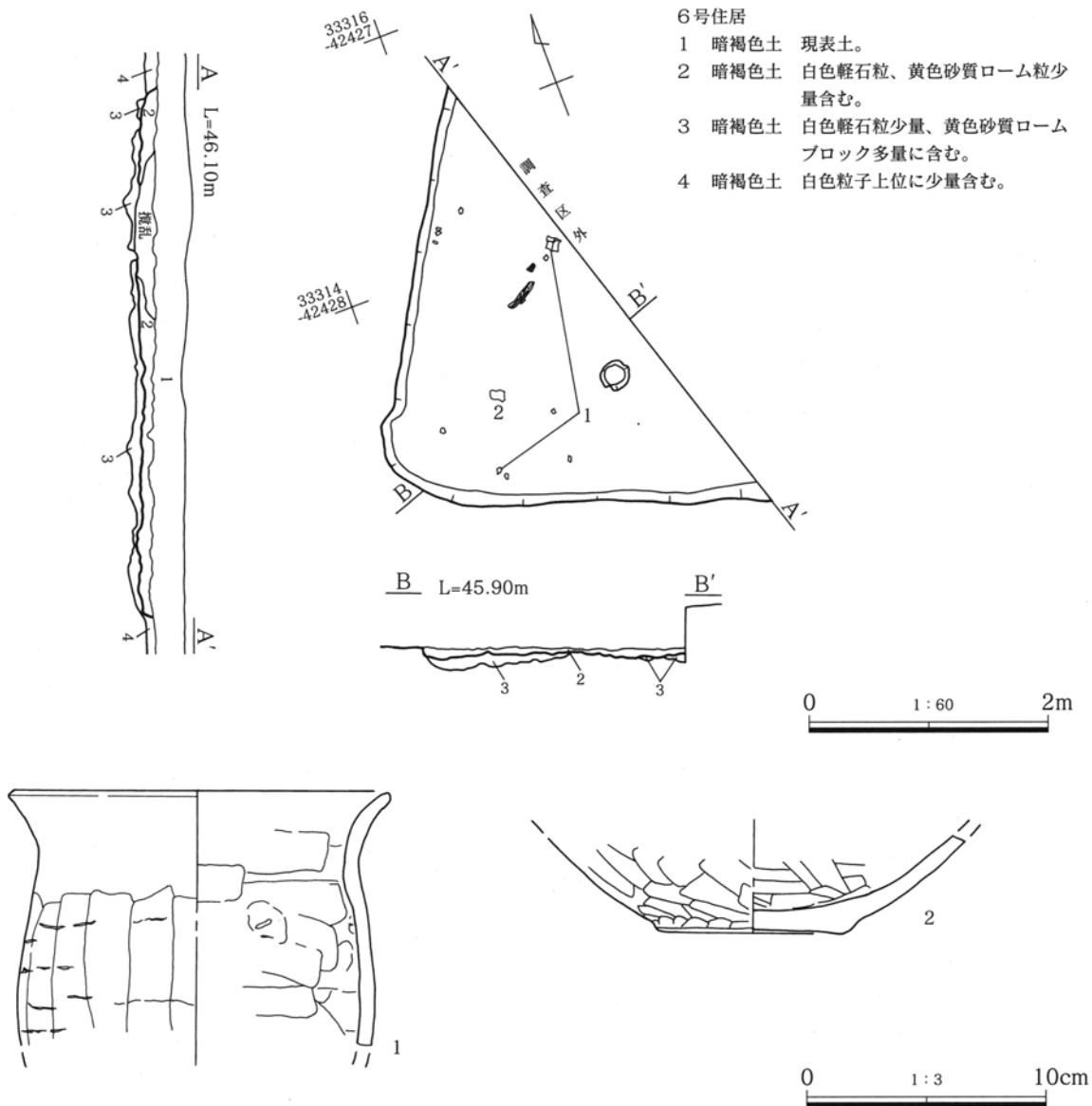
貯蔵穴 調査範囲では未確認。

周溝 調査範囲では未確認。

竈 調査範囲では未確認。

遺物 土師器坏、甕の破片を出土。

所見 本住居の時期は出土遺物から6世紀後半に比定される。



第19図 年保1区6号住居・出土遺物実測図

2. 古代の遺構・遺物

7号住居(図20、P L 5)

位置 1区X=33321~24, Y=-42429~30

重複 5号住。本住居が後出。

形態 住居の大部分が調査区外になり全形は確認できなかつた。遺構の残存状況も悪く、壁面セクションによって遺構範囲を推定した。

方位 計測不能。

規模 (1.60)m×(1.42)m

面積 調査区内で、1.34㎡

壁高 15cm

床面 掘り方面から6cmほど埋め土を施して平坦な面を造る。掘り方面は南西部が北側より3cm程窪んでいる。

柱穴 調査範囲では未確認。

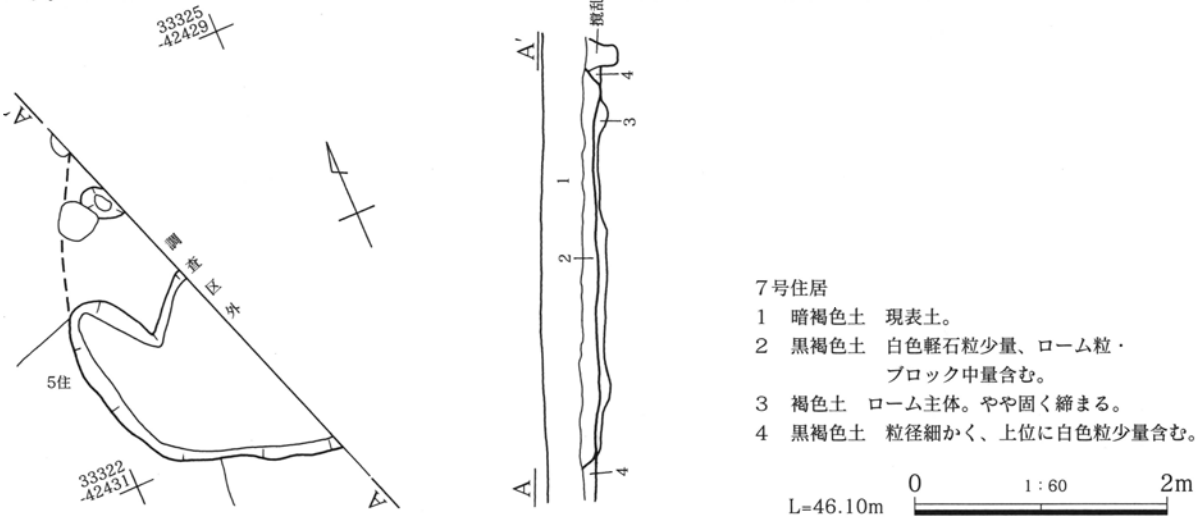
貯蔵穴 調査範囲では未確認。

周溝 調査範囲では未確認。

竈 調査範囲では未確認。

遺物 なし

所見 床面の存在から住居と判断したが、土坑状の落ち込みの可能性もある。遺物がなく時期不明。



7号住居

- 1 暗褐色土 現表土。
- 2 黒褐色土 白色軽石粒少量、ローム・ブロック中量含む。
- 3 褐色土 ローム主体。やや固く締まる。
- 4 黒褐色土 粒径細かく、上位に白色粒少量含む。

L=46.10m 0 1:60 2m

第20図 年保1区7号住居実測図

8号住居(図21、P L 5)

位置 2区X=33381~88, Y=-42478~82

重複 なし。

形態 住居の大半が調査区外になるため、全形は確認できなかつた。

方位 N-20° -W

規模 7.50m×(2.55)m

面積 調査区内で18.38㎡

壁高 一。遺構確認面で掘り方のみ検出。

床面 後世の削平を受けており残存しない。掘り方面には、北壁寄りに不正形の溝状の窪み、東壁寄りに円形の窪みがある。また、東壁から壁に直交する浅い溝状の掘り込み1条を確認した。床面から掘り込まれた間仕切り溝の可能性もある。

柱穴 掘り方面に11本のピットを検出した。位置、

形状などからP1とP2、P3とP4の2組の柱穴が想定される。掘り方面での規模は、P1径35cm深度38cm、P2径34cm深度16cmで、P3は径30cm深度27cm、P4は径36cm深度25cmを測る。立て替えによる拡張が行われた可能性が考えられる。

貯蔵穴 調査範囲では未確認。

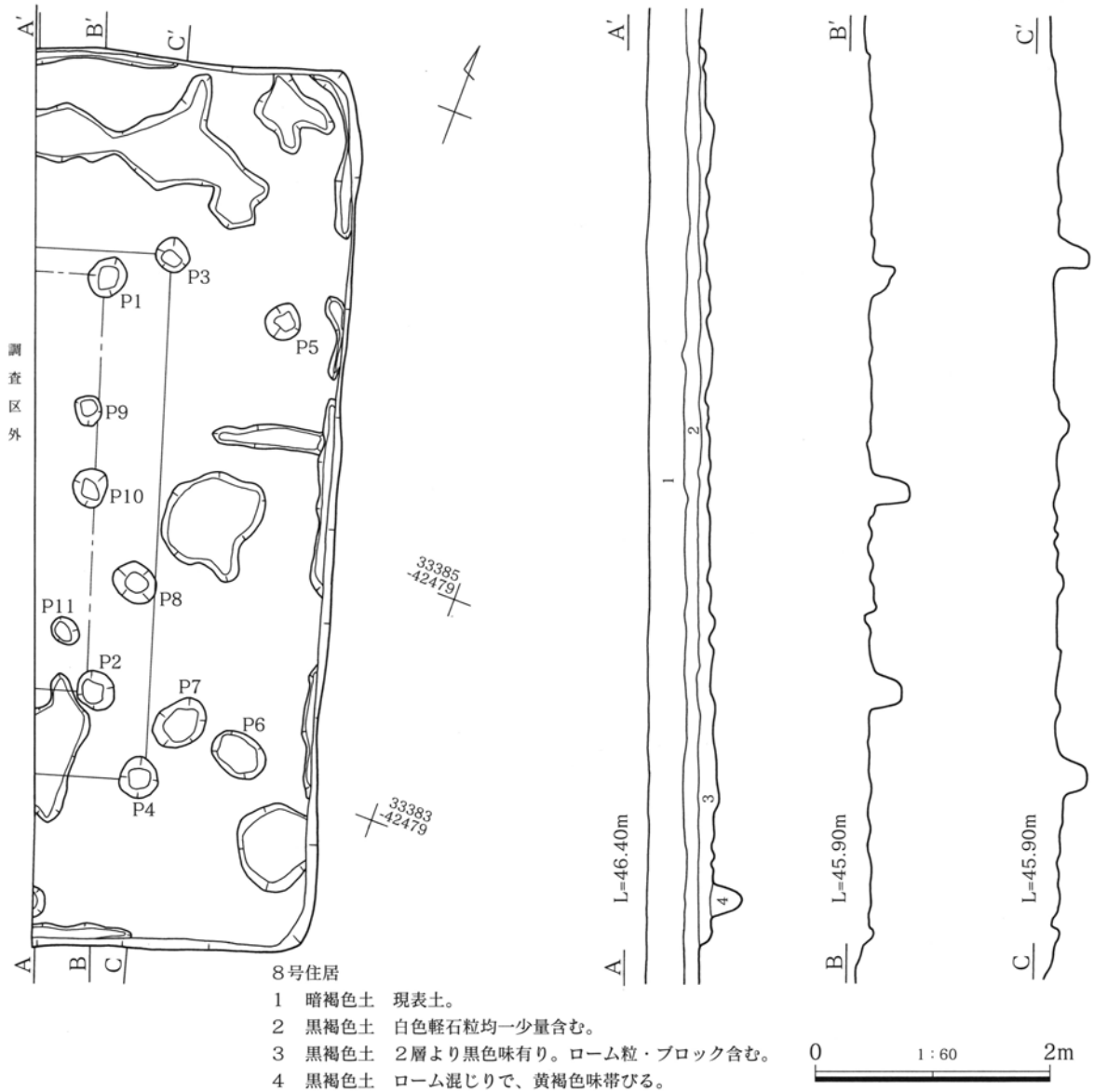
周溝 北、東、南壁と北東隅で、幅10~16cm深度8cm程の溝が確認された。溝の深度による残存条件の違いを考えると全周していた可能性もある。

竈 調査範囲では未確認。

遺物 掘り方より土師器坏・甕破片少量、須恵器小片1点、台付甕脚部1点が出土しているが小片のため図化出来なかつた。

所見 本住居の時期は掘り方出土土器の主体と住居形態から古墳時代後期に比定される。

IV 年保遺跡の遺構と遺物



第21図 年保2区8号住居実測図

9号住居(図22・23、P L 6・16)

位置 2区X=33381~87, Y=-42471~78

重複 なし

形態 ほぼ正方形

方位 N-22° -W

規模 5.62m×5.53m

面積 調査区内で29.4㎡

壁高 4cm

床面 中央部はローム面を踏み固め、柱穴外は掘り
 方面から6cm程の埋め土を施して、平坦な面を造る。
 床面直上を厚い所で4cm程の炭化物を含む焼土主体

層が広く覆っていた。掘り方は、四柱穴内をほぼ平
 らにし周囲を僅かに掘り窪める。また、西壁から壁
 に直交する浅い溝状の掘り込み2条を検出した。そ
 れぞれP4、P7に接している。床面から掘り込ま
 れた間仕切りの可能性がある。

柱穴 住居の対角線上にP1~P8を検出した。ピ
 ットの位置、形態からP1~P4、P5~P8の各4
 本を一組とする柱穴と考えられる。P2のセクシ
 ョンに柱痕が見られず、P6・P7のセクションに柱
 痕が確認され、P8に柱材の可能性のある木片が残
 存したことから、立て替えによる拡張が想定される。

貯蔵穴 住居の南東隅部に設置されている。掘り方で、長軸98cm、短軸72cm、深度52cmの楕円形を呈する。形状は床面直上を厚い所で4cm程の炭化物を含む焼土主体層が覆う深さの異なる2つの穴が重なった状態になっている。柱穴より住居が建て直されたと想定されることから、それに対応して貯蔵穴も掘り直された可能性がある。

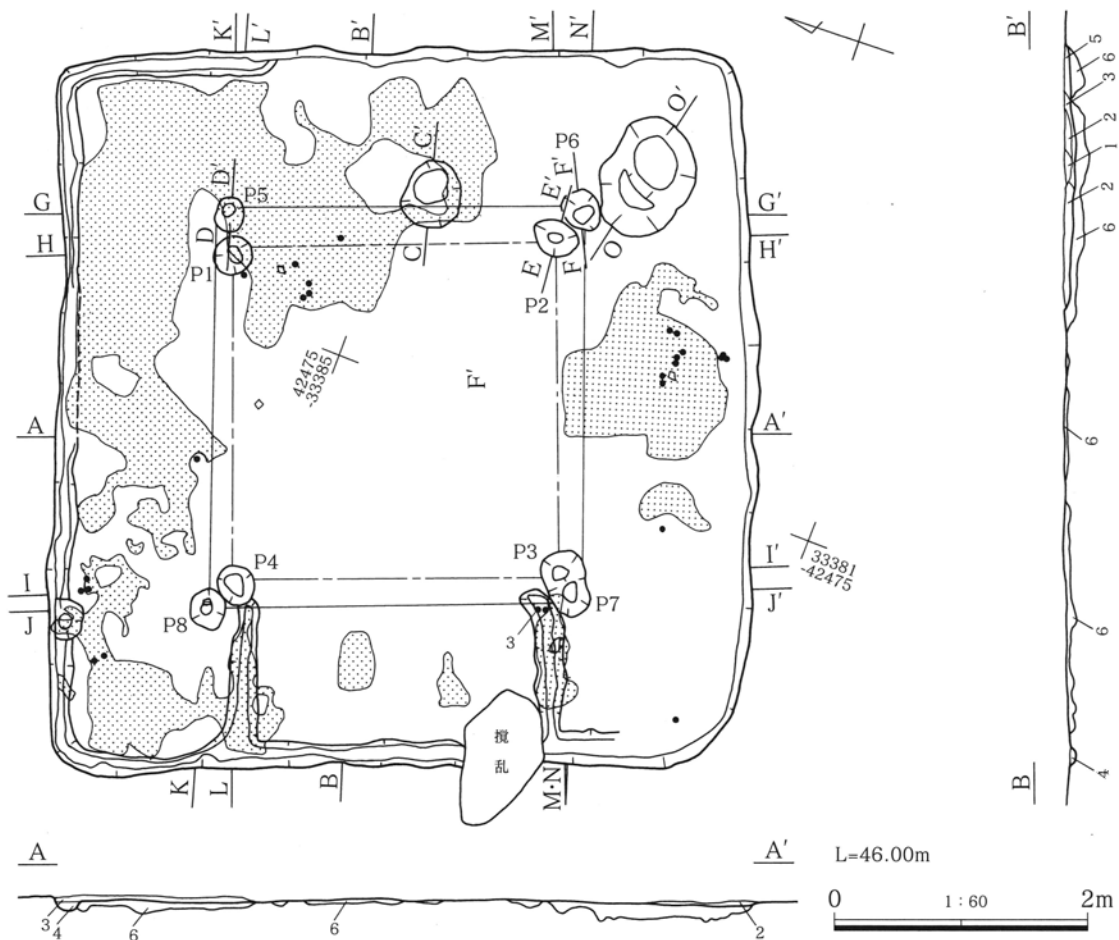
周溝 北東壁、北壁、西壁下で幅20cm深度10cm程の溝が確認された。

竈 東壁ほぼ中央に壁が僅かに突出する部分があ

り、貯蔵穴との位置関係、周溝の未周部分であること等から煙道跡と考えられる。屋内に焼土部をもつ形態のものと想定される。

遺物 土師器の坏・甕片類が主体で、須恵器小片2点も出土。P4からは柱材の可能性のある木片が出土している。自然科学分析を行っているので別項を参照してほしい。

所見 本住居の時期は住居の形態、掘り方遺物等から古墳時代後期に比定される。床面を覆う焼土の状態から焼失住居と考えられる。

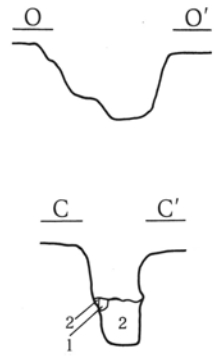
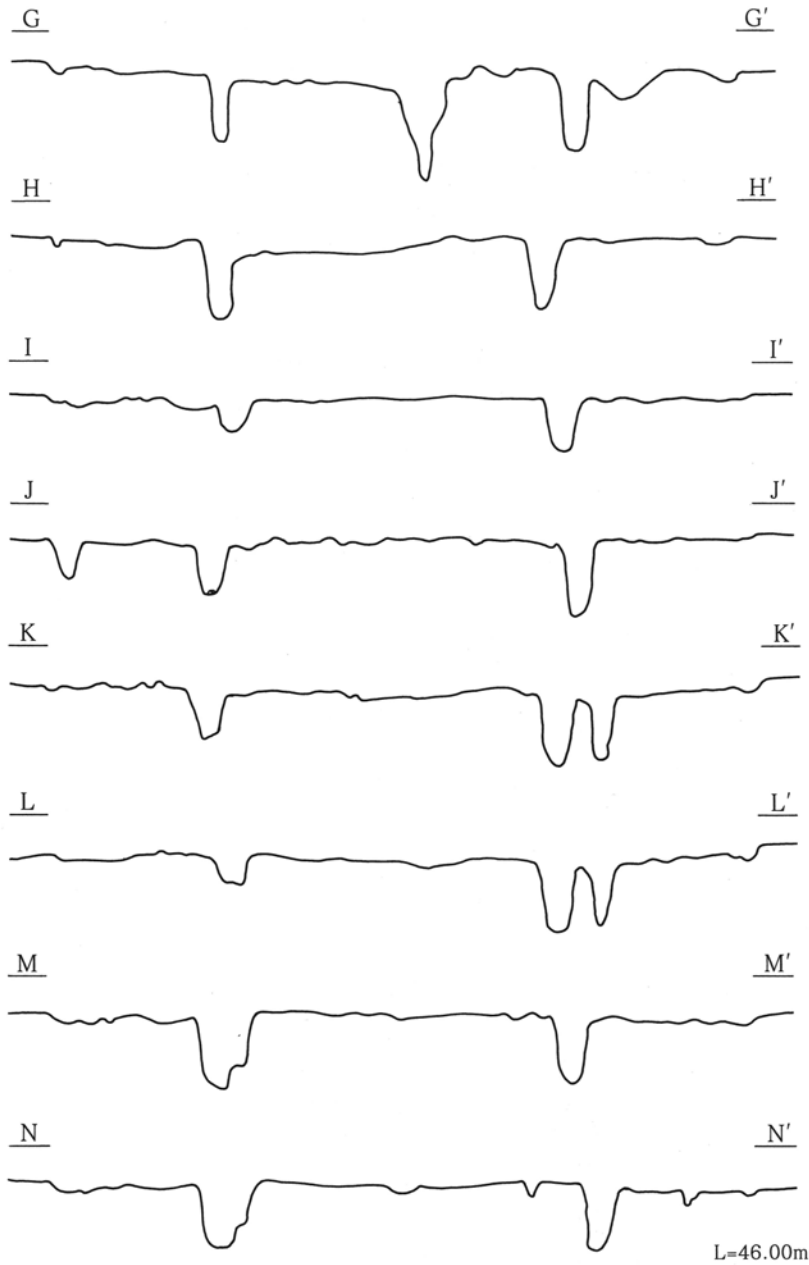


9号住居

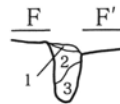
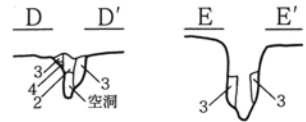
- | | |
|--|--------------------------------------|
| 1 灰黄褐色土 白色軽石粒少量含む。 | 4 黒褐色土 粒径細かい。ローム粒、炭化物粒少量含む。 |
| 2 黒褐色土 灰黄褐色土粒・ブロック、ローム粒、炭化物、焼土粒、白色軽石粒少量含む。 | 5 黒褐色土 粒径細かい。ローム粒少量、白色軽石粒、炭化物粒極少量含む。 |
| 3 赤褐色土 焼土主体。下部に炭層。 | 6 黒褐色土 ロームとの混土。やや黄褐色味帯びる。 |

第22図 年保2区9号住居実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物

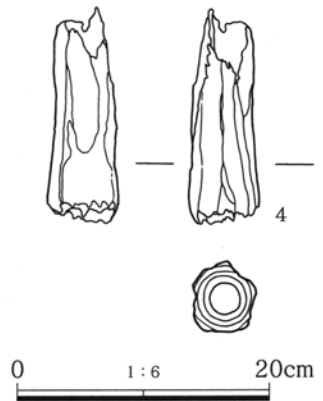
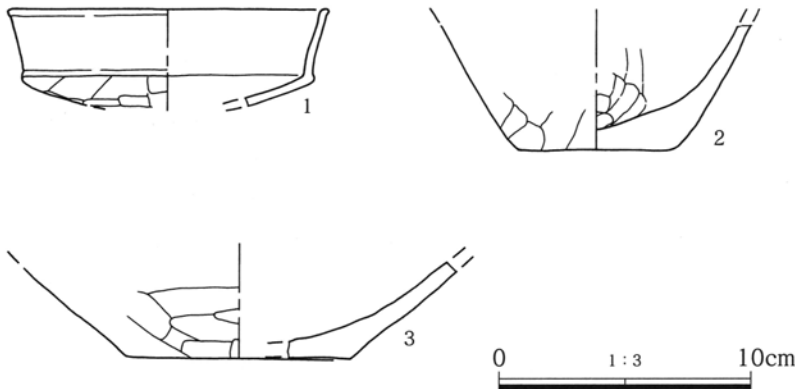
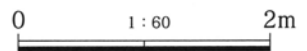


9号住居 1土坑
 1 赤褐色土 砂質で脆い。
 2 黒褐色土 粘性有り。
 ローム粒少量含む。



土坑・貯蔵穴・Pit
 L=45.80m

9号住居 柱穴1・2・6
 1 黒褐色土 白色軽石粒・炭化物
 少量含む。
 2 黒褐色土 粒径細かい。ローム粒、
 炭化物粒少量含む。
 3 オリーブ褐色土 ローム主体。
 黒褐色土が混じる。
 4 オリーブ褐色土 極少量の
 黒褐色土混じる。



第23図 年保2区9号住居・出土遺物実測図

10号住居(図24、P L 6)

位置 3区X=33399~403, Y=-42468~71

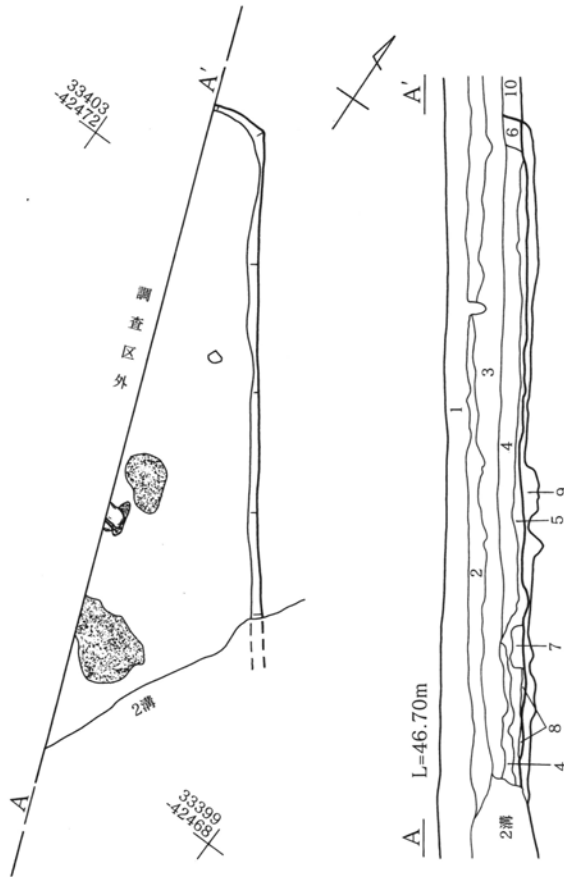
重複 2号溝。近現代の2号溝に南辺を掘り壊されている。

形態 住居の大部分が調査区外になるため全形は確認できなかった。北東壁部分のみ検出した。

方位 計測不能

規模 (5.23)m×(1.90)m

面積 調査区内で4.04㎡



第24図 年保3区10号住居実測図

11号住居(図25~27、P L 6・7・16)

位置 3区X=33403~08, Y=-42461~66

重複 2号溝。近現代の2号溝に北西部分を掘り壊されている。

形態 ほぼ正方形

方位 N-50° -W

規模 3.58m×4.05m

面積 調査区内で13.80㎡

壁高 5cm

壁高 15cm

床面 掘り方面から6~10cmほど埋め土を施して平坦な面を造る。住居南東部寄りの床面上に、粘土塊が2カ所が検出された。

柱穴 調査範囲では未確認。

貯蔵穴 調査範囲では未確認。

周溝 調査範囲では未確認。

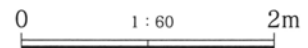
竈 調査範囲では未確認。

遺物 土師器坏・甕片を出土。小片のため図化できるものはなかったが、模倣坏口縁、胴部に丸味をもつ甕、厚味のある甕口縁などがある。

所見 本住居の時期は出土遺物から6世紀代に比定される。

10号住居

- 1 暗褐色土 現表土。
- 2 暗褐色土 白色軽石粒均一に、礫極少量含む。
- 3 黒褐色土 やや粘性有り。白色軽石粒均一に、黒褐色粘質土・ブロック含む。
- 4 黒褐色土 鉄分沈着。
- 5 黒褐色土 やや粘性有り。ローム粒少量含む。焼土粒、炭化物(層状)北側に認められる。
- 6 黒褐色土 やや黒味強い。
- 7 黒褐色土 粘土ブロック。粘性有り。白色粒均一に含む。
- 8 黒色土 炭含む。
- 9 黒褐色土 ローム混じり。白色粒少量含む。
- 10 黒褐色土 住居形成時の地山。やや粘性有り。白色軽石粒ほとんど含まない。



床面 掘り方面から10cmほど埋め土を施して平坦な面を造る。掘り方面はほぼ平坦である。

柱穴 住居のほぼ対角線上に並ぶピット4本を検出した。長径26cm深度34cm程のほぼ同規模の掘り方をもつ。

貯蔵穴 住居の東隅に設置され、長軸70cm、短軸60cm、深度約25cmで、平面形は隅丸方形を呈する。

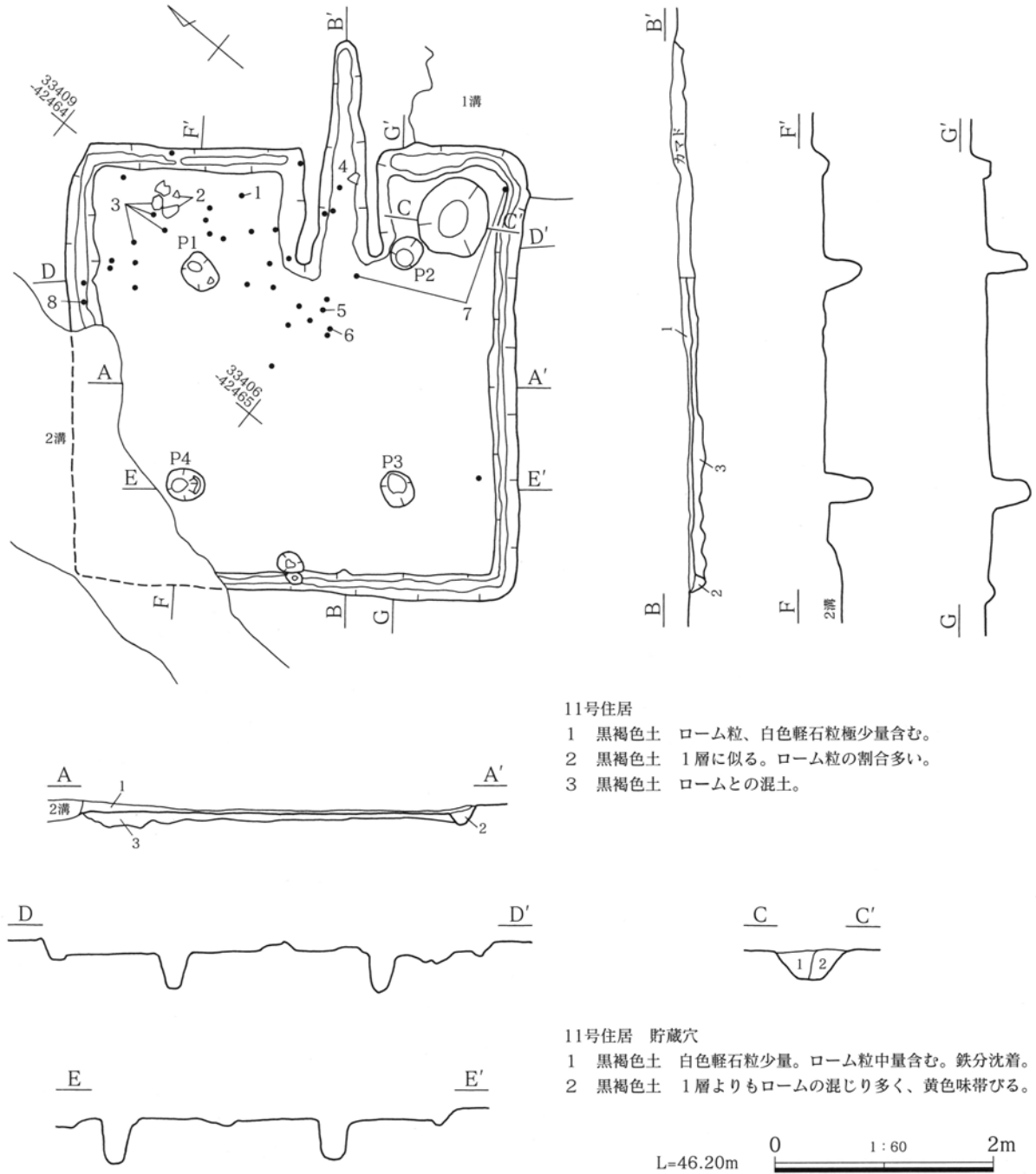
周溝 幅20cm、深度10cm程で、竈部分を除き全周するものと思われる。

IV 年保遺跡の遺構と遺物

竈 北東壁やや南寄りに構築されている。全長210cm、幅110cm。屋内に燃烧部をもち、壁の立ち上がりには合わせる位置で緩やかに煙道部へ移行している。灰黄色粘質土を主体に袖を造っており、天井部の崩落と思われる部分にも袖と同様の粘質土を検出した。

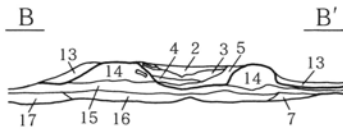
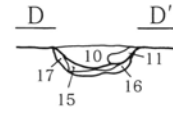
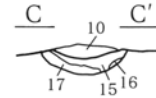
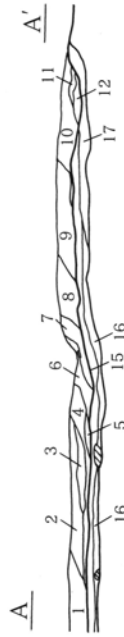
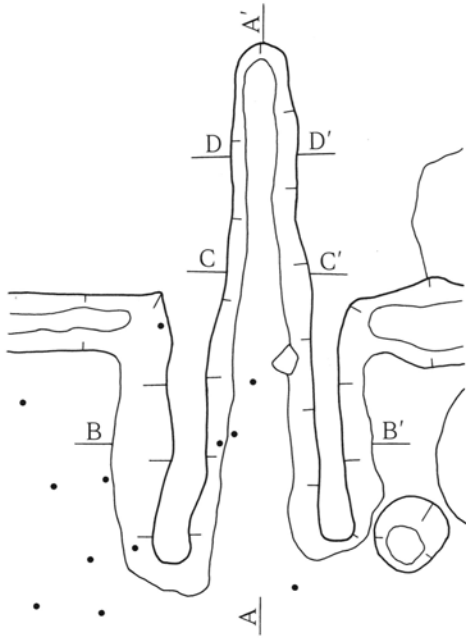
遺物 竈前から住居北東部の壁際方向に遺物の混入が多く、土師器坏・甕片を出土。坏2・3は床直遺物と判断される。

所見 本住居の時期は出土遺物から6世紀に比定される。



第25図 年保3区11号住居実測図

2. 古代の遺構・遺物

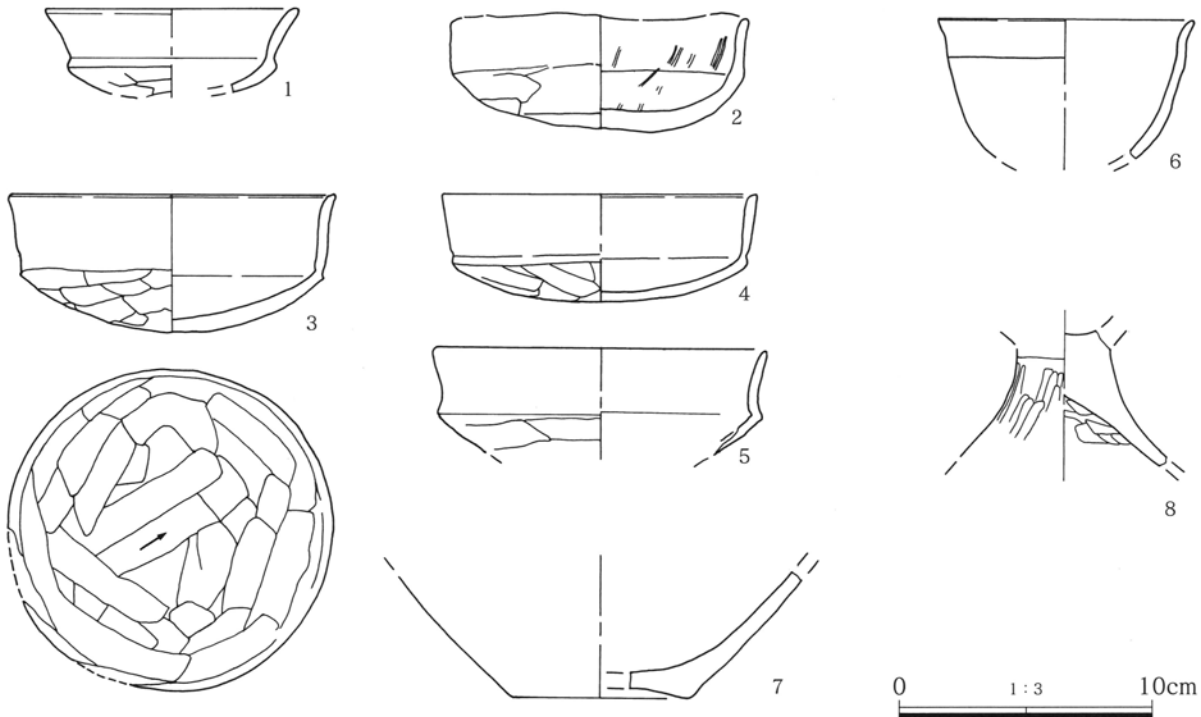


11号住居 カマド

- 1 黒褐色土 灰黄褐色土混じる。
- 2 灰黄褐色土 焼土粒・ブロック含む。
- 3 黒色土 炭、焼土混主体層。
- 4 黒褐色土 焼土粒多量、灰黄褐色土粒含む。
- 5 暗赤褐色土 焼土主体。炭が混じる。
- 6 黒褐色土 砂質。
- 7 黒褐色土 灰黄褐色土、白色粒均一に含む。
- 8 灰黄褐色土 熱を受け赤味帯びる。
- 9 暗褐色土
- 10 黒褐色土 灰黄褐色土粒・ブロック含む。
- 11 暗赤褐色土 焼土含む。
- 12 灰黄褐色土
- 13 黒褐色土 焼土粒、炭が混じる。
- 14 灰黄褐色土 袖構築土。
- 15 黒褐色土 ローム粒中量、白色粒極少量含む。
- 16 暗褐色土 ローム粒・ブロック含む。
- 17 黄褐色土 ロームと黒褐色土の混土。

L=46.20m 0 1:30 1m

第26図 年保3区11号住居竈実測図



第27図 年保3区11号住居出土遺物実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物

12号住居(図28・29、PL7・8・16)

位置 3区X=33408~14, Y=-42461~64

重複 13号住、17号址、1号溝。埋土の観察により17号住は12号住より前出であり、1号溝は12号住より後出である。12号住内炭化物層の分布範囲等から12号住は13号住より後出である。

形態 住居の半分ほどが調査区外に伸びるため全形は不明。

方位 N-12° -W

規模 5.87m×(3.24)m

面積 調査区内で13.48㎡ 壁高 5cm

床面 5cm程埋め土をして平坦な面を造っている。

柱穴 住居の対角線上と想定される位置に2本検出した。掘り方面での規模はP1直径38cm深度47cm

P2直径29cm深度44cmを測る。微高地上の住居でありながら、2本のピット内中央それぞれに木材が残存していた。木片は半乾燥状態でやや細いが出土状態から柱材の可能性も考えられる。9号住居出土木材と共に科学分析を行っているので別項を参照。

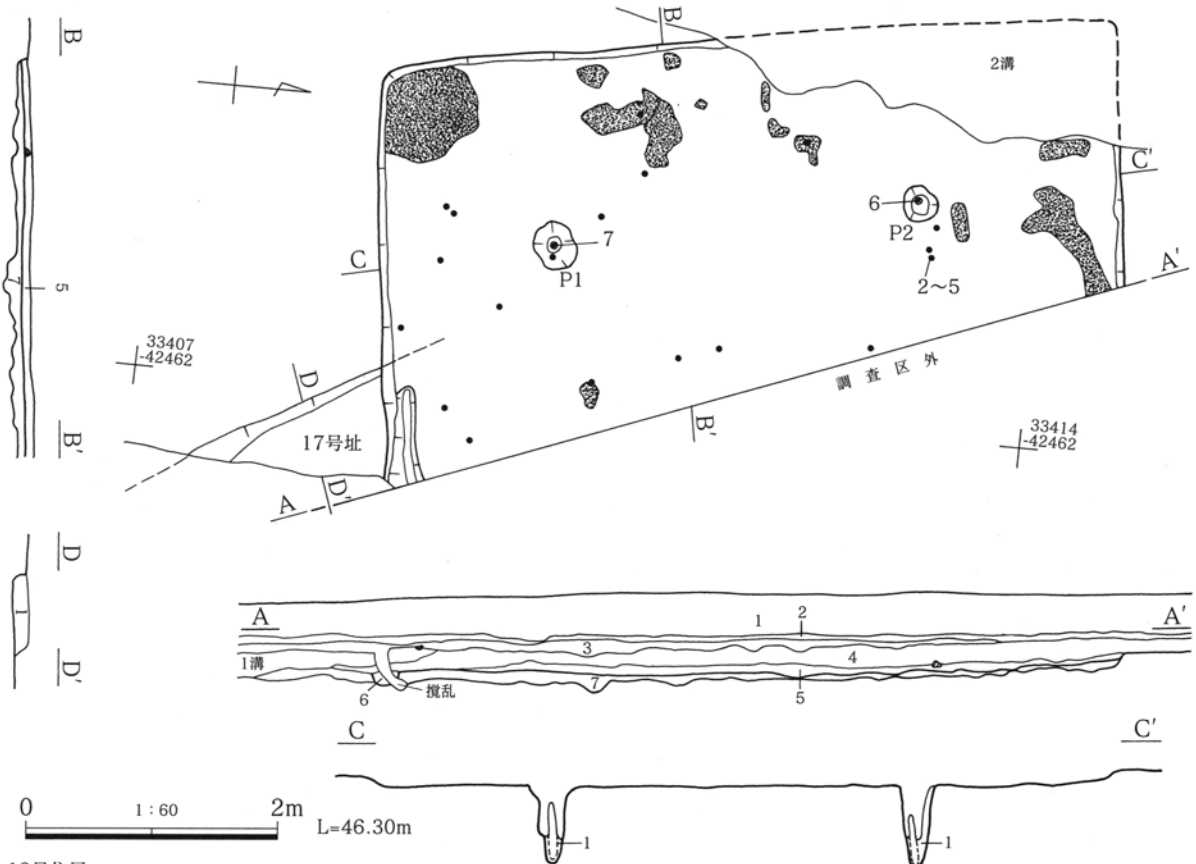
貯蔵穴 調査範囲内では未確認。

周溝 南壁中央部下のみで幅16cm深度5cmの溝を確認。

竈 調査範囲内では未確認。

遺物 床面直上で、白玉を検出。土師器の坏・甕小破片が出土している。

所見 本住居の時期は出土遺物から6世紀に比定される。



12号住居

- 1 褐色土 現表土。
- 2 褐色土 鉄分沈着で赤褐色味帯びる。白色粒やや多く含む。
- 3 暗褐色土 やや砂質。鉄分沈着。白色粒含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、白色軽石粒少量含む。
- 5 黒褐色土 4層より黒味帯びる。ローム粒極少量含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒・ブロックわずかに含む。
- 7 黒褐色土 ローム粒・ブロックやや多く、白色軽石粒均一に含む。

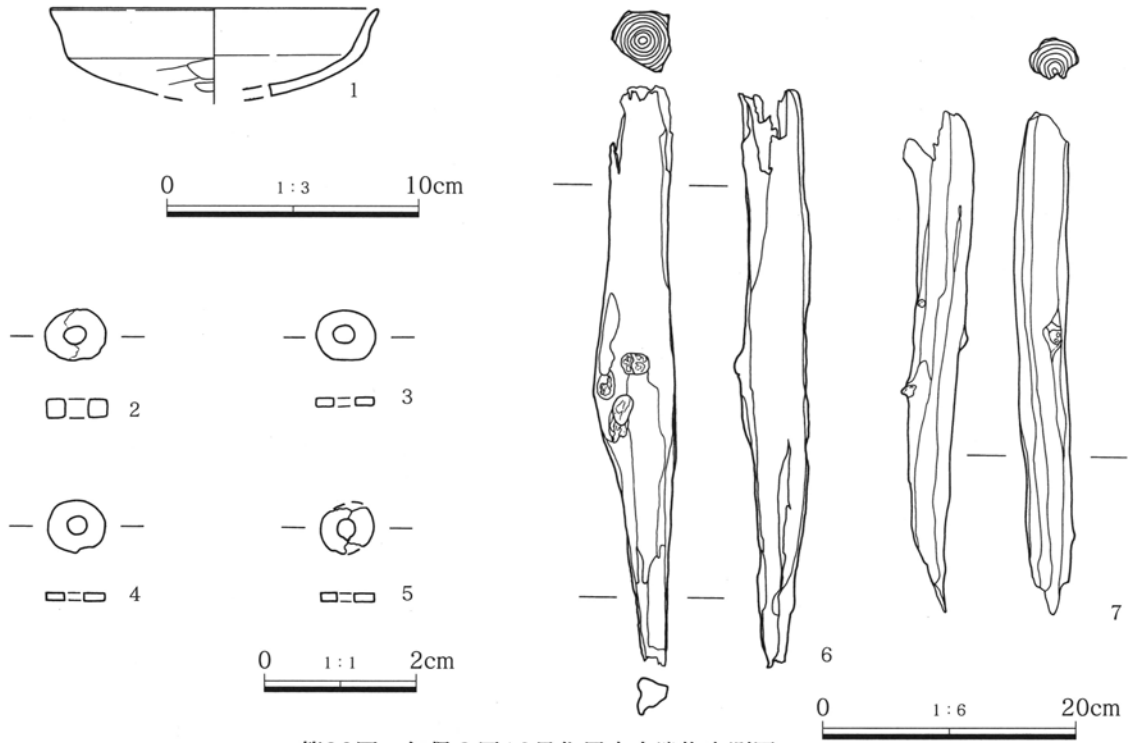
12号住居 ピット

- 1 暗褐色土 ローム粒・ブロックやや多く含む。ブロック状に固まり脆い。

17号址

- 1 黒褐色土 ローム粒・ブロックやや多く、白色軽石粒均一に含む。

第28図 年保3区12号住居・17号址実測図



第29図 年保3区12号住居出土遺物実測図

17号址(図28、P L 10)

位置 3区X=33407~08, Y=-42461~62

重複 12号住、1号溝。埋土の観察により12号住、1号溝より前出である。

形態 住居の大半は調査区外に伸びる上、他の遺構に削平されるため、全形は不明。

方位 計測不能

規模 (1.70)m×(0.80)m

面積 調査区内0.56㎡

壁高 ー。遺構確認面で掘り方のみ検出。

床面 後世の削平を受け、掘り方面のみ検出。掘り方埋土が最大13cmほど残存。

周溝 調査範囲内では未確認。

柱穴 調査範囲内では未確認。

貯蔵穴 調査範囲内では未確認。

竈 調査範囲内では未確認。

遺物 出土遺物なし。

所見 残存部分が少なく土坑の可能性も考えられる。遺物がなく時期不明。

13号住居(図30、P L 8)

位置 3区X=33407~14, Y=-42466~69

重複 2溝、12住、14土坑。覆土の観察により13住より2溝、14土坑が後出である。12住の床面に広がる炭化物の範囲から13住は12住より前出である。

形態 柱穴位置から、ほぼ正方形を呈すると想定される。

方位 N-44° -W

規模 (3.87)m×(3.30)m

面積 調査区内で10.78㎡ 壁高 7cm

床面 掘り方面から厚さ8cmほどの埋め土を施して平坦な面を造る。中央部はロームを固めて張り床状に造っている。掘り方面はほぼ平坦である。

周溝 北西壁、南西壁下で幅12~18cm、深度4cm程の溝を確認。

柱穴 床面では確認できなかったが、掘り方面調査時に住居のほぼ対角線上に床面から掘り込まれたピット3本を確認した。北隅では2号溝で削られたためかピットは確認できなかった。規模は掘り方確認面でP1直径40cm深度29cm、P2直径30cm深度

IV 年保遺跡の遺構と遺物

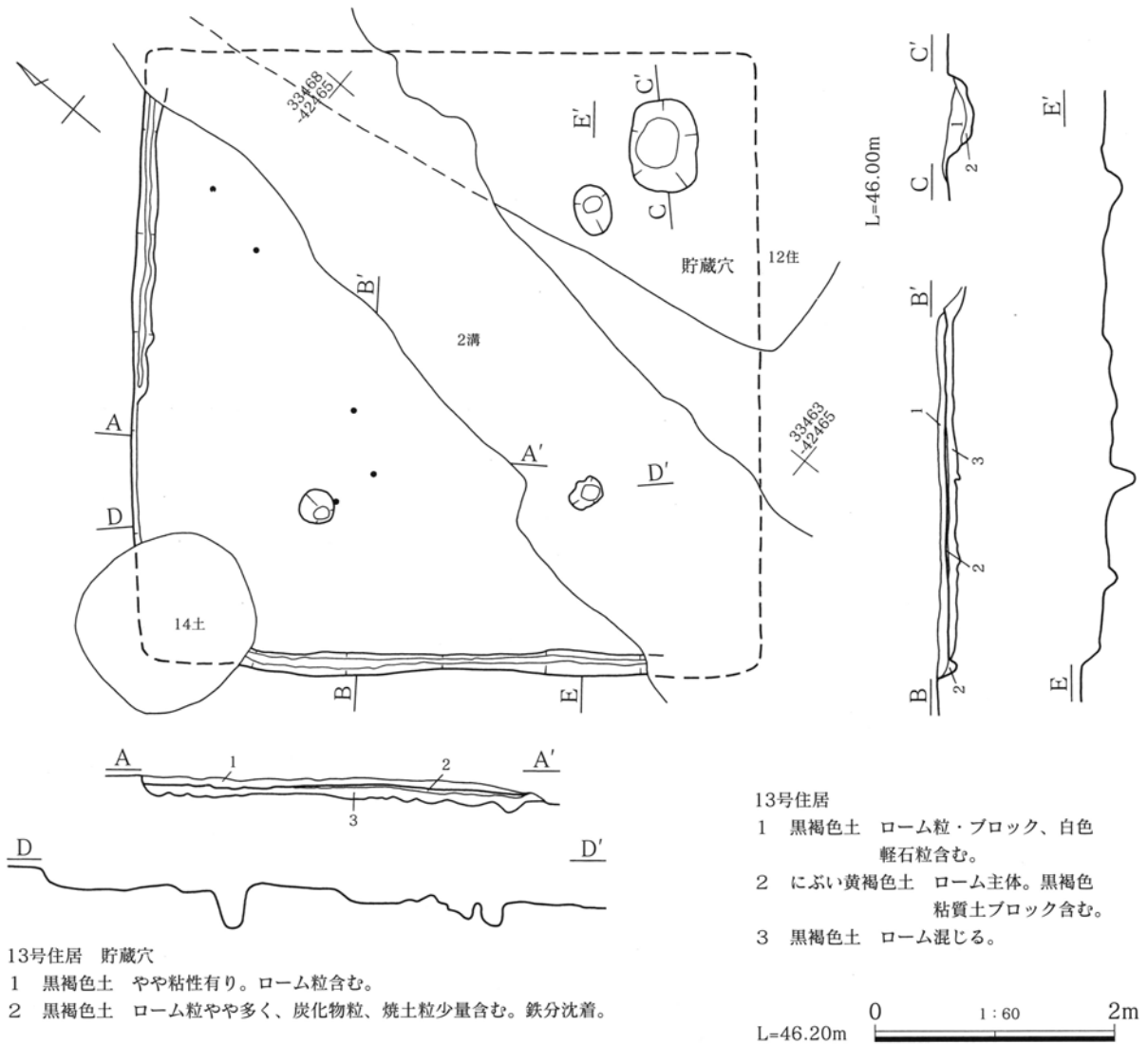
34cm、P 3直径30深度39cmを測る。

貯蔵穴 掘り方面調査時に東隅で確認。長軸76cm
短軸56cm深度約24cmで、平面形は隅丸長方形を呈
する。

竈 確認できなかったが、貯蔵穴の位置、周溝の状
況等から東壁に設置されていた可能性が高い。

遺物 土師器の坏、甕の小破片が少量あるが、凶化
出来るものはない。坏片は模倣坏片3片と内斜口縁
坏片2片が混在し、12住より古い傾向が見られる。
前期甕片1点含む。

所見 本住居の時期は重複関係、出土遺物から5世
紀末から6世紀に比定される。



第30図 年保3区13号住居実測図

14号住居(図31~37、P L 8・9・16~18)

位置 3区X=33413~19, Y=-42469~75

重複 3号掘立、22号土坑。22号土坑に掘り壊さ
れる。覆土が近似しており、3号掘立との新旧関係
は不明。

形態 ほぼ正方形を呈する。

方位 N-25° -W

規模 4.94m×4.75m

面積 調査区内で22.38㎡

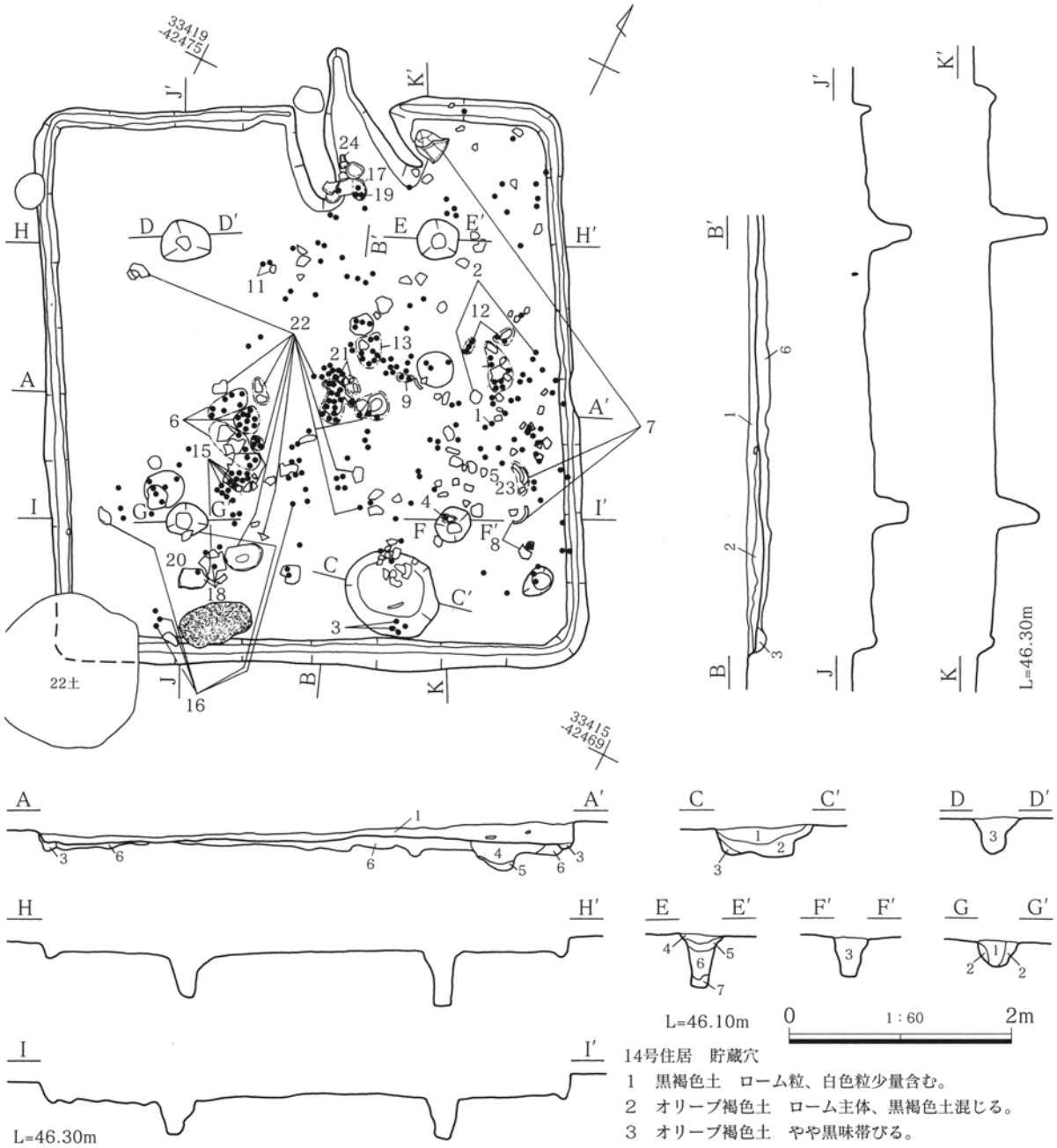
壁高 10~20cmで東側程厚く残存。

床面 掘り方面から厚さ5~10cm程の埋め土を施
して平坦な面を造る。南西壁下やや西寄りに長径

64cm短径36cmの粘土塊をほぼ床面直上で検出。掘り方面はほぼ平坦である。南東壁下ほぼ中央に位置する長径90cm、短径60cm、深度20cm程の楕円形の

土坑は埋土より床下土坑と想定される。

周溝 竈部分を除き全周する、幅20cm深度5cmほどの溝を確認。



14号住居

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色軽石粒、炭化物粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロック含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒・ブロック均一、焼土粒、炭化物粒少量含む。
- 5 黄褐色土 ローム主体で、黒褐色土少量混じる。
- 6 黄褐色土 やや固く締まる。ロームと黒褐色土の混土。

14号住居 貯蔵穴

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。
- 2 オリーブ褐色土 ローム主体、黒褐色土混じる。
- 3 オリーブ褐色土 やや黒味帯びる。

14号住居 ビット1・2・3・4

- 1 黒褐色土 砂質ローム混じる。礫含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ロームと黒褐色土の混土。礫含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒・ブロックやや多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、白色粒子、炭化物粒少量含む。
- 5 暗褐色土 ローム混じる。
- 6 褐色土 5層に似るが、ロームの割合多い。
- 7 暗オリーブ褐色土 ローム主体。軟らかい。

第31図 年保3区14号住居実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物

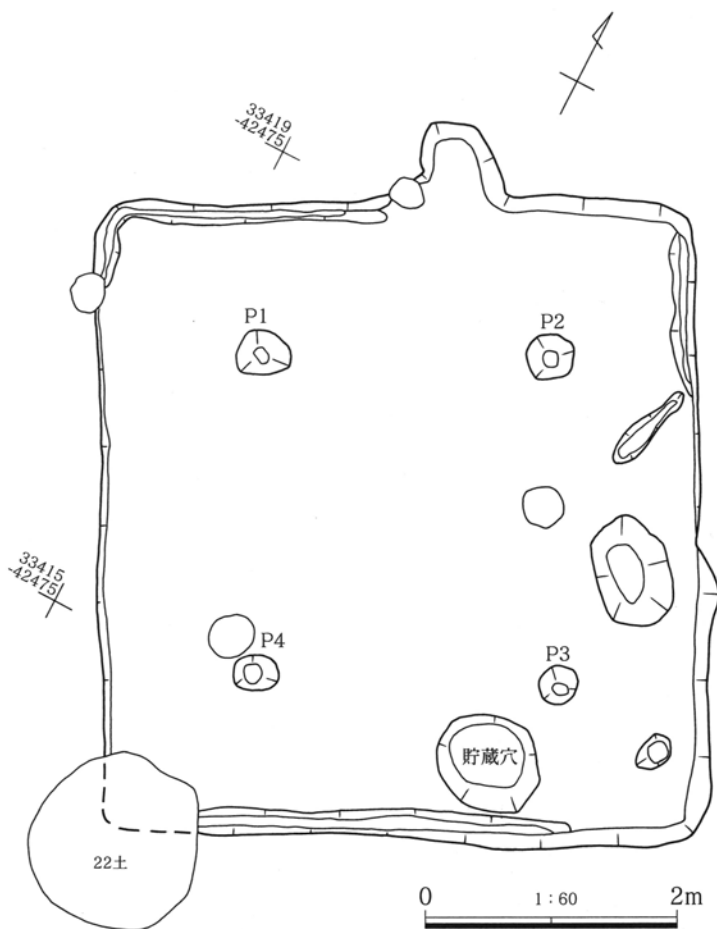
柱穴 住居のほぼ対角線上に4本検出した。直径38cm深度22~50cm程の規模で、平面形はほぼ均一だが深度にやや差がある。

貯蔵穴 住居の南西壁下やや南寄りに設置され、長軸86cm短軸76cmの隅丸方形を呈する。

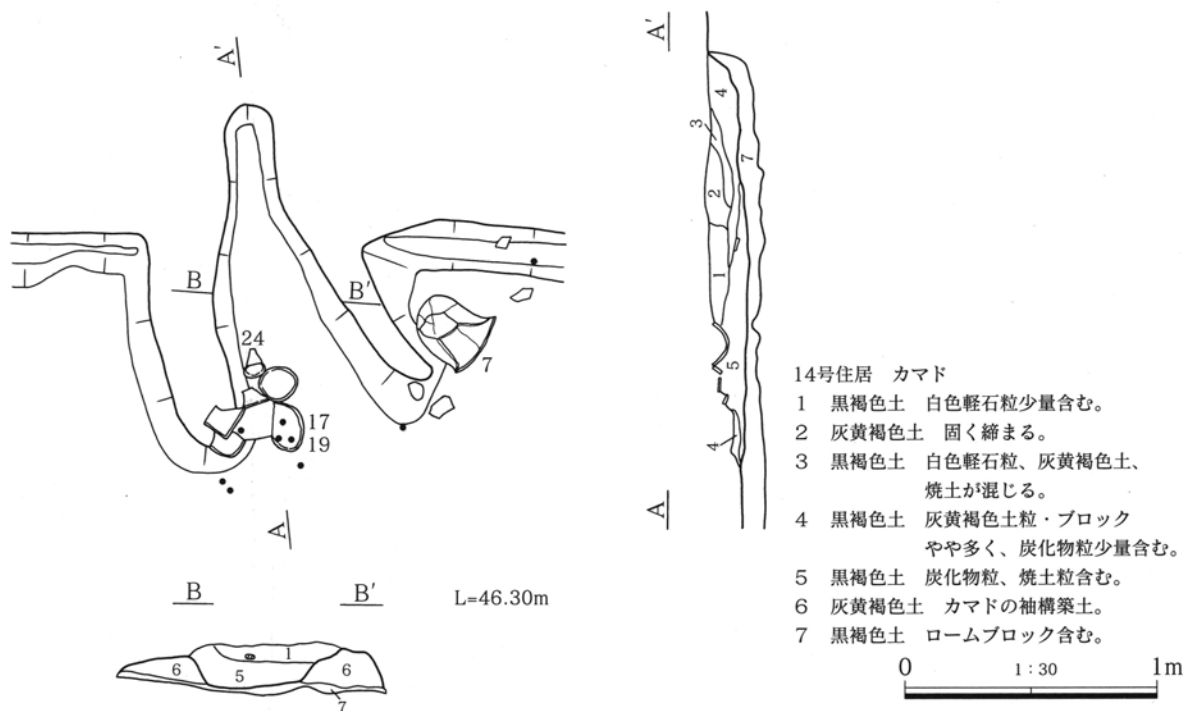
竈 北東壁やや東寄りに構築されている。全長143cm幅118cm。屋内に燃烧部が張り出した形状で灰黄褐色粘質土を主体として袖を構築している。燃烧部のやや左袖よりに土製の支脚が残存。

遺物 住居中央部から東半を中心に土師器破片が多量に出土。坏・甕・甔・壺が復元されている。小破片となるものが多く僅かに埋土を挟んで小石と混在している。破片は土師器のみで甕類が多く、坏片が少ない特徴がある。竈周辺のは住居に伴う可能性が高い。

所見 本住居の時期は出土遺物より6世紀前半に比定される。



第32図 年保3区14号住居掘り方実測図



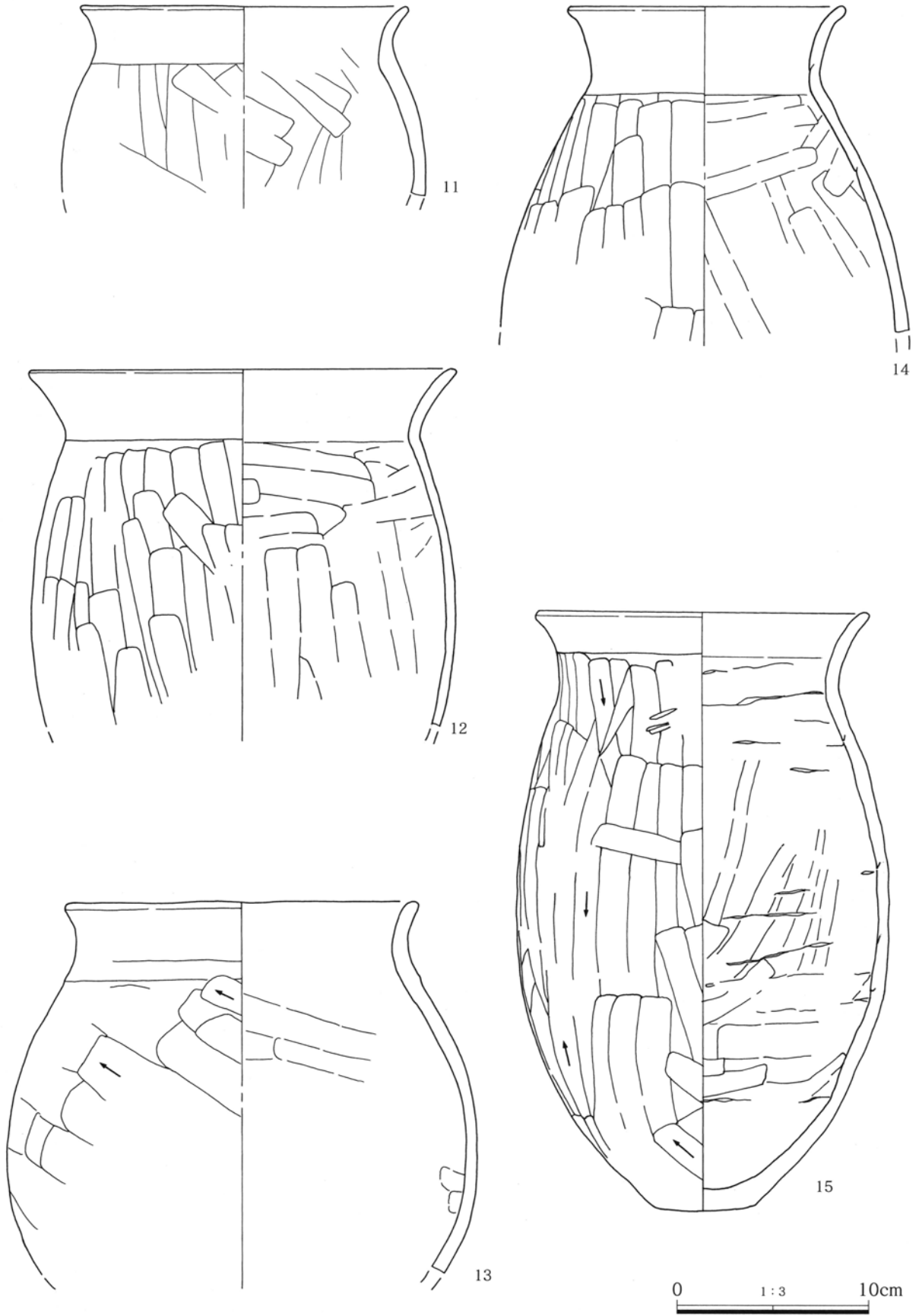
第33図 年保3区14号住居竈実測図

2. 古代の遺構・遺物

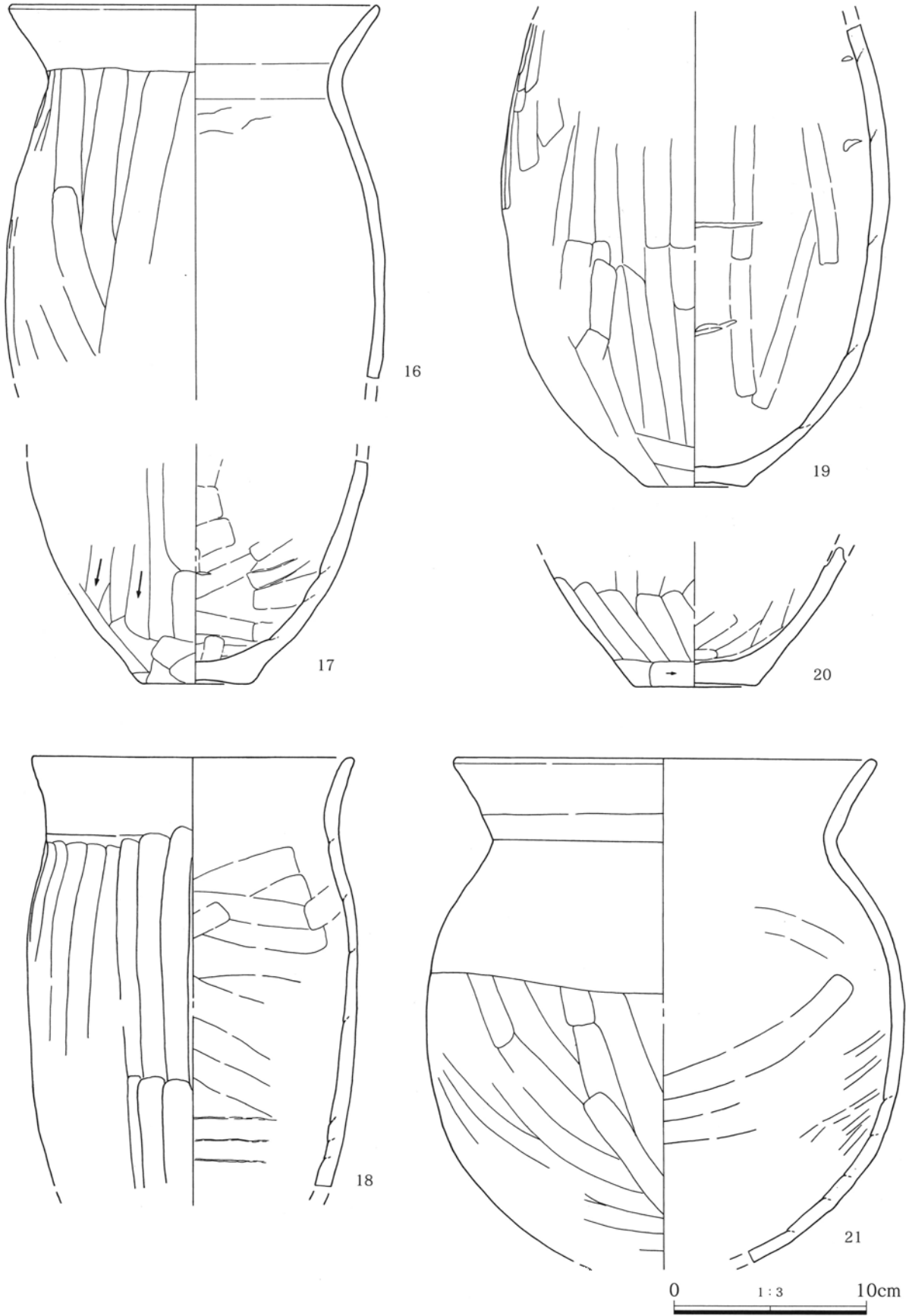


第34図 年保3区14号住居出土遺物実測図(1)

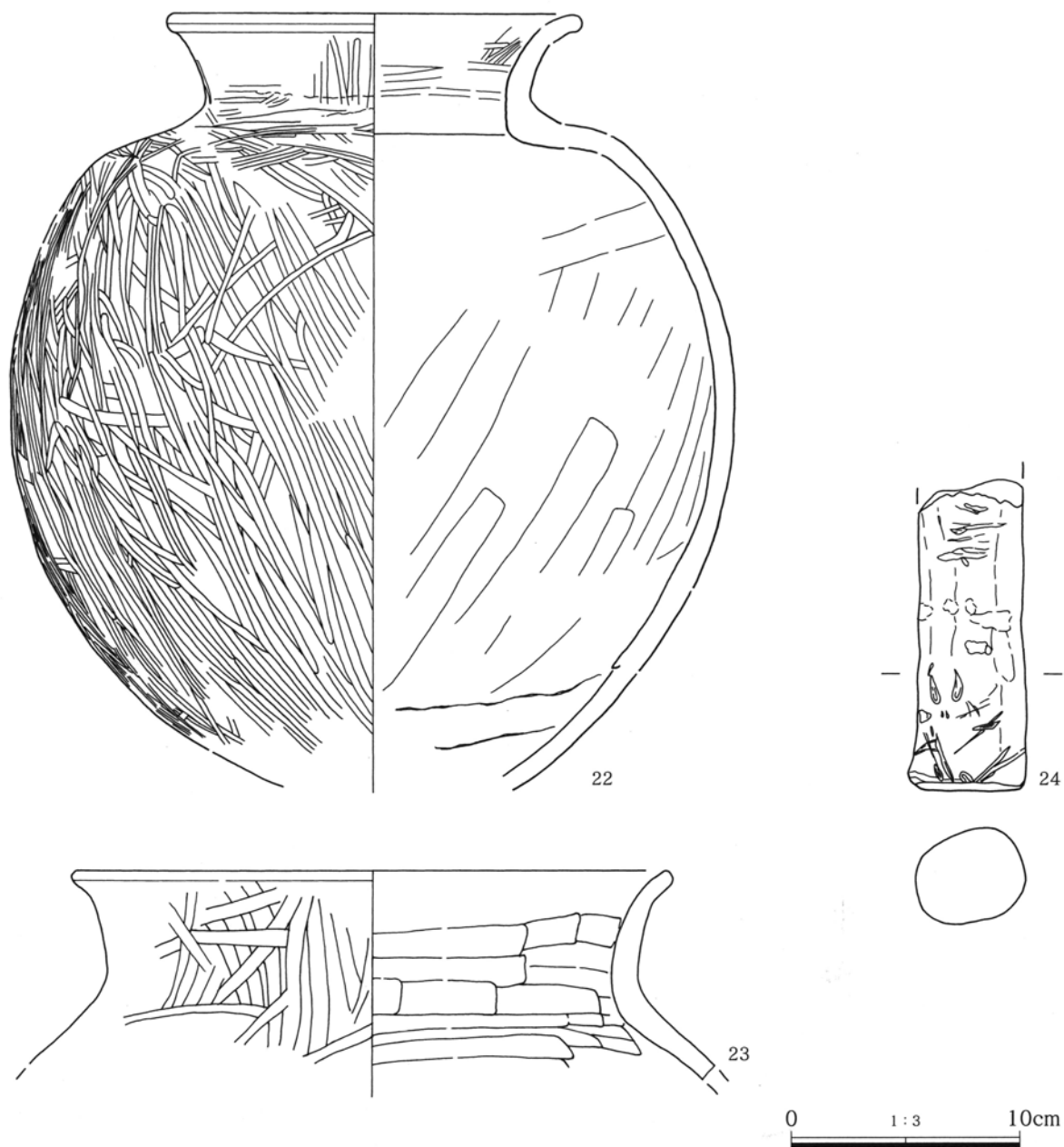
IV 年保遺跡の遺構と遺物



第35図 年保3区14号住居出土遺物実測図(2)



第36図 年保3区14号住居出土遺物実測図(3)



第37図 年保3区14号住居出土遺物実測図(4)

15号住居(図38、P L 9・18)

位置 3区X=33416~20, Y=-42465~67

重複 16号住、2号溝。断面の観察より16号住より15号住が後出である。近現代の2号溝に南東部分を掘り壊されている。

形態 住居の大半が調査区外になるため全形は確認できなかった。

方位 N-26° -W

規模 (3.95)m×(1.55)m

面積 調査区内で4.81㎡

壁高 18cm

床面 掘り方面から厚さ6cmほどの埋め土を施して平坦な面を造る。掘り方面は細かな凹凸を僅かに残すが、やや平坦である。

周溝 西壁下で、幅10~20cm深さ5~10cmの部分的に途切れる溝を確認した。

柱穴 住居の対角線と想定される位置に2本確認した。規模は掘り方上面でP 1長径50cm深度30cm P

2. 古代の遺構・遺物

2長径28cm深度24cmほどである。

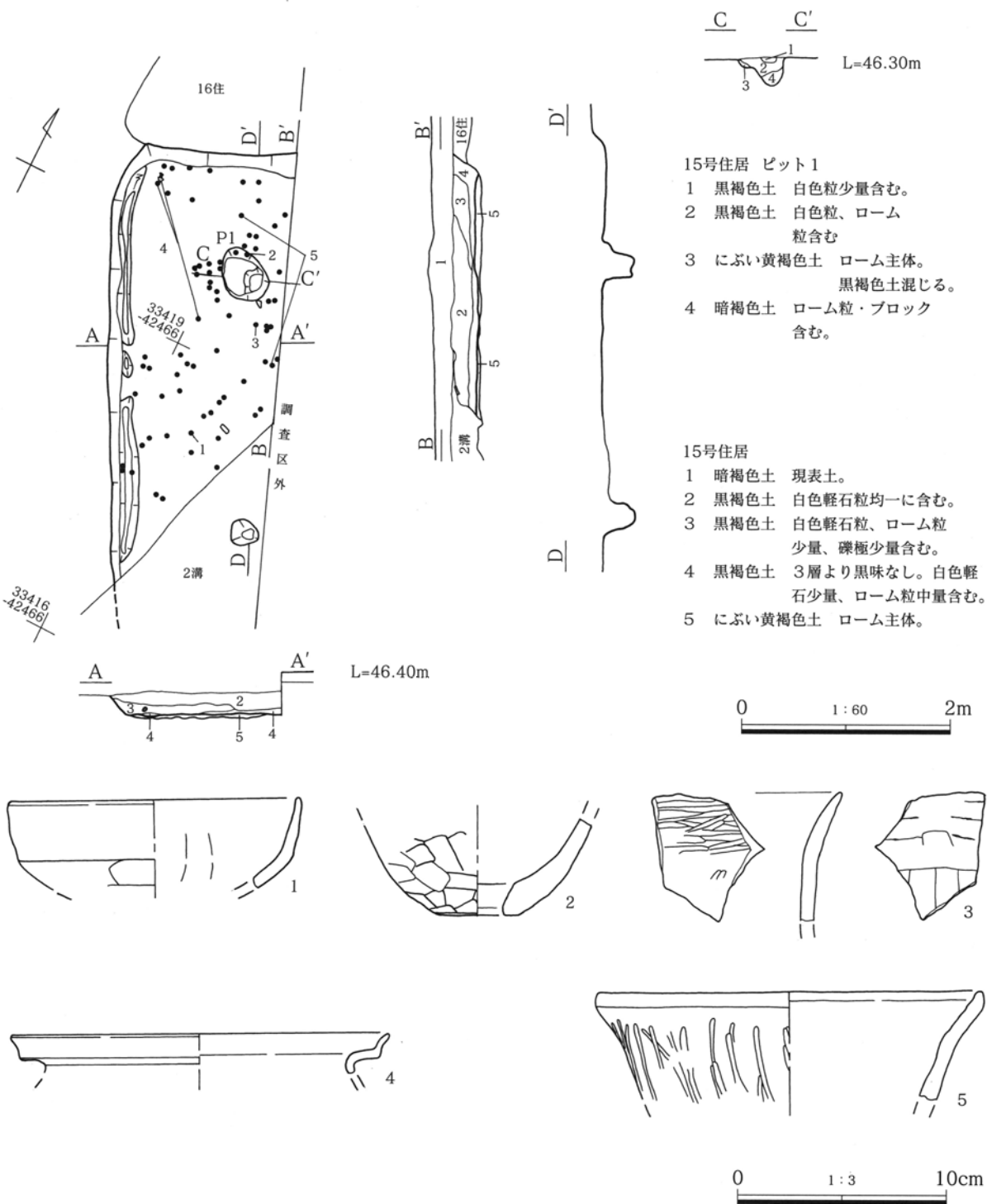
貯蔵穴 調査範囲内では未確認。

竈 調査範囲内では未確認。

遺物 摩滅した土師器坏、甕の小破片が多い。坏口縁片は模倣坏14片、内斜口縁1片で丸胴甕底部1

個体などを含む。6世紀代のものが大半であるが甕口縁部4・5などの古墳時代前期のものも若干含む。16号住埋土からの混入の可能性がある。

所見 本住居の時期は重複関係、出土遺物から6世紀に比定される。



第38図 年保3区15号住居・出土遺物実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物

16号住居(図39、P L 19)

位置 3区X=33420~23, Y=-42465~67

重複 15号住。16号住の埋土を15号住が掘り壊しており、16号住は15号住より前出である。

形態 住居の大部分が調査区外になるため、全形は確認できなかった。南西隅部のみを検出した。

方位 N-9° -W

規模 (3.40)m×(1.50)m

面積 調査区内で2.98㎡ 壁高 10cm

床面 掘り方面より10cmほどの埋め土を施して平坦な面を造る。掘り方面はほぼ平坦である。

周溝 調査範囲内では未確認。

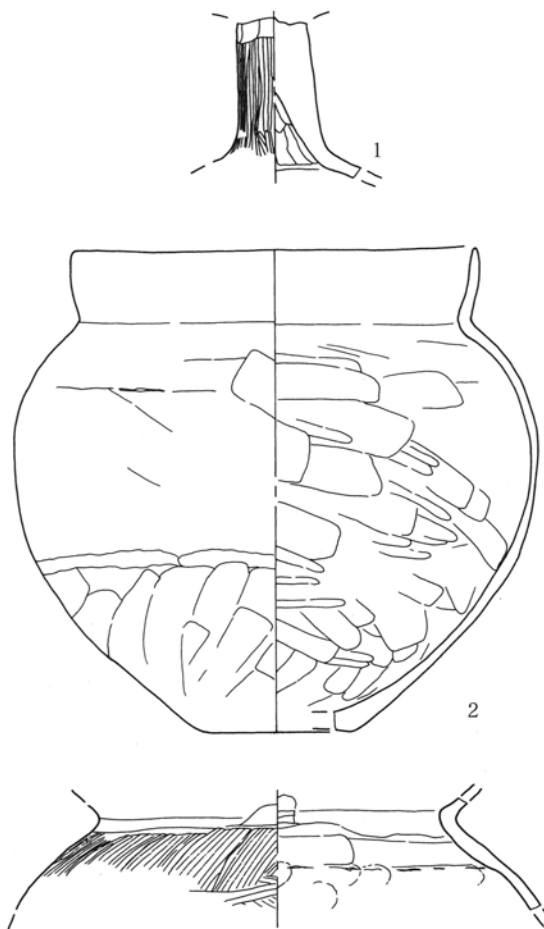
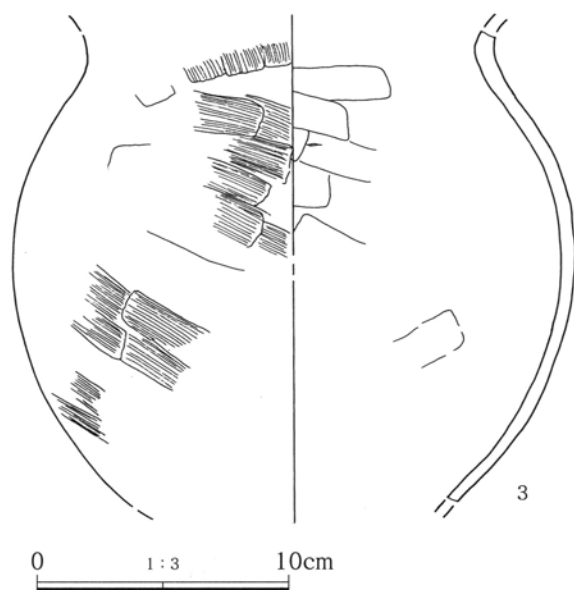
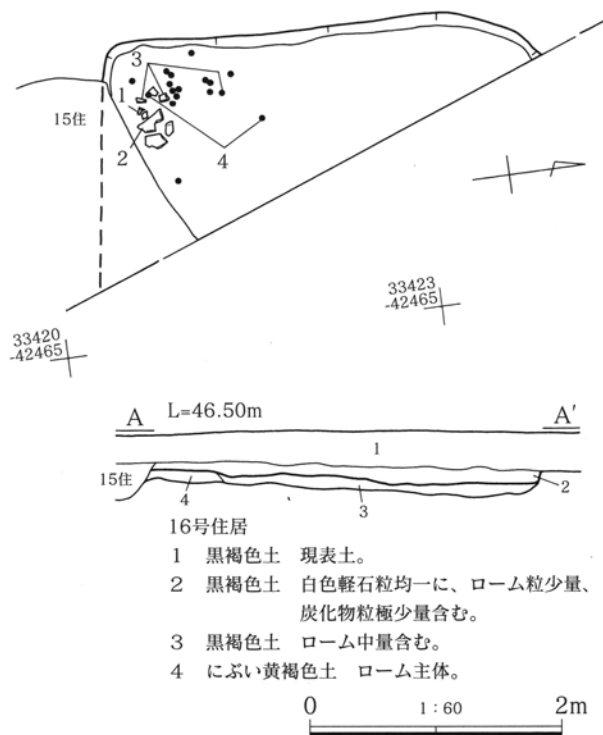
柱穴 調査範囲内では未確認。

貯蔵穴 調査範囲内では未確認。

竈 調査範囲内では未確認。

遺物 南西壁際に集中して、床面上数cmほどのレベルで小破片が出土。1の磨きの強い高坏脚、2の単口縁甕などがある。埋土中の遺物は小破片ながら、刷毛目をもつ甕胴部片・折り返し口縁片等古墳時代前期のものが主体を占める。一方、小さく磨滅した時期を特定し難い小破片が30片程混入する。

所見 本住居の時期は、出土遺物からの特定が困難であるが古墳時代前期の可能性はある。



第39図 年保3区16号住居・出土遺物実測図

18号住居(図40～44、P L 10・11・19・20)

位置 3区X=33421～30, Y=-42470～78

重複 27号土坑、19号址、4、5号掘立。土層の観察から19号址より後出。27号土坑、4、5号掘立との新旧は不明。

形態 正方形を呈する。

方位 N-51° -W

規模 6.47m×6.40m

面積 調査区内で39.30㎡

壁高 10～15cm

床面 掘り方面から2～10cmほどの埋め土を施して平坦な面を造る。P 1、P 4の内側から西壁へP 2から東壁へ延びる幅25cm、深さ15cmほどの溝を検出。間仕切り溝と想定される。掘り方面は中央部がやや高く、周囲を掘り窪める傾向があるが、ほぼ平坦である。南東壁ぎわに薄く焼土及び炭化物の堆積があり、ピットの上部を覆っていた。

周溝 幅20cm、深度8cm程で、北東部貯蔵穴付近を除きほぼ全周する。

柱穴 住居のほぼ対角線上で4本のピットを検出。掘り方の直径40cm深度50cm程である。P 1とP 4の断面に柱痕が残り、柱材の直径は14～18cmほどと想定される。また、南東壁中央下に直径40cm深度30cmほどのピットがあり、入り口施設に伴うものの可能性がある。

19号址(図40、P L 11)

位置 3区X=33427～29, Y=-42471～73

重複 18号住。19号址の床面を18号住が掘り壊していることから18号住より前出。

形態 住居の大半は18号住に掘り壊されており、全形は確認できなかった。

方位 計測不能

規模 (2.80)m×(0.70)m

面積 調査区内で0.89㎡

壁高 8cm

床面 掘り方面から厚さ10cmほどの埋め土を施し

貯蔵穴 住居の北東隅に設置され、長軸94cm短軸62cm深度36cmを測る。東西に長軸を持つ隅丸長方形を呈する。

竈 西壁ほぼ中央に構築されている。全長342cm幅130cm。壁面より住居内に粘質土で袖を構築しており、燃烧部には焼土が厚く残存している。幅26cmほどの煙道部が細長く延びている。

遺物 竈内、竈周りを中心に多量の土師器破片が出土。坏、甕、甔などが復元されており、住居に伴う遺物である。11と12の甕は出土位置・形態から同一個体の可能性がある。18の器台は流れ込みと判断される。

所見 本住居の時期は出土遺物より6世紀に比定される。南東壁中央部に接する27号土坑は竈の対称の位置にあり長辺の方位も18住とほぼ同じくする。また遺物が多く、粘土質の塊があり、床面とも思われる平らな面もあることから18住に関連する張り出しの可能性も考えたが、18住セクションの観察によると南からのレンズ状堆積がみられることから別遺構として報告した。

て平坦な面を造る。掘り方面は細かな凹凸をもつがほぼ平坦である。

周溝 調査範囲では未確認。

柱穴 調査範囲では未確認。

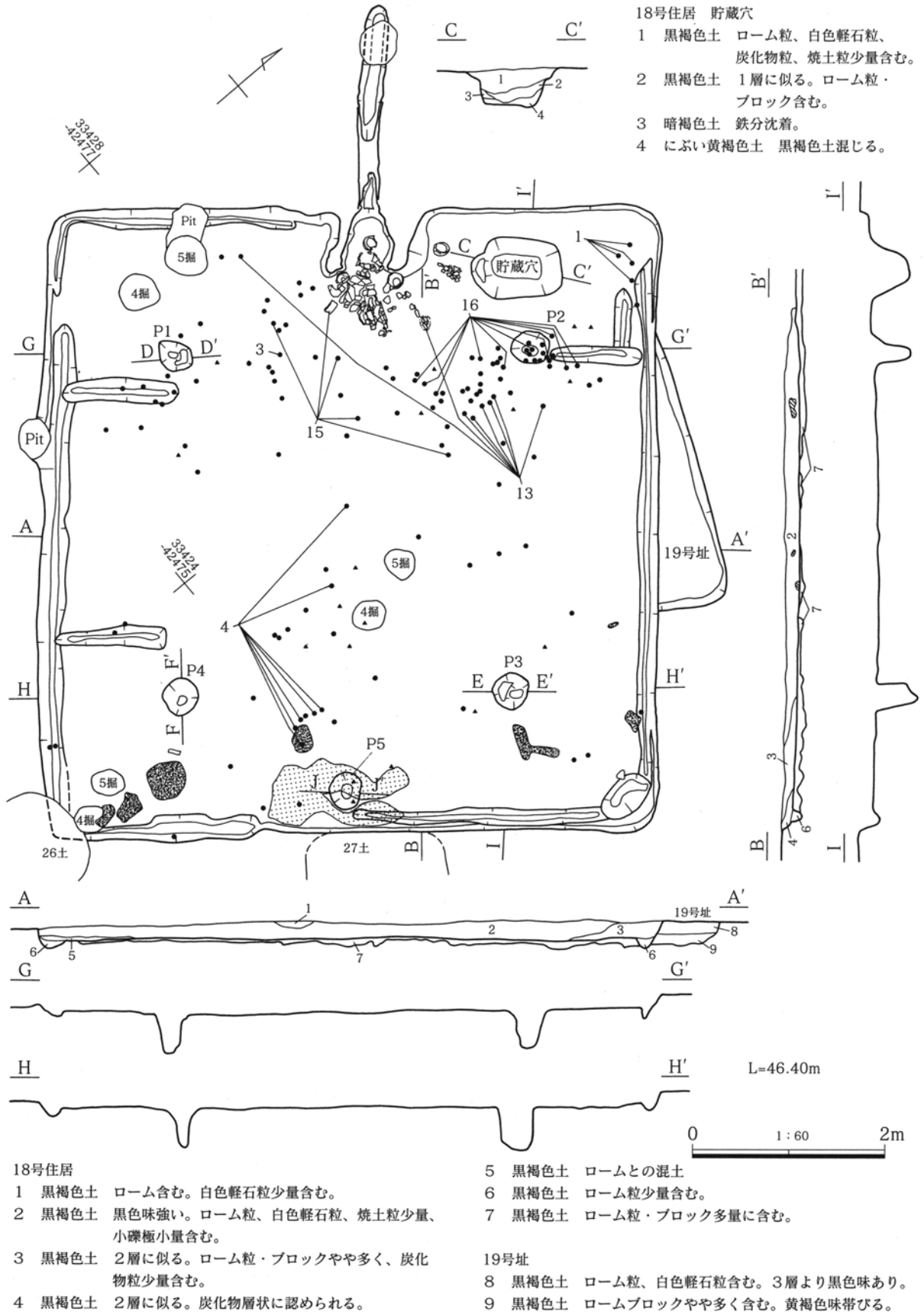
貯蔵穴 調査範囲では未確認。

竈 調査範囲では未確認。

遺物 土師器片が2点出土しているが、小片のため図化出来なかった。

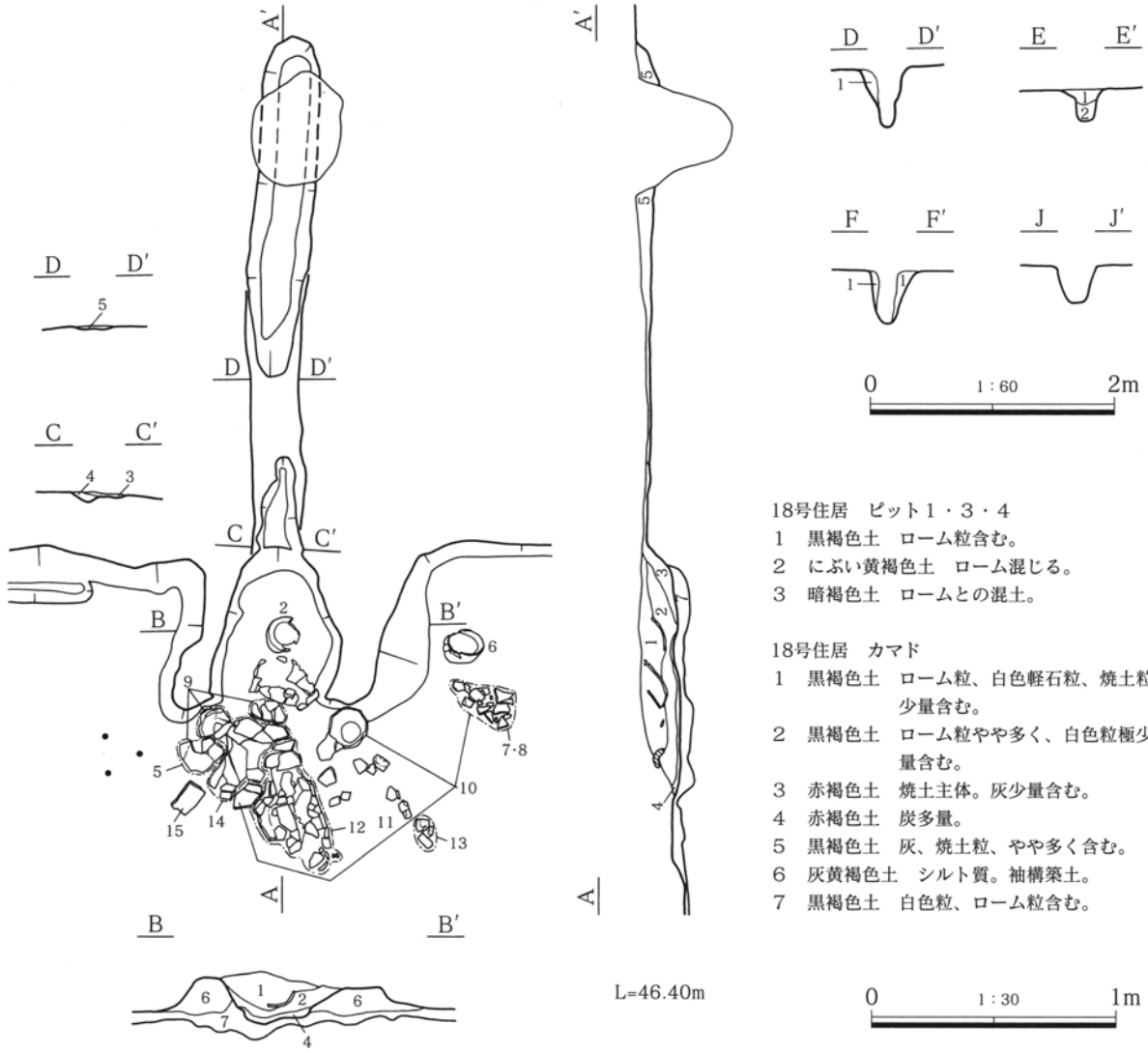
所見 出土遺物が少量のため時期不明。形状、床面の存在、調査所見から住居と判断したが、土坑の可能性もある。

IV 年保遺跡の遺構と遺物

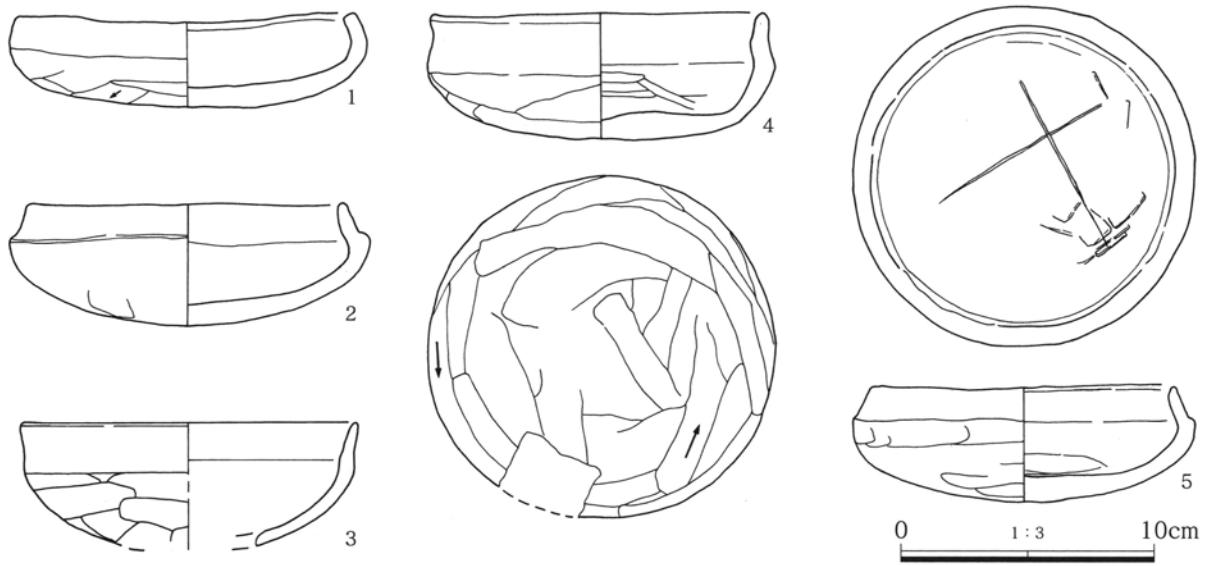


第40図 年保3区18号住居実測図

2. 古代の遺構・遺物

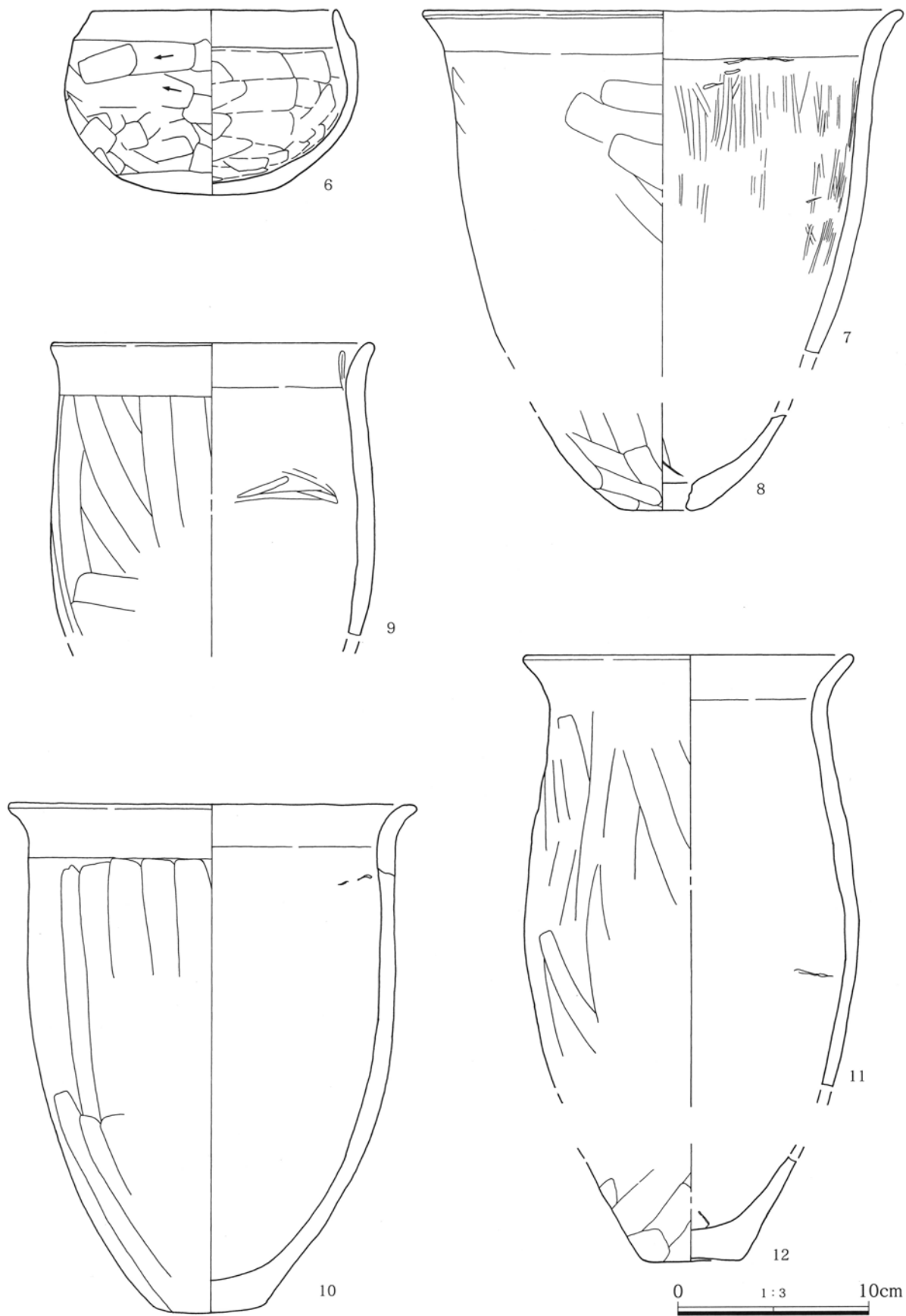


第41図 年保3区18号住居竈実測図

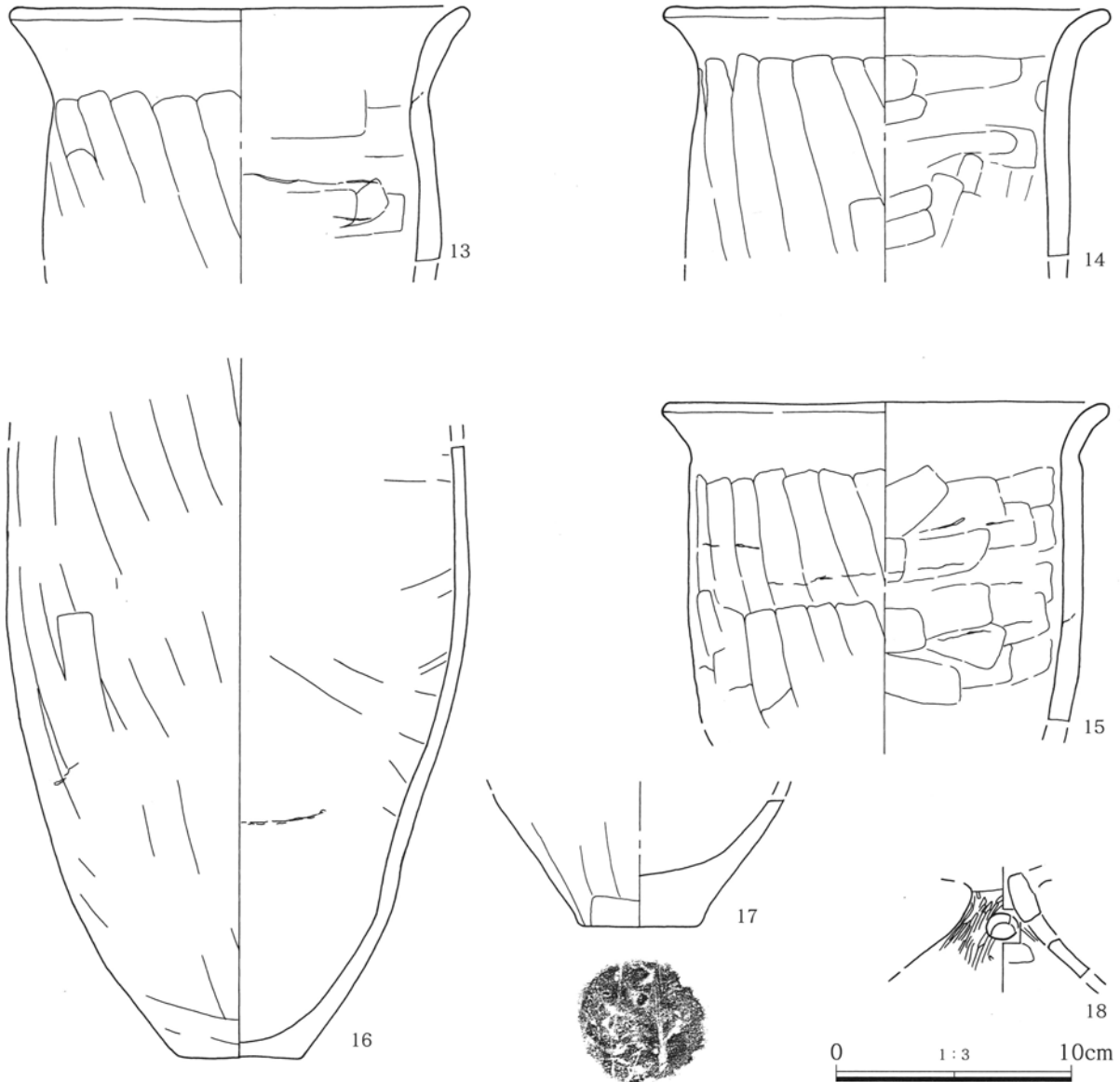


第42図 年保3区18号住居出土遺物実測図(1)

IV 年保遺跡の遺構と遺物



第43図 年保3区18号住居出土遺物実測図(2)



第44図 年保3区18号住居出土遺物実測図(3)

20号住居(図45、P L 12)

位置 3区X=33433~38, Y=-42471~76

重複 なし。

形態 正方形を呈す

方位 N-134° -W

規模 3.66m×3.66m

面積 12.48㎡

壁高 10cm。南壁部分はやや残りがよいが、他は後世の掘削が深くまで及んでいる。

床面 掘り方面から少なくとも3cm以上の埋め土をしている。南壁下と竈下でわずかに床面を検出した。

掘り方面はほぼ平坦である。

周溝 写真の検討から、掘り方面で南壁下に溝状の窪みが確認される。

柱穴 住居のほぼ対角線上に並ぶピット4本を柱穴と判断した。規模は掘り方面で長径25~37cm深度29~38cmである。P4・P5の断面から8~10cmの柱痕が想定される。

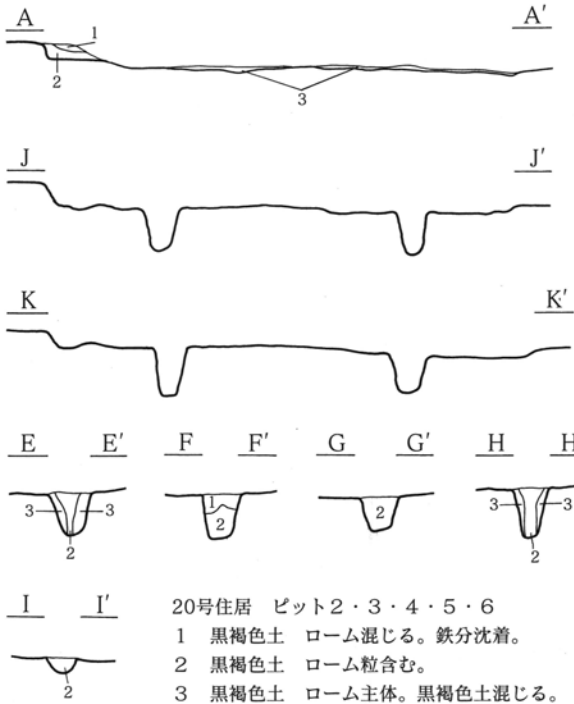
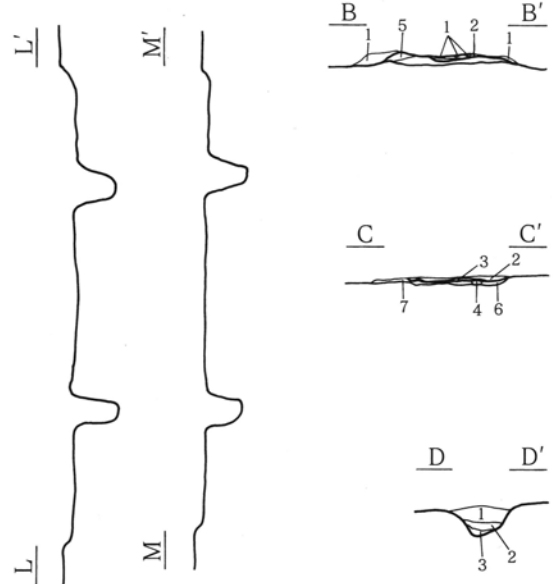
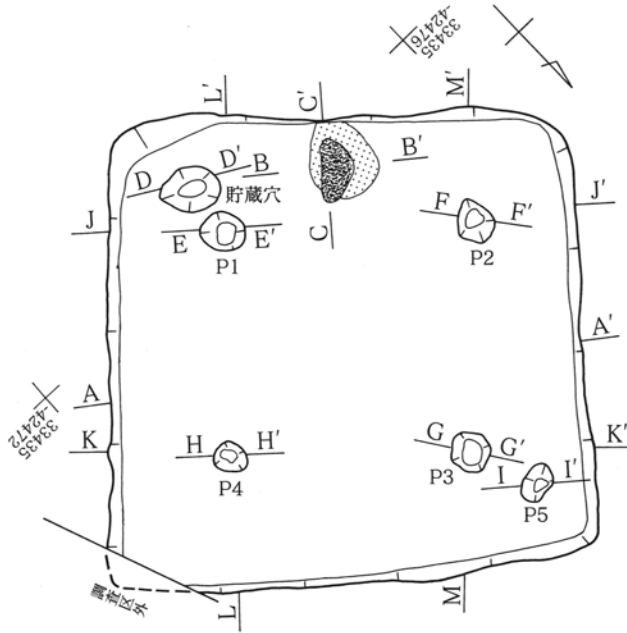
貯蔵穴 住居の南隅に設置され、竈の左袖方向に位置する。長軸46cm短軸38cm深さ22cmで平面形は楕円形を呈する。

IV 年保遺跡の遺構と遺物

竈 左袖部分の下部が僅かに残存する。長軸120cm
短軸100cmの範囲にシルト質の袖、天井部構築部材
と思われる土壌が確認され、その中央部に残る焼土、
灰層の範囲から燃焼部幅約50cmほどの規模と想定
される。

遺物 摩滅している土師器坏・甕の小破片が少量出
土する。

所見 本住居の時期は、住居形態や出土遺物から古
墳時代後期に比定される。



20号住居

- 1 黒褐色土 白色軽石粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、白色軽石粒少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム混じる。

20号住居 カマド

- 1 黒褐色土 白色粒少量含む。
- 2 暗赤褐色土 焼土主体層。
- 3 黒色土 炭主体。
- 4 黒褐色土 焼土ブロック多く含む。
- 5 黒褐色土 ややシルト質で固く締まる。
袖の残存部。
- 6 黒褐色土 1層に似るが固く締まる。
- 7 黒褐色土 ローム混じる。

20号住居 貯蔵穴

- 1 黒褐色土 ローム粒、礫少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム砂質土少量混じる。1層より黒味あり。
- 3 ロームと砂との混土。

20号住居 ピット2・3・4・5・6

- 1 黒褐色土 ローム混じる。鉄分沈着。
- 2 黒褐色土 ローム粒含む。
- 3 黒褐色土 ローム主体。黒褐色土混じる。



L=46.30m 0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第45図 年保3区20号住居・出土遺物実測図

(2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡については、規模・ピットの形状等から中世以降の可能性も考えられたが、埋土が弱い

粘性をもち、また古墳時代住居の埋土と近似していることから、古代以前のものとして扱った。

1号掘立柱建物跡(図46、P L 12)

位置 1区X=33321~24, Y=-44435~38

重複 なし

形態 1間×1間

主軸方位 N-23° - E

規模 2.45m×2.12m

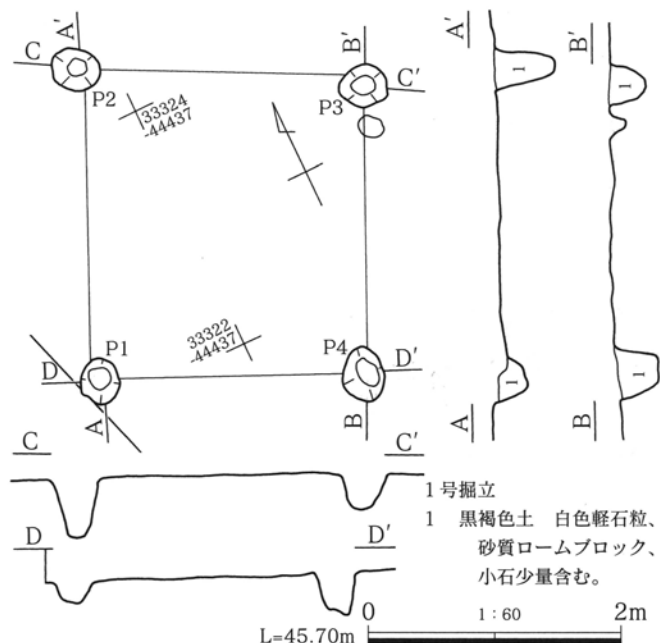
柱穴 掘り方の形態はほぼ円形を呈す。規模は、径30cm~43cm深度20cm~45cmである。

遺物 なし。

第2表 1号掘立柱建物跡柱穴計測表

NO	長径	短径	深度	柱痕径	柱間長
1	36	30	20		P1~2 245
2	40	32	45		P2~3 227
3	37	34	27		P3~4 224
4	43	34	31		P4~1 222

(単位cm)



第46図 年保1区1号掘立柱建物跡実測図

2号掘立柱建物跡(図47・48、P L 12)

位置 3区X=33400~05, Y=-42464~69

重複 2号溝・11号住。近現代の2号溝が中央を掘り壊す。11号住との新旧は不明。

形態 2間×1間

主軸方位 N-56° - W

規模 4.48m×2.76m

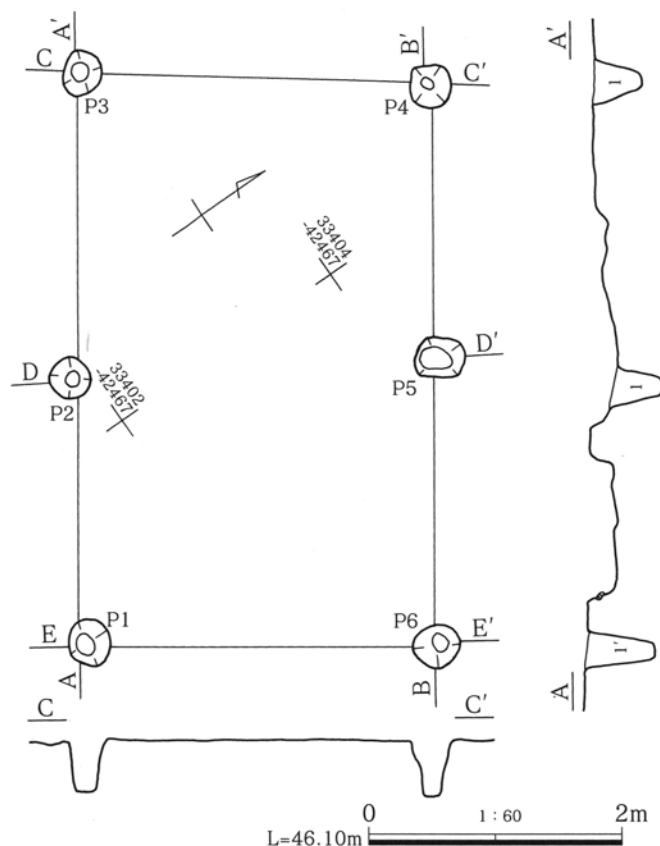
柱穴 掘り方の形態は、円形・矩形などやや不統一である。規模は径29cm~40cm、深度38cm~62cmである。

遺物 土師器坏・甕の小破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

2号掘立

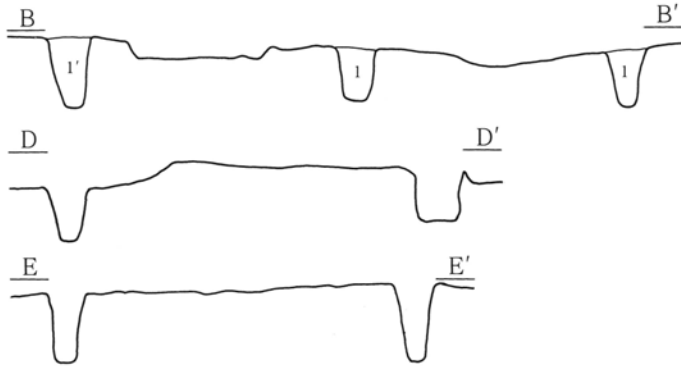
1 黒褐色土 弱粘性。白色軽石粒少量、黄色砂質土粒・ブロック多量含む。

1' 黒褐色土 弱粘質。白色軽石粒、黄色砂質土粒少量含む。



第47図 年保3区2号掘立柱建物跡実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物



第3表 2号掘立柱建物跡柱穴計測表

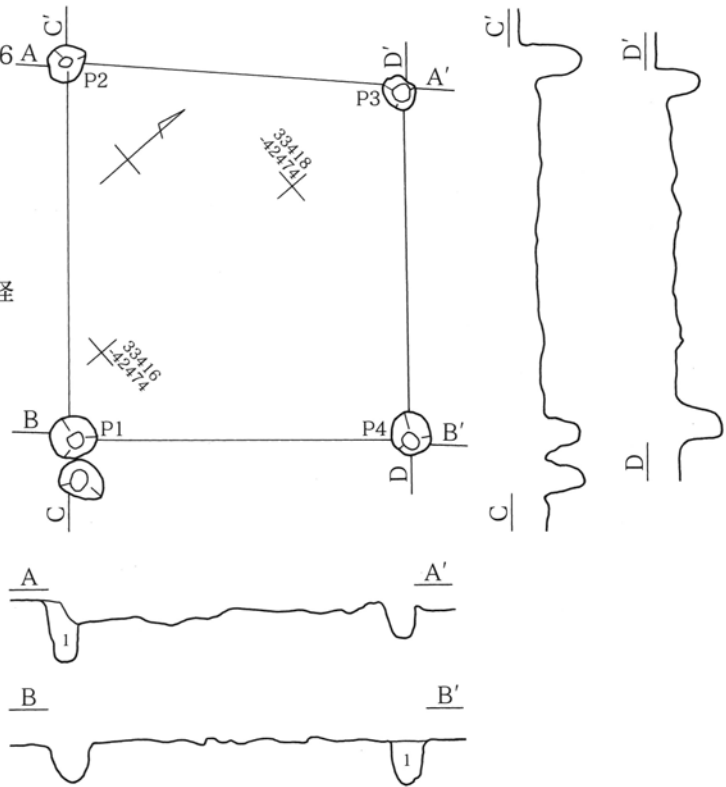
NO	長径	短径	深度	柱痕径	柱間長
1	38	34	51		P1~2 210
2	32	30	38		P2~3 240
3	36	29	39		P3~4 276
4	37	35	57		P4~5 217
5	40	30	38		P5~6 222
6	37	34	62		P6~1 278

(単位cm)

第48図 年保3区2号掘立柱建物跡実測図

3号掘立柱建物跡(図49、P L12)

位置 3区X=33415~19, Y=-42471~76
 重複 14号住。新旧関係は不明。
 形態 1間×1間
 主軸方位 N-49° -W
 規模 2.96m×2.64m
 柱穴 掘り方の形態はほぼ円形。規模は径23cm~36cm、深度30cm~47cm。
 遺物 出土なし。



第4表 3号掘立柱建物跡柱穴計測表

NO	長径	短径	深度	柱痕径	柱間長
1	36	33	30		P1~2 296
2	33	28	47		P2~3 266
3	28	23	35		P3~4 272
4	34	32	34		P4~1 264

(単位cm)

3号掘立

1 黒褐色土 ローム粒・ブロック均一にやや多く、白色軽石粒少量含む。

第49図 年保3区3号掘立柱建物跡実測図

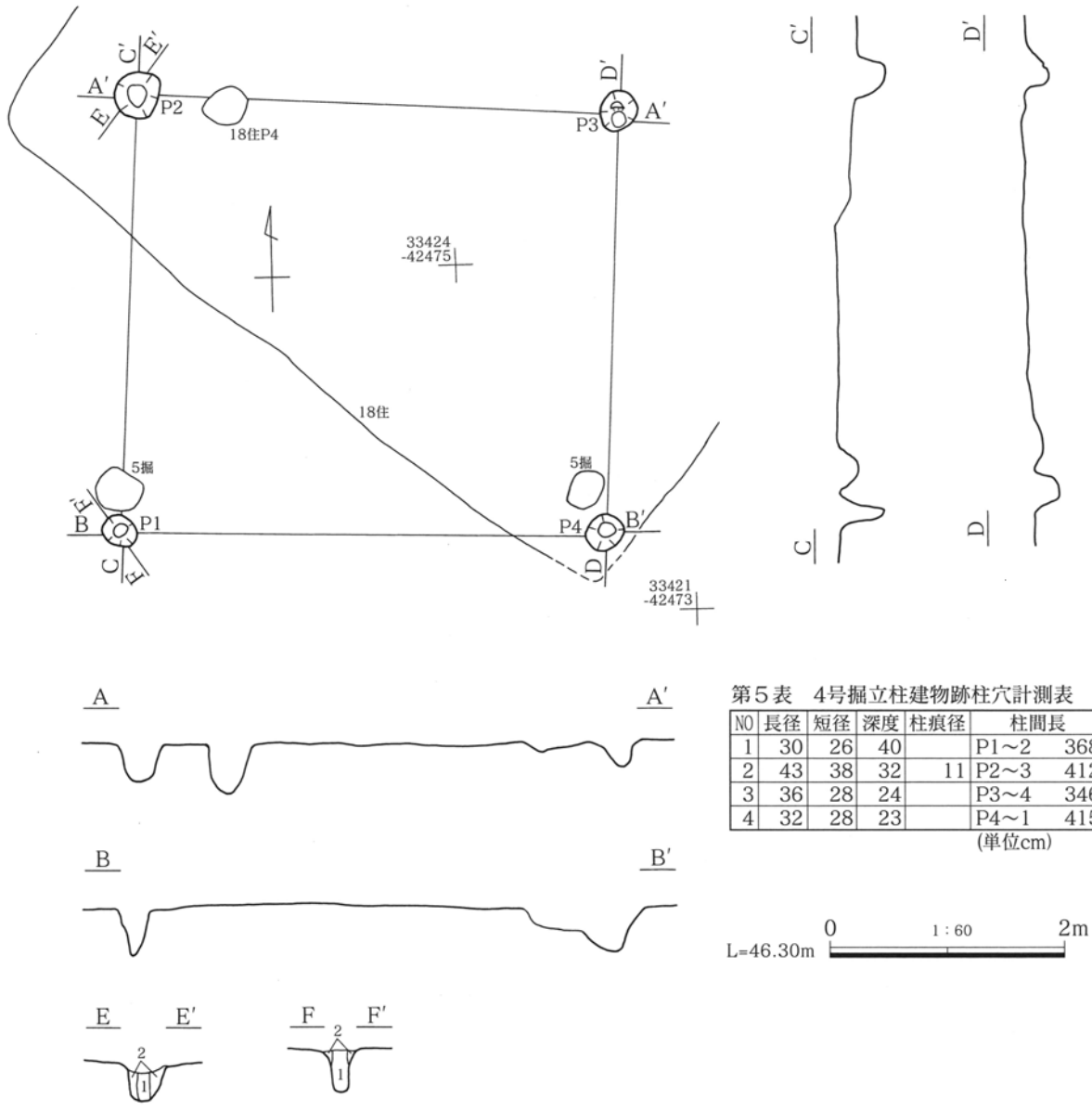
4号掘立柱建物跡(図50、P L12)

位置 4区X=33421~25, Y=-42473~77
 重複 18号住・5号掘立。埋土の判別が困難で新旧関係は不明。
 形態 1間×1間
 主軸方位 N-84° -W

規模 4.15m×3.46m

柱穴 掘り方の形態はほぼ円形。規模は径26cm~43cm、深度23cm~40cmと差が見られる。柱痕はP2の断面で11cm程であることが観察された。

遺物 なし。



4号掘立

- 1 黒褐色土 粘質。白色軽石粒少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 黒褐色土粒・ブロック含む。

第50図 年保3区4号掘立柱建物跡実測図

5号掘立柱建物跡(図51、P L12)

位置 3区X=33421~26, Y=-42473~78

重複 18号住・4号掘立。埋土の判別が困難で新旧関係は不明。

形態 1間×1間

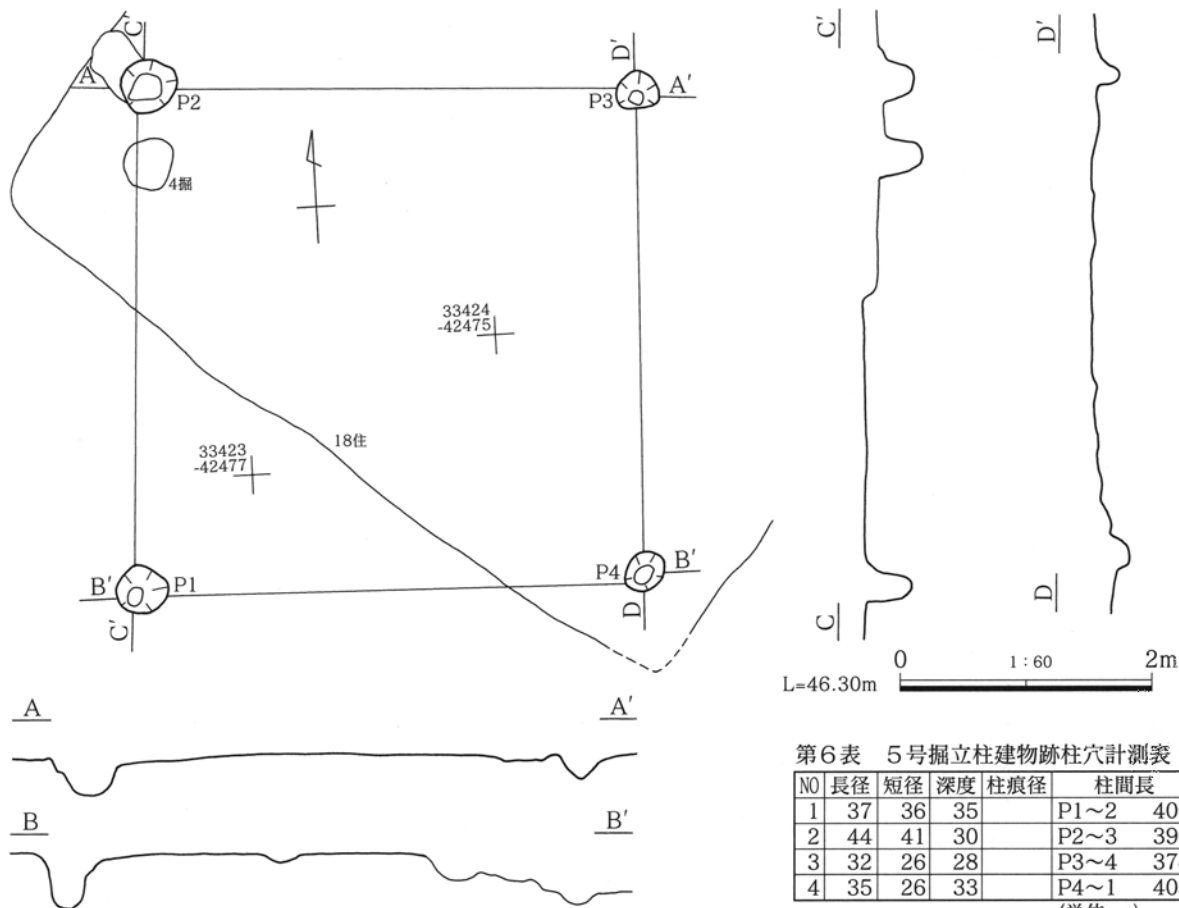
主軸方位 N-O°

規模 4.03m×3.74m

柱穴 掘り方の形態は円形、楕円形。規模は径26cm~44cm、深度28cm~33cm。

遺物 なし。

IV 年保遺跡の遺構と遺物



第6表 5号掘立柱建物跡穴計測表

NO	長径	短径	深度	柱痕径	柱間長
1	37	36	35		P1~2 400
2	44	41	30		P2~3 390
3	32	26	28		P3~4 374
4	35	26	33		P4~1 403

(単位cm)

第51図 年保3区5号掘立柱建物跡実測図

(3) 井戸

1号井戸(図52、P L12・20)

位置 1区X=33342、Y=-42442

重複 なし

形態 確認面はやや不正形の楕円形をなす。断面は上位から0.30mの地点でやや細まり、その下位は

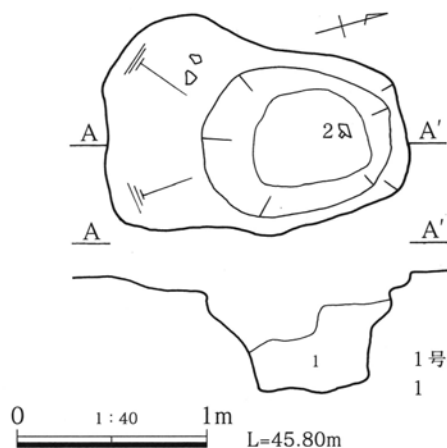
径0.60m程の筒状を呈す。

方位 N-81°-W

規模 長径1.68m、短径1.00m、深度0.88mを測る。

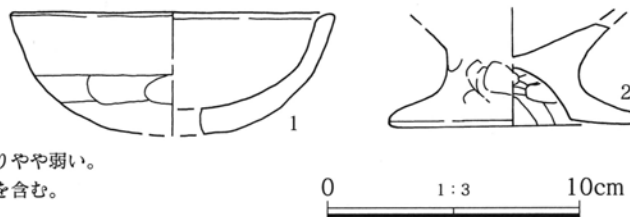
遺物 土師器坏・高坏片と甕胴部小破片少量と礫が出土した。

所見 確認面から0.20m程下位に砂礫層があり、湧水層であったと推定される。確認部分の埋没土は単層で、短期間に埋没した可能性が高い。遺物から、6世紀前半までには埋没したものと思われる。



1号井戸

1 黒褐色土 締りやや弱い。礫を含む。



第52図 年保1区1号井戸・出土遺物実測図

2号井戸(図53、P L13・20)

位置 1区X=33305, Y=-42426

重複 なし

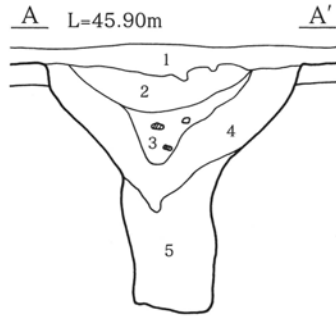
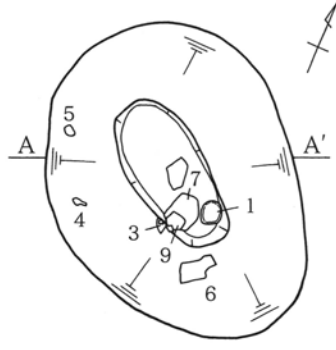
形態 確認面で楕円形をなす。断面は上位から0.40mの地点でやや細まり、その下位は径0.50m程の筒状となるロート状を呈す。

方位 N-49° -W

規模 長径1.75m、短径1.30m、深度1.20mを測る。

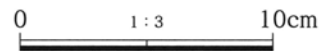
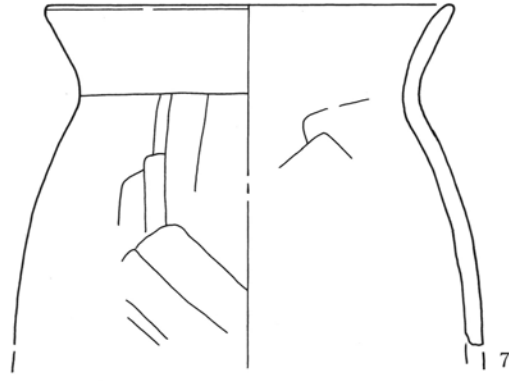
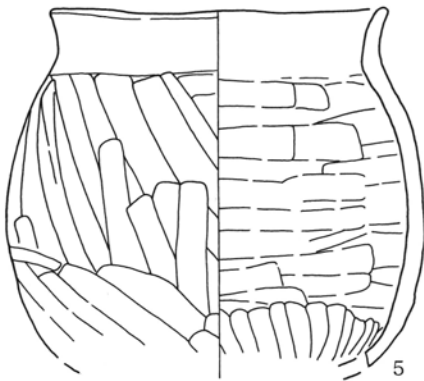
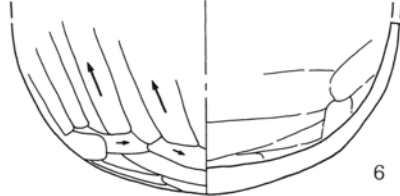
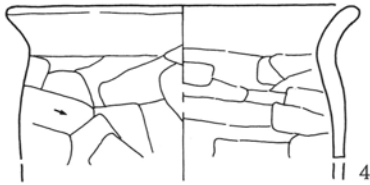
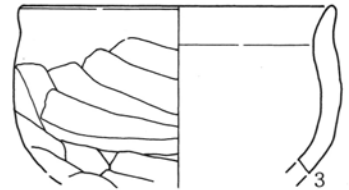
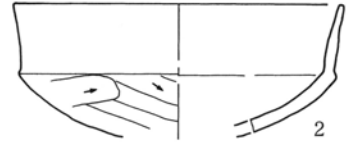
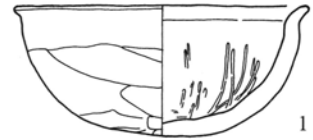
遺物 土師器坏・甕の破片多数と支脚片1点、礫少量が出土した。

所見 確認面から0.40m程下位に砂礫層があり、湧水層であったと推定される。出土遺物から、6世紀前半に埋没したものと思われる。



2号井戸

- 1 明褐色土 圃場整備時客土。
- 2 暗褐色土 白色軽石粒、砂質ローム粒、小礫を含む。
- 3 黒褐色土 白色軽石粒、砂質ローム粒、大・小礫を含む。
- 4 暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒、小礫を含む。
- 5 暗褐色土 粒径細かい。白色軽石粒、砂質ローム粒、小礫を少量含む。
- 6 暗褐色土 粒径細かく白色粒上位に極少量含む。



第53図 年保1区2号井戸・出土遺物実測図

(4) 土坑

1・2・3区からは延べ28基の土坑を検出した。同一遺構確認面上での調査であるため明確な時期判定は困難であるが、埋没土の土質・色調及び遺物の検討、さらに住居等の遺構の埋没土との比較などからその多くを古墳時代等古代に属するものと推定した。それぞれの形態・規模等については、表7に一6号土坑(図55、P L 13・20)

平面楕円形で底部は平坦である。底面付近に炭化物を多量に含む。覆土中にも炭化物粒・焼土粒が見られる。底壁面の焼土化でなく投入されたものと考えられる。1層中央部分には径4~12cm程の円礫を含んでいる。遺物は図化できた1・2の他に土師器杯・甕の小破片少量を含む。6世紀前半遺物を主体とする。

21号土坑(図57、P L 13・20・21)

平面楕円形で底部はほぼ平坦である。埋土上層から、ほぼ完形に復元できる5の甕が潰れた状態で出土。ほかに、土師器の杯・甕の破片を含む。1の杯は口縁部が塗彩されていた。6世紀前半の遺物を主体とする。

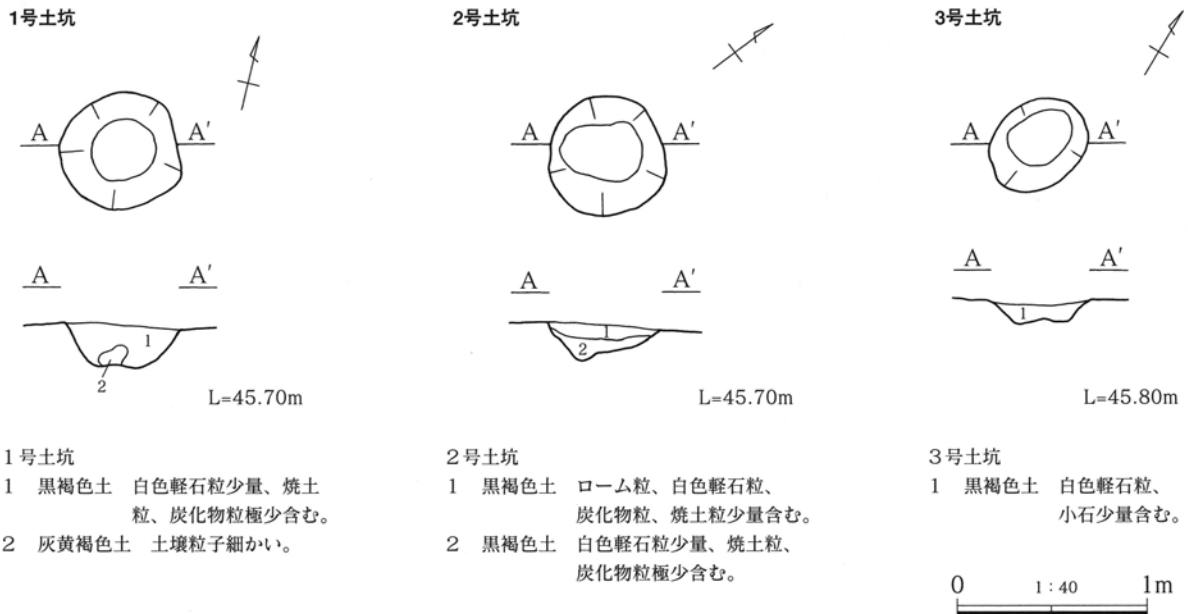
覧表として掲げてある。

土坑は形態・規模も一様でなくその差が大きい。その多くは遺物が少なく、また数が多くても少破片の混入であることもある。そうした中で、比較的まとまった遺物が出土しているなど特徴的なものは、6・21・27・28号土坑であり、以下に詳述する。
27号土坑(図58・59、P L 13・21)

18号住の南東壁と接する位置に、主軸も18号住とほぼ同じくして検出された。平面形は隅丸長方形。1・2層間にほぼ平坦な面があり、平坦面上に粘質土の塊が検出されるなどやや特異なものである。土師器杯1点・甕3点が復元されるなど破片ながら土器片の出土が多い。

28号土坑(図59、P L 14・21)

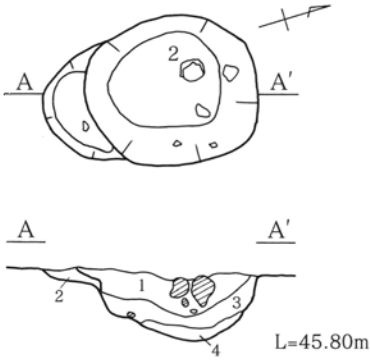
調査区外にかかるため、全形は確認されていないが、平面形は楕円形になるものと推定される。底部は平坦である。上位に厚さ2cm程の焼土層があり、その上層には炭化片を多く含んでいる。出土遺物なし。



第54図 年保1区1~3号土坑実測図

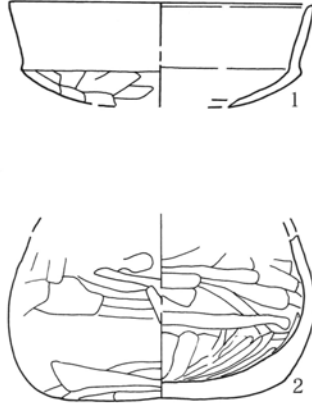
2. 古代の遺構・遺物

6号土坑



6号土坑

- 1 暗褐色土 白色軽石粒、黄色砂質ローム粒。炭化物、焼土粒子を少量含む。中央部に円礫群。
- 2 暗褐色土 白色軽石粒、黄色砂質ローム小ブロック少量含む。
- 3 暗褐色土 白色軽石粒、黄色砂質ローム粒、炭化物粒を極少量含む。
- 4 暗褐色土 黄色砂質ローム粒子少量、炭化物多量に含む。

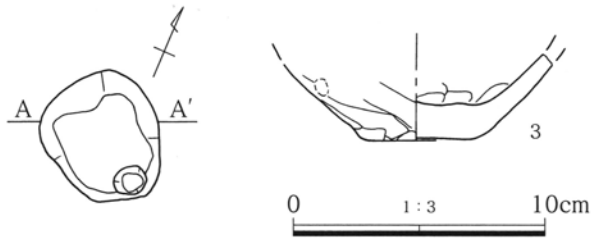


7号土坑

7号土坑

- 1 暗褐色土 白色軽石粒少量、黄色砂質ロームブロック多量含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石粒、黄色砂質ロームブロック、小礫少量含む。
- 3 暗褐色土 1層土に類似。小礫を含む。
- 4 暗褐色土 白色軽石粒、黄色砂質ロームブロック、小礫少量含む。
- 5 暗褐色土 白色軽石粒少量、黄色砂質ロームブロック、小礫やや多く含む。

9号土坑

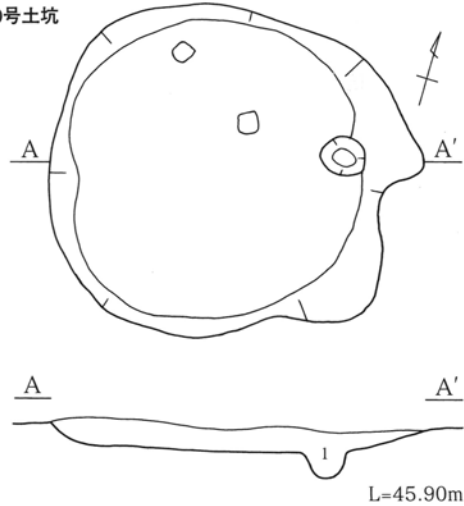


9号土坑

- 1 黒色土 白色軽石粒、礫少量含む。

L=45.90m

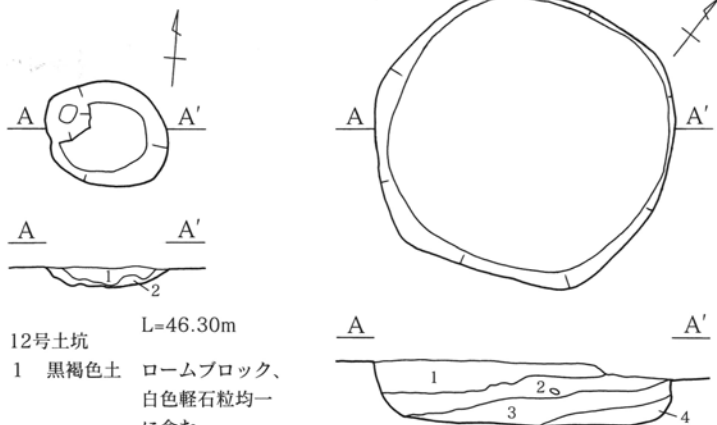
10号土坑



11号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・ブロックやや多く、白色粒、炭化物粒少量含む。

12号土坑



12号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック、白色軽石粒均一に含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム主体。黒褐色土混じる。

13号土坑

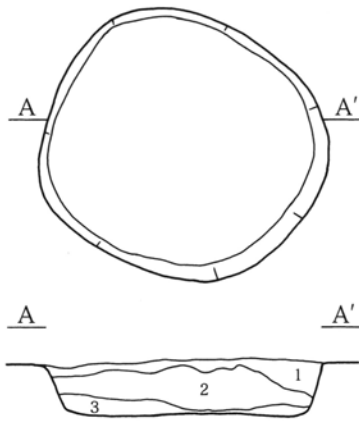
- 1 黒褐色土 ロームブロック、白色粒、焼土粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックやや多く含む。黒色土ブロック、白色軽石粒少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒少量、白色粒極少量含む。
- 4 黒褐色土 2層に似る。但し黒色土は認められない。

0 1:40 1m

第55図 年保1~3区6・7・9・10・12・13号土坑・出土遺物実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物

14号土坑

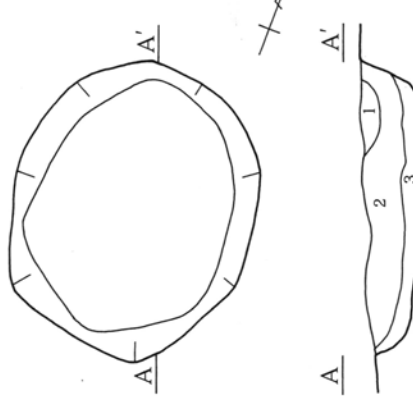


L=46.30m

14号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・ブロック、白色粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒多量、白色軽石粒少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒・ブロック含む。

15号土坑

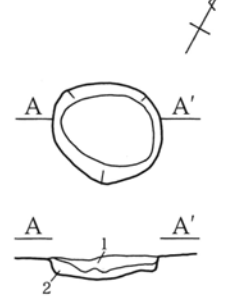


L=46.30m

15号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、黒褐色土粒・ブロック、白色粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロック、白色粒子含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。

16号土坑

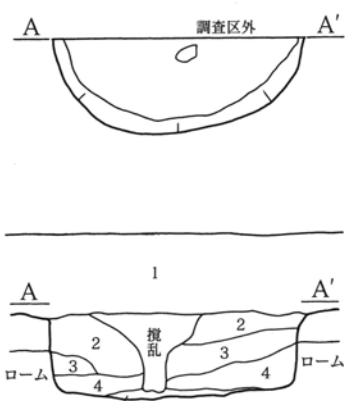


16号土坑

- 1 黒褐色土 ローム含む。
- 2 暗褐色土 ローム主体。黒褐色土少量混じる。

L=46.20m

17号土坑

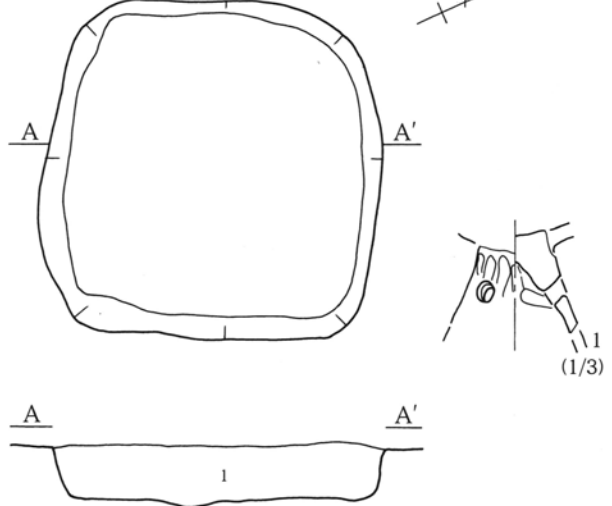


L=46.40m

17号土坑

- 1 黒褐色土 現表土。
- 2 黒褐色土 ローム粒、礫少量、白色粒極少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、白色軽石粒少量含む。
- 4 黒褐色土 ローム混じり。白色軽石粒少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム主体。礫少量含む。

18号土坑

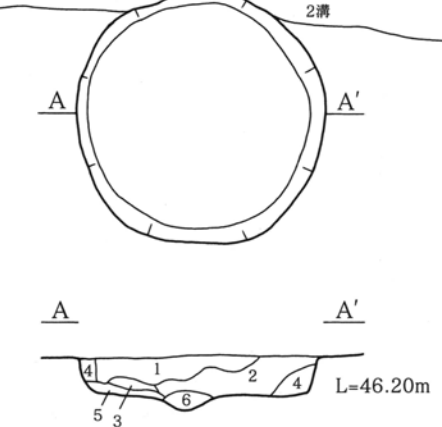


L=46.30m

18号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・ブロックやや多く、黒褐色粘質土粒・ブロック、炭化物粒少量含む。鉄分沈着。

19号土坑



L=46.20m

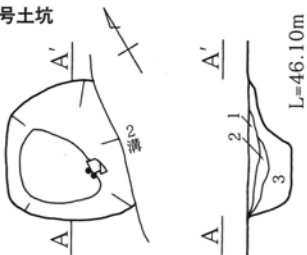
19号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・ブロック、白色粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、礫少量含む。
- 3 オリーブ褐色土 ロームと黒褐色土の混土。白色軽石粒極少量含む。
- 4 オリーブ褐色土 ローム主体。黒褐色土(2層の土)の混じり下方に認められる。
- 5 黒褐色土 ローム粒・ブロック含む。
- 6 黒褐色土 やや粘性有。1層よりやや黒灰色味。白色粒少量含む。

0 1:40 1m

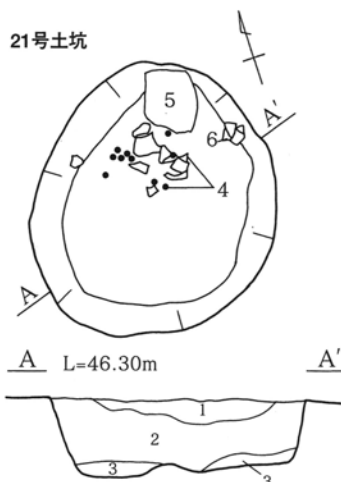
第56図 年保3区14~19号土坑・出土遺物実測図

20号土坑



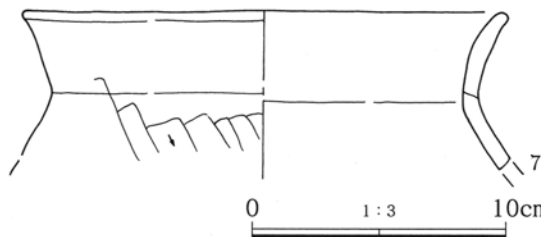
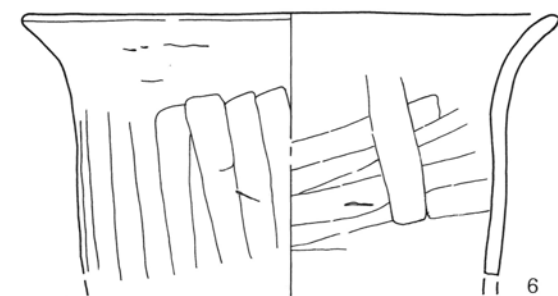
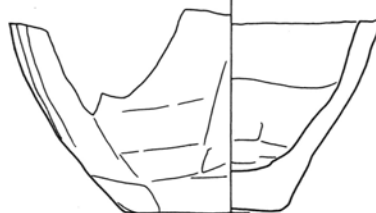
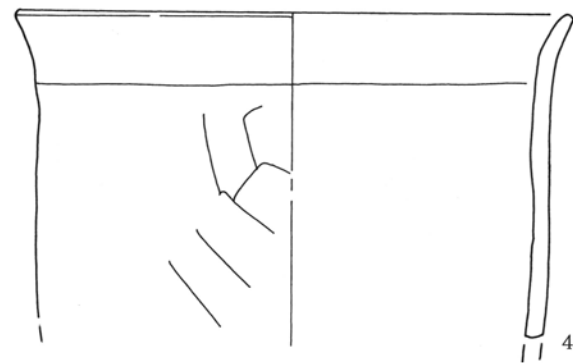
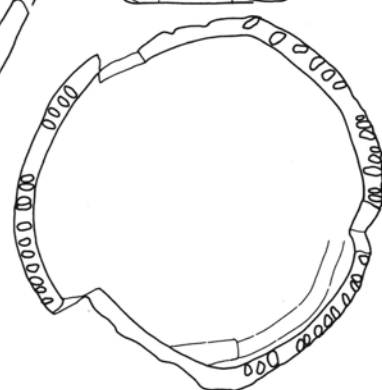
- 20号土坑
- 1 黒褐色土 白色粒含む。鉄分沈着。
 - 2 黒褐色土 黒味強い。白色粒含む。鉄分沈着。
 - 3 黒褐色土 白色粒、ローム粒中量。鉄分沈着。

21号土坑



- 21号土坑
- 1 黒褐色土 にぶい黄褐色土ブロック、白色軽石粒含む。
 - 2 黒褐色土 1層より黒色味強い。オリーブ褐色土粒・白色粒均一に少量含む。
 - 3 暗褐色土 ローム土との混土。やや粘性有。

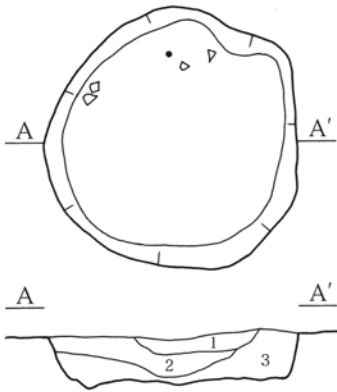
0 1:40 1m



第57図 年保3区20・21号土坑・出土遺物実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物

22号土坑

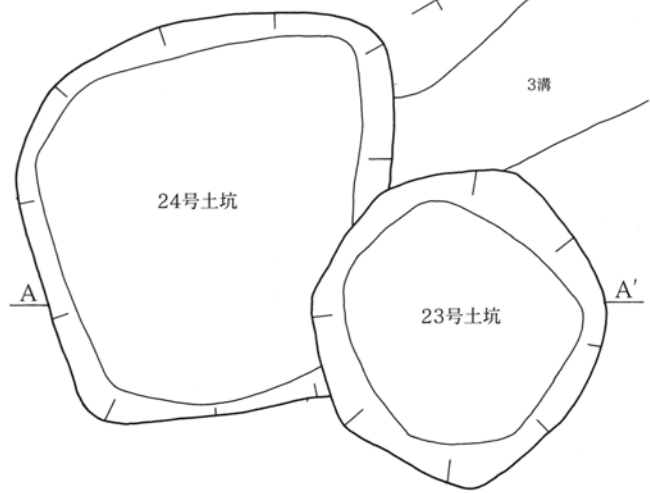


L=46.30m

22号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、礫、白色軽石粒少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ブロック、黒色土粒少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒含む。

23・24号土坑



L=46.30m

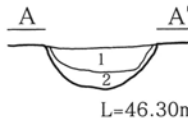
24号土坑

- 1 黒褐色土 ロームとの混土。白色粒含む。
- 2 暗褐色土 ローム主体。黒褐色土混じる。

23号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒、礫含む。

25号土坑

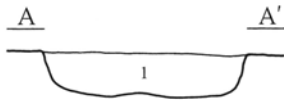
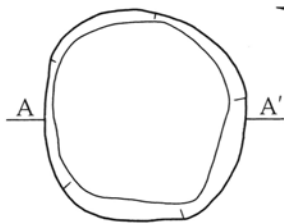


L=46.30m

25号土坑

- 1 黒褐色土 やや砂質。白色軽石粒均一に含む。鉄分沈着少量。
- 2 黒褐色土 やや砂質。

26号土坑



L=46.20m

26号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒のブロックやや多く小礫少量含む。

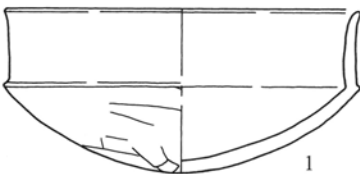
27号土坑



27号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・ブロック、白色軽石粒極少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム土との混土。白色軽石粒極少量含む。

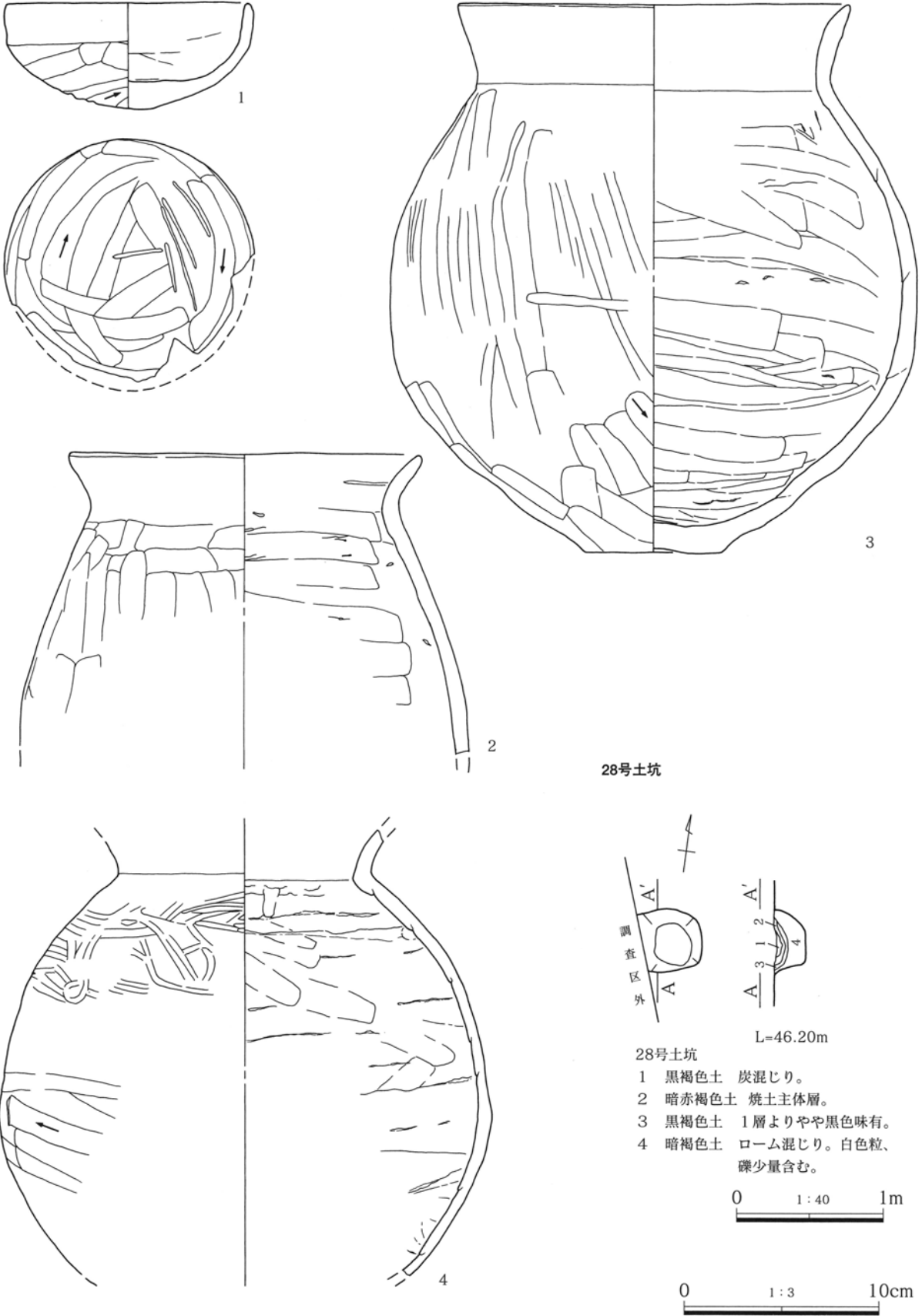
L=46.40m



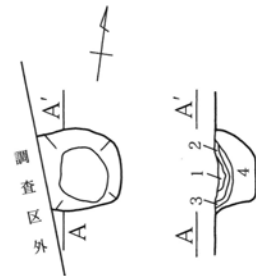
0 1:3 10cm

0 1:40 1m

第58図 年保3区22~27号土坑・出土遺物実測図



28号土坑



L=46.20m

28号土坑

- 1 黒褐色土 炭混じり。
- 2 暗赤褐色土 焼土主体層。
- 3 黒褐色土 1層よりやや黒色味有。
- 4 暗褐色土 ローム混じり。白色粒、礫少量含む。

0 1:40 1m

0 1:3 10cm

第59図 年保3区27・28号土坑・出土遺物実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物

第7表 年保遺跡 土坑一覧表(古代面)

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
1	1	X=33352,Y=-42442	円形	—	0.60	0.60	0.24	
2	1	X=33351,Y=-42443	円形	—	0.60	0.60	0.20	
3	1	X=33350,Y=-42448	楕円形	N- 5°-E	0.55	0.45	0.10	
6	1	X=33314,Y=-42428	楕円形	N-16°-E	1.12	0.78	0.35	
7	1	X=33307,Y=-42427	楕円形	N-76°-W	1.09	0.92	0.62	
9	2	X=33395,Y=-42482	不整形	N-16°-W	0.70	0.65	0.10	
10	2	X=33395,Y=-42476	楕円形	N-82°-E	1.95	1.75	0.15	
12	3	X=33407,Y=-42470	楕円形	N-85°-E	0.63	0.54	0.10	
13	3	X=33411,Y=-42470	円形	—	1.61	1.59	0.35	
14	3	X=33410,Y=-42468	円形	—	0.15	0.14	0.30	13住と重複
15	3	X=33409,Y=-42471	円形	—	0.15	0.13	0.32	
16	3	X=33410,Y=-42472	楕円形	N-69°-W	0.60	0.50	0.13	
17	3	X=33411,Y=-42474	楕円形	—	(1.32)	(0.50)	0.22	
18	3	X=33413,Y=-42467	隅丸正方形	—	0.18	0.18	0.33	
19	3	X=33400,Y=-42466	円形	—	1.32	1.32	0.30	2溝と重複
20	3	X=33401,Y=-42468	隅丸方形	N-30°-E	(0.64)	0.64	0.24	2溝と重複
21	3	X=33406,Y=-42469	楕円形	N-23°-E	1.46	1.36	0.41	
22	3	X=33412,Y=-42472	楕円形	N-22°-W	1.37	1.33	0.31	14住と重複
23	3	X=33417,Y=-42467	隅丸長方形	N-61°-W	1.58	1.52	0.30	24土、3溝と重複
24	3	X=33417,Y=-42467	隅丸長方形	N-61°-W	2.10	1.92	0.23	23土、3溝と重複
25	3	X=33416,Y=-42466	隅丸長方形	N-63°-W	0.66	0.58	0.23	
26	3	X=33420,Y=-42473	隅丸正方形	—	1.06	1.06	0.20	18住と重複
27	3	X=33424,Y=-42469	隅丸長方形	N-50°-W	(2.17)	1.50	0.26	18住と重複
28	3	X=33420,Y=-42477	楕円形	—	(0.40)	0.43	0.20	

第8表 年保遺跡 ピット一覧表

ピット番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
1	1	X=33352,Y=-42443	楕円形	N-12°-W	0.39	0.31	0.40	
2	1	X=33340,Y=-42444	不整形	N-26°-W	1.20	(0.83)	0.54	
3	1	X=33345,Y=-42444	隅丸方形	—	0.34	0.34	0.26	
4	1	X=33326,Y=-42424	隅丸方形	—	0.24	0.22	0.16	
5	1	X=33325,Y=-42424	楕円形	N-80°-E	0.24	0.20	0.20	
6	1	X=33325,Y=-42423	隅丸長方形	N-60°-E	0.28	0.24	0.14	
7	1	X=33324,Y=-42421	隅丸長方形	N-70°-W	0.32	0.24	0.17	
8	1	X=33323,Y=-42421	隅丸長方形	N-34°-W	0.38	0.26	0.11	
9	1	X=33323,Y=-42433	不整形	N-21°-W	0.37	(0.32)	0.24	
10	1	X=33323,Y=-42431	不整形	N-53°-E	0.32	0.28	0.26	
11	1	X=33321,Y=-42432	楕円形	N-31°-E	0.45	0.37	0.15	

2. 古代の遺構・遺物

ピット番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
12	1	X=33321,Y=-42430	不整形	N-68°-E	0.26	0.23	0.20	
13	1	X=33312,Y=-42431	楕円形	N-65°-E	0.28	0.25	0.24	
14	1	X=33310,Y=-42431	不整形	N-30°-W	0.28	0.25	0.17	
15	1	X=33310,Y=-42431	楕円形	N-22°-W	0.33	0.28	0.17	
16	1	X=33309,Y=-42429	不整形	N-12°-W	0.28	0.24	0.30	
17	1	X=33309,Y=-42428	不整形	N-10°-W	0.35	0.32	0.31	18ピットと重複
18	1	X=33309,Y=-42428	不整形	N-17°-W	0.27	0.23	0.28	17ピットと重複
19	1	X=33310,Y=-42427	楕円形	N-66°-E	0.29	0.24	0.25	
21	2	X=33415,Y=-42489	隅丸方形	-	0.29	0.28	0.28	
22	2	X=33410,Y=-42486	楕円形	N-76°-E	0.52	0.38	0.07	
23	2	X=33392,Y=-42482	楕円形	N-60°-W	0.43	0.38	0.10	
24	2	X=33394,Y=-42477	隅丸長方形	N-30°-E	0.31	0.26	0.42	
25	2	X=33388,Y=-42474	隅丸長方形	N-75°-E	0.50	0.42	0.20	
26	2	X=33393,Y=-42475	楕円形?	N-20°-W	0.55	(0.22)	0.23	
27	2	X=33392,Y=-42476	隅丸長方形	N- 0°	0.45	0.40	0.34	
28	3	X=33397,Y=-42464	楕円形	N- 5°-W	0.30	0.22	0.27	
29	3	X=33398,Y=-42463	隅丸長方形	N-16°-E	0.24	0.20	0.16	
30	3	X=33398,Y=-42464	隅丸方形	-	0.21	0.21	0.21	
31	3	X=33399,Y=-42463	隅丸長方形	N- 0°	0.23	0.19	0.16	
32	3	X=33398,Y=-42466	楕円形	N- 5°-W	0.34	0.29	0.25	
33	3							2掘立に変更
34	3							2掘立に変更
35	3	X=33403,Y=-42463	隅丸長方形	N-60°-W	0.32	0.29	0.22	
36	3							2掘立に変更
37	3							2掘立に変更
38	3							2掘立に変更
39	3							2掘立に変更
40	3	X=33404,Y=-42470	不整形	N-75°-W	0.29	0.27	0.23	
41	3	X=33405,Y=-42467	隅丸長方形	N-77°-W	0.22	0.19	0.24	
42	3	X=33409,Y=-42469	楕円形	N-52°-W	0.26	0.23	0.32	
43	3							3掘立に変更
44	3							5掘立に変更
45	3	X=33424,Y=-42478	楕円形	N-60°-W	0.30	0.21	0.20	
46	3	X=33434,Y=-42473	楕円形	N-75°-W	0.48	0.38	0.30	
47	3	X=33432,Y=-42470	隅丸方形	-	0.36	0.35	0.12	
48	3	X=33425,Y=-42477	楕円形	N-49°-W	0.40	0.34	0.21	18住と重複
49	3							5掘立に変更
50	3	X=33428,Y=-42477	楕円形	N-40°-W	0.47	0.37	0.39	
51	3							4掘立に変更
52	3	X=33420,Y=-42476	隅丸長方形	N- 0°	0.45	0.41	0.16	
53	3	X=33420,Y=-42476	楕円形	N-60°-W	0.38	0.30	0.13	
54	3							4掘立に変更
55	3							4掘立に変更
56	3							4掘立に変更
57	3							5掘立に変更
58	3							5掘立に変更
59	3							3掘立に変更
60	3							3掘立に変更

(5) 溝

3号溝(図60、P L 14)

位置 3区X=33418~30, Y=-43467~79

重複 23、24号土坑。新旧関係不明。

走向 西から東(N-13° -W)

東から南(N-11° -E)

形態 検出部分のほぼ中間でほぼ直角に方位を変えている。断面形は蒲鉾状を呈する。

規模 検出全長 (20.54)m

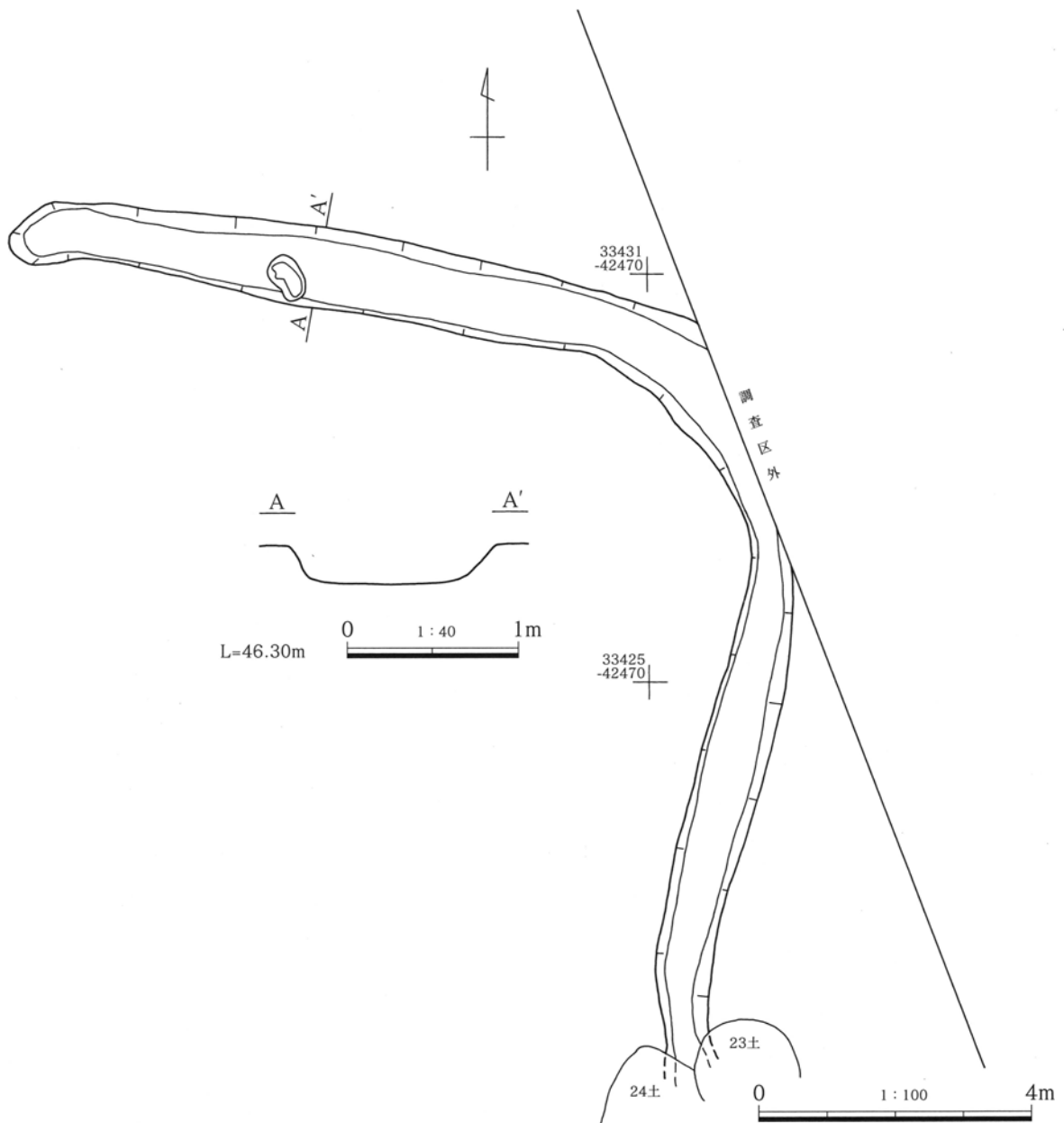
上幅 1.33~0.52m

底幅 0.80~0.29m

深さ 0.20~0.10m

遺物 土師器坏・甕・台付甕片少量含む。

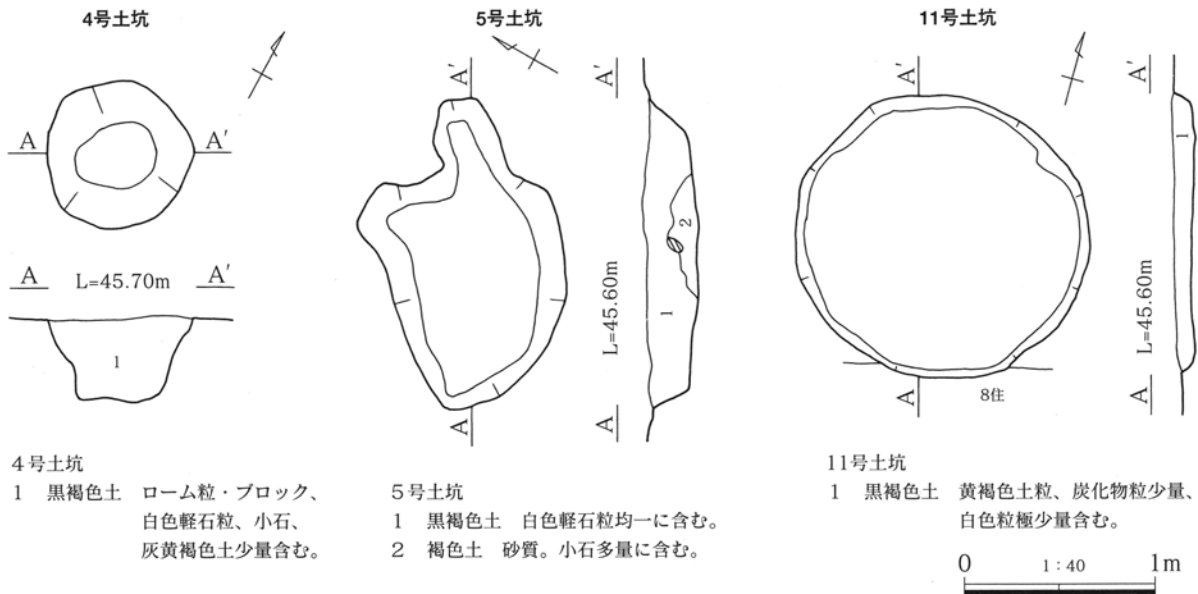
所見 南端は埋土が薄くなって確認できなくなる。さらに南側に伸びていた可能性がある。



第60図 年保3区3号溝実測図

3. 中世以降の遺構・遺物

(1) 土坑



第61図 年保1・2区4・5・11号土坑実測図

第9表 年保遺跡 土坑一覧表(中世以降)

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
4	1	X=33345,Y=-42443	円形	-	0.80	0.80	0.45	
5	1	X=33345,Y=-42443	不整形	N-63°-E	1.63	0.95	0.30	
11	2	X=33388,Y=-42481	円形	-	1.55	1.48	0.10	

(2) 溝

1号溝(図62、P L14)

位置 3区 X=33396~409, Y=-42459~63

重複 11号住居 1号溝が11号住の壁を掘り壊しており、1号溝の方が後出。

走向 北から南(N-10°-E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は法面の緩やかな皿状を呈する。

規模 検出全長 13.40m

上幅 2.03~1.20m

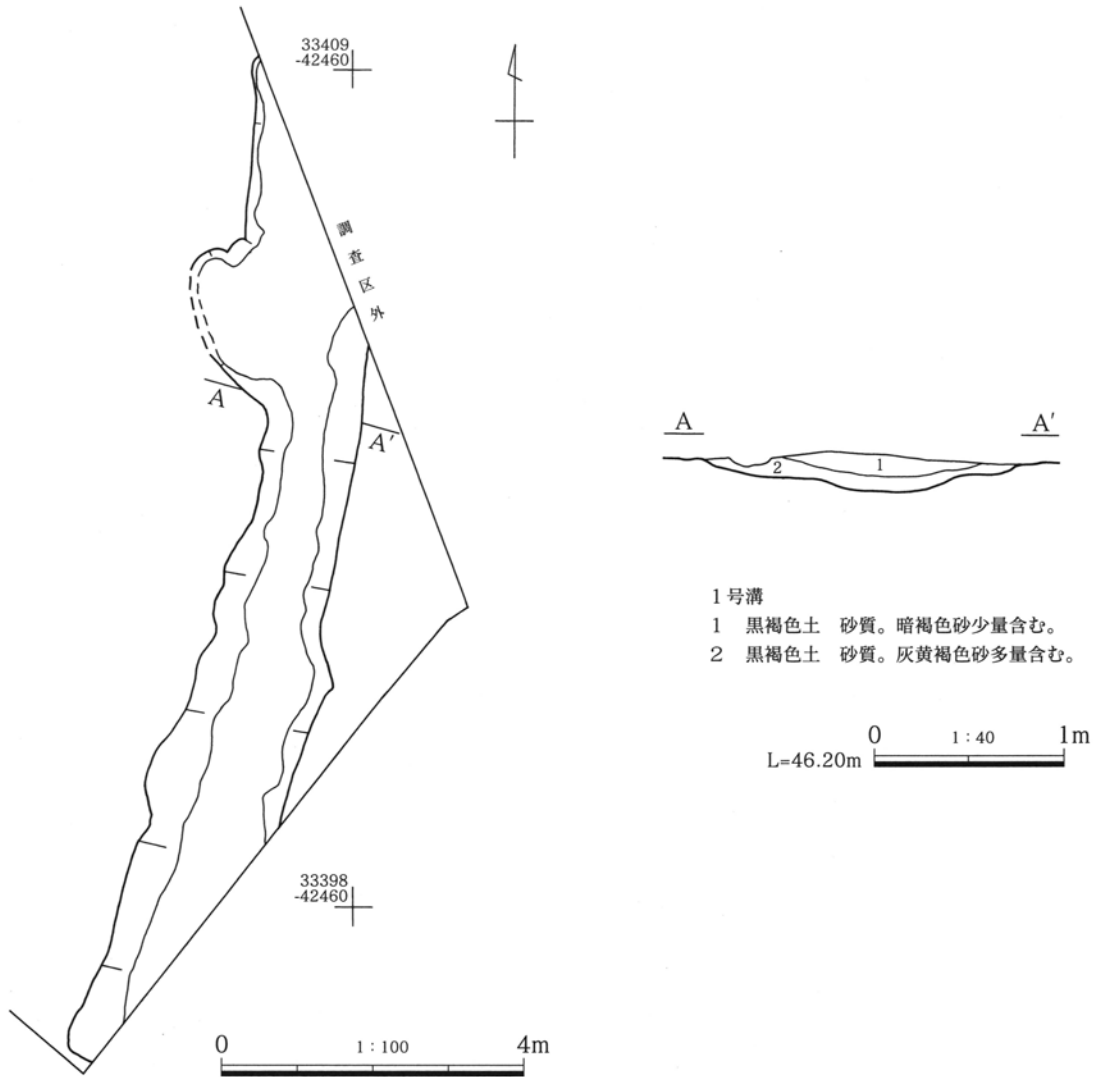
底幅 1.48~0.42m

深さ 0.23~0.10m

遺物 土師器坏・甕片が多量出土している。

所見 埋没土は、砂質である。出土の土師器片は摩耗しており、鉄分の付着が多く見られることから、流水を伴う溝であったと考えられる。底面レベルは一方向への明瞭な推移を示さないが、周囲の確認面レベルにより北側から南側への流下と考えられる。

IV 年保遺跡の遺構と遺物



第62図 年保3区1号溝実測図

2号溝(図63・64、P L14・22)

位置 3区X=33396~418, Y=-42464~69

重複 2号溝が19・20号土坑壁を壊すことから、土坑より2号溝が新しい。

走向 (N-11°-E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は蒲鉾状を呈する。

規模 検出全長 21.00m

上幅 2.78~0.82m

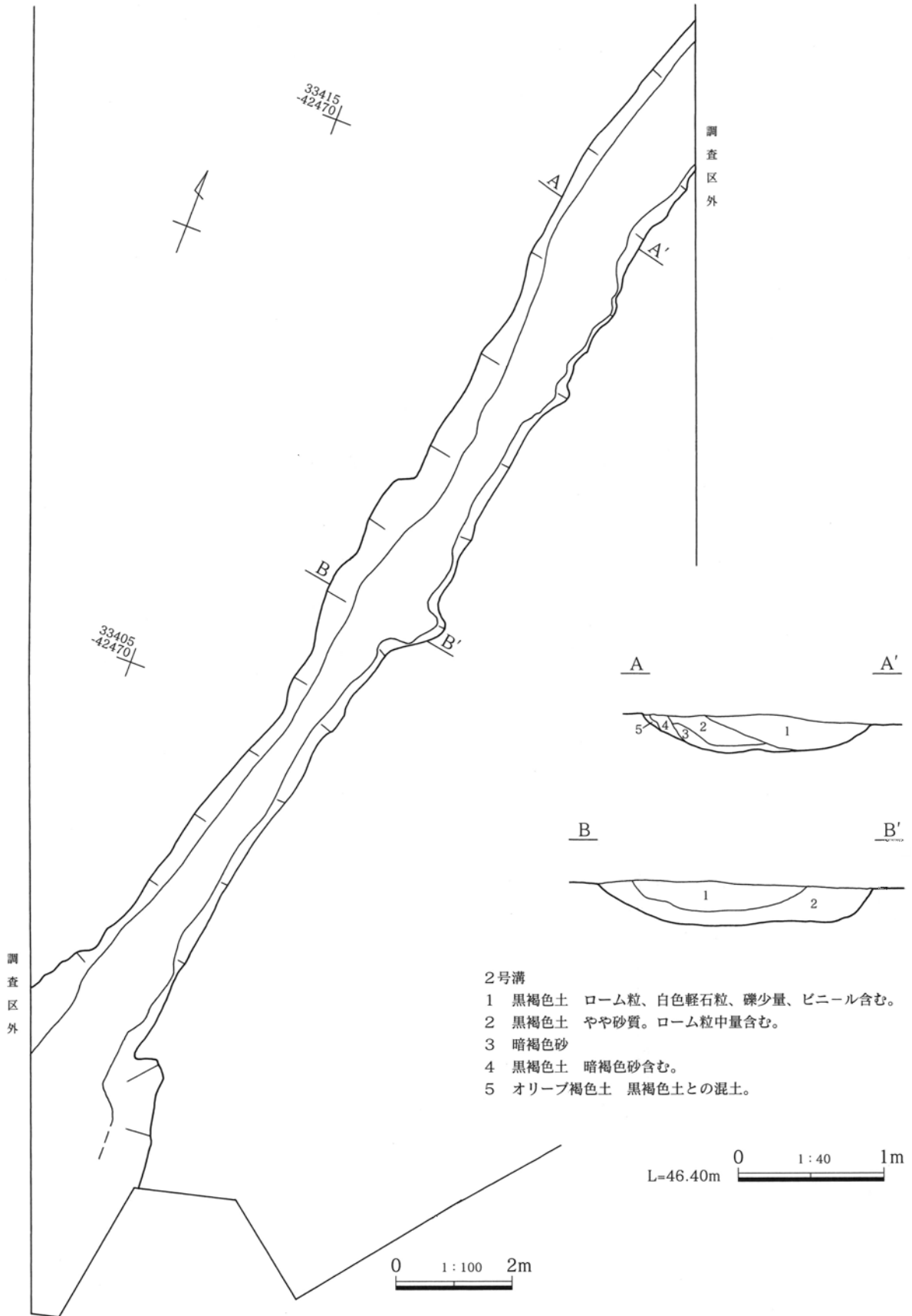
底幅 1.70~0.38m

深さ 0.30~0.11m

遺物 土師器坏・甕破片多数、須恵器破片2点、土

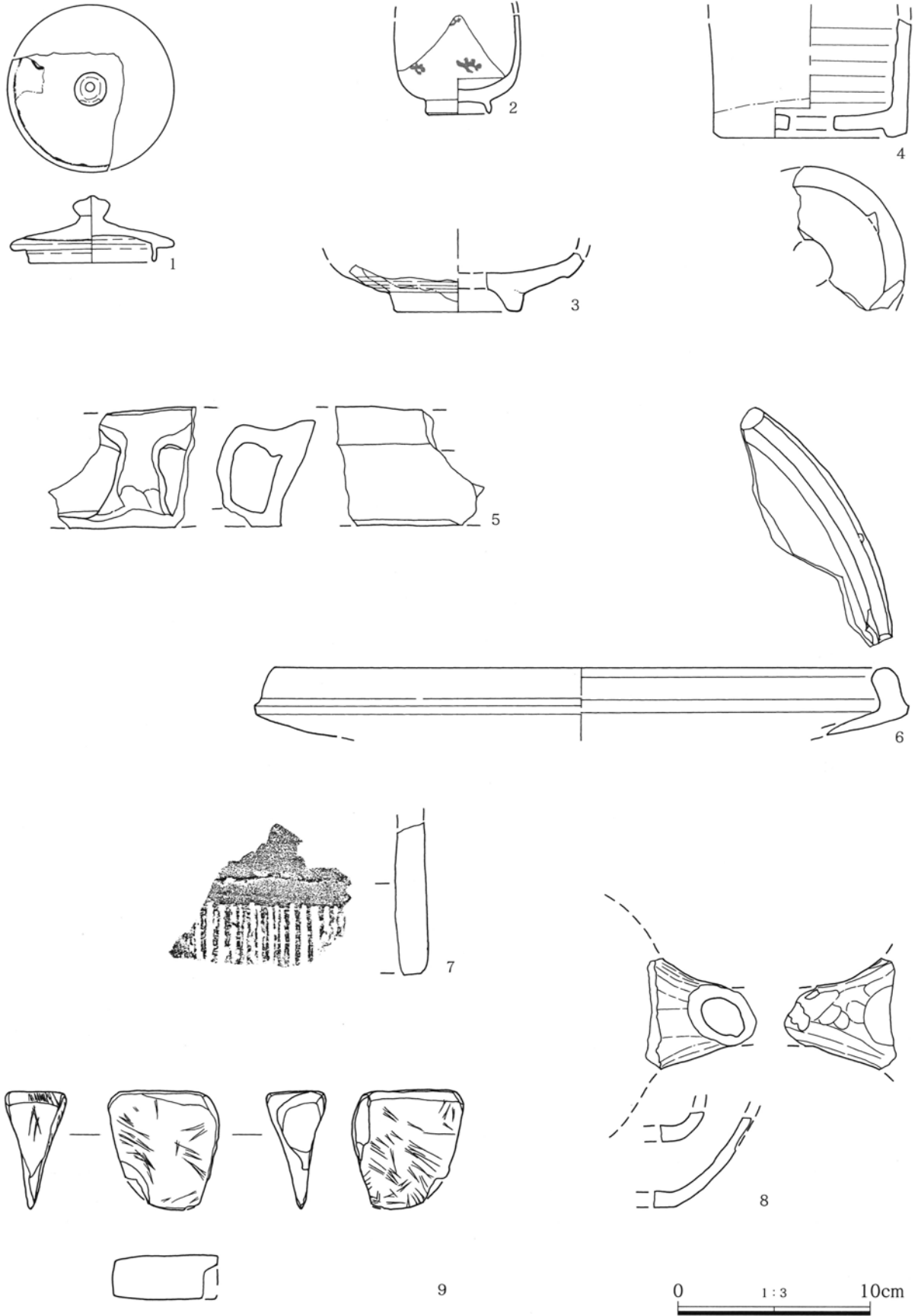
瓶蓋・植木鉢や焙烙等近世~近代陶磁器片少量・ガラス片極少量を含む。

所見 溝の最深部が緩やかに蛇行しており、複数の時期の溝を捉えている可能性もある。埋没土はやや砂質である。近現代の溝であり、流水があった可能性が高い。溝底部のレベルは北側が南側より15cmほど高く北から南への流下と考えられる。



第63図 年保3区2号溝実測図

IV 年保遺跡の遺構と遺物



第64図 年保3区2号溝出土遺物実測図

4. 遺構外出土遺物

年保遺跡で出土した、遺構に伴わない遺物を時代別に報告する。なお、旧石器、弥生時代の明瞭な遺物は確認されていない。

(1) 縄文時代 (図65、P L22)

周辺は縄文土器の散布地とされているが、縄文時代の遺構は確認されていない。中期から後期にかけての遺物が数点出土している。1・2・3は中期、4・5は後期の土器である。表面の摩耗した小破片が多い。6は凹み石である。

(2) 古墳時代 (図66、P L22)

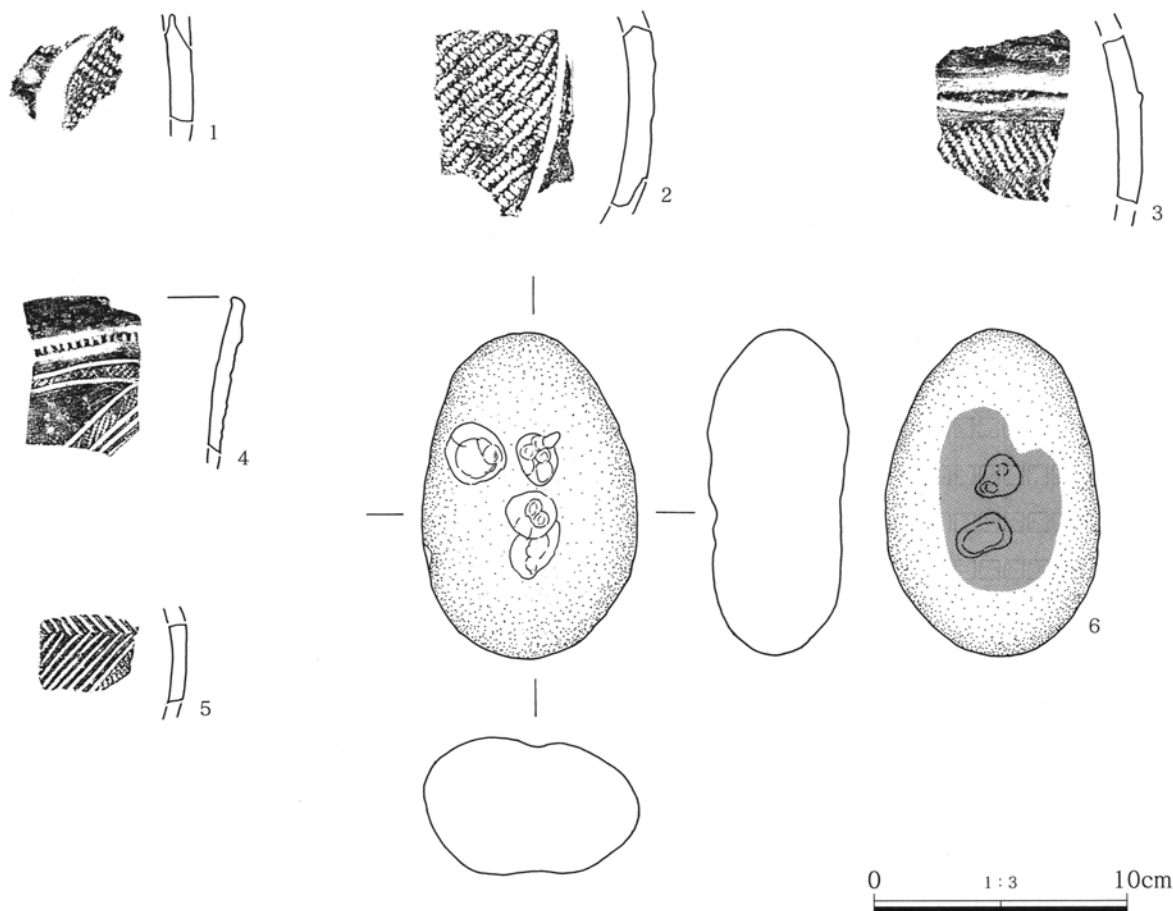
検出された住居跡の年代と同じく、後期の遺物が主体を占め、前期の甕胴部小破片等が若干混入している。ほぼ全てが土師器であり、数点の須恵器片が存在する。

(3) 奈良・平安時代

明らかに奈良・平安時代のものと出来るものは、土師器破片など極少ない。絶対量が少ない上に摩耗も激しく、報告できるものはない。

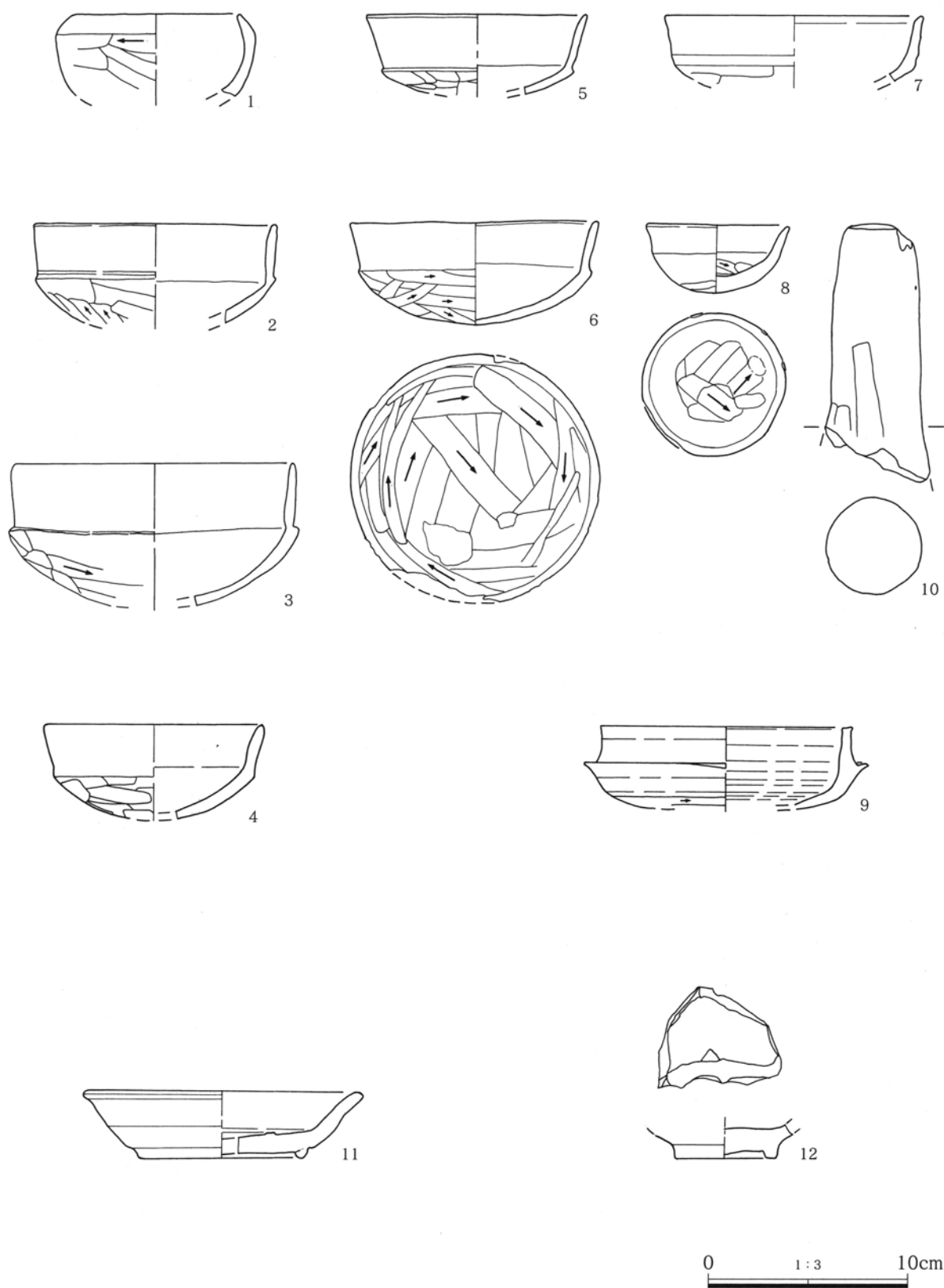
(4) 中世以降 (図66、P L22)

現代のものも含む陶磁器片等が若干出土している。



第65図 年保遺構外出土遺物実測図(1)

IV 年保遺跡の遺構と遺物



第66図 年保遺構外出土遺物実測図(2)

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

1. 遺跡の概要

鳥山下遺跡では平安時代の遺構を中心として中近世の遺構若干と、縄文時代から近世に至る遺物を検出した。ローム層直上まで圃場整備のため削平を受けており遺構の残存状況は良好とはいえない。層位的にも縄文時代以降の全ての時期をローム層上の1面で捉えることとなり、土坑状の遺構などでは時期の特定が出来なかったものも多い。

時期を判定できた遺構を中心に以下、時代毎に遺跡の概要を記すことにする。

旧石器時代

旧石器時代のものとして認定できる遺物は検出されていない。層位的には灰～灰黄褐色粘質ローム下にAs-YP層、灰色砂混じりシルト層、灰色砂層、灰色砂礫層が観察された。従って、旧石器時代の遺構・遺物は存在しないと判断した。

縄文時代・弥生時代

遺構外の遺物として縄文時代の土器片、石器が少量検出された。土器片はいずれも小片で摩耗の激しいものが多いが中期の遺物と考えられる。石器では打製石斧と共に先端部を欠くが尖頭器1点が出土した。これに伴う遺構は検出されていない。本遺跡地は微高地の西側縁辺部に位置することから微高地上に集落等の存在する可能性が考えられる。明らかな弥生時代の遺構遺物は検出されていない。

古墳時代

前期の住居跡1軒が10区で検出されただけである。遺構外出土遺物も明らかに古墳時代のものとして判別できる遺物は極少なく、前期のものが若干出土している。

奈良・平安時代

本遺跡の出土遺構・遺物の主体を成している。検出された竪穴住居跡21軒中時期不明の4軒を除く16軒が本時代の住居跡である。9・10区の北端及び南半に集中している。また、南半の集中部分には

同時期の井戸も3基検出された。9～10世紀に埋没したと考えられるものでそれぞれから完形に近い椀が出土すると共に耳皿・墨書土器が出土している。

更に柱穴の平面形が円形又は方形の掘り方をもち柱痕径が径20～30cm前後と比較的規模の大きな掘立柱建物跡4棟が検出されている。

数多く検出された土坑中埋没土及び出土遺物等から14基を古代のものとして判定した。遺跡南半の集落中にある188号土坑は底部を欠損した埋設土器の可能性はある。

奈良平安時代には、本遺跡の北側に新田郡衙と推定される遺跡地や東山道跡も検出されつつある環境であり、本遺跡の立地する微高地には同時期の大規模な集落跡も検出されていることから、本遺跡もそれらと関連する遺跡である可能性が考えられる。

中世以降

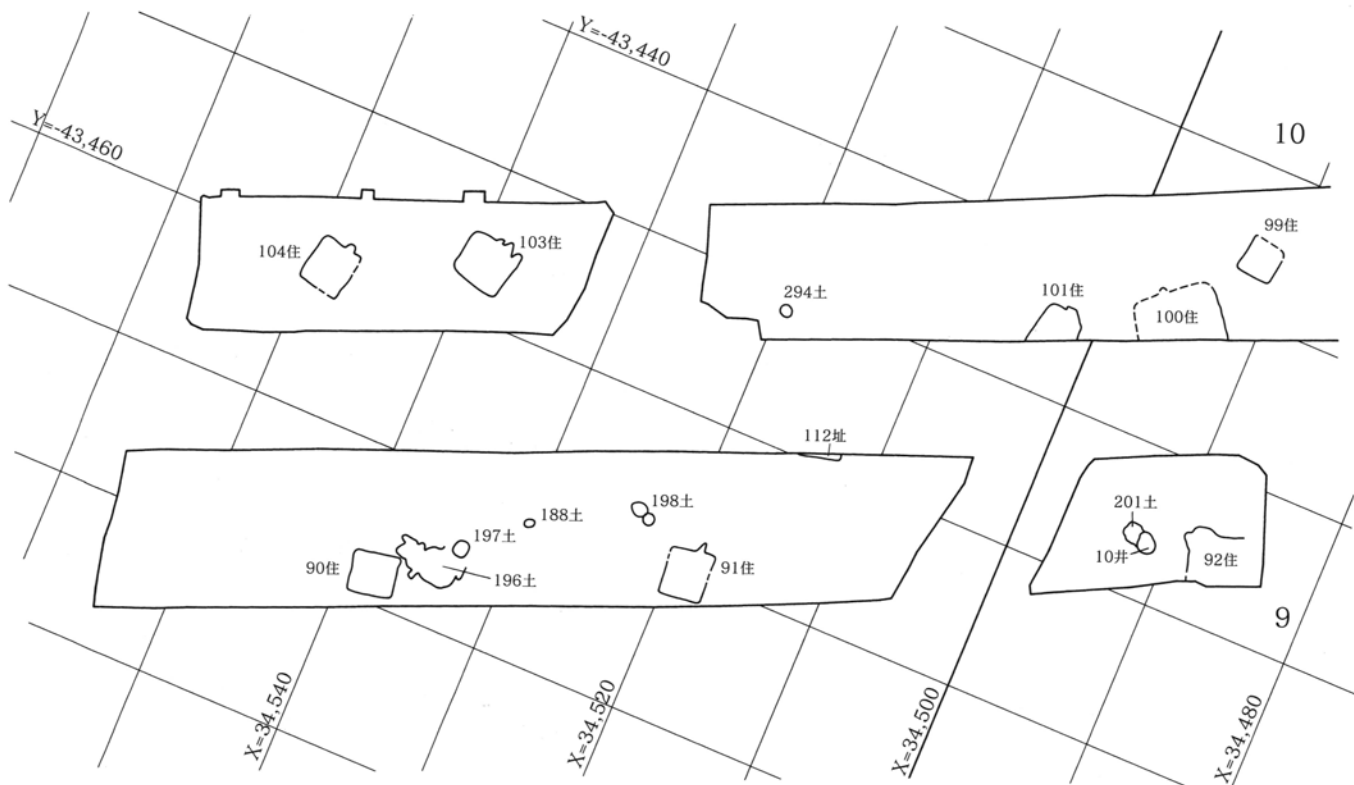
9区中央部の2条の溝からは中世の遺物が出土している。2本の溝に画された内側からは時期不明ながら数多くのピットが検出され、溝との関連もうかがわれる。

また、時期の確定は出来なかったがその形状から中世以降のものとして推定される掘立柱建物跡や、溝、道路跡等も検出されている。

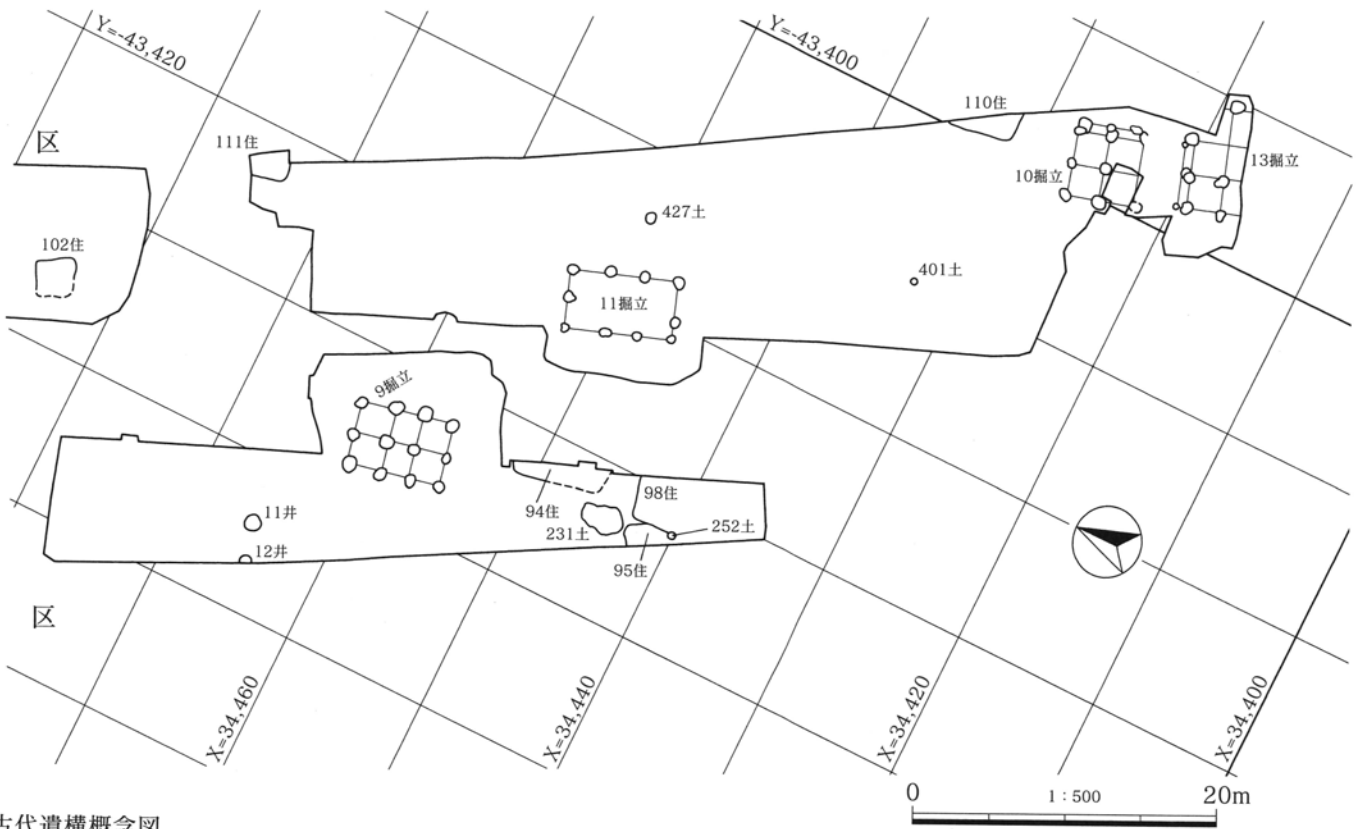
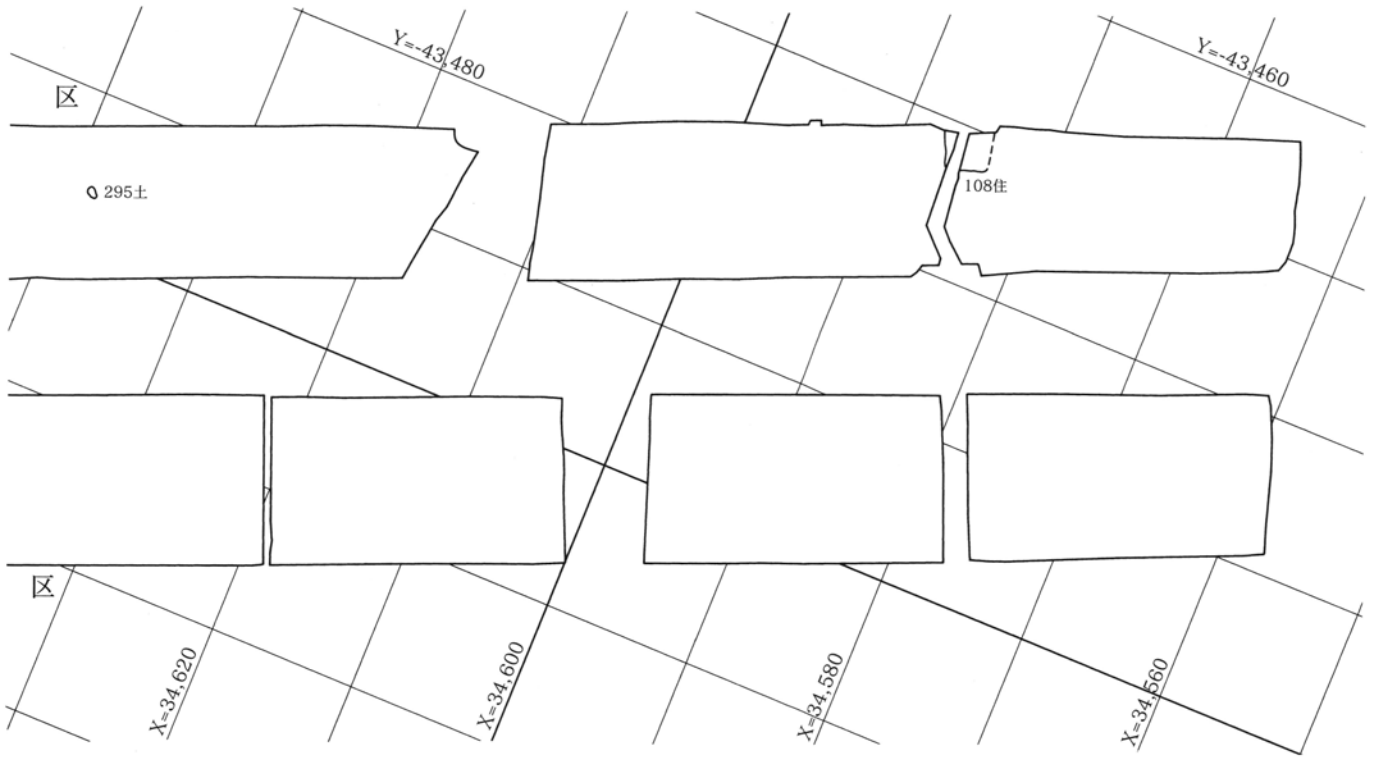
遺跡地東方に隣接する現鳥山集落内には中世以降の鳥山氏館跡等の遺跡があり、中世以降も集落として機能していた区域である可能性が推定できる。

また、300基を数える土坑を検出している。その多くは時期不明と言わざるを得ないが28基はその形状や出土遺物から中世以降のものとして判定した。9区中央部の溝近辺にある平面楕円形を呈するやや大型の土坑からは溝と同じく中世の土器片を出土し溝との関連も考えられるものである。

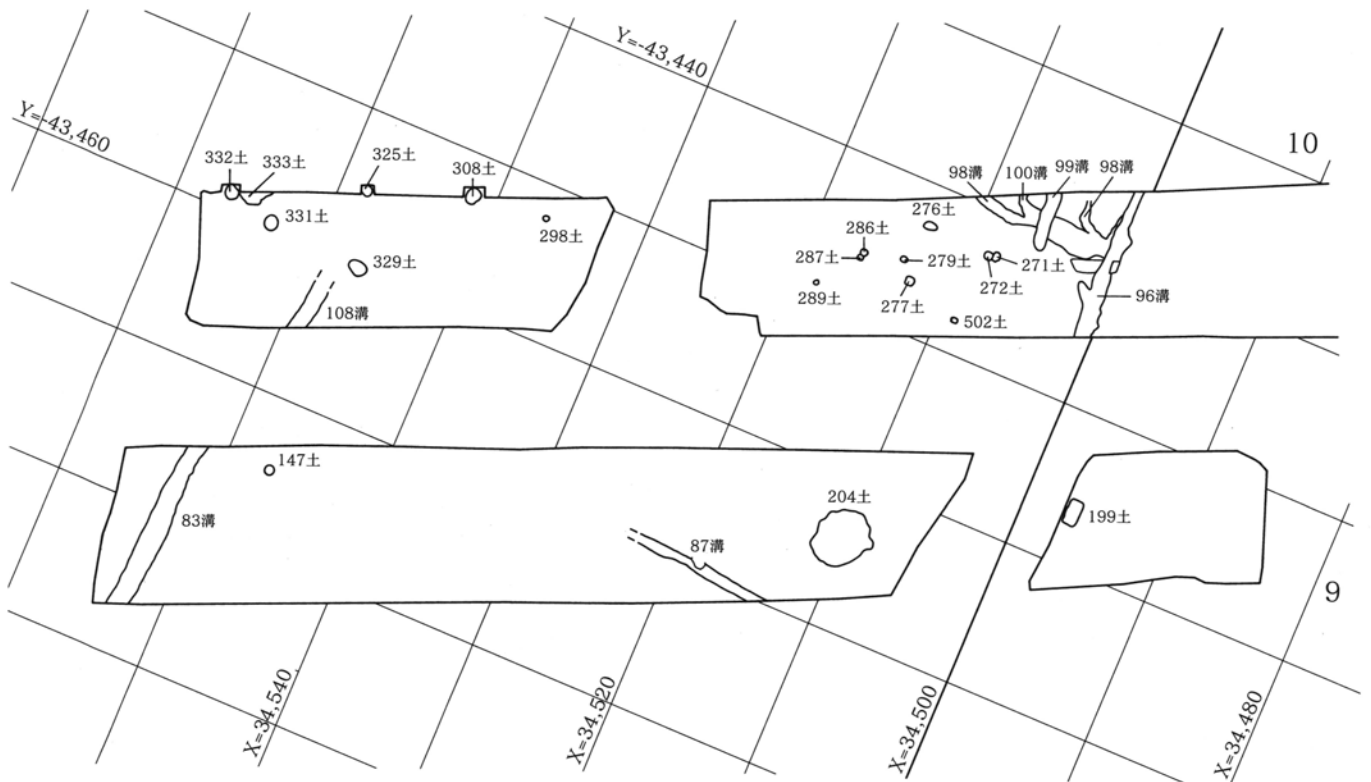
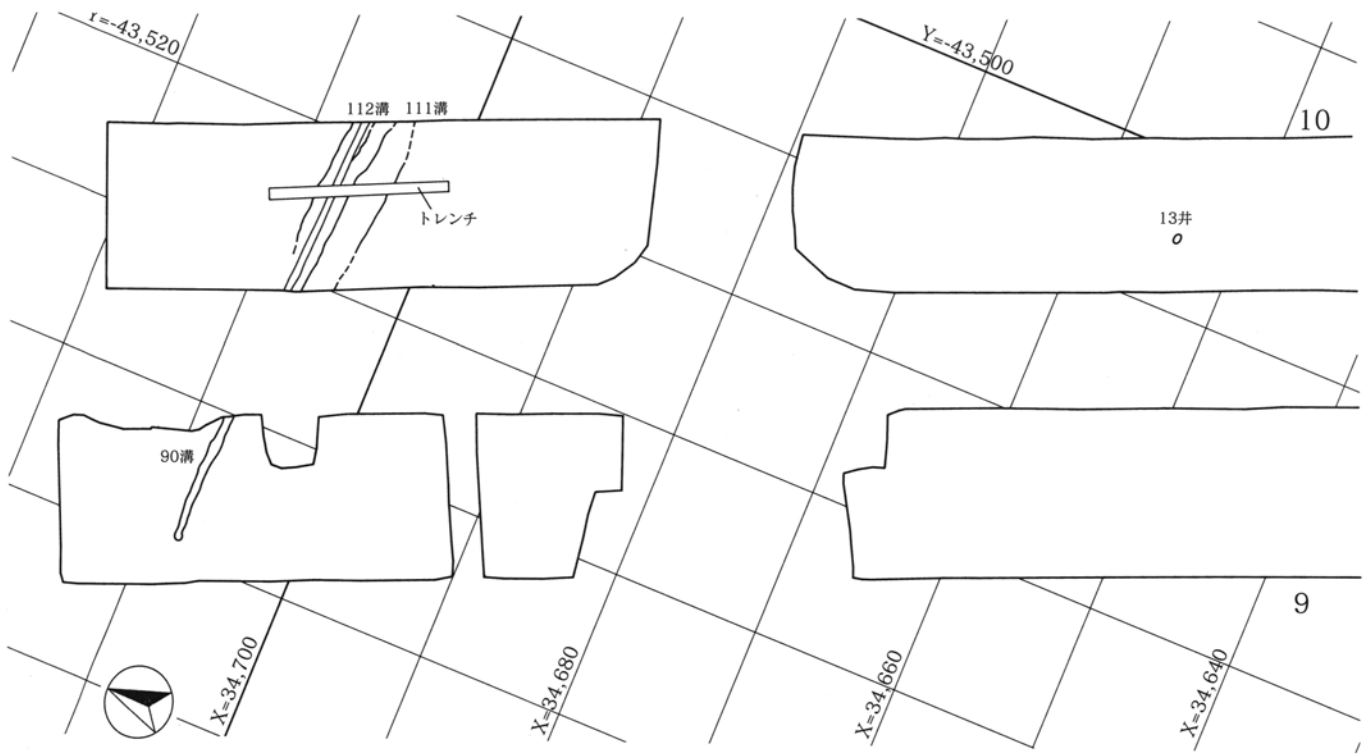
なお、9・10区の中央の96号溝からは大量の瓦片に混じって近世陶磁器が出土している。溝としたものの内いく条かは、道路の痕跡を示すものの可能性がある。



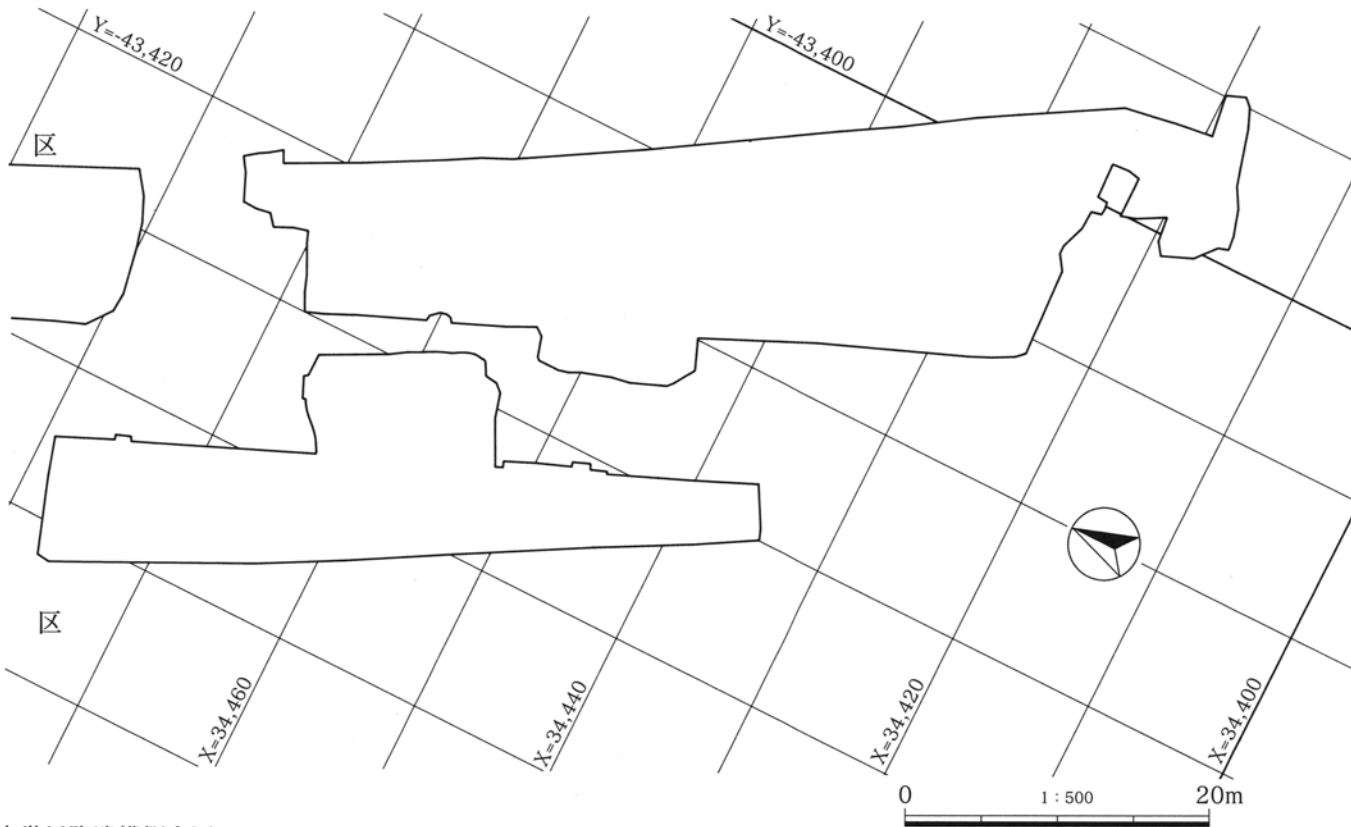
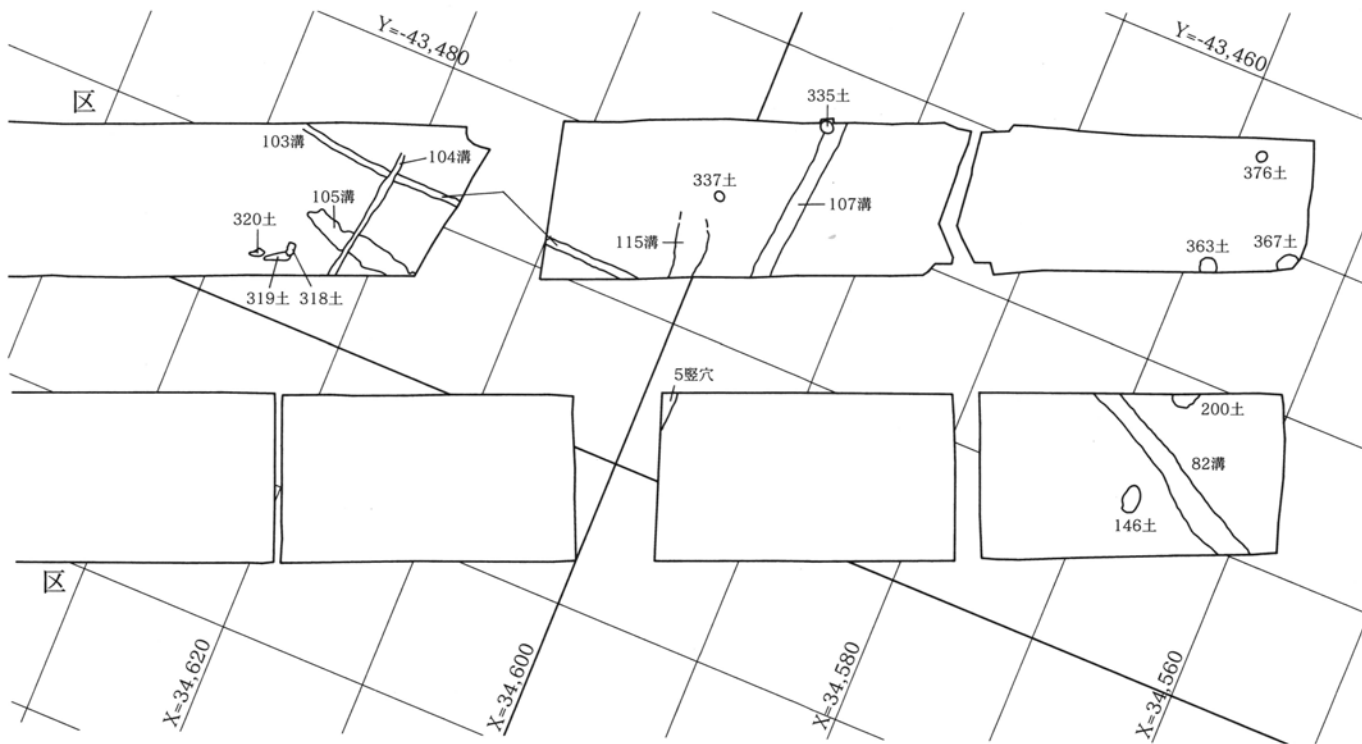
第67図 鳥山下遺跡



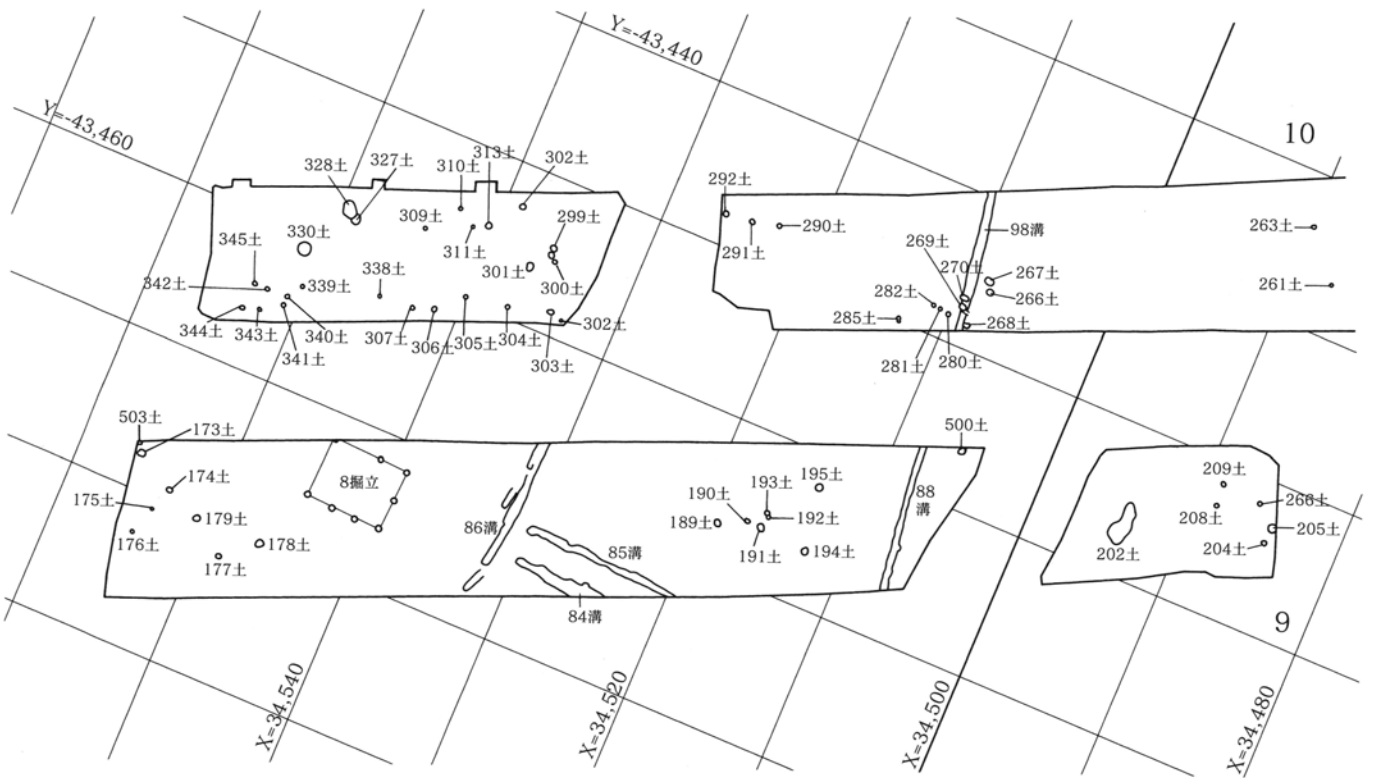
古代遺構概念図



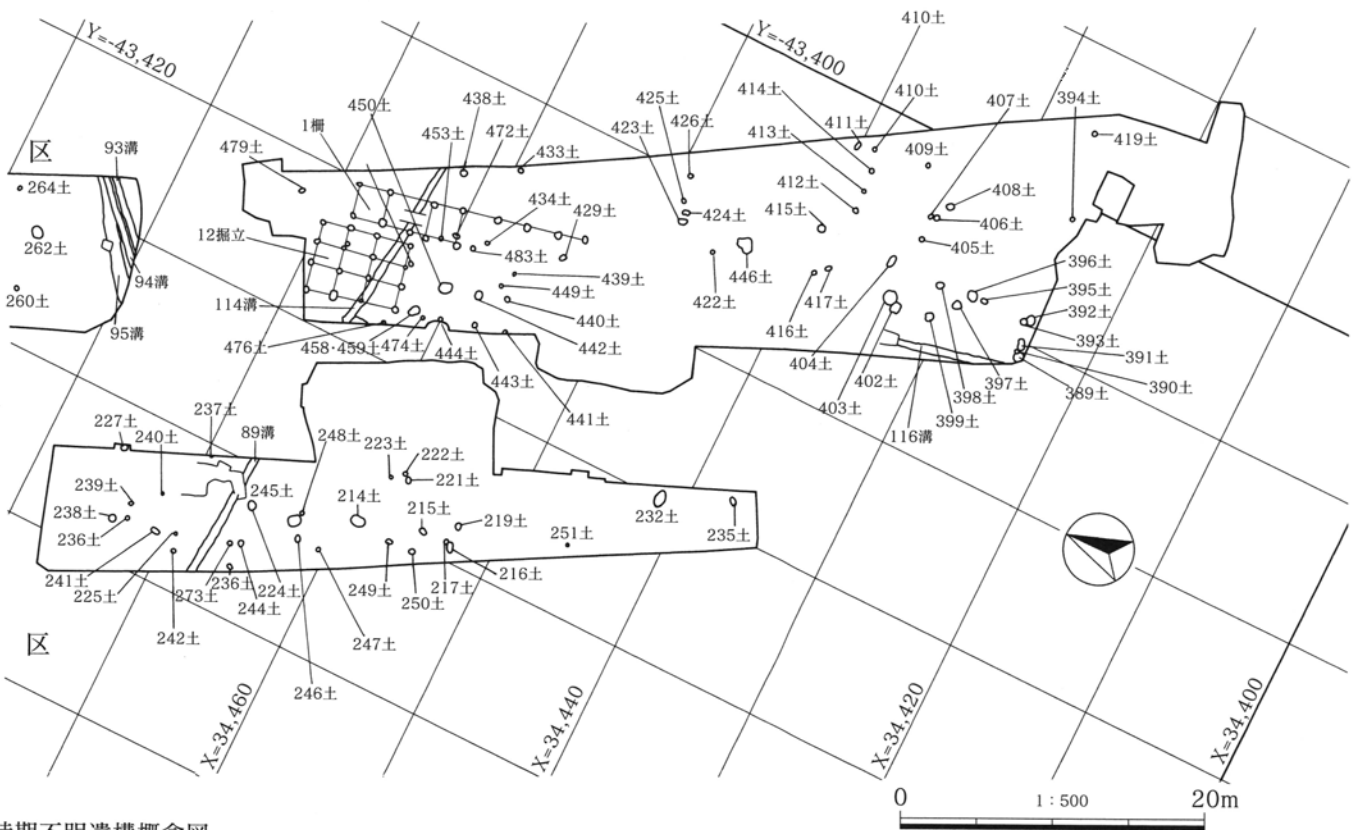
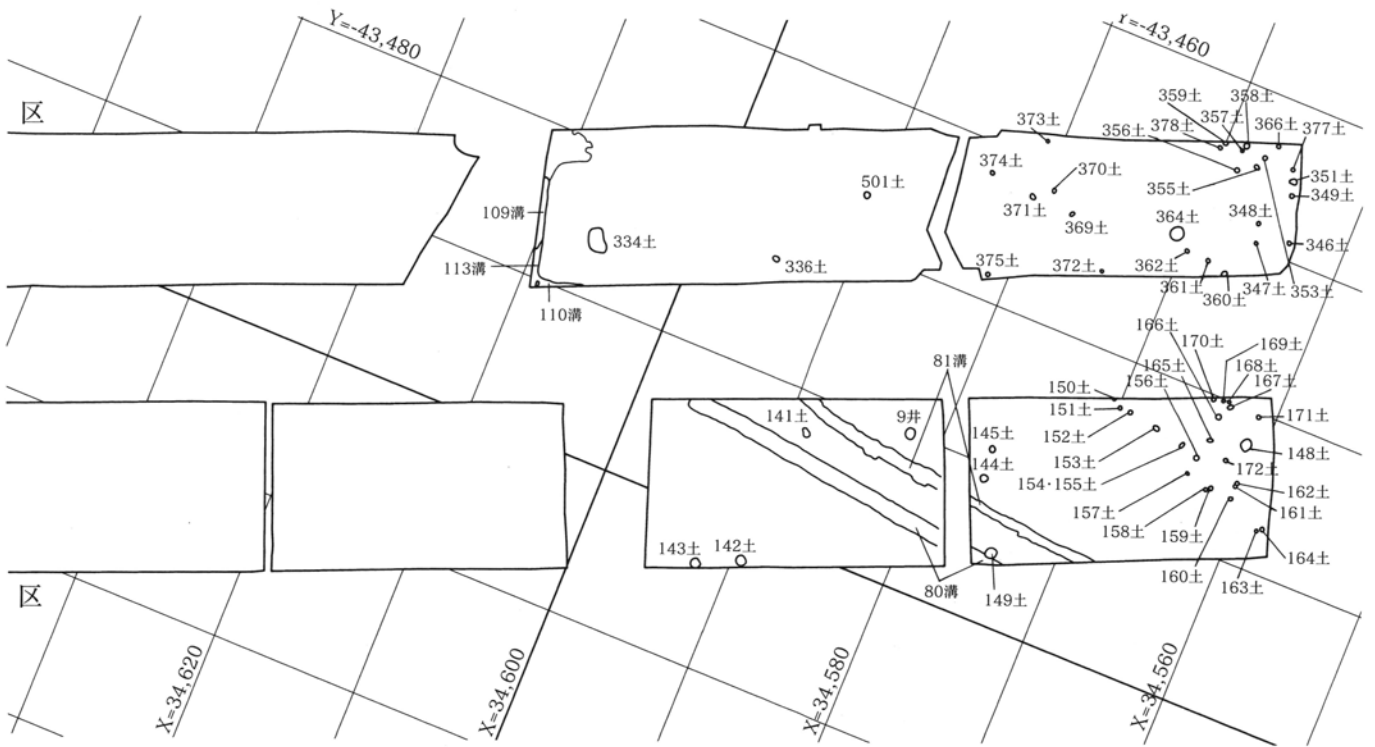
第68図 鳥山下遺跡



中世以降遺構概念図



第69図 鳥山下遺跡



時期不明遺構概念図

2. 古代の遺構・遺物

(1) 竪穴式住居跡

90号住居(図70、P L25・44)

位置 9区X=34536~39, Y=-43476~79

重複 なし

形態 ほぼ正方形を呈す。

方位 N-7° -W

規模 3.02m×2.75m

面積 7.64m

壁高 一。遺構確認面で掘り方のみ検出。

床面 後世の削平を受け、残存していない。掘り方面は、ほぼ平坦である。住居南壁際に30cm程の深度を持つ方形プランの2つのピットを検出した。

柱穴 柱穴と認定できるものはなかった。

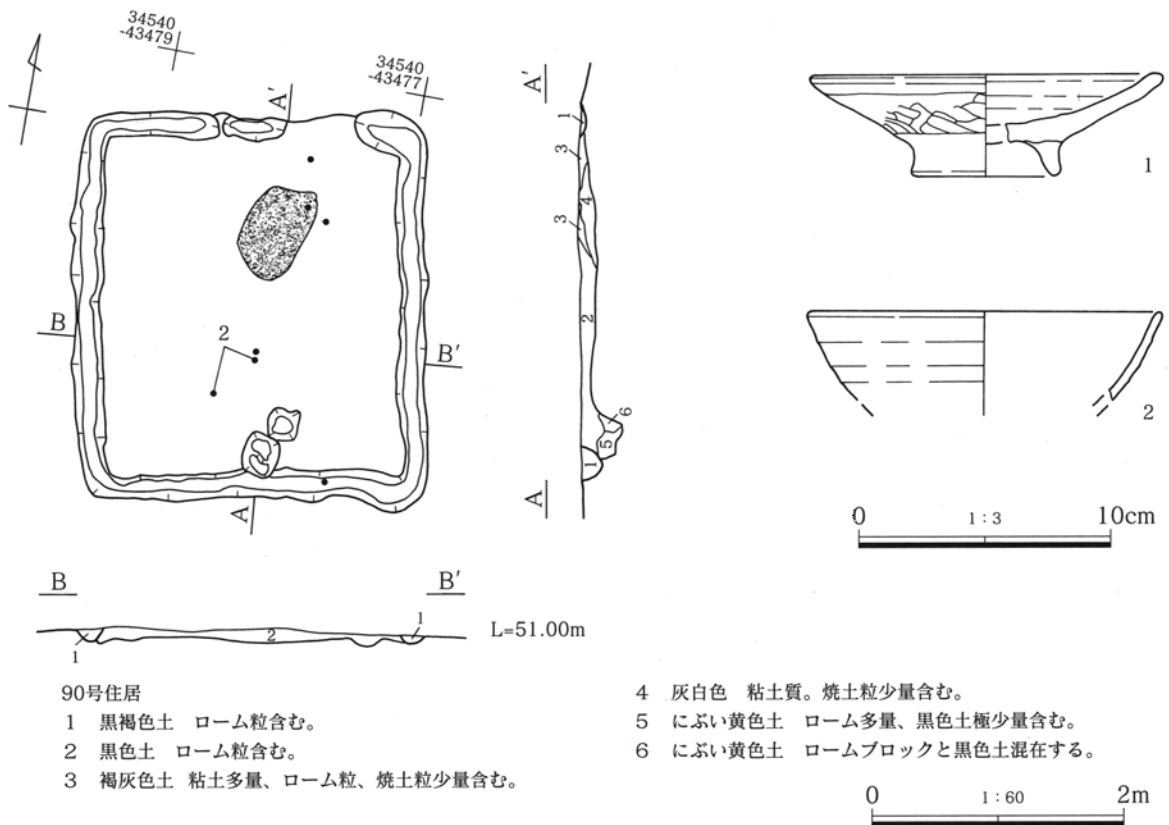
貯蔵穴 確認されていない。

周溝 北壁東寄りで50cmほど途切れるが、幅20cm深さ5~10cm程の溝がほぼ全周する。

竈 確認されなかったが、床面中央よりやや北寄りに長径80cm短径50cm程の粘土ブロック混在層が見られ、周溝が途切れることから北壁東寄りに存在した可能性が考えられる。

遺物 掘り方より土師器甕・椀、酸化・還元焰の須恵器椀などの破片が少量出土している。

所見 本住居は住居形態、掘り方出土遺物の主体から9世紀後半から10世紀前半に比定される。



第70図 鳥山下9区90号住居・出土遺物実測図

91号住居(図71、P L25・44)

位置 9区X=34517~20, Y=-43467~71

重複 87号溝。近世以降の87号溝が本住居東側の

壁・床面を掘り壊している。

形態 東西にやや長い長方形を呈する。

方位 N-85° -E

規模 3.17m×2.85m

面積 8.21㎡ 壁高 10cm

床面 中央部分では、掘り方を固めて床面として
いる。掘り方面は、北西・南西・南東の隅に僅かな
土坑を有する。竈前には、長径115cm短径65cm深
度10cmほどの楕円形を呈する床下土坑がある。

柱穴 確認されていない。

貯蔵穴 南東隅の壁と接する長径70cm短径50cm程
の土坑は、深度は浅いがその位置から貯蔵穴と考え
られる。

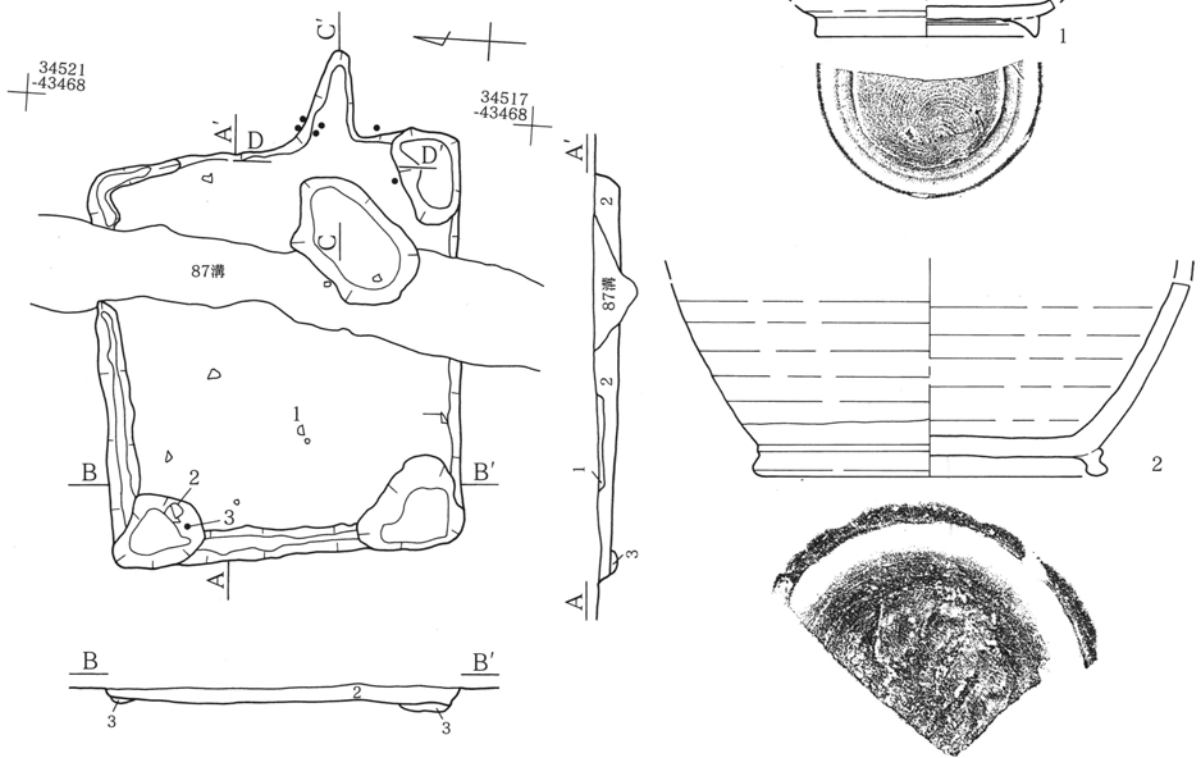
周溝 北壁・西壁下に、住居をほぼ半周する幅20

cm深度4cm程の溝を確認した。

竈 東壁やや南寄りに構築されている。規模は掘り
方面で全長70cm、幅40cm程で、煙道部が壁外に張
り出している。土層断面で袖部を構築した粘質土が
確認されている。

遺物 土師器甕破片、須恵器杯・碗破片など遺物は
少量であった。北西隅の土坑から2の短頸壺、3・
4の土錘2点が出土している。

所見 本住居は出土遺物から9世紀後半から10世
紀前半に比定される。



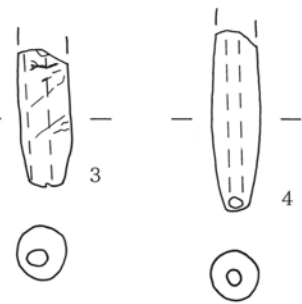
91号住居

- 1 黒色土 ローム粒中量、焼土粒極少量含む。
- 2 黒色土 ローム粒少量含む。
- 3 オリーブ黒色土 ロームと黒色土の混じり。

91号住居 カマド

- 1 黒褐色土 焼土粒中量、炭、ローム粒少量含む。
- 2 暗灰黄色土 ロームと粘土の混土。
- 3 灰白色土 粘土主体。ローム、焼土少量含む。
- 4 黄灰色土 2よりローム少なく、焼土をより多く含む。
- 5 黒褐色土 焼土粒多く、炭少量含む。
- 6 オリーブ褐色土 カマド袖。ローム主体。
- 7 黒褐色土 ローム粒多量、焼土、炭少量含む。

0 1:3 10cm



0 1:2 5cm

0 1:60 2m

L=50.70m

第71図 鳥山下9区91号住居・出土遺物実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

92号住居(図72、P L25・44)

位置 9区X=34486~89, Y=-43453~56

重複 なし

形態 後世の削平が激しく北東コーナー部を検出したが、壁の歪みが大きい。

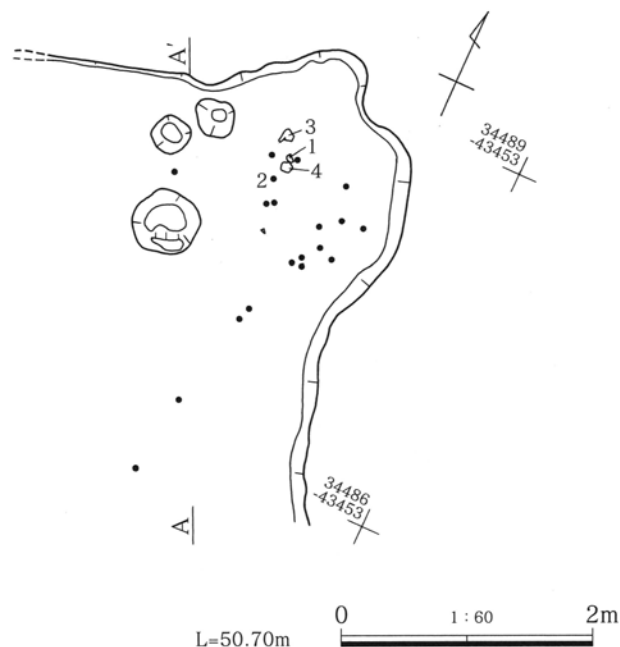
方位 測定不能

規模 計測不能

面積 計測不能

壁高 4cm

床面 明瞭な床面は確認できなかったが、セクション中央部で硬化面が確認され、床面の可能性がある。硬化面下で10cmほどの埋め土を施している。掘り方面は幾分の凹凸があるが、ほぼ平坦である。



92号住居

- 1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、白色軽石粒少量、炭化物微量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒、炭化物少量含む。上面が硬化する。
- 3 黒褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒、焼土、炭化物少量含む。

柱穴 調査範囲では未確認。

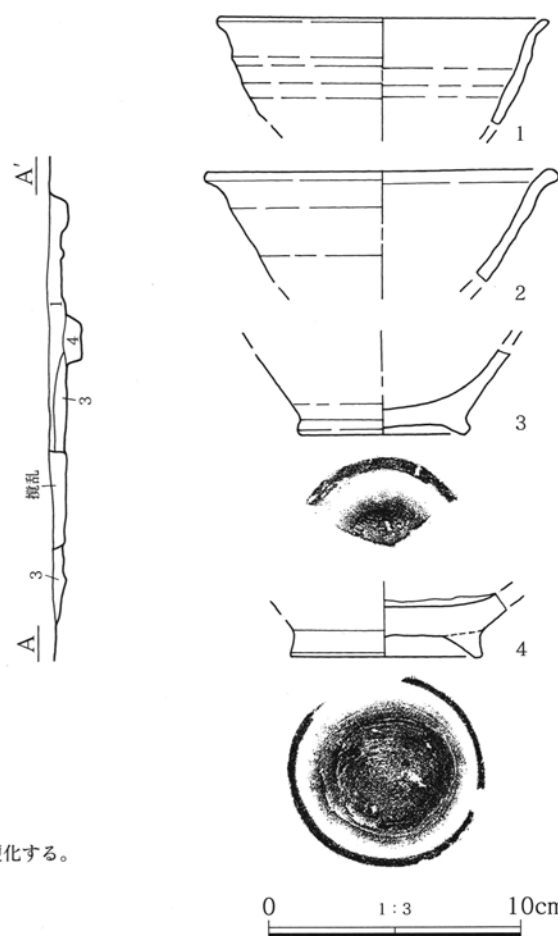
貯蔵穴 調査範囲では未確認。

周溝 調査範囲では未確認。

竈 調査範囲では未確認。

遺物 土師器甕、坏、須恵器・内黒椀の小片が出土している。

所見 本遺構は出土遺物より9世紀に比定される。硬化面が一部認められたが、遺構プランが明瞭でなく土坑状の掘り込みの可能性も残る。



第72図 鳥山下9区92号住居・出土遺物実測図

94号住居(図73、P L25)

位置 9区X=34445~51, Y=-43430~33

重複 なし

形態 全形は確認できなかった。

方位 N-12° -W

規模 (5.75)m×(1.70)m

面積 調査区内で7.36㎡ 壁高 12cm

床面 住居中央部分は掘り方面を平坦にし、周縁部は5cmほどの埋め土を施して平坦な面を造る。掘り方面は、南・北側に若干の掘り込みをもつ。また、

南東部で長径80cm短径70cm深度60cmを測る土坑状の窪み1基を検出。

柱穴 明瞭なものは未確認。

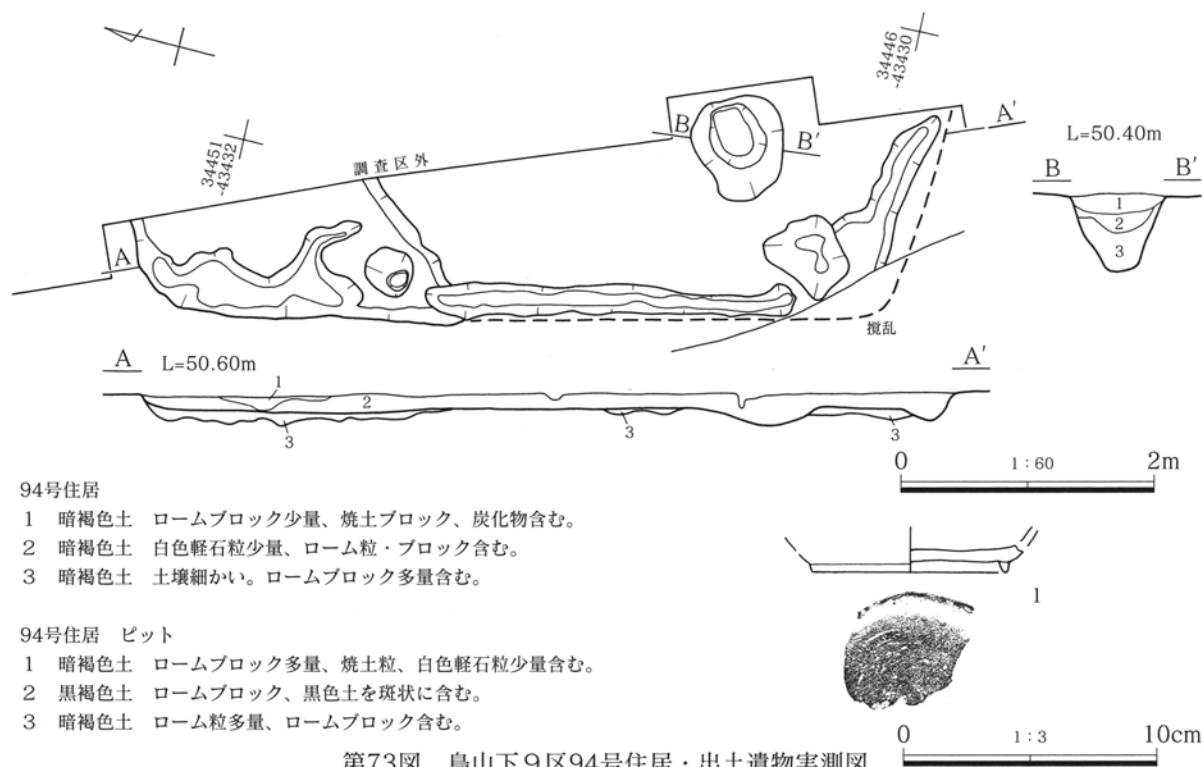
貯蔵穴 明瞭なものは未確認。

周溝 西壁から南壁下で、幅20cm深度5cm程の溝を検出した。更に北に延びていた可能性もある。

竈 調査範囲内では、未確認。

遺物 土師器甕、坏、須恵器高台付椀片などの小片が覆土中より僅かに出土している。

所見 出土遺物は9～10世紀のものが多いが、点数は少ない。住居の形状からより古い時代の可能性も考えられる。



94号住居

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化物含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石粒少量、ローム粒・ブロック含む。
- 3 暗褐色土 土壌細かい。ロームブロック多量含む。

94号住居 ピット

- 1 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒、白色軽石粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック、黒色土を斑状に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック含む。

第73図 鳥山下9区94号住居・出土遺物実測図

95号住居(図74、P L25)

位置 9区X=34440～43, Y=-43428～32

重複 98号住、252号土坑。土層断面、平面形から98号住よりも前出である。252号土坑との新旧関係は不明。

形態 住居の半分ほどは調査区外に伸び、南側は、床下面までの削平を受けるため全形は確認できなかった。

方位 N-30° -W

規模 (1.50)m×(1.45)m

面積 計測不能

壁高 一。遺構確認面で掘り方のみ検出。

床面 後世の削平を受け、残存していない。北半は、掘り方面から厚さ3cm程埋め土が残存していた。掘

り方面では、床下土坑1基を検出した。また、埋土の近似する252号土坑も床下土坑である可能性が考えられる。

柱穴 調査範囲では未確認。

貯蔵穴 調査範囲では未確認。

周溝 調査範囲では未確認。

竈 調査区外にかかり樹痕等の攪乱を受けるため確認できなかったが、北西壁東寄り焼土粒及び粘土ブロックをやや多く含む範囲が認められ、位置から考えて竈の可能性はある。

遺物 奈良・平安期の土師器小片が極少量出土したが、図化できるものはなかった。

所見 遺構の残存状況が悪く、出土遺物も極少ないため本住居の時期は不明である。

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

98号住居(図74、P L25)

位置 9区X=34440~42, Y=-43432~34

重複 95号住、232号土坑。掘り方面での観察だが、レベルがほぼ同じで、95号住を壊して98号住の周溝が造られていることから、本住居が後出である。232号土坑との新旧は不明。

形態 南壁側では、掘り方面も明瞭でないほどの削平を受けており、全形は確認できなかった。

方位 N-3°-W

規模 (2.70)m×(2.70)m

面積 計測不能

壁高 一。遺構確認面で掘り方のみ検出。

床面 後世の削平を受け、床面は残存していない。

残存部分の掘り方面はほぼ平坦である。住居内北寄りでは、5cmほど掘り方の埋め土が残存していた。232土坑は埋土の検討が出来ず別遺構として報告したが、床下土坑の可能性も考えられる。

柱穴 調査範囲では未確認。

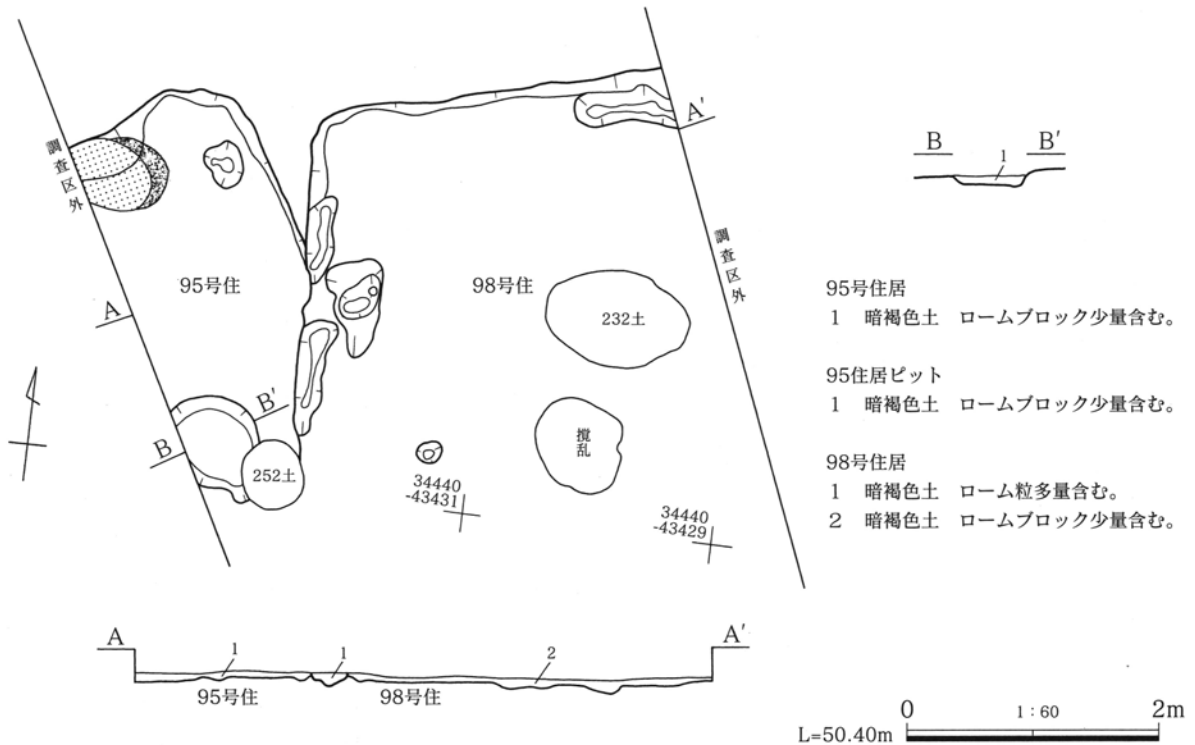
貯蔵穴 調査範囲では未確認。

周溝 西壁中央と北壁下の一部に幅20cm深度5cm程の溝状の窪みがあり、周溝の下部と推定される。

竈 調査範囲では未確認。

遺物 奈良・平安期の土師器甕、坏の破片が極少量出土しているが、小片のため図示できなかった。

所見 遺構の残存状況が悪く、出土遺物も極少ないため本住居の時期は不明である。



第74図 鳥山下9区95・98号住居実測図

97号住居(図75、P L26・44)

位置 9区X=34686~90, Y=-43534~38

重複 なし

形態 南北にやや長い長方形を呈する。

方位 N-8°-E

規模 4.75m×3.60m

面積 14.33㎡

壁高 一。遺構確認面で、掘り方のみを確認。

床面 確認できなかった。掘り方面は、中央部をやや高く造り、周辺を一部深くする。4基の床下土坑が造られている。床下土坑3は、長径160cm短径135cm深度6~10cm程の規模をもちロームブロックと暗褐色土の混土で、埋められている。

柱穴 未確認。

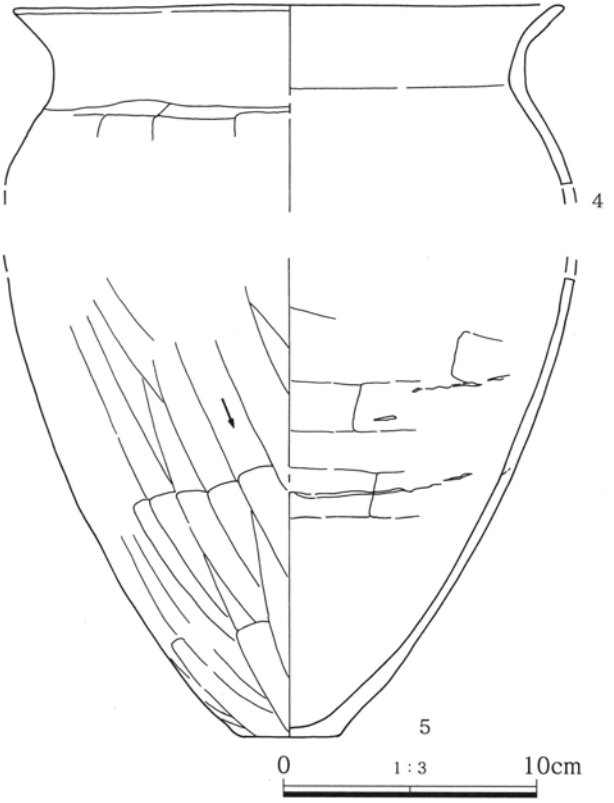
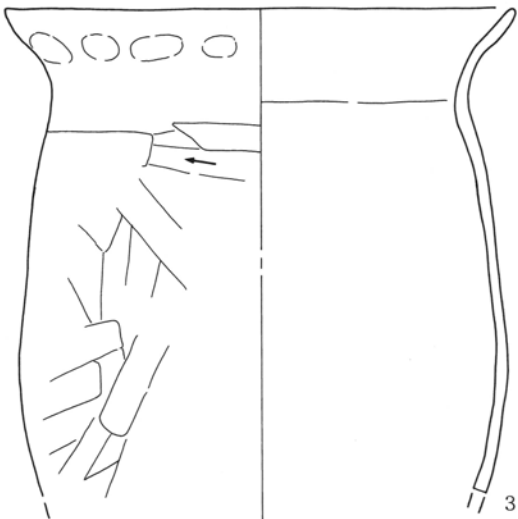
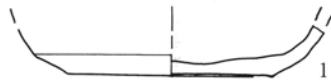
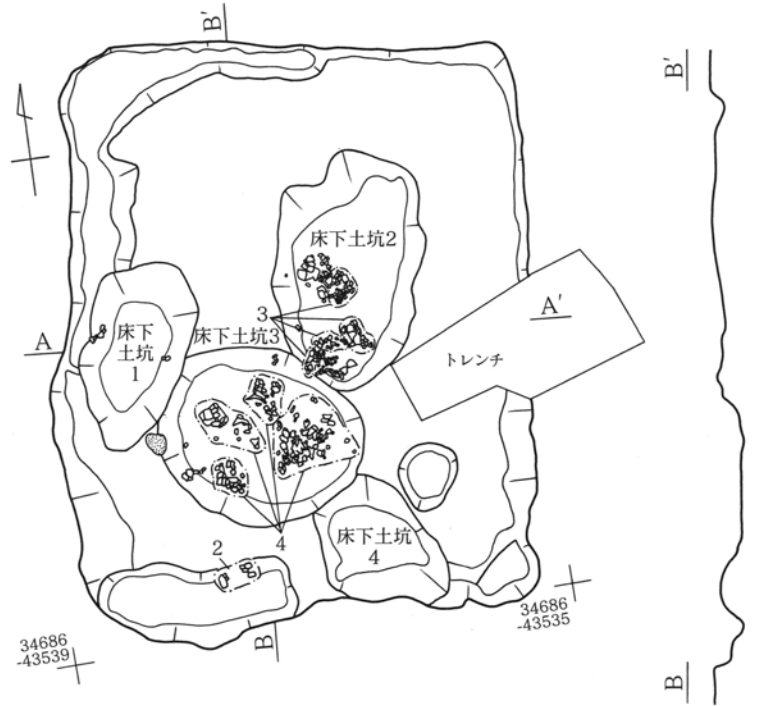
貯蔵穴 未確認。

周溝 掘り方面での確認であるが北西コーナー部に僅かに溝状の窪みが残存する。

竈 未確認。

遺物 床下土坑上を中心に土師器甕・坏破片を多数、須恵器片を4片出土。床下土坑の遺物はほぼ全て底面から10~20cm高いレベルで揃っている。4と5の甕は出土位置及び土器の形状から同一個体の可能性が高い。

所見 本住居の時期は出土遺物から8世紀後半に比定される。



第75図 鳥山下9区97号住居・出土遺物実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

99号住居(図76、P L26)

位置 10区X=34490~93, Y=-43434~37

重複 なし

形態 後世の削平が深く周溝状の溝のみの検出であり、東壁が未検出のため全形は確認できなかった。

方位 N-80° -W

規模 (2.48)m×2.30m

面積 調査区内で5.05㎡

壁高 -。遺構確認面で周溝状の溝のみ検出。

床面 後世の削平を受け残存しない。掘り方面は僅かな凹凸をもつがほぼ平坦である。東側は削平が更に深く、掘り方面まで壊されている。

柱穴 未確認。

貯蔵穴 未確認。

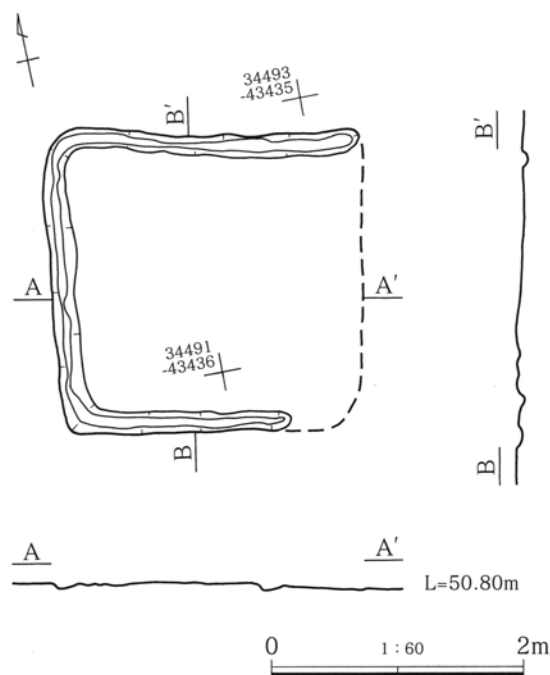
周溝 検出部分では幅10~15cm深度4cm程の溝が全周している。東壁下は不明。

竈 未確認。

遺物 なし。

所見 周溝がほぼ方形に廻ることなどから住居の残

跡として考えられるが、出土遺物もなく時期は不明である。



第76図 鳥山下10区99号住居実測図

100号住居(図77、P L26・44)

位置 10区X=34491~98, Y=-43438~43

重複 なし

形態 住居の一部が調査区外になるため、全形は確認できなかった。

方位 N-52° -E

規模 (5.75)m×(3.75)m

面積 計測不能

壁高 10cm

床面 南東壁下は幅25cmほど地山を掘り残し、中央部分はローム面を調整し、他は10cmほどローム粒・ブロックを多量に含む土壌を埋め土として貼り床としている。掘り方面には、床下土坑状の窪みが数カ所見られる。住居の南東壁東寄りではテラス状の掘り残しの東端に長軸80cm短軸50cm深度24cmで楕円形を呈する土坑がある。

柱穴 掘り方面で、北東壁と並行する2本を検出した。掘り方面での規模はP1直径60cm深度37cm、P2直径45cm深度33cmを測る。

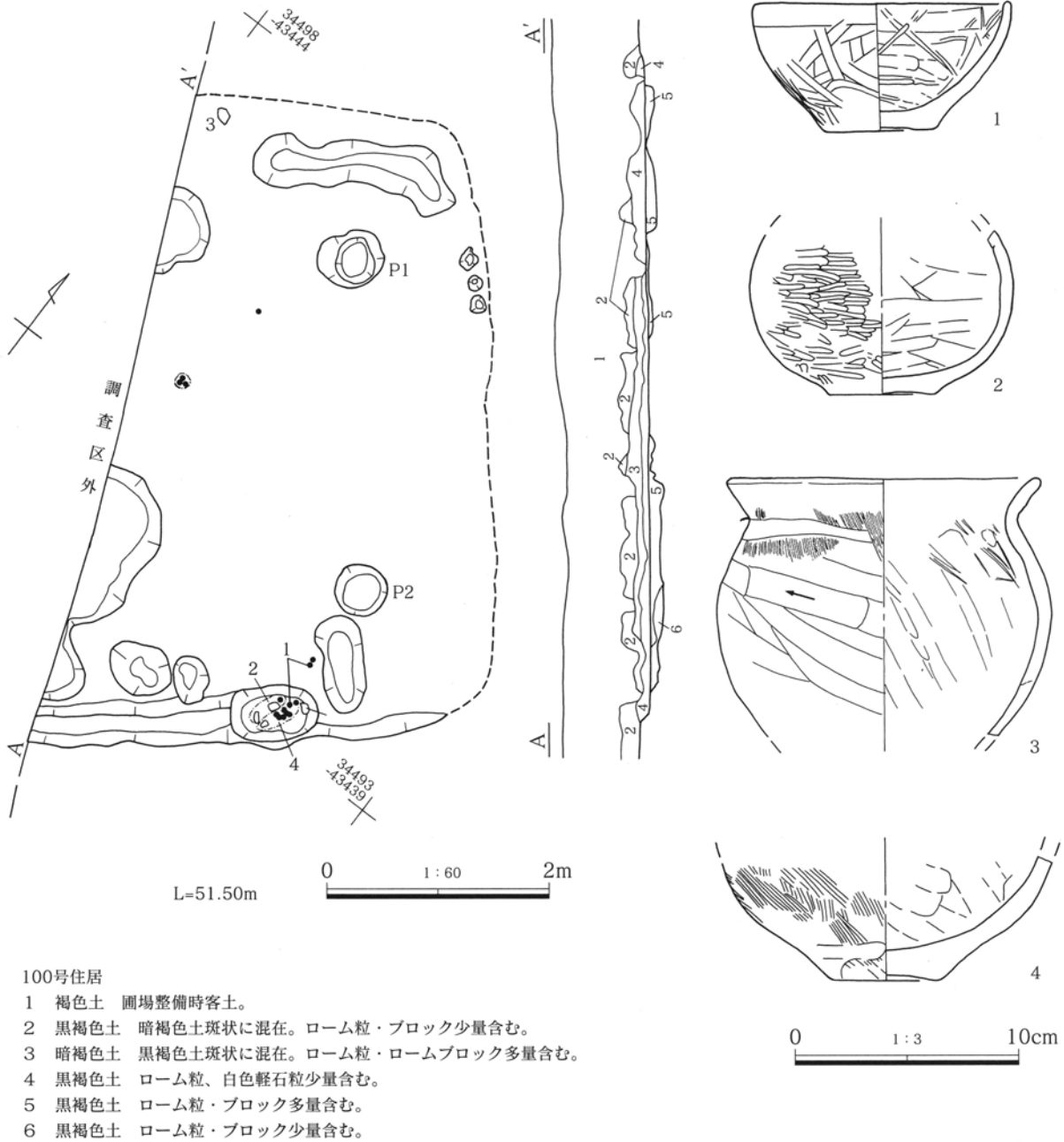
貯蔵穴 明瞭なものは未確認。

周溝 明瞭なものは確認されていないが、北隅の溝状の窪みが周溝の残跡である可能性がある。

炉 調査範囲では未確認。

遺物 1の椀、2の壺、4の甕は南東壁東寄りの土坑内下層からの出土。古墳時代前期の土器片を含む。土師器、酸化焰・還元焰焼成の須恵器杯・椀の破片も混在するが、遺構の残存深度が浅く後世の削平による混入と考えられる。

所見 本住居の時期は住居の形態、出土遺物から古墳時代前期に比定される。



第77図 鳥山下10区100号住居・出土遺物実測図

101号住居(図78・79、P L26・44・45)

位置 10区 X=34500~504, Y=-43443~47

重複 なし

形態 住居の大部分が調査区外に伸びるため全形は確認できなかったが、東西に長い長方形を呈するものと思われる。

方位 N-44° - E

規模 3.00m×(2.80)m

面積 調査区内で(5.40)m²

壁高 15~20cm

床面 掘り方面から厚さ約10cmの埋め土を施して平坦な面を造ることが、調査区境の壁セクションより観察される。掘り方面は細かな凹凸を残し、北東に隅丸形状、南東に溝状の窪みをもつ。

柱穴 調査範囲では未確認。

貯蔵穴 明瞭なものは未確認だが、北東隅の窪みが

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

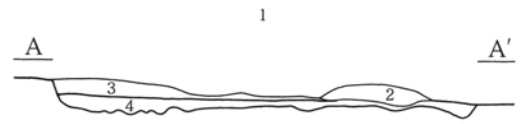
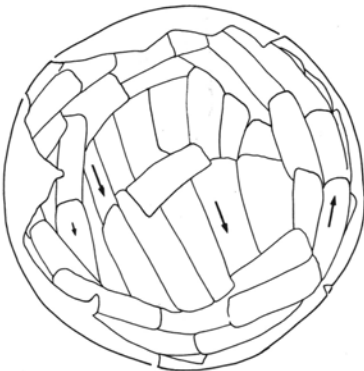
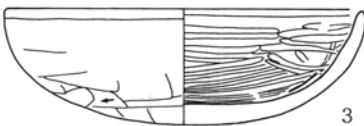
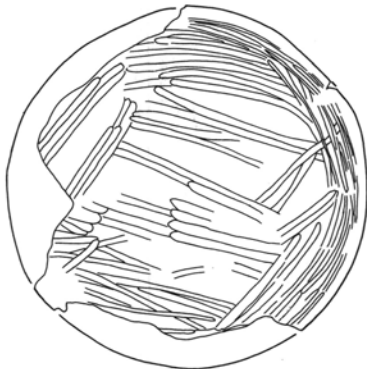
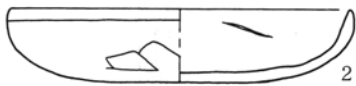
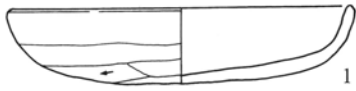
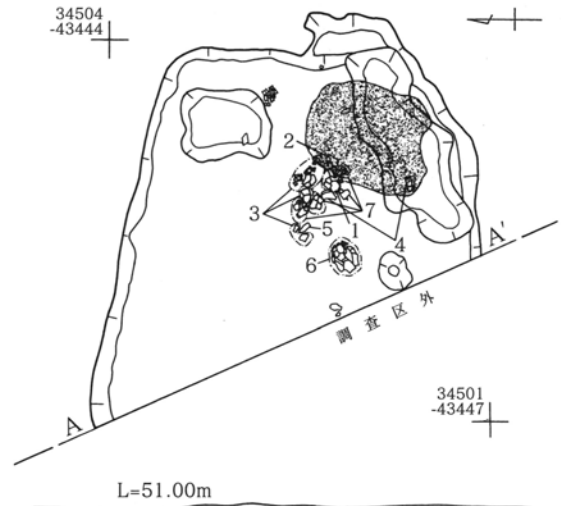
貯蔵穴残跡の可能性はある。

周溝 調査範囲では未確認。

竈 調査範囲では未確認だが、南東部に粘土を多く焼土粒を少量含む範囲があり、東壁南寄りの壁の僅かな突出部に竈があった可能性がある。

遺物 土師器甕・坏片、須恵器坏・椀片等が出土。
1、2、3、4の坏など形態から時期差があるがほぼ同一レベルでのまとまった位置からの出土である。

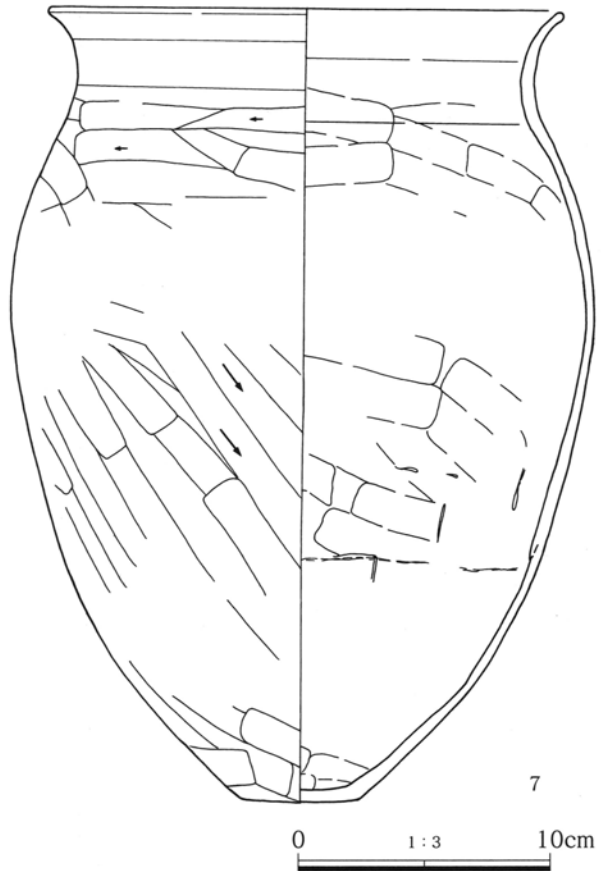
所見 本住居の出土遺物は8世紀後半から10世紀前半のものが混在するが住居形態からも新しい時期のものと考えられる。



0 1:60 2m

101号住居

- 1 褐色土 圃場整備時客土。
- 2 暗褐色土 ローム粒、浅間A軽石少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、白色軽石粒少量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒・ブロック多量、白色軽石粒少量含む。



0 1:3 10cm

第78図 鳥山下10区101号住居・出土遺物実測図(1)

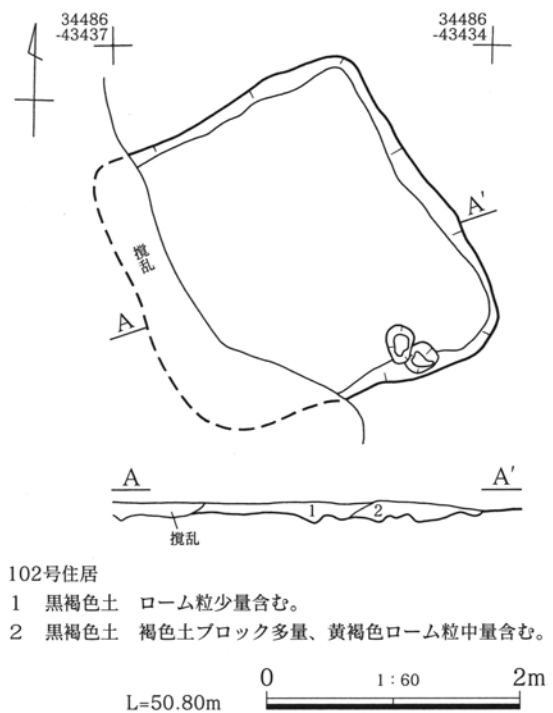
2. 古代の遺構・遺物



第79図 鳥山下10区101号住居出土遺物実測図(2)

102号住居(図80、P L26)

位置 10区X=34483~85, Y=-43433~36
 重複 なし
 形態 後世の攪乱が特に西側で深く、掘り方面まで削平されているため全形の確認はできなかった。
 方位 N-63° -E
 規模 2.47m×(2.05)m。
 面積 調査区内で4.19㎡
 壁高 ー。確認面で掘り方のみの確認のため。
 床面 後世の削平を受け残存しない。床面東側では、掘り方面から8~10cm程の埋め土が残存していた。掘り方面には、細かな凹凸がある。
 柱穴 未確認。 貯蔵穴 未確認。
 周溝 未確認。 竈 未確認。
 遺物 なし。
 所見 方形の掘り方面から住居の残跡と考えたが、竈・柱穴等が確認されず土坑の可能性もある。出土遺物がなく時期は不明である。



102号住居
 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
 2 黒褐色土 褐色土ブロック多量、黄褐色ローム粒中量含む。

第80図 鳥山下10区102号住居実測図

103号住居(図81、P L27・45)

位置 10区X=34537~40, Y=-43454~58
 重複 313号土坑。新旧は不明。
 形態 南北にやや長いほぼ正方形を呈する。
 方位 N-103° -E
 規模 3.50m×3.20m。
 面積 9.78㎡ 壁高 5cm程
 床面 掘り方面を調整して床面としている。竈前及び貯蔵穴部分に川原石複数を検出した。床面ほぼ中央に長径120cm短径90cm深度12cm程の規模の床下

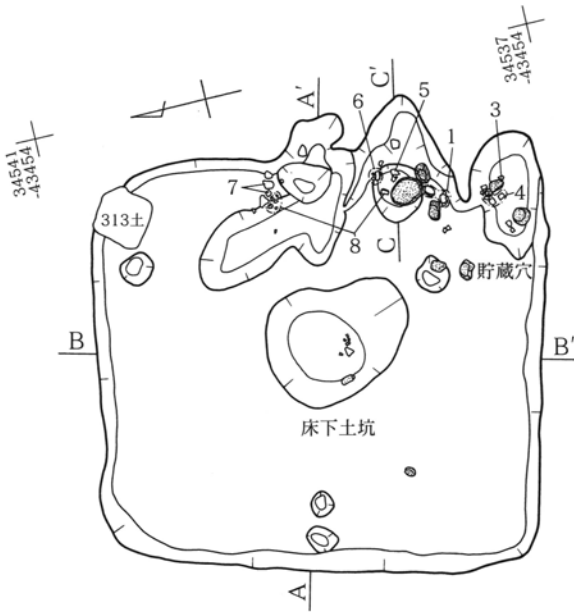
土坑を有す。
 柱穴 直径10~14cm深度13~24cm程の規模をもつピット4本を検出したが、柱穴とは考えにくい。
 貯蔵穴 南東隅にある長径100cm短径50cm深度5~8cmの楕円形の掘り込みが、位置から貯蔵穴と考えられる。
 周溝 未確認。
 竈 東壁中央と南寄りに2基の竈の痕跡を検出した。中央の竈部分は、全長60cm幅60cmほどを測り、床下に不正形の土坑を有す。遺物の出土状況・土層

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

断面の観察から住居廃棄時には機能していなかったものと思われる。南寄りの竈は全長90cm、幅80cm程の規模で屋内に燃焼部をもつ形態である。袖と思われる部分の残存や出土遺物の位置から住居廃棄時のものと考えられる。よって中央から南寄りへと作り替えたものと考えられる。

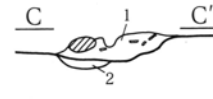
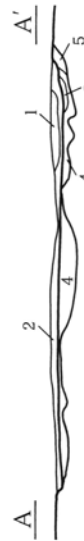
遺物 土師器甕、坏片、酸化・還元焰の須恵器碗片などが出土し、礫がやや多い。

所見 本住居は出土遺物から10世紀前半に比定される。



103号住居

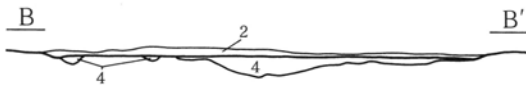
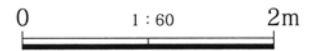
- 1 灰色粘土 焼土ブロック少量、白色軽石粒微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ブロック、白色軽石粒少量、焼土粒微量含む。
- 3 灰層 炭化物、焼土粒含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック多量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量含む。



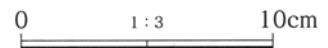
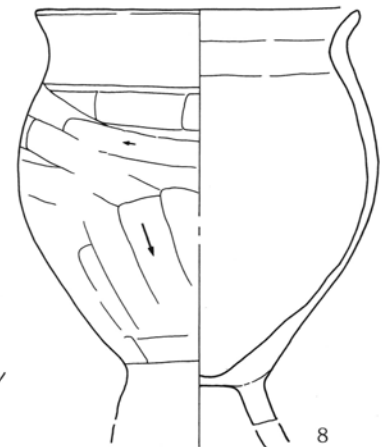
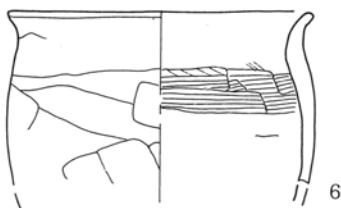
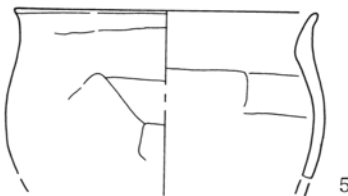
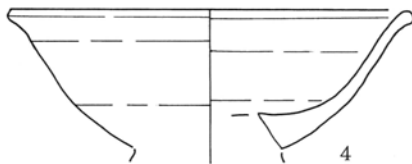
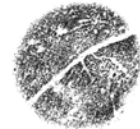
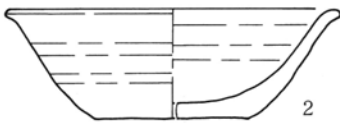
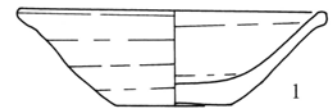
L=50.80m

103号住居 カマド

- 1 暗褐色土 ロームブロック多量、黒褐色土、焼土ブロック少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック多量含む。



L=50.70m



第81図 鳥山下10区103号住居・出土遺物実測図

104号住居(図82、P L27・45)

位置 10区 X=34546~50, Y=-43458~62

重複 108号溝、329号土坑。中近世以降の108号溝、329号土坑が住居壁面を掘り壊している。

形態 東西にやや長いがほぼ正方形を呈す。

方位 N-101°-E

規模 3.24m×3.00m 面積 8.23㎡

壁高 -。遺構確認面で掘り方のみ確認。

床面 掘り方面は北壁下に浅い窪みを有するが、ほぼ平坦である。

柱穴 ピット1本を検出したが、柱穴との判定は出来なかった。

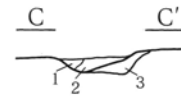
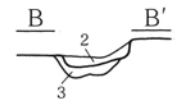
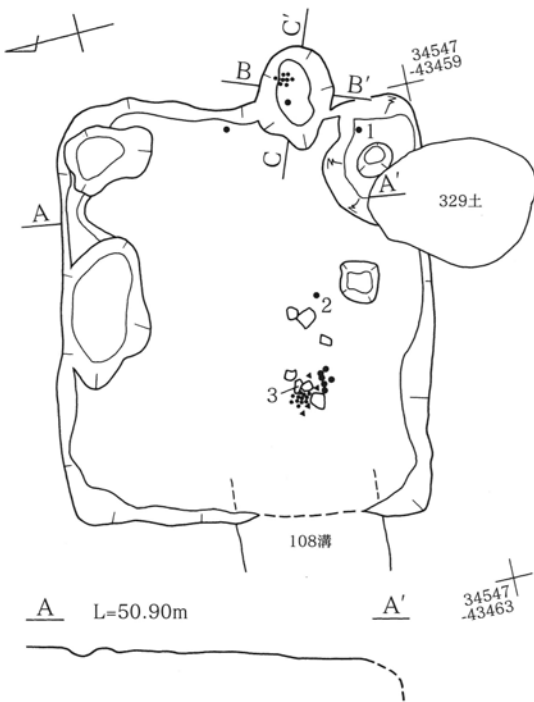
貯蔵穴 住居の南東部に設置され、長径100cm短径90cm深度5cmで隅丸方形を呈する。

周溝 床下面では、確認できなかった。

竈 東壁やや南寄りに構築されている。掘り方面で全長75cm、幅60cm程の土坑状の掘り込みのみ検出された。少量の焼土・炭化物粒を埋土に含んでいた。

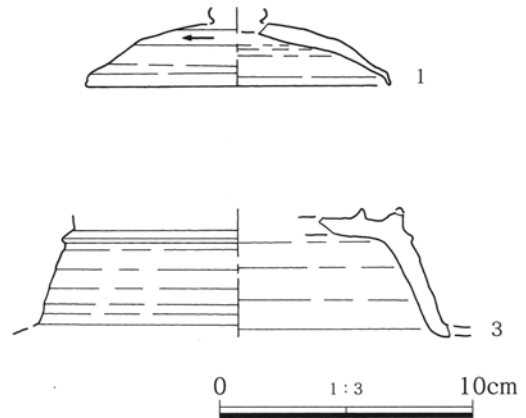
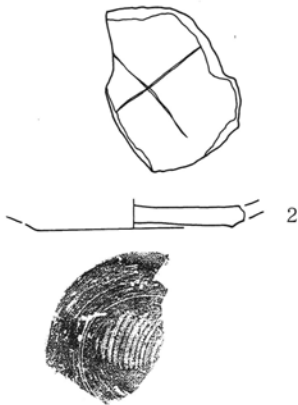
遺物 3の円面硯、須恵器坏蓋・坏、土師器片を出土している。108溝の延長上にまとまる傾向があり、溝による攪拌を受けている可能性もある。

所見 本住居の時期は出土遺物から9世紀代に比定される。



104号住居 カマド

- 1 暗褐色土 ロームブロック、灰色粘土ブロック、炭化物、焼土粒、灰を多量含む。
- 2 灰色粘土 暗褐色土、炭化物、焼土粒少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量含む。



第82図 鳥山下10区104号住居・出土遺物実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

105号住居(図83、P L27・45)

位置 10区X=34720~22, Y=-43520~25

重複 322号土坑。322号土坑が本住居の掘り方埋土・壁を掘り壊しているため、住居の方が前出。

形態 住居の大半は調査区外に伸びるため全形は確認できなかった。

方位 N-90° -E

規模 (1.90)m×(1.10)m。

面積 計測不能

壁高 -。確認面で掘り方のみ検出。

床面 床面は確認できなかった。掘り方埋土は住居中央部で5cm程の埋め土が残存していた。掘り方面

は中央部はほぼ平坦で、東寄りはやや深く窪む。

柱穴 P1は、直径32cm深度37cmを測る。柱穴の可能性はある。

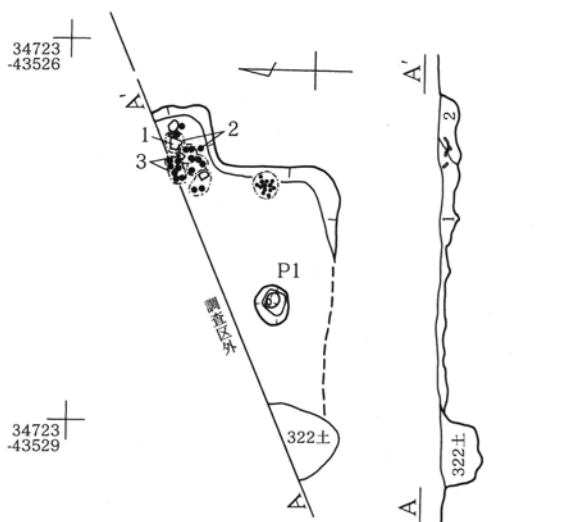
貯蔵穴 調査範囲内では未確認。

周溝 調査範囲内では未確認。

竈 東壁やや南寄りに構築され、掘り方面で壁外に50cmほど突出している。掘り方埋土に焼土粒多量・炭化物粒少量含んでいる。

遺物 土師器甕、坏、須恵器坏・椀片など少量出土。

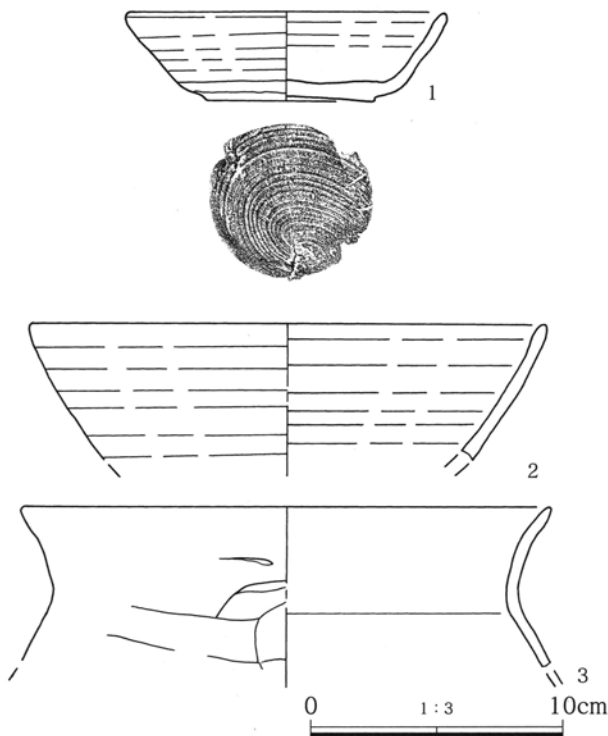
所見 本住居の時期は出土遺物から8世紀後半から9世紀前半に比定される。



105号住居

- 1 黒褐色土 ローム粒中量、白色軽石粒少量含む。固く締まる。
- 2 黒褐色土 焼土粒多量、白色軽石粒少量、炭化物微量含む。固く締まる。

L=50.80m 0 1:60 2m



第83図 鳥山下10区105号住居・出土遺物実測図

106号住居(図84~86、P L27・45)

位置 10区X=34716~19, Y=-43523~25

重複 107号住と重複の可能性はある。

形態 調査区外に伸びるため全形は確認できなかったが、ほぼ正方形を呈するものと思われる。

方位 N-14° -E 規模 (3.06)m×(2.43)m

面積 調査区内で(4.36)m² 壁高 20~25cm

床面 掘り方面から5~10cmほどの埋め土を施して

平坦な面を造る。掘り方面は固く締められ床面が構築されている。掘り方面中央部に床下土坑を有す。

柱穴 調査範囲内では未確認。

貯蔵穴 調査範囲内では未確認。

竈 調査範囲内では未確認。

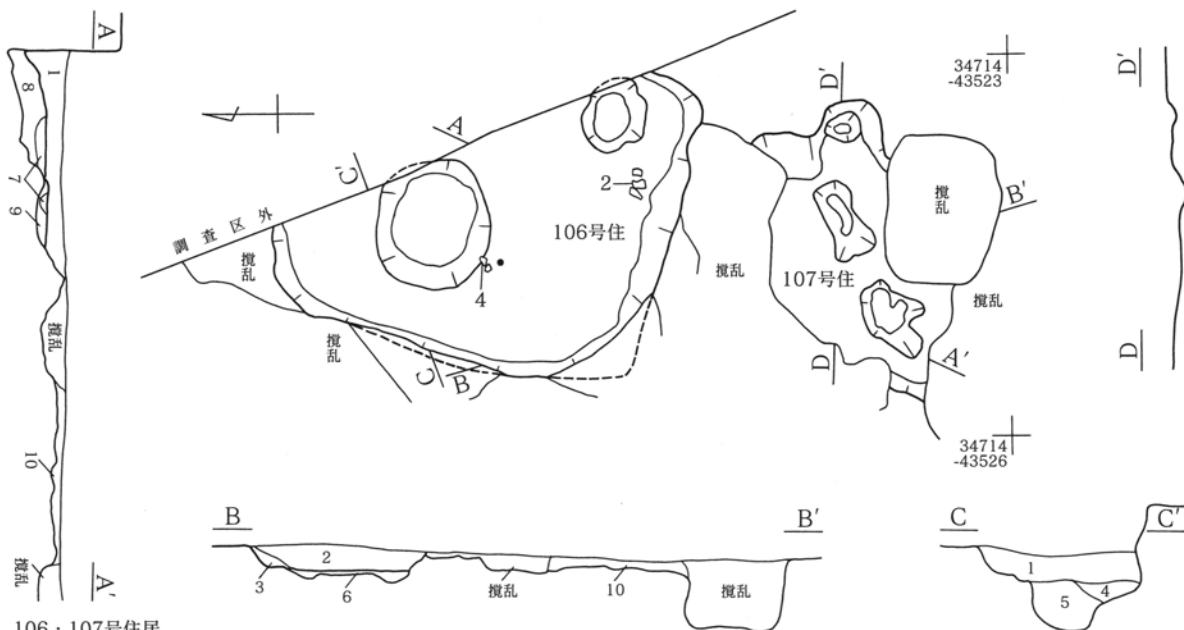
遺物 土師器甕、坏、須恵器坏・椀片など出土。

所見 本住居の時期は出土遺物から9世紀に比定される。

107号住居(図84、P L27)

位置 10区X=34714~15, Y=-43523~25
 重複 106号住と重複の可能性がある。
 形態 削平が激しく、確認できなかった。
 方位 計測不能
 規模 計測不能
 面積 計測不能
 壁高 -。確認面で掘り方のみ検出。
 床面 床面は、残存していない。掘り方面には2カ所土坑状の浅い掘り込みをもつ。

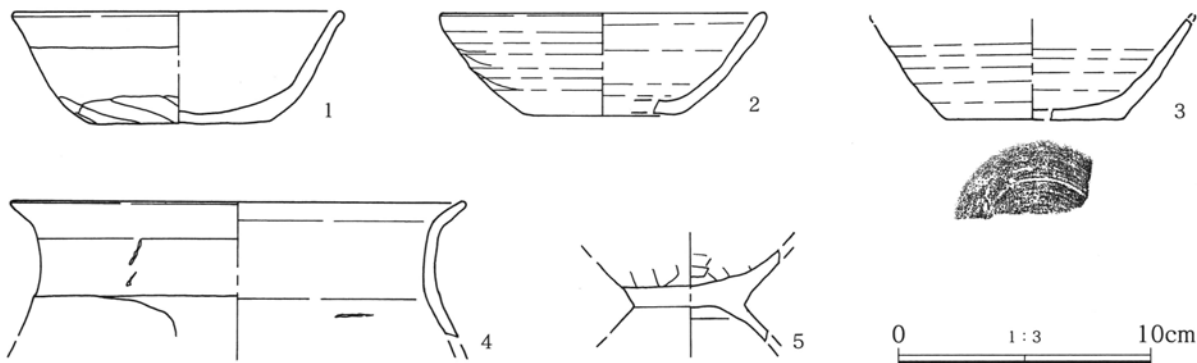
柱穴 未確認。
 貯蔵穴 未確認。
 周溝 掘り方面では、確認されなかった。
 竈 東壁やや南寄りに構築されている。掘り方面で全長40cm、幅45cm土坑状の掘り込みのみ検出。埋土に焼土粒・炭化物粒を含んでいる。
 遺物 土師器片少量・須恵器片1点出土。
 所見 遺構の残存状態が悪く、出土遺物が少量のため時期不明。



106・107号住居

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土 ローム粒少量、炭化物粒、焼土粒微量含む。 | 7 暗褐色土 ローム粒微量含む。固く締まる。 |
| 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。 | 8 暗褐色土 ローム粒・ブロック中量、砂利微量含む。固く締まる。 |
| 3 暗褐色土 ローム粒少量含む。 | 9 暗褐色土 ローム粒・ブロック中量、焼土粒微量含む。固く締まる。 |
| 4 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒、焼土粒少量含む。 | 10 黒褐色土 ロームブロックを混在する。 |
| 5 暗褐色土 ローム粒多量、炭化物粒、焼土粒少量含む。 | |
| 6 暗褐色土 ロームブロック多量含む。固く締まる。 | |

第84図 鳥山下10区106・107号住居実測図



第85図 鳥山下10区106号住居出土遺物実測図(1)

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



第86図 鳥山下10区106号住居出土遺物実測図(2)

108号住居(図87、P L27)

位置 10区X=34583~87, Y=-43470~73

重複 なし

形態 調査区外に伸び、深い削平のため南壁の検出ができないため全形は確認できなかった。

方位 N-64° - E

規模 (2.65)m×(2.50)m

面積 調査区内で(7.13)m²

壁高 -。確認面で掘り方のみ確認。

床面 後世の削平を受け、床面は残存していない。5~10cmほどの掘り方埋土が確認された。掘り方面は、細かな凹凸を有する。南壁方向は、特に攪乱が激しく立ち上がりは確認できていない。

柱穴 調査範囲内で未確認。

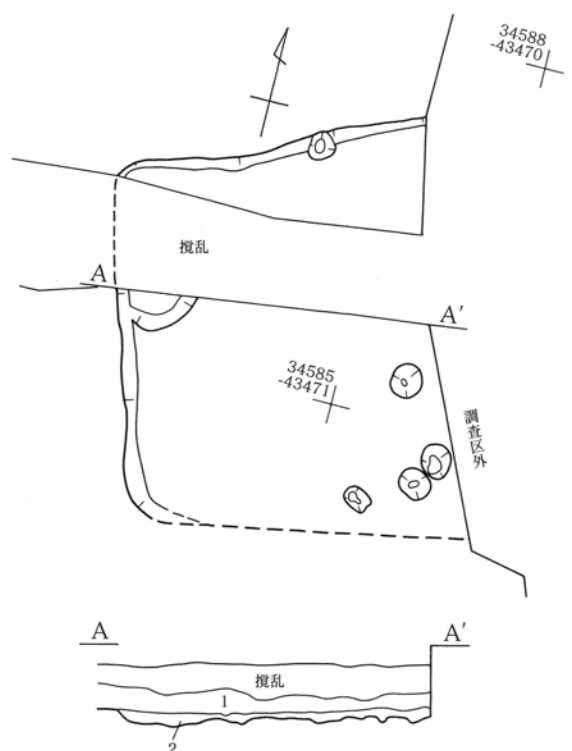
貯蔵穴 調査範囲内で未確認。

周溝 調査範囲内で未確認。

竈 調査範囲内で未確認。

遺物 なし。

所見 方形の掘り方面から住居の残跡と考えたが、竈・柱穴等が確認されず土坑の可能性もある。出土遺物がなく時期は不明である。



108号住居

1 褐色土 圃場整備時客土。

2 黒褐色土 ローム粒・ブロック、白色軽石粒少量含む。

0 1:60 2m
L=51.50m

第87図 鳥山下10区108号住居実測図

109号住居(図88・89、P L28・45)

位置 10区X=34707~10, Y=-43528~31

重複 なし

形態 住居は調査区外に伸び、南側を攪乱で壊されるため全形は確認できなかったが、正方形を呈する

ものと推定される。

方位 N-115° - E

規模 (3.24)m×(3.04)m

面積 調査区内で7.24m²

壁高 5~10cm

2. 古代の遺構・遺物

床面 掘り方面から、10~15cm程の埋め土を施して平坦な面を造る。掘り方面には、床下土坑が3基確認されている。最もしっかりした床下土坑1は径80~85cmのほぼ円形を呈し、床面から30cmほどの深度を有する。

柱穴 確認されない。

貯蔵穴 調査範囲内では未確認。

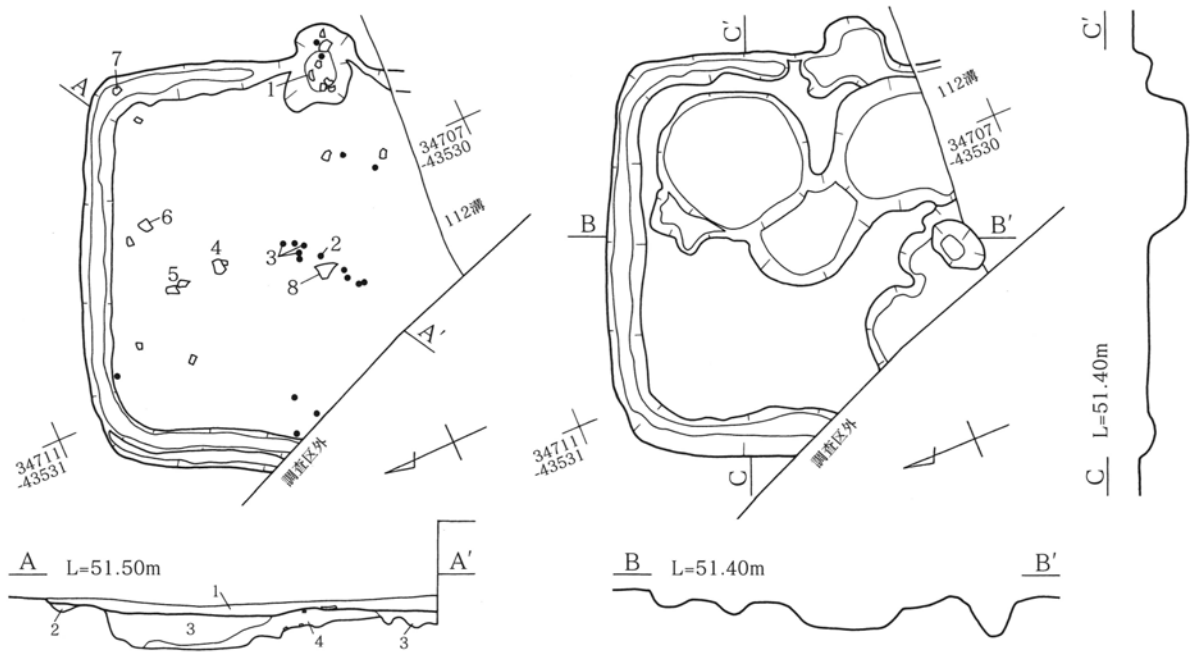
周溝 調査範囲内では、幅25cm程 深度2~3cm程

の規模の溝が全周する。

竈 東壁に構築されている。全長65cm、幅50cm程の掘り込みが確認された。

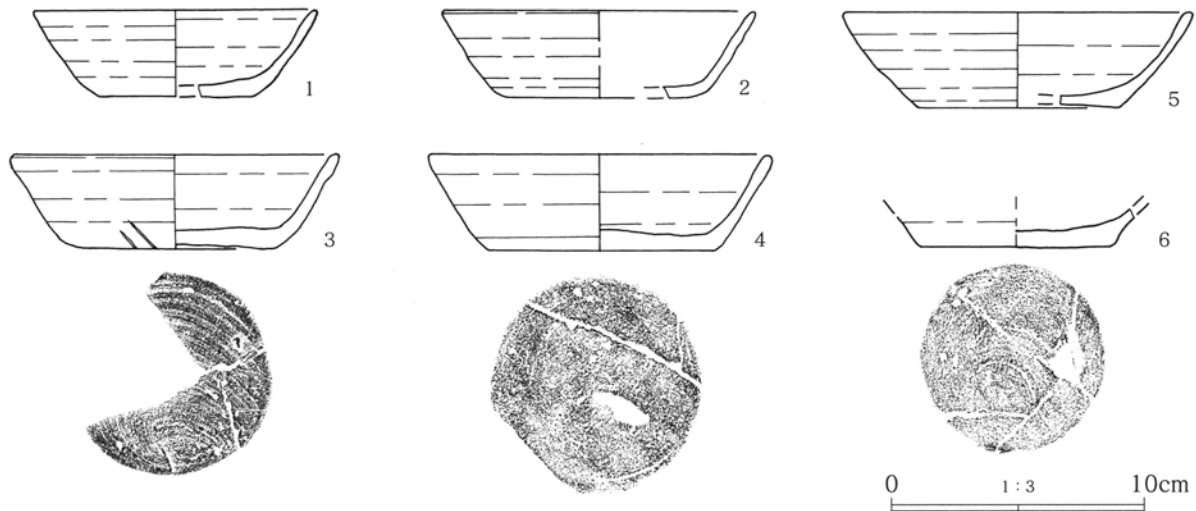
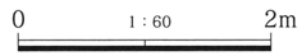
遺物 土師器・須恵器片を130片ほど出土しているが、図化できたのは須恵器が多かった。

所見 本住居の時期は出土遺物から9世紀前半に比定される。



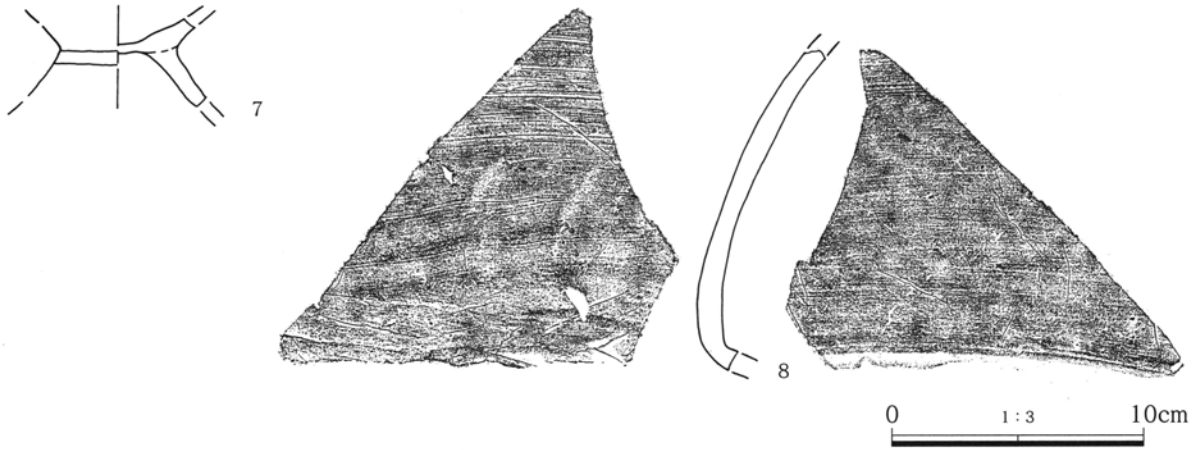
109号住居

- 1 黒色土 ローム粒少量、炭化物粒微量含む。 3 黒色土 ロームブロック少量含む。固く締まる。
- 2 黒色土 ローム粒中量含む。 4 黒色土 ロームブロック混在する。固く締まる。



第88図 鳥山下10区109号住居・出土遺物実測図(1)

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



第89図 鳥山下10区109号住居出土遺物実測図(2)

110号住居(図90、P L28・45)

位置 10区X=34431~35, Y=-43397~99

重複 なし

形態 住居の大半は調査区外に伸びるため全形は確認できなかった。

方位 N-9° -W

規模 4.20m×(1.72)m

面積 調査区内で4.14㎡

壁高 ー。確認面で掘り方面のみ検出。

床面 床面は残存していない。掘り方面は、中央部が5cmほど高く周辺部が1段深く掘り込まれている。北寄りには、床下土坑状の更に一段深い掘り込みがある。

柱穴 調査範囲内では未確認。

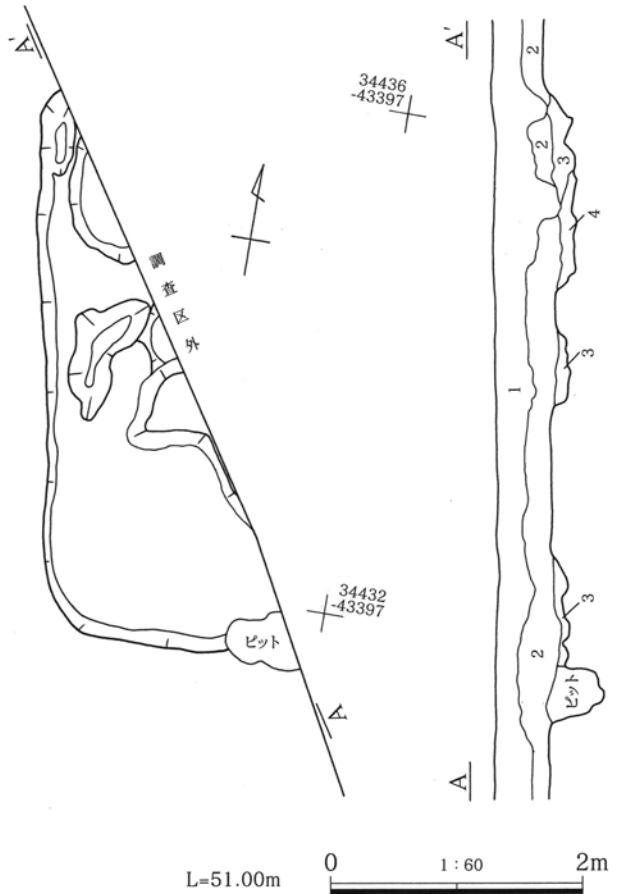
貯蔵穴 調査範囲内では未確認。

周溝 掘り方面では、未確認。

竈 調査範囲内では、未確認。

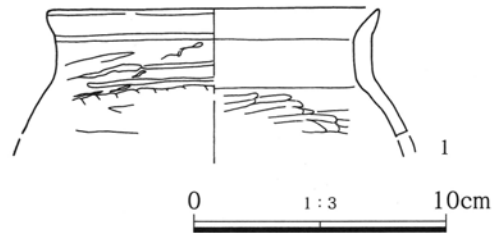
遺物 土師器・須恵器片が26片出土し、図化できたのは1の土師器甕だが、須恵器小片が多かった。

所見 本住居の時期は出土遺物から10世紀前半に比定される。



110号住居

- 1 褐色土 現耕作土。
- 2 褐色土 近世～現代耕作土。
- 3 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多量含む。

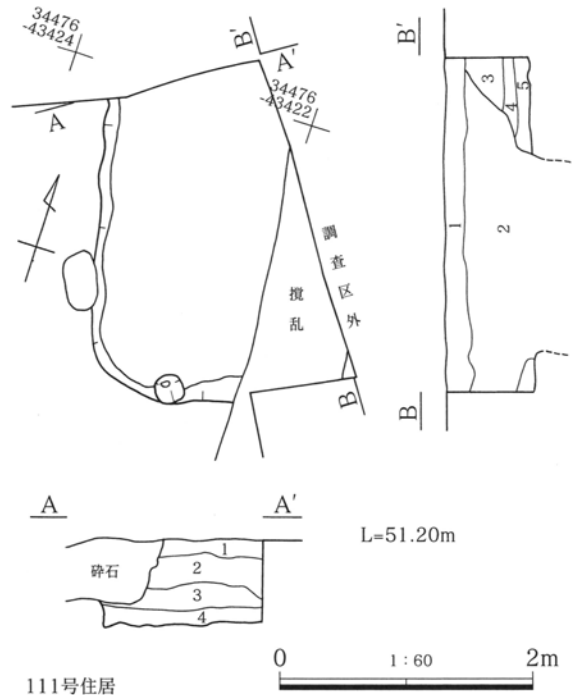


第90図 鳥山下10区110号住居・出土遺物実測図

2. 古代の遺構・遺物

111号住居(図91、P L28)

位置 10区X=34473~76, Y=-43422~423
 重複 なし
 形態 住居の大半は調査区外に伸びるため全形は確認できなかった。
 方位 計測不可能
 規模 (2.10)m×(1.00)m
 面積 調査区内で3.05㎡
 壁高 一。確認面で掘り方のみ検出。
 床面 床面は残存していない。掘り方面は細かな凹凸を有するがほぼ平坦である。
 柱穴 調査範囲内で未確認。
 貯蔵穴 住調査範囲内で未確認。
 周溝 調査範囲内で未確認。
 竈 調査範囲内で未確認。
 遺物 なし。
 所見 方形の掘り方面・規模等から住居残跡と考えたが、竈・柱穴等の構造物が検出されず、出土遺物もないため時期は不明である。

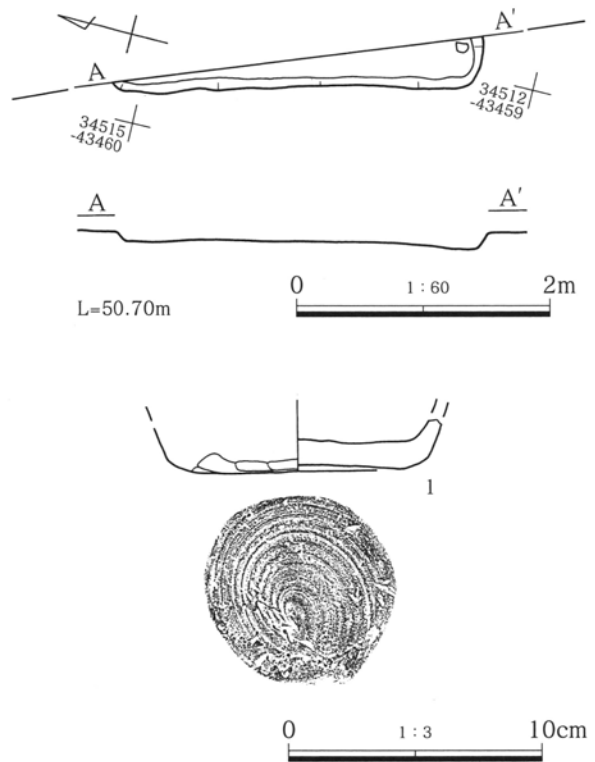


- 111号住居
 1 褐色土 現耕作土。
 2 褐色土 近世～現代耕作土。
 3 褐色土 ローム粒・ブロック、炭化物、焼土粒少量含む。
 4 暗褐色土 黒褐色土を斑状、ローム粒・ブロック少量含む。

第91図 鳥山下10区111号住居実測図

112号址(図92、P L28)

位置 10区X=34473~75, Y=-43420~23
 重複 なし
 形態 住居の大半は調査区外に伸びるため全形は確認できなかった。西壁部分のみ検出した。
 方位 N-15° -W
 規模 2.80m×(0.40)m
 面積 調査区内で0.43㎡
 壁高 不明
 床面 掘り方面はほぼ平坦である。
 柱穴 調査範囲内では未確認。
 貯蔵穴 調査範囲内では未確認。
 周溝 調査範囲内で未確認。
 竈 調査範囲内で未確認。
 遺物 土師器小破片1片、須恵器片1点出土。
 所見 本住居は遺構の検出部分が少なく、8世紀後半の遺物を含むが2点のみの出土であり、時期不明である。



第92図 鳥山下10区112号址・出土遺物実測図

(2) 掘立柱建物跡

9号掘立柱建物跡(図93・94、P L 28・29・46)

位置 9区X=34455~62, Y=-43432~37

重複 なし

形態 2間×3間。総柱。

主軸方位 N-12°-W

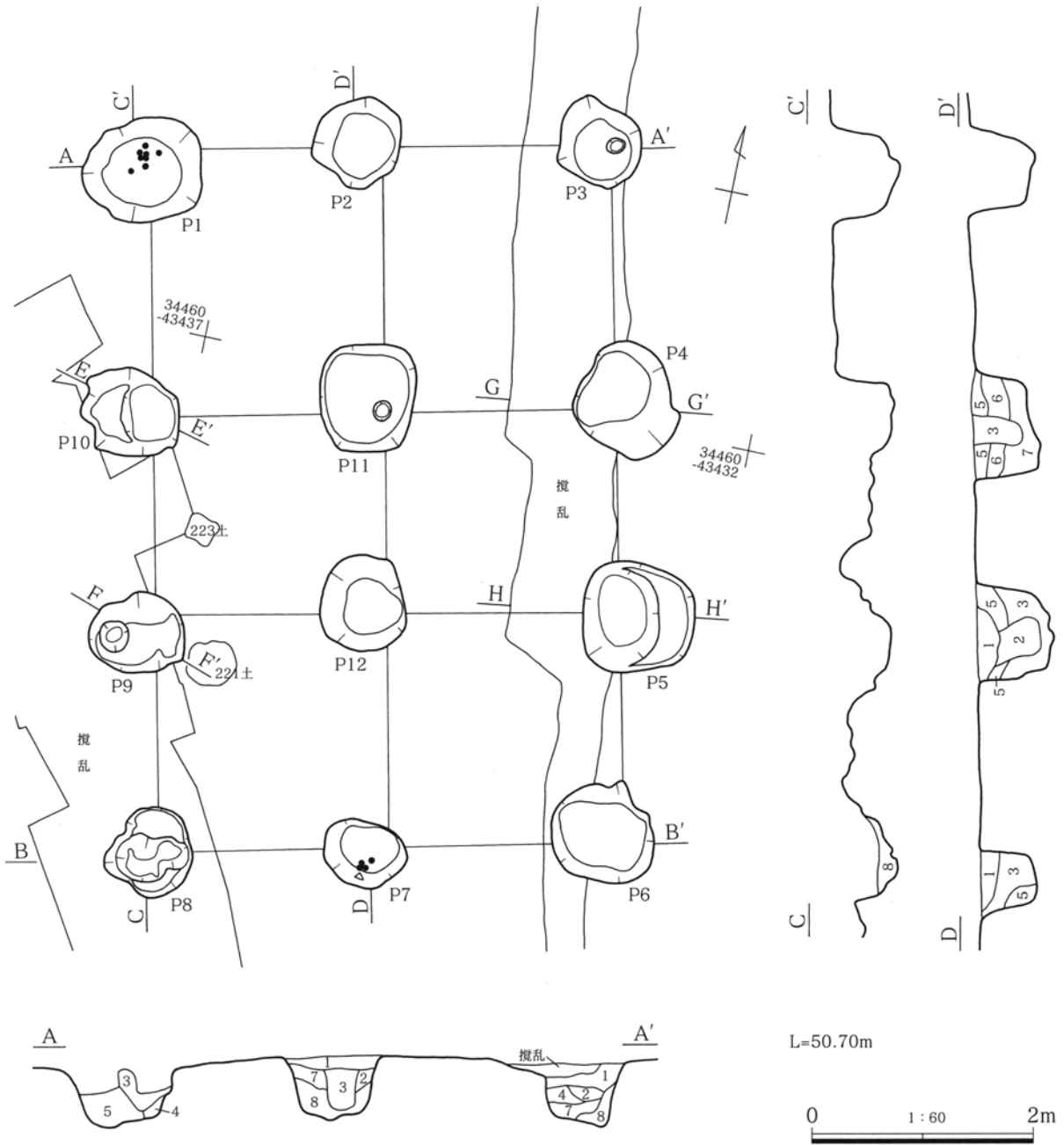
規模 6.20m×4.20m

柱穴 掘り方の形態は、円形・隅丸方形などやや

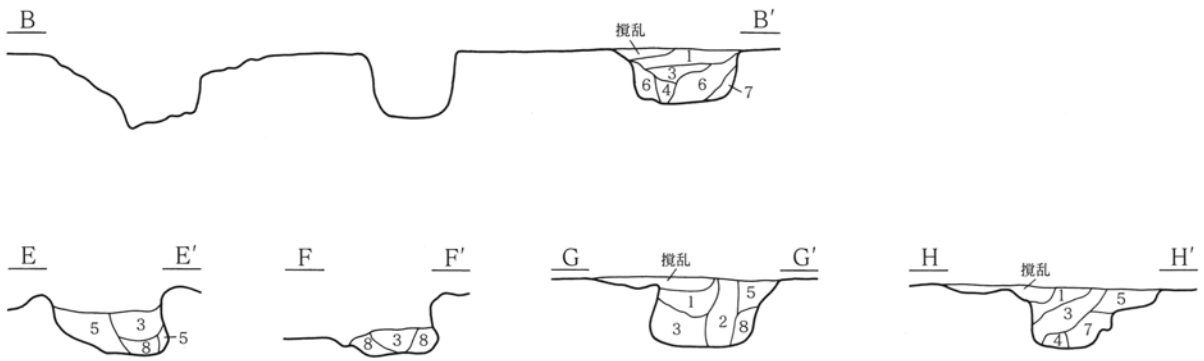
不統一である。規模は径74~110cm、深度17cm~70cmである。土層断面の観察から、径20cm程の柱痕が推定される。

遺物 土師器坏・甕、須恵器の小破片が50点程出土した。1はP12、2はP7からの出土である。

所見 規模、柱穴掘り方及び出土遺物等から、古代のものと考えられる。



第93図 鳥山下9区9号掘立柱建物跡実測図



9号掘立

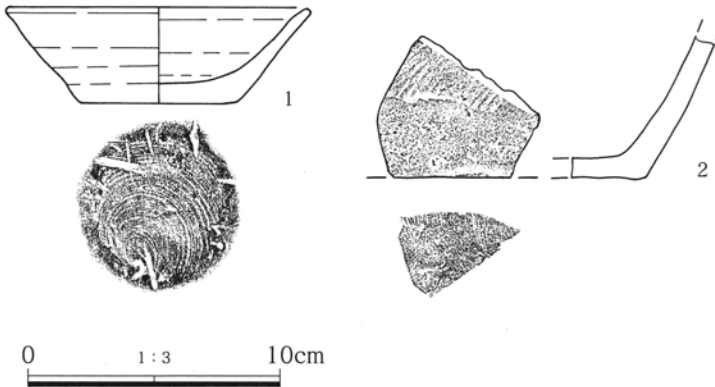
- 1 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む(やや明るい)。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒・ブロック、黒褐色土粒少量含む。
- 4 暗褐色土 (黒味あり)ローム粒微量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
- 6 黄褐色土 ロームブロックを主体とする。
- 7 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。
- 8 黒褐色土 ローム粒少量含む。

L=50.60m 0 1:60 2m

第10表 9号掘立柱建物跡柱穴計測表

NO	長径	短径	深度	柱痕径	柱間長
1	110	90	57		P1~2 200
2	84	80	17	26	P2~3 220
3	74	67	61		P3~4 226
4	100	82	51	20	P4~5 200
5	103	99	42	20	P5~6 210
6	93	85	43	16	P6~7 210
7	76	49	48		P7~8 200
8	81	57	59		P8~9 205
9	87	62	49		P9~10 200
10	99	65	52		P10~1 220
11	95	85	65	21	P11~2 240
12	86	72	70	22	P11~10 200
					P11~4 230
					P11~12 180
					P12~9 200
					P12~5 230
					P12~7 220

(単位cm)



第94図 鳥山下9区9号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

10号掘立柱建物跡(図95・96、P L29・46・52)

位置 10区X=34421~27, Y=-43394~400

重複 なし

形態 一部が調査区外になり南辺は攪乱を受けるため全形は確認できなかった。(2間×2間。)総柱。

主軸方位 N-16° -W

規模 2.96m×2.64m

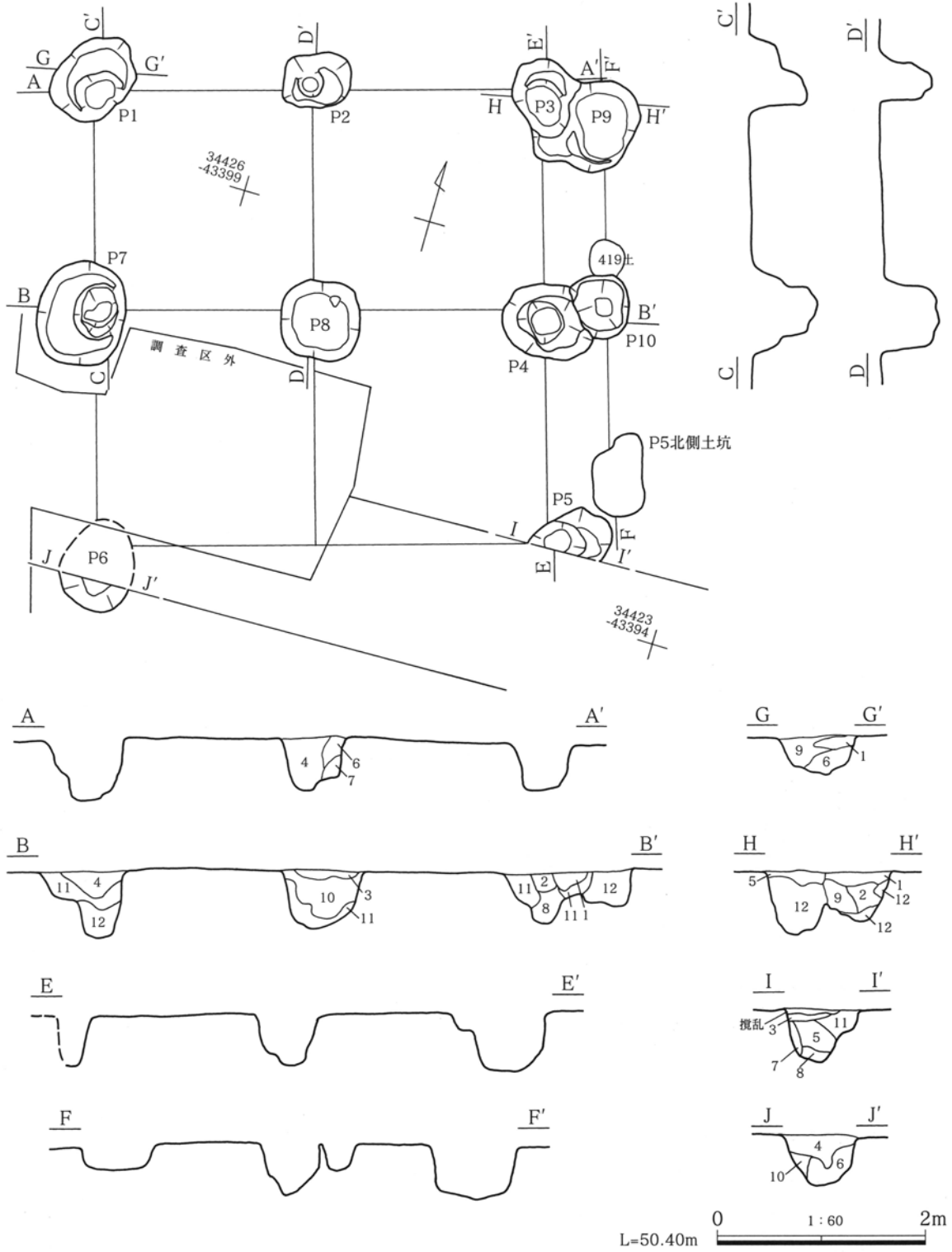
柱穴 掘り方の形態は隅丸方形、楕円形などとやや不統一である。規模は径61~100cm、深度44cm

~62cmを測る。

遺物 土師器・須恵器の小破片が20点ほど出土している。1はP3より出土。

所見 規模、柱穴掘り方及び出土遺物等から、古代のものと考えられる。P3・4・5と接してP9・10があり、P5とP6の位置が直線上に並ばず、東辺同様のピットの配列であるとする南辺及び東辺方向への庇または拡張の可能性も考えられる。

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



10号掘立

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 褐色土 ローム粒多量含む。 | 7 暗褐色土 ローム粒・炭化物粒微量含む。 |
| 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。 | 8 黒褐色土 ローム粒少量含む。 |
| 3 暗褐色土 ローム粒・ブロック微量含む。 | 9 黒褐色土 暗褐色土斑状に、ロームブロック少量含む。 |
| 4 暗褐色土 黒褐色土ブロック少量、ロームブロック多量含む。 | 10 黒褐色土 ローム粒・ブロック微量含む。 |
| 5 暗褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。 | 11 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。 |
| 6 暗褐色土 ロームブロック多量含む。 | 12 黒褐色土 ロームブロック多量含む。 |

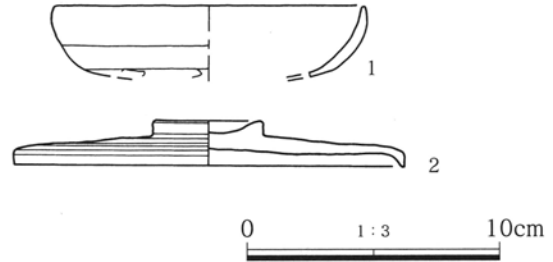
第95図 鳥山下10区10号掘立柱建物跡実測図

2. 古代の遺構・遺物

第11表 10号掘立柱建物跡柱穴計測表

NO	長径	短径	深度	柱痕径	柱間長
1	90	64	55		P1~2 200
2	62	52	49		P2~3 220
3	76	49	62		P3~4 210
4	90	68	52		P4~5 210
5	(46)	56	48		P5~6 440
6	(70)	(28)	58		P6~7 255
7	100	84	62		P7~1 210
8	77	75	52		P8~2 220
9	85	61	44		P8~7 200
10	61	47	49		P8~4 230
					P9~10 180

(単位cm)



第96図 鳥山下10区10号掘立柱建物跡出土遺物実測図

11号掘立柱建物跡(図97・98、P L30)

位置 10区X=34446~54, Y=-43417~23

重複 なし。

形態 2間×3間

主軸方位 N-19° -W

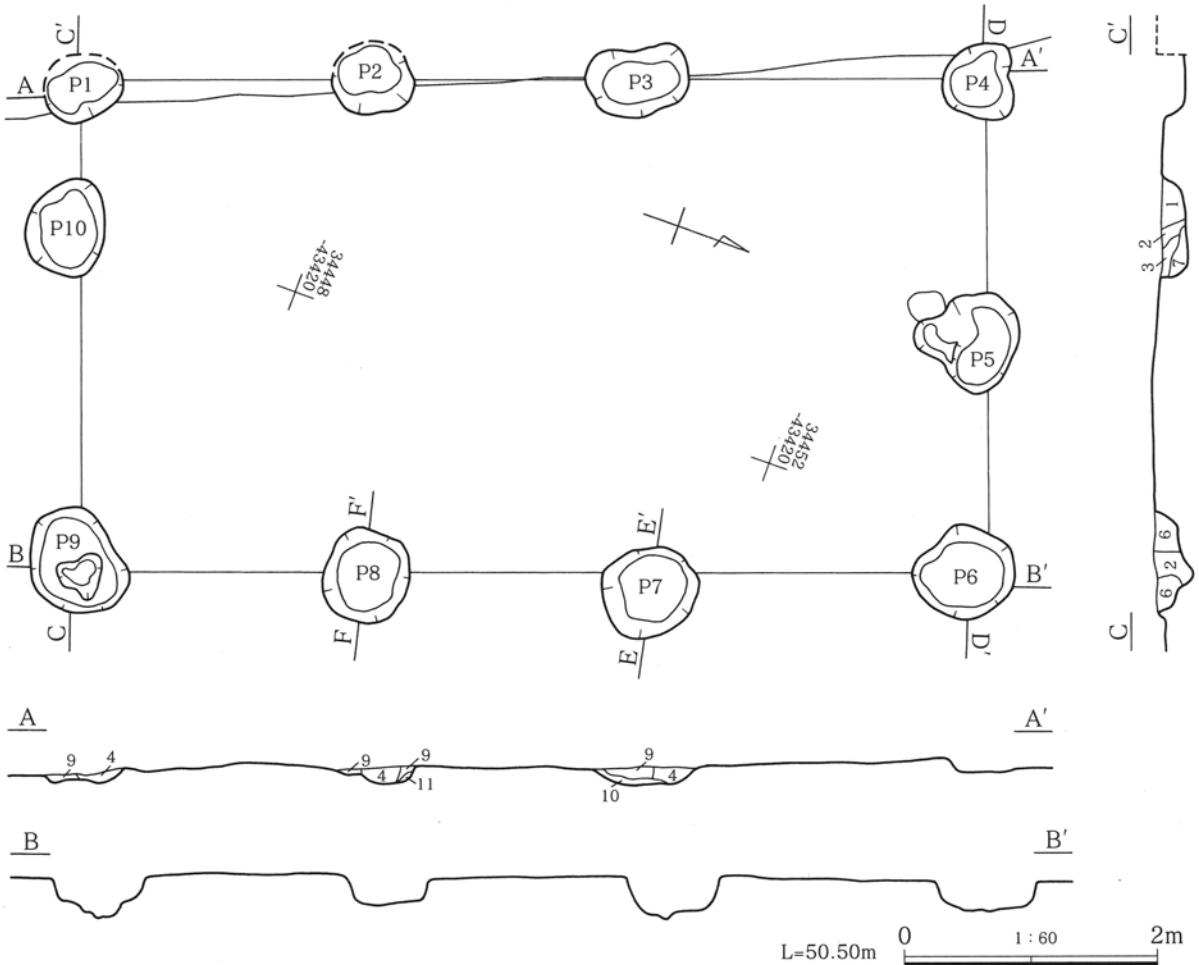
規模 4.15m×3.46m

柱穴 掘り方の形態は円形及び隅丸方形。規模は径

60~86cm、深度11cm~32cmと差が見られる。柱痕は30cm程であることが観察された。

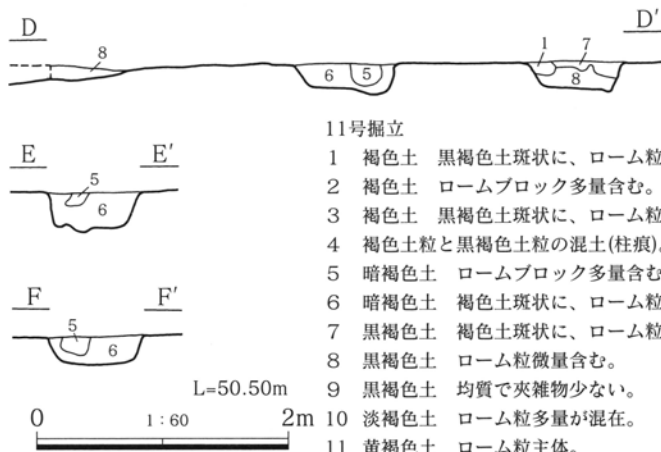
遺物 なし。

所見 規模、柱穴掘り方等から古代のものと考えられる。南壁ではピット7が中央より西に寄せて掘られている。



第97図 鳥山下10区11号掘立柱建物跡実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



11号掘立

- 1 褐色土 黒褐色土斑状に、ローム粒少量含む。
- 2 褐色土 ロームブロック多量含む。
- 3 褐色土 黒褐色土斑状に、ローム粒微量含む。
- 4 褐色土粒と黒褐色土粒の混土(柱痕)。
- 5 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
- 6 暗褐色土 褐色土斑状に、ローム粒少量含む。
- 7 黒褐色土 褐色土斑状に、ローム粒少量含む。
- 8 黒褐色土 ローム粒微量含む。
- 9 黒褐色土 均質で夾雑物少ない。
- 10 淡褐色土 ローム粒多量が混在。
- 11 黄褐色土 ローム粒主体。

第12表 11号掘立柱建物跡柱穴計測表

NO	長径	短径	深度	柱痕径	柱間長
1	60	50	11		P1~2 200
2	80	54	22		P2~3 190
3	81	68	22		P3~4 260
4	78	68	28		P4~5 225
5	76	63	20		P5~6 230
6	86	67	32	18	P6~7 270
7	78	58	18		P7~8 120
8	64	(46)	20	38	P8~9 230
9	66	(54)	18	30	P9~10 220
10	82	50	19	32	P10~1 260

(単位cm)

第98図 鳥山下10区11号掘立柱建物跡実測図

13号掘立柱建物跡(図99・100、P L30・31)

位置 10区X=34416~20, Y=-43390~98

重複 なし

形態 一部が調査区外になるため全形は確認できな

かった。2間×3間以上

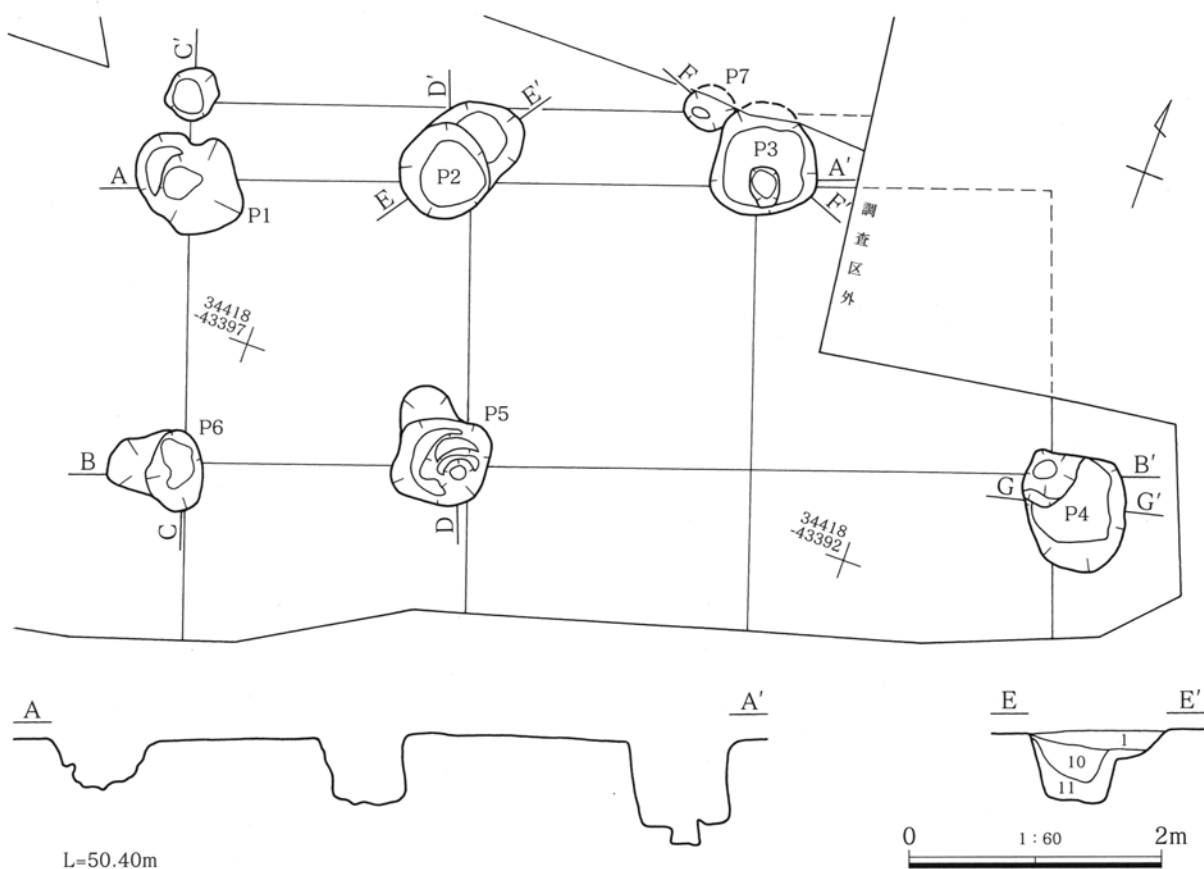
主軸方位 N-O°

規模 4.03m×3.74m

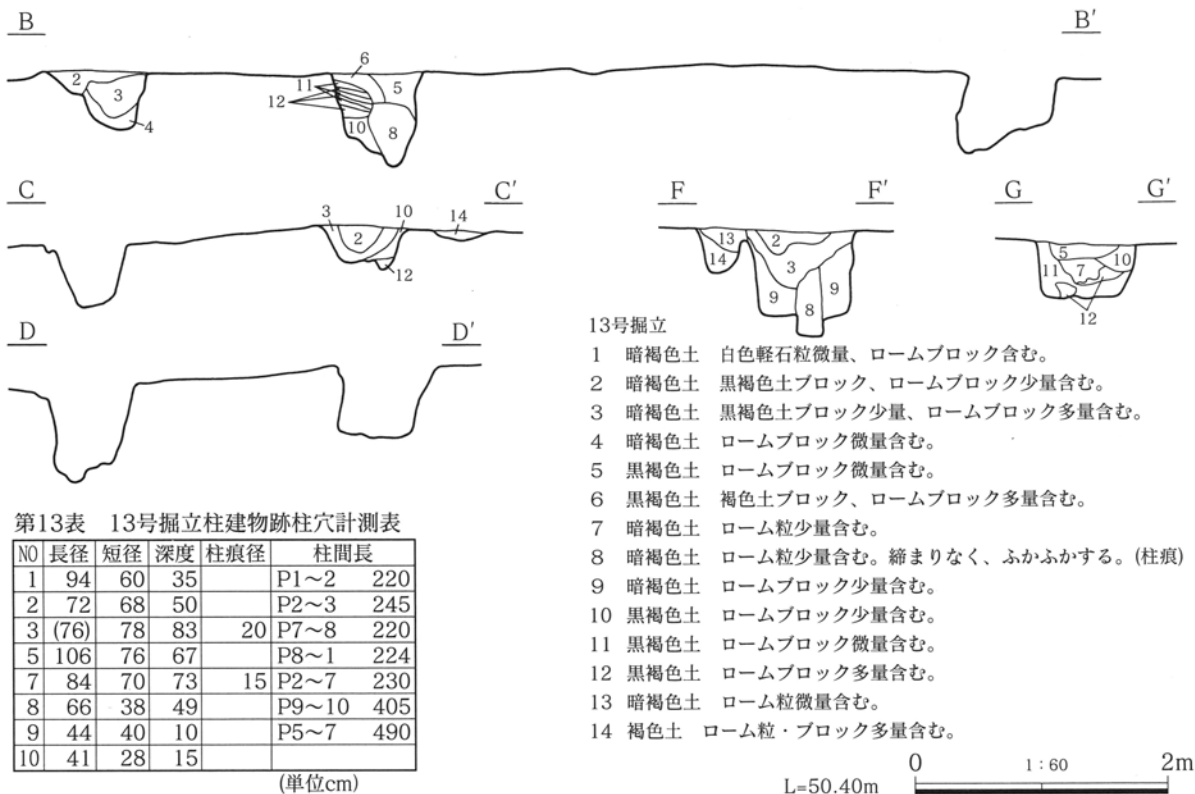
柱穴 掘り方の形態は矩形、隅丸方形を呈する。規模は径66cm~106cm、深度35cm~83cm。断面の観察から20cm程の柱痕が想定される。

遺物 なし。

所見 規模、柱穴掘り方等から古代のものと考えられる。



第99図 鳥山下10区13号掘立柱建物跡実測図



第100図 鳥山下10区13号掘立柱建物跡実測図

(3) 井戸

10号井戸(図101・102、P L 31・46)

位置 9区X=34490, Y=-43455

重複 201号土坑。土層断面の観察によると、201号土坑を10井戸が掘り壊していることから本遺構のほうが後出である。

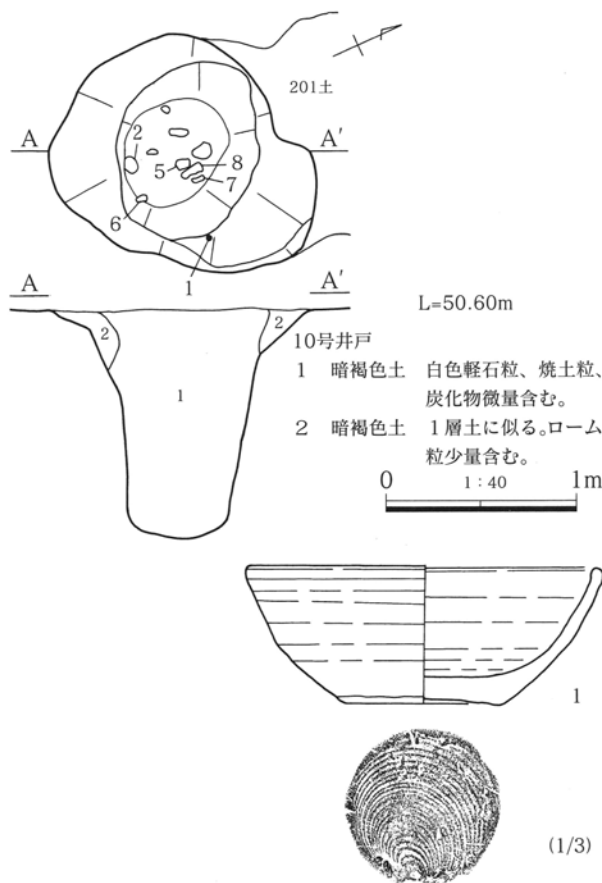
形態 確認面でやや不正形の楕円形を呈し、断面は上位から0.30mの地点でやや細まり、その下位は径0.65m程の筒状を呈す。

方位 N-70° - E

規模 長径1.37m、短径1.22m、深度1.20mを測る。

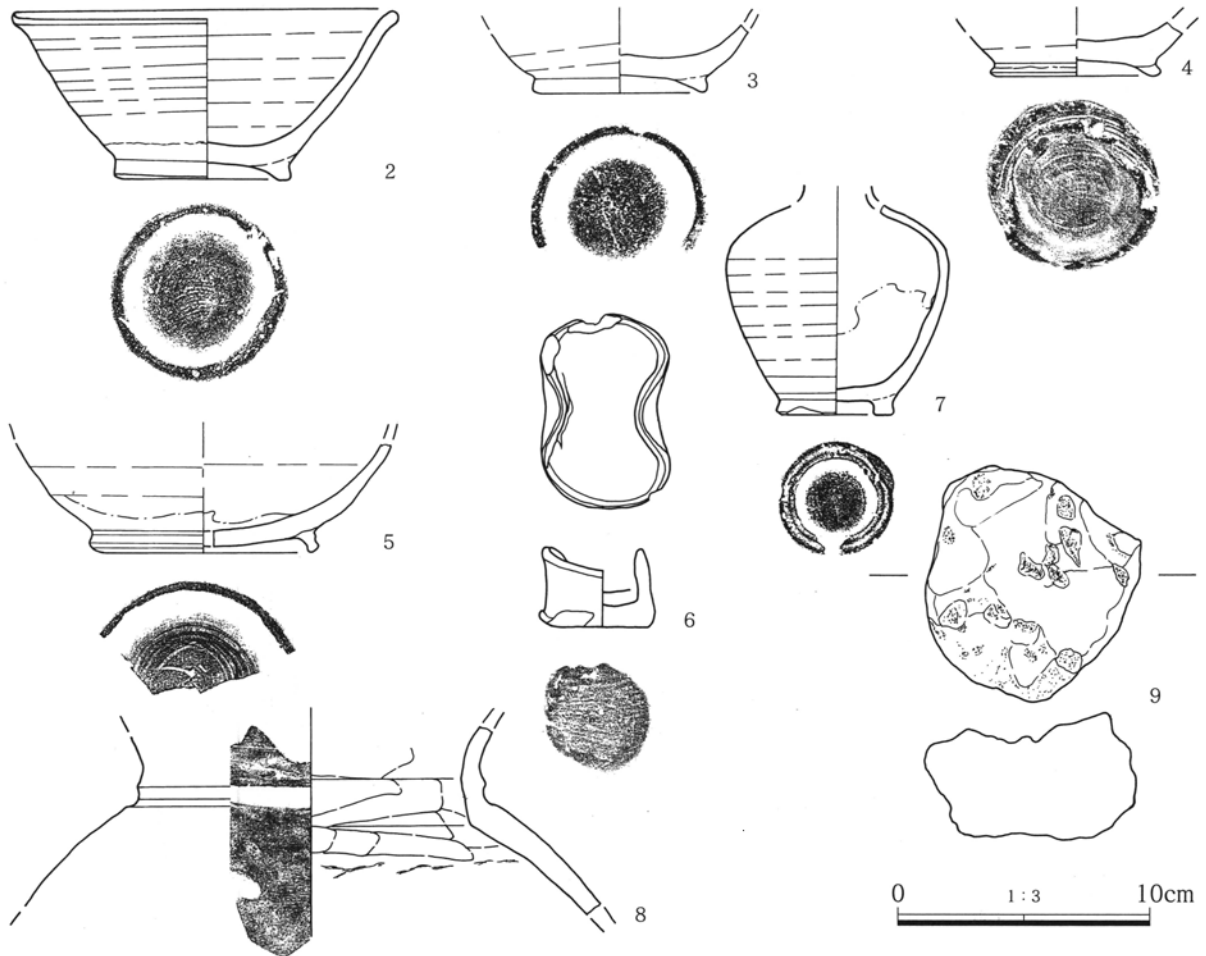
遺物 埋土上層に含まれるものが多いが、1の椀は壁際底面に密着しており、耳皿・小型壺・鉄宰・灰釉陶器片が出土している。

所見 確認部分の埋没土は単層に近く、短期間に埋没した可能性が高い。遺物から、10世紀前半までには埋没したと思われる。



第101図 鳥山下9区10号井戸・出土遺物実測図(1)

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



第102図 鳥山下9区10号井戸出土遺物実測図(2)

11号井戸(図103、P L31)

位置 9区X=34464, Y=-43443

重複 なし

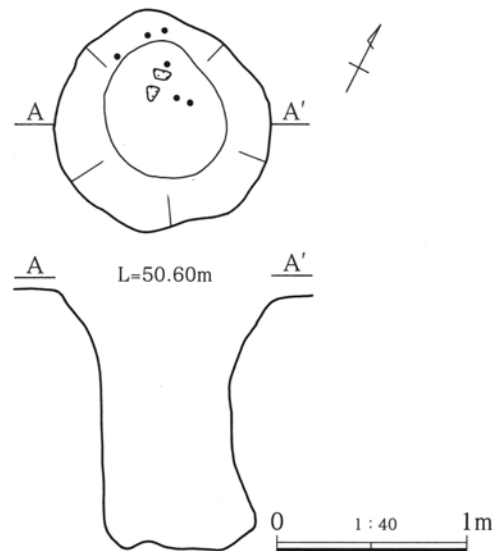
形態 確認面ではほぼ円形を呈し、断面は上位から0.30mの地点でやや細まり、その下位は径0.70m程の筒状を呈す。アグリが認められる。

方位 N-28° -W

規模 長径1.17m、短径1.15m、深度1.30mを測る。

遺物 土師器18片、須恵器8片の破片が出土したが、小片ばかりで図化できるものはなかった。また、長辺が5~10cm程の川原石状の小礫30個以上を混入。

所見 埋没土内混入であるが、遺物は9世紀代のものである。



第103図 鳥山下9区11号井戸実測図

12号井戸(図104、P L31・46)

位置 9区X=34464, Y=-43446

重複 なし

形態 確認面でやや不正形の楕円形を呈し、断面は

上位から0.15mの地点でやや細まり、その下位は径0.50m程の筒状を呈す。

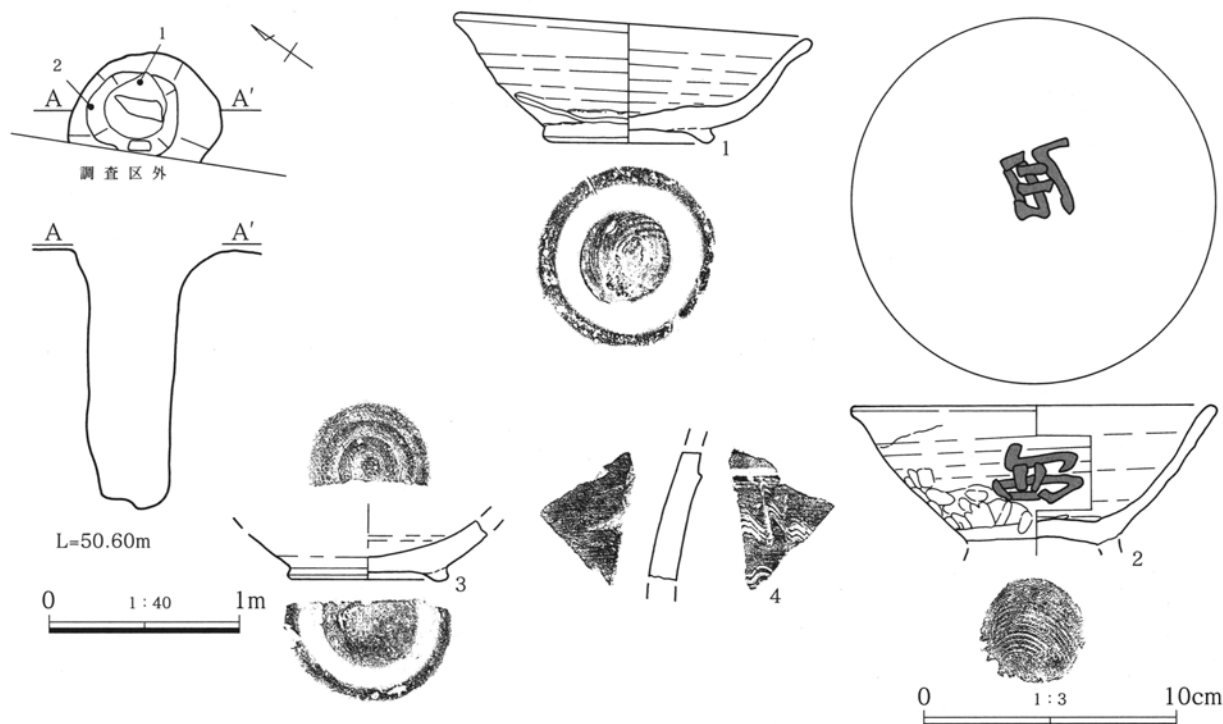
方位 N-35° -W

規模 長径0.8m、短径0.53m、深度1.35mを測る。

遺物 土師器35片・須恵器25片を出土した。主に埋土内の混入であるが、1及び・2の墨書のある椀

は壁下底面付近からの出土である。

所見 遺物から、10世紀代に埋没したものと思われる。



第104図 鳥山下9区12号井戸・出土遺物実測図

(4) 土坑

9・10区からは、のべ340基程の土坑を検出した。本遺跡では圃場整備時の掘削がローム面にまで及んでおり、ローム面上で各時代の遺構を一括調査せざるを得なかった。そこで、現状で残存条件の悪いピット状の遺構にも土坑番号を付して調査し資料を残すようにした。

それぞれの土坑について検討を加えたが年代を特定できるものは限られていた。ただし、出土遺物や周辺遺構の関連等から、縄文・弥生時代に遡るものではなく、古代以降のものと判断された。

その中で、砂質でなく土壌化している埋没土や古代遺物のみ出土、しっかりと掘り込みの形状等の条件を勘案して古代のものと考えられる遺構を選択した。それぞれの形態・規模等については、表14に一覧表として掲げてある。特徴的なものについては、以下に詳述する。

188号土坑(図105、P L32・46)

平面楕円形で底部はほぼ平坦である。埋土は、黒褐色土の単層である。遺物は図化できた坏・甕の他に土師器の小破片を少量含む。出土位置は遺構確認面よりやや高いが、底部を欠損した器肉の薄い丸胴甕は2/3程復元でき、正位に据えられていた。土坑の周辺には住居状の掘り込みは認められない。出土遺物は、9世紀中葉頃のものである。

196号土坑(図106、P L32・46)

平面不正形の掘り込みで、底面は平坦なレベルであるが小さな凹凸をもつ。埋土に微量の白色軽石粒を含んでいる。遺物は土師器の小片を含む。面積が広く特に東壁際で形状が不明瞭であるが、土坑内に焼土のまとまりがあり、深く削平され掘り方面のみ残存する住居の可能性も考えられる。出土遺物は10世紀前半頃のものである。

203号土坑(図107、P L32・47)

平面円形で、直径40cm深度1m程を測る。底面はほぼ平坦で、緩くすぼまる筒状を呈する。埋土は上層に白色軽石粒を少量含んでいる。中位から下位は単層である。遺物は下位からの出土で土師器甕胴～底部であり、9世紀代のものと考えられる。

231号土坑(図107・108、P L32・47)

505号土坑と重複する。土層断面の観察により、231号土坑の方が後出。埋土に白色軽石小粒を少量含む。底面はほぼ平坦で壁は緩く内湾して立ち上がっている。遺物は埋土中からの出土であるが、土師器・須恵器が混在し、4の椀は完形に復元されている。8世紀後半から9世紀前半の遺物を含む。

294号土坑(図108、P L33・47)

平面形は楕円形で長径80cm程を測る。粘性のある黒褐色土で埋没しており、下層ほどロームブロックの混入が多く粘性も強い。全体に白色軽石粒を含む。遺物は、土師器4片須恵器4片の他、後世の混

入と考えられる近世鍋類1片を含む。遺物9の内黒椀は、3層上面付近に正位で出土している。

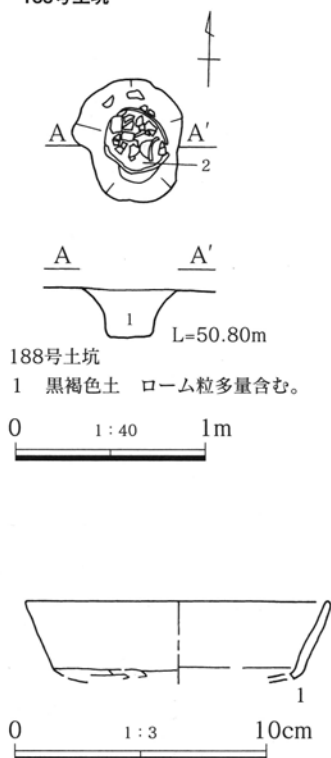
322号土坑(図109、P L33・47)

調査区外に延びるため全形は確認できなかったが、平面形は楕円形を呈すると推定される。断面形は椀型を呈する。105号住の埋土を掘り込んでいるため、105号住より新しい。固く締めり粘性のない土壌で埋没しているが、白色軽石粒をやや多めに混入し、上層に炭化物粒・下層に焼土粒を僅かに含む。土師器、須恵器各1片出土し、羽釜片の出土が特徴的である。

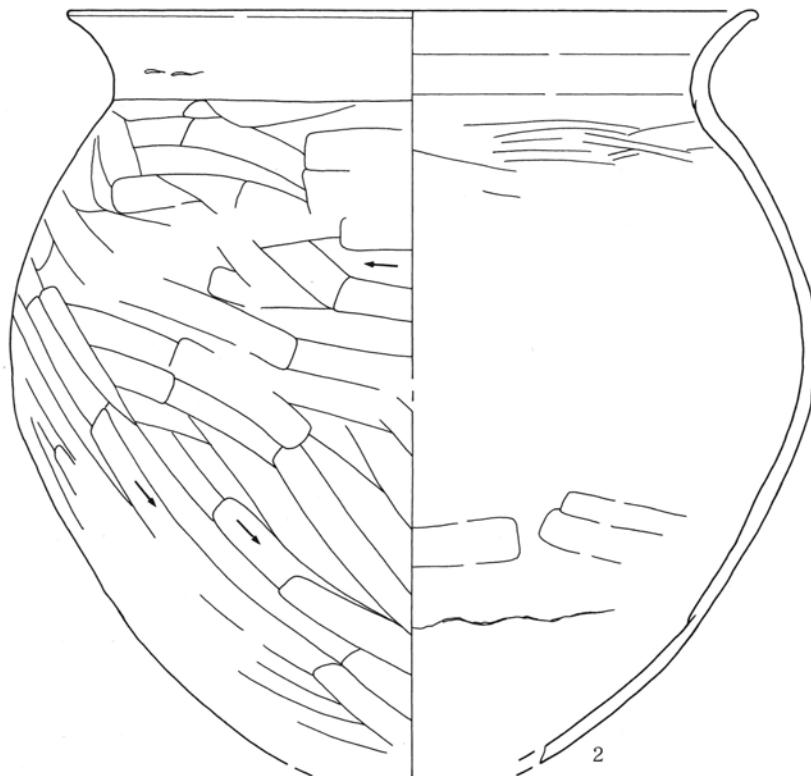
401号土坑(図109、P L33・47)

平面形は、楕円形で長径48cm程を測る。暗褐色土で埋没し、下層ほどローム粒・小ブロックの混入が多い。遺物は下位に3/5程復元された小型台付き甕、その他土師器5片須恵器2片(内1片は内黒)を出土した。

188号土坑

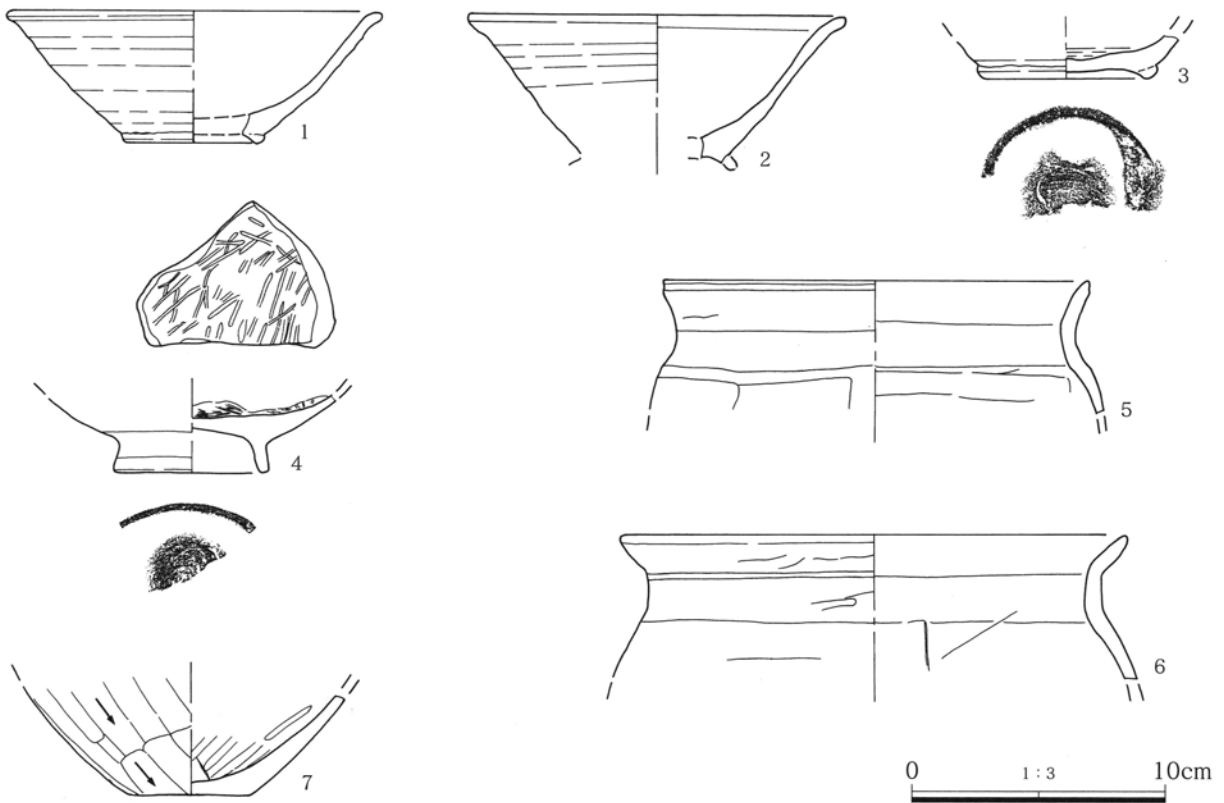
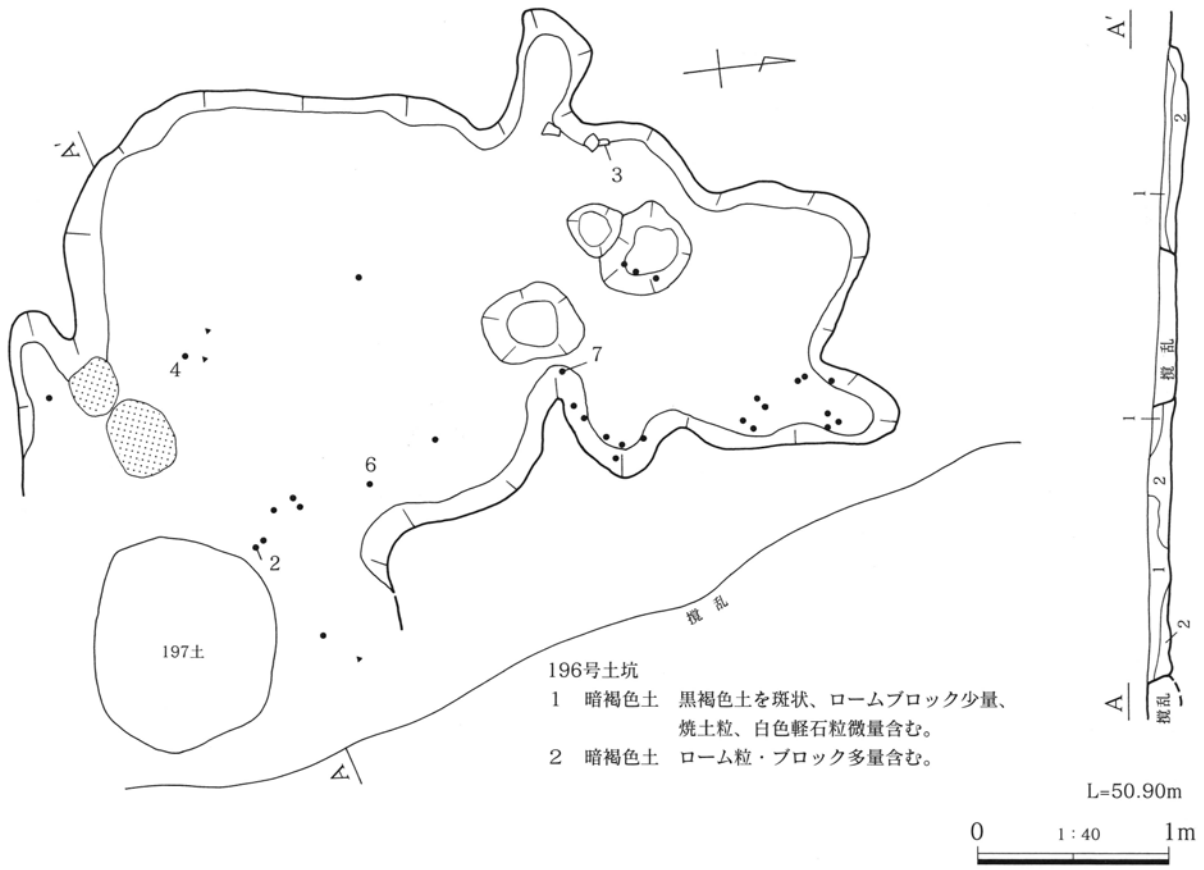


188号土坑
1 黒褐色土 ローム粒多量含む。



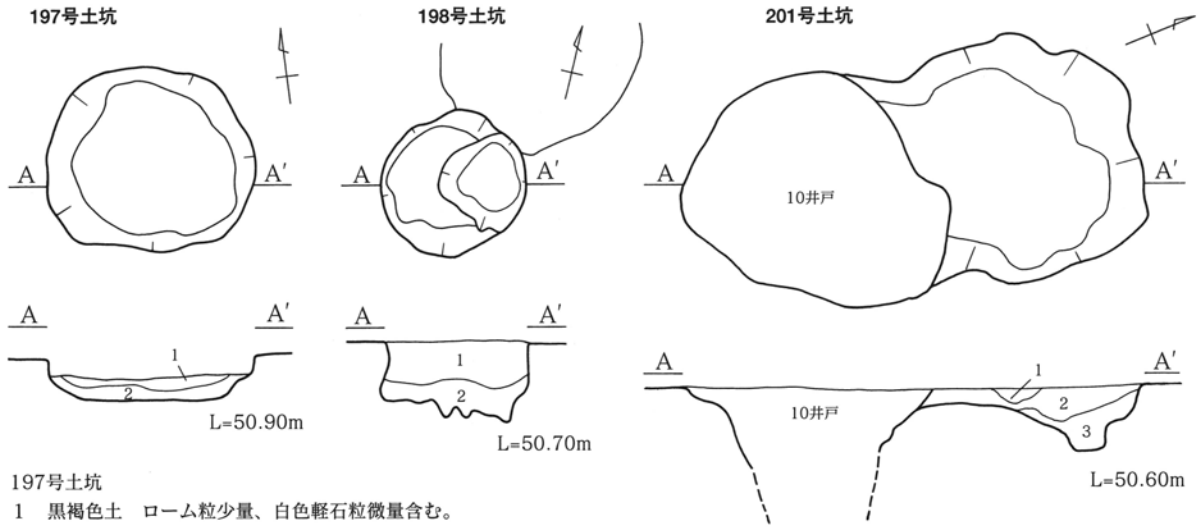
第105図 鳥山下9区188号土坑・出土遺物実測図

2. 古代の遺構・遺物



第106図 鳥山下9区196号土坑・出土遺物実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



197号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量、白色軽石粒微量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。

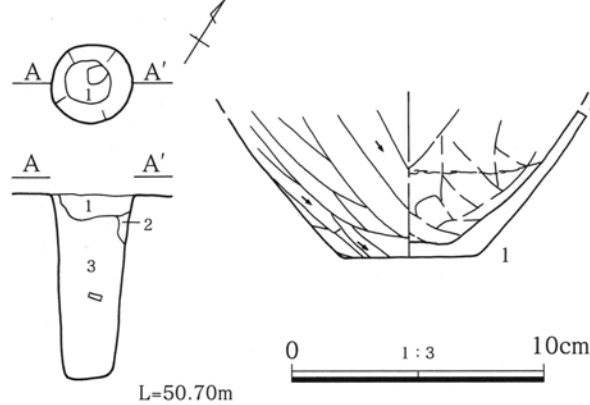
198号土坑

- 1 黒色土 ローム粒中量含む。
- 2 黒色土 ローム混在する。

201号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多量含む。

203号土坑



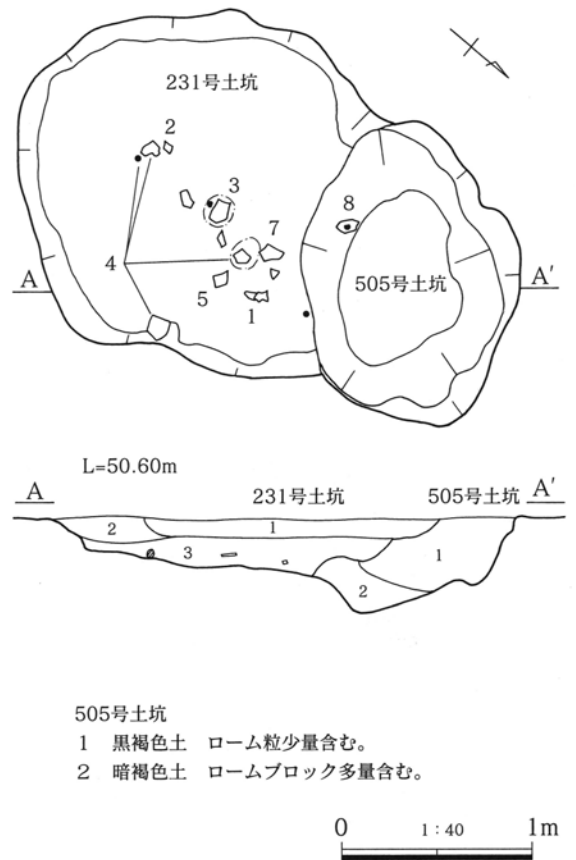
203号土坑

- 1 黒褐色土 褐色土を斑状に含み、ローム粒多量、白色軽石粒少量含む。
- 2 黒褐色土 褐色土斑状に含み、ロームブロック多量含む。
- 3 黒褐色土 褐色土を斑状に含み、ローム粒・ブロック少量含む。

231号土坑

- 1 暗褐色土 白色軽石粒少量、ローム粒多量、黒褐色土を斑状に含む。
- 2 黒褐色土 白色軽石粒多量、ローム粒少量含む。
- 3 暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒少量含む。

231・505号土坑

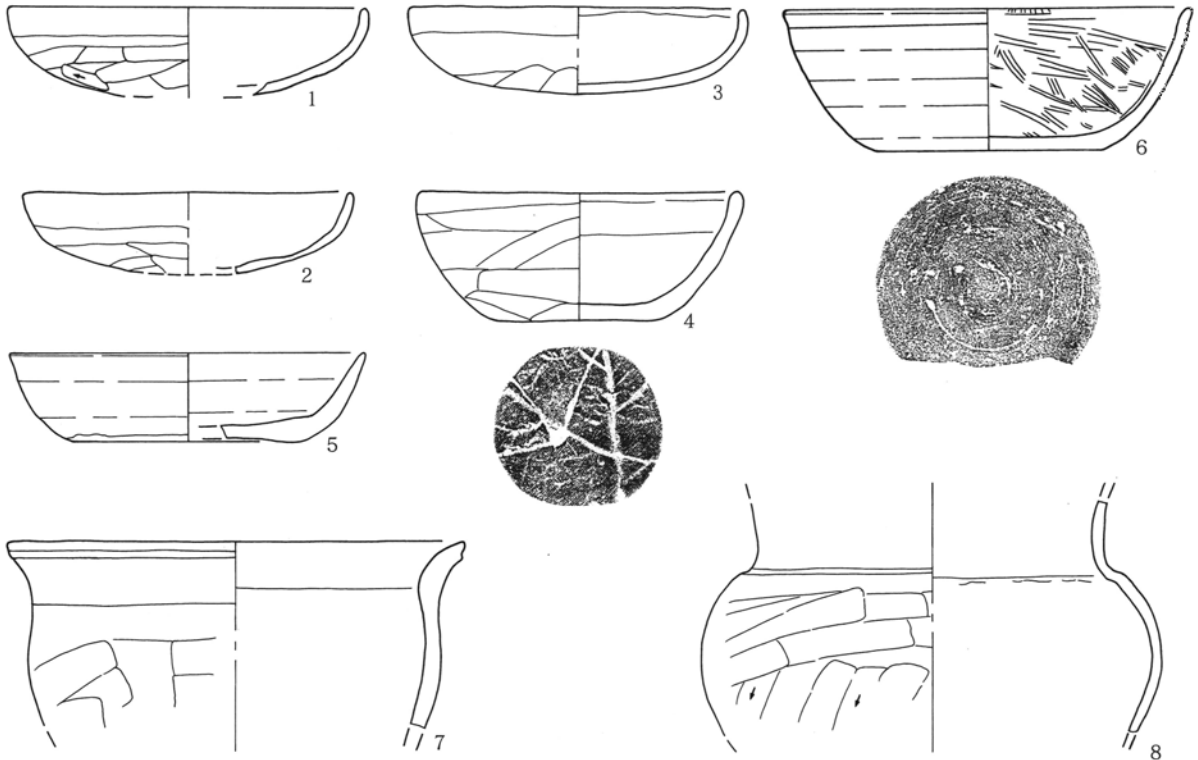


505号土坑

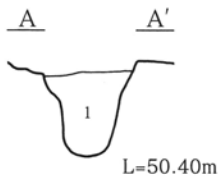
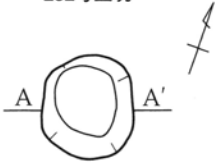
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量含む。

第107図 鳥山下9区197・198・201・203・231・505号土坑・出土遺物実測図

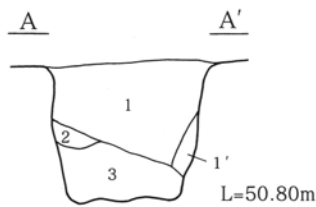
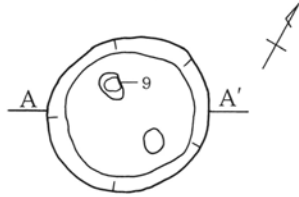
2. 古代の遺構・遺物



252号土坑



294号土坑

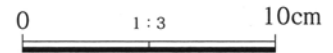
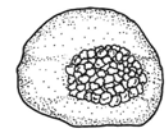
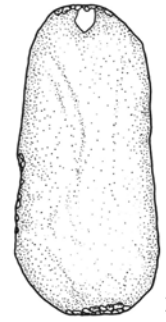
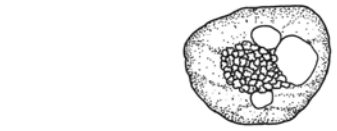
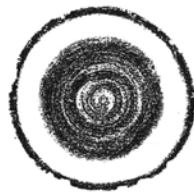
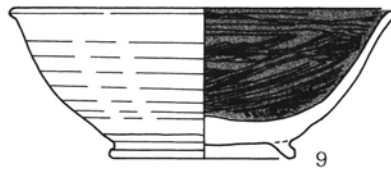
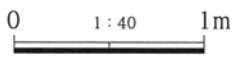


294号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒微量含む。締まり有り。粘性やや有り。
- 1' 黒褐色土 1より粘る。
- 2 黒褐色土 ロームブロック中量含む。締まり有り。粘性有り。
- 3 黒褐色土 ロームブロック混在する。

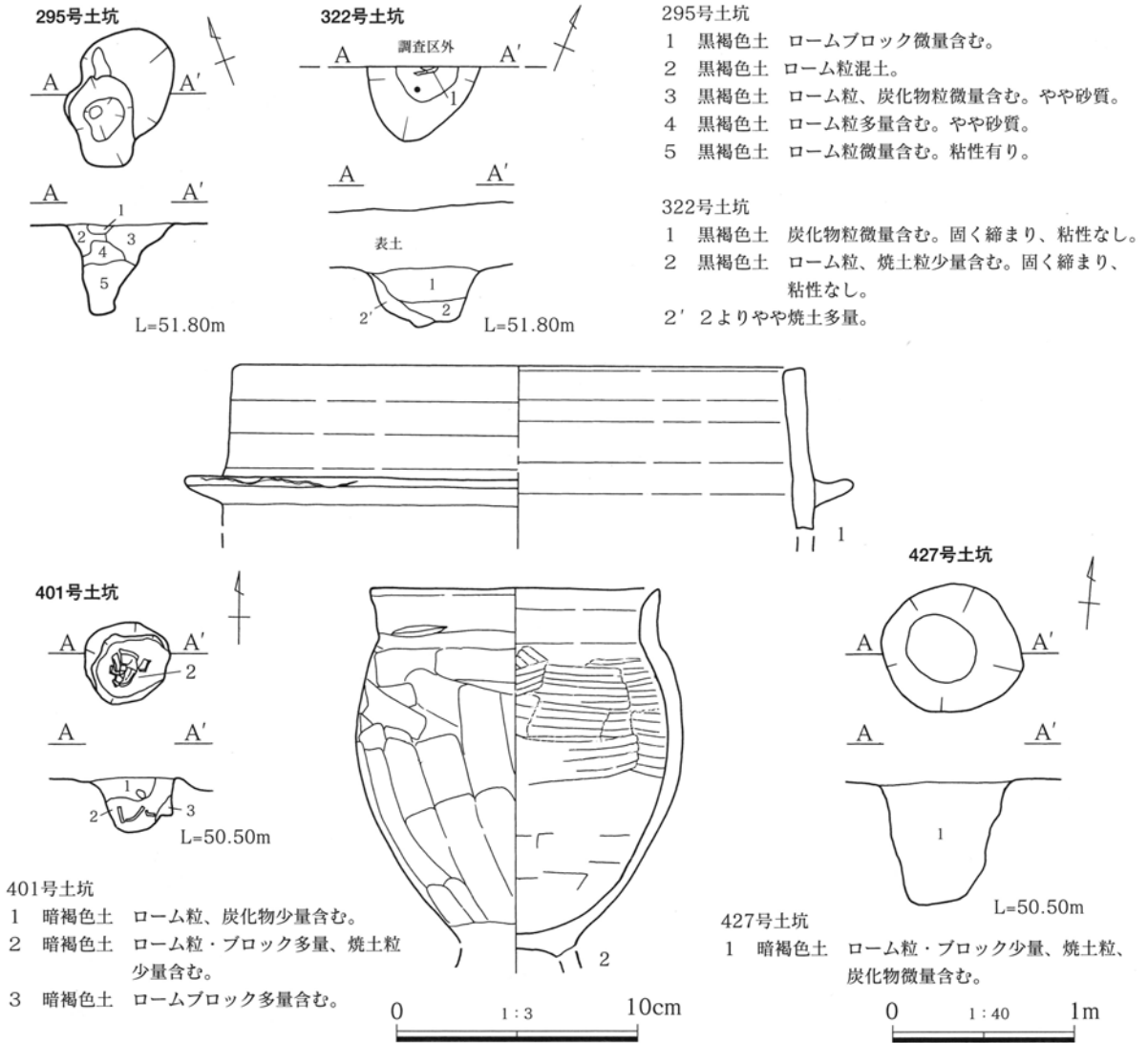
252号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒微量含む。



第108図 鳥山下9・10区231・252・294号土坑・出土遺物実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



第109図 鳥山下10区295・322・401・427号土坑・出土遺物実測図

第14表 鳥山下遺跡 土坑一覧表(古代面)

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
188	9	X=34529,Y=-43470	楕円形	N-10°-W	0.65	0.58	0.25	
196	9	X=34532,Y=-43474	不整形	N-10°-E	4.01	2.16	0.16	
197	9	X=34533,Y=-43474	隅丸長方形	N-65°-W	1.09	0.94	0.22	
198	9	X=34522,Y=-43467	円形		0.78	0.78	0.40	
201	9	X=34492,Y=-43455	不整形	N-73°-W	1.31	1.19	0.34	10井戸と重複
203	9	X=34489,Y=-43455	円形		0.43	0.43	0.97	
231	9	X=34443,Y=-43432	不整形	N-14°-W	2.03	1.89	0.25	505土と重複
252	9	X=34439,Y=-43432	隅丸長方形	N-25°-W	0.54	0.48	0.50	95住と重複
294	10	X=34519,Y=-43451	楕円形	N-20°-E	0.86	0.78	0.73	
295	10	X=34458,Y=-43496	不整形	N-41°-E	0.80	0.50	0.50	
322	10	X=34720,Y=-43528	不整形	N- 0°	(0.60)	(0.40)	0.65	105住と重複
401	10	X=34432,Y=-43410	円形		0.47	0.45	(0.30)	
427	10	X=34450,Y=-43414	隅丸正方形		0.72	0.72	0.67	
505	9	X=34443,Y=-43432	楕円形	N-43°-E	1.62	1.18	0.47	231土と重複

3. 中世以降の遺構・遺物

(1) 竪穴状遺構

5号竪穴状遺構(図110、P L33)

位置 9区X=34597~98, Y=-43494~97

重複 なし

形態 住居の大半は調査区外に延びるため全形は確認できなかった。

方位 計測不能

規模 (2.10)m×(1.00)m

面積 調査区内で3.05㎡

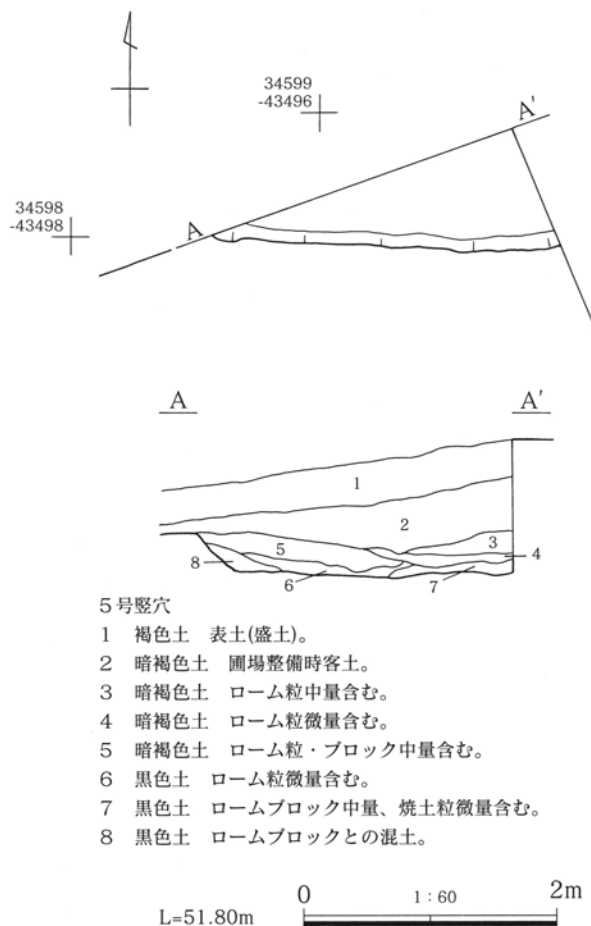
壁高 30cm

床面 細かな凹凸のある水平面。

構造物 柱穴・貯蔵穴・周溝・炉は未確認。

覆土 ローム粒・ブロックを含む自然堆積土。

遺物 なし。



5号竪穴

- 1 褐色土 表土(盛土)。
- 2 暗褐色土 圃場整備時客土。
- 3 暗褐色土 ローム粒中量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒微量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒・ブロック中量含む。
- 6 黒色土 ローム粒微量含む。
- 7 黒色土 ロームブロック中量、焼土粒微量含む。
- 8 黒色土 ロームブロックとの混土。

第110図 鳥山下9区5号竪穴状遺構実測図

(2) 井戸

13号井戸(図111、P L33)

位置 10区X=34653, Y=-43504

重複 なし

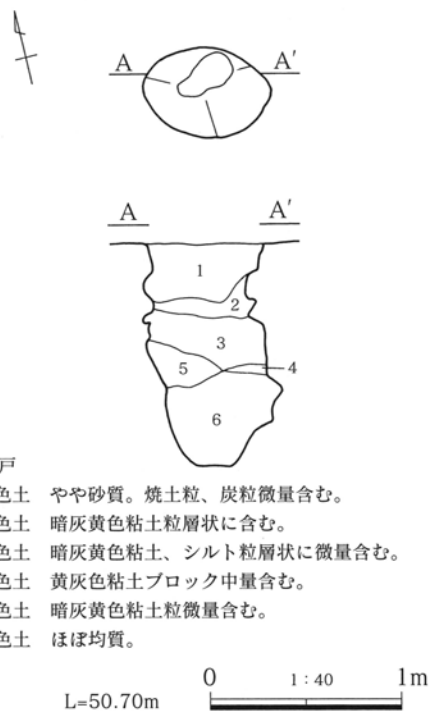
形態 確認面で楕円形を呈し、断面は径0.60m程の筒状を呈す。中・下位にアグリが認められる。

方位 N-72° -W

規模 長径0.57m、短径0.48m、深度1.17mを測る。

遺物 土師器破片、近世磁器破片数点が出土した。

所見 確認面から0.55m程下位に砂層があり、湧水層であったと推定される。出土遺物から、近世以降に埋没したものと思われる。



13号井戸

- 1 黒色土 やや砂質。焼土粒、炭粒微量含む。
- 2 黒色土 暗灰黄色粘土粒層状に含む。
- 3 黒色土 暗灰黄色粘土、シルト粒層状に微量含む。
- 4 黒色土 黄灰色粘土ブロック中量含む。
- 5 黒色土 暗灰黄色粘土粒微量含む。
- 6 黒色土 ほぼ均質。

第111図 鳥山下10区13号井戸実測図

(3) 土坑

中世以降の土坑についても年代を特定できるものは少なかったが、砂質の埋没土や中世以降の遺物の出土、掘り込みの特徴等の条件を勘案して、中世以降と判断される遺構を選択した。

中世以降の土坑と考えたものを分類すると、①平面楕円形で長辺2m弱の規模のもので、146・200・329・367号土坑等がこれにあたる。埋土中に小礫から拳大の円礫を多数混入する特徴があり、中世から近世の遺物を含む傾向がある。②平面形がほぼ円形で断面逆台形のもので、147・335号土坑等がこれにあたる。中世から近世の遺物を含む。③平面形が方形或いは長方形で、底面が平坦なもので、199号土坑等がこれにあたる。締まりの弱い砂質土を埋土とし、瓦破片等近世以降の遺物を含むものが多い。

それぞれの形態・規模については表15に一覧表として掲げてある。①、②に分類された遺構を中心として、特徴的なものについては以下に詳述する。

146号土坑(図112、P L34・47)

平面楕円形で底面は平坦である。断面逆台形であるが、壁の一部に掘り込みが見られる。埋土は上層が砂質を帯び、下層には焼土粒・炭化物粒を少量含む。中央部分では、下層から上層にかけて長辺5～8cm程の円礫を多く混入する。軟質陶器片、茶白破片と共に土師器・須恵器片を出土した。

147号土坑(図113、P L34・47)

平面円形で底面は平坦である。断面は筒状を呈するが底部付近がやや膨らむ。埋土は黒褐色土の単層で中位から下位に長辺10cm以下の円～垂角礫が混入している。遺物は焼き締め陶器、瓦片及び土師器片を出土している。断面形状及び堆積状況から土坑墓の可能性も考えられる。

199号土坑(図113、P L34)

平面長方形で底面は平坦である。埋土は径0.5～5cm大のロームブロックを少量含む締まりのない暗

褐色砂質土である。遺物はない。近世以降の遺構である可能性が高い。

200号土坑(図113・114、P L34・47・48)

調査区外に延びるため全形を検出できなかったが、平面楕円形を呈するものと思われる。断面形は中位に段をもつ袋状を呈する。埋土は最下層が粘性のある土壌で、中層以上は砂質味を帯びる。中位には南壁より北側へ滑り落ちるように長辺5～15cmの円礫の混入が見られる。埋土より軟質陶器、石皿片の可能性のある石片を出土した。

276号土坑(図115、P L34・48)

平面長方形で、底面は平坦であり、壁は垂直に近い。埋土はローム粒を少量含む粘性のない暗褐色土である。遺物は瓦片・石臼が出土している。近世以降の土坑と考えられる。

286号土坑(図116、P L35)

平面正方形で、底面は平坦であり、壁は垂直に近い。埋土は径0.5～1.5cm大のロームブロックを少量含む粘性のない暗褐色土である。瓦破片5点を含む。近世以降の土坑と考えられる。

308号土坑(図116、P L35)

平面円形で断面形は下位の僅かに開く円筒状を呈する。埋土は、下層が砂質の暗褐色土である。遺物は近世陶器片及び土師器・須恵器破片を含む。形状から井戸の可能性も考えられる。

329号土坑(図117、P L35・48)

平面楕円形で、断面形は中位に段をもつ袋状を呈する。104号住及び108号溝と重複するが新旧は明確でない。埋土は単層で上位に円礫の混入が顕著であるため、人為的な埋没が想定される。遺物は、軟質陶器片・不明石製品と共に土師器・須恵器片を出土。

333号土坑(図118、P L36)

平面円形で、断面は下位が僅かに開く円筒状を呈する。埋土は上層がAs-Aを含む砂質土である。下層には円礫を含む。遺物はなし。断面形状及び堆積状況から土坑墓の可能性も考えられる。

335号土坑(図118、P L36)

平面円形で、断面形は円筒状を呈する。底面は平坦であり礫層になっている。埋土は締まりが悪くやや砂質。径15cm以下の自然礫が3層中よりまとまって出土。遺物は、流れ込みと考えられる土師器・須恵器の破片を含む。断面形状及び堆積状況から土坑墓の可能性も考えられる。

363号土坑(図118、P L36)

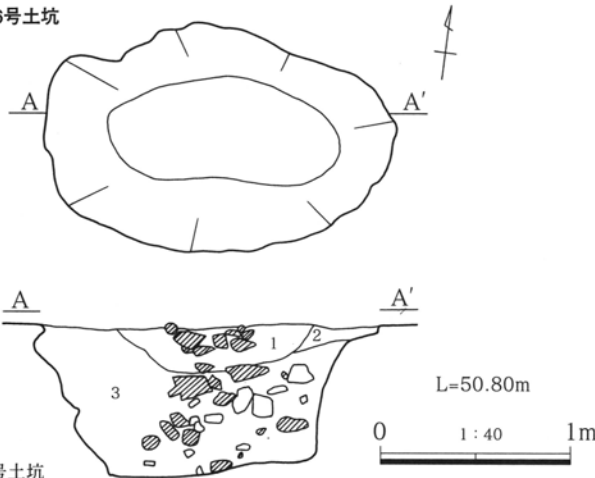
調査区外に伸びるため全形は確認できなかったが、平面は楕円形になるものと思われる。断面形は中位の膨らむ円筒状を呈する。埋土は暗褐色砂質土

の単層であり、人為的な埋没が想定される。遺物は、五輪塔地輪の破片須恵器甕片のほか土師器破片を少量含む。断面形状及び堆積状況から土坑墓の可能性も考えられる。

367号土坑(図119、P L36・48)

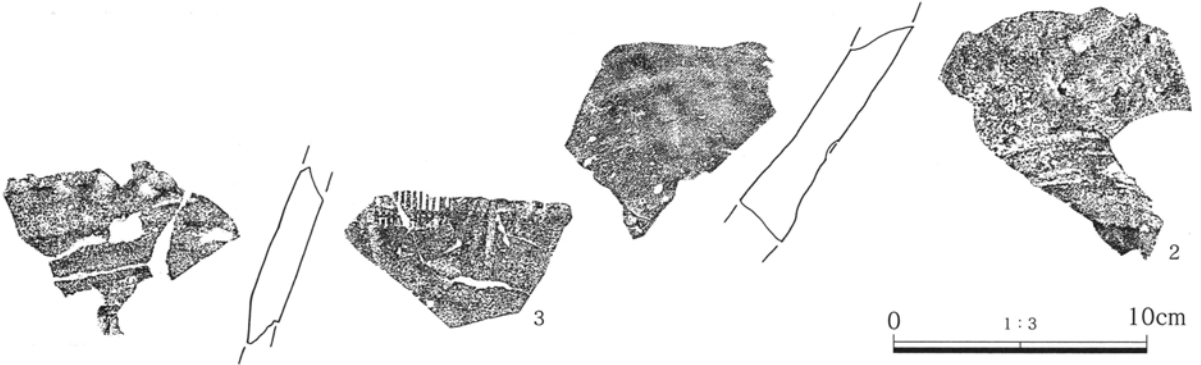
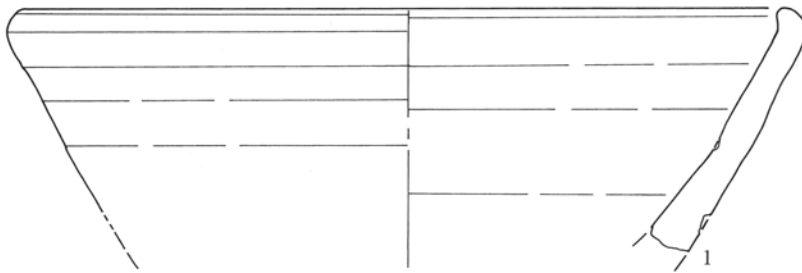
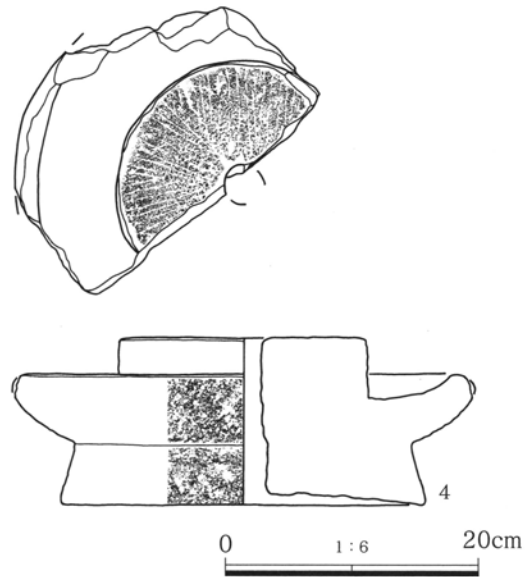
調査区外に伸びるため全形は確認できなかったが、平面は楕円形になるものと思われる。断面形は円筒状を呈する。埋土は単層であり、扁平な亜角礫の他円礫を多く含む。人為的な埋没が想定される。遺物は、軟質陶器片、石臼破片を出土。

146号土坑



146号土坑

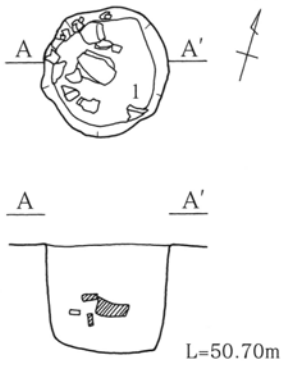
- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。砂質。
- 2 黒褐色土 ローム粒多量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒、炭極少量含む。



第112図 鳥山下9区146号土坑・出土遺物実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

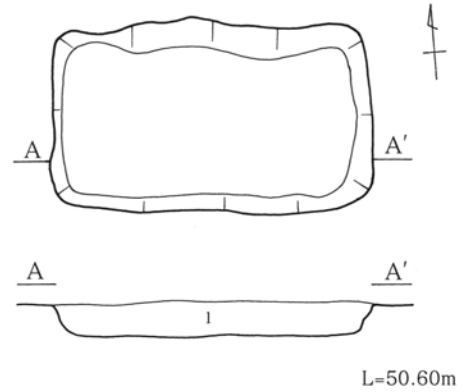
147号土坑



147号土坑

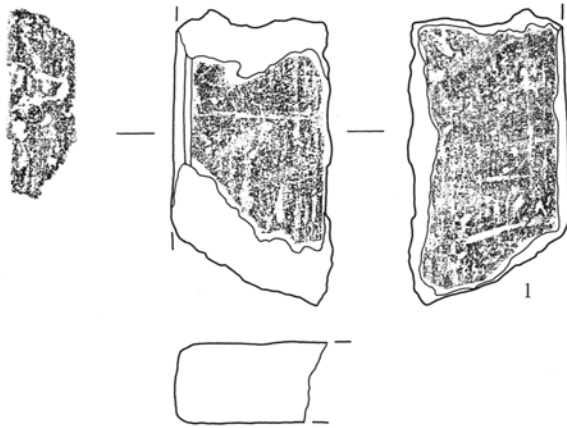
1 黒褐色土 ローム粒が見られる。縮まり有り。粘性やや有り。

199号土坑

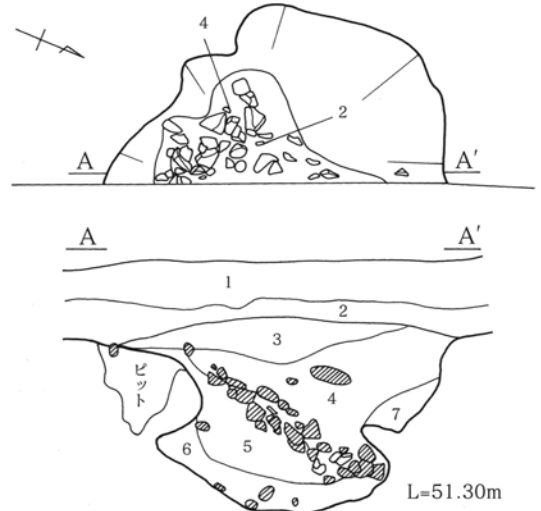


199号土坑

1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

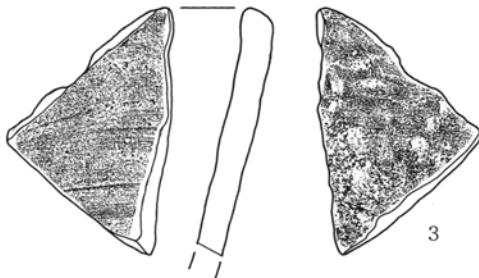


200号土坑



200号土坑

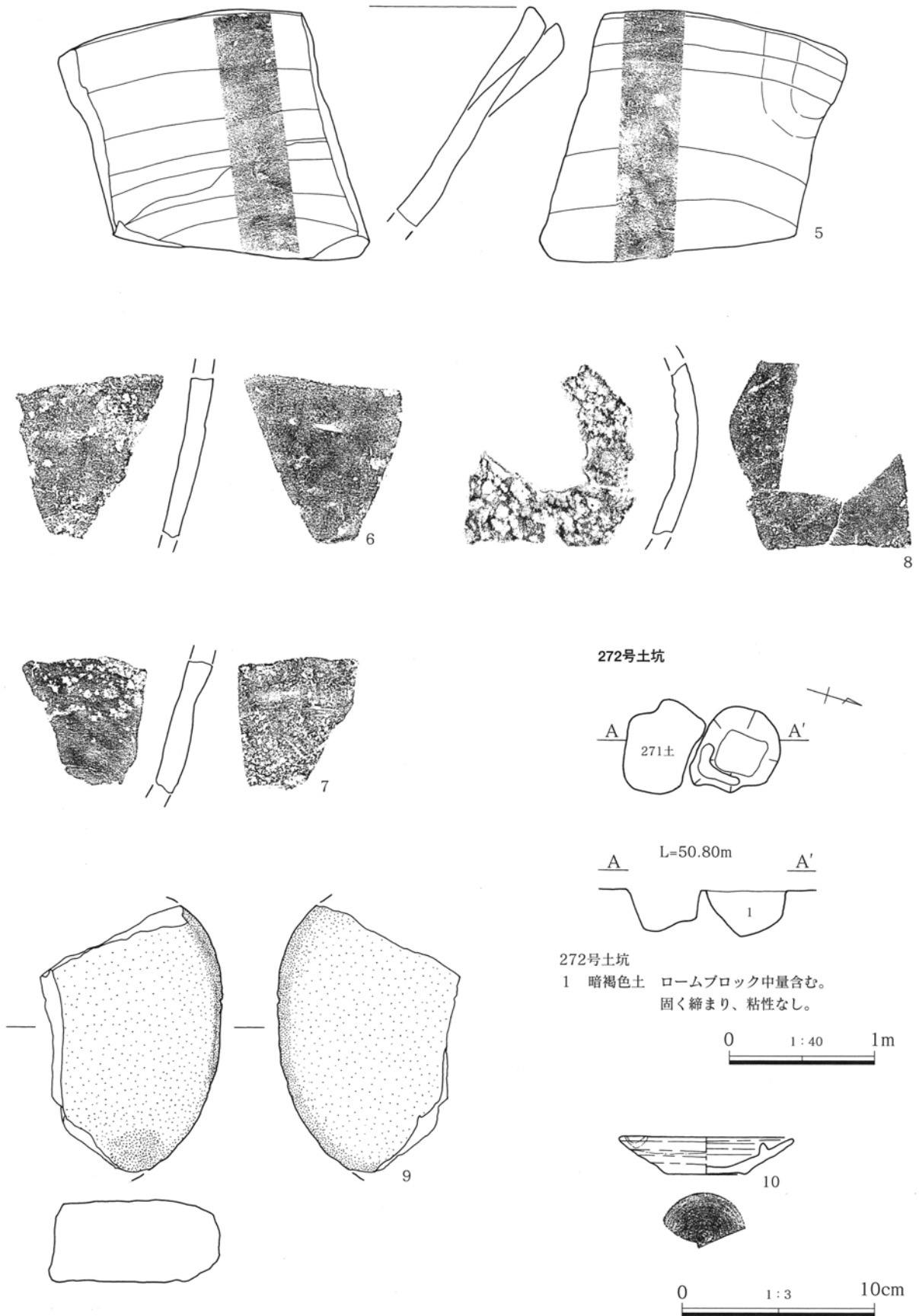
- 1 暗褐色土 ローム粒、炭化粒混じる。粒子やや粗く、縮まり良い。
- 2 黒褐色土 ローム粒混じる。粒子細く、縮まり良い。
- 3 黒褐色土 2層に似るがローム粒なし。下位に小礫群。
- 4 黒褐色土 粒子やや粗く、縮まり弱い。小礫少し混じる。
- 5 黒褐色土 粒子細く、縮まり弱い。地山に砂粒混じる。
- 6 黒褐色土 粒子細く、縮まり弱い。ローム粒混在。
- 7 黒褐色土 粒細く、縮まり良い。ローム粒混在。



0 1:40 1m

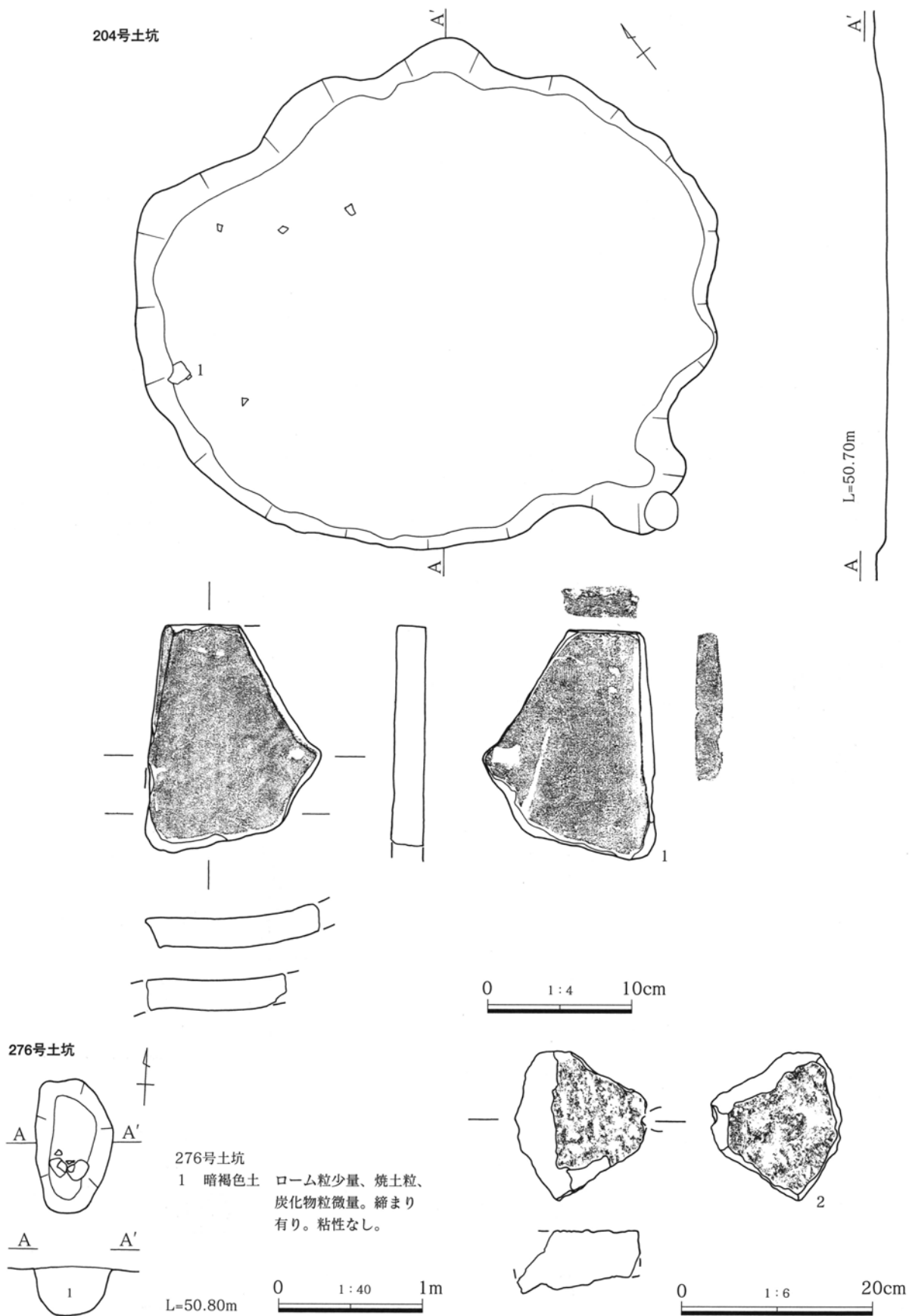
0 1:3 10cm

第113図 鳥山下9区147・199・200号土坑・出土遺物実測図(1)



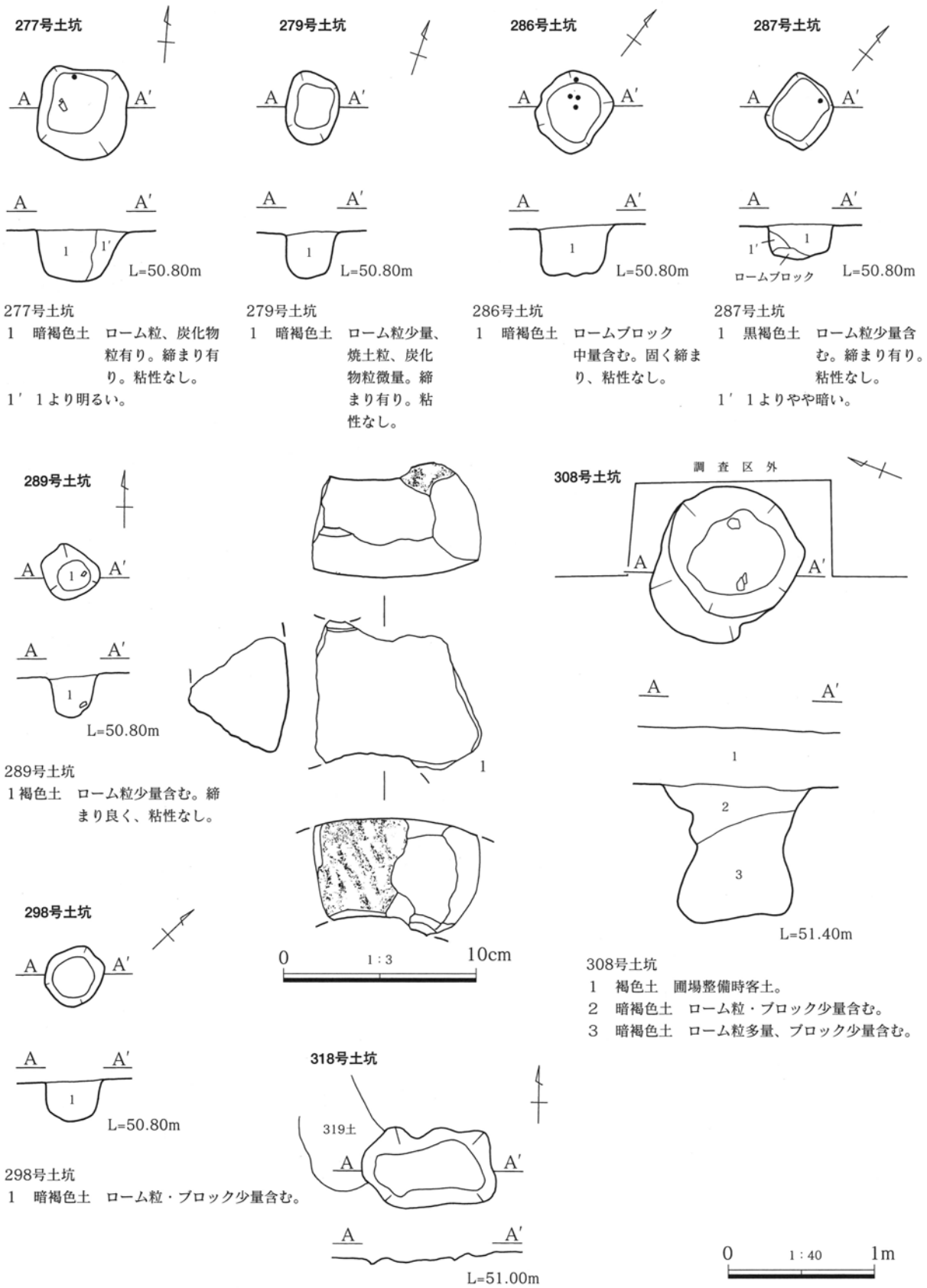
第114図 鳥山下9・10区200・271・272号土坑・出土遺物実測図(2)

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



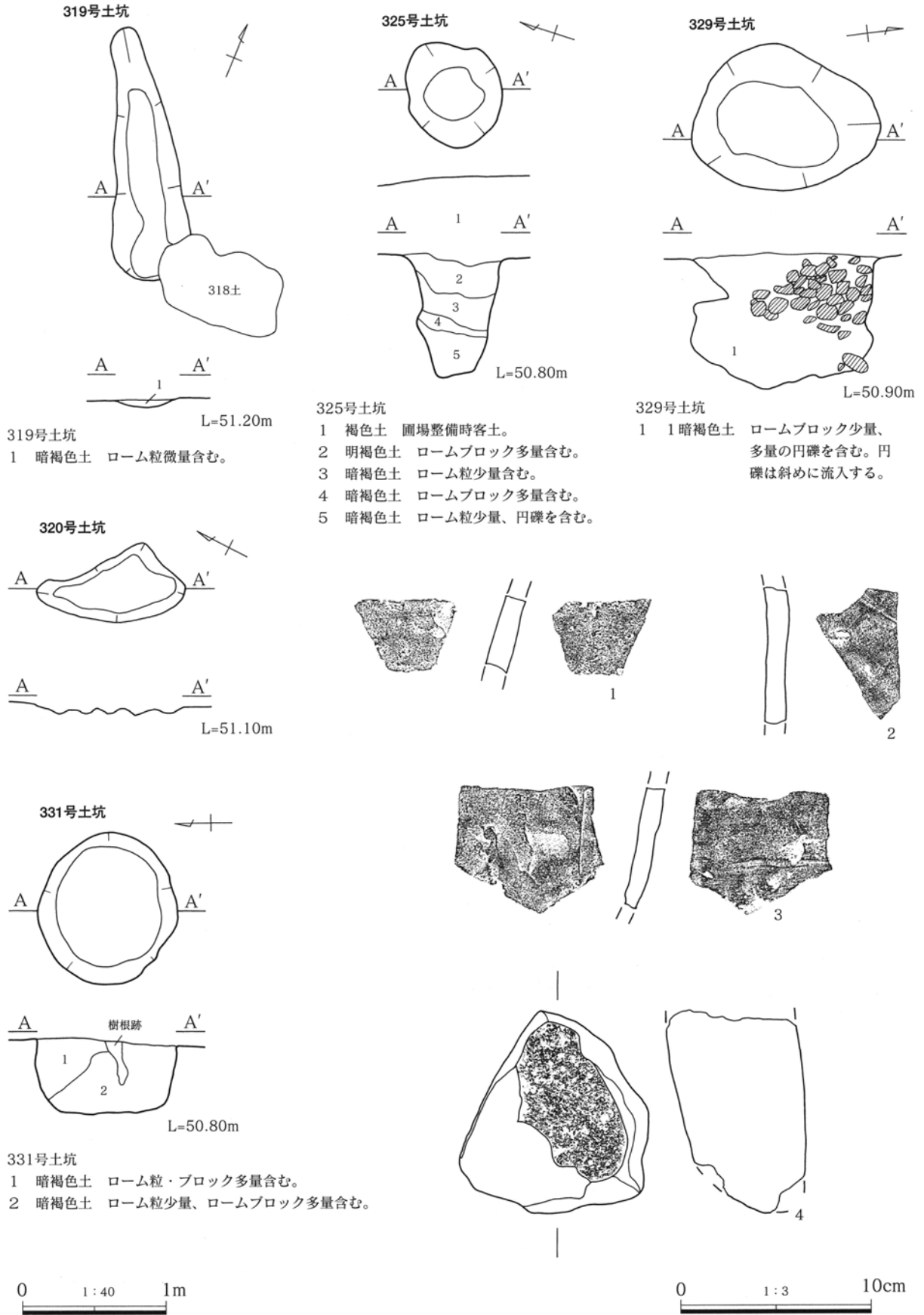
第115図 鳥山下9・10区204・276号土坑・出土遺物実測図

3. 中世以降の遺構・遺物



第116図 鳥山下10区277・279・286・287・289・298・308・318号土坑・出土遺物実測図

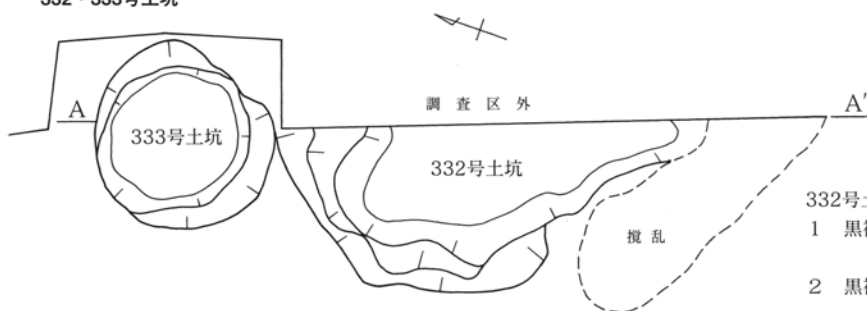
V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



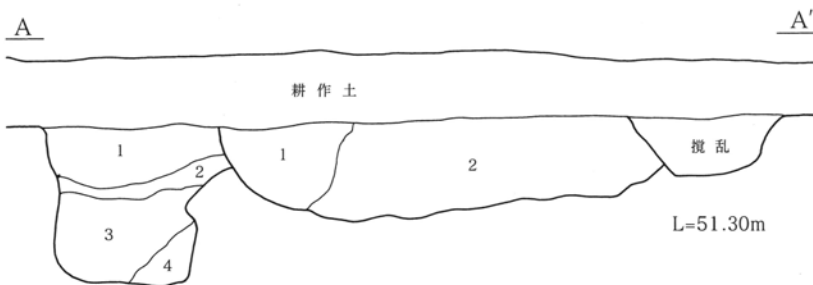
第117図 鳥山下10区319・320・325・329・331号土坑・出土遺物実測図

3. 中世以降の遺構・遺物

332・333号土坑

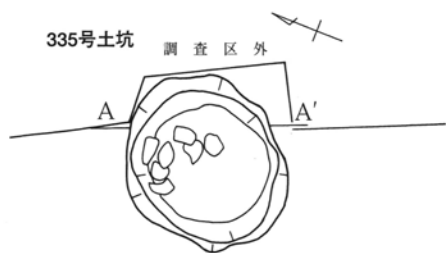


- 332号土坑
- 1 黒褐色土 As-A軽石、ローム粒・ブロック少量含む。
 - 2 黒褐色土 多量のロームブロックで埋め尽くされた人為的埋め戻し。



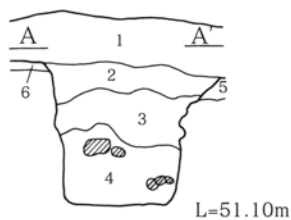
- 333号土坑
- 1 暗褐色土 As-A軽石多量ローム粒・ブロック少量含む。
 - 2 黒褐色土 As-A軽石、ローム粒少量含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。円礫を含む。
 - 4 暗褐色土 ローム粒多量含む。

335号土坑

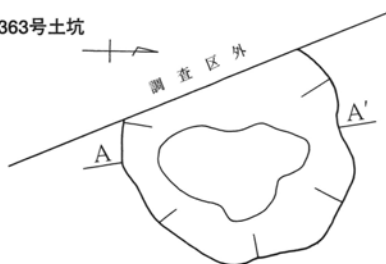


335号土坑

- 1 黒褐色土 白色軽石粒、ローム粒少量含む。砂質。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量、白色軽石粒微量含む。砂質。
- 3 黒褐色土 2層にロームブロック微量、礫含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック少量、白色軽石粒微量含む。やや砂質。
- 5 黒褐色土 4層にロームブロック中量含む。
- 6 暗黄褐色土 ローム漸移層。
- 7 黒褐色土 ローム粒中量含む。

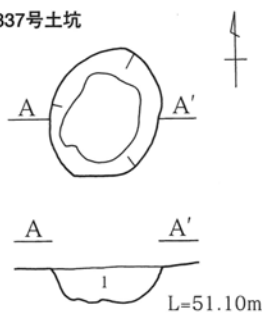


363号土坑



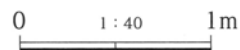
- 363号土坑
- 1 暗褐色土 ロームブロック、炭化物少量含む。

337号土坑



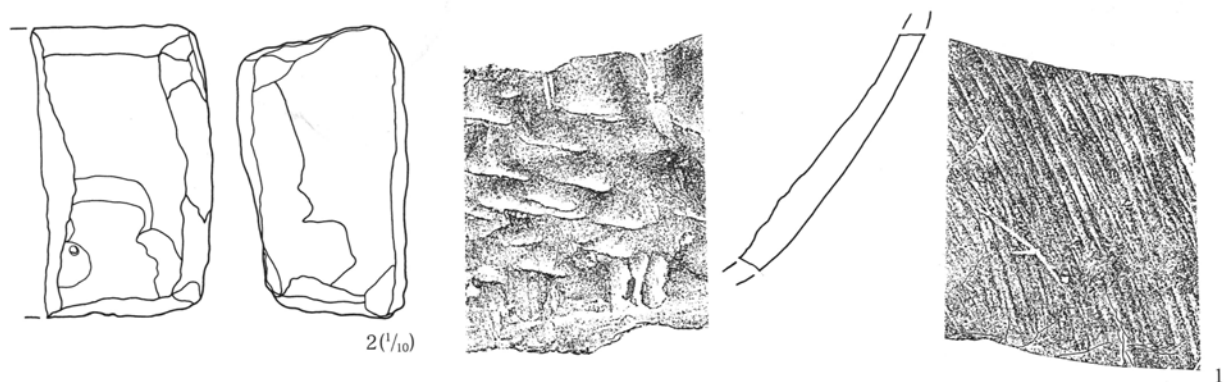
337号土坑

- 1 黒褐色土 白色軽石粒少量含む。やや砂質。

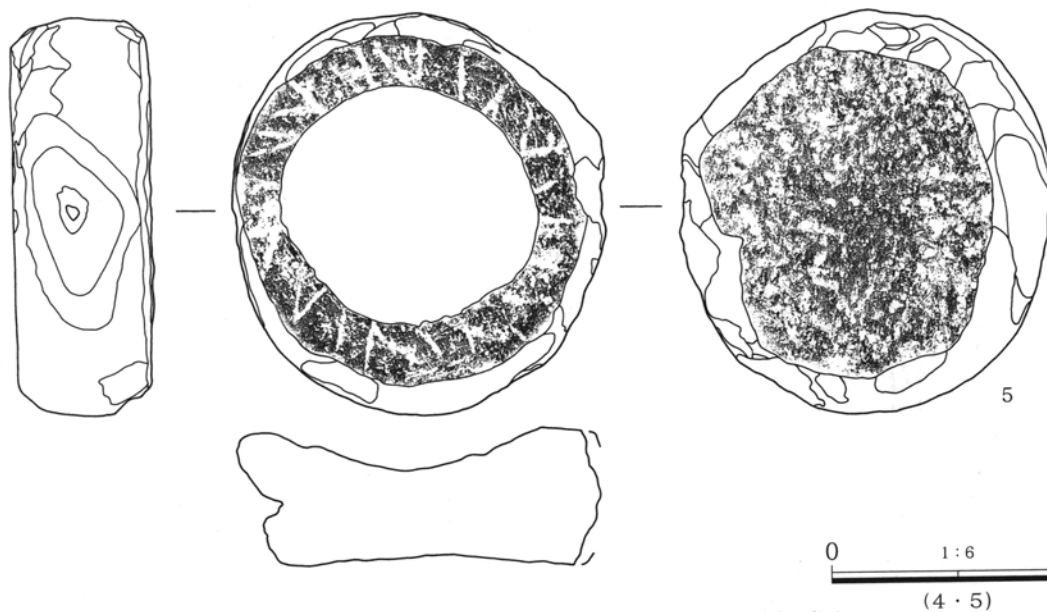
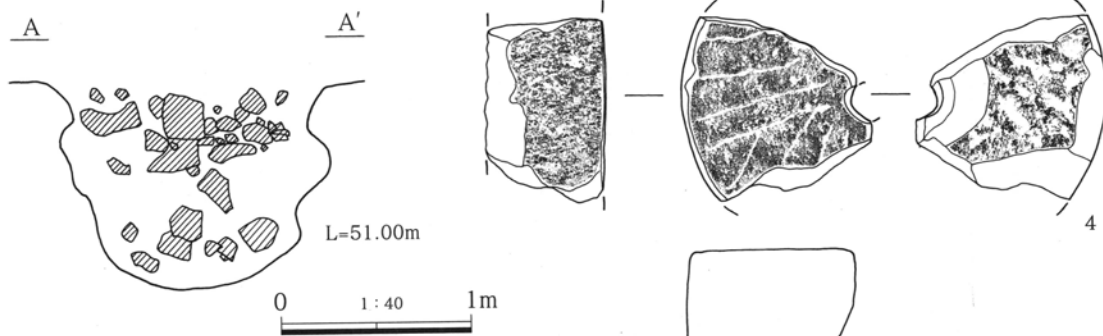
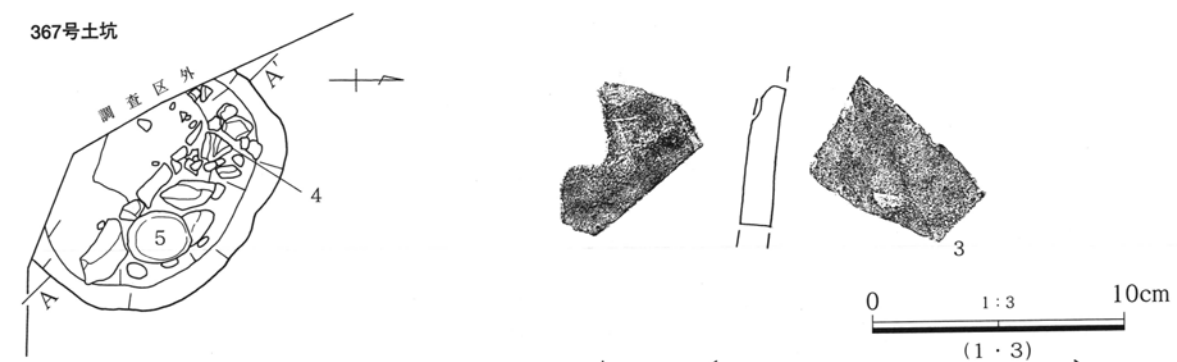


第118図 鳥山下10区332・333・335・337・363号土坑実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



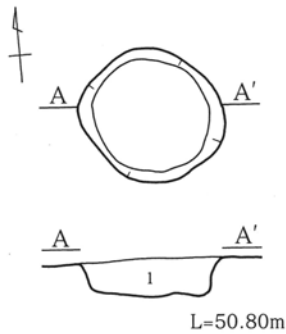
367号土坑



第119図 鳥山下10区363・367号土坑・出土遺物実測図

3. 中世以降の遺構・遺物

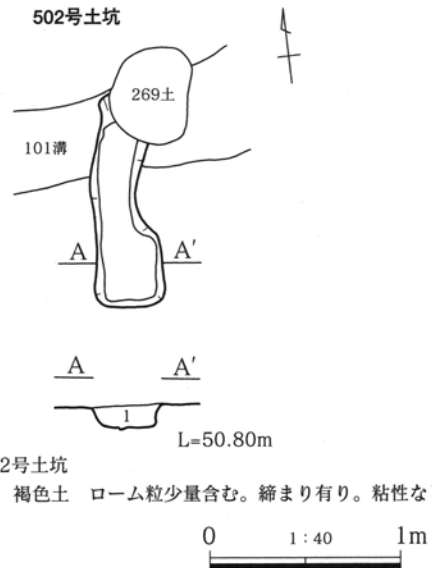
376号土坑



376号土坑

1 暗褐色土 ロームブロック多量含む。

502号土坑



502号土坑

1 褐色土 ローム粒少量含む。締まり有り。粘性なし。

第120図 鳥山下10区376・502号土坑実測図

第15表 鳥山下遺跡 土坑一覧表(中世以降)

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
146	9	X=34567,Y=-43488	楕円形	N-84°-E	1.85	1.18	0.80	
147	9	X=34546,Y=-43474	円形		0.70	0.67	0.58	
199	9	X=34496,Y=-43455	隅丸長方形	N- 5°-E	1.69	1.00	0.20	
200	9	X=34565,Y=-43480	不整形	N-24°-W	1.77	(0.92)	0.98	
204	9	X=34508,Y=-43462	隅丸長方形	N-54°-W	3.98	3.52	0.10	
272	10	X=34508,Y=-43442	不整形	N-55°-W	0.60	0.55	0.30	271土と重複
276	10	X=34512,Y=-43442	楕円形	N- 0°	0.92	0.55	0.34	
277	10	X=34512,Y=-43445	隅丸方形	N- 0°	0.62	0.60	0.35	
279	10	X=34513,Y=-43445	隅丸長方形	N- 0°	0.48	0.35	0.30	
286	10	X=34515,Y=-43445	隅丸長方形	N- 0°	0.53	0.45	0.35	
287	10	X=34516,Y=-43446	隅丸長方形	N- 0°	0.46	0.40	0.23	
289	10	X=34518,Y=-43448	隅丸方形	N- 0°	0.38	0.37	0.26	
298	10	X=34536,Y=-43452	円形		0.40	0.40	0.25	
308	10	X=34541,Y=-43452	不整形	N-70°-E	1.12	0.96	0.90	
318	10	X=34625,Y=-43494	隅丸長方形	N-91°-W	0.90	0.50	0.05	319土と重複
319	10	X=34625,Y=-43495	不整形	N-30°-W	1.77	0.48	0.05	318土と重複
320	10	X=34627,Y=-43496	不整形	N-26°-W	1.05	0.46	0.05	
325	10	X=34548,Y=-43454	隅丸方形	N-28°-E	0.76	0.64	0.85	
329	10	X=34546,Y=-43459	楕円形	N-22°-E	1.27	1.0	0.95	104住と重複
331	10	X=34552,Y=-43459	楕円形	N-78°-W	1.02	0.95	0.53	
332	10	X=34553,Y=-43457	不整形	N-22°-E	(1.30)	(0.85)	0.50	333土と重複
333	10	X=34556,Y=-43458	楕円形	N- 0°	0.95	0.90	0.83	332土と重複
335	10	X=34595,Y=-43473	楕円形	N-36°-E	0.97	0.80	0.77	107溝と重複
337	10	X=34600,Y=-43480	楕円形	N-23°-E	0.72	0.58	0.18	
363	10	X=34568,Y=-43472	不整形	N- 0°	1.20	(1.0)	1.00	
367	10	X=34563,Y=-43470	隅丸長方形	N-44°-W	1.48	(0.95)	1.05	
376	10	X=34567,Y=-43464	隅丸方形	N-60°-W	0.72	0.67	0.20	
502	10	X=34508,Y=-43445	不整形	N- 0°	(1.15)	0.35	0.18	269土、88・101溝と重複

(4) 溝

後世の削平が深くまで及んでおり、溝も残存状態が良好ではなかった。また、埋土中に明瞭な火山灰層等は検出されず、As-Bの影響を受けた砂質味を帯びた埋土が堆積したものが僅かに確認されている。遺物も溝の時期を決定できる状態のものは余りなかった。土師器・須恵器破片と共に、1点から数点の中世以降の遺物が出土した溝もあるが、後世の

混入の可能性もあり、時期の判定は埋没土壌と出土遺物の両面から慎重に行った。

溝は調査時には80号から115号まで遺構番号を付しているが整理時の検討により、33条の溝を認定した。中世以降圃場整備直前までの埋没と判定できたのは以下の17条である。

82号溝(図122、P L37・48・49)

位置 9区X=34558~72, Y=-43487~95

重複 なし

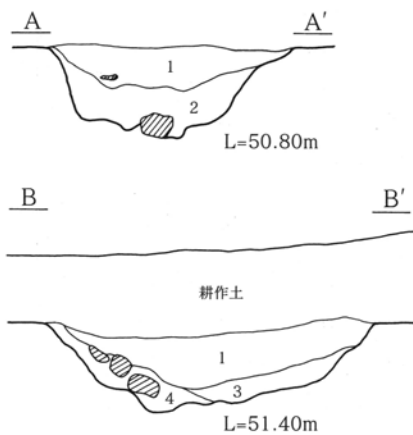
走向 北東から南西(N-29° - E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は法面のやや緩い逆台形を呈する。

規模 検出全長 14.00m 上幅 1.96~1.10m
底幅 1.30~0.56m 深さ 0.58~0.35m

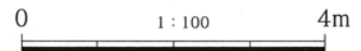
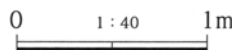
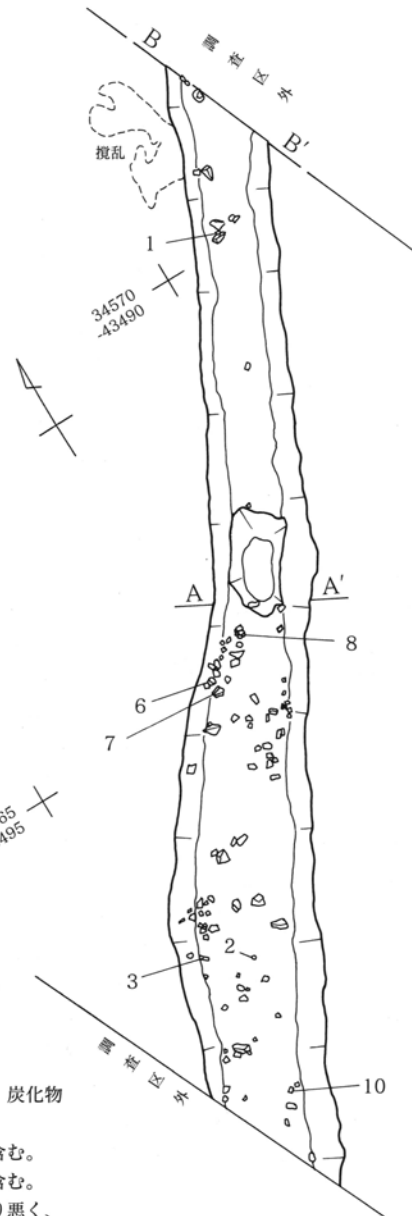
遺物 土師器・須恵器片及び中世の陶器片、瓦片、砥石を含む。灯明皿としての利用も推測されるほぼ完形のかわらけ2は、底面に近いレベルで出土している。

所見 下層に礫の混入が多い。遺物から、中世の遺構である可能性が高い。83号溝と埋土・断面形・遺物等が類似する。



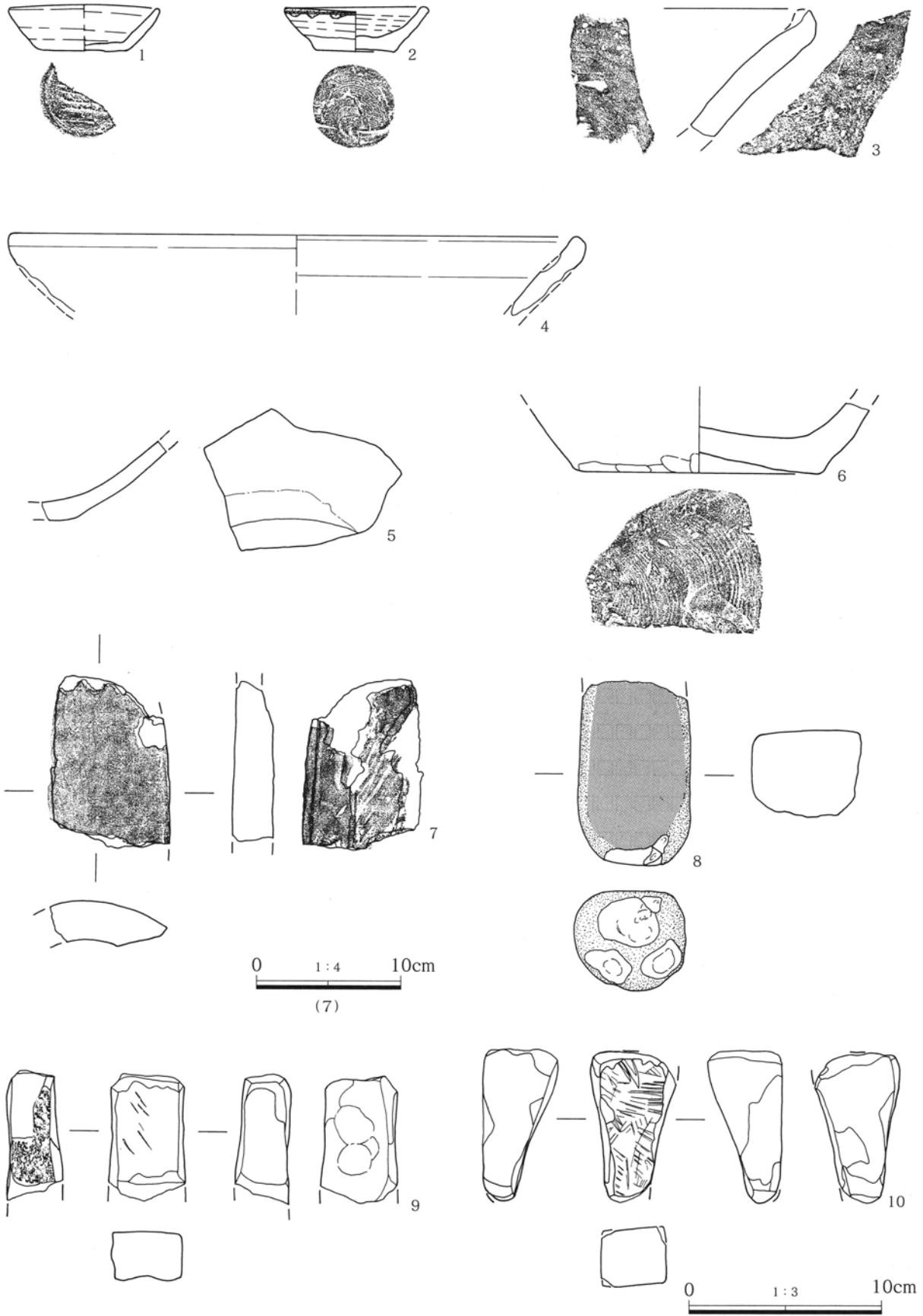
82号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物粒微量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒中量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 4 黒褐色土 3層より締まり悪く、礫を含む。



第121図 鳥山下9区82号溝実測図

3. 中世以降の遺構・遺物



第122図 鳥山下9区82号溝出土遺物実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

83・108号溝(図124、P L37・40・49)

位置 9・10区X=34547~53, Y=-43457~86

重複 104号住居。104号住より後出。

走向 東から西(N-85°-W)

形態 ほぼ直線的で、断面形は法面のやや緩い逆台形を呈する。

規模 検出全長 (29.50)m

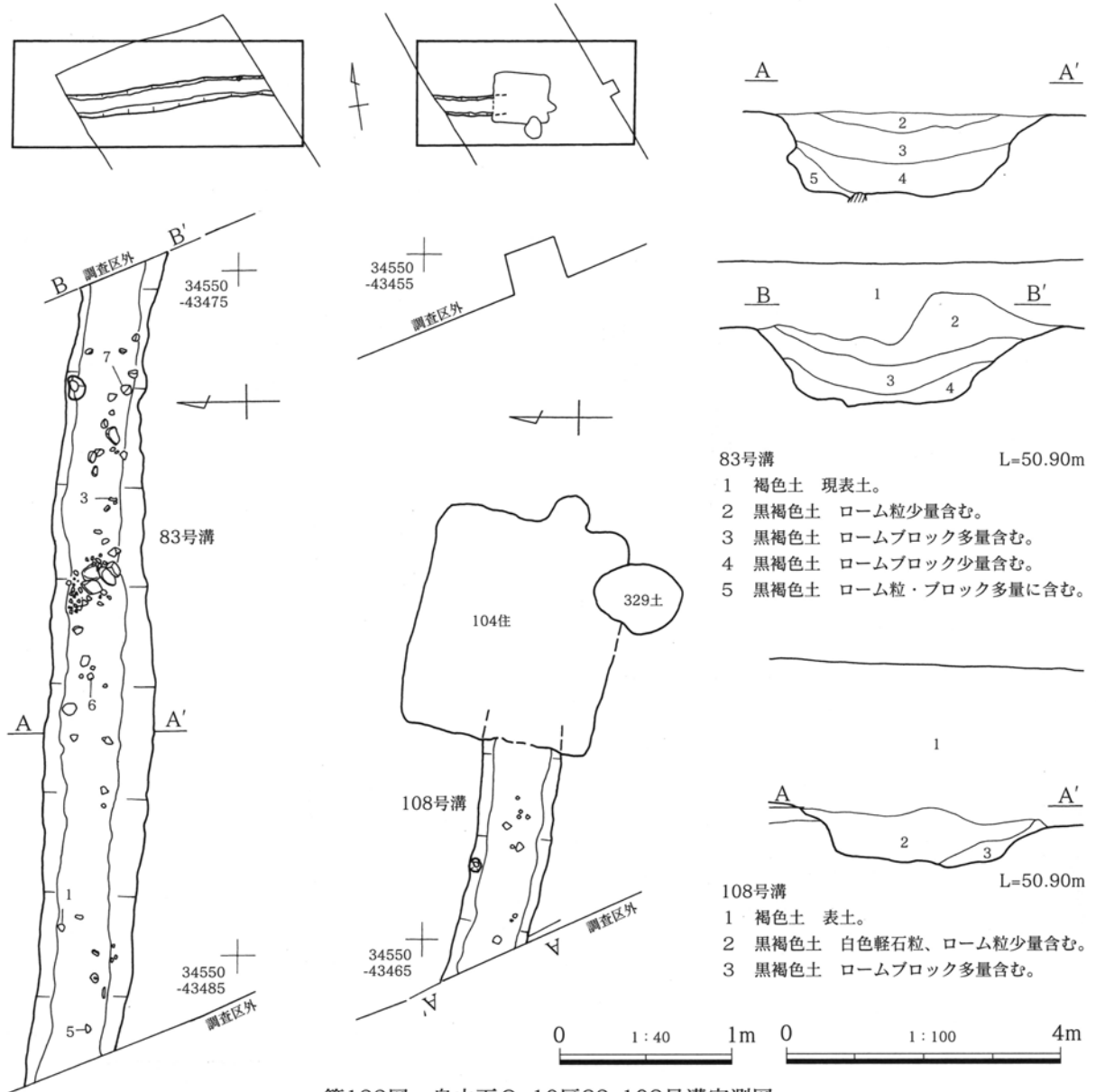
上幅 1.60~1.00m

底幅 0.89~0.70m

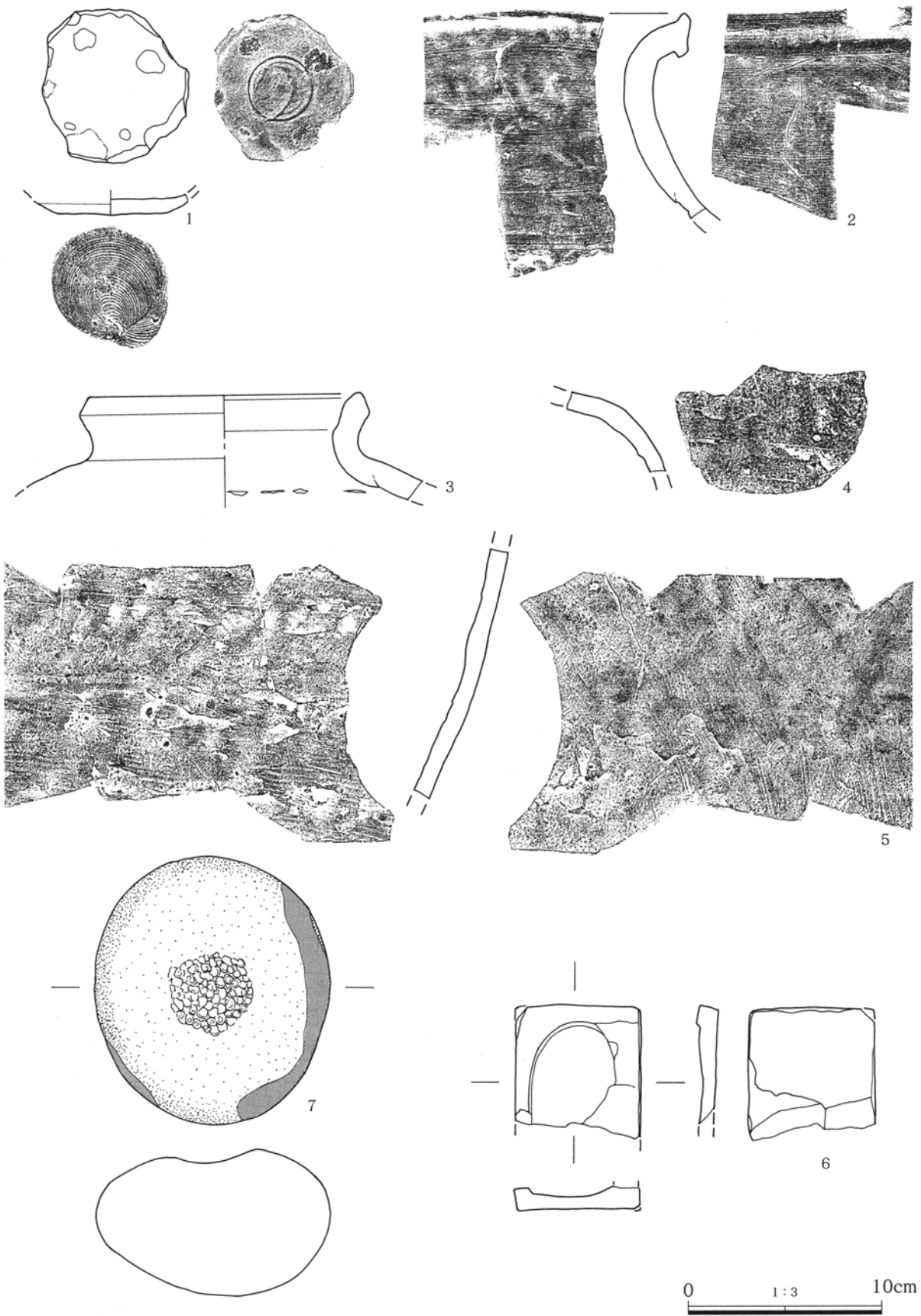
深さ 0.45~0.18m

遺物 土師器・須恵器片及び中世の陶器片、硯を含む。1の皿は底面に接しており、3の壺は壁際低位から出土した。

所見 下層に小礫から人頭大程の礫をやや多く含む。遺物から中世の遺構である可能性が高い。83号溝と108号溝は中央の現路を挟んで検出されたが、溝幅や断面形が類似し、遺物も埋土中に土師器片・須恵器片と共に中世以降の陶器類を含むことから、連続する溝と判断した。82号溝とも埋土・断面形・遺物等が類似する。



第123図 鳥山下9・10区83・108号溝実測図



第124図 鳥山下9区83号溝出土遺物実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

87号溝(図125・126、P L38・49)

位置 9区X=34513~22, Y=-43468~70

重複 91号住。断面の観察により、87号溝が後出である。

走向 北から南(N-5°-E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は蒲鉾状を呈する。

規模 検出全長 9.50m

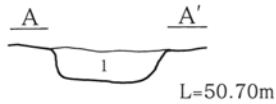
上幅 0.80~0.20m

底幅 0.56~0.20m

深さ 0.17~0.04m

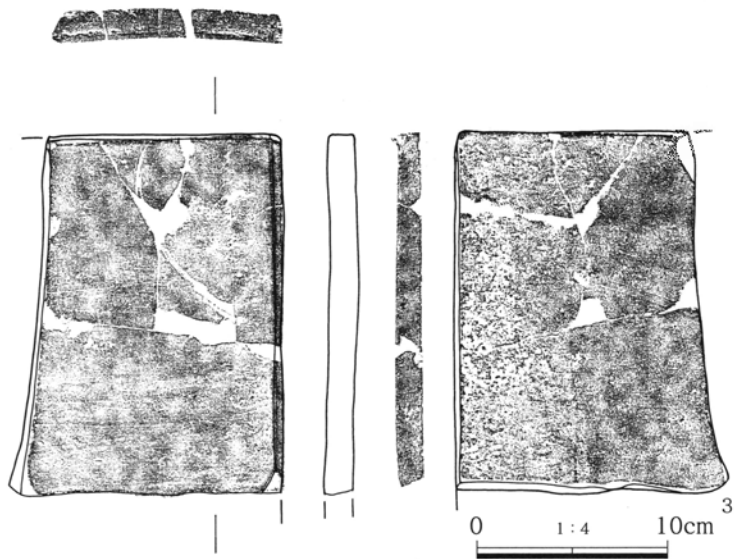
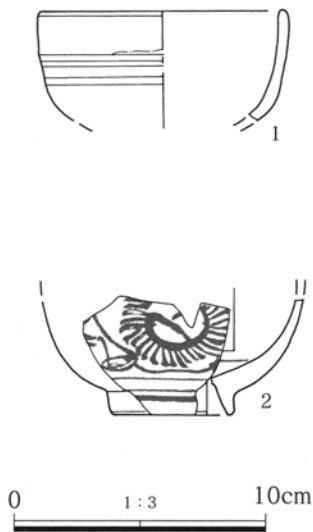
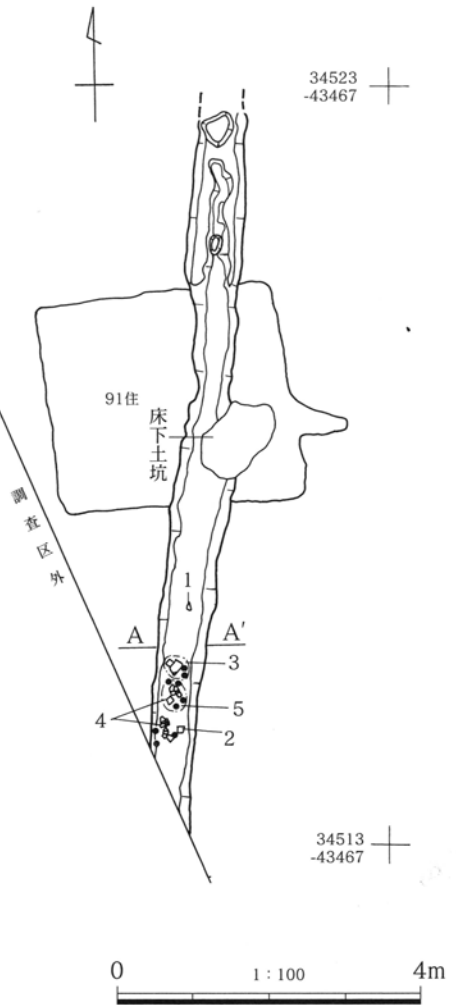
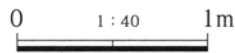
遺物 土師器・須恵器小破片及び近世陶磁器、瓦片を含む。

所見 北側は途中で消滅している。黒褐色砂質土で埋没し、瓦片を含むことから近世以降の埋没と考えられる。

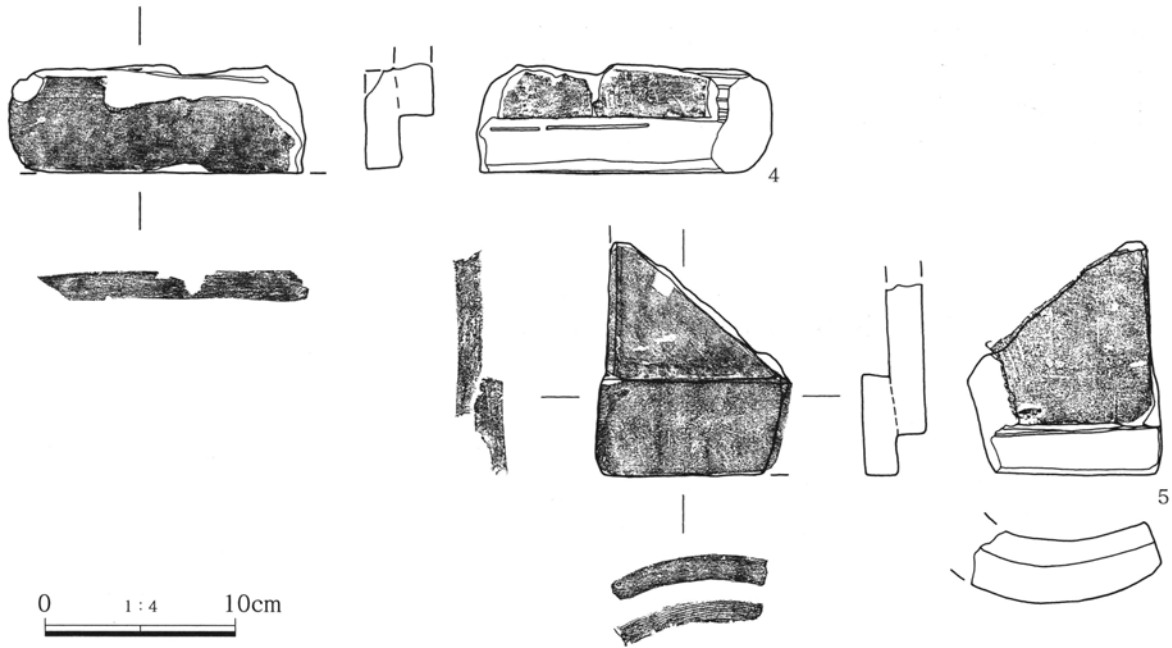


87号溝

1 黒褐色土 やや砂質。ローム粒含む。



第125図 鳥山下9区87号溝・出土遺物実測図(1)



第126図 鳥山下9区87号溝出土遺物実測図(2)

90・112号溝(図127、P L38・40)

位置 9・10区X=34705~08, Y=-43540~48

重複 109号住。遺構確認段階での観察から、112号溝が後出。

走向 東から西(N-88° -W)

形態 削平が激しく溝底部のみの残存であるが、断面形は浅い椀型を呈し、ほぼ直線的である。

規模 検出全長 (29.90)m

上幅 1.38~0.26m

底幅 1.20~0.12m

深さ 0.17~0.03m

遺物 土師器・須恵器片、現代陶磁器小破片を少量出土する。

所見 9区部分は粘性のない暗褐色土で埋没し、底面付近が薄く残存している中に現代陶磁器を含むことから近現代の溝と思われる。9・10区部分で埋土・断面形に異なりがあるが、走向方向の一致から同一溝と考えられる。

111・117号溝(図127、P L40・51)

位置 10区X=34703~06, Y=-43518~51

重複 なし、

走向 東から西(N-86° -W)

形態 ほぼ直線的で、断面形は浅い逆台形を呈する。9区部分では特に削平が激しい。

規模 検出全長 (33.02)m

上幅 2.48~0.26m

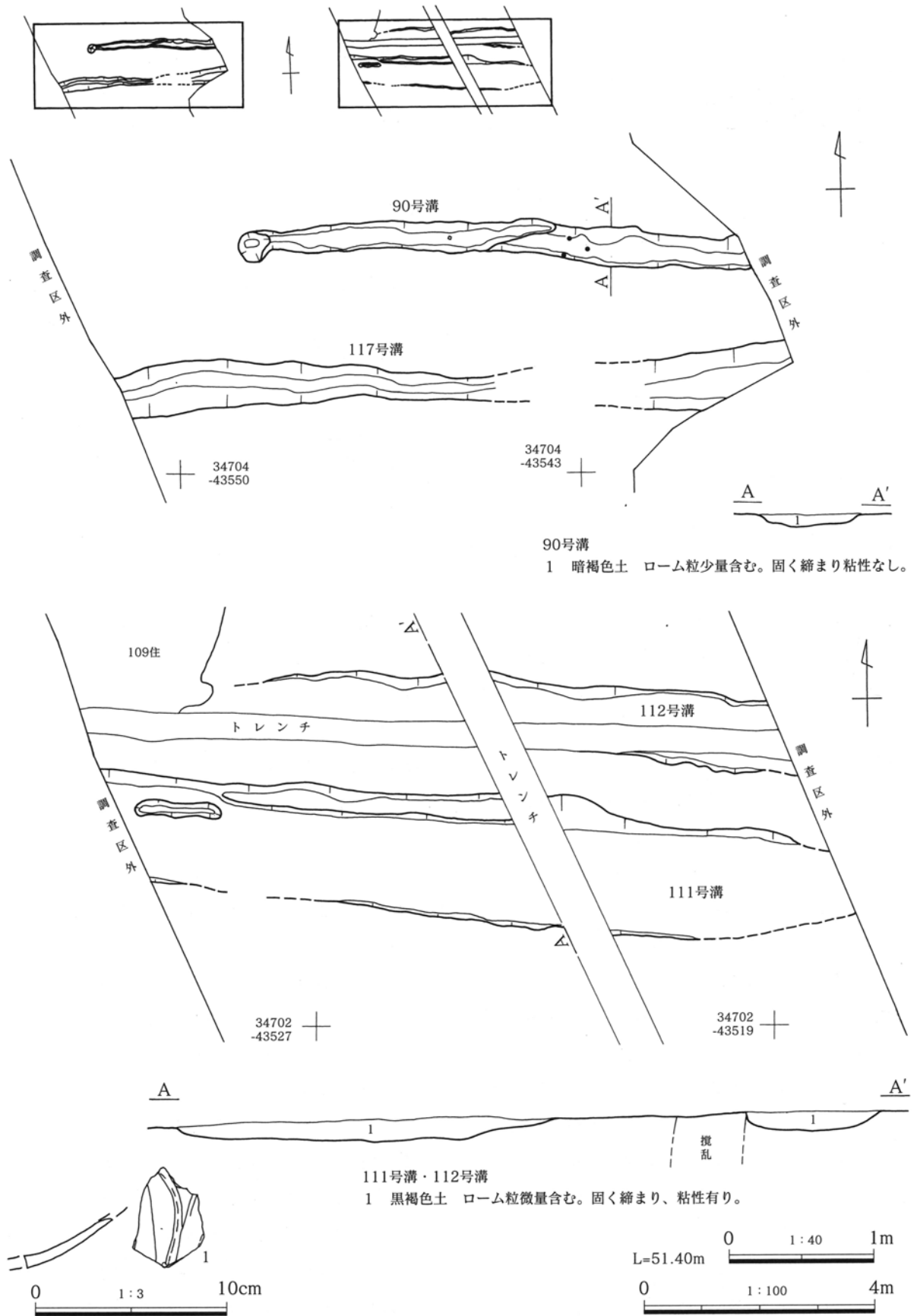
底幅 1.20~0.05m

深さ 0.17~0.03m

遺物 土師器・須恵器破片及び、中世青磁片、近世陶磁器・瓦破片を含む。

所見 9・10区で溝の断面形状が異なり、117号溝の埋土の記載がなく埋土の比較検討が出来なかった。しかし、特に9区で後世の削平が底面まで削るほど深くまで及んでいることから、走向方向の一致から同一溝と考えた。ただし、111号溝部分は、112号溝と同一注記の黒褐色砂質土で埋没し、埋土に近世以降の遺物を含むことから、近世以降の埋没と考えられる。90・112号溝と111・117号溝は調査区が異なり別の遺構として調査したが、並行で走向方向も一致することから道路状遺構の可能性が考えられる。

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



第127図 鳥山下9・10区90・111・112・117号溝・出土遺物実測図

3. 中世以降の遺構・遺物

96号溝(図128・130～134、P L 38・49～51)

位置 10区X=34499～500, Y=-43435～45
 重複 97溝・100溝。土層断面の観察により96溝が最も前出で、100溝、97溝の順に掘削された。
 走向 東から西(N-45° - E)
 形態 ほぼ直線的に延び、9区東壁際から西壁際へ50cmほど深度が増す。断面形は深い椀状を呈するが、西壁際では南側に中段を有し北側が更に1段下がっている。

規模 検出全長 10.40m
 上幅 0.70～0.42m
 底幅 0.40～0.24m
 深さ 0.53～0.05m

遺物 多量の瓦破片・近世陶磁器・石整品及び土師器・須恵器片を含む。出土状態は、上層から4面にわけて凶化してある。
 所見 褐色砂質土で埋没し、陶磁器や多量の瓦が出土することから、近世以降の埋没と考えられる。

97号溝(図128・134、P L 39・51)

位置 10区X=34499～503, Y=-43437～40
 重複 なし
 走向 北東から南西(N-26° - E)
 形態 検出部分のほぼ中間で西方向から南西方向へ60°ほど南に方位を変えている。断面形は浅い逆台形を呈し、底面は細かな凹凸を有する。

規模 検出全長 (4.70)m
 上幅 0.62～0.30m
 底幅 0.30～0.14m
 深さ 0.10～0.02m

遺物 97溝と特定できる遺物なし。
 所見 南端は後世の掘削により、確認できなかった。粘性のない黒褐色土で埋没し、96溝より後出であることから、近世以降の埋没と考えられる。

98号溝(図128)

位置 10区X=34505～10, Y=-43439～40
 重複 100溝。プラン確認により、98溝が前出。

走向 南から北(N-6° - E)
 形態 ほぼ直線的だが、南側で僅かに方位を変える。断面形は逆台形を呈する。
 規模 検出全長 4.30m
 上幅 0.75～0.48m
 底幅 0.46～0.15m
 深さ 0.19～0.10m
 遺物 98溝と特定できる遺物はない。
 所見 粘性のない黒褐色で埋没しており、近世以降の埋没の可能性が高い。

99号溝(図128・129・135、P L 39・51)

位置 10区X=34504～05, Y=-43437～41
 重複 100溝。断面の確認により、99溝が後出。
 走向 西から東(N-84° - E)
 形態 ほぼ直線的で、断面形は蒲鉾状を呈する。
 規模 検出全長 3.90m
 上幅 0.94～0.82m
 底幅 0.72～0.46m
 深さ 0.13～0.03m

遺物 土師器・須恵器破片少量及び近世以降の陶磁器類・瓦片多量、石臼含む。
 所見 西側は後世の削平により確認できなかった。粘性のない締まりの弱い黒褐色土で埋没し、多量の近世以降の陶磁器類・瓦片を含むことから近現代の埋没と考えられる。

100号溝(図128・129、P L 39)

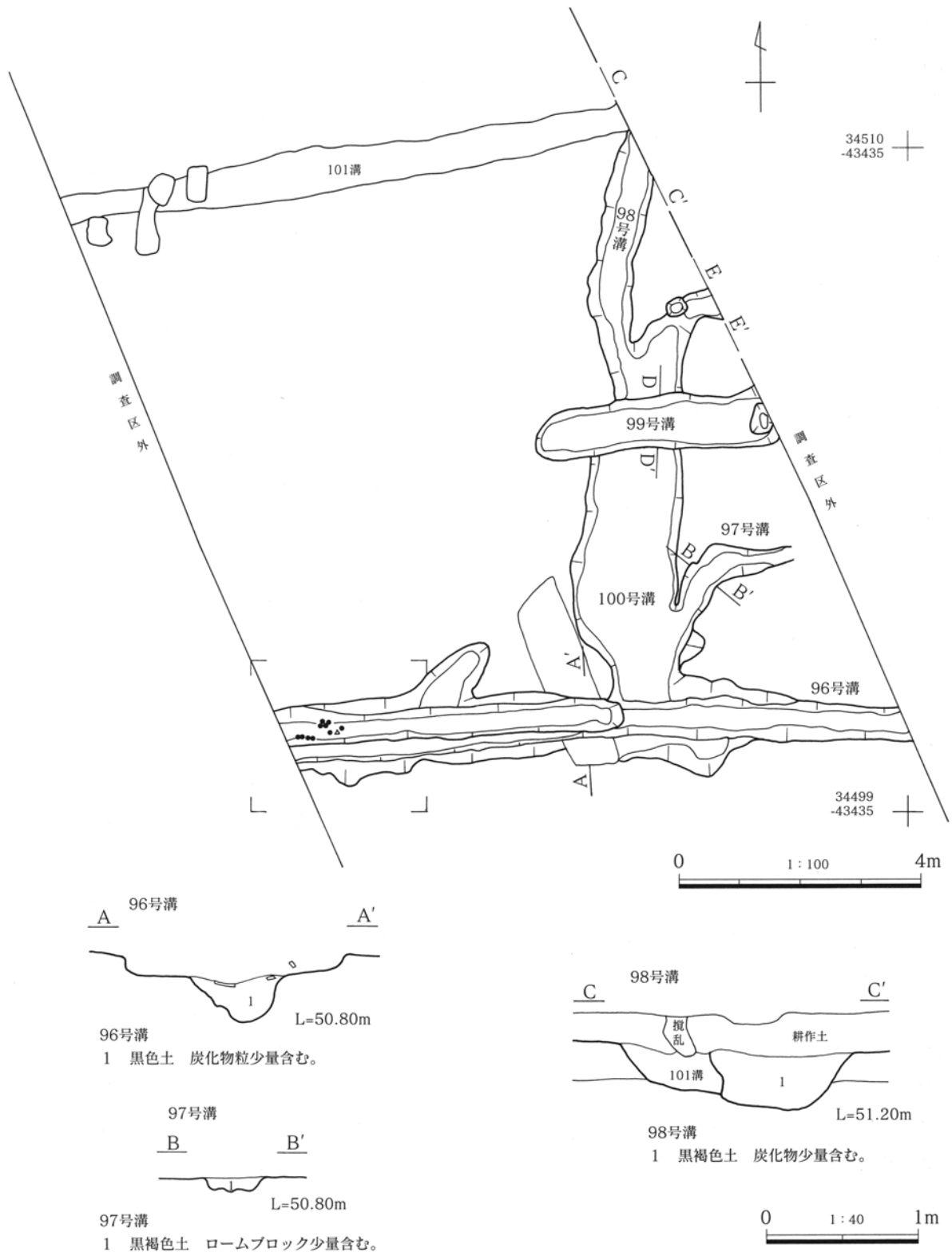
位置 10区X=34500～07, Y=-43438～40
 重複 96～99溝。プラン確認及び断面の観察から、96溝・98溝より後出で97溝・99溝より前出。
 走向 北から南(N-5° - E)
 形態 東壁際で直角に方位を変え、溝幅も広がっている。断面形は皿状を呈する。平面には細かな凹凸がある。南端は、残存状態が悪く確認できなかった。
 規模 検出全長 (7.64)m
 上幅 1.80～0.44m
 底幅 1.60～0.26m

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

深さ 0.20~0.07m

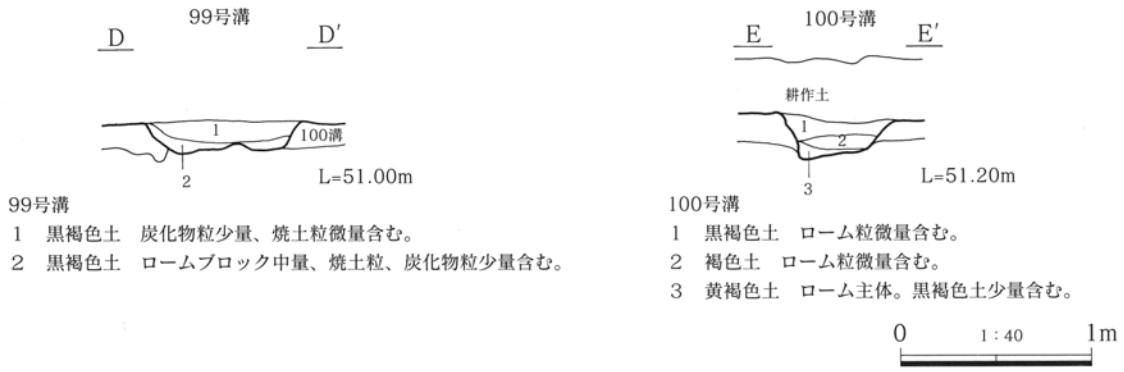
遺物 土師器・須恵器小破片及び近世以降の軟質陶器・磁器破片を含む。

所見 締まりが弱く粘性のない土壌で埋没し、軟質陶器・磁器破片を含むことから、近世以降の埋没と考えられる。



第128図 鳥山下10区96~100号溝実測図

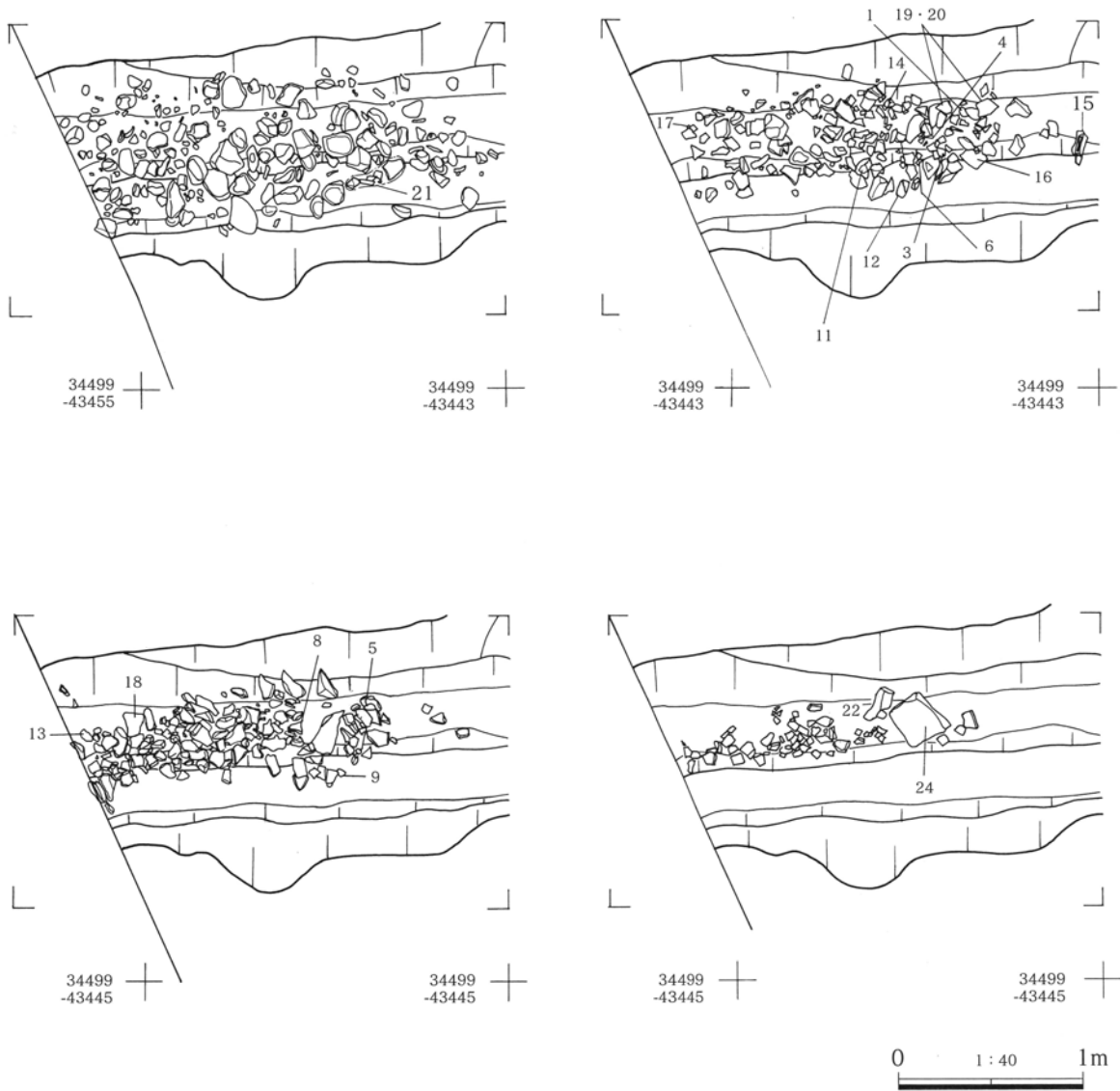
3. 中世以降の遺構・遺物



- 99号溝
- 1 黒褐色土 炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック中量、焼土粒、炭化物粒少量含む。

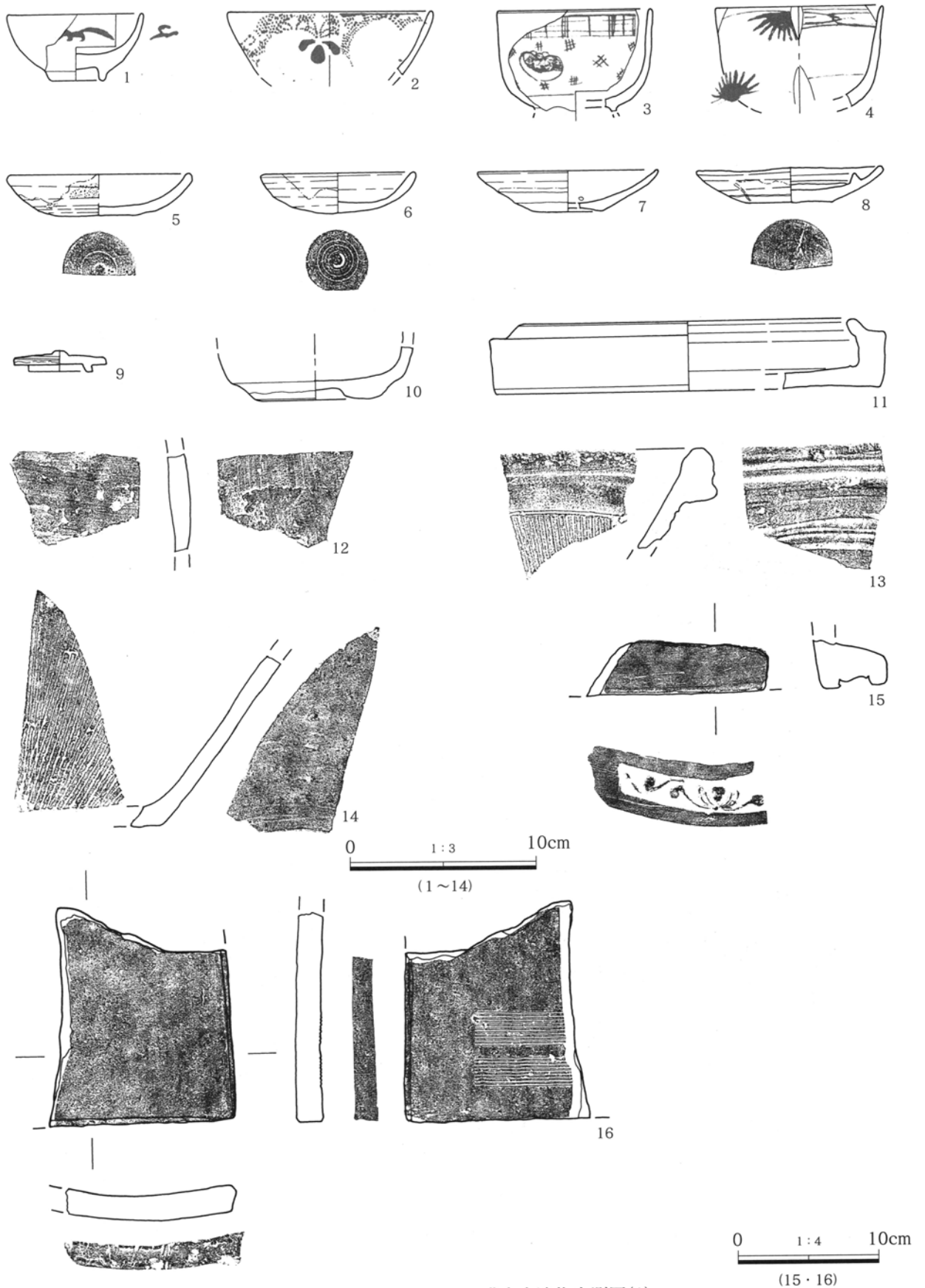
- 100号溝
- 1 黒褐色土 ローム粒微量含む。
 - 2 褐色土 ローム粒微量含む。
 - 3 黄褐色土 ローム主体。黒褐色土少量含む。

第129図 鳥山下10区99・100号溝実測図

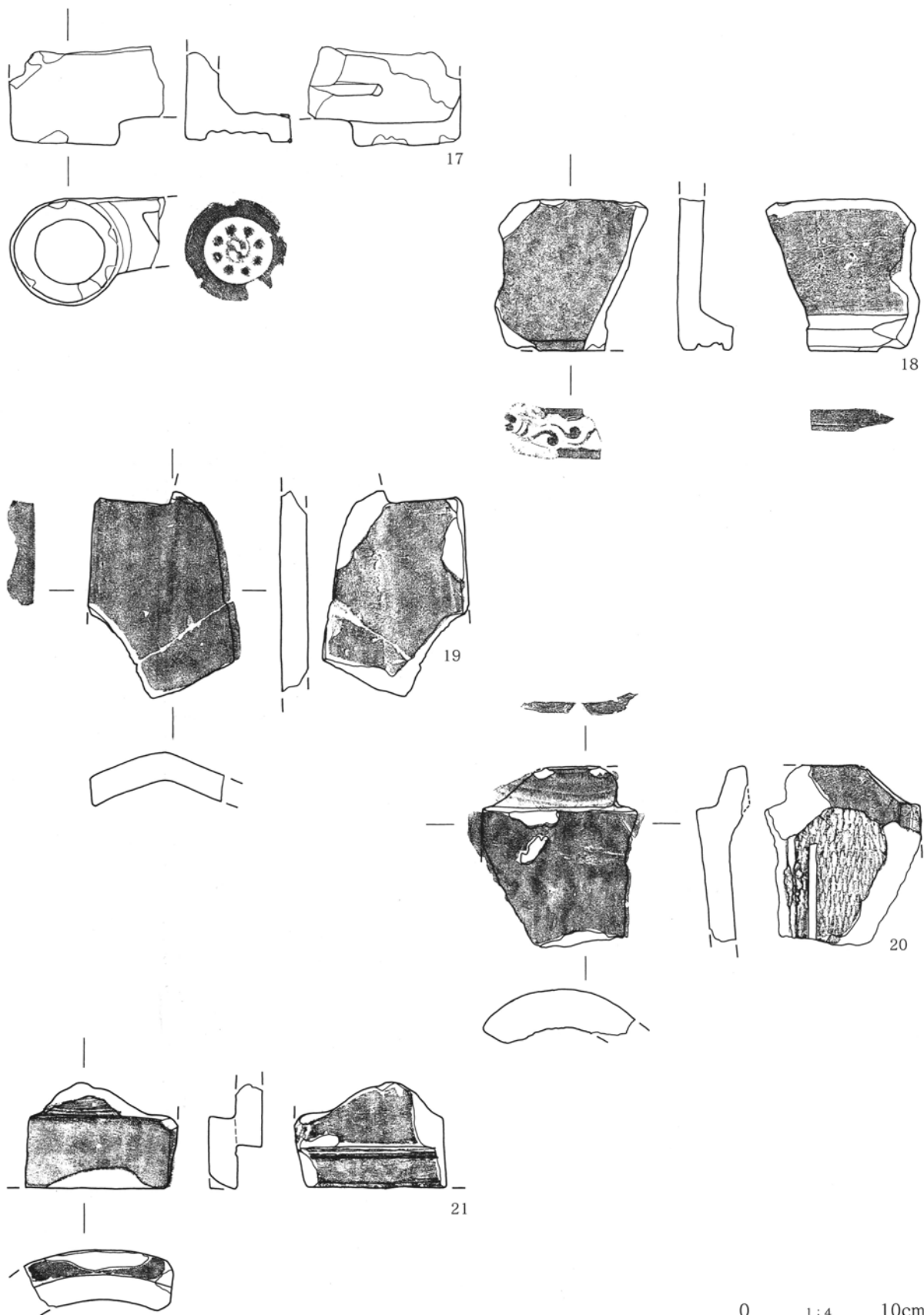


第130図 鳥山下10区96号溝実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

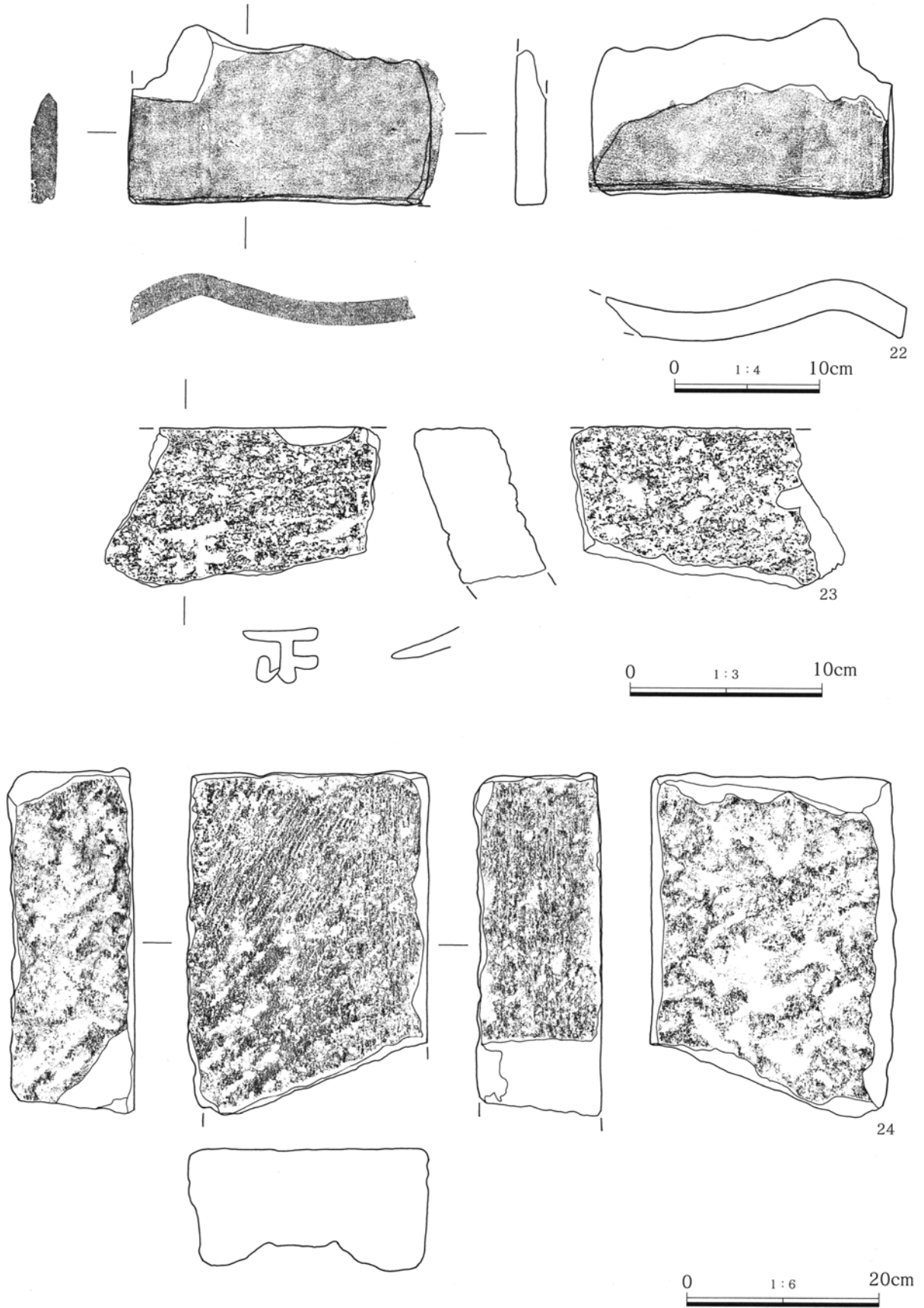


第131図 鳥山下10区96号溝出土遺物実測図(1)



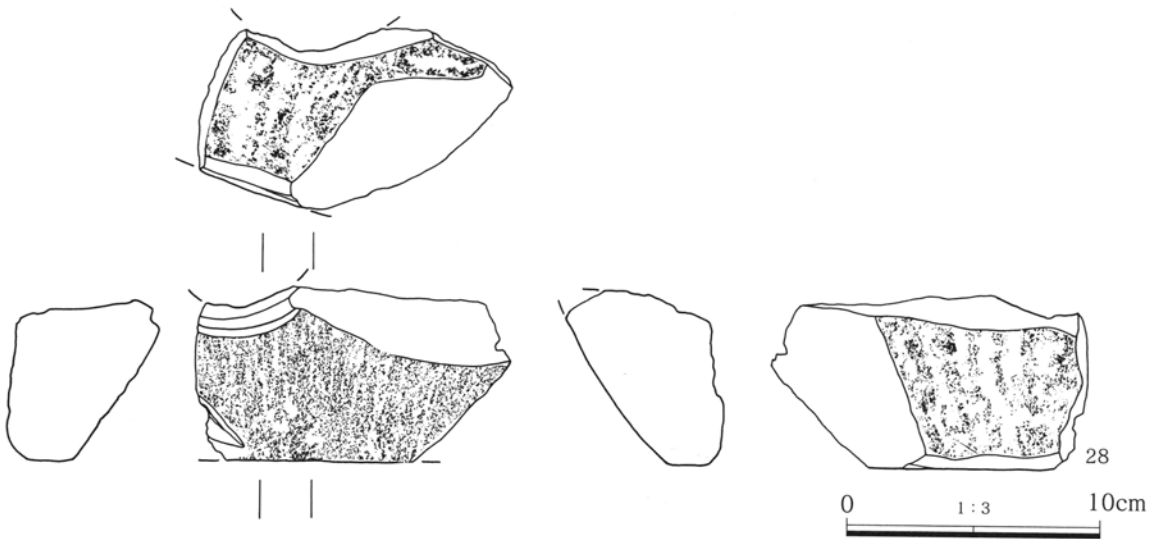
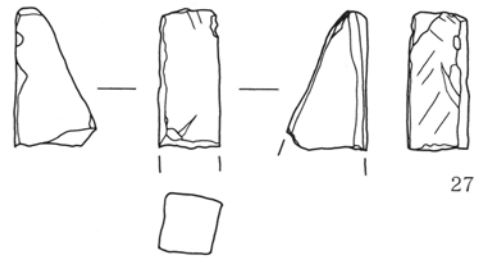
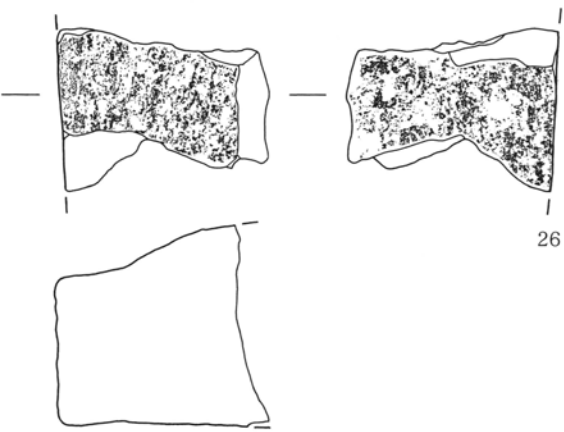
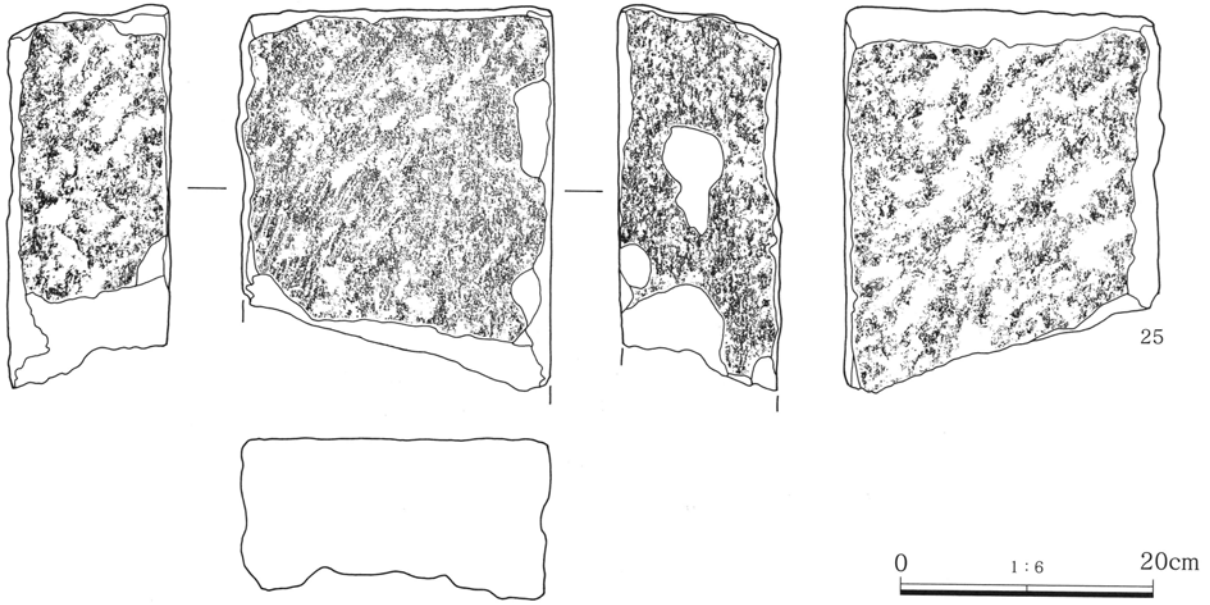
第132図 鳥山下10区96号溝出土遺物実測図(2)

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



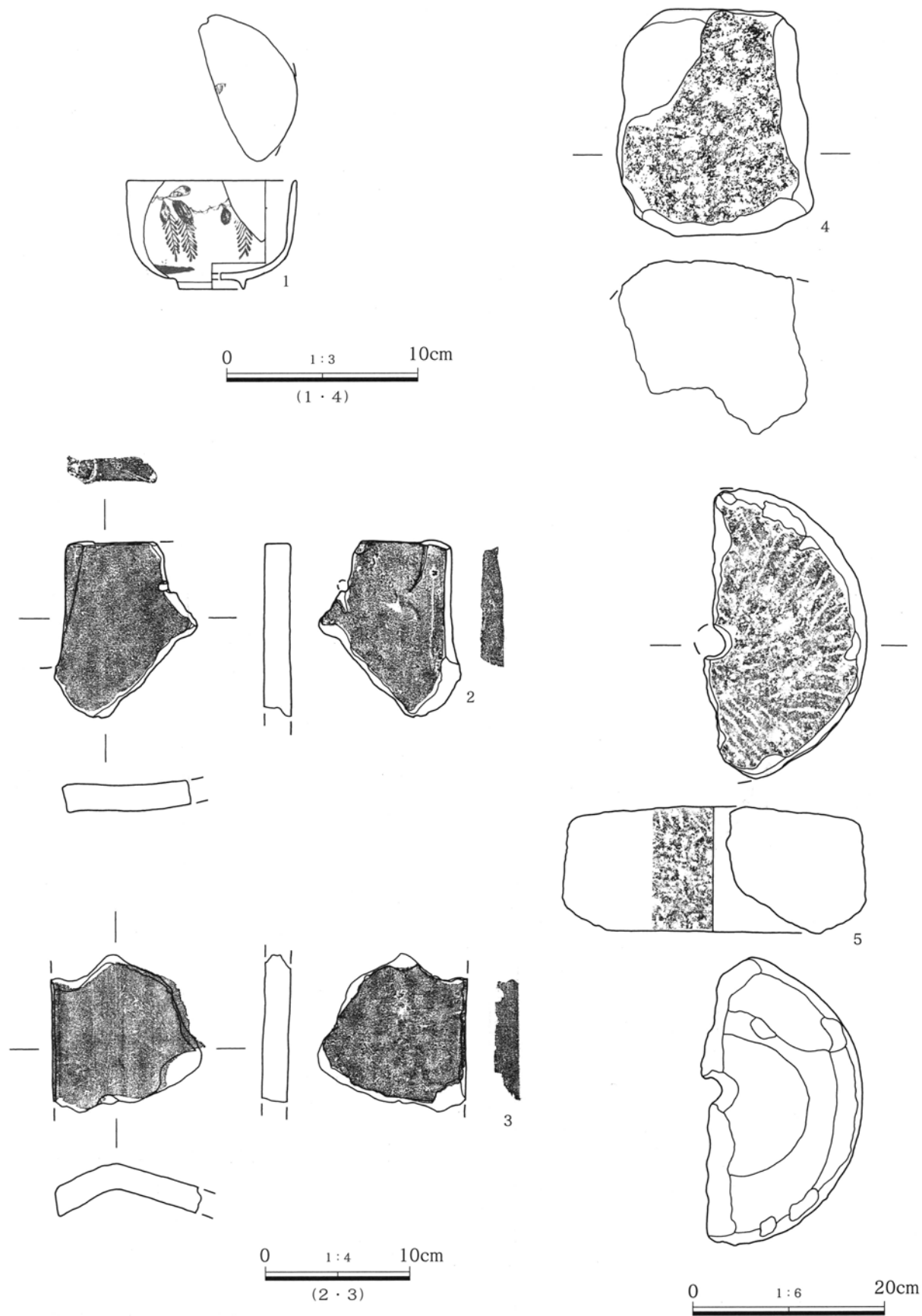
第133図 鳥山下10区96号溝出土遺物実測図(3)

3. 中世以降の遺構・遺物



第134図 鳥山下10区96・97・(97・98・100)号溝出土遺物実測図(4)

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



第135図 鳥山下10区99号溝出土遺物実測図

103号溝(図136、P L39)

位置 10区 X=34603~27, Y=-43487~88

重複 104号溝。プラン確認により103号溝が
前出。

走向 北から南(N-3° -E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は
蒲鉾状を呈する。

規模 検出全長 (24.50)m

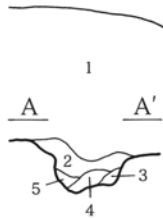
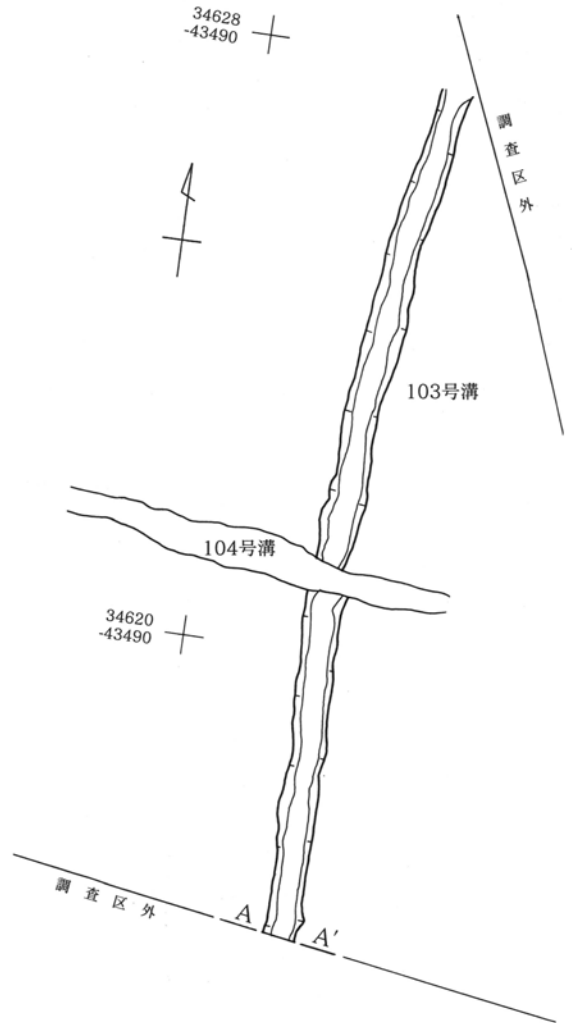
上幅 0.54~0.40m

底幅 0.30~0.28m

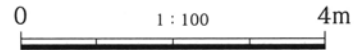
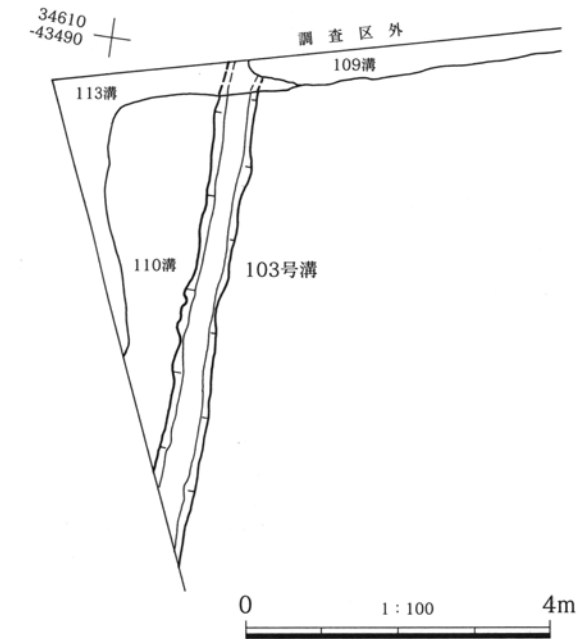
深さ 0.13~0.02m

遺物 なし。

所見 粘性のない砂質の土壌で
埋没しており、中世以降の埋没
と考えられる。



- 103号溝
- 1 褐色土 表土。
 - 2 黒褐色土 やや砂質。ローム粒微量含む。
 - 3 黒褐色土 きめ細かく、ローム粒微量含む。
 - 4 黒褐色土 ローム粒中量含む。砂質。
 - 5 黒褐色土 ロームブロック混在する。



第136図 鳥山下10区103・104号溝実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

104号溝(図136・137、P L39)

位置 10区X=34620~22, Y=-43486~95

重複 103・105号溝。プラン確認により、103号溝・105号溝より、本溝が後出。

走向 西から東(N-82°-W)

形態 ほぼ直線的で、断面形は浅い皿状を呈し、細かな凹凸がある。

規模 検出全長 9.40 上幅 0.60~0.22m
底幅 0.36~0.14m 深さ 0.14~0.02m

遺物 なし。

所見 粘性のない砂質の土壌で埋没しており、中世以降の埋没と考えられる。

105号溝(図137、P L39)

位置 10区X=34617~25, Y=-43492~94

重複 104溝

走向 北から南(N-11°-E)

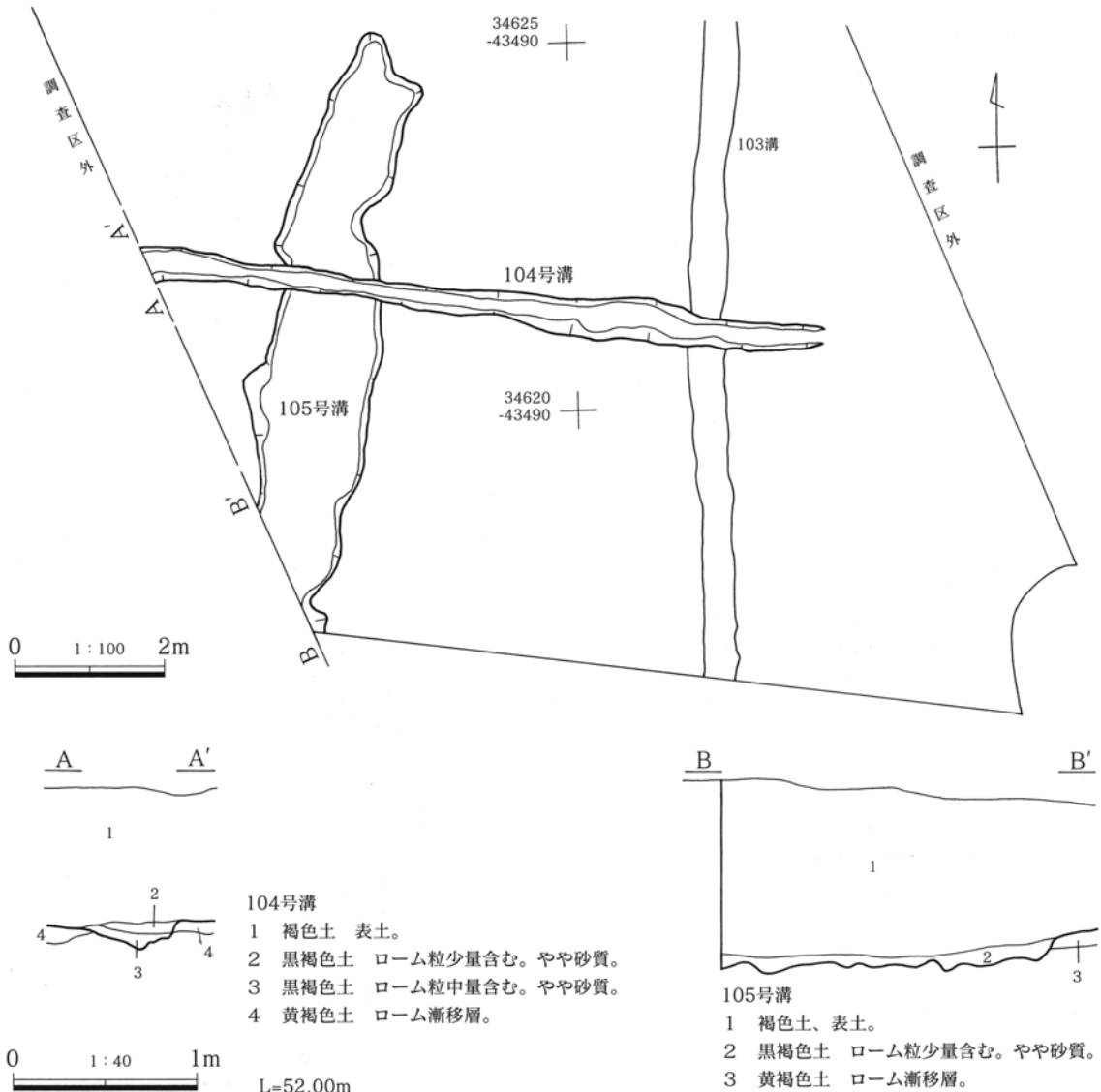
形態 ほぼ直線的で、断面形は浅い箱状を呈し、底面には細かな凹凸がある。

規模

検出全長 8.20m 上幅 1.52~0.50m
底幅 1.36~0.28m 深さ 0.10~0.01m

遺物 なし。

所見 北側は削平が激しく更に伸びるか不明瞭。粘性のない砂質の土壌で埋没しており、中世以降の埋没と考えられる。



第137図 鳥山下10区104・105号溝実測図

107号溝(図138、P L40)

位置 10区 X=34594~96, Y=-43473~85

重複 335号土坑。本溝が前出。

走向 西から東(N-84° -W)

形態 ほぼ直線的で、断面形は箱状を呈し底面には細かな凹凸がある。

規模 検出全長 12.00m 上幅 1.14~0.92m
底幅 1.06~0.42m 深さ 0.18~0.08m

遺物 土師器・須恵器破片及び近世以降陶器含む。

所見 粘性の弱い土壌によって埋没している。また、陶磁器片を含むことから中世以降の埋没と考えられる。

115号溝(図138、P L40)

位置 10区 X=34599~601, Y=-43483~87

重複 なし。

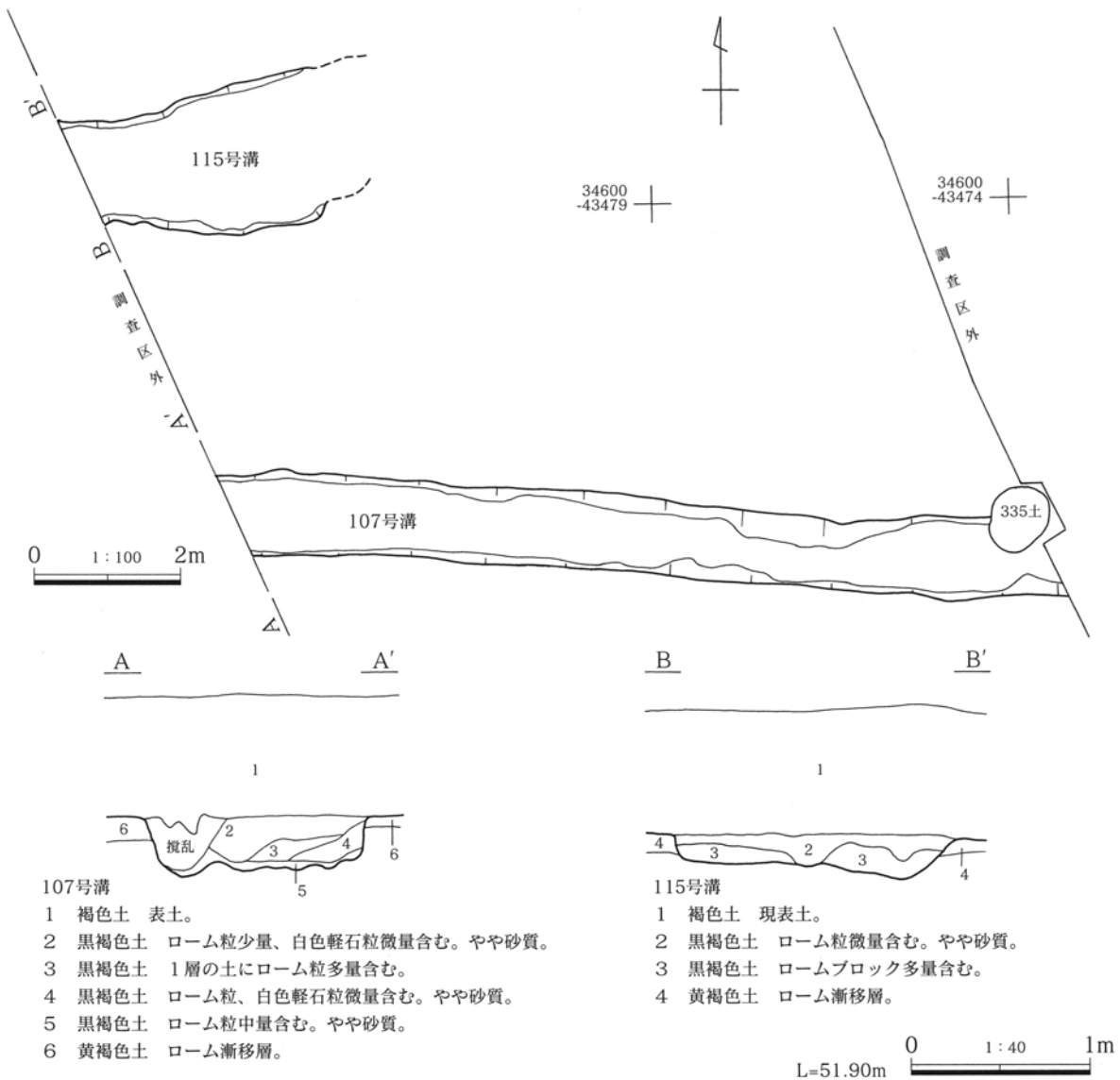
走向 西から東(N-83° -E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は薄い逆台形を呈する。底面は平坦で、東端は確認できなかった。

規模 検出全長 (3.54)m 上幅 2.10~1.40m
底幅 1.90~1.30m 深さ 0.20~0.06m

遺物 なし。

所見 全体にやや砂質の土壌で埋没しており、下層には径5cm以下のロームブロック多量に含む。人為的な埋没が想定される。



第138図 鳥山下10区107・115号溝実測図

4. 時期不明の遺構・遺物

本遺跡では、溝・土坑等が多く検出されている。しかし、既に示したように本遺跡では埋土に火山噴出物の混入が明瞭でなく、圃場整備時の削平によりローム上面まで攪拌が及んでいたため、遺構埋土からの時代認定が困難であった。

古代遺構の埋土との比較や土壌化の違い等から中世以降近現代の埋没と考えられるものが多いが、遺物の出土が皆無であったり、少量であるため遺物からの時代判定も不明瞭なものについては、時期不明遺構として報告する。

(1) 掘立柱建物・柵列

8号掘立柱建物跡(図139、P L41)

位置 9区X=34539~44, Y=-43471~76

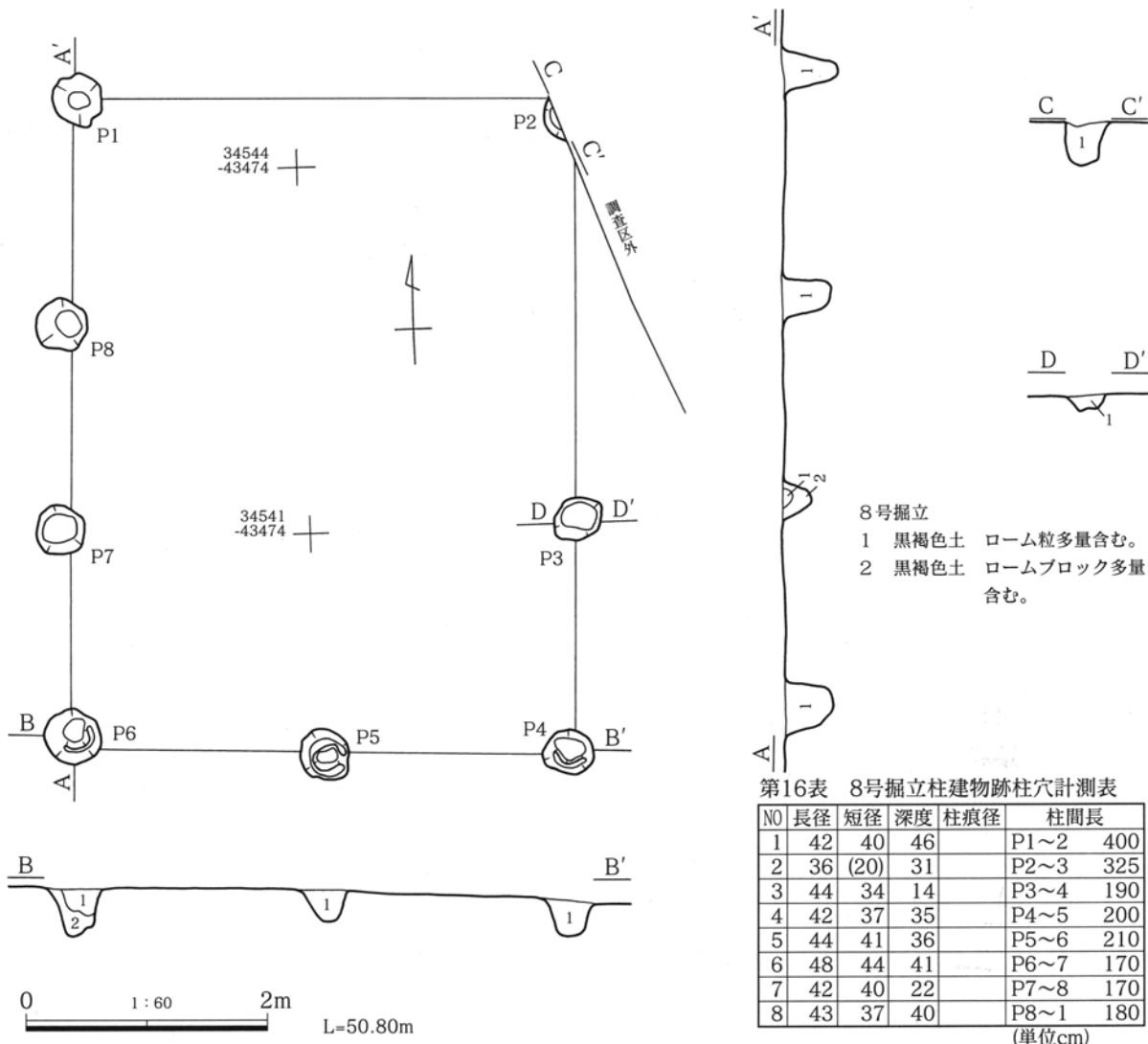
重複 なし 形態 2間×3間

主軸方位 N-0° 規模 5.20m×4.10m

柱穴 掘り方の形態はほぼ円形を呈す。規模は、径36~48cm深度14~46cmである。

遺物 P6から土師器甕胴部小片一点出土。

所見 北辺中央・東辺中間の柱穴各1本未検出。



第139図 鳥山下10区8号掘立柱建物跡実測図

12号掘立柱建物跡(図140、P L 41)

位置 10区 X=34463~70, Y=-43422~28

重複 114溝。本遺構より114溝が新しい。

形態 3間×3間

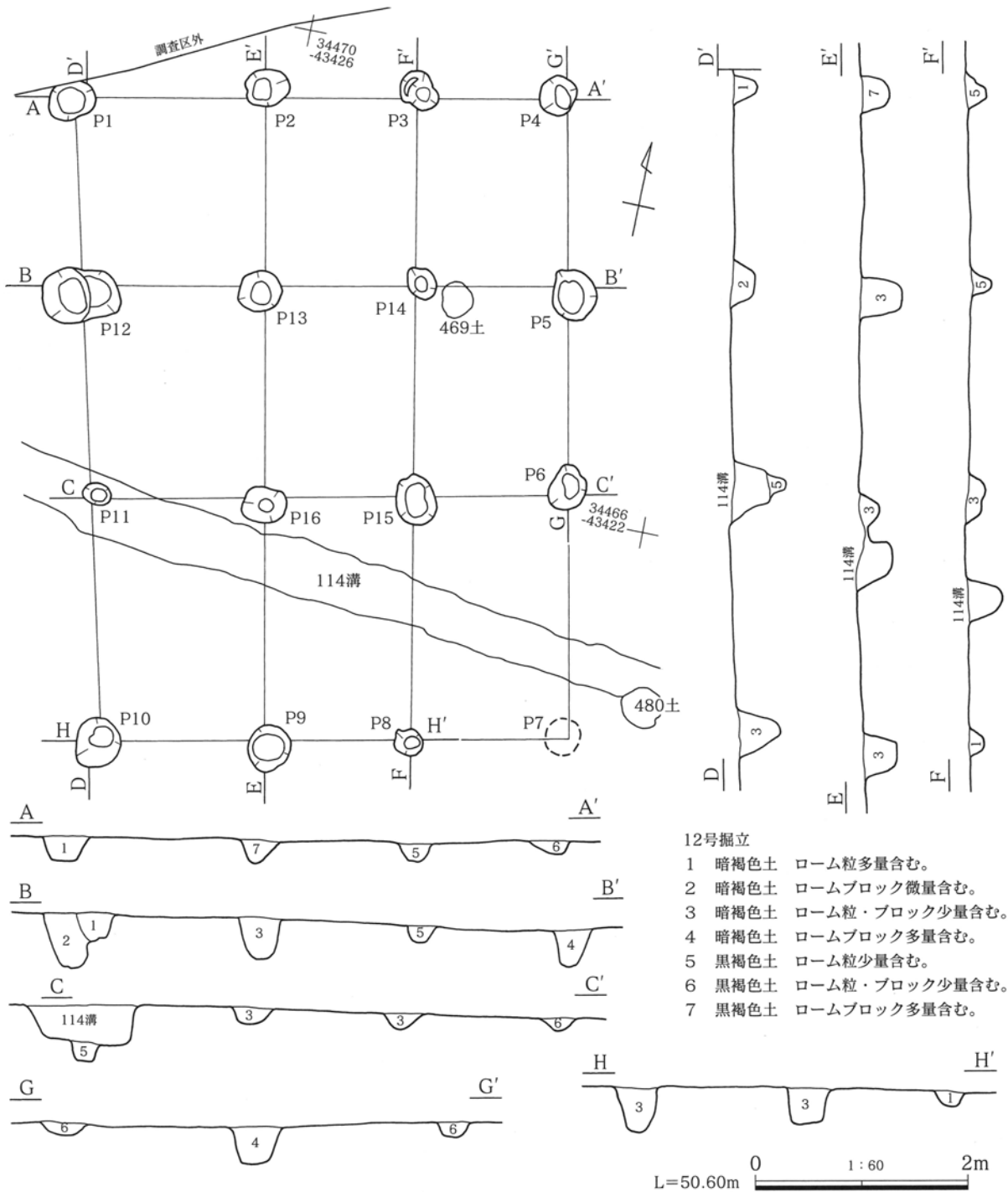
主軸方位 N-10° -W

規模 6.00m×4.65m

柱穴 掘り方の形態はほぼ円形を呈す。規模は径28cm~50cm、深度11cm~61cm。

遺物 須恵器の小破片が2点出土したが、図化できるものはなかった。

所見 南側に複数のピットを検出しており、他の組み方も考え得る。

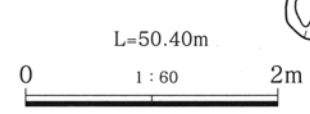


第140図 鳥山下10区12号掘立柱建物跡実測図



- 1号柵列
- 1 暗褐色土 ローム粒微量含む。
 - 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒多量含む。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 5 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
 - 6 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

1号柵列跡(図141、P L41)
 位置 10区X=34453~69, Y=-43416~22
 重複 114号溝。新旧は不明。
 形態 北西から南東方向の走行をもつ。
 主軸方位 N-12° -W
 規模 15.60m×2.20m。
 柱穴 掘り方の形態は円形を呈する。規模は径40cm~56cm、深度6cm~34cm。
 遺物 土師器4点須恵器3点が出土しているが小片のため図化出来るものはなかった。
 所見 P1~P3と並行してP8~P11が並びしかもP2~3の間が幅広である特徴がある。



第141図 鳥山下10区1号柵列実測図

第17表 12号掘立柱建物跡柱穴計測表

NO	長径	短径	深度	柱痕径	柱間長
1	46	(33)	21		P1~2 180
2	40	35	27		P2~3 150
3	40	26	21		P3~4 135
4	37	31	13		P4~5 180
5	50	39	33		P5~6 185
6	42	32	11		P8~9 135
8	28	24	15		P9~10 160
9	45	39	32		P10~11 225
10	47	39	43		P11~12 185
11	27	20	61		P12~1 185
12	44	34	25		P13~2 185
13	44	37	40		P13~14 150
14	32	26	31		P13~16 200
15	49	35	16		P13~12 175
16	41	33	19		P14~3 175

(単位cm)

柱間長
P14~5 140
P14~15 200
P15~16 140
P16~11 160
P16~9 225
P15~8 230
P15~6 145

(単位cm)

第18表 1号柵列計測表

NO	長径	短径	深度	柱痕径	柱間長
1	40	24	12		P1~2 217
2	44	40	19		P2~3 310
3	49	42	15		P3~4 440
4	52	44	34		P4~5 220
5	51	42	31		P5~6 205
6	51	46	13		P6~7 190
7	52	38	27		P8~9 220
8	50	50	29		P9~10 300
9	42	30	10		P10~11 210
10	56	54	6		P11~1 220
11	43	46	20		P10~2 215
					P9~3 235

(単位cm)

(2) 井戸

9号井戸(図142、P L41)

位置 9区X=34581, Y=-43489

重複 なし

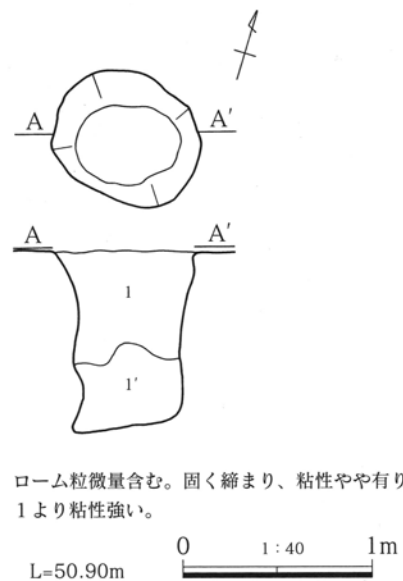
形態 確認面で楕円形を呈し、断面は上位から0.20mの地点でやや細まり、その下位は径0.55m程の筒状を呈す。アグリの痕跡が見られる。

方位 N-75° -W

規模 長径0.80m、短径0.68m、深度0.94mを測る。

遺物 なし。

所見 単層の埋没土で、下位は水分の含有量に拠るのかやや粘性が上層部より強い。人為的な埋め戻しが行われたと想定される。



9号井戸

1 黒褐色土 ローム粒微量含む。固く締まり、粘性やや有り。
1' 黒褐色土 1より粘性強い。

第142図 鳥山下9区9号井戸実測図

(3) 土坑

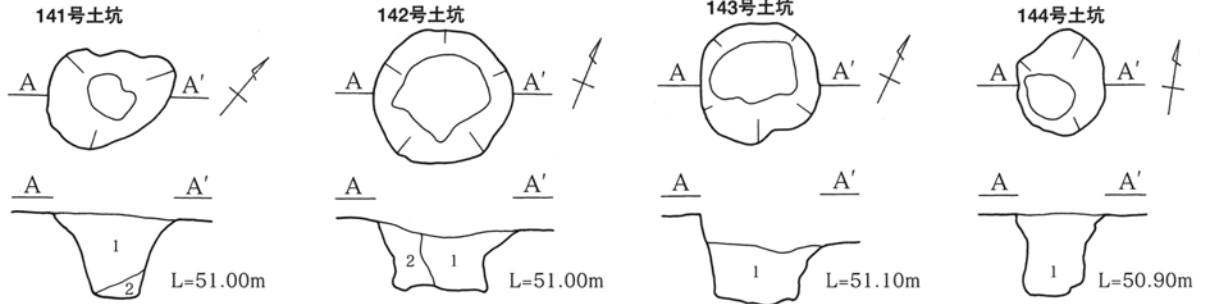
圃場整備時の削平が深くまで及んでいることから小さなピット状の穴も土坑番号を付して記録を残した。整理時点で検討を加えたが、時期・用途を想定できたものは少なかった。形状・大きさ等の形態がしっかりしているものを中心に遺構図を掲げたが、小ピット状のものや形状が明瞭でなかったものについては一覧表に掲げてある。

土坑類は、大きく分類すると①円形プランで径70cmほどの規模のもの。②円形プランで径30cmほどの小規模なもの。③正方形プランで小規模なもの④不正形プランのものに分けられる。①、④の埋土については埋土の特徴は見いだせなかった。②は、

10区南半にまとまっており土壌化が進んだ黒・暗褐色土で埋没していることが多い。埋土中に数点の土師器・須恵器破片を含むものも僅かにあった。12号掘立柱建物・1号柵列の柱穴もこれに近似する。③は、82号溝・83号溝間に多い。やや砂質を帯びた土壌で埋没しており、②群と比較するとより新しい傾向がある。遺物はほとんど含まない。

柱穴の可能性をもつものも幾つかあるが建物の推定はできなかった。173・174・177・179号土坑は断面形態と直線上に並ぶことから柵列と考えられる。238号土坑は形状から井戸の可能性もある。

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



141号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒微量含む。締まりよし。粘性なし。
- 2 暗褐色土 ロームブロック混在する。締まりよし。粘性なし。

143号土坑

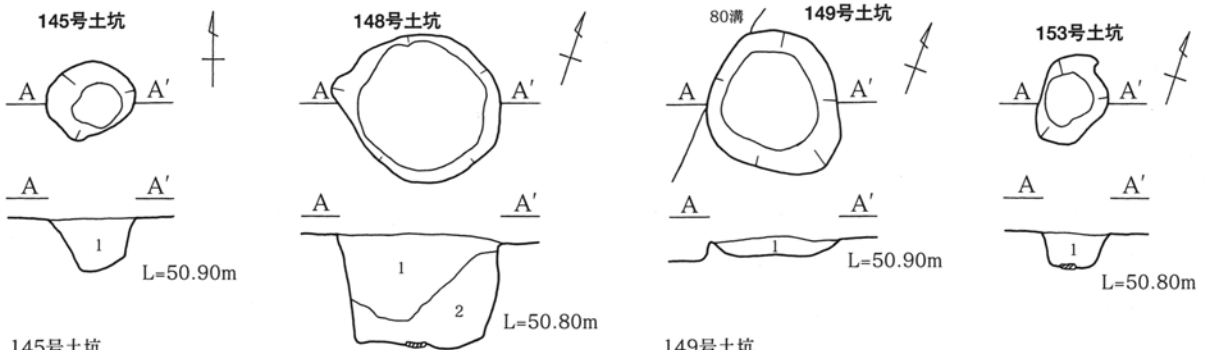
- 1 褐色土 ロームブロック中量含む。締まりやや緩く、粘性なし。

142号土坑

- 1 褐色土 ロームブロック中量含む。締まりやや緩く、粘性なし。
- 2 褐色土 ロームブロック少量含む。締まりやや緩く、粘性なし。

144号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。



145号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

149号土坑

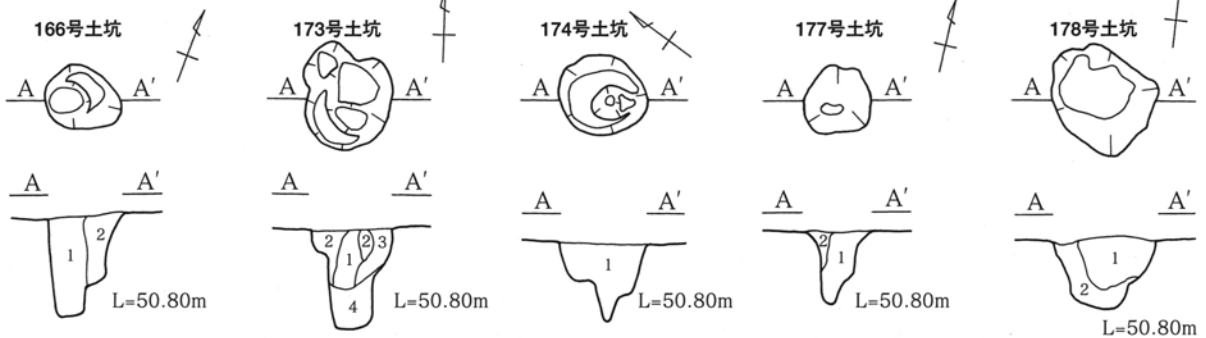
- 1 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物粒微量含む。固く締まり、粘性なし。

148号土坑

- 1 黒褐色土 炭化物粒少量、ローム粒微量含む。締まり有り。粘性なし。
- 2 黒褐色土 ローム粒縞状に少量含む。締まり有り。粘性なし。

153号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒中量含む。締まり有り。粘性なし。



166号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。砂粒微量含む。締まり有り。粘性なし。
- 2 黒褐色土 ローム粒混在する。締まり有り。粘性やや有り。

177号土坑

- 1 黒色土 ローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒混在する。

173号土坑

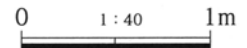
- 1 黒色土 ローム粒少量含む。
- 2 黒色土 ローム粒多量含む。
- 3 オリーブ黒 ロームと黒色土の混じり。
- 4 暗オリーブ ローム主体で黒色土少量含む。

178号土坑

- 1 黒色土 ローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒多量含む。

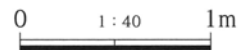
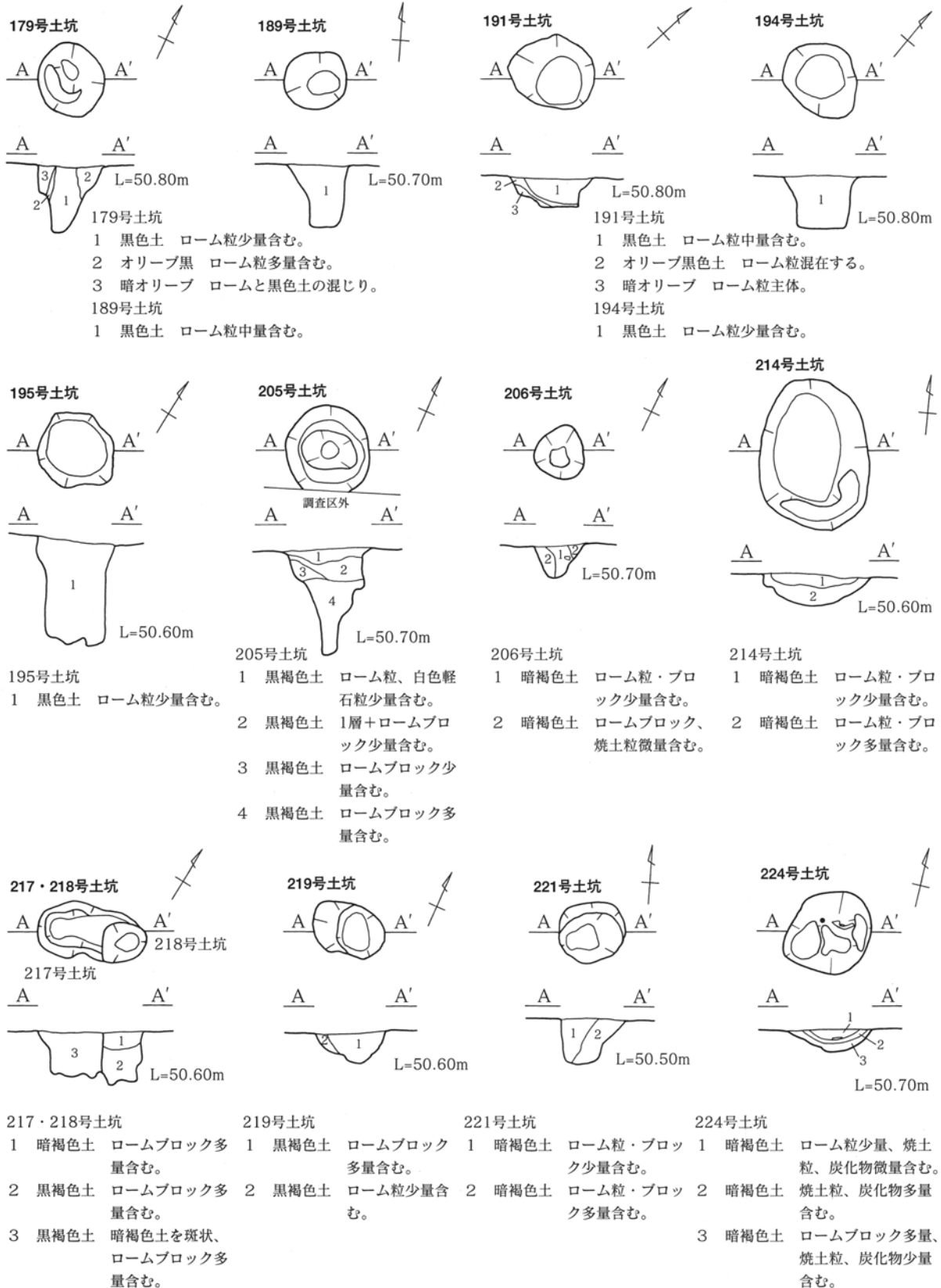
174号土坑

- 1 黒色土 ローム粒多量含む。



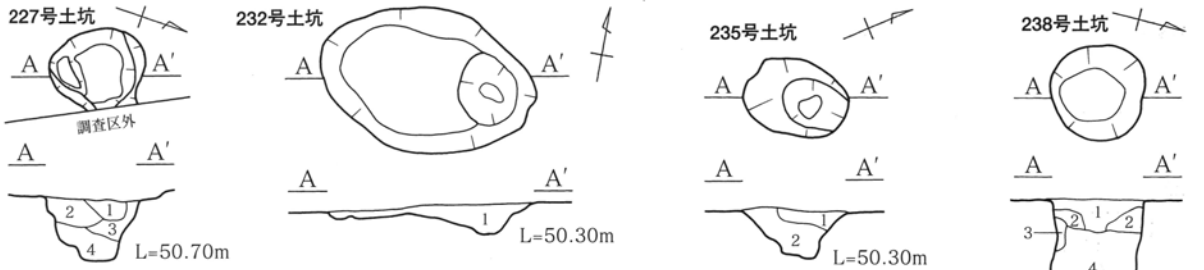
第143図 鳥山下9区時期不明土坑実測図(1)

4. 時期不明の遺構・遺物



第144図 鳥山下9区時期不明土坑実測図(2)

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



227号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒微量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒少量含む。

232号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・ブロック、炭化物粒多量含む。

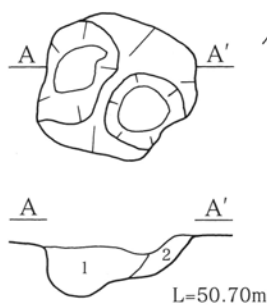
235号土坑

- 1 圃場整備時客土
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含む。

238号土坑

- 1 暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒・ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、白色軽石粒微量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒少量、ロームブロック多量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。締まりなく、所々空洞化。

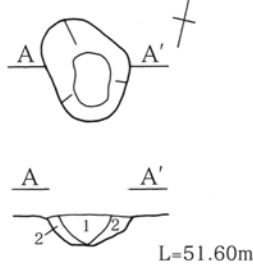
262号土坑



262号土坑

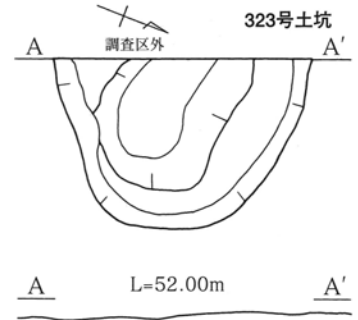
- 1 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量含む。締まりやや緩く、粘性なし。
- 2 黒褐色土 ローム粒中量含む。締まり良く、粘性なし。

316号土坑



316号土坑

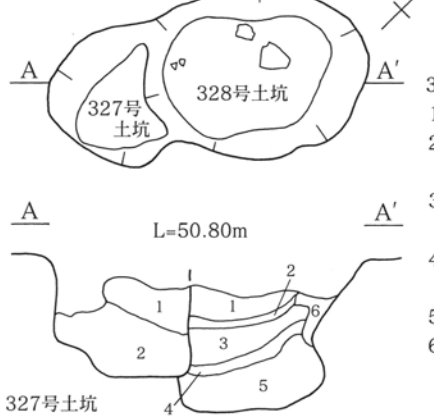
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。



323号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。締まり良く、粘性なし。
- 2 黒褐色土 ローム粒混在する。

327・328号土坑



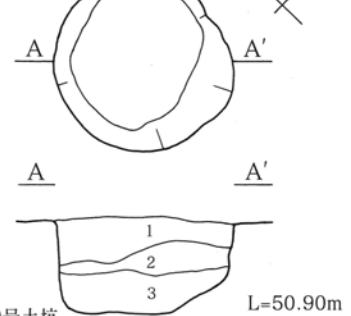
327号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。大小の円礫含む。

328号土坑

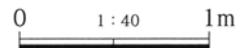
- 1 暗褐色土 ローム粒多量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックラミナ状に多量含む。やや粘性有り。
- 3 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多量含む。やや粘性有り。
- 5 暗褐色土 3層に同じ
- 6 暗褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。

330号土坑

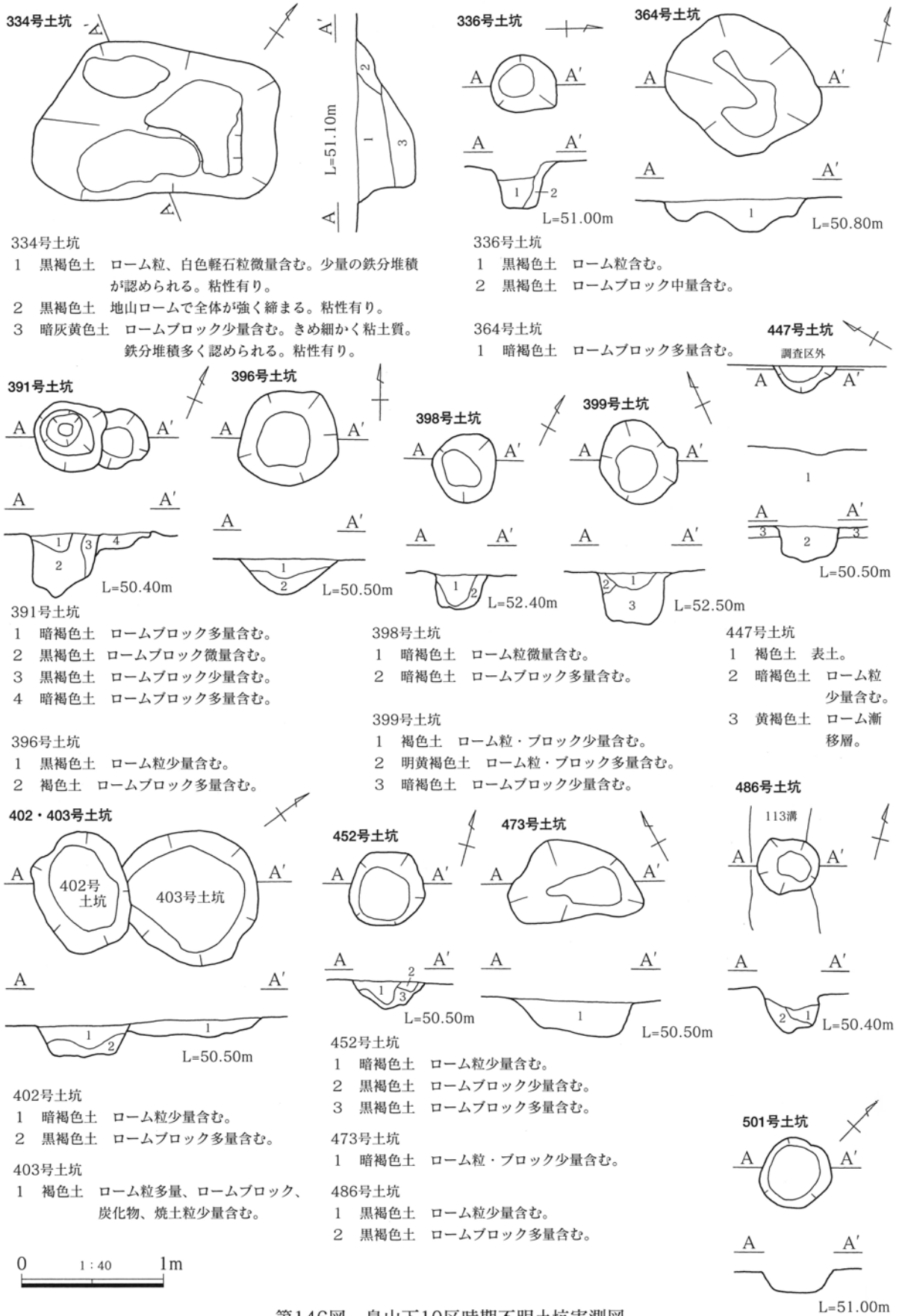


330号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。
- 3 暗褐色土 1層に同じ



第145図 鳥山下9・10区時期不明土坑実測図



第146図 鳥山下10区時期不明土坑実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

第19表 鳥山下遺跡 土坑一覧表(時期不明)

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
141	9	X=34588,Y=-43492	不整形	N-30°-E	0.72	0.50	0.45	
142	9	X=34589,Y=-43502	円形	-	0.73	0.70	0.31	
143	9	X=34591,Y=-43503	円形	-	0.34	0.34	0.32	
144	9	X=34591,Y=-43503	楕円形	N- 5°-W	0.56	0.47	0.43	
145	9	X=34576,Y=-43488	楕円形	N-57°-E	0.45	0.38	0.29	
148	9	X=34560,Y=-43482	隅丸長方形	N-66°-W	0.41	0.37	0.60	
149	9	X=34573,Y=-43495	不整形	N-57°-W	0.79	0.62	0.10	80溝と重複
150	9	X=34570,Y=-43482	不整形	N-20°-W	0.33	(0.29)	0.20	
151	9	X=34569,Y=-43483	楕円形	N-72°-W	0.36	0.27	0.35	
152	9	X=34569,Y=-43483	隅丸正方形	-	0.25	0.25	0.23	
153	9	X=34567,Y=-43483	楕円形	N- 0°	0.48	0.34	0.20	
154	9	X=34564,Y=-43483	隅丸長方形	N-76°-W	0.43	0.22	0.24	155土と重複
155	9	X=34564,Y=-43483	隅丸長方形	N-76°-W	0.43	0.22	0.24	154土と重複
156	9	X=34564,Y=-43484	円形	-	0.35	0.34	0.35	
157	9	X=34564,Y=-43485	不整形	N-14°-W	0.25	0.24	0.35	
158	9	X=34562,Y=-43486	円形	-	0.25	0.24	0.30	
159	9	X=34562,Y=-43485	隅丸方形	N-39°-W	0.32	0.29	0.28	
160	9	X=34560,Y=-43485	楕円形	N- 7°-W	0.39	0.26	0.26	
161	9	X=34560,Y=-43484	隅丸方形	N-88°-E	0.26	0.23	0.23	
162	9	X=34560,Y=-43484	隅丸長方形	N-31°-E	0.25	0.21	0.28	
163	9	X=34558,Y=-43486	隅丸長方形	N-86°-W	0.24	0.20	0.17	
164	9	X=34558,Y=-43486	円形	-	0.31	0.31	0.19	
165	9	X=34563,Y=-43482	隅丸長方形	N-28°-W	0.35	0.24	0.30	
166	9	X=34563,Y=-43481	楕円形	N-67°-W	0.39	0.35	0.35	
167	9	X=34563,Y=-43480	隅丸長方形	N-55°-W	0.39	0.25	0.46	
168	9	X=34563,Y=-43480	円形	-	0.25	0.23	0.27	
169	9	X=34563,Y=-43480	隅丸長方形	N-10°-E	0.29	0.24	0.29	
170	9	X=34564,Y=-43480	楕円形	N-45°-W	0.35	0.27	0.32	
171	9	X=34561,Y=-43480	円形	-	0.28	0.27	0.31	
172	9	X=34562,Y=-43483	隅丸方形	N-73°-W	0.26	0.23	0.55	
173	9	X=34555,Y=-43477	不整形	N-41°-W	0.55	0.51	0.54	
174	9	X=34553,Y=-43478	隅丸方形	N-16°-E	0.45	0.42	0.42	
175	9	X=34553,Y=-43480	円形	-	0.20	0.19	0.20	
176	9	X=34554,Y=-43482	楕円形	N-30°-E	0.29	0.24	0.18	
177	9	X=34548,Y=-43481	円形	-	0.36	0.35	0.40	
178	9	X=34546,Y=-43479	楕円形	N-63°-W	0.60	0.46	0.39	
179	9	X=34550,Y=-43479	楕円形	N-53°-W	0.49	0.44	0.45	
180	9							8掘立に変更
181	9							8掘立に変更
182	9							8掘立に変更
183	9							8掘立に変更
184	9							8掘立に変更
185	9							8掘立に変更
186	9							8掘立に変更
187	9							8掘立に変更
189	9	X=34518,Y=-43466	楕円形	N-66°-E	0.43	0.39	0.42	

4. 時期不明の遺構・遺物

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
190	9	X=34516,Y=-43465	円形		0.35	0.33	0.19	
191	9	X=43515,Y=-43465	楕円形	N-38°-W	0.59	0.48	0.19	
192	9	X=34515,Y=-43465	楕円形	N-60°-W	0.36	(0.30)	0.22	193土と重複
193	9	X=34515,Y=-43464	楕円形	N-49°-W	0.39	0.35	0.21	192土と重複
194	9	X=34512,Y=-43466	楕円形	N-58°-W	0.52	0.45	0.35	
195	9	X=34513,Y=-43461	隅丸方形	N-50°-E	0.51	0.49	0.72	
202	9	X=34493,Y=-43455	不整形	N-70°-E	2.47	0.97	0.26	
205	9	X=34484,Y=-43452	円形	-	0.60	0.59	0.72	
206	9	X=34485,Y=-43451	不整形	N-57°-W	0.35	0.33	0.24	
208	9	X=34488,Y=-43452	楕円形	N-44°-W	0.34	0.28	0.17	
209	9	X=34488,Y=-43451	隅丸方形	N-64°-E	0.33	0.32	0.14	
210	9							9掘立に変更
211	9							9掘立に変更
212	9							9掘立に変更
213	9							9掘立に変更
214	9	X=34458,Y=-43439	楕円形	N- 6°-W	1.00	0.72	0.22	
215	9	X=34454,Y=-43438	不整形	N-35°-E	0.46	0.39	0.20	
216	9	X=34453,Y=-43438	隅丸長方形	N-89°-W	0.38	0.29	0.29	
217	9	X=34452,Y=-43438	楕円形	N-68°-E	0.73	0.32	0.32	218土と重複
218	9	X=34452,Y=-43438	隅丸方形	N-57°-E	0.29	0.26	0.37	217土と重複
219	9	X=34452,Y=-43437	楕円形	N-89°-W	0.50	0.34	0.24	
220	9							9掘立に変更
221	9	X=34457,Y=-43434	隅丸長方形	N-70°-E	0.45	0.39	0.30	
222	9	X=34457,Y=-43435	不整形	N-37°-W	0.38	0.29	0.33	
223	9	X=34458,Y=-43436	隅丸長方形	N-92°-W	0.27	0.23	0.21	
224	9	X=34465,Y=-43442	隅丸長方形	N- 5°-E	0.57	0.53	0.16	
225	9	X=34469,Y=-43446	円形	-	0.27	0.26	0.15	
226	9	X=34432,Y=-43446	隅丸方形	N-82°-E	0.30	0.27	0.17	
227	9	X=34474,Y=-43442	不整形	N-32°-W	0.50	(0.42)	0.34	
232	9	X=34441,Y=-43429	楕円形	N-90°-W	1.15	0.77	0.17	98住と重複
235	9	X=34437,Y=-43427	楕円形	N-25°-E	0.55	0.40	0.26	
236	9	X=34465,Y=-43446	不整形	N- 5°-E	0.41	0.37	0.42	
237	9	X=34469,Y=-43440	不整形	N-23°-E	0.33	(0.15)	0.25	
238	9	X=34473,Y=-43447	円形	-	0.50	0.49	1.08	
239	9	X=34472,Y=-43475	不整形	N-66°-W	0.30	0.24	0.15	
240	9	X=34471,Y=-43344	円形	-	0.24	0.23	0.19	
241	9	X=34470,Y=-43446	楕円形	N- 3°-W	0.60	0.34	0.38	
242	9	X=34469,Y=-43447	隅丸正方形	-	0.31	0.31	0.11	
243	9	X=34465,Y=-43445	隅丸方形	N-54°-W	0.35	0.33	0.12	
244	9	X=34465,Y=-43444	不整形	N-81°-W	0.43	0.32	0.15	
245	9	X=34462,Y=-43441	隅丸長方形	N-42°-E	0.90	0.77	0.09	
246	9	X=34462,Y=-43442	楕円形	N-79°-E	0.48	0.32	0.20	
247	9	X=34460,Y=-43442	不整形	N-83°-W	0.30	0.24	0.30	
248	9	X=34462,Y=-43441	隅丸長方形	N-37°-E	0.29	0.25	0.06	
249	9	X=34456,Y=-43440	不整形	N-80°-W	0.48	0.32	0.15	
250	9	X=34454,Y=-43440	隅丸長方形	N-90°-W	0.48	0.35	0.18	

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
251	9	X=34445,Y=-43435	円形	—	0.20	0.18	0.12	
260	10	X=34485,Y=-43436	隅丸方形	N- 0°	0.34	0.30	0.20	
261	10	X=34487,Y=-43436	隅丸方形	N- 0°	0.24	0.23	0.18	
262	10	X=34486,Y=-43432	不整形	N- 0°	0.78	0.75	0.28	
263	10	X=34489,Y=-43433	楕円形	N-40°-W	0.38	0.30	0.57	
264	10	X=34488,Y=-43430	隅丸長方形	N-56°-E	0.34	0.25	0.33	
266	10	X=34507,Y=-43448	隅丸長方形	N- 0°	0.43	0.38	0.10	
267	10	X=34508,Y=-43448	隅丸長方形	N- 0°	0.62	0.50	0.36	
268	10	X=34508,Y=-43448	隅丸長方形	N- 0°	0.50	0.30	0.20	88・101溝と重複
269	10	X=34509,Y=-43447	不整形	N-20°-E	0.50	0.42	0.43	502土、88・101溝と重複
270	10	X=34509,Y=-43446	隅丸長方形	N- 0°	0.61	0.34	0.45	88・101溝と重複
271	10	X=34507,Y=-43442	不整形	N-75°-W	0.65	0.45	0.28	272土と重複
273	10	X=34511,Y=-43444	不整形	N-25°-W	0.45	0.45	0.50	
274	10	X=34512,Y=-43444	楕円形	N-89°-E	0.28	0.23	0.35	275土と重複
275	10	X=34512,Y=-43444	円形	—	0.35	0.35	0.25	274土と重複
278	10	X=34512,Y=-43446	楕円形	N-26°-W	0.60	0.45	0.42	
280	10	X=34509,Y=-43446	円形	—	0.36	0.34	0.29	
281	10	X=34510,Y=-43447	楕円形	N-68°-E	0.30	0.26	0.24	
282	10	X=34511,Y=-43447	隅丸長方形	N-56°-E	0.30	0.25	0.20	
283	10	X=34512,Y=-43447	隅丸長方形	N-35°-E	0.53	0.44	0.60	
284	10	X=34512,Y=-43449	円形	—	0.22	0.22	0.15	
285	10	X=34512,Y=-43449	不整形	N-66°-E	0.50	0.30	0.20	
290	10	X=34522,Y=-43447	円形	—	0.35	0.32	0.14	
291	10	X=34524,Y=-43448	円形	—	0.40	0.40	0.15	
292	10	X=34526,Y=-43447	不整形	N-75°-E	0.38	0.35	0.13	
299	10	X=34535,Y=-43454	隅丸方形	N-20°-W	0.45	0.43	0.35	
300	10	X=34535,Y=-43455	楕円形	N- 6°-E	0.35	0.27	0.35	
301	10	X=34535,Y=-43456	楕円形	N-59°-W	0.60	0.53	0.65	
302	10	X=34533,Y=-43458	円形	—	0.24	0.22	0.25	
303	10	X=34532,Y=-43458	楕円形	N- 5°-W	0.50	0.36	0.28	
304	10	X=34537,Y=-43459	楕円形	N-17°-W	0.35	0.32	0.30	
305	10	X=34539,Y=-43459	円形	—	0.29	0.27	0.25	
306	10	X=34541,Y=-43461	楕円形	N-83°-W	0.22	0.18	0.25	
307	10	X=34542,Y=-43461	円形	—	0.32	0.30	0.20	
309	10	X=34544,Y=-43454	隅丸方形	—	0.30	0.28	0.21	
310	10	X=34542,Y=-43454	円形	—	0.26	0.25	0.23	
311	10	X=34541,Y=-43455	円形	—	0.24	0.21	0.16	
313	10	X=34540,Y=-43455	隅丸方形	N-32°-W	0.42	0.40	0.30	103住と重複
314	10	X=34717,Y=-43527	不整形	N-32°-E	0.35	0.30	0.20	
315	10	X=34717,Y=-43527	隅丸方形	N- 0°	0.30	0.25	0.14	
316	10	X=34713,Y=-43532	不整形	N-30°-W	0.56	0.40	0.17	
323	10	X=34717,Y=-43434	不整形	N-20°-W	(1.35)	(0.95)	0.78	
324	10	X=34715,Y=-43526	隅丸方形	N-30°-W	0.34	0.30	0.14	
327	10	X=34548,Y=-43457	隅丸方形	N-37°-E	0.75	(0.62)	0.65	328土と重複
328	10	X=34548,Y=-43456	楕円形	N-37°-E	(1.20)	1.0	0.83	327土と重複
330	10	X=34550,Y=-43460	楕円形	N- 0°	0.95	0.90	0.50	

4. 時期不明の遺構・遺物

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
334	10	X=34607,Y=-43485	隅丸長方形	N-36°-E	1.82	1.14	0.41	
336	10	X=34594,Y=-43482	不整形	N-25°-E	0.47	0.42	0.28	
338	10	X=34545,Y=-43461	円形	-	0.25	0.22	0.25	
339	10	X=34550,Y=-43463	円形	-	0.30	0.30	0.40	
340	10	X=34550,Y=-43464	隅丸方形	N-28°-W	0.37	0.31	0.20	
341	10	X=34550,Y=-43464	隅丸方形	N-24°-W	0.35	0.30	0.30	
342	10	X=34552,Y=-43464	楕円形	N- 0°	0.36	0.29	0.18	
343	10	X=34552,Y=-43465	隅丸方形	N-20°-W	0.28	0.23	0.33	
344	10	X=34552,Y=-43466	隅丸方形	N-32°-W	0.32	0.26	0.42	
345	10	X=34553,Y=-43464	楕円形	N- 0°	0.35	0.28	0.50	
346	10	X=34563,Y=-43468	円形	-	0.30	0.27	0.23	
347	10	X=34565,Y=-43469	隅丸長方形	N-63°-W	0.30	0.24	0.35	
348	10	X=34565,Y=-43468	隅丸方形	N-36°-W	0.30	0.28	0.25	
349	10	X=34564,Y=-43468	楕円形	N-53°-E	0.36	0.22	0.27	
350	10	X=34565,Y=-43465	楕円形	N-68°-W	0.40	0.26	0.40	
351	10	X=34565,Y=-43465	不整形	N-12°-W	0.50	0.34	0.45	
352	10	X=34565,Y=-43462	楕円形	N-33°-E	0.30	0.25	0.28	
353	10	X=34567,Y=-43464	円形	-	0.30	0.30	0.30	
354	10	X=34567,Y=-43464	楕円形	N-21°-E	0.40	0.35	0.50	
355	10	X=34565,Y=-43465	円形	-	0.35	0.32	0.40	
356	10	X=34568,Y=-43465	円形	-	0.33	0.31	0.40	
357	10	X=34568,Y=-43464	円形	-	0.32	0.30	0.37	
358	10	X=34568,Y=-43463	隅丸方形	N-84°-W	0.47	0.40	0.45	
359	10	X=34569,Y=-43464	楕円形	N-22°-W	0.33	0.28	0.40	
360	10	X=34566,Y=-43472	楕円形	N-41°-W	0.50	0.32	0.31	
361	10	X=34568,Y=-43471	楕円形	N-55°-W	0.32	0.26	0.33	
362	10	X=34569,Y=-43471	隅丸方形	N-18°-E	0.32	0.30	0.30	
364	10	X=34570,Y=-43470	隅丸長方形	N-56°-E	0.98	0.87	0.27	
366	10	X=34566,Y= 43463	隅丸長方形	N-36°-E	0.28	0.37	0.55	
369	10	X=34577,Y=-43472	楕円形	N-65°-W	0.40	0.29	0.20	
370	10	X=34579,Y=-43471	楕円形	N-85°-E	0.36	0.22	0.24	
371	10	X=34580,Y=-43472	不整形	N-75°-E	0.36	0.34	0.17	
372	10	X=34574,Y=-43475	隅丸方形	N-26°-W	0.24	0.22	0.15	
373	10	X=34580,Y=-43468	不整形	N-12°-E	0.28	0.26	0.14	
374	10	X=34583,Y=-43472	円形	-	0.28	0.26	0.11	
375	10	X=34581,Y=-43478	隅丸正方形	-	0.30	0.30	0.23	
377	10	X=34565,Y=-43464	隅丸方形	N-45°-E	0.28	0.26	0.34	
378	10	X=34570,Y=-43464	楕円形	N-40°-E	0.33	0.25	0.28	
389	10	X=34424,Y=-43410	円形	-	0.65	0.62	0.21	390土と重複
390	10	X=34424,Y=-43410	円形	-	0.30	0.28	0.30	389土と重複
391	10	X=34424,Y=-43409	不整形	N-113°-W	0.80	0.45	0.45	
392	10	X=34425,Y=-43408	隅丸長方形	N-44°-E	0.50	0.43	0.25	393土と重複
393	10	X=34424,Y=-43408	楕円形	N-48°-W	0.67	0.60	0.44	392土と重複
394	10	X=34425,Y=-43401	楕円形	N-20°-E	0.34	0.25	0.15	
395	10	X=34427,Y=-43408	楕円形	N- 0°	0.46	0.35	0.15	
396	10	X=34428,Y=-43408	隅丸正方形	-	0.68	0.68	0.20	

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
397	10	X=34429,Y=-43409	不整形	N-10°-E	0.61	0.55	0.27	
398	10	X=34430,Y=-43408	隅丸長方形	N- 0°	0.50	0.45	0.25	
399	10	X=34430,Y=-43410	隅丸長方形	N-72°-W	0.60	0.50	0.36	
402	10	X=34432,Y=-43411	隅丸長方形	N- 0°	0.75	0.65	0.22	403土と重複
403	10	X=34433,Y=-43410	不整形	-	(1.0)	0.95	0.12	402土と重複
404	10	X=34434,Y=-43408	楕円形	N-82°-W	0.83	0.38	0.35	
405	10	X=34433,Y=-43406	楕円形	N-76°-W	0.39	0.35	0.18	
406	10	X=34433,Y=-43404	隅丸長方形	N- 9°-W	0.43	0.36	0.16	
407	10	X=34433,Y=-43404	楕円形	N-80°-E	0.38	0.33	0.20	
408	10	X=34432,Y=-43403	楕円形	N-45°-W	0.57	0.43	0.47	
409	10	X=34435,Y=-43402	楕円形	N-37°-E	0.33	0.27	0.21	
410	10	X=34438,Y=-43402	隅丸長方形	N- 0°	0.32	0.28	0.25	
411	10	X=34439,Y=-43402	不整形	N-67°-W	0.56	0.26	0.10	
412	10	X=34438,Y=-43406	不整形	N- 3°-E	0.44	0.40	0.16	
413	10	X=34438,Y=-43405	円形	-	0.30	0.29	0.10	
414	10	X=34438,Y=-43404	円形	-	0.37	0.35	0.18	
415	10	X=34439,Y=-43408	隅丸方形	N-23°-W	0.50	0.47	0.40	
416	10	X=34438,Y=-43411	隅丸方形	N-35°-W	0.32	0.30	0.21	
417	10	X=34438,Y=-43411	隅丸長方形	N-42°-W	0.42	0.30	0.25	
418	10	X=34428,Y=-43403	楕円形	N-60°-W	0.30	0.25	0.20	
419	10	X=34426,Y=-43395	楕円形	N-19°-E	(0.35)	0.31	0.25	
422	10	X=34445,Y=-43413	円形	-	0.25	0.25	0.14	
423	10	X=34448,Y=-43412	不整形	N- 8°-W	0.70	0.35	0.31	
424	10	X=34448,Y=-43412	隅丸長方形	N-32°-W	0.65	0.30	0.29	
425	10	X=34448,Y=-43411	楕円形	N-48°-E	0.36	0.30	0.13	
426	10	X=34449,Y= 43409	隅丸正方形	-	0.31	0.30	0.08	
428	10							1号柵列に変更
429	10	X=34454,Y=-43418	楕円形	N-16°-W	0.48	0.36	0.32	
430	10							1号柵列に変更
431	10							1号柵列に変更
432	10							1号柵列に変更
433	10	X=34459,Y=-43414	円形	-	0.35	0.32	0.18	
434	10	X=34459,Y=-43419	円形	-	0.27	0.25	0.25	
435	10							1号柵列に変更
436	10	X=34462,Y=-43416	円形	-	0.55	0.52	0.16	
437	10							1号柵列に変更
438	10							1号柵列に変更
439	10	X=34456,Y=-43420	楕円形	N-57°-W	0.28	0.23	0.12	
440	10	X=34456,Y=-43422	楕円形	N- 4°-E	0.40	0.35	0.12	
441	10	X=34455,Y=-43424	隅丸方形	N- 0°	0.34	(0.25)	0.20	
442	10	X=34458,Y=-43422	不整形	N-80°-E	0.62	0.52	0.17	
443	10	X=34457,Y=-43424	隅丸長方形	N-30°-W	0.37	0.34	0.22	
444	10	X=34460,Y=-43425	楕円形	N-18°-W	0.32	0.28	0.07	
445	10	X=34459,Y=-43497	円形	-	0.72	0.70	0.18	
446	10	X=34443,Y=-43411	不整形	N-55°-E	1.00	0.85	0.20	
447	10	X=34464,Y=-43417	不整形	-	0.45	(0.18)	0.25	

4. 時期不明の遺構・遺物

土坑番号	区	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
448	10	X=34464,Y=-43417	楕円形	N-75°-W	0.38	0.23	0.45	
449	10	X=34457,Y=-43421	楕円形	N- 9°-W	0.32	0.26	0.16	
450	10	X=34460,Y=-43423	隅丸長方形	N-20°-W	0.50	(0.10)	0.30	
451	10	X=34461,Y=-43423	隅丸長方形	N- 0°	0.40	0.34	0.20	
452	10							1号柵列に変更
453	10	X=34462,Y=-43420	円形	-	0.32	0.32	0.13	
454	10							1号柵列に変更
455	10	X=34463,Y=-43423	楕円形	N-25°-E	0.35	(0.20)	0.22	
456	10							12掘立に変更
457	10							12掘立に変更
458	10	X=34462,Y=-43425	不整形	N-54°-W	0.50	(0.35)	0.52	475、459土と重複
459	10	X=34462,Y=-43425	不整形	N-54°-E	0.48	0.42	0.42	475、458土と重複
460	10							12掘立に変更
461	10							12掘立に変更
462	10							12掘立に変更
463	10							12掘立に変更
464	10							12掘立に変更
465	10							12掘立に変更
466	10							12掘立に変更
467	10							1号柵列に変更
468	10							12掘立に変更
469	10	X=34467,Y=-43424	楕円形	N-25°-E	0.35	0.30	0.15	
470	10							12掘立に変更
471	10							1号柵列に変更
472	10	X=34461,Y=-43420	楕円形	N-15°-W	0.50	0.32	0.35	
473	10	X=34437,Y=-43415	不整形	N-60°-W	0.90	0.55	0.25	
474	10	X=34461,Y=-43426	円形	-	0.25	0.25	0.10	
475	10	X=34461,Y=-43425	楕円形	N-88°-W	0.25	0.17	0.30	
476	10	X=34463,Y=-43427	楕円形	N-58°-E	0.30	0.26	0.32	458、459土と重複
477	10	X=34468,Y=-43422	楕円形	N-67°-W	0.37	0.30	0.17	
478	10							12掘立に変更
479	10	X=34471,Y=-43422	楕円形	N-47°-W	0.50	0.29	0.20	
480	10	X=34464,Y=-43421	円形	-	0.40	0.38	0.15	114溝と重複
481	10							12掘立に変更
483	10	X=34460,Y=-43420	楕円形	N-46°-E	0.35	0.30	0.10	
484	10							12掘立に変更
485	10							12掘立に変更
486	10	X=34430,Y=-43413	隅丸長方形	N- 0°	0.43	0.38	0.30	116溝と重複
500	9	X=34505,Y=-43456	隅丸長方形	N-36°-W	0.50	0.41	0.81	
501	10	X=34590,Y=-43476	楕円形	N-18°-E	0.50	0.45	0.15	
503	9	X=34555,Y=-43473	不整形	N-22°-W	0.30	(0.09)	0.27	
504	9	X=34484,Y=-43453	楕円形	N-13°-E	0.35	0.32	0.32	
506	10	X=34535,Y=-43454	不整形	N-43°-E	0.48	0.43	0.30	
507	10	X=34567,Y=-43464	円形	-	0.30	0.30	0.10	

(4) 溝

溝についても時期不明のものが多く残った。埋土からの出土遺物は古代から近・現代のものまで混在することもあるが、点数が少量で小破片ばかりの場合どちらかが混入品かの判断が出来なかった。

他遺構との埋土の比較と出土遺物から中世以降圃場整備直前までの遺構が大半であると思われるが、

古代まで遡る遺構もある可能性が残る。そこで、遺構の年代を示せるものではないが、図化できる遺物は時代を問わず図化してある。今後発掘区に接して関連遺構が検出されるときに比較資料として掲載しておく。

80号溝(図147、P L42)

位置 9区X=34573~96, Y=-43493~96

重複 なし

走向 北から南(N-7° -E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は箱状を呈する。

規模 検出全長 (23.00)m

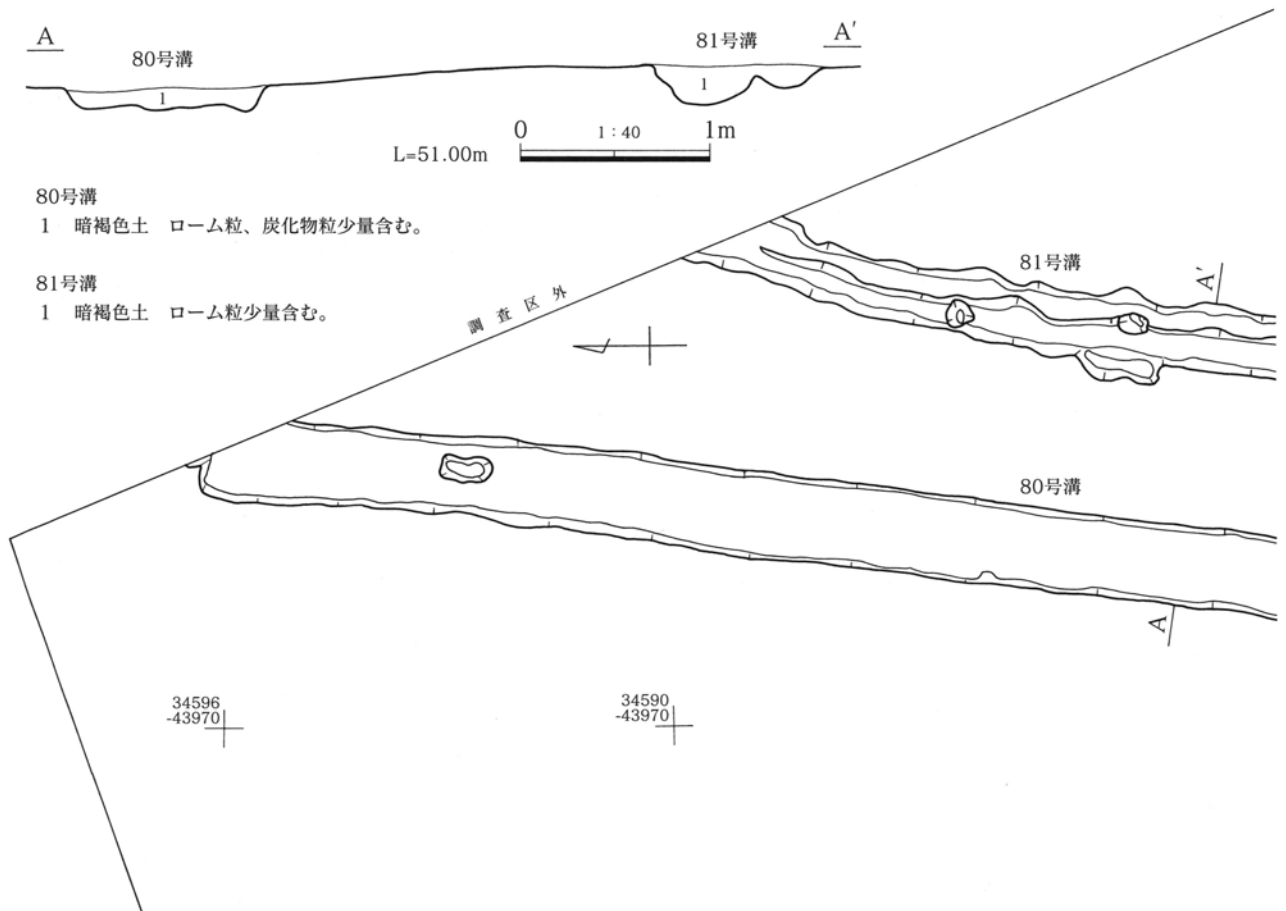
上幅 1.16~1.03m

底幅 1.02~0.88m

深さ 0.23~0.08m

遺物 土師器27片・須恵器9片を主体とするが、中世陶器片1片・コンクリート片1片を含む。

所見 埋土は単層で堆積状況は人為的に埋め立てられた様相を呈する。別遺構として調査したが81号溝と並行しており道路の可能性が考えられる。



4. 時期不明の遺構・遺物

81号溝(図147、P L42・51)

位置 9区X=34567~89, Y=-43490~93

重複 なし

走向 北から南(N-13° -E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は蒲鉾状を呈する。

規模 検出全長 (22.00)m

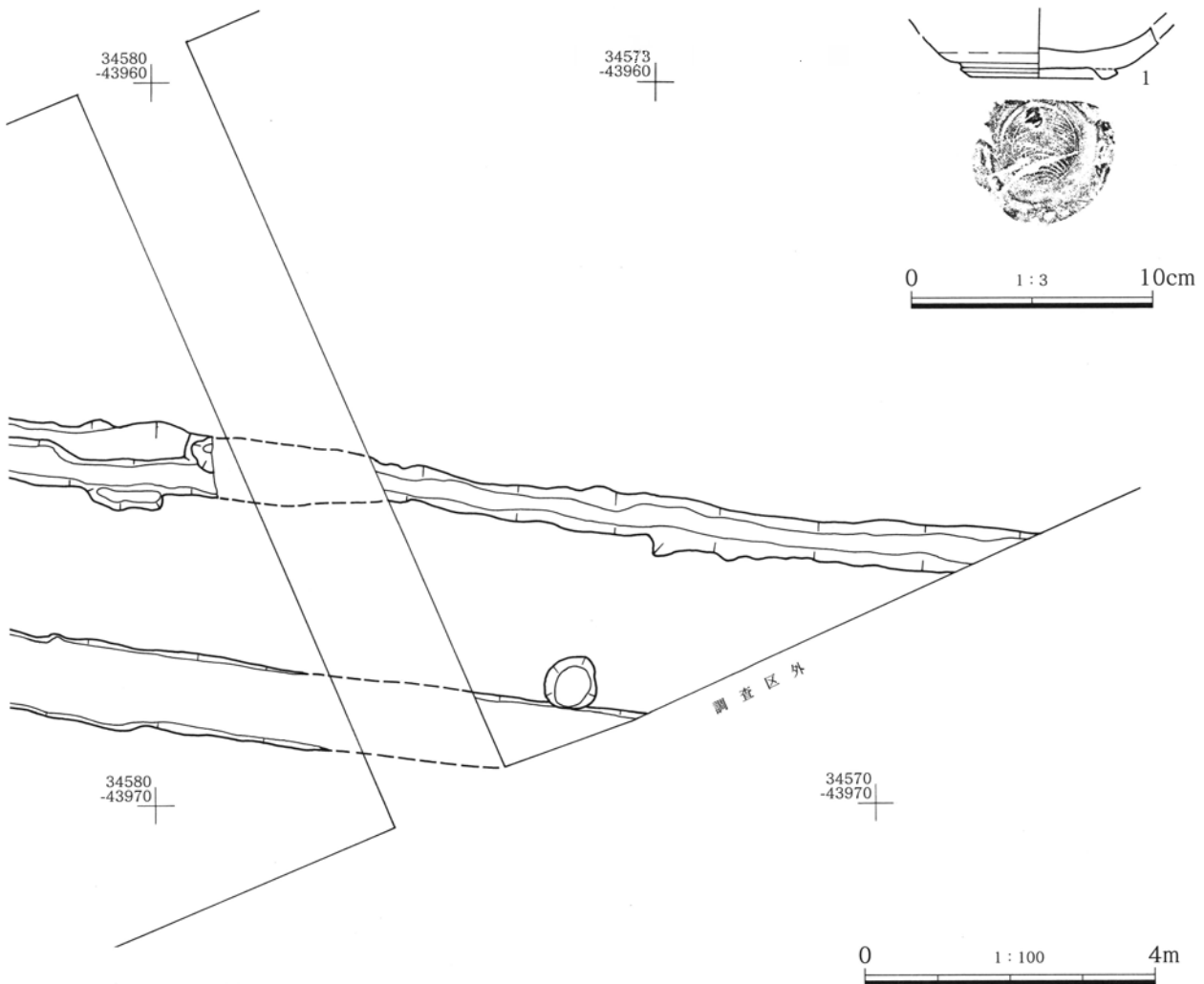
上幅 1.20~0.40m

底幅 0.42~0.12m

深さ 0.20~0.17m

遺物 土師器7片、須恵器2片を含む。

所見 埋土は単層で堆積状況は人為的に埋め立てられた様相を呈する。東側には僅かに中央ラインが窪む中段があり土層断面の観察からは時期差を捉えられなかったが、複数の溝を捉えている可能性もある。別遺構として調査したが81号溝と並行しており、道路の可能性が考えられる。



第147図 鳥山下9区80・81号溝出土遺物実測図

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

84号溝(図148・149、P L42)

位置 9区X=34523~30, Y=-43474~75

重複 なし

走向 南から北(N-5°-E)

形態 ほぼ直線的で、南側ほど幅が拡大している。
断面形は浅い蒲鉾状を呈する。

規模 検出全長 6.36m

上幅 1.05~0.39m

底幅 0.62~0.16m

深さ 0.15~0.08m

遺物 須恵器片1片、中世以降の可能性が高い軟質陶器1片を含む。

所見 遺物は極小片の2片のみで時期を明らかに出来ない。底面には細かな凹凸がある。東側3m程の位置を埋土の近似した85号溝がほぼ並行しており、道路の可能性が考えられる。

85号溝(図148・149、P L42・51)

位置 9区X=34519~30, Y=-43471~72

重複 なし

走向 北から南(N-3°-E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は蒲鉾状を呈する。

規模 検出全長 11.00m

上幅 0.60~0.24m

底幅 0.34~0.09m

深さ 0.10~0.03m

遺物 土師器26片、須恵器15片、中世陶器1片、瓦1片を含む。北側部分に集中する。

所見 西3m程の位置を埋土の近似した84号溝がほぼ並行しており、道路の可能性も考えられる。

86号溝(図149、P L43・51)

位置 9区X=34531~32, Y=-43466~75

重複 なし

走向 東から西(N-85°-E)

形態 ほぼ直線的で、断面形は蒲鉾状を呈する。

規模 検出全長 9.30m

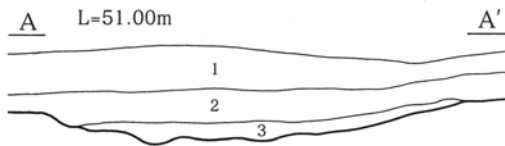
上幅 0.64~0.40m

底幅 0.30~0.10m

深さ 0.32~0.22m

遺物 土師器28片・須恵器6片、中世掘り鉢1片・近世陶器1片を含む。

所見 底面レベルに段差をもつ。南北に同規模の溝の底面が残存しており、掘り直しの可能性がある。掘り方がしっかりしており、中近世遺物を混入と見ると古代溝の可能性も考えられる。



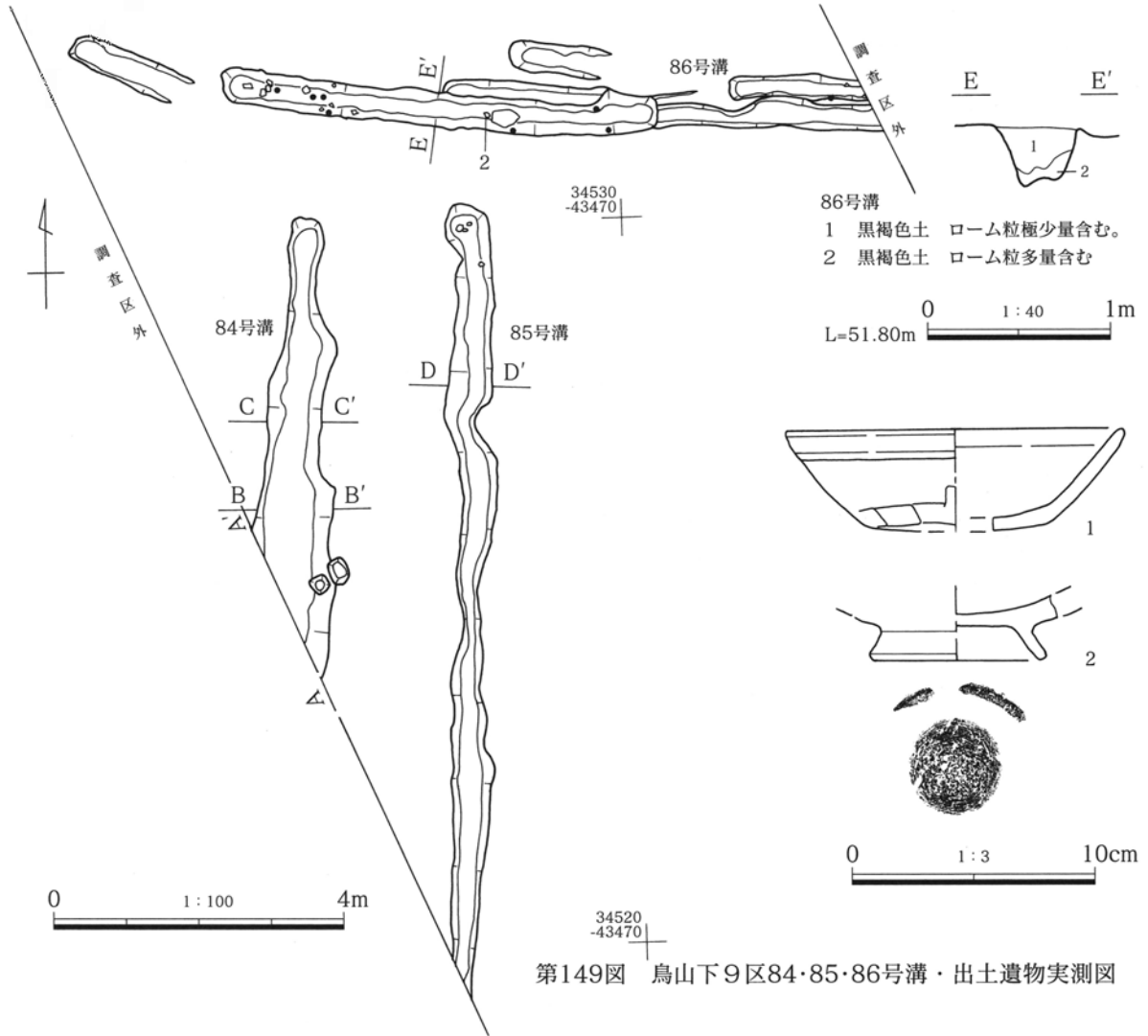
84号溝

- 1 褐色土 表土
- 2 黒褐色土 ローム粒極少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒、炭粒少量含む。
- 4 暗黄灰色土 ローム主体。黒色土少量含む。



第148図 鳥山下9区84・85号溝実測図

4. 時期不明の遺構・遺物



第149図 鳥山下9区84・85・86号溝・出土遺物実測図

88・101号溝(図150、P L43)

位置 9・10区X=34506~10, Y=-43439~66

重複 98号溝・268・269・270・502号土坑。土層断面の観察により98号溝が前出。他との新旧関係不明。

走向 北東から南西(N-99° -W)

形態 ほぼ直線的で、断面形は蒲鉾状を呈する。

規模 検出全長 (27.40)m 上幅 0.80~0.24m

底幅 0.40~0.10m 深さ 0.18~0.03m

遺物 遺物なし。

所見 走向方向の一致から、現道を挟んで延びる1条の溝であると考えられる。

89・114号溝(図151、P L51)

位置 9・10区X=34464~67, Y=-43416~48

重複 12号掘立柱建物、1号柵列。調査所見により12号掘立柱建物が前出。1号柵列は新旧不明。

走向 西から東(N-97° -E)

形態 ほぼ直線で、断面形は逆台形を呈する。

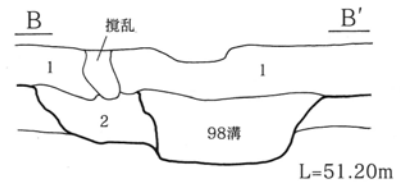
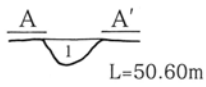
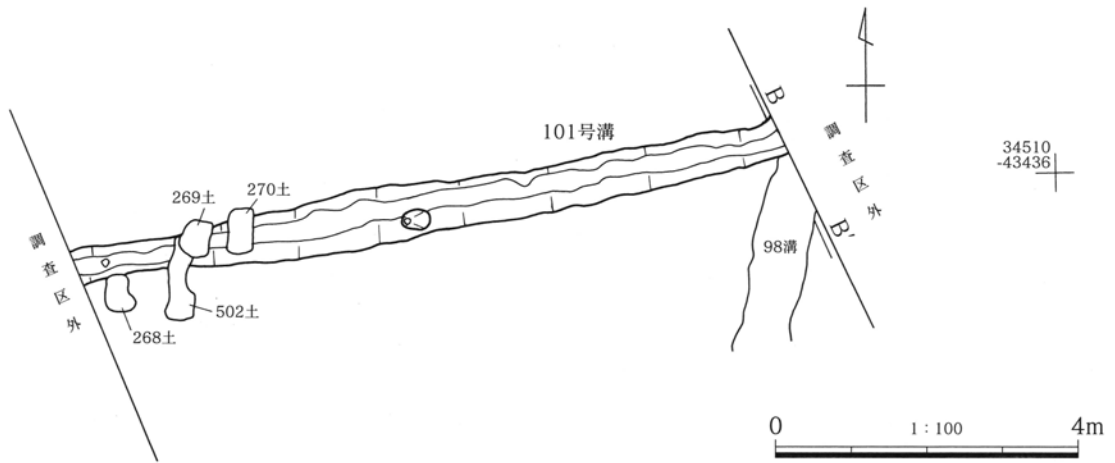
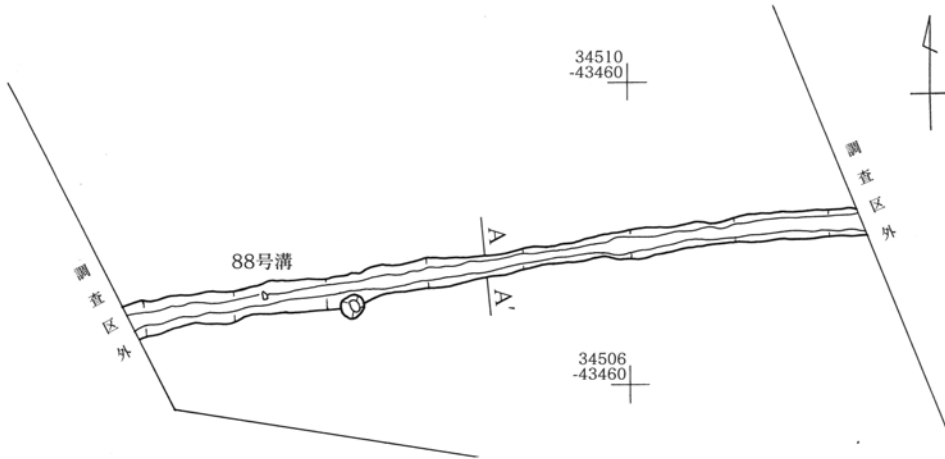
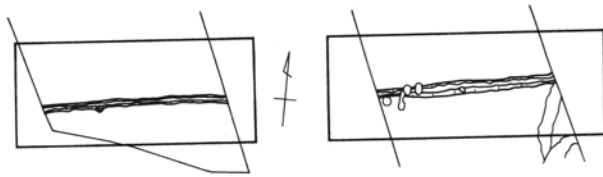
規模 検出全長 31.70m 上幅 0.52~0.40m

底幅 0.38~0.10m 深さ 0.38~0.07m

遺物 9区より土師器55片(内前期5片)須恵器11片、10区より土師器23片須恵器5片陶器3片磁器10片瓦破片1片出土。

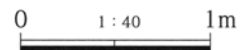
所見 走向方向の一致から現道を挟んで延びる1条の溝であると考えられ、10区部分の埋土に陶器片磁器片を含むことを重視すれば、近世以降の溝と考えられる。

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



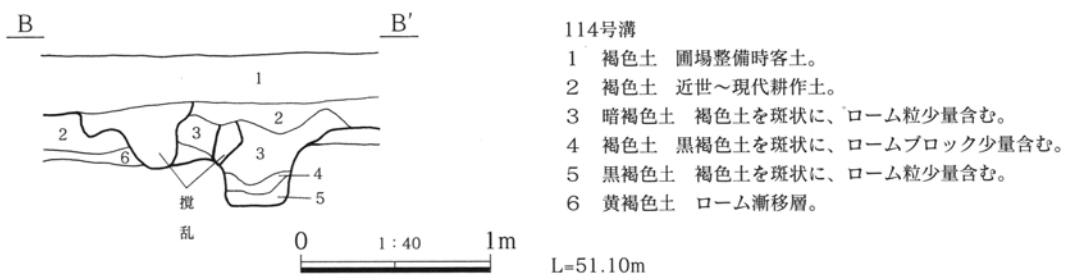
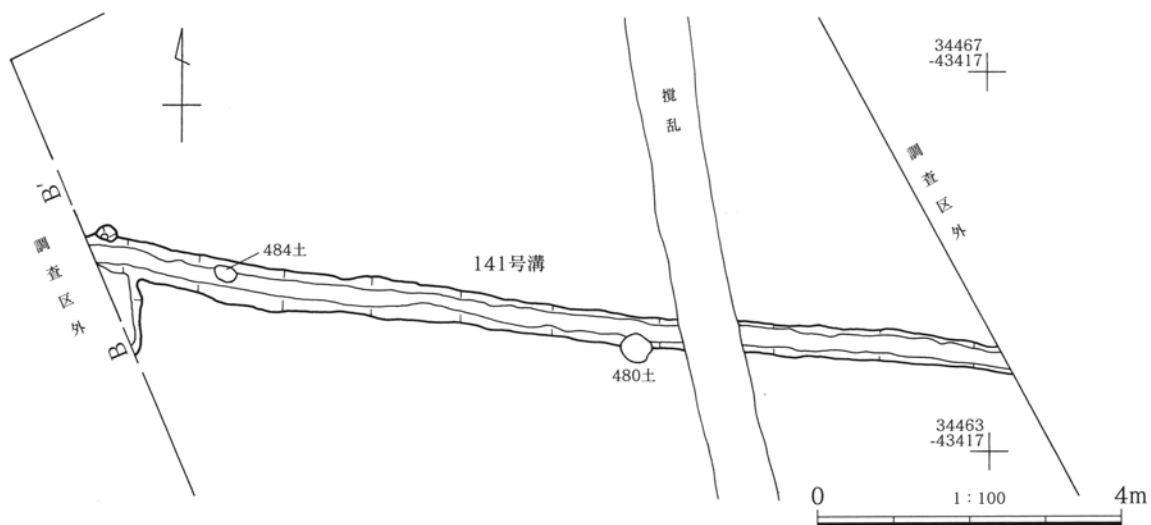
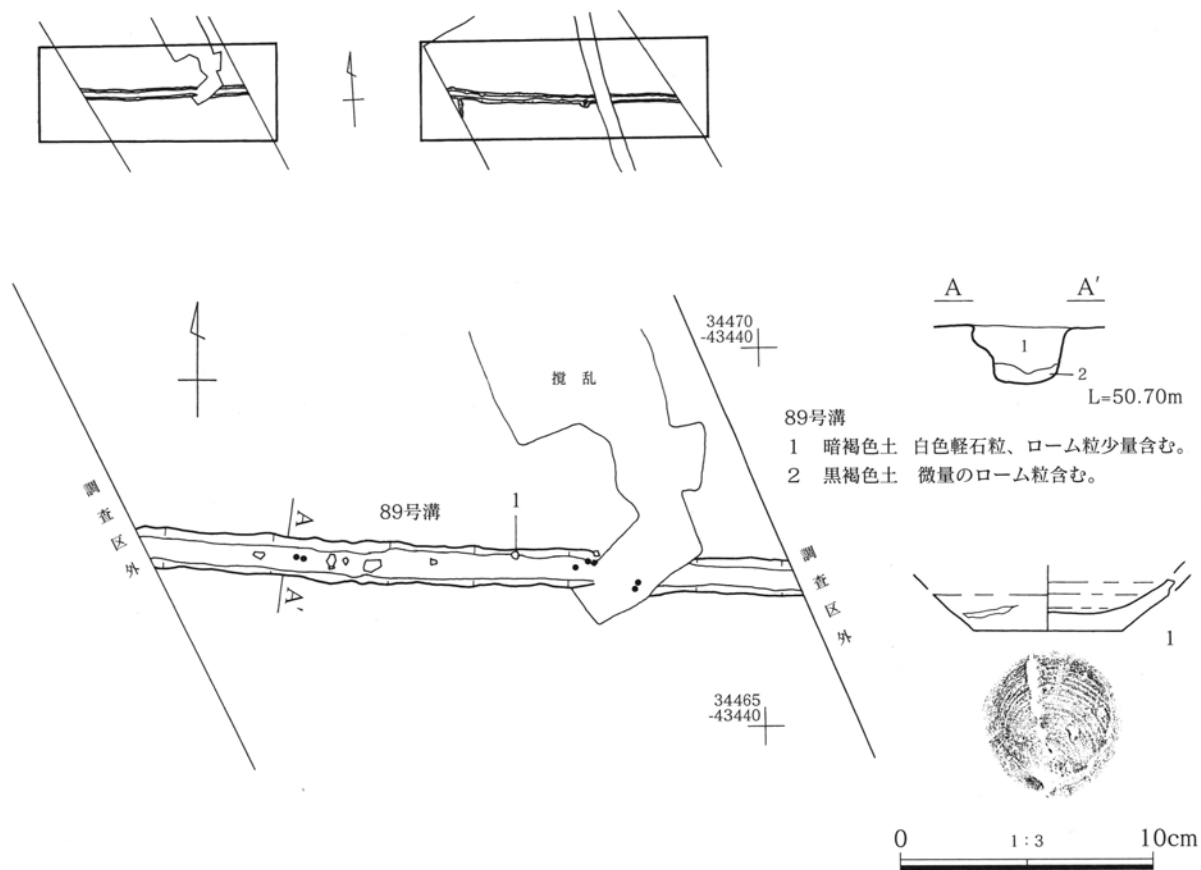
88号溝
1 黒色土 ローム粒中量含む。

101号溝
1 褐色土 表土
2 黒褐色土 ローム粒中量含む。



第150図 鳥山下9・10区88・101号溝実測図

4. 時期不明の遺構・遺物



第151図 鳥山下9・10区89・114号溝・出土遺物実測図

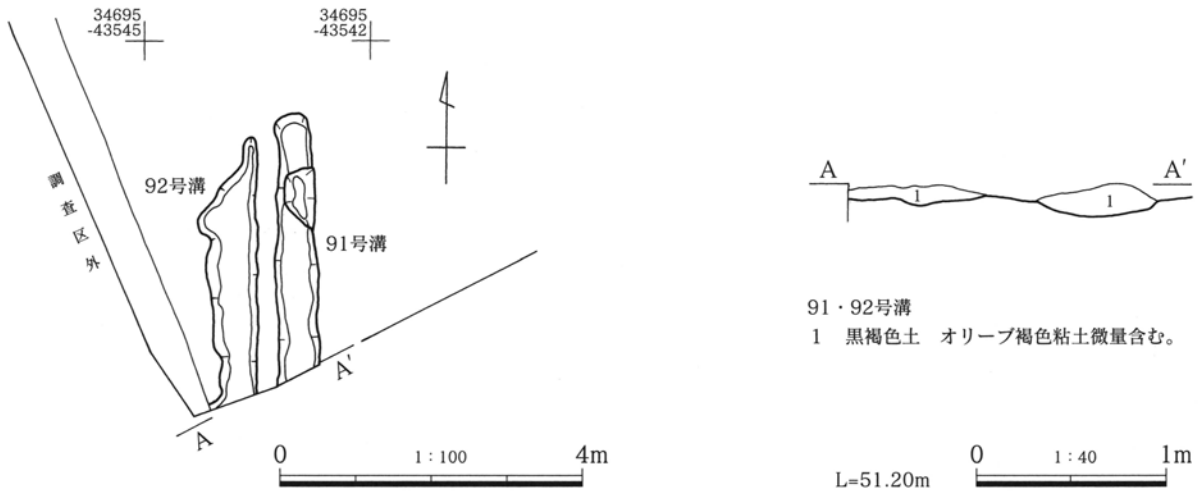
V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

91号溝(図152、P L43)

位置 9区X=34690~93, Y=-43542~43
 重複 なし
 走向 北から南(N-0°)
 形態 ほぼ直線的で、断面形は薄い蒲鉾状を呈する。
 規模 検出全長 3.52m
 上幅 0.63~0.54m
 底幅 0.41~0.28m
 深さ 0.10~0.05m
 遺物 土師器1片。
 所見 溝底部が僅かに残存する。並行して同じ埋土で埋まる92号溝が走る。

92号溝(図152、P L43)

位置 9区X=34690~93, Y=-43543~44
 重複 なし
 走向 北から南ほぼ平坦(N-0°)
 形態 ほぼ直線で、断面形は薄い蒲鉾状を呈する。
 規模 検出全長 3.46m
 上幅 0.76~0.48m
 底幅 0.57~0.24m
 深さ 0.10~0.04m
 遺物 土師器1片・近世磁器1片を含む。
 所見 溝底部が僅かに残存する。並行して同じ埋土で埋まる91号溝が走る。



第152図 鳥山下9区91・92号溝実測図

93号溝(図153、P L43)

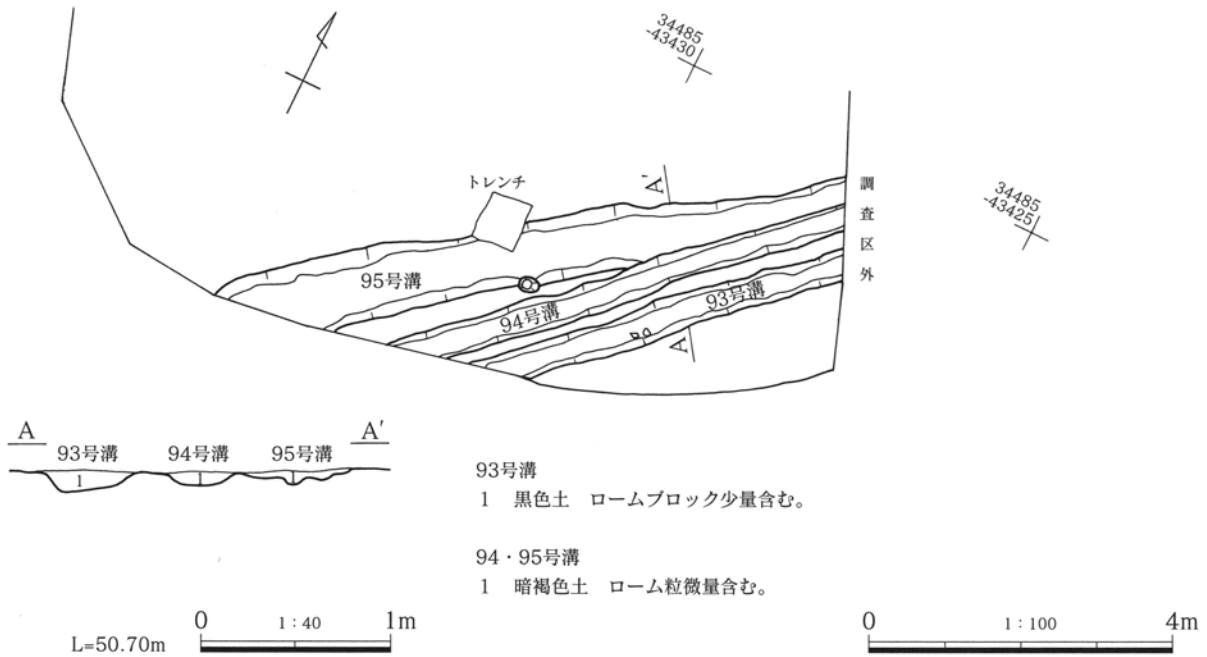
位置 10区X=34479~83, Y=-43427~30
 重複 なし
 走向 北東から南西(N-46° - E)
 形態 ほぼ直線で、断面形は浅い逆台形を呈する。底面は細かい凹凸をもつ。
 規模 検出全長 2.14m
 上幅 0.48~0.36m
 底幅 0.30~0.17m
 深さ 0.17~0.03m
 遺物 須恵器1片。
 所見 削平が激しく僅かに残存。同規模の94号溝が30cmほどの間隔で並行に延びる。

94号溝(図153、P L43)

位置 10区X=34479~84, Y=-43427~31
 重複 95号溝。新旧関係不明。
 走向 南西から北東(N-46° - E)
 形態 ほぼ直線で、断面形は浅い逆台形を呈する。
 規模 検出全長 64.00m
 上幅 0.50~0.36m
 底幅 0.36~0.16m
 深さ 0.12~0.04m
 遺物 なし。
 所見 削平が激しく僅かに残存。同規模の94号溝が30cmほどの間隔で並行に延びる。埋土は95号溝と同一である。

4. 時期不明の遺構・遺物

95号溝(図153、P L43) 上幅 0.96~0.75m
 位置 10区X=34479~84, Y=-43427~34 底幅 0.64~0.48m
 重複 94号溝。新旧関係不明。 深さ 0.13~0.05m
 走向 北東から南西(N-55° - E) 遺物 土師器3片。
 形態 ほぼ直線で、断面形は皿状を呈する。 所見 東壁付近ではより残存状況が悪い。
 規模 検出全長 8.50m



第153図 鳥山下10区93~95号溝実測図

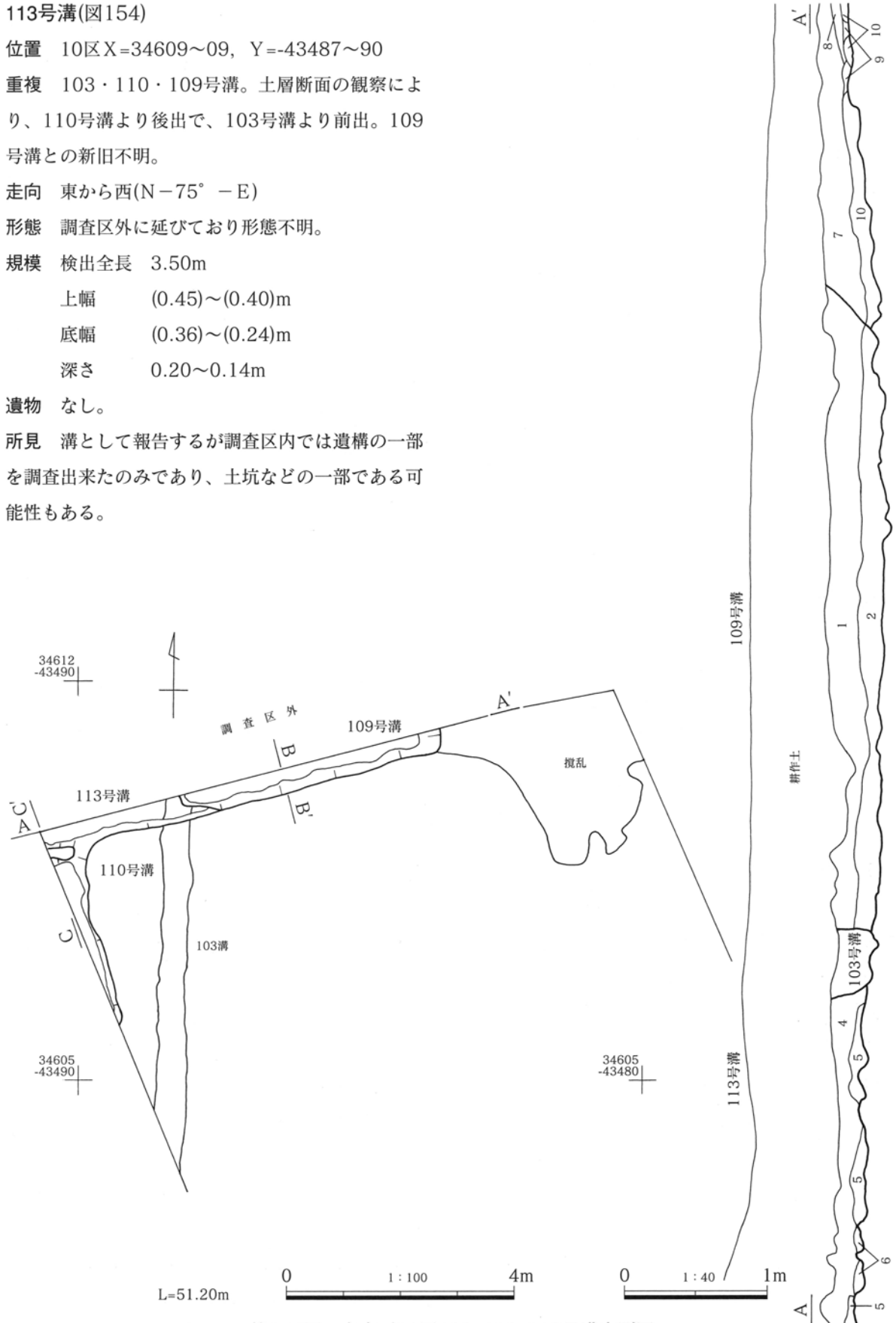
109号溝(図154・155、P L43)
 位置 10区X=34609~10, Y=-43483~88
 重複 103・113号溝。土層断面の観察により103号溝より前出。113号溝との新旧関係不明。
 走向 西から東(N-76° - E)
 形態 調査区外に延びるため形状不明。
 規模 検出全長 4.74m
 上幅 (0.44)~(0.32)m
 底幅 (0.28)~(0.13)m
 深さ 0.31~0.23m
 遺物 なし。
 所見 溝として報告するが、調査区内では遺構の一部を調査できたのみであり、土坑などの一部である可能性もある。

110号溝(図154・155、P L43)
 位置 10区X=34605~09, Y=-43489~90
 重複 113号溝。土層断面の観察により、110号溝が前出。
 走向 南から北(N-22° - W)
 形態 調査区外に延びており、形態不明。
 規模 検出全長 3.64m
 上幅 (0.50)~(0.24)m
 底幅 (0.35)~(0.08)m
 深さ 0.15~0.10m
 遺物 なし。
 所見 溝として報告するが、調査区内では遺構の一部を調査できたのみであり、土坑などの一部である可能性もある。

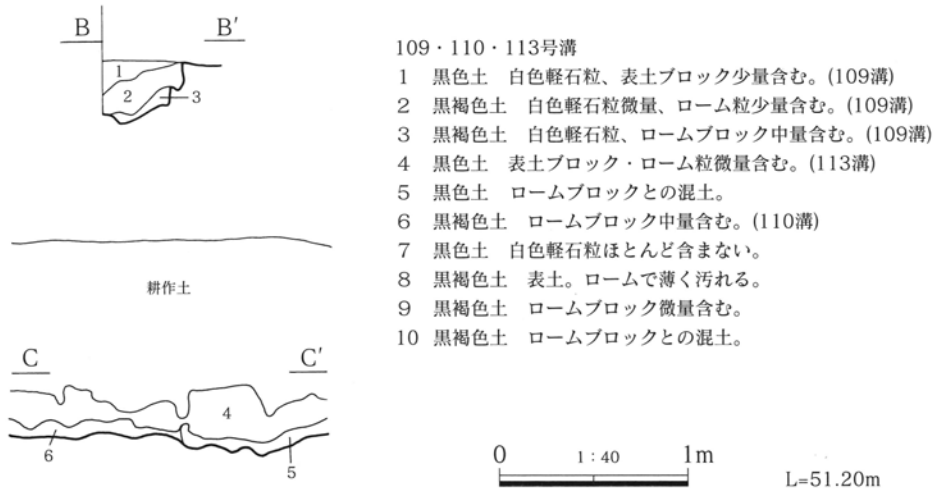
V 鳥山下遺跡の遺構と遺物

113号溝(図154)

位置 10区 X=34609~09, Y=-43487~90
 重複 103・110・109号溝。土層断面の観察により、110号溝より後出で、103号溝より前出。109号溝との新旧不明。
 走向 東から西(N-75° - E)
 形態 調査区外に延びており形態不明。
 規模 検出全長 3.50m
 上幅 (0.45)~(0.40)m
 底幅 (0.36)~(0.24)m
 深さ 0.20~0.14m
 遺物 なし。
 所見 溝として報告するが調査区内では遺構の一部を調査出来たのみであり、土坑などの一部である可能性もある。



第154図 鳥山下10区109・110・113号溝実測図



第155図 鳥山下10区109・110号溝実測図

116号溝 (図156)

位置 10区 X=34424~31, Y=-43411~13

重複 486号土坑。新旧不明。

走向 ほぼ平坦(N-11°-W)

形態 ほぼ直線で、断面形は浅い椀状を呈する。

規模 検出全長 7.40m

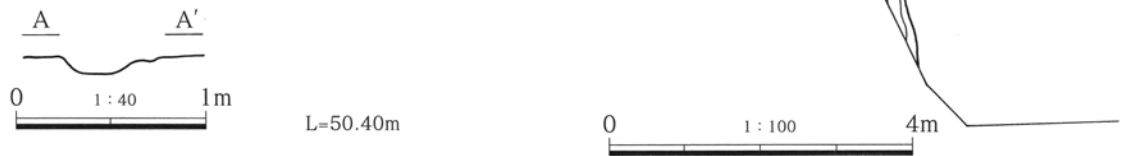
上幅 0.43~0.30m

底幅 0.23~0.14m

深さ 0.08~0.07m

遺物 なし。

所見 調査区南端より7m程残存する。確認された北端部以北は、本溝の延長方向に延びる掘削機械による攪乱溝。機械による掘削時の地割りになっていた可能性が高い。



第156図 鳥山下10区116号溝実測図

5. 遺構外出土遺物

鳥山下遺跡で出土した遺構に伴わない遺物を時代別に報告する。なお、旧石器、弥生時代の明らかな遺物は確認されていない。

(1) 縄文時代 (図157・158、P L51・52)

縄文時代の遺構は確認されていないが、中期を中心に数十点の遺物が出土した。1～8は中期の土器である。表面が著しく摩滅している土器が多い。石器も両端部を欠くが9の尖頭器が出土している。本遺跡地は台地の西側縁辺部に位置することから、台地上に集落等の存在する可能性が考えられる。

(2) 古墳時代

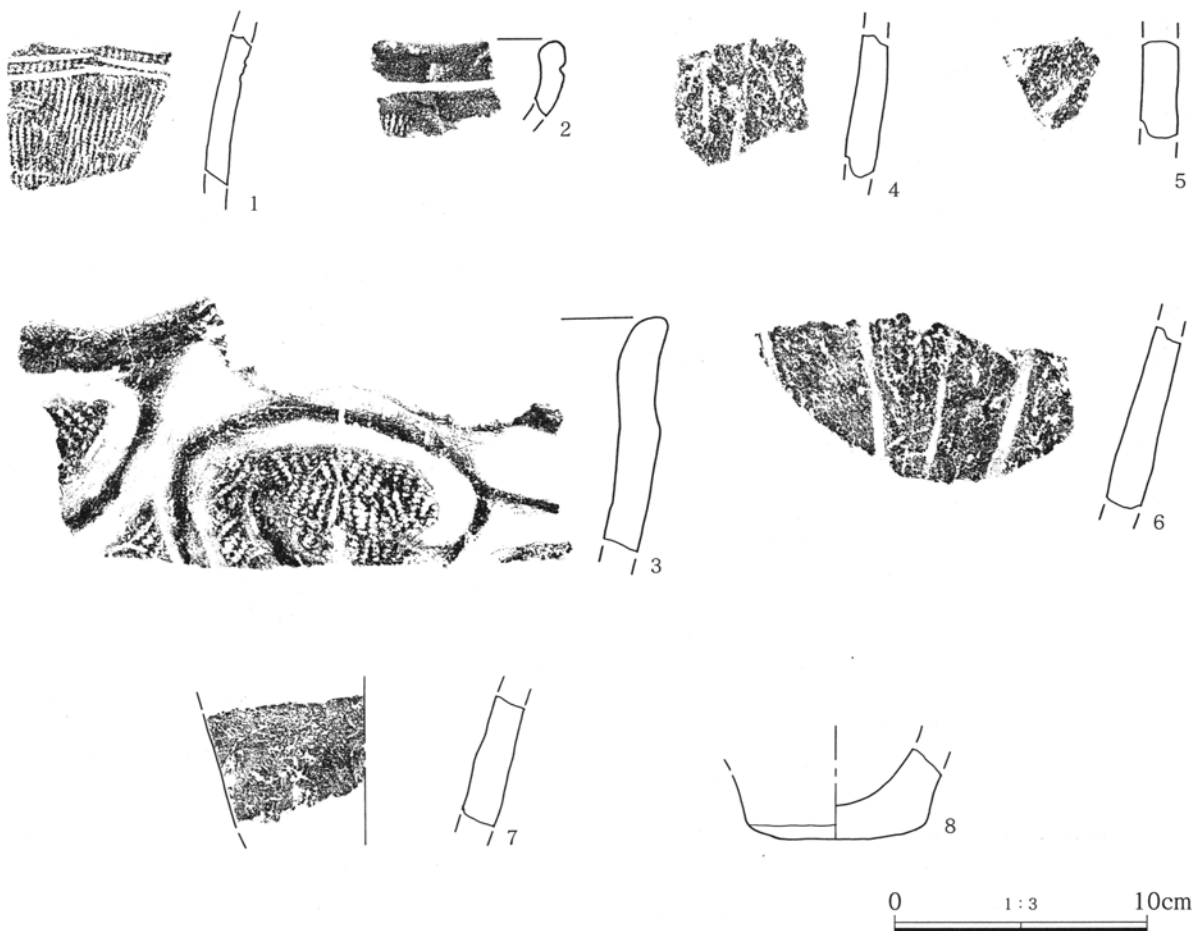
明らかに古墳時代のものと判別出来る遺物は極少ない。前期のものが若干出土しているが、小破片が多く図化できるものはない。

(3) 奈良・平安時代 (図159・160、P L52)

土師器の坏・甕、酸化・還元炎焼成須恵器の坏・碗・壺・鉢などが見られる。検出された集落の主たる年代である8世紀から10世紀の遺物が主体を占める。

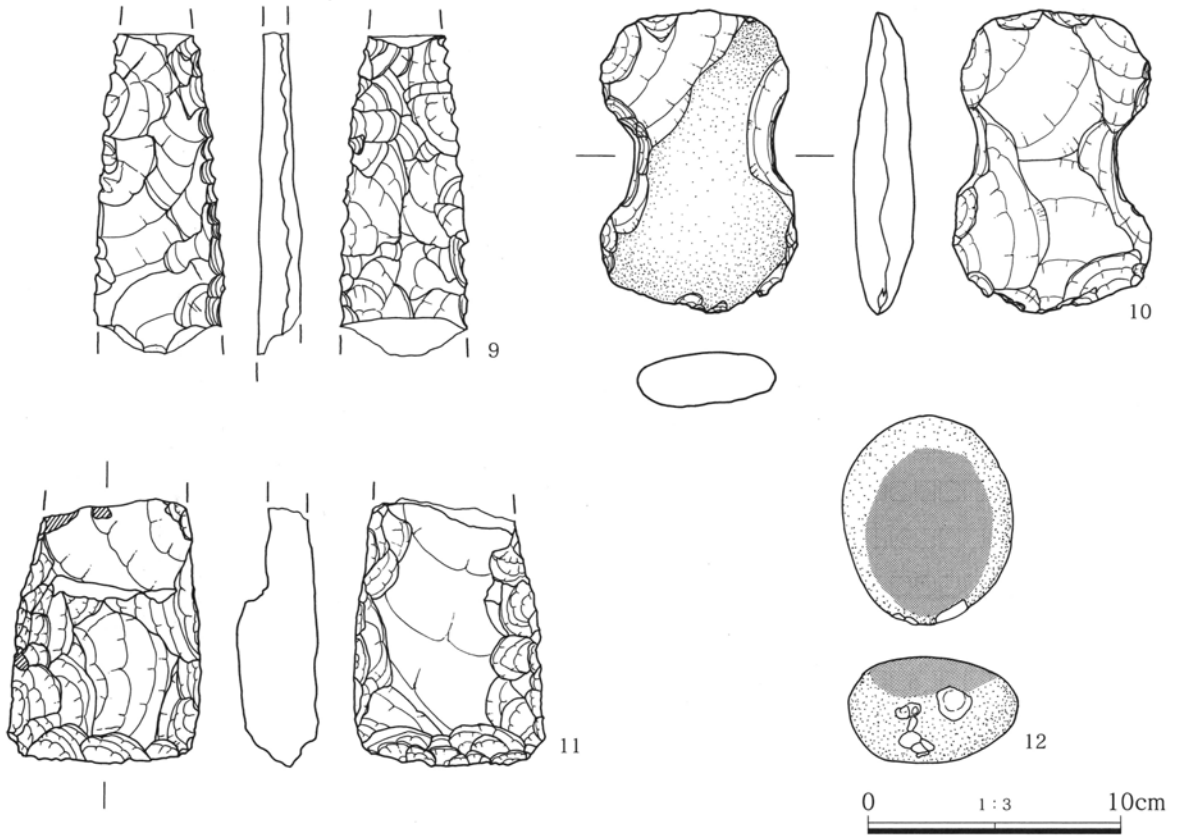
(4) 中世以降 (図161、P L51・52)

中世の焼き締め陶器、近世の陶磁器・軟質陶器、近現代の陶磁器・瓦、古銭などが出土している。

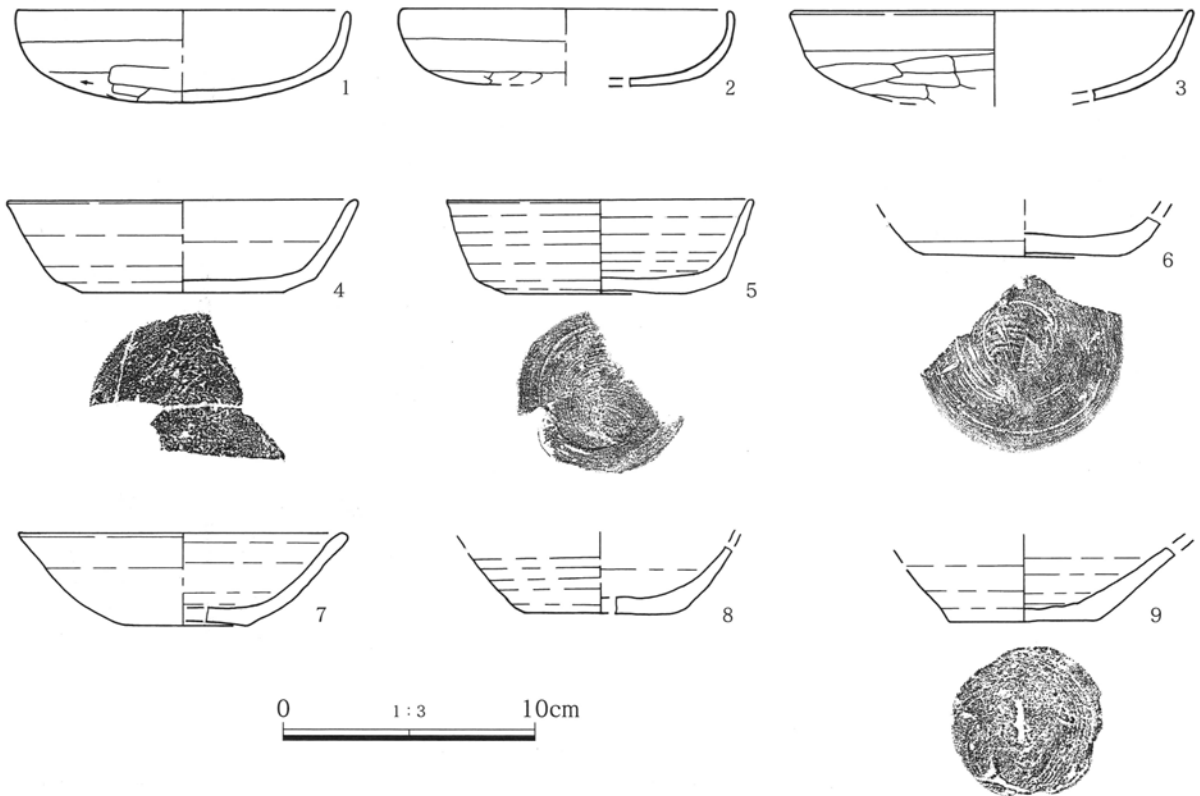


第157図 鳥山下9・10区遺構外出土遺物実測図(1)

5. 遺構外出土遺物

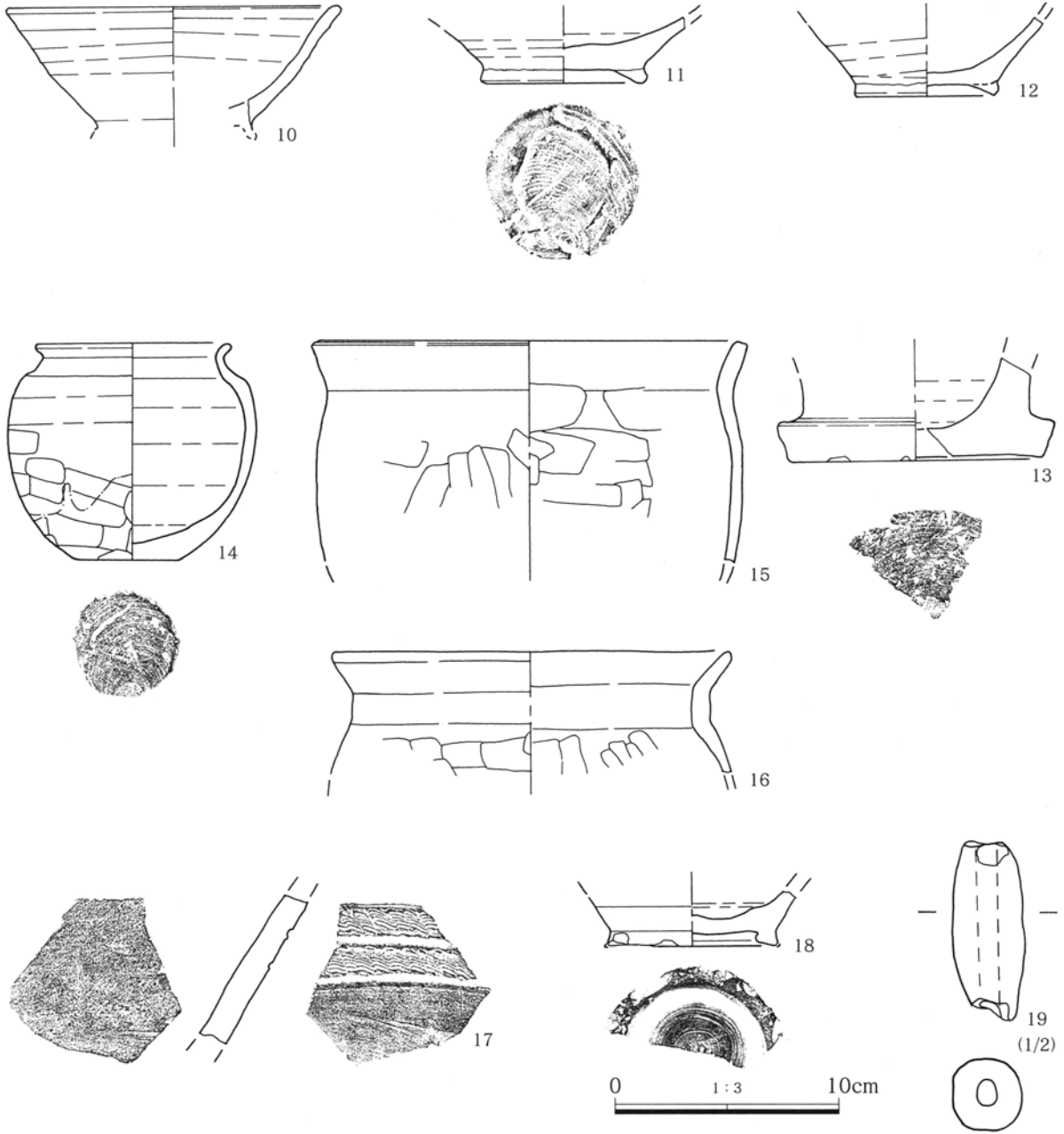


第158図 鳥山下9・10区遺構外出土遺物実測図(2)

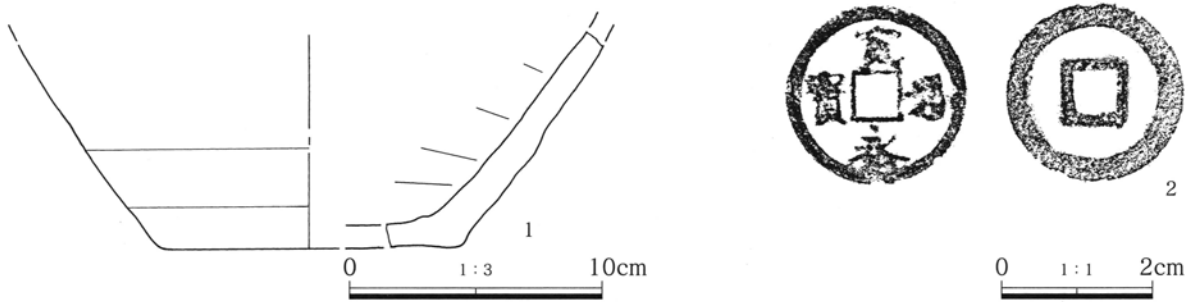


第159図 鳥山下9・10区遺構外出土遺物実測図(3)

V 鳥山下遺跡の遺構と遺物



第160図 鳥山下9・10区遺構外出土遺物実測図(4)



第161図 鳥山下9・10区遺構外出土遺物実測図(5)

VI 自然科学分析

1. 住居跡出土木材の樹種

三村 昌史(パレオ・ラボ)

太田市に位置する年保遺跡では古墳時代に相当する竪穴住居跡が検出され、2区9号住居から1点、3区12号住居から2点それぞれ柱材の可能性のある木材が柱穴から出土をみた。このたび上記の計3点の木材について構成樹種の調査を行った。

方法

出土材から横断面・放射断面・接線断面の3断面について剃刀を用いて切り取り、ガムクロラール(アラビアゴム・抱水クロラール・グリセリン・蒸留水を混合したもの)で封入してプレパラートを作成した。検鏡は光学顕微鏡にて40-400倍で行い、現生標本との対照により同定を行った。

結果および考察

試料は乾燥していたものの、材組織は収縮しておらず比較的よく保存されていた。樹種同定の結果、3点の出土木材中には計2分類群が認められた(表1)。次に検出された分類群の解剖学的記載を行うと共に写真図版を付して同定の根拠とし、また日本における分布・生態について簡潔に述べる。

1. コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus*(ブナ科) 写真図版1a~1c

年輪の始めに大型(直径約150-300 μ m)の丸い道管が単独で1-2列に並び、晩材では小型(直径約20-50 μ m)でやや角張った道管が火炎状に配列する環孔材。木部柔組織はいびつな接線状で1-2列。道管の穿孔は単一で、道管内部にはチロースが著しい。放射組織は単列同性であるが、大型の複合放射組織が混在する。道管と放射柔細胞との壁孔は対列状、または柵状。

コナラ節には温帯下部~暖温帯に分布するコナラ *Quercus serrata* Thunb. ex Murray、温帯上部にかけて分布するミズナラ *Quercus crispula* Blume 主に暖温帯の沿海地に多いカシワ *Quercus dentata* Thunb. ex Murray、暖温帯に点在して分布するナラガシワ *Quercus aliena* Blume などが含まれる。

2. クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops*(ブナ科) 写真図版2a~2c

大型(直径約200-300 μ m)の丸い導管が単独で1-数列ならび、そこから径を減じていき、年輪界付近では丸く厚壁の小導管(直径約15-30 μ m)が単独で放射方向に配列する環孔材。木部柔細胞は数列の束になって、まばらな帯状に分布する。導管の内腔にはチロースが認められる。導管の穿孔は単一。放射組織は同性で、単列のものに複合放射組織を交える。道管と放射組織との壁孔は柵状。

クヌギ節にはクヌギ *Quercus acutissima* Carruthers、アベマキ *Quercus variabilis* Blume が含まれる。いずれも暖温帯の向陽地に多くみられる、高木になる落葉広葉樹である。現在の植物分布から考えればクヌギ節の母植物がアベマキである可能性は考えにくい。

群馬県内において、古墳時代における住居構築材と考えられる生材あるいは焼失住居跡の炭化材の樹種同定はこれまでに多くの例があり(例えば、山内 1983; 千野 1984; パリノ・サーヴェイ株式会社 1989,1992a;

VI 自然科学分析

能城・鈴木 1988; 藤根・鈴木 1993; 金原 1994; 高橋・田中 1996)、用材としてはモミ属やオニグルミなども認められるものの、圧倒的にクスギ節とコナラ節が多いことが明らかとなっている。柱根については住居跡から検出されることが少ないために類例は少ないが、新田東部遺跡群では多くの柱根が出土している(パリノ・サーヴェイ株式会社 2000)。それによると、古墳時代に該当する住居の柱根には同様にクスギ節・コナラ節が多く、モミ属なども一部に認められる。したがって、この地域の住居構築材はクスギ節・コナラ節を中心として展開されていると指摘でき、本遺跡で出土した柱根の用材もこれに調和的である。検出されたコナラ節およびクスギ節は古墳時代における周辺の諸遺跡においても木製品にしばしば見出されており、クスギ節は特に多用されている(例えば、鈴木・能城 1986; 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990; 藤根 1992; 藤根・鈴木 1993)。クスギ節およびコナラ節が用いられている製品は様々なものに及ぶが、鋤や鋤など強度を要求される製品には多く見出されており、これはクスギ節およびコナラ節が硬く強度を有する材として認識されていたことを示していると想定され、そのような材質への着目のもとに今回検出された木材にもコナラ節やクスギが用いられていた可能性が高いとみられる。

比較的近隣の遺跡における花粉分析結果では、いずれもコナラ亜属(コナラ節とクスギ節からなる)が優占する古植生が示されており(徳永 1982; パリノ・サーヴェイ株式会社1992b; 藤根・鈴木 1993)、コナラ節やクスギ節といった樹種は周辺に普通に生育しており、入手しやすい材であったものと考えられる。

また、仮になんら腐食を受けず原形をとどめているとするならば、出土木材はいずれも幅が概して5 cm程度と柱穴の支柱であるには径が小さい面があり、材組織は比較的保存が良好であったことから乾燥の際それほど収縮したとは考えにくいので、補強材などの可能性もあり得ると推測される。

表1. 年保遺跡住居跡出土木材の樹種同定結果

No.	調査区・機構	樹種	長・幅・	木取り
325	2区9号住居区	コナラ節	16.8 5.5 6.1	芯持
326	3区12号住居区	クスギ節	39.1 4.2 5.4	芯持
327	3区12号住居区	コナラ節	45.1 6.7 5.9	芯持

引用文献

- 藤根久・鈴木茂(1993) 元総社寺田遺跡出土材の樹種構成と周辺植生. 群馬県埋蔵文化財調査事業団「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第167集 元総社寺田遺跡II《木器編》」135-185
- 千野裕道(1984) 御正作遺跡より出土した木質遺存体の樹種について. 大泉町教育委員会「御正作遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書」402-403
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1990)「一級河川染谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊 溝・井戸・河川跡・水田・畠の調査 新保田中村前遺跡I《遺物観察表編》」138p.
- 金原明(1994) 炭化材の分析. 群馬県安中市教育委員会「中野谷地区遺跡群—自然科学編—」79-84
- パリノ・サーヴェイ株式会社(1986) 自然科学分析. 渋川市教育委員会・群馬県教育委員会・日本道路公団「中村遺跡—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書(KC-Ⅲ)—」
- パリノ・サーヴェイ株式会社(1992a) 前畑遺跡出土材同定報告. 「関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 前畑遺跡・内出I遺跡・丹生城西遺跡・五分一遺跡・千足遺跡」307-310
- パリノ・サーヴェイ株式会社(1992b) 二之宮千足遺跡の古環境解析. 建設省・群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団「群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第125集 二之宮千足遺跡(自然科学・分析編)」61-111
- パリノ・サーヴェイ株式会社(2000) 樹種同定その他の分析. 新田町教育委員会・群馬県企業局「新田東部遺跡群II—新田東部工業団地造成に伴う発掘調査報告書—〔第3分冊〕」1147-1177
- 藤根久(1992) 二之宮千足遺跡出土材の樹種. 建設省・群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(自然科学・分析編) 二之宮千足遺跡」30-49
- 藤根久・鈴木茂(1993) 元総社寺田遺跡出土材の樹種構成と周辺植生. 群馬県埋蔵文化財調査事業団「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第167集 元総社寺田遺跡II《木器編》」135-185
- 鈴木三男・能城修一(1986) 新保遺跡出土加工材の樹種. 群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団「新保遺跡I 弥生・古墳時代大溝編<本文編>」71-94
- 高橋敦・田中義史(1996) 北町遺跡から出土した炭化材・種実遺体の同定. 北橋村教育委員会「北橋村埋蔵文化財発掘調査報告書第18集 北町遺跡・田ノ保遺跡—平成5・6年度主要地方道渋川・大胡線特殊改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—」347-355
- 徳永重元(1982) 日高遺跡の花粉分析. 群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団「日高遺跡—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集—」349-360

2. 鳥山下遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで年代が不明な土層が検出された前沖遺跡においても、地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、採取された試料を対象にテフラ検出分析と屈折率測定を行って示標テフラの検出を試み、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、10区深掘トレンチである。

2. 土層の層序

10区深掘トレンチでは、下位より灰色砂礫層(層厚40cm以上、礫の最大径118mm)、灰色砂層(層厚10cm)、灰色シルト質砂層(層厚8cm)、灰色砂混じりシルト層(層厚18cm)、灰褐色粘土質シルト層(層厚5cm)、成層したテフラ層(層厚13cm)、黄灰色粘土質シルト層(層厚13cm)、灰色シルト層(層厚18cm)、黒灰色土(層厚19cm)、暗灰色土(層厚35cm)、盛土(層厚46cm)が認められる(図1)。

これらのうち成層したテフラ層は、下部の黄色細粒軽石混じり灰色粗粒火山灰層(層厚10cm、軽石の最大径2mm)と、上部の桃色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)からなる。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

成層したテフラ層の下部と、それより下位の堆積物から採取された試料のうちの合計6点について、示標テフラの検出同定を行うためにテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を記載。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。この地点では軽石は検出されず、試料7と試料5で火山ガラスが認められた。試料5には、無色透明のバブル型ガラスがごく少量含まれている。試料1には、無色透明の軽石型ガラスが少量含まれている。この試料にはほかに、斜長石が多く含まれている。試料5の無色透明のバブル型ガラスについては、非常に量が少なく、2次的に混在した粒子の可能性が高いと思われる。なお試料3には、比較的多くの自形の斜方輝石が認められる。

VI 自然科学分析

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定精度を向上させるために、試料1について温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)によりテフラ粒子の屈折率測定を行った。また、自形の斜方輝石が比較的多く含まれている試料3についても測定を試みた。

(2) 屈折率測定結果

成層したテフラ層の下部(試料1)に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.502-1.505である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.707-1.711である。また試料3に含まれる重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石、角閃石、黒雲母がごく少量含まれている。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.706-1.710である。

5. 考察—示標テフラとの同定

成層したテフラ層は、層相、火山ガラスの形態や屈折率、重鉱物の組み合わせ、斜方輝石の屈折率などから、約1.3~1.4万年前*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に同定される。その下位の試料3に含まれる斜方輝石については、その層位や斜方輝石の屈折率などから、約3.1~3.2万年前に赤城火山から噴出した赤城鹿沼軽石(Ag-KP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)や、約1.9~2.4万年前*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 早田, 1996など)に由来する可能性が考えられる。この斜方輝石については、その産状などから2次的に混入しており、本来の降灰層準にはないものと推定される。同じように考えられる試料5に含まれる無色透明のバブル型ガラスについては、その色調や形態などから、約2.4~2.5万年前*1に始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995)に由来すると思われる。以上のことから、本地点においては、前沖遺跡の基盤にあたる水成層は、少なくともAs-YP降灰より前に離水していると考えられる。

6. 小結

前沖遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前*1)を検出することができた。このことから、前沖遺跡の基盤に相当する水成層は、As-YP降灰より前に離水した可能性が指摘される。

*1 放射性炭素(14C)年代。

文献

- 新井房夫(1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要, 自然科学編, 10, p.1-79.
新井房夫(1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
新井房夫(1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.13 8-148.
池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫(1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による14C年代. 第四紀研究, 34, p.377-379.
町田 洋・新井房夫(1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義. 科学, 46, p.339-347.
町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987) 始良Tn火山灰(AT)の14C年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.
村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993) 四国沖ピストンコア試料を用いた AT火山灰噴出年代の再検討—タンデム加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代. 地質雑, 99, p.787-798.
早田 勉(1996) 関東地方~東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

2. 鳥山下遺跡の火山灰分析

表1 10区深掘トレンチにおけるテフラ検出分析結果

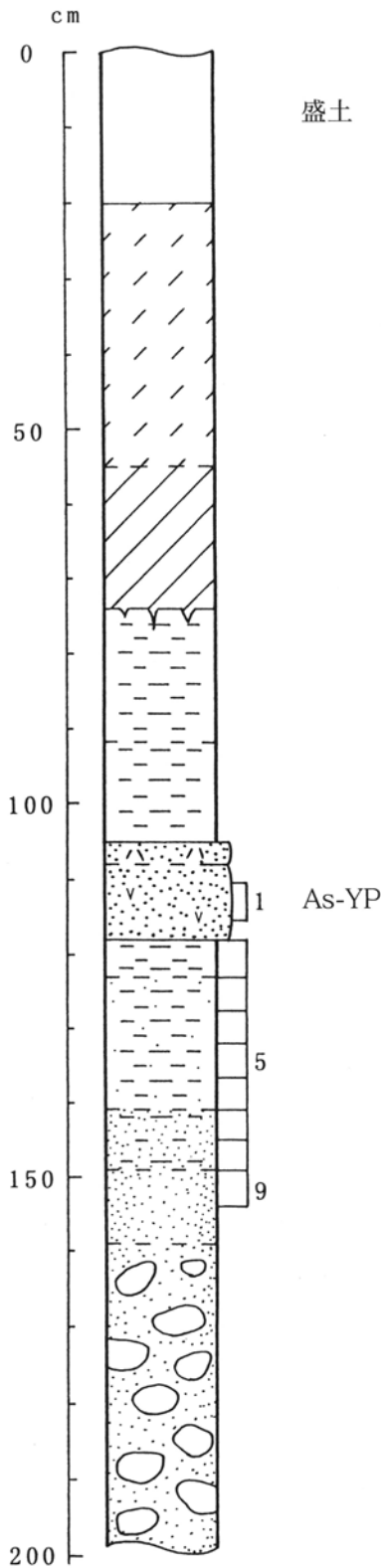
試料	軽石			火山ガラス		
	量	色調	最大径	量	形態	色調
1	-	-	-	+	pm	透明
2	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	+	bw	透明
7	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm.

表2 10区深掘トレンチにおける屈折率測定結果

試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)
1	1.502-1.505	opx>cpx	1.707-1.711
3	-	(opx,cpx,ho,bi)	1.706-1.710

屈折率の測定は, 温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) による. opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 角閃石, bi: 黒雲母. 重鉱物の () は, 量が少ないことを示す.



-  軽石
-  粗粒火山灰
-  粉粒火山灰
-  黒灰色土
-  暗灰色土
-  礫
-  砂
-  シルト

図1 10区深掘トレンチの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

3. 前沖遺跡における植物珪酸体分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山, 2000)。

2. 試料

分析試料は、10区深掘トレンチから採取された4点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10⁻⁵g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。ネザサ節の換算係数は0.48、クマザサ属(チシマザサ節・チマキザサ節)は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

(1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科-タケ亜科]

ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型(チシマザサ節やチマキザサ節など)、ミヤコザサ節型(おもにクマザサ属ミヤコザサ節)、未分類等

〔イネ科—その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

(2)植物珪酸体の検出状況

As-YPの上位層(試料1、2)および下位層(試料3、4)について分析を行った。その結果、As-YPの下層(試料4)ではミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。As-YP直下層(試料3)では、ミヤコザサ節型が増加しており、クマザサ属型も出現している。As-YP直上層(試料2)では、クマザサ属型やミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。As-YPの上層(試料1)では、各分類群とも増加している。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねミヤコザサ節型が優勢であることが分かる。

5. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3-1.4万年前)の上下層の堆積当時は、クマザサ属ミヤコザサ節などのササ類を主体としたイネ科植生であったと考えられ、比較的乾燥した環境であったと推定される。タケ亜科のうち、メダケ属は温暖、クマザサ属は寒冷の指標とされており、メダケ率(両者の推定生産量の比率)の変遷は、地球規模の氷期-間氷期サイクルの変動と一致することが知られている(杉山, 2001)。ここではクマザサ属が優勢であることから、当時は比較的寒冷な気候条件であったと推定される。

表1 群馬県鳥山下遺跡における植物珪酸体分析結果
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料			
		10区深掘トレンチ			
		1	2	3	4
イネ科	Gramineae(Grasses)				
タケ亜科	Bambusoideae(Bamboo)				
ネザサ節型	<i>Pleiblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>				7
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	30	7	15	
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	75	30	143	45
未分類等	Others	15	7	30	7
その他のイネ科	Others				
表皮毛起源	Husk hair origin				7
棒状珪酸体	Rod-shaped	15	7		7
未分類等	Others	98	45	23	22
植物珪酸体総数	Total	234	97	211	97

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

ネザサ節型	<i>Pleiblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>				0.04
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	0.23	0.06	0.11	
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	0.23	0.09	0.43	0.13

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleiblastus</i> sect. <i>Medake</i>				
ネザサ節型	<i>Pleiblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>				21
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	50	38	21	
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	50	62	79	79

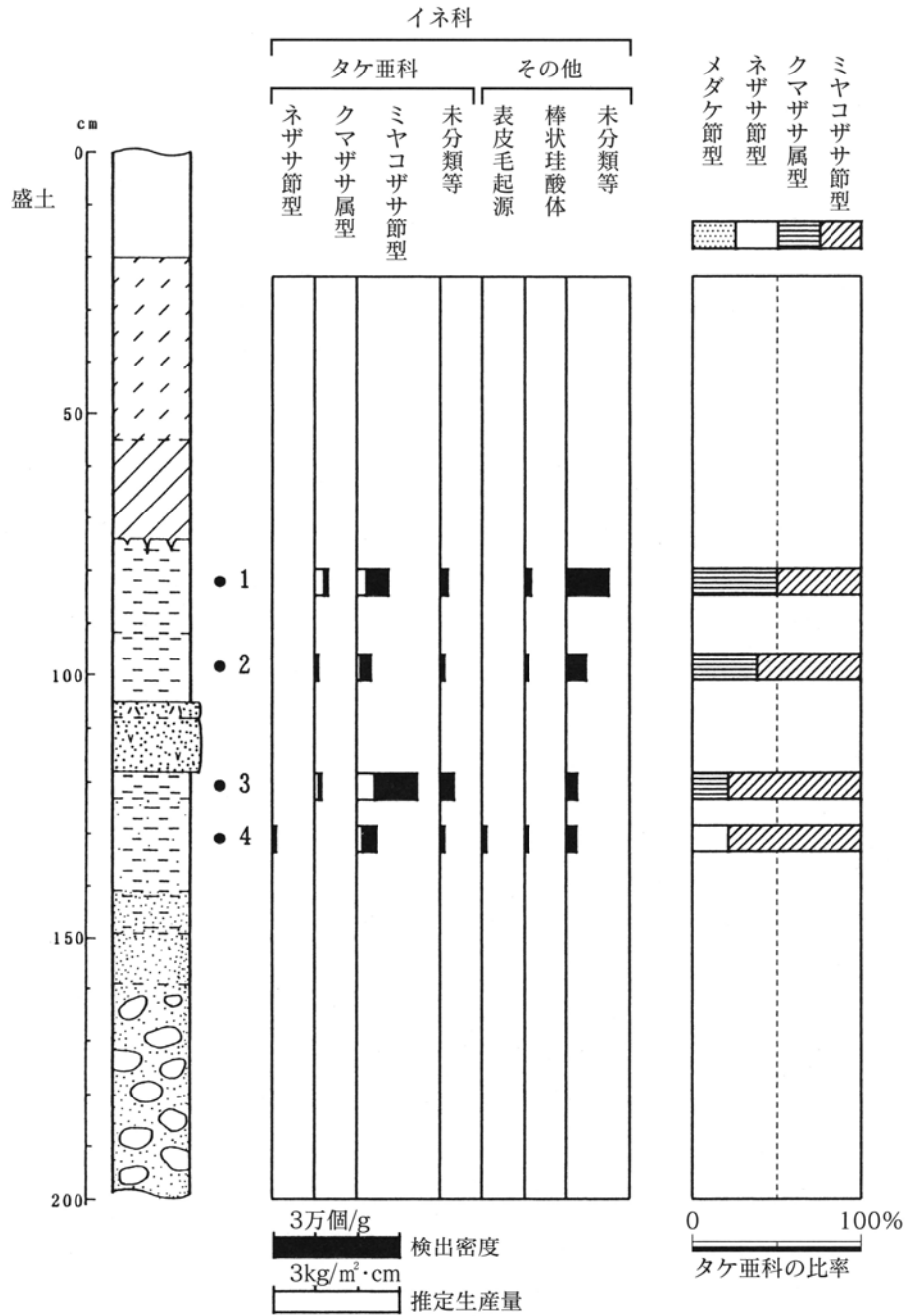


図1 前沖遺跡、10区深掘トレンチにおける植物珪酸体分析結果

文献

杉山真二(1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.

杉山真二(2000) 植物珪酸体(プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.

杉山真二(2001) テフラと植物珪酸体分析. 月刊地球, 23: 645-650.

藤原宏志(1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

4. 鳥山下遺跡における珪藻分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映していることから、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

2. 試料

分析試料は、10区深掘トレンチから採取された4点である。これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

3. 方法

以下の手順で珪藻を抽出し、プレパラートを作成した。

- 1) 試料から乾燥重量 1 g を秤量
- 2) 10%過酸化水素水を加え、加温しながら 1 晩放置
- 3) 上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗
- 4) 残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥
- 5) マウントメディアによって封入し、プレパラート作成
- 6) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600~1000倍で行った。計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

4. 結果および考察

分析の結果、試料 1 から陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys* が 1 個検出されたが、その他の試料からは珪藻は検出されなかった。珪藻が検出されない原因としては、珪藻の生育に適さない比較的乾燥した堆積環境であったことなどが考えられる。

表 1 鳥山下遺跡における珪藻分析結果

分類群	10区深掘トレンチ			
	試料 1	試料 2	試料 3	試料 4
貧塩性種(淡水生種)				
<i>Hantzschia amphioxys</i>	1			
合計	1	0	0	0
未同定	0	0	0	0
破片	0	0	0	0
試料 1 cm ³ 中の殻数密度	2.0	—	—	—
	×10 ²			
完形殻保存率 (%)	100.0	—	—	—

文献

- 小杉正人(1986) 陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—。植生史研究, 第 1 号, 植生史研究会, p.29-44.
 小杉正人(1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用。第四紀研究, 27, p.1-20.
 伊藤良永・堀内誠示(1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用。珪藻学会誌, 6, p.23-45.

VII まとめ

1. 年保遺跡

年保遺跡は現水田下に検出された遺跡である。発掘調査結果及びそれに先立つ試掘資料から1区の南と2・3区北側で低地となる島状の微高地上の遺跡である可能性が高い。検出できた遺構の主体は古墳時代後期の住居跡及び井戸等であることから同時期の集落遺跡と考えられる。

遺跡地周辺には同時期の群集墳が多く、かつて年保地内から現在東京国立博物館が収蔵する人物埴輪が出土していた。本調査によって、古墳自体の検出は無かったが、沖積低地内の微高地にも古墳時代後期の集落が営まれていたことが明らかとなった。ただ、調査区が道路の拡幅部分にあたるため遺跡の調査範囲が狭く、また遺構の残存状況が良好でなかったため、古墳時代前期の可能性のある住居跡1軒が存在するものの明確な古代以降の遺構も検出できなかった。従って本遺跡を古墳時代後期に限定した集落と考えて良いものか疑問も残る。近世の絵図によれば本遺跡地周辺は既に水田となっていることから、いずれかの時期から生産域となっていたはずだが、その時期的な変遷は明確に出来なかった。

2. 鳥山下遺跡

鳥山下遺跡は大間々扇状地の西南端に突き出した微高地の西端にあたる緩やかな傾斜地に立地する遺跡である。

確実な遺構は確認できなかったが縄文時代中期の土器片が遺構外から出土しており、また古墳時代前期の住居跡1軒が検出された。周辺の発掘調査及び遺物の分布調査の結果を考えあわせると、現在鳥山の集落が形成される微高地上に縄文時代中期及び古墳時代前期の集落が存在する可能性もある。

一方、本遺跡の中心をなすのが奈良・平安時代の遺構である。本時代の竪穴住居跡19軒及び掘立

柱建物跡4棟、井戸3基等の遺構が検出された。

この時期の遺構・遺物から3点ほど特筆されるものを取り上げてみる。

まず、大型の掘立柱建物跡の存在である。9・10区の南半に4棟の掘立柱建物跡を検出した。いずれも60~100cmの幅をもつ円形・方形の掘り方もち柱痕径20~30cmを測る。2棟は総柱構造の建物で倉庫と想定され、残る2棟は側柱構造の建物である。11号掘立柱建物跡では2間取りの南側梁の中柱を西にややずらしており、入り口のための工夫と考えられる。次に3基の井戸である。いずれも9・10世紀のもので集落営まれた時期と一致する。また、井戸からは完形に近い椀と共に耳皿や墨書土器が出土している。また、103号住居跡からは、残念ながら重複する中世の溝による攪拌を受けており確実に住居に伴う遺物とすることは出来ないが、円面硯の破片が出土している。

そのうち掘立柱建物跡群や円面硯は8世紀後半に推定される。こうした掘立柱群はその規模が比較的大規模であることから、本遺跡の北方2kmほどの所に所在する新田郡衙や東山道の推定地との関連も想定される。

更に、本遺跡では遺跡地中央付近にまともな中世のものと考えられる溝及び土坑が検出されている。本遺跡の東方400m程の微高地中央付近に中世鳥山氏に関連する館跡が存在することを考え合わせると、中世の本地域の景観を考える手がかりとなる可能性もある。

以上雑駁ながら、調査のまとめを行った。現在太田大間々線をはじめとして北関東自動車道に伴う発掘調査などが進められている。こうした成果によって、この地域の歴史がより明らかになることを期待して本稿のまとめとしたい。

年保遺跡遺物観察表

年保1区1号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第10図1 P L 15	土師器 甕	貯蔵穴 胴～底部片	口 - 底 5.2 高 (8.2)	①微砂粒少量 ②やや軟質 ③灰褐色	胴部外面へラ削り、内面へラナデ、底部は強いナデ。	外面器面の荒れ

年保1区4号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第15図1 P L 15	土師器 坏	+2 完形	口 13.4 底 - 高 4.9	①砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部内湾、底部丸底。口縁部横ナデ、底部へラ削り。	内外面壁面の荒れ
第15図2 P L 15	土師器 坏	-4 口縁部片	口 (12.0) 底 - 高 (4.0)	①微砂粒少量、褐色粒微量 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	口縁部やや内傾、底部扁平な丸底。口縁部横ナデ、底部へラ削り。	
第15図3 P L 15	土師器 坏	+12 口縁部片	口 (12.0) 底 - 高 (4.9)	①微砂粒、褐色粒微量 ②良好 ③橙色	口縁部外反気味に直立、底部丸底。口縁部横ナデ。底部へラ削り。	内面器面の荒れ
第15図4 P L 15	土師器 坏	+2 ほぼ完形	口 12.1 底 - 高 4.9	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部直立、口唇端部に平坦面。稜明瞭、底部丸底。口縁部横ナデ、底部へラ削り。	
第15図5 P L 15	土師器 坏	+12,15 ほぼ完形	口 12.4 低 - 高 5.2	①微砂粒、褐色粒微量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部直立、口唇端部に内斜する平坦面。稜明瞭、底部丸底。口縁部横ナデ、底部へラ削り。	
第15図6 P L 15	土師器 坏	床直 ほぼ完形	口 12.5 底 - 高 5.4	①微砂粒、褐色粒微量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部直立、口唇端部に内斜する平坦面。稜明瞭、底部丸底。口縁部横ナデ、底部へラ削り。	外面底部黒斑
第15図7 P L 15	土師器 坏	+13 口縁部片	口 (13.0) 底 - 高 (5.2)	①微砂粒、褐色粒微量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部直立、口唇端部に平坦面。稜明瞭、底部丸底。口縁部横ナデ、底部へラ削り。	外面底部黒斑
第15図8 P L 15	土師器 甕	床直 2/3	口 15.0 底 - 高 11.9	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③橙色	鉢状を呈し、底部単孔。口縁部横ナデ、胴部へラ削り、内面下半へラナデ。	外面胴部黒斑
第15図9 P L 15	土師器 甕	+1 口～胴部片	口 (23.0) 底 - 高 (12.4)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③内面 橙色 外面 にぶい黄褐色	口縁部緩やかに外反し、体部やや膨らむ。口縁部横ナデ、胴部上位ナデ、中位縦位のへラ削り、内面ナデ後縦位のへラ磨き。	外面粘土接合痕
第16図10 P L 15	土師器 小型甕	+1 1/2	口 (11.0) 底 - 高 (12.2)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部外反し、胴部は中位に張りをもつ。口縁部横ナデ、胴部上半横位下半斜位のへラ削り、内面ナデ。	外面壁面の荒れ
第16図11 P L 15	土師器 小型甕	+2 底部片	口 - 底 - 高 (4.7)	①微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	底部扁平な丸味をもつ。外面へラ削り、内面ナデ。	外面器面剥離
第16図12 P L 15	土師器 甕	床直,+10 2/3	口 20.0 底 - 高 (14.0)	①微砂粒、褐色粒少量 ②やや軟質 ③にぶい橙色	口縁部外反し、胴部は中位に張りをもつ。口縁部横ナデ、胴部斜位のへラ削り、内面ナデ後、口縁から胴部内外面やや粗いへラ磨き。	
第16図13 P L 15	土師器 甕	+1 口～胴部片	口 (14.4) 底 - 高 (10.8)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③灰白色	口縁部強く屈曲し、胴部やや張りを持つ。口縁部横ナデ後、胴部斜縦位のへラ削り、内面へラナデ。	口縁部粘土接合痕顕著
第16図14 P L 15	土師器 甕	+3 口縁部片	口 (25.0) 底 - 高 (7.4)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反。口縁部横ナデ、胴部斜位のへラ削り、内面横位のへラナデ。	外面壁面剥離
第16図15 P L 15	土師器 甕	床直 口縁部片	口 (16.2) 底 - 高 (7.5)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は「く」の字状に外反し胴部に張りをもつ。口縁部横ナデ、胴部横～斜位のへラ削り、内面ナデ。	

遺物観察表

年保1区5号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第18図1 P L 15	土師器 坏	+1 口縁部片	口 (13.2) 底 - 高 (4.5)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部外傾、稜やや明瞭。底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	内面器面剥離
第18図2 P L 15	土師器 坏	貯蔵穴 口縁部片	口 (13.6) 底 - 高 (4.3)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部直立し口唇端部にわずかな平坦面。稜は明瞭。底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	
第18図3 P L 15	土師器 甗	+4 底部片	口 - 底 5.0 高 3.0	①微砂粒少量 ②やや良好 ③灰黄褐色	底部平底。胴部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	内面黒斑
第18図4 P L 15	土製品 支脚	ピット3 破片	幅 (3.8) 高 (8.2)	①微砂粒、褐色粒少量 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	円柱状で下方裾広がり。下面は中央が凹む。外面はナデ状の整形痕。	側面粘土付着

年保1区6号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第19図1 P L 15	土師器 甗	+9 口～胴部片	口 (16.0) 底 - 高 (10.5)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部緩やかに外反し、体部やや膨らむ。口縁部横ナデ、胴部縦位のヘラ削り、内面ヘラナデ。	外面粘土接合痕
第19図2 P L 15	土師器 甗	+1 底部片	口 - 底 8.0 高 4.1	①細砂粒少量、褐色粒微量 ②良好 ③にぶい黄褐色	底部平底、僅かに肥厚。外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	外面黒斑

年保2区9号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第23図1 P L 16	土師器 坏	-3 口縁部片	口 (13.4) 底 - 高 (3.1)	①細砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部僅かに外傾。口唇端部に僅かな平坦面。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	
第23図2 P L 16	土師器 甗	貯蔵穴 底部片	口 - 底 6.0 高 (5.0)	①細砂粒少量 ②やや軟質 ③赤褐色	外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	外面黒斑内 外面器面の 荒れ
第23図3 P L 16	土師器 甗	+9 底部片	口 - 底 (9.0) 高 -	①微砂粒微量 ②良好 ③にぶい橙色	平底を呈し、胴部は強く張る。外面ヘラ削り。	内面器面剥離
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	樹種	器形・技法等の特徴	備考
第23図4 P L 16	木製品 柱材か?	ピット4	長 16.8 厚 6.1	幅 5.5 コナラ節	丸木材を用いる。僅かに平坦な面がみられ、加工の可能性はある。	

年保3区11号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第27図1 P L 16	土師器 坏	+9 口縁部片	口 (10.0) 底 - 高 (3.3)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部外反し、稜明瞭。口縁部横ナデ、底部外面ヘラ削り。	
第27図2 P L 16	土師器 坏	+1,2 ほぼ完形	口 11.7 底 - 高 5.2	①細砂粒、褐色粒やや多量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部ほぼ直立、底部扁平な丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り、内面ナデ後ヘラ磨き。	外面底部に 黒斑
第27図3 P L 16	土師器 坏	床直,+1,2 ほぼ完形	口 12.8 底 - 高 5.4	①細砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部直立、口唇端部に浅い凹線巡る。底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	
第27図4 P L 16	土師器 坏	+1 1/4	口 (12.5) 底 - 高 4.2	①微砂粒、褐色粒微量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部ほぼ直立、口唇端部に平坦面。底部扁平な丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	内面器面の 荒れ
第27図5 P L 16	土師器 坏	+4 口縁部片	口 (13.2) 底 - 高 (4.1)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部直立。稜明瞭、底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	内面器面の 荒れ

第27図6 P L 16	土師器 坏	+3 口～体部片	口 (10.0) 底 - 高 (5.4)	①細砂粒、褐色粒少量 ②やや軟質 ③にぶい橙色	口縁部外反し、体部やや膨らむ。口縁部横ナデ。	内外面器面の荒れ
第27図7 P L 16	土師器 甕	+5,7 底部片	口 - 底 (7.0) 高 -	①細砂粒やや多量 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	底部平底。内外面器面が荒れており整形痕不明瞭。	
第27図8 P L 16	土師器 高坏	+14 脚部片	口 - 底 - 高 -	①細砂粒、褐色粒少量 ②やや軟質 ③にぶい橙色	脚部は短く「ハ」の字状に開く。脚外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。	

年保3区12号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第29図1 P L 16	土師器 坏	+15 口縁部片	口 (13.0) 底 - 高 (3.5)	①微砂粒微量 ②良好 ③赤褐色	口縁部外傾、底部扁平な丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第29図2 P L 16	石製模造品 白玉	+1	径 0.8 孔径 0.3 頁岩 厚 0.25 重 0.12		表裏面ともに剥落している。	
第29図3 P L 16	石製模造品 白玉	+1	径 0.8 孔径 0.3 頁岩 厚 0.1 重 0.07		全て表裏面ともに剥落している。全体の大きさ及び孔の直径から見て、同じ個体から剥落した可能性が高い。	
第29図4 P L 16	石製模造品 白玉	+1	径 0.8 孔径 0.3 頁岩 厚 0.1 重 0.06			
第29図5 P L 16	石製模造品 白玉	+1	径 0.75 孔径 0.25 頁岩 厚 0.1 重 0.05			
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	樹種	器形・技法等の特徴	備考
第29図6 P L 16	木製品 柱材か?	ピット1	長 45.1 幅 6.7 厚 5.9	クスギ節	丸木材を用いる。	
第29図7 P L 16	木製品 柱材か?	ピット2	長 39.1 幅 4.2 厚 5.4	コナラ節	丸木材を用いる。僅かに平坦な面がみられ加工の可能性がある。	

年保3区14号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第34図1 P L 16	土師器 坏	+2 1/5	口 (13.2) 底 - 高 (5.5)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	端部直立する内斜口縁、底部～口縁にかけて丸味。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面ナデ後斜位のヘラ磨き。	
第34図2 P L 16	土師器 坏	-7,-5 口縁部片	口 (16.3) 底 - 高 (5.7)	①細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部内湾し、底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	内面器壁の荒れ
第34図3 P L 16	土師器 坏	-5,+1 1/4	口 (10.1) 底 - 高 6.9	①褐色粒含、微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部やや外反し、底部深い丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。	内外面黒斑
第34図4 P L 16	土師器 坏	+8 口縁部片	口 (10.4) 底 - 高 (6.2)	①細砂粒微量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁短く外傾、胴部やや膨らむ。口縁部横ナデ後、胴部内外面ヘラ磨き。	
第34図5 P L 16	土師器 坏	-4 底部片	口 - 底 - 高 (1.5)	①細砂粒微量 ②良好 ③橙色	底部丸底。外面ヘラ削り。内面ナデ後底部「X」字のヘラ描き、周辺横位のヘラ磨き。	外面底部黒斑
第34図6 P L 17	土師器 甕	床直,+3 ほぼ完形	口 23.4 底 9.4 高 28.5	①細砂粒少量 ②良好 ③灰白色	口縁外反、胴部弱く膨らむ。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後、縦位ヘラ磨き。内面ヘラ削り後、ヘラ磨き。粘土接合痕顕著。	外面胴部黒斑
第34図7 P L 17	土師器 甕	+2~13 ほぼ完形	口 21.5 底 9.3 高 29.3	①細砂粒、褐色粒多量 ②良好 ③橙色	口縁外反、胴部中位弱く膨らむ。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ナデ。内面ナデ後、下半密なヘラ磨き。	外面黒斑
第34図8 P L 17	土師器 小形甕	+11~13 1/2	口 (12.7) 底 - 高 (19.1)	①細砂粒多量、粗砂粒含 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部外反、胴部中位に張り。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ヘラ磨き。内面下半ヘラ削り、上半ヘラナデ、後ヘラ磨き。	外面黒斑

遺物観察表

第34図9 P L 17	土師器 甕	+6 口縁部片	口 (11.1) 底 - 高 (5.8)	①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	口縁弱く外反。口縁部横ナデ。内面、口縁・胴部接合痕顕著。	外面器面の荒れ
第34図10 P L 17	土師器 甕	+6 底部片	口 - 底 (3.8) 高 (3.6)	①細砂粒少量 ②良好 ③オリーブ黒色	胴部膨らむ。平底。外面ヘラ削り後ナデ、底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。	43-1 同一個体の可能性あり
第35図11 P L 17	土師器 甕	+6 口縁部片	口 (17.0) 底 - 高 (9.7)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁外反、胴部中位に張りを持つ。胴部ヘラ削り後口縁部横ナデ、内面ヘラナデ。	内面壁面の荒れ
第35図12 P L 17	土師器 甕	1,+2 口~胴部片	口 (22.2) 底 - 高 (18.4)	①細砂粒含 ②良好 ③にぶい橙色	口縁外傾、胴部膨らむ。口縁部横ナデ、胴部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	外面胴部黒斑
第35図13 P L 17	土師器 甕	床直,+2 口~胴部片	口 (18.4) 底 - 高 (19.2)	①細砂粒含、粗砂粒微量 ②良好 ③明赤褐色	口縁外反、胴部中位に張りをもつ。口縁部横ナデ後胴部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	内面器面の荒れ
第35図14 P L 17	土師器 甕	床直 口~胴部片	口 (14.0) 底 - 高 (17.8)	①細砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	口縁外反、胴部膨らむ。口縁部横ナデ、胴部斜縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	外面黒斑
第35図15 P L 17	土師器 甕	-5~+3 3/4	口 17.3 底 5.5 高 30.8	①細砂粒少量、粗砂粒微量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁外反、胴部中位に張り。口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラ削り。内面ナデ、粘土接合痕顕著。	内面カーボン付着
第36図16 P L 17	土師器 甕	-4~+4 1/4	口 (19.2) 底 - 高 (19.2)	①細砂粒含 ②良好 ③赤色	口縁外反、胴部中位弱く膨らむ。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面粘土接合痕顕著。	内外面器面の荒れ
第36図17 P L 17	土師器 甕	+1 胴~底部片	口 - 底 5.4 高 (11.6)	①細砂粒少量 ②やや軟質 ③赤褐色	胴部やや膨らむ。平底。胴部外面縦位ヘラ削り、内面ヘラナデ。	外面器面の荒れ
第36図18 P L 18	土師器 甕	+5~+8 口~胴部片	口 (16.8) 底 - 高 (22.1)	①細砂粒多量 ②良好 ③赤色	口縁外反、胴部中位に僅かに張り。口縁部横ナデ、胴部縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ、下位に粘土接合痕。	内外面カーボン付着
第36図19 P L 18	土師器 甕	+1 胴~底部片	口 - 底 5.2 高 (23.9)	①細砂粒含 ②良好 ③灰黄褐色	胴部中位僅かに張り、底部平底。胴部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ、粘土接合痕顕著。	外面カーボン付着
第36図20 P L 18	土師器 甕	+2 底部片	口 - 底 (5.4) 高 (7.3)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部弱く膨らむ。底部平底。胴部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。接合部分に刻目。	内外面器面の荒れ
第36図21 P L 18	土師器 甕	床直,+2 口~体部	口 (22.0) 底 - 高 (26.4)	①細砂粒、褐色粒多量 ②良好 ③橙	口縁外反、胴部球形状。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ナデ。内面ヘラナデ。	外面胴部黒斑
第37図22 P L 18	土師器 丸甕	-3~+4 3/4	口 (18.1) 底 - 高 (33.5)	①細砂粒含 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部外反、端部肥厚。胴部中位に張り。口縁部横ナデ後ヘラ磨き、胴部ヘラ削り後密なヘラ磨き。内面上半ナデ、上半ヘラ削り。下位に接合痕顕著。	
第37図23 P L 16	土師器 甕	+8 口縁部片	口 (26.0) 底 - 高 (9.0)	①細砂粒多量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁外反、口唇端部に弱い沈線。口縁部横ナデ後ヘラ磨き。内面横位ハケナデ。	外面黒斑
第37図24 P L 18	土製品 支脚	床直 ほぼ完形	幅 4.7 高 13.5	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	断面楕円形の円柱状。側面ナデ、指頭痕。	粘土付着

年保3区15号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第38図1 P L 18	土師器 坏	+10 口縁部片	口 14.0 底 - 高 (4.0)	①微砂粒微量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部外傾。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	内外面器面の荒れ
第38図2 P L 18	土師器 甕	+9 底部片	底 (3.6) 孔径(2.4) 高 (4.5)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部緩やかに立ち上がる。一孔。外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第38図3 P L 18	土師器 甕	+5 口縁部片	口 - 底 - 高 (6.0)	①微砂粒、褐色粒微量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部短く外傾。胴部縦位ヘラ削り後、口縁部横ナデ。内面口縁部密な横位のヘラ磨き。口縁部外面粘土接合痕顕著。	

第38図4 P L 18	土師器 台付甕か	+8~16 口縁部片	口 18.0 底 - 高 (1.8)	①細砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	S字状口縁、下段水平気味、上段外反。口縁部横ナテ後、ハケ目。	内面壁面の荒れ
第38図5 P L 18	土師器 壺	+9 口縁部片	口 (18.5) 底 - 高 (6.0)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部外反し、端部直立。口縁部外面横ナテ後、斜縦位ヘラ磨き。	内面器面剥離

年保3区16号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第39図1 P L 19	土師器 高坏	-3 脚部	口 - 底 - 高 (6.0)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	脚部上半は円筒形、裾部強く外反。外面密な縦位のヘラ磨き後接合部横位のハケナテ。内面絞り目。裾部に円形の透し2孔の痕跡。3孔を有するものと思われる。	
第39図2 P L 18	土師器 甕	-2 1/2	口 (16.0) 底 (6.0) 高 18.9	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部内湾気味に直立し、胴部上位に最大径。口縁部ナテ、胴部上半ナテ、下半斜位のヘラ削り。内面ヘラ削り後横位のヘラ磨き。	胴部外面カーボン付着
第39図3 P L 19	土師器 甕	-3~+4 頸~胴部片	口 (16.4) 底 - 高 (18.3)	①細砂粒、褐色粒少量 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	胴部球形状。頸部斜縦位、胴部斜位の細かいハケ目。胴部内面ヘラナテ。	内外面器面の荒れ
第39図4 P L 19	土師器 壺	+8,9 頸~肩部片	口 (14.0) 底 - 高 (5.0)	①細砂粒少量、砂粒微量 ②良好 ③にぶい橙色	外面粗い斜位のハケ目後、肩部に横位平行線。内面横位ヘラナテ、接合・指頭痕。	

年保3区18号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第42図1 P L 19	土師器 坏	-3 3/4	口 13.3 底 - 高 3.7	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁内傾、扁平な丸底。口縁部横ナテ、底部ヘラ削り。	内面黒斑
第42図2 P L 19	土師器 坏	竈 ほぼ完形	口 12.6 底 - 高 4.8	①細砂粒少量 ②良好 ③灰赤色	口縁内傾、稜明瞭。扁平な丸底。口縁部横ナテ。	外面底部磨耗
第42図3 P L 19	土師器 坏	+6 1/4	口 (13.2) 底 - 高 (4.8)	①細砂粒含 ②良好 ③にぶい褐色	口縁直立気味に外反、底部丸底。口縁部横ナテ、底部ヘラ削り。	
第42図4 P L 19	土師器 坏	床直~+12 ほぼ完形	口 13.4 底 - 高 4.9	①細砂粒少量 ②良好 ③灰白色	口縁直立気味に外反、扁平な丸底。口縁部横ナテ、底部ヘラ削り、内面ナテ後、体部内外面に不明瞭な磨き。	
第42図5 P L 19	土師器 坏	竈 ほぼ完形	口 12.0 底 - 高 4.5	①細砂粒少量、粗砂粒微量 ②良好 ③明赤褐色	口縁内傾、稜やや明瞭。扁平な丸底。口縁部横ナテ、底部ヘラ削り。内面底部ヘラナテ後ナテ。	
第43図6 P L 19	土師器 鉢	竈 ほぼ完形	口 12.8 底 8.6 高 9.6	①細砂粒多量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁内傾、稜明瞭。体部球形。口縁部横ナテ、体部横位ヘラ削り。内面ヘラナテ。	内面底部「×」字状の線刻
第43図7 P L 19	土師器 甕	竈 1/5	口 (25.0) 底 - 高 (17.7)	①細砂粒、褐色粒含 ②良好 ③橙色	口縁短く外反、胴部中位僅かに膨らむ。口縁横ナテ、内面ナテ後縦位ヘラ磨き。粘土接合痕。	内外面器面の荒れ、黒斑
第43図8 P L 19	土師器 甕	埋土 底部片	底 (4.2) 孔径(2.6) 高 (4.9)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部僅かに膨らむ。単孔。外面下半ヘラ削り、内面ヘラナテ。	外面黒斑、器面の荒れ
第43図9 P L 19	土師器 甕	+2,6 1/3	口 (16.8) 底 - 高 (15.1)	①細砂粒多量、粗砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部短く外反、胴部膨らみ弱い。胴部縦位ヘラ削り後、口縁部横ナテ。内面ヘラナテ後横位ヘラ磨き。	外面黒斑
第43図10 P L 19	土師器 甕	竈 1/2	口 (21.3) 底 6.0 高 26.2	①細・粗砂粒含 ②良好 ③橙色	口縁外反、胴部中位弱く膨らむ。口縁部横ナテ、胴部縦位ヘラ削り。内面粘土接合痕。	内外面器面の荒れ
第43図11 P L 19	土師器 甕	竈 1/5	口 (17.2) 底 - 高 (22.3)	①細砂粒含 ②やや軟質 ③にぶい橙色	口縁外反、胴部弱く膨らみ、中位に最大径。口縁部横ナテ、胴部ヘラ削り。内面粘土接合痕。	内外面器面の荒れ

遺物観察表

第43図12 P L19	土師器 甕	竈 胴～底部片	口 - 底 (5.0) 高 (5.0)	①細砂粒含 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	胴部直線的に外傾、肥厚する平底。底部外面へラ削り、内面へラナデ。	内外面器面の荒れ。 72-1と同一個体か
第44図13 P L19	土師器 甕	竈 口～胴部片	口 (19.4) 底 - 高 (11.5)	①細砂粒含 ②良好 ③にぶい橙色	口縁外反、胴部膨らみ弱い。口縁部横ナデ、胴部斜縦位へラ削り。内面横位へラナデ、粘土接合痕。	内外面黒斑、器面の荒れ
第44図14 P L19	土師器 甕	竈 口～胴部片	口 19.0 底 - 高 (10.0)	①細・粗砂粒含 ②良好 ③橙色	口縁外反、胴部膨らみ弱い。口縁部横ナデ後、胴部斜縦位へラ削り。内面横位へラナデ、粘土接合痕。	
第44図15 P L20	土師器 甕	竈 口～胴部片	口 (19.0) 底 - 高 (14.8)	①細砂粒含 ②良好 ③にぶい褐色	口縁外反、胴部膨らみ弱い。口縁部横ナデ、胴部斜縦位へラ削り。内面横位へラナデ。粘土接合痕顕著。	内面黒斑
第44図16 P L20	土師器 甕	-3～+13 1/2	口 - 底 5.2 高 (29.5)	①細・粗砂粒多量 ②良好 ③明赤褐色	胴部弱く膨らむ。底部平底。外面斜縦位へラ削り。内面ナデ、接合痕。	内面黒斑
第44図17 P L20	土師器 甕	竈 底部片	口 - 底 (5.6) 高 (5.4)	①細砂粒多量 ②良好 ③褐色	肥厚した平底。木葉痕。外面斜縦位へラ削り、内面ナデ。	
第44図18 P L20	土師器 器台	埋土 脚部片	口 - 底 - 高 (4.4)	①細砂粒含 ②良好 ③明赤褐色	脚部短く「ハ」の字状に開く。脚部に円孔3、受部底部に円孔1。外面密な縦位へラ磨き、内面ナデ。	受部内面器面剥離

年保3区20号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第45図1	土師器 坏	埋土 口縁部片	口 - 底 - 高 (2.5)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁外傾。口縁部横ナデ。	
第45図2	土師器 甕	埋土 口縁部片	口 - 底 - 高 (3.3)	①細・微砂粒含 ②良好 ③にぶい橙色	口縁外反。口縁部横ナデ。	

年保1区1号井戸跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第52図1 P L20	土師器 坏	埋土 1/5	口 (12.8) 底 - 高 (4.8)	①細砂粒、褐色粒含 ②良好 ③にぶい橙色	口縁外傾、口縁端部に内斜する面。底部丸底。口縁部横ナデ、底部へラ削り。	内外面器面の荒れ
第52図2 P L20	土師器 台付塊	+48 脚部	口 - 底 9.8 高 (4.0)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	脚部短い円筒状、裾部大きく開き、内面半球形を呈す。外面ナデ、内面へラ削り。	

年保1区2号井戸跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第53図1 P L20	土師器 坏	+89 3/4	口 11.6 底 - 高 5.1	①細砂粒含 ②良好 ③にぶい赤褐色	内斜口縁、底部丸底。口縁部横ナデ、底部へラ削り。内面ナデ後、粗な斜放射状へラ磨き。	外面黒斑、器面の荒れ
第53図2 P L20	土師器 坏	+111 口縁部片	口 (13.0) 底 - 高 (5.6)	①微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁ほぼ直立、口唇端部弱い凹線。稜をもつ。口縁部横ナデ、底部へラ削り。	
第53図3 P L20	土師器 鉢	埋土 口～胴部片	口 (12.4) 底 - 高 (6.5)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁直立気味。胴部中位膨らむ。口縁部横ナデ、胴部斜位のへラ削り。	外面黒斑、内面器面の荒れ
第53図4 P L20	土師器 甕	+102 口縁部片	口 (14.0) 底 - 高 (5.9)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁短く外反、胴部膨らみ弱い。口縁部横ナデ、胴部へラ削り。内面横位のへラナデ。	外面器面の荒れ
第53図5 P L20	土師器 小形甕	+20 口～胴部片	口 13.4 底 - 高 (14.0)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁外反。胴部膨らみ中位に最大径。口縁部強い横ナデ、胴部斜位、へラ削り。内面下半強い縦位ナデ後、上半横位へラナデ。	外面カーボン附着

第53図6 P L20	土師器 甕	+5 底部片	口 - 底 - 高 (6.7)	①細砂粒含 ②良好 ③暗赤褐色	底部丸底。胴部下位斜縦位のヘラ削り、内面ナデ。	外面黒斑
第53図7 P L20	土師器 甕	+119 口~胴部片	口 16.1 底 - 高 (14.2)	①砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄色	口縁部外反、胴部やや膨らむ。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	内外面器面の荒れ
第53図8 P L20	土師器 甕	+67 底部片	口 - 底 5.0 高 (3.0)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	底部平底。外面ヘラ削り、内面ナデ。	外面黒斑

年保1区6号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第55図1 P L20	土師器 坏	+20 口縁部片	口 (12.0) 底 - 高 (4.0)	①微砂粒、褐色粒微量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部外傾し、口唇端部に平坦面。稜は明瞭、底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	内外面に黒斑
第55図2 P L20	土師器 坏	+13 胴~底部片	口 - 底 - 高 (6.4)	①微砂粒微量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部中位に膨らみをもち、底部平底。外面ヘラ削り後上半に横位のヘラ磨き、内面下半粗い放射状、上半横位のヘラ磨き。	

年保1区9号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第55図3 P L20	土師器 甕	埋土 底部片	口 - 底 4.4 高 (3.3)	①微砂粒、褐色粒少量 ②良好 ③外面 橙色 内面 にぶい黄褐色	底面肥厚する平底。外面・底面ヘラ削り、内面ナデ。	外面黒斑

年保1区18号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第56図1 P L20	土師器 器台	埋土 脚部片	口 - 底 - 高 3.6	①微砂粒、褐色粒微量 ②良好 ③にぶい橙色	脚部は「ハ」の字状に開く。円形の透孔3孔。外面粗いヘラ磨き、内面ナデ。	外面器面の荒れ

年保3区21号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第57図1 P L20	土師器 坏	埋土 1/5	口 (10.4) 底 6.6 高 4.8	①微砂粒少量 ②良好 ③灰黄色	体部僅かに内湾し口縁直立。底部平底。口縁部横ナデ、内面強いナデ。体部横位ヘラ削り、内面ナデ。口縁部淡い赤色塗彩。	
第57図2 P L20	土師器 坏	埋土 1/4	口 16.1 底 - 高 (6.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁直立、口唇端部に平坦面。底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	
第57図3 P L20	土師器 甕	埋土 底部片	底 (6.4) 孔径(3.4) 高 (4.4)	①細砂粒多量 ②良好 ③外面 黒色 内面 にぶい黄褐色	底部平底。1孔。側面の上下に面取。外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、粘土接合痕。	
第57図4 P L21	土師器 甕	+26 口~胴部片	口 (21.8) 底 - 高 (13.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黄褐色	口縁弱く外反。胴部斜縦位ヘラ削り後、口縁部横ナデ。	内面器面の荒れ
第57図5 P L21	土師器 甕	床直 ほぼ完形	口 14.4 底 6.4 高 33.2	①細砂粒含 ②良好 ③にぶい橙色	口縁外反、胴部弱く膨らみ中位に最大径。口縁部横ナデ、胴部上位斜縦位、中位縦位ヘラ削り。内面横位ナデ。胴下半の接合痕に刻み。	
第57図6 P L20	土師器 甕	+32 口~胴部片	口 (21.2) 底 - 高 (10.0)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁外反、胴部膨らみ弱い。口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラ削り。内面横位ヘラナデ。粘土接合痕。	
第57図7 P L21	土師器 甕	埋土 口縁部片	口 (19.2) 底 - 高 (5.6)	①細砂粒多量 ②良好 ③橙色	口縁外反、口唇端部弱く肥厚。口縁部横ナデ、胴部斜位ヘラ削り。内面ナデ。	

遺物観察表

年保3区26号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第58図1 P L21	土師器 坏	埋土 口～底部片	口 (14.0) 底 - 高 (6.4)	①微砂粒微量 ②良好 ③明赤褐色	口縁直立、口唇端部に平坦面。後明瞭、底部丸底。口縁部横ナテ、底部ヘラ削り。	

年保3区27号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第59図1 P L21	土師器 坏	+10 ほぼ完形	口 (12.4) 底 - 高 5.4	①細砂粒多量 ②良好 ③橙色	口縁直立、底部丸底。口縁部横ナテ、底部ヘラ削り。底部に不定方向の沈線。	
第59図2 P L21	土師器 甕	+8,9 口～胴部片	口 (18.0) 底 - 高 (16.0)	①細砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	口縁短く外反、胴部膨らむ。口縁部横ナテ、胴部ヘラ削り後ナテ。内面横位のヘラナテ。粘土接合痕。	
第59図3 P L21	土師器 甕	+7～13 1/4	口 (21.0) 底 7.0 高 (27.9)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁外反、胴部球形。口縁部横ナテ、胴部斜縦位ヘラ削り後ナテ。内面横位ヘラナテ、粘土接合痕。	
第59図4 P L21	土師器 丸甕	+7～11 頸～胴部片	口 - 底 - 高 (22.8)	①細・微砂粒含 ②良好 ③にぶい黄橙色	胴部球形。口縁部横ナテ、胴部ヘラ削り後上位丁寧なヘラ磨き。内面ヘラナテ、粘土接合痕顕著。	外面黒斑

年保3区2号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第64図1 P L22	益子・笠間 陶器 土瓶蓋	埋土 1/2	口 (8.5) 底 (6.6) 高 3.4	① ② ③灰白色	天井部外面鉄絵具と呉須で文様を描き、透明釉を施す。釉のほとんどは剥離する。	近代	
第64図2 P L22	肥前?磁器 碗	埋土 底～胴部片	口 - 底 (3.5) 高 (5.1)	① ② ③明緑灰色		幕末～明治	
第64図3 P L22	肥前陶器 鉢?	埋土 底部片	口 - 底 (6.5) 高 3.0	① ② ③灰白色	内野山系青緑釉陶器。高台脇以下無釉。	江戸時代	
第64図4 P L22	瀬戸・美濃 陶器 植木鉢	埋土 底～胴部片	孔径(2.4) 底 (10.0) 高 5.9	① ② ③灰白色	体部外面下位まで灰釉。底部中央の水抜穴は焼成前。	18～19C	
第64図5 P L22	焙烙	埋土 口縁部片	口 - 底 - 厚 0.8	① ② ③黒褐色	在地系土器。	江戸時代	
第64図6 P L22	焙烙	埋土 口縁部片	口 (32.0) 底 - 高 (3.5)	① ② ③橙色	在地系土器。丸底。	近・現代	
第64図7 P L22	不詳	埋土 底部片?	厚 1.5	① ② ③灰白色	在地系土器。底部片と思われ、体部貼付様のカキヤブリが認められる。		
第64図8 P L22	練炭起こし	埋土 煙突部	口 - 底 - 高 (4.9)	① ② ③橙色	空気取り入れ口。		
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考	
第64図9 P L22	石製品 砥石	埋土 ほぼ完形	長 6.1 厚 3.3	幅 5.7 重 101	流紋岩	表裏・両側に使用面。上面も平滑に研磨される。使用頻度高く、中央部がすり切れても使用している。	

年保遺構外(縄文時代)

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第65図1 P L22	縄文 深鉢	3区 口縁部片	長 (4.2) 厚 0.9	①細砂粒 ②良好 ③橙色	隆帯で楕円区画し、区画内にR.L施文後隆帯に沿って中広の沈線をめぐらす。	著しく磨滅。 加曽利E3。

第65図2 P L22	縄文 深鉢	3区 胴部片	長 (7.2) 厚 1.0	①細砂粒 ②良好 ③灰黄褐色	「U」の字状の区画内にR Lを縦位施文後無 文帯との間に沈線を再施文する。	著しく磨滅。 加曾利E3。
第65図3 P L22	縄文 深鉢	3区 胴部片	長 (6.6) 厚 0.9	①細砂粒 ②良好 ③灰黄色	微隆帯で縄文帯と縄文帯を縦位区画し、区画 内にR L縦位施文後、微隆帯の両側にナテを 施す。	著しく磨滅。 加曾利E3。
第65図4 P L22	縄文 深鉢	3区 口縁部片	長 6.0 厚 0.6	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	隆帯と沈線で文様区画し、区画内にL Rを充 填施文し、沈線を引き直す。隆帯上には連続 する押圧を施す。	磨滅。堀之 内2。
第65図5 P L22	縄文 深鉢	3区 胴部片	長 (3.2) 厚 6.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	羽状の沈線を施す。	磨滅。後期。
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第65図6 P L22	石器 凹石	3区 完形	長 12.8 幅 8.4 厚 5.4 重 757	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打痕、裏面に磨面あり。	

年保遺構外 (古墳時代)

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第66図1 P L22	土師器 坏	3区 口縁部片	口 (8.2) 底 - 高 (4.1)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁内湾。体部ヘラ削り後ナテ。	内面器面剥 離
第66図2 P L22	土師器 坏	1区 1/4	口 (12.1) 底 - 高 (4.9)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁直立し、口唇端部弱い平坦面。稜明瞭、 底部平坦。口縁部横ナテ、底部ヘラ削り。	
第66図3 P L22	土師器 坏	3区 1/4	口 (14.0) 底 - 高 (7.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁直立、稜明瞭。底部丸底。口縁部横ナテ、 底部ヘラ削り。	
第66図4 P L22	土師器 坏	3区 1/4	口 (9.6) 底 - 高 4.0	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁外反。底部丸底。口縁部横ナテ、底部ヘ ラ削り。	内外器面の 荒れ。内面 カーボン付 着
第66図5 P L22	土師器 坏	1区 口縁部片	口 (11.0) 底 - 高 (3.9)	①細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁弱く外傾し、稜明瞭。底部丸底。口縁部 横ナテ、底部ヘラ削り。	
第66図6 P L22	土師器 坏	1区 ほぼ完形	口 12.4 底 - 高 5.0	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部ほぼ直立、口唇端部弱い平坦面。稜明 瞭、底部丸底。口縁部横ナテ、底部ヘラ削り。	外面底部黒 斑
第66図7 P L22	土師器 坏	1区 口～底部片	口 (12.9) 底 - 高 (3.2)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁ほぼ直立。口縁部横ナテ、底部ヘラ削り。	内面黒斑
第66図8 P L22	土師器 ミコチユア	3区 ほぼ完形	口 7.1 底 - 高 3.4	①細砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	口縁外反、底部丸底。口縁部横ナテ、底部ヘ ラ削り後、稜下方ナテ。	
第66図9 P L22	須恵器 坏(身)	3区 口縁部片	口 12.6 底 - 高 (4.1)	①白色粒少量 ②還元焰 ③灰色	口縁直立、口唇端部沈線一条巡る。受部水平。 底部丸底。轆轤整形後底部回転ヘラ削り。	
第66図10 P L22	土製品 支脚	1区 ほぼ完形	径 4.8 高 12.8	①細砂粒多量 ②良好 ③にぶい橙色	やや下半が太い円柱状。外面ナテ。	器面の荒れ

年保遺構外 (中世以降)

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第66図11 P L22	瀬戸・美濃 系陶器 皿	表採 1/4	口 (14.0) 底 (7.6) 高 2.8	① ② ③オリーブ黄色	瀬戸・美濃系。高台内無釉。灰釉を施す。	江戸時代
第66図12 P L22	中国陶器 碗?	埋土 底部片	口 - 底 5.2 高 (1.7)	① ② ③オリーブ灰色	龍泉窯系青磁碗? 内面に押印らしき文様ある が、不鮮明。高台端部から内面無釉。	中世

遺物観察表

鳥山下遺跡遺物観察表

鳥山下9区90号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第70図1 P L44	須恵器 高台付皿	掘り方 1/4	口 (14.0) 底 (5.8) 高 4.0	①微砂粒微量 ②酸化焰 ③暗褐色	体部内湾気味に外傾。轆轤整形。付高台。口縁部横ナデ。体部へラ削り。	
第70図2 P L44	須恵器 碗	掘り方 口縁部片	口 (14.0) 底 - 高 (3.5)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③灰黄褐色	体部内湾気味に立ち上がる。轆轤整形。	

鳥山下9区91号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第71図1 P L44	須恵器 高台付碗	+10 底部片	口 - 底 (8.8) 高 (1.1)	①白色微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り。付高台。	
第71図2 P L44	須恵器 短頸壺	床直 底部片	口 - 底 (13.8) 高 7.5	①白色微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	体部ゆるい丸味をもち外傾。付高台、断面台形でやや開く。轆轤整形。胴部下位回転へラ削り。底部中央ナデ、周縁部回転へラ削り。	
第71図3 P L44	土製品 土錘	+2 1/2	長 (3.6) 幅 1.4 孔径0.5	①微砂粒微量 ②良好 ③にぶい黄褐色	端部平坦面。外面ナデ。	
第71図4 P L44	土製品 土錘	埋土 ほぼ完形	長 (4.7) 幅 1.3 孔径0.4	①微・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	端部未調整。外面ナデ。	

鳥山下9区92号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第72図1 P L44	須恵器 碗	-3 口縁部片	口 (13.0) 底 - 高 (4.0)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部丸味をもち、口縁外反。轆轤整形。	
第72図2 P L44	須恵器 碗	-1 口縁部片	口 (14.0) 底 - 高 (4.4)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③明赤褐色	体部直線的に外傾し、口縁外反。轆轤整形。	器面の荒れ
第72図3 P L44	須恵器 高台付碗	-3 底部片	口 - 底 (6.8) 高 (3.1)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③灰白色	轆轤整形。付高台。	内外面器面の荒れ
第72図4 P L44	須恵器 高台付碗	-1 底部片	口 - 底 7.5 高 (2.4)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい褐色	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後、付高台。	

鳥山下9区94号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第73図1	須恵器 高台付碗	埋土 底部片	口 - 底 (7.8) 高 (1.1)	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	轆轤整形。底部切り離し後、回転へラ削り。付高台。	

鳥山下9区97号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第75図1 P L44	須恵器 坏	掘り方 底部片	口 - 底 (9.0) 高 (1.8)	①微・細砂粒含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	内外面器面が荒れ、整形痕不明瞭。	
第75図2 P L44	土師器 甃	掘り方 口縁部片	口 (19.6) 底 - 高 (5.7)	①微・細砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	口縁緩やかな「コ」の字状。口縁部横ナデ、指頭圧痕。粘土接合痕。	
第75図3 P L44	土師器 甃	掘り方 口~胴部片	口 (20.2) 底 - 高 (19.0)	①微砂粒含 ②良好 ③明赤褐色	口縁緩やかな「コ」の字状。胴部中位僅かに膨らむ。指頭圧痕。胴部上位横位、中・下位斜縦位へラ削り。内面ナデ。	

第75図4 P L44	土師器 甕	掘り方 1/4	口 (21.8) 底 - 高 (7.0)	①微砂粒含 ②良好 ③赤褐色	口縁緩やかな「コ」の字状。口縁部横ナデ、指頭圧痕、粘土接合痕。胴部上位横位のヘラ削り、内面ナデ。	
第75図5 P L44	土師器 甕	掘り方 1/4	口 - 底 (6.0) 高 (18.0)	①細砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	胴部緩く膨らむ。平底。胴部下位斜縦位ヘラ削り。内面横位ヘラナデ。粘土接合痕。	第75図4と同一個体か

鳥山下10区100号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第77図1 P L44	土師器 壺	貯蔵穴 2/3	口 11.4 底 4.8 高 5.9	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部半球状、口縁内湾。底部肥厚する平底。口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。	
第77図2 P L44	土師器 小形壺	貯蔵穴 1/3	口 - 底 (4.8) 高 (7.1)	①細・微砂粒含 ②良好 ③橙色	胴部球形状、底部平底。ヘラ削り後横位ヘラ磨き。内面横位ナデ。	外面黒斑
第77図3 P L44	土師器 小形甕	- 4 1/3	口 (14.0) 底 - 高 (11.4)	①細・粗砂粒多量 ②良好 ③赤褐色	口縁外傾、胴部膨らみ中位に最大径。口縁部横ナデ、胴部上位斜縦位ハケ目、中・下位斜位ヘラ削り。内面斜位ナデ。	外面黒斑
第77図4 P L44	土師器 甕	貯蔵穴 胴～底部片	口 - 底 (5.0) 高 (5.4)	①細砂粒含 ②良好 ③褐色	胴部膨らむ。底部肥厚し、上げ底気味。外面ハケ目。内面ヘラナデ。	

鳥山下10区101号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第78図1 P L44	土師器 坏	- 2 ほぼ完形	口 13.6 底 - 高 3.0	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁短く直立、底部扁平な丸底。口縁部横ナデ、体部不明瞭なナデ、底部ヘラ削り。	器面の荒れ
第78図2 P L44	土師器 坏	- 3 1/4	口 (13.6) 底 - 高 2.9	①細砂粒含 ②良好 ③橙色	口縁内湾、底部扁平な丸底。口縁部横ナデ、体部不明瞭なナデ、底部ヘラ削り。	
第78図3 P L44	土師器 坏	- 4 3/4	口 14.3 底 - 高 4.5	①細・粗砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁内湾、底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面ナデ後ヘラ磨き。	
第79図4 P L44	須恵器 坏	- 3 2/3	口 14.4 底 8.8 高 3.4	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	体部外傾、底部平底。轆轤整形。底部回転ヘラ削り。	
第79図5 P L44	須恵器 坏	- 3 1/4	口 (13.0) 底 - 高 (3.2)	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	体部外傾。轆轤整形。底部外縁部ヘラ削り。	歪み著しい
第79図6 P L44	須恵器 高台付壺	- 4 脚部	口 - 底 (7.0) 高 (2.7)	①細砂粒少量 ②酸化焰 ③橙色	高台外反気味に開く。付高台。高台内外面横ナデ。底面磨耗。	高台内面黒斑
第78図7 P L44	土師器 甕	- 7~- 2 1/2	口 (20.4) 底 (4.6) 高 31.0	①細砂粒含 ②良好 ③明赤褐色	口縁外反、胴部上位最大径。口縁部横ナデ、胴部上位横位ヘラ削り、下位斜位ヘラ削り、内面ヘラナデ、粘土接合痕。	

鳥山下10区103号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第81図1 P L45	須恵器 坏	+ 3 ほぼ完形	口 12.2 底 4.6 高 3.8	①細砂粒含 ②酸化焰 ③灰黄色	体部直線的で、口縁外反。轆轤整形。底部回転糸切りか。	
第81図2 P L45	須恵器 坏	竈 1/6	口 (13.2) 底 (6.0) 高 4.3	①微砂粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部僅かに丸味をもち、口縁外反。轆轤整形(回転方向不明)。底部回転糸切り。	
第81図3 P L45	須恵器 坏	+ 7 底部片	口 - 底 (5.2) 高 (1.9)	①微砂粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部僅かに丸味。轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り。	

遺物観察表

第81図4 P L45	須恵器 碗	+4 口～体部片	口 (16.0) 底 - 高 (5.4)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部丸味をもち、口縁外反、轆轤整形(回転方向不明)。回転系切り後、付高台。	高台欠損
第81図5 P L45	土師器 小形甕	+6 口～胴部片	口 (12.0) 底 - 高 (6.4)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部短く外反、胴部膨らむ。口縁部横ナデ、粘土接合痕、胴部ヘラ削り。内面横位ヘラナデ。	
第81図6 P L45	土師器 小形甕	+2 口～胴部片	口 (12.0) 底 - 高 (6.7)	①微砂粒含 ②良好 ③明褐色	口縁直立し、端部外傾。胴部膨らむ。口縁部横ナデ、粘土接合痕。胴部斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	
第81図7 P L45	土師器 甕	+3 胴～底部片	口 - 底 (4.4) 高 (5.2)	①細砂粒含 ②良好 ③赤褐色	胴部膨らみ、底部平底。胴部斜縦位ヘラ削り、内面ナデ。	
第81図8 P L45	土師器 台付甕	+2,3 2/3	口 (12.8) 底 - 高 (16.0)	①細・粗砂粒含 ②良好 ③明赤褐色	口縁緩やかな「コ」の字状、胴部膨らみ中位最大径。口縁部横ナデ、胴部上位横位ヘラ削り、下位斜縦位ヘラ削り。内面ナデ。高台部横ナデ。	内・外面カーボン付着。器面の荒れ

鳥山下10区104号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第82図1	須恵器 蓋	+3 1/4	口 (12.0) 底 - 高 (2.5)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	天井部水平、体部緩やかに湾曲、口縁部やや外傾して折れる。轆轤整形。天井部ヘラ削り。	
第82図2 P L45	須恵器 坏	+11 底部片	口 - 底 (7.7) 高 (0.9)	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄褐色	轆轤整形(右回転)。底部回転系切り後、外縁部回転ヘラ削り。底部内面焼成後ヘラ描き「X」。	
第82図3 P L45	須恵器 円面硯	+8 脚部片	口 (12.9) 底 - 高 (5.0)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	脚部「ハ」の字状に開く。硯面部外縁に端部欠損の縁と断面三角形の内堤、脚部上端に凸体1条巡る。	

鳥山下10区105号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第83図1 P L45	須恵器 坏	+7 完形	口 12.6 底 6.7 高 3.5	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰	体部直線的に外傾。底部擬似高台状。轆轤整形(右回転)。底部回転系切り。	
第83図2 P L45	須恵器 碗	+7 口～体部片	口 (20.4) 底 - 高 (5.2)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	体部丸味をもち、立ち上がる。轆轤整形(右回転)。	
第83図3 P L45	土師器 甕	+9 口縁部片	口 (21.0) 底 - 高 (6.1)	①細・微砂粒多量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁直立し、上半緩やかに外傾。胴部膨らむ。口縁部横ナデ、胴部上位横位ヘラ削り、内面ナデ。	

鳥山下10区106号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第85図1 P L45	土師器 坏	掘り方 1/3	口 (13.0) 底 (7.0) 高 4.4	①微砂粒含、細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部丸味をもち、口縁緩やかに外反。底部平底。口縁部横ナデ、体部不明瞭なナデ、底部手もちヘラ削り。	外面カーボン付着
第85図2 P L45	須恵器 坏	+8 1/3	口 (13.0) 底 (5.9) 高 4.0	①微・細砂粒含 ②還元焰 ③黄灰色	体部直線的に立ち上がる。轆轤整形。	器面の荒れ
第85図3 P L45	須恵器 坏	掘り方 1/4	口 (12.5) 底 (6.9) 高 3.9	①細砂粒含 ②還元焰 ③黄灰色	体部直線的に開く。轆轤整形。底部回転系切り後外縁部ヘラ削り。	
第85図4 P L45	土師器 甕	+4 口縁部片	口 (18.0) 底 - 高 (5.3)	①微砂粒多量 ②良好 ③橙色	口縁緩やかな「コ」の字状。口縁部横ナデ、胴部上位横位ヘラ削り。内面ナデ。	
第85図5 P L45	土師器 台坏甕	掘り方 脚接合部	口 - 底 - 高 (3.6)	①微砂粒多量 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部下位斜縦位ヘラ削り、接合部横ナデ。脚内面ナデ。	

鳥山下遺跡

第86図6 P L45	須恵器 甕	掘り方 胴部片	口 - 底 - 高 (14.5)	①白色粒含 ②還元焰 硬質 ③灰色	外面平行叩き、内面当て具痕。自然釉。	
第86図7 P L45	土製品 土鍾	埋土 ほぼ完形	長 3.3 巾 1.9 孔径0.5	①細砂粒含 ②良好 ③黄灰色	端部未調整。外面ナデ、側面中央指頭圧痕。	
第86図8 P L45	土製品 土鍾	埋土 3/4	長 4.1 巾 1.9 孔径0.5	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	端部未調整。外面ナデ。	

鳥山下10区109号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第88図1 P L45	須恵器 坏	床直 1/5	口 (11.2) 底 (6.2) 高 3.4	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	体部直線的に外傾。轆轤整形。底部磨滅。	
第88図2 P L45	須恵器 坏	+2 1/5	口 (12.4) 底 (7.0) 高 2.9	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	体部直線的に外傾。轆轤整形(右回転)。底部外縁部回転ヘラ削り。	
第88図3 P L45	須恵器 坏	+11 1/3	口 (13.0) 底 (8.0) 高 3.7	①細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	体部やや丸味を持ち、外傾。轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り。	
第88図4 P L45	須恵器 坏	床直 1/3	口 (13.4) 底 (8.6) 高 3.8	①微砂粒含 ②還元焰 ③灰色	体部直線的に外傾。轆轤整形。底部ヘラ削り。	
第88図5 P L45	須恵器 坏	床直 1/4	口 13.8 底 8.0 高 3.8	①微砂粒含 ②還元焰 ③黄灰色	体部直線的に外傾。轆轤整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	
第88図6 P L45	須恵器 坏	+5 底部片	口 - 底 7.6 高 (1.4)	①細砂粒含 ②酸化焰 ③黄灰色	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後外縁部回転ヘラ削り。	
第89図7 P L45	土師器 台坏甕	床直 脚接合部	口 - 底 - 高 (3.4)	①細砂粒含 ②良好 ③黒褐色	脚部「ハ」の字状に開く。底部内面ナデ、接合部・脚部横ナデ。	底部、脚内面器面の荒れ
第89図8 P L45	須恵器 甕	床直 頸部片	口 - 底 - 高 (12.5)	①白色粒含 ②還元焰 硬質 ③灰色	口縁外反。轆轤整形。胴部との接合痕。	

鳥山下10区110号住居跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第90図1 P L45	土師器 甕	埋土 口縁部片	口 (13.0) 底 - 高 (4.8)	①微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部緩やかな「コ」の字状。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面強いヘラナデ。粘土接合痕。	

鳥山下9区112号趾

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第92図1 P L45	須恵器 坏	埋土 底部片	口 - 底 8.4 高 (2.0)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③灰黄色	轆轤整形(右回転)。周縁部、体部下位ヘラ削り。	

鳥山下9区9号堀立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第94図1 P L46	須恵器 坏	埋土 1/2	口 (12.0) 底 6.1 高 3.7	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
第94図2 P L46	須恵器 甕	埋土 底部片	口 - 底 - 高 (5.5)	①白色粒含 ②還元焰 硬質 ③灰色	胴部丸味をもって外傾。底部平底。胴部下位平行叩き、後回転ヘラ削り。内面ナデ。	

遺物観察表

鳥山下10区10号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第96図1 P L46	土師器 坏	ピット3 1/6	口 (12.4) 底 - 高 (2.8)	①細砂粒含 ②良好 ③橙色	口縁弱く内湾。口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。	

鳥山下9区10号井戸跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第101図1 P L46	須恵器 坏	底面 ほぼ完形	口 14.0 底 6.2 高 5.5	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	体部に丸味をもち、口唇部内湾。轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り。内外面燻。	
第102図2 P L46	須恵器 高台付塊	+17 完形	口 15.2 底 7.0 高 6.7	①微砂粒含 ②還元焰 ③灰白色	体部直線的、口縁僅かに外反。高台断面四角形。轆轤整形(右回転)、底部回転糸切り後付高台。	内外面器面の荒れ。内面底部黒斑
第102図3 P L46	須恵器 高台付塊	埋土 底部片	口 - 底 6.9 高 (2.5)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	体部丸味をもつ。高台断面三角形で「八」の字状に開く。轆轤整形(右回転)。付高台。	器面の荒れ
第102図4 P L46	須恵器 高台付塊	埋土 底部片	口 - 底 (6.8) 高 (2.0)	①微砂粒含 ②還元焰 ③灰色	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後、付高台。	
第102図5 P L46	灰釉陶器 高台付塊	+83 底部片	口 - 底 (8.8) 高 4.2	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	体部に丸味をもつ。三ヶ月高台。轆轤整形(右回転)。底部ナデ、付高台。施釉漬掛。	大原2号窯式期
第102図6 P L46	須恵器 耳皿	+72 ほぼ完形	口 - 底 4.2 高 3.1	①微砂粒含 ②還元焰 ③灰白色	轆轤整形。底部回転糸切り。	口唇部一部欠
第102図7 P L46	須恵器 長頸壺	+35 底~胴部片	口 - 底 4.6 高 (8.2)	①微砂粒微量 ②還元焰 ③灰色	肩部に張りをもつ。高台断面四角形で接地面広い。轆轤整形。体部下位回転ヘラ削り。付高台。自然釉。	内面(漆?) 外面カーボン付着
第102図8 P L46	須恵器 甕	+8 頸部片	口 - 底 - 高 (7.8)	①白色粒含 ②還元焰。硬質 ③灰色	頸部下位に補強帯状の凸帯一条巡る。頸部横ナデ、外面不明瞭なナデ。内面横位ナデ、粘土接合痕。	肩部自然釉
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第102図9 P L46	鉄滓 塊状滓	埋土	長 9.2 厚 4.9 重 536			

鳥山下9区12号井戸跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第104図1 P L46	須恵器 高台付塊	底面 2/3	口 14.3 底 6.8 高 5.1	①細砂粒微量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	体部丸味をもち、口縁外反。高台断面四角形で開く。轆轤整形(右回転)。底部糸切り後、付高台。	内外面黒斑
第104図2 P L46	須恵器 高台付塊	+12 ほぼ完形	口 14.4 底 - 高 (5.4)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③灰黄色	体部僅かに丸味をもち、口縁わずかに外反。轆轤整形。体部下位指頭痕。底部回転糸切り後、付高台。	内外面に墨書。高台欠損
第104図3 P L46	須恵器 高台付塊	埋土 底部片	口 - 底 (2.3) 高 (6.3)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい褐色	高台断面四角形で開く。轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後、付高台。	
第104図4 P L46	須恵器 甕	埋土 口縁部片	口 - 底 - 高 (4.9)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	口縁部強い稜一条、2段以上の波状文巡る。	

鳥山下9区188号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第105図1 P L46	土師器 坏	埋土 口縁部片	口 (12.0) 底 - 高 (3.0)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	体部外傾。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	

第105図2 P L46	土師器 甕	+25 2/3	口 (27.0) 底 - 高 (29.5)	①微・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁外反、胴部膨らみ中位に最大径。口縁部横ナデ、弱い指頭痕。胴部上位横位、下位斜位ヘラ削り。内面横位ナデ、粘土接合痕。	外面カーボン付着
-----------------	----------	------------	-----------------------------	------------------------	---	----------

鳥山下9区196号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第106図1 P L46	須恵器 高台付埴	埋土 1/6	口 (14.9) 底 (5.5) 高 5.1	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄色	体部僅かに丸味をもち、口縁外反。高台小型で丸味をもつ断面三角形。轆轤整形(回転方向不明)。付高台。	
第106図2 P L46	須恵器 高台付埴	+16 口~体部片	口 (15.0) 底 - 高 (5.8)	①微・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	体部僅かに丸味をもち、口縁外反。轆轤整形。付高台。	内面カーボン付着、器面の荒れ
第106図3 P L46	須恵器 高台付埴	+11 底部片	口 - 底 (7.0) 高 (1.5)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部丸味をもち、高台丸味をもつ断面台形。轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後、付高台。	
第106図4 P L46	須恵器 高台付埴	+15 底部片	口 - 底 (6.2) 高 (3.0)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	高台やや高く「ハ」の字状に開く。轆轤整形(回転方向不明)。付高台。内面底部ヘラ磨き。	
第106図5 P L46	土師器 甕	埋土 口縁部片	口 (16.8) 底 - 高 (5.1)	①微・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁外反、口唇部外面強いナデ。口縁部横ナデ、胴部上位横位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
第106図6 P L46	土師器 甕	+13 口縁部片	口 (20.0) 底 - 高 (5.5)	①微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁「コ」の字状。口縁部横ナデ、粘土接合痕。胴部上位横位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	
第106図7 P L46	土師器 甕	+11 胴~底部片	口 - 底 4.8 高 (4.2)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	胴部丸味をもち、底部小さな平底。外面斜縦位ヘラ削り、底面ヘラ削り。内面ナデ。	

鳥山下9区203号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第107図1 P L47	土師器 甕	+41 胴~底部片	口 - 底 6.4 高 (5.5)	①微・細砂粒含 ②良好 ③明赤褐色	胴部膨らむ。底部平底。胴部斜縦位ヘラ削り、底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。	外面カーボン付着

鳥山下9区231号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第108図1 P L47	土師器 坏	+10 1/4	口 (14.2) 底 - 高 (3.5)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁僅かに内湾、底部丸底。口縁部横ナデ、体部不明瞭なナデ、底部ヘラ削り。	
第108図2 P L47	土師器 坏	+11 1/3	口 13.0 底 - 高 3.2	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁僅かに外傾、底部扁平な丸底。口縁部横ナデ、体部不明瞭なナデ、底部ヘラ削り。	
第108図3 P L47	土師器 坏	+13 1/4	口 (13.4) 底 - 高 3.4	①微砂粒含 ②良好 ③にぶい橙色	口縁内湾、底部扁平な丸底。口縁部横ナデ、体部不明瞭なナデ、底部ヘラ削り。	
第108図4 P L47	土師器 坏	-1~+20 ほぼ完形	口 12.8 底 6.6 高 5.1	①細砂・褐色粒含 ②良好 ③にぶい橙色	体部丸味をもち、口縁内湾。口縁部横ナデ、体部横位ヘラ削り。底部木葉痕。	内・外面黒斑
第108図5 P L47	須恵器 坏	+6 1/4	口 (14.0) 底 (8.0) 高 3.5	①細砂粒含 ②還元焰 ③黄灰色	体部僅かに丸味を持ち、外傾。轆轤整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	
第108図6 P L47	須恵器 埴	+20 1/2	口 (16.0) 底 8.8 高 5.5	①細・粗砂粒多量 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部丸味をもち、立ち上がる。口唇部強い横ナデ。轆轤整形(右回転)、底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	
第108図7 P L47	土師器 甕	+16 口縁部片	口 (18.0) 底 - 高 (7.3)	①細・粗砂粒多量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁外反、口唇部沈線1条。胴部丸味を持つ。口縁部横ナデ、胴部横位ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。	

遺物観察表

第108図8 P L47	土師器 甕	+19 胴部片	口 - 底 - 高 (9.0)	①微砂粒多量 ②良好 ③橙色	口縁外反、稜明瞭。胴部丸味をもつ。口縁部横ナデ、胴部上位横位へラ削り、下位斜縦位へラ削り。内面ナデ。粘土接合痕。	
-----------------	----------	------------	-----------------------	----------------------	--	--

鳥山下10区294号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第108図9 P L47	須恵器 高台付碗	+18 3/4	口 15.3 底 7.1 高 5.8	①微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	体部丸味をもち、口縁外反。高台「ハ」の字状に開く。轆轤整形(右回転)。底部ナデ調整。内面密にへラ磨き。付高台。内面黒色処理。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第108図10 P L47	石器 敲石	埋土 ほぼ完形	長 12.2 厚 4.6	幅 5.7 重 460	溶結凝灰岩	上・下端部と左側面に敲打痕、裏面に剥離有り。

鳥山下10区322号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第109図1 P L47	須恵器 土師器	床直 口縁部片	口 (24.0) 底 - 高 (6.2)	①細砂粒含 ②酸化焰 ③褐色	口縁部は直立し、口唇部は平坦。罫は断面三角形で水平に伸びる。轆轤整形。罫貼付。	内外面カーボン付着

鳥山下10区401号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第109図2 P L47	土師器 台付甕	+5 4/5	口 11.9 底 - 高 (14.5)	①細砂粒多量 ②良好 ③明赤褐色	口縁直立し端部僅かに外傾、稜明瞭。胴部膨らみ、上位に最大径。口縁部横ナデ、胴部横位へラ削り、下位斜縦位へラ削り、脚接合部横ナデ。	脚部欠損

鳥山下9区146号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第112図1 P L47	軟質陶器 播鉢	埋土 口縁片	口 (31.0) 底 - 高 (9.6)	① ② ③灰色	内面体部下位使用による摩滅有り。	中世
第112図2 P L47	軟質陶器 播鉢	埋土 体部下位片	厚 1.6	① ② ③灰黄色	内面使用によりやや摩滅。外面下位煤付着。	
第112図3 P L47	常滑 甕?	埋土 体部片	厚 1.5	① ② ③灰黄褐色	外面押印。	中世
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第112図4 P L47	石製品 茶臼	埋土 1/3	口 (36.0) 高 13.1	底 (28.6) 重 2987	粗粒輝石安山岩	茶臼の下臼。挽き目左回り。表面は丁寧に仕上げるが、裏面はやや粗い。

鳥山下9区147号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第113図1 P L47	瓦?	+20 破片	厚 3.2	① ② ③にぶい黄橙色		中世か

鳥山下9区200号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第113図2 P L47	軟質陶器 播鉢	+60 片口部小片	厚 1.1	① ② ③灰色	焼成良く須恵質。	中世
第113図3 P L47	軟質陶器 播鉢	埋土 口縁片口部	厚 1.3	① ② ③黄灰色	口縁片口部のみ僅かにのこる。	中世

第113図4 P L47	種焼締陶器 鉢?	+50 体部小片	厚 1.1	① ② ③灰色	内面調整やや丁寧。内面やや摩滅。	製作地不詳
第114図5 P L47	軟質陶器 播鉢	埋土 片口部	厚 1.2	① ② ③黄灰色	内面体部下位使用により摩滅。	中世
第114図6 P L47	常滑 甕・鉢?	埋土 胴部片	厚 1.0	① ② ③浅黄色	内面使用により摩滅する。	中世
第114図7 P L47	軟質陶器 壺?	埋土 胴部片	厚 1.1	① ② ③黄灰色	内面器表斑状に剥離。	中世
第114図8 P L48	軟質陶器 播鉢	埋土 体部下位片	厚 1.2	① ② ③褐灰色	体部下位円運動による使用により器表摩滅する。	中世
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第114図9 P L48	石製品 石皿?	埋土 破片	長 (13.8) 幅 (8.8) 厚 4.2 重 695	粗粒輝石安山岩		

鳥山下10区272号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第114図10 P L48	瀬戸・美濃 陶器 灯明皿	埋土 1/4	口 (9.0) 底 (4.2) 高 1.9	① ② ③にぶい赤褐色	灯明受け皿。全面に錆軸施軸後、体部から底部外面の軸を拭う。	

鳥山下9区204号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第115図1 P L48	瓦 棧瓦	+1 破片	厚 2.1	① ② ③灰色	尻の切り込み部分片。切り込み長は10.5cm。	時期不詳

鳥山下10区276号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第115図2 P L48	石製品	埋土 破片	孔径(1.3) 幅 (13.6) 孔 6.5 重 1170	粗粒輝石安山岩	表裏に工具痕残る。中央に孔の痕跡あり。石臼(下臼)未成品の破損したものか。	

鳥山下10区289号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第116図1 P L48	石製品 不明	+8 破片	長 (8.6) 幅 (7.6) 厚 (5.8) 重 331	粗粒輝石安山岩	外面は丁寧に整形され平滑。上位に段状の縁取り。内面側には整形時の工具痕残る。	97・98・100 溝-301と類似する

鳥山下10区329号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第117図1 P L48	常滑 甕?	埋土 体部小片	厚 1.2	① ② ③灰赤色		中世
第117図2 P L48	常滑 片口鉢	埋土 破片	厚 1.0	① ② ③暗灰黄色	外面上位に横撫で上の調整アリ。内面調整はやや丁寧で、使用により摩滅磨る。	中世
第117図3 P L48	常滑 甕	埋土 体部小片	厚 0.9	① ② ③灰褐色	焼き締まり弱い。	中世
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第117図4 P L48	石製品	埋土 破片	長 (10.5) 幅 (9.5) 厚 6.8 重 705	粗粒輝石安山岩	表裏を平坦に調整。他の面も整形されているものと思われるが、調整痕などは認められない。	

遺物観察表

鳥山下10区363号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第119図1 P L48	須恵器 甕	埋土 胴部片	厚 1.2	①白色粒多量 ②還元焰 硬質 ③灰色	外面平行叩き。内面無文様当て具痕。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第119図2 P L48	石製品	埋土	長 38.0 幅 24.0 厚 22.5 重 2190	馬見岡凝灰岩	四角形に粗く整形する。表面は一部剥落。五輪塔地輪の破損品か。	

鳥山下10区367号土坑跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第119図3 P L48	常滑 甕?	埋土 体部小片	厚 1.2	① ② ③にぶい赤褐色		中世
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第119図4 P L48	石製品 石臼	+82 1/4	口 (13.5) 孔径(1.5) 厚 9.3 重 2610	角閃石安山岩	下臼。挽き目左回り。裏面に整形時の工具痕残す。	
第119図5 P L48	石製品	+96 完形	口 29.1 厚 10.5 重 1270	粗粒輝石安山岩	下臼の転用品。上面を削って浅い皿状に整形。内面はあまり平滑ではない。臼としての仕上げも粗雑。側面に小片1ヶ所あるが、どの段階であけたものかは不明。	

鳥山下9区82号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第122図1 P L48	土師質土器 皿	+24 1/2	口 (7.9) 底 (4.4) 高 2.2	① ② ③黒色	底部外面回転糸切り無調整。板状圧痕アリ。見込みナア痕。	
第122図2 P L48	土師質土器 皿	+10 4/5	口 7.5 底 4.3 高 2.8	① ② ③にぶい黄褐色	底部外面右回転無調整。	中世
第122図3 P L48	軟質陶器 播鉢	+46 口縁部小片	厚 1.3	① ② ③灰色	内面下位使用による摩滅あり。	中世
第122図4 P L48	軟質陶器 播鉢	埋土 口縁部片	口 (30.0) 底 - 高 (4.0)	① ② ③灰色	外面と口縁部内面器表剥離する。	中世
第122図5 P L48	古瀬戸 折縁深皿	埋土 体～底部片	厚 0.8	① ② ③灰白色	内面～外面体部下位まで灰釉。	13～15c
第122図6 P L48	軟質陶器 播鉢	+36 底部片	口 - 底 13.0 高 (3.7)	① ② ③灰色	外面回転糸切り無調整。須恵質で焼締まる。底部の断面中央は高温により発泡してふくれる。内面使用により摩滅する。	
第122図7 P L49	瓦 丸瓦	+32 破片	厚 2.7	① ② ③暗灰色	内面布痕。焼成は須恵器。	
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第122図8 P L49	石器 砥石	+29 2/3	長 (9.5) 幅 5.7 厚 4.5 重 343	粗粒輝石安山岩	使用面は1面。	
第122図9 P L49	石器 砥石	埋土	長 (6.6) 幅 (4.0) 厚 2.5 重 107	流紋岩	表裏・右側面に使用面。右側面の使用頻度高く平滑。	
第122図10 P L49	石器 砥石	+29 ほぼ完形	長 7.8 幅 4.4 厚 3.9 重 131	砥沢石	表裏・右側面に使用面。表面に細かな刃ならし溝。上半欠損後も使用している。	

鳥山下9区83号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第124図1 P L49	古瀬戸 皿?	+3 底部片	口 — 底 5.6 高 (1.0)	① ② ③明紫灰色	内面、口縁部に施したと思われる緑色の灰釉が溜まる部分あり。底部右回転糸切り無調整。見込み目痕4ヶ所。	中世
第124図2 P L49	常滑 甕	埋土 口縁部片	厚 1.5	① ② ③黒褐色		13c
第124図3 P L49	軟質陶器 壺	+4 口~肩部片	口 14.0 底 — 高 (5.5)	① ② ③褐灰色	器表と断面中央は還元、他は酸化炎でにぶい褐色を呈する。	中世
第124図4 P L49	常滑 甕	埋土 肩部小片	厚 1.0	① ② ③灰白色	外面自然釉かかる。器壁薄い。	中世
第124図5 P L49	常滑 甕	+1 体部下位片	厚 1.0	① ② ③外面 灰黄褐色 内面 褐灰色		中世
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第124図6 P L49	石製品 硯	+4 1/2	長 (6.9) 幅 6.5 厚 1.0 重 71	点紋頁岩		
第124図7 P L49	石器 凹石	+6 完形	長 13.8 幅 12.3 厚 7.4 重 1815	粗粒輝石安山岩	一部火を受ける。	

鳥山下9区87号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第125図1 P L49	瀬戸・美濃 陶器 腰鎧碗	+5 口縁部片	口 (10.0) 底 — 高 (4.3)	① ② ③内面灰白 外面褐色	内面から口縁部外面に灰釉、体部外面に鉄釉を施す。	江戸時代
第125図2 P L49	瀬戸・美濃 陶器 碗	+1 底~胴部片	口 — 底 (5.0) 高 (4.5)	① ② ③灰白色	絵付は手書きであるが酸化コバルトのような発色。	幕末~明治
第125図3 P L49	瓦 棧瓦	床直 破片	厚 1.5	① ② ③灰色	尻から差込みにかけての破片。	時期不詳
第126図4 P L49	瓦 角棧付伏間 瓦	床直 破片	厚 1.8	① ② ③灰色	角棧貼り付け部にカキヤブリが見える。	時期不詳
第126図5 P L49 255	瓦 角棧付伏間 瓦	床直 破片	厚 1.8	① ② ③灰色	角棧貼り付け部にカキヤブリ残る。	時期不詳

鳥山下10区111号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第127図1 P L51	龍泉窯系 青磁碗	埋土 体部片	厚 0.5	① ② ③灰白色	鎚連弁文碗。	中世

鳥山下10区96号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第131図1 P L49	肥前磁器 小碗	+30 2/3	口 7.3 底 3.0 高 3.5	① ② ③明緑灰色	外面篋状文描く。波佐見系。	江戸時代
第131図2 P L49	瀬戸・美濃 磁器 碗	埋土 口縁部片	口 (11.0) 底 — 高 (3.4)	① ② ③灰白色	型紙摺。	近代
第131図3 P L49	肥前磁器 碗	+30 1/3	口 (8.3) 底 — 高 (5.4)	① ② ③灰白色		江戸時代

遺物観察表

第131図4 P L 49	瀬戸・美濃 磁器 端反碗	+34 口~体部片	口 (9.0) 底 - 高 (5.3)	① ② ③灰白色	手描染付。発色は酸化コバルトに近い。	19C中~後
第131図5 P L 50	瀬戸・美濃 陶器 灯明皿	+28 1/2	口 (9.8) 底 (4.0) 高 2.2	① ② ③にふい赤褐色	内面から体部外面に錆釉。	江戸時代
第131図6 P L 50	瀬戸・美濃 陶器 灯明皿	+34 1/2	口 (8.2) 底 3.2 高 2.0	① ② ③にふい黄橙色	全面に錆釉施釉後、底部から口縁部外面の釉をぬぐう。	江戸時代
第131図7 P L 50	瀬戸・美濃 ?陶器 灯明皿	埋土 1/3	口 (9.6) 底 (3.6) 高 2.2	① ② ③灰色	内面から口縁部外面に灰釉。内面目痕1ヶ所残る。	19C中以降
第131図8 P L 50	瀬戸・美濃 陶器 灯明受皿	+22 1/2	口 (10.0) 底 (4.3) 高 1.8	① ② ③にふい赤褐色	全面錆釉施釉後に外面口縁部以下をぬぐう。	江戸時代
第131図9 P L 50	瀬戸・美濃 系陶器 蓋	+8 1/2	口 (4.9) 底 (3.4) 高 1.1	① ② ③灰オリーブ色	天井部外面灰釉。瓶の蓋であろう。	江戸~近代
第131図10 P L 50	肥前磁器 香炉	埋土 底部片	口 - 底 (6.8) 高 (2.6)	① ② ③明オリーブ灰色	蛇の目高台。高台内と外面青磁釉。	江戸時代
第131図11 P L 50	軟質陶器 瓦灯	+27 底部片	口 (17.6) 底 (20.4) 高 3.7	① ② ③暗灰色	在地系土器。瓦灯の底部のみ。底部外面は型作り痕残る。いぶし焼成。	江戸時代
第131図12 P L 50	常滑陶器 甕か鉢	+19 破片	厚 1.1	① ② ③灰褐色	263に似る。使用痕は認められない。	中世
第131図13 P L 50	堺・明石陶 器 播鉢	+30 口縁部片	厚 0.9	① ② ③にふい赤褐色		江戸時代
第131図14 P L 50	堺・明石陶 器 播鉢	+23 底部片	厚 1.0	① ② ③にふい赤褐色	外面へラ削り。	江戸時代
第131図15 P L 50	瓦 唐草軒瓦	+18 破片	厚 1.9	① ② ③灰色		時期不詳
第131図16 P L 50	瓦 棧瓦	+16 破片	厚 1.9	① ② ③暗灰色	棧瓦の頭差込み部か。	時期不詳
第132図17 P L 50	瓦 巴唐草軒瓦	+27 破片	厚 2.1	① ② ③灰色		時期不詳
第132図18 P L 50	瓦 唐草軒瓦	+24 破片	厚 1.6	① ② ③暗灰色		時期不詳
第132図19 P L 50	瓦 棧瓦	+5 破片	厚 1.8	① ② ③暗灰色	尻切り込み部。	時期不詳
第132図20 P L 50	瓦 丸瓦	+25 破片	厚 1.8	① ② ③灰色	玉縁あり。	時期不詳
第132図21 P L 50	瓦 角棧付伏間 288瓦	+15 破片	厚 1.8	① ② ③灰色		時期不詳
第133図22 P L 51	125 棧瓦	+23 1/3	厚 2.1	① ② ③灰色	棧から頭部片。	時期不詳

鳥山下遺跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第133図23 P L50	石製品	埋土	長 (8.3) 幅 (14.1) 厚 4.8 重 710	粗粒輝石安山岩	表裏・上面を整形。表・上面はより平滑。表面に文字。石造物の破片か。	
第133図24 P L51	石製品	+8 下半欠損	長 35.2 幅 25.2 厚 13.3 重 1630	粗粒輝石安山岩	表面、右側面は丁寧に整形されるか、裏・左・上面は粗く整形。裏面は中央が凹む。石段か。	
第134図25 P L51	石製品	+11 下半欠損	長 32.0 幅 25.1 厚 13.0 重 1250	粗粒輝石安山岩	表面、右側面は丁寧に整形されるか、裏・左・上面は粗く整形。裏面は中央が凹む。石段か。	
第134図26 P L50	石製品	埋土	長 (6.4) 幅 (8.5) 厚 7.9 重 440	粗粒輝石安山岩	表裏・左側面を平坦に整形した後、弱い研磨施す。石造物の破片か。	

鳥山下10区97号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第134図27 P L51	石製品 砥石	埋土 1/2	長 (5.4) 幅 2.4 厚 (3.2) 重 50	砥沢石	表面に使用面。使用により平滑。両側は一部に平タガネ痕見られる。裏面にも使用の痕跡認められるが平タガネ痕を全体に残す。	

鳥山下10区97・98・100号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第134図28 P L51	石製品	埋土 破片	長 (6.9) 幅 (12.5) 厚 5.7 重 513	粗粒輝石安山岩	外面と底面は丁寧に整形して平滑に仕上げる。外面下位に刻み1ヶ所、上位に段状の縁取り。内面は工具の痕跡残る。底面と内面下位に煤付着。	

鳥山下10区99号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第135図1 P L51	肥前磁器 碗	埋土 1/3	口 (9.0) 底 (3.5) 高 5.6	① ② ③		
第135図2 P L51	瓦 棧瓦	埋土 破片	厚 1.8	① ② ③暗灰色	尻の切り込み部分。釘穴1ヶ所。	時期不詳
第135図3 P L51	瓦 棧瓦	埋土 破片	厚 1.8	① ② ③	棧部分片。	時期不詳
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第135図4 P L51	石製品	埋土	長 (11.7) 幅 (10.3) 厚 9.0 重 1360	角閃石安山岩	表面を整形しているが明らかな調整痕見られない。表面弱い磨耗。石造物の破片か。	
第135図5 P L51	石製品 石臼	埋土 1/2	長 29.7 幅 (17.0) 厚 12.2 重 850	粗粒輝石安山岩	下臼。挽き目磨耗激しく不鮮明。左回り6分割か。裏面は中央の孔に向かって漏斗状にくぼむ。	

鳥山下9区81号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第147図1 P L51	須恵器 高台付碗	埋土 底部片	口 - 底 (6.5) 高 (2.2)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③灰黄色	体部に丸味。高台低く断面四角形。轆轤整形(右回転)、底部回転糸切り後付高台。	

鳥山下9区85号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第149図1 P L51	土師器 坏	埋土 1/4	口 (13.9) 底 (7.4) 高 (4.3)	①細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	体部緩やかに外傾し、底部平底。口縁部横ナデ、体部上半不明瞭なナデ、下半横位ヘラ削り。底部ヘラ削り。	
第149図2 P L51	土師器 高台付碗	+18 底部片	口 - 底 7.2 高 (2.5)	①細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	高台断面四角形で「ハ」の字状に開く。付高台接合部横ナデ。底部外面中央細砂粒付着。	高台内カーボン付着

遺物観察表

鳥山下9区89号溝跡

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第151図1 P L51	須恵器 坏	+27 底部片	口 - 底 5.9 高 (2.0)	①細砂粒少量 ②酸化焰 ③明赤褐色	轆轤整形(右回転)、底部回転糸切り。	

鳥山下遺構外 縄文

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第157図1 P L51	縄文 深鉢	9区 胴部片	厚 0.9	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	R Lを縦位施文後沈線を施文する。	加曾利E 3
第157図2 P L51	縄文 深鉢	10区 口縁部片	厚 0.9	①細砂粒 ②良好 ③灰色	沈線で口唇部を区画している。 表面が磨滅している。	加曾利E 4
第157図3 P L51	縄文 深鉢	9区 口縁部片	厚 1.6	①細砂粒 ②良好 ③淡黄色	R L縄文施文後沈線で区画している。 NO.308~312と同一個体。	加曾利E 3
第157図4 P L51	縄文 深鉢	9区 胴部片	厚 1.2	①細砂粒 ②良好 ③淡黄色	表面が著しく磨滅している。NO.307・309 ~312と同一個体。	加曾利E 3
第157図5 P L51	縄文 深鉢	9区 胴部片	厚 1.5	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色	表面が著しく磨滅している。NO.307・308 ~312と同一個体。	加曾利E 3
第157図6 P L52	縄文 深鉢	9区 胴部片	厚 1.4	①細砂粒 ②良好 ③淡黄色	表面が著しく磨滅している。NO.307~309 ・311・312と同一個体。	加曾利E 3
第157図7 P L52	縄文 深鉢	9区 胴部片	厚 1.4	①細砂粒 ②良好 ③淡黄色	表面が著しく磨滅している。NO.307~310 ・312と同一個体。	加曾利E 3
第157図8 P L52	縄文 深鉢	9区 底部片	口 - 底 7.0 高 3.5	①細砂粒 ②良好 ③淡黄色	表面が著しく磨滅している。NO.307~311 と同一個体。	加曾利E 3
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第158図9 P L52	石器 尖頭器	10区 ほぼ完形	長 (4.2) 厚 0.6	幅 1.7 重 6	チャート	両端が欠く。
第158図10 P L52	石器 打製石斧	9区 完形	長 12.0 厚 2.4	幅 7.8 重 272	ホルンフェルス	表面が磨滅している。
第158図11 P L52	石器 打製石斧	9区 4/3	長 (10.1) 厚 3.1	幅 7.0 重 312	ホルンフェルス	
第158図12 P L52	石器 磨石	9区 完形	長 8.1 厚 4.1	幅 6.6 重 277	粗粒輝石安山岩 備考	敲打痕もあり。

鳥山下遺構外 奈良・平安

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第159図1 P L52	土師器 坏	9区 1/3	口 (13.2) 底 - 高 3.6	①微砂粒多量 ②良好 ③橙色	体部内湾し、口縁短く直立。底部扁平な丸底。 口縁部横ナデ、体部不明瞭なナデ、底部ヘラ 削り。	
第159図2 P L52	土師器 坏	9区 1/4	口 (13.2) 底 - 高 3.0	①微・細砂粒含 ②良好 ③にぶい褐色	口縁内湾、底部扁平な丸底。口縁部横ナデ、 体部不明瞭なナデ、底部ヘラ削り。	
第159図3 P L52	土師器 坏	9区 1/8	口 (16.0) 底 - 高 (3.6)	①微砂粒含 ②良好 ③にぶい赤褐色	体部丸味をもち口縁外傾、底部扁平な丸底。 口縁部横ナデ、体部不明瞭なナデ、底部ヘラ 削り。	
第159図4 P L52	須恵器 坏	埋土 1/5	口 (13.9) 底 (8.0) 高 (3.6)	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	体部直線的に外傾。轆轤整形(右回転)。底部 回転ヘラ削り。	
第159図5 P L52	須恵器 坏	10区 1/4	口 (12.1) 底 (7.0) 高 3.7	①白色粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	体部直線的に外傾。轆轤整形(右回転)、底部 回転糸切り後、外縁部回転ヘラ削り。	体部歪み

第159図6 P L 52	須恵器 坏	10区 底部片	口 - 底 (8.0) 高 (1.4)	①白色微・粗粒含 ②還元焰 ③灰色	轆轤整形(右回転)。底部回転系切り後回転へラ削り。体部最下位回転へラ削り。	
第159図7 P L 52	土師器 坏	+3 1/4	口 (13.0) 底 (5.0) 高 3.6	①微砂粒少量 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	体部僅かに丸味をもち、口縁外反。轆轤整形(回転方向不明)。	
第159図8 P L 52	須恵器 坏	9区 1/4	口 - 底 (6.0) 高 (2.6)	①微砂粒含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	轆轤整形(右回転)。底部回転系切り。	器面の荒れ 荒れ
第159図9 P L 52	須恵器 坏	9区 底部片	口 - 底 6.0 高 (3.4)	①微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	体部直線的に外傾。轆轤整形(右回転)、底部回転系切り。	
第160図10 P L 52	須恵器 碗	9区 口~体部片	口 (14.0) 底 - 高 (5.5)	①細砂粒含 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部僅かに丸味をもち、外傾。轆轤整形(右回転)。高台貼付痕。	底部外面鉄 分付着
第160図11 P L 52	須恵器 高台付碗	底部片	口 - 底 (7.3) 高 (2.9)	①細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	高台断面丸味をもつ四角形。轆轤整形(右回転)。底部回転系切り後付高台。	
第160図12 P L 52	須恵器 高台付碗	10区 底部片	口 - 底 (6.1) 高 (3.4)	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄褐色	体部直線的に外傾、高台断面三角形。轆轤整形(右回転)、底部回転系切り後、付高台。	
第160図13 P L 52	須恵器 鉢	9区 底部片	口 - 底 (13.0) 高 (3.7)	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤整形、回転右回り。底部回転系切り。	
第160図14 P L 52	須恵器 小型壺	10区 ほぼ完形	口 8.6 底 4.5 高 9.6	①細・粗砂粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁内傾し端部外反。体部球状で上位に最大径。轆轤整形(右回転)、底部回転系切り。口縁部横ナデ、胴部上位ナデ、下位横位へラ削り。内面ナデ。	
第160図15 P L 52	土師器 甕	9区 口~体部片	口 (19.4) 底 - 高 (9.6)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁短く外傾、口唇端部に沈線1条巡る。胴部僅かに膨らむ。口縁部横ナデ、胴部へラ削り。	外面カーボン 付着。器 面剝離。
第160図16 P L 52	土師器 甕	9区 口縁部片	口 (17.7) 底 - 高 (5.4)	①微・細砂粒含 ②良好 ③橙色	緩やかな「コ」の字状口縁。口縁部横ナデ、胴部横位へラ削り。内面へラナデ。	
第160図17 P L 52	須恵器 甕	10区 口縁部片	口 - 底 - 高 (7.4)	①微砂粒少量 ②還元焰 硬質 ③オリーブ黒	外面横位沈線3条巡り、沈線内橋滴波状文。	
第160図18 P L 52	灰釉陶器 長頸壺	埋土 底部片	口 - 底 (7.4) 高 (2.4)	①微砂粒微量 ②還元焰 ③灰白色	低く断面四角形の高台で接地面広い。轆轤整形。底部切り離した後ナデ。付高台。施釉方法不明。	内面自然釉
第160図19 P L 52	土製品 土錘	9区 ほぼ完形	長 5.3 幅 2.0 孔径 0.8	①微・細砂粒含 ②良好 ③にぶい橙色	端部未調整。外面ナデ。	

鳥山下遺構外 中世

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第161図1 P L 51	軟質陶器 播鉢	10区 底部片	口 - 底 (12.0) 高 (7.9)	① ② ③灰色	内面体部下位から底部使用により摩滅。底部と体部接は摩滅しない。底部回転系切り無調整。	中世
挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm・g)		器形・技法等の特徴	備考
第161図2 P L 52	銭	9区 完形	外輪系 2.4 重 2.7	内輪系 0.5 銅	寛永通寶。	

鳥山下10区10号掘立柱

挿図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第96図2 P L 52	須恵器 坏蓋	ピット8 1/6	口 - 底 (12.0) 高 (7.9)	① ②還元焰 ③灰色	轆轤整形。摘み貼付。天井部回転へラ削り。	

発掘調査報告書抄録

ふりがな	ねんぶいせき、 とりやましもいせき
書名	年保遺跡、鳥山下遺跡
副書名	(主)太田大間々線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1集
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第321集
編著者名	亀山 幸弘
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2 Tel 0279 (52) 2511
発行年月日	平成15年(2003)年9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ねんぶ 年保	ぐんまけん おおたし 群馬県太田市 おおしままち 大島町	10205	市： 0259 県： 5025900	36°18'00"	139°21'37"	20001001) 20010331	2400	道路建設
とりやましも 鳥山下	ぐんまけん おおたし 群馬県太田市 とりやまなかまち 鳥山中町	10205		36°18'37"	139°20'57"	20010401) 20020331 20020513) 20020516 20020717) 20020723	6439	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
年保	集落	古墳時代	竪穴住居 20軒 土坑24基 溝 1条 井戸 2基 など	土師器 須恵器 木器	
鳥山下	集落	中近世	土坑3基 溝2条	陶磁器	
		古墳時代	竪穴住居1軒	土師器	奈良時代の大規模建物跡の検出
		奈良・ 平安時代	竪穴住居19軒 掘立柱建物跡4棟 井戸3基 土坑14基	土師器 須恵器	
		中近世	井戸1基 土坑28基 溝18条 など	陶磁器 瓦	

写 真 图 版



鳥山下遺跡

発掘調査
未対象地



(前沖遺跡)

発掘調査
未対象地



年保遺跡

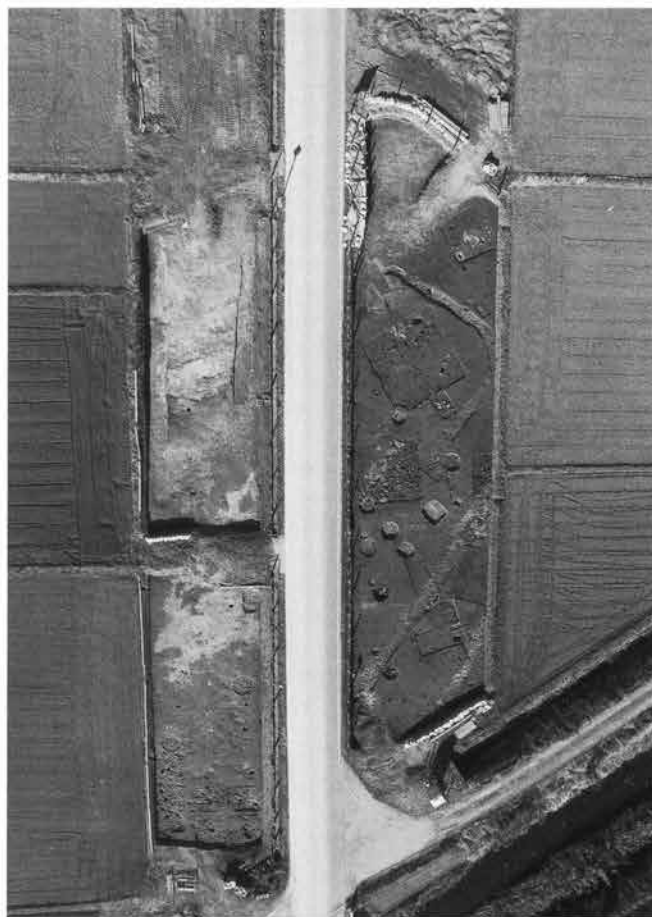
年保・鳥山下遺跡全景（上空より）



年保遺跡遠景（西上空より）



年保1区（上空より）



年保2・3区（上空より）



年保1区作業風景（南より）



年保3区作業風景（南西より）



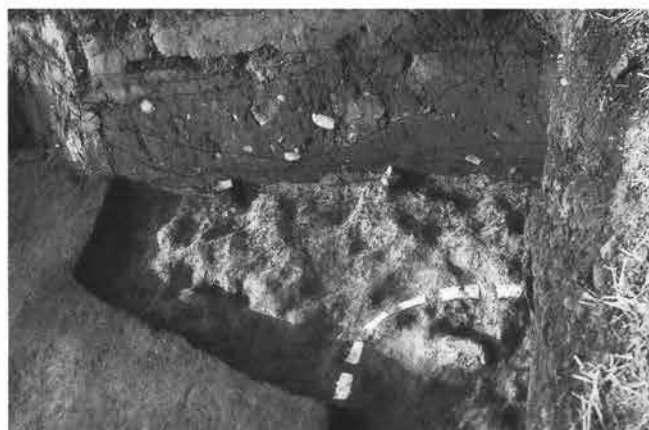
年保1区1号住居掘り方全景（東より）



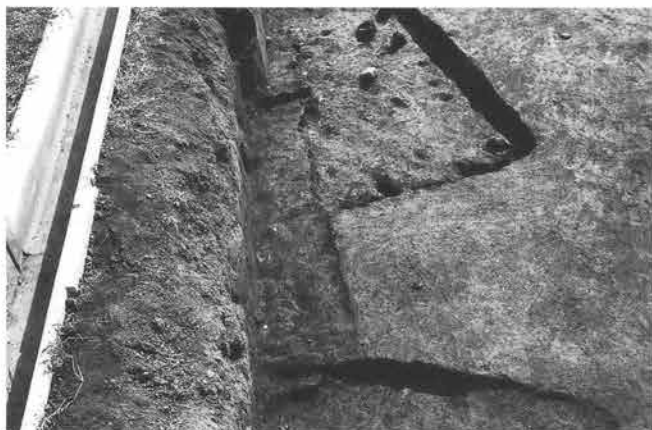
年保1区1号住居貯蔵穴（南より）



年保1区2号住居全景（南より）



年保1区2号住居掘り方全景（南より）



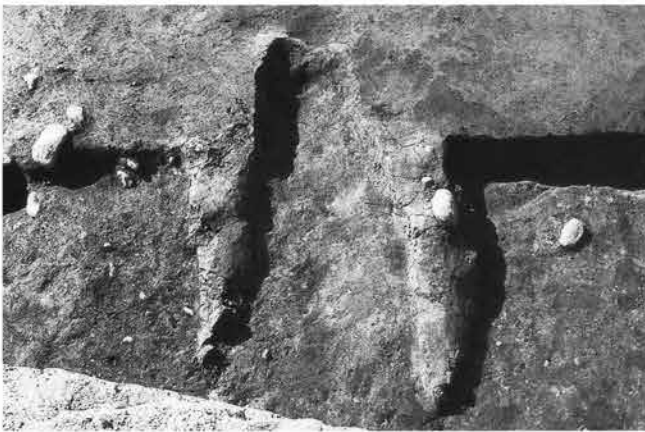
年保1区3号住居全景（北より）



年保1区3号住居掘り方全景（北より）



年保1区4号住居遺物出土状況全景（西より）



年保1区4号住居竈全景（東より）



年保1区4号住居遺物出土状況（西より）



年保1区4号住居遺物出土状況（西より）



年保1区4号住居貯蔵穴遺物出土状況（西より）



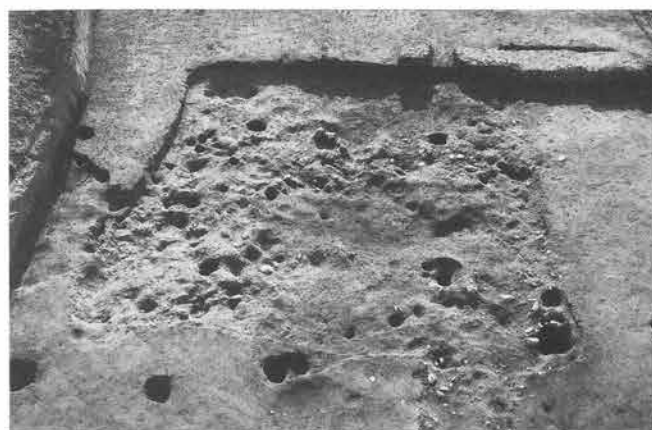
年保1区4号住居掘り方全景(西より)



年保1区4号住居竈掘り方全景(東より)



年保1区5号住居遺物出土状況(南より)



年保1区5号住居掘り方全景(北より)



年保1区6号住居遺物出土状況(北西より)



年保1区6号住居掘り方セクション(南西より)



年保1区7号住居掘り方セクション(西より)



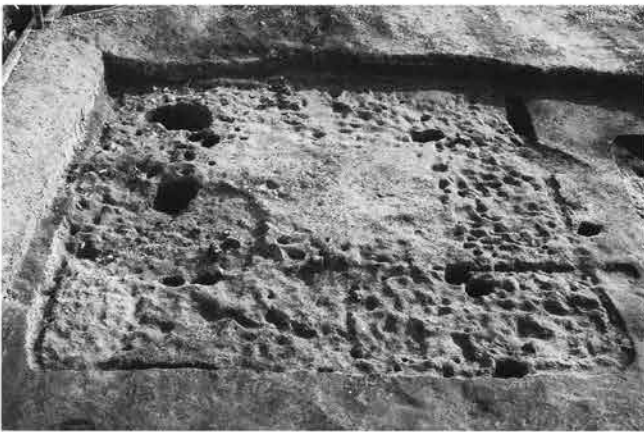
年保2区8号住居掘り方全景(東より)



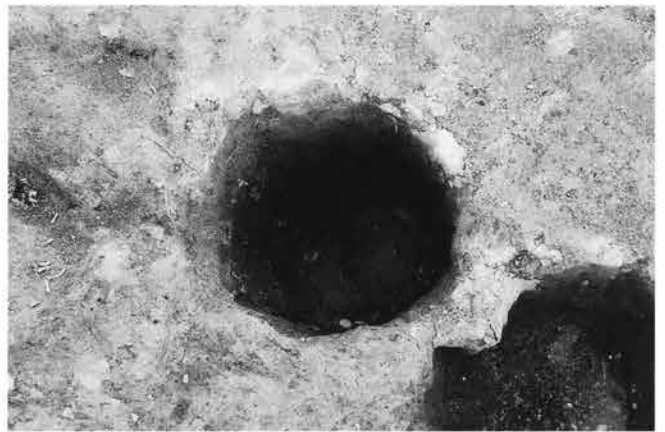
年保2区9号住居焼土・炭出土状況（北より）



年保2区9号住居ピットセクション（北より）



年保2区9号住居掘り方全景（北より）



年保2区9号住居ピット（南より）



年保3区10号住居遺物出土状況（東より）



年保3区10号住居掘り方全景（東より）



年保3区11号住居全景（西より）



年保3区11号住居掘り方全景（西より）



年保3区11号住居竈全景（西より）



年保3区11号住居竈掘り方セクション（西より）



年保3区12号住居全景（西より）



年保3区12号住居ピット2遺物出土状況（南より）



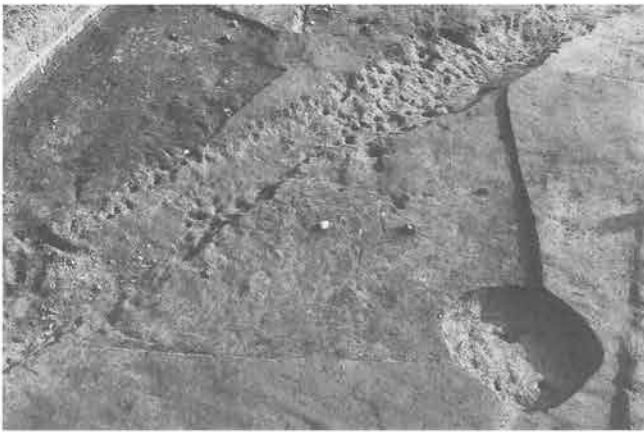
年保3区12号住居ピット1セクション（南より）



年保3区12号住居遺物出土状況（南より）



年保3区12号住居掘り方全景（西より）



年保3区13号住居遺物出土状況（北より）



年保3区13号住居掘り方全景（西より）



年保3区14号住居遺物出土状況（南より）



年保3区14号住居全景（南より）



年保3区14号住居竈全景（南より）



年保3区14号住居遺物出土状況（東より）



年保3区14号住居貯蔵穴（南より）



年保3区15号住居遺物出土状況（西より）



年保3区15号住居セクション（南より）



年保3区15号住居全景（西より）



年保3区15号住居掘り方全景（西より）



年保3区16号住居遺物出土状況（西より）



年保3区16号住居掘り方全景（西より）



年保3区16号住居遺物出土状況（西より）



年保3区17号址掘り方全景（西より）



年保3区18号住居遺物出土状況（南より）



年保3区18号住居遺物出土状況（南より）



年保3区18号住居竈全景（南より）



年保3区18号住居遺物出土状況（南より）



年保3区18号住居貯蔵穴セクション（南より）



年保3区18号住居掘り方全景（南より）



年保3区19号址掘り方全景（南より）

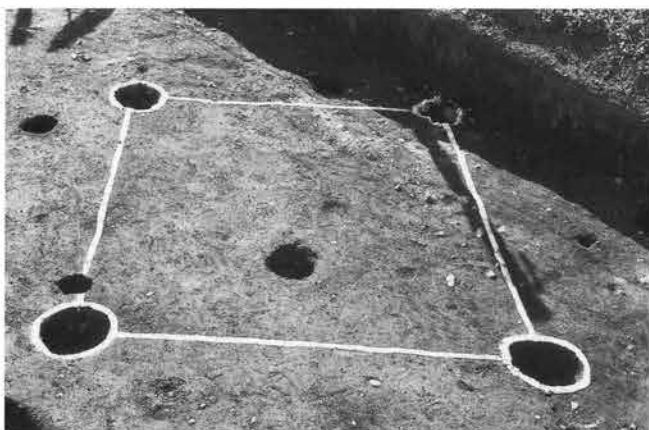
年保3区19号址全景（南より）



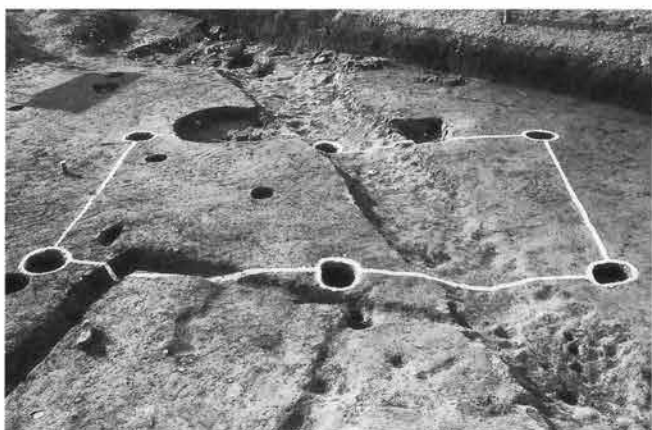
年保3区20号住居掘り方全景（南より）



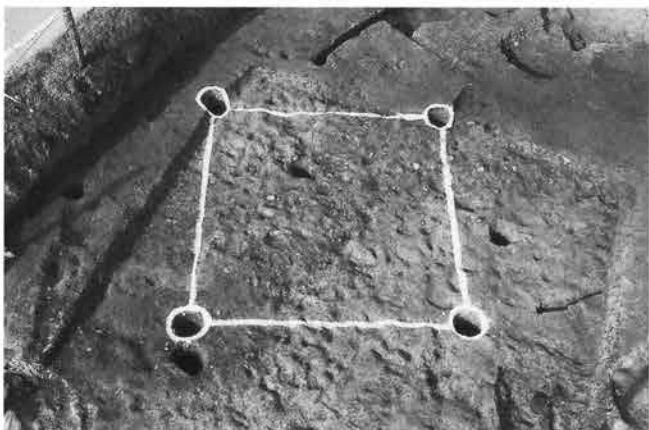
年保3区20号住居貯蔵穴セクション（東より）



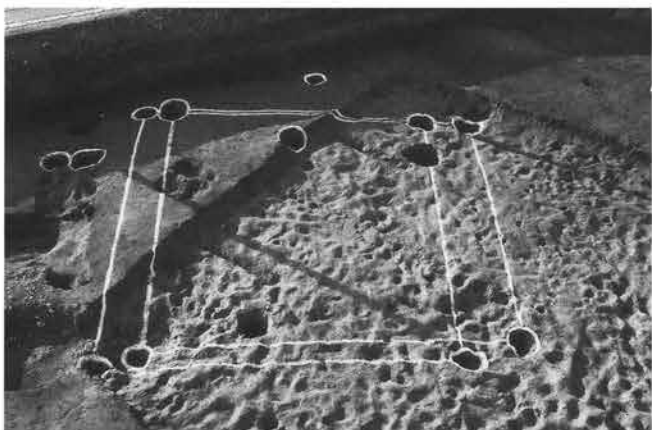
年保1区1号掘立柱建物跡全景（北東より）



年保3区2号掘立柱建物跡全景（南東より）



年保3区3号掘立柱建物跡全景（南より）



年保3区4・5号掘立柱建物跡全景（東より）



年保1区1号井戸全景（南東より）



年保1区1号井戸セクション（南東より）



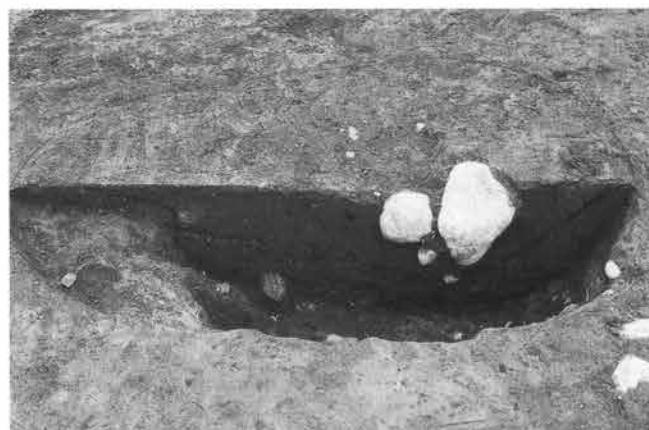
年保1区2号井戸全景（南より）



年保1区2号井戸遺物出土状況（北東より）



年保1区6号土坑遺物出土状況（西より）



年保1区6号土坑セクション（南東より）



年保3区21号土坑遺物出土状況（南より）



年保3区21号土坑セクション（南より）



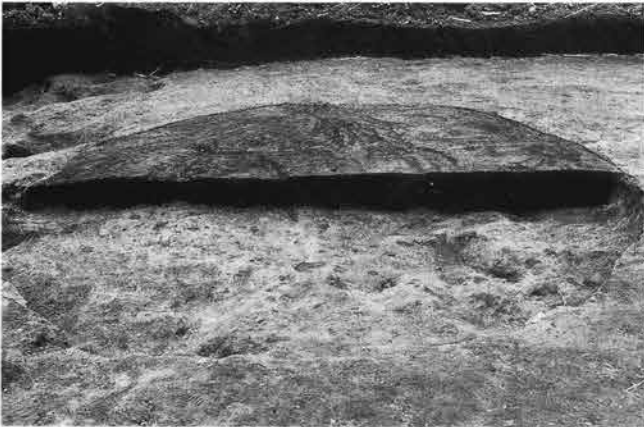
年保3区27号土坑遺物出土状況（東より）



年保3区27号土坑掘り方全景（南より）



年保3区28号土坑セクション (東より)



年保2区11号土坑セクション (東より)



年保3区3号溝全景 (西より)



年保3区1・2号溝全景 (上空より)



年保3区1号溝セクション (南より)

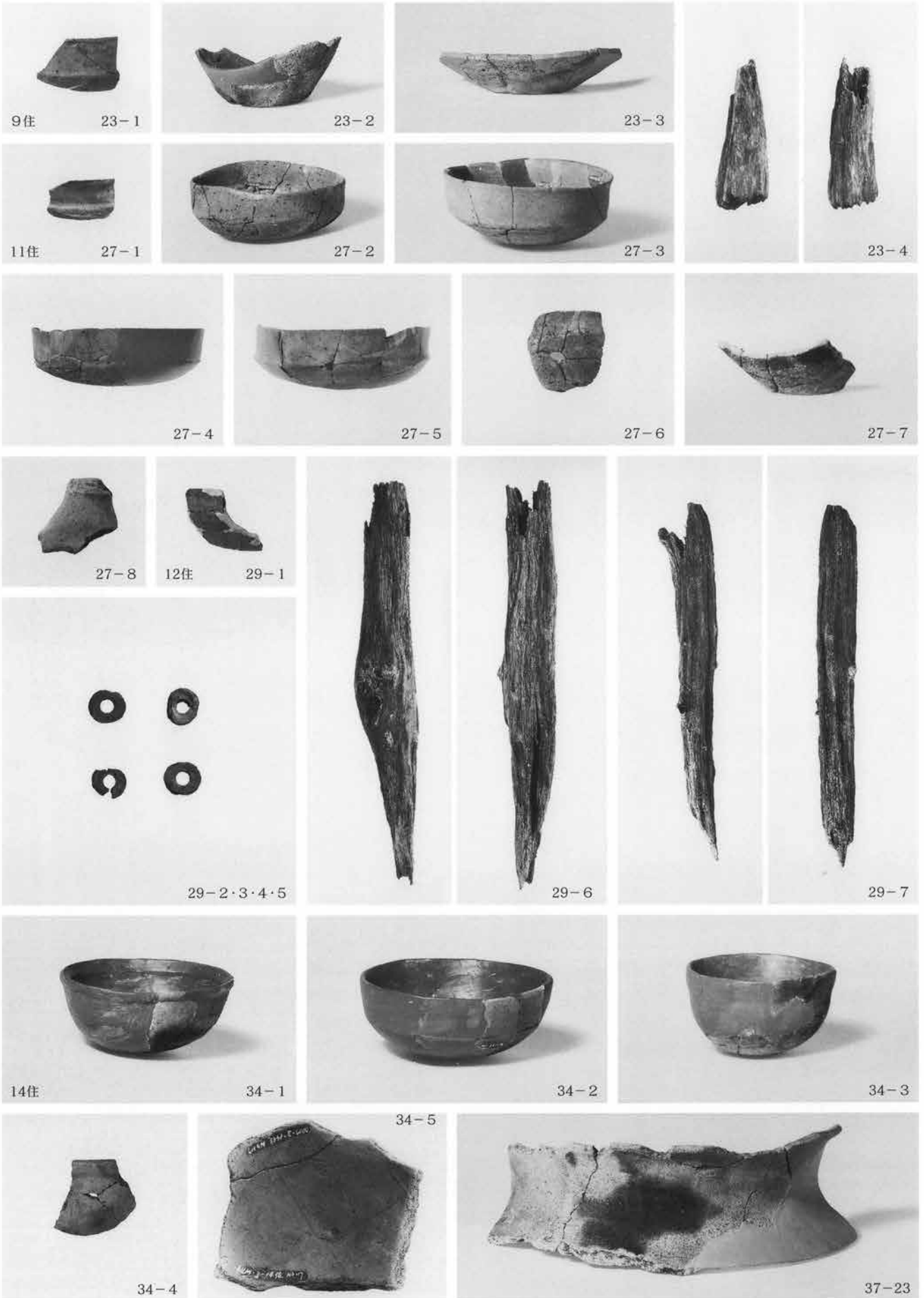


年保3区2号溝セクション (南より)

年保1区1・4・5・6号住居出土遺物



年保2区9号住居、3区11・12・14号住居出土遺物



年保3区14号住居出土遺物



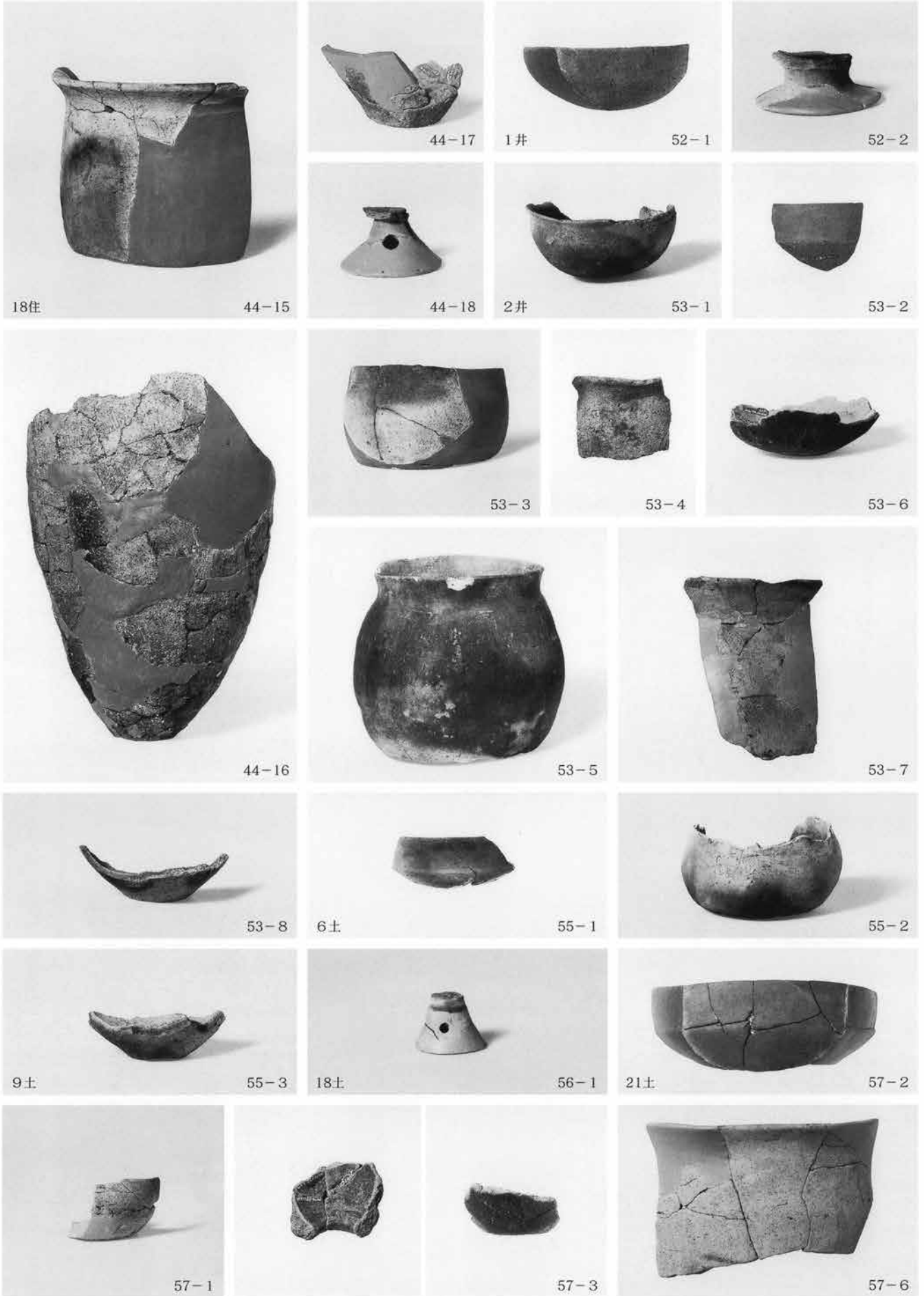
年保3区14・15・16号住居出土遺物



年保3区16・18号住居出土遺物



年保1区1・2号井戸、6号土坑、2区9号土坑、3区18号住居、18・21号土坑出土遺物



年保3区21・26・27号土坑出土遺物



年保3区2号溝、1・2・3区遺構外出土遺物





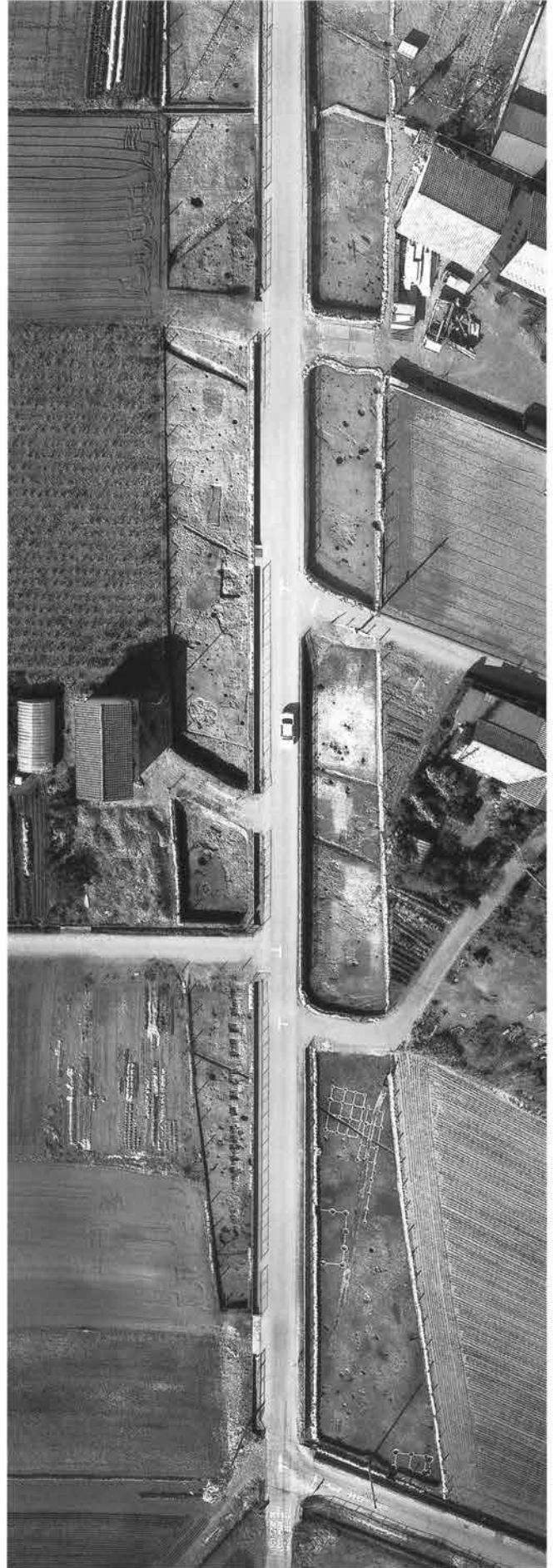
鳥山下遺跡全景（南上空より）



鳥山下遺跡全景（北西上空より）



鳥山下遺跡北半全景（上空より）



鳥山下遺跡南半全景（上空より）



鳥山下9区90号住居掘り方全景（南より）



鳥山下9区91号住居全景（西より）



鳥山下9区91号住居竈全景（西より）



鳥山下9区91号住居遺物出土状況（西より）



鳥山下9区92号住居セクション（西より）



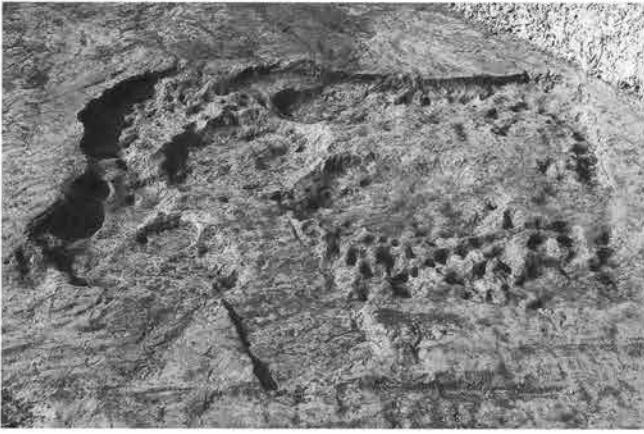
鳥山下9区94号住居掘り方全景（西より）



鳥山下9区94号住居ピットセクション（西より）



鳥山下9区95・98号住居セクション（北より）



鳥山下9区97号住居掘り方全景（東より）



鳥山下9区97号住居掘り方遺物出土状況（東より）



鳥山下10区99号住居全景（東より）



鳥山下10区100号住居掘り方全景（東より）



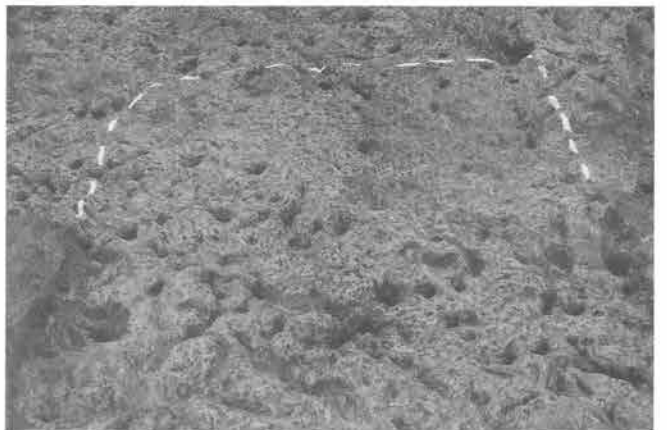
鳥山下10区100号住居内土坑（南より）



鳥山下10区101号住居掘り方全景（東より）



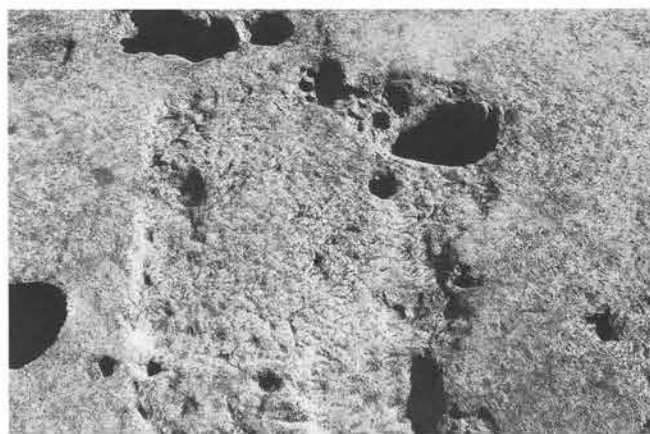
鳥山下10区101号住居遺物出土状況（東より）



鳥山下10区102号住居掘り方全景（東より）



鳥山下10区103号住居掘り方全景（西より）



鳥山下10区104号住居掘り方全景（西より）



鳥山下10区105号住居掘り方全景（北西より）



鳥山下10区105号住居竈掘り方全景（西より）



鳥山下10区106号住居全景（西より）



鳥山下10区106号住居掘り方全景（西より）



鳥山下10区107号住居掘り方全景（西より）



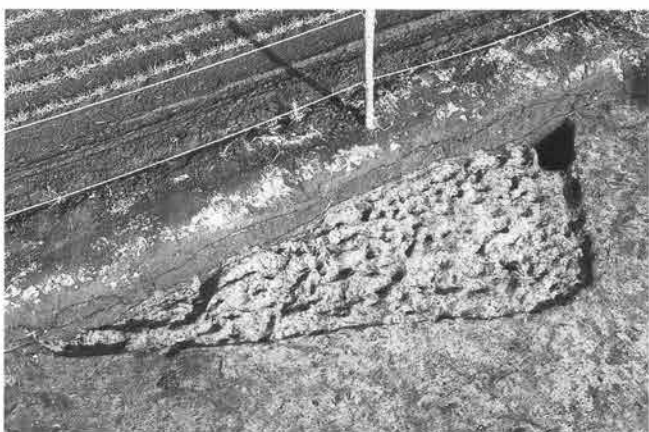
鳥山下10区108号住居掘り方全景（西より）



鳥山下10区109号住居全景（北東より）



鳥山下10区109号住居掘り方全景（北東より）



鳥山下10区110号住居掘り方全景（西より）



鳥山下10区111号住居掘り方全景（西より）



鳥山下9区112号址全景（南より）



鳥山下10区104号住居竈掘り方セクション（南より）



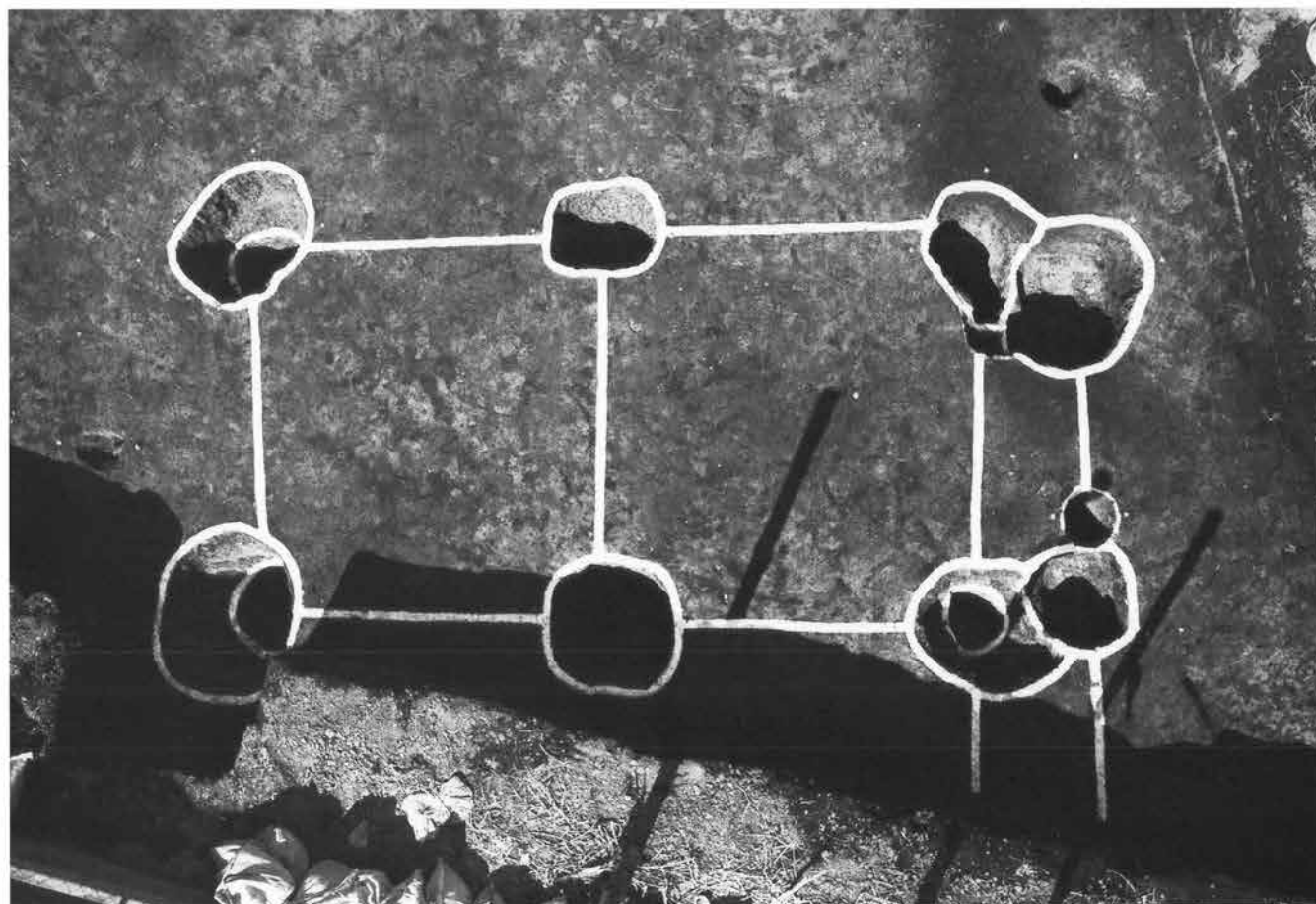
鳥山下9区9号掘立柱ピット7全景（北より）



鳥山下9区9号掘立柱ピット7セクション（西より）



鳥山下9区9号掘立柱建物跡全景（南より）



鳥山下10区10号掘立柱建物跡全景（上空より）



鳥山下10区11号掘立柱建物跡全景（南より）



鳥山下10区13号掘立柱建物跡全景（西より）



鳥山下10区13号掘立柱建物跡ピット4全景 (南より)



鳥山下10区13号掘立柱建物跡ピット8・3セクション (南西より)



鳥山下9区10号井戸全景 (南より)



鳥山下9区10号井戸遺物出土状況 (南東より)



鳥山下9区10号井戸遺物出土状況 (南より)



鳥山下9区11号井戸全景 (南より)



鳥山下9区12号井戸全景 (南より)



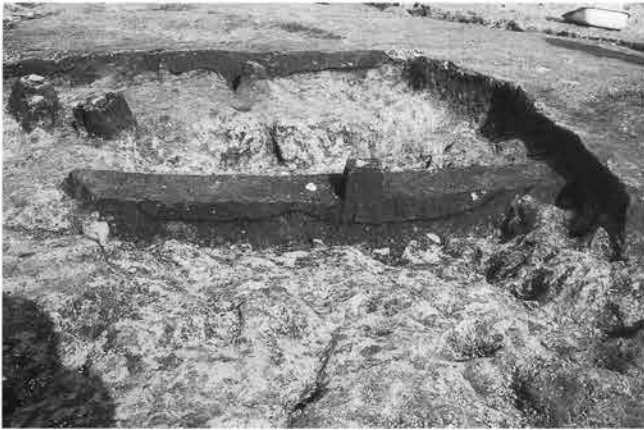
鳥山下9区12号井戸遺物出土状況 (南より)



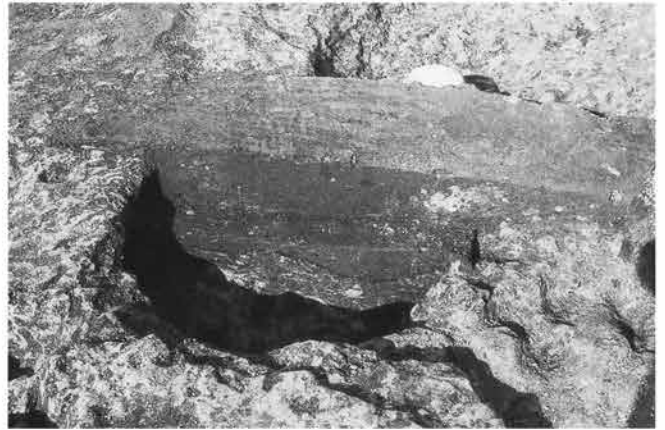
鳥山下9区188号土坑遺物出土状況（東より）



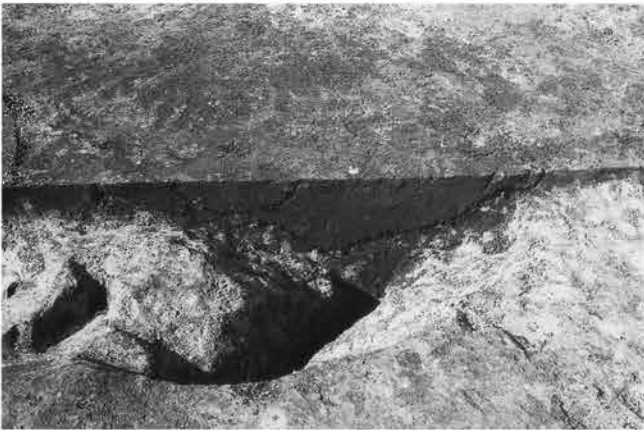
鳥山下9区196号土坑セクション（南より）



鳥山下9区197号土坑セクション（南より）



鳥山下9区198号土坑セクション（南より）



鳥山下9区201号土坑セクション（東より）



鳥山下9区203号土坑遺物出土状況（南より）



鳥山下9区231・505号土坑セクション（北西より）



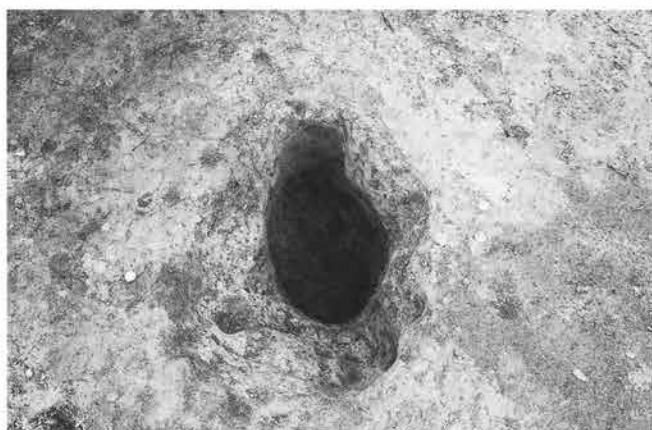
鳥山下9区252号土坑セクション（南より）



鳥山下10区294号土坑遺物出土状況 (南より)



鳥山下10区294号土坑セクション (南より)



鳥山下10区295号土坑全景 (南より)



鳥山下10区322号土坑セクション (南より)



鳥山下10区401号土坑遺物出土状況 (南より)



鳥山下9区5号竪穴状遺構全景 (北より)



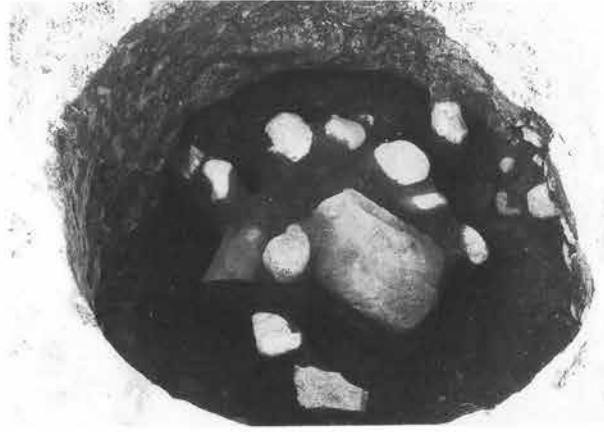
鳥山下10区13号井戸完掘状況 (南より)



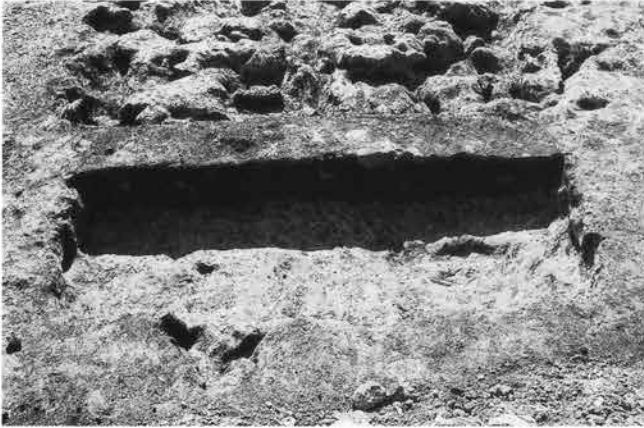
鳥山下10区13号井戸セクション (南より)



鳥山下9区146号土坑遺物出土状況（南より）



鳥山下9区147号土坑遺物出土状況（南より）



鳥山下9区199号土坑セクション（北より）



鳥山下9区200号土坑遺物出土状況（東より）



鳥山下9区204号土坑全景（西より）



鳥山下10区271・272号土坑セクション（西より）



鳥山下10区276号土坑遺物出土状況（南より）



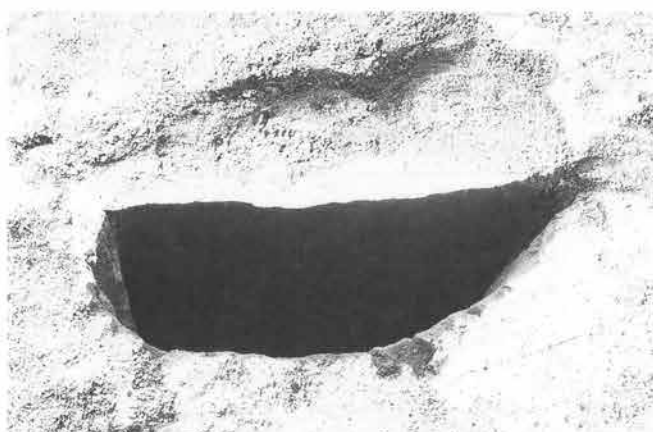
鳥山下10区277号土坑セクション（南より）



鳥山下10区279号土坑セクション (南より)



鳥山下10区286・287号土坑遺物出土状況 (南より)



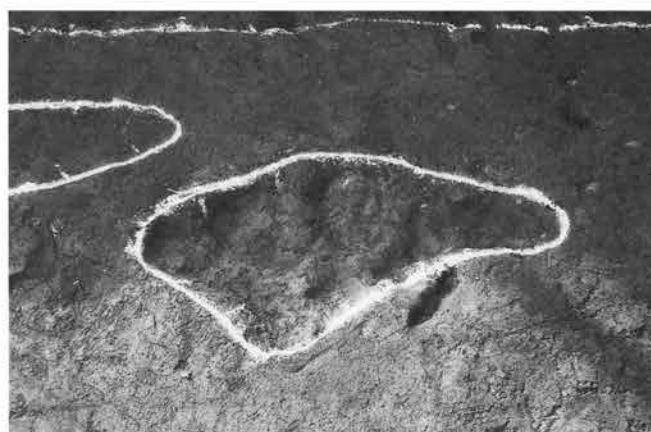
鳥山下10区289号土坑セクション (南より)



鳥山下10区308号土坑セクション (西より)



鳥山下10区318・319号土坑全景 (東より)



鳥山下10区320号土坑全景 (東より)



鳥山下10区325号土坑セクション (西より)



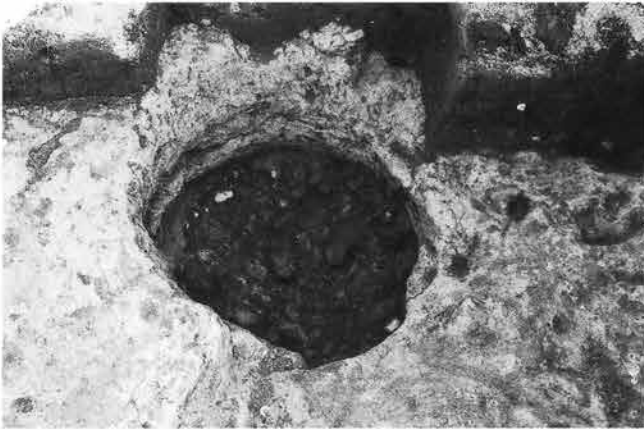
鳥山下10区329号土坑セクション (西より)



鳥山下10区331号土坑セクション (西より)



鳥山下10区332・333号土坑セクション (西より)



鳥山下10区335号土坑全景 (西より)



鳥山下10区335号土坑遺物出土状況 (西より)



鳥山下10区337号土坑セクション (南より)



鳥山下10区363号土坑セクション (東より)



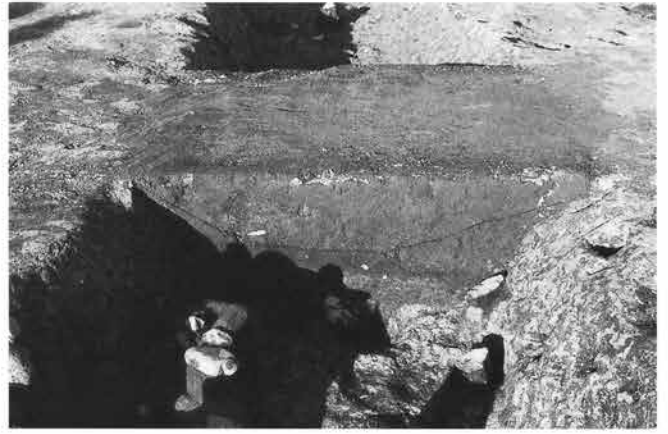
鳥山下10区367号土坑遺物出土状況 (北東より)



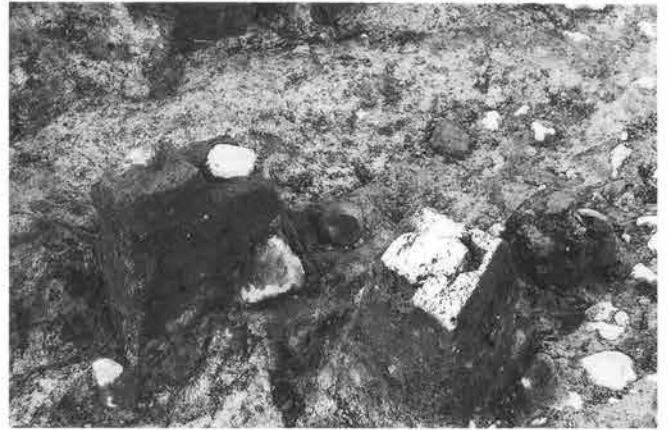
鳥山下10区502号土坑セクション (南より)



鳥山下9区82号溝全景（北東より）



鳥山下9区82号溝セクション（西より）



鳥山下9区82号溝遺物出土状況（西より）



鳥山下9区83号溝全景（東より）



鳥山下9区83号溝セクション（西より）



鳥山下9区93号溝遺物出土状況（南より）



鳥山下9区87号溝全景（北西より）



鳥山下9区90号溝全景（東より）



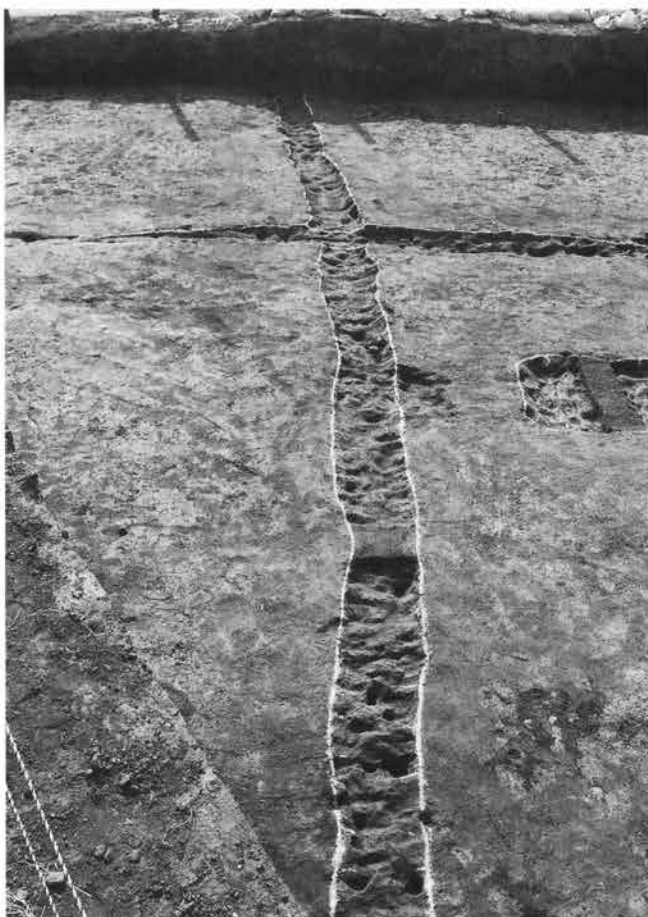
鳥山下10区96号溝遺物出土状況第1面（東より）



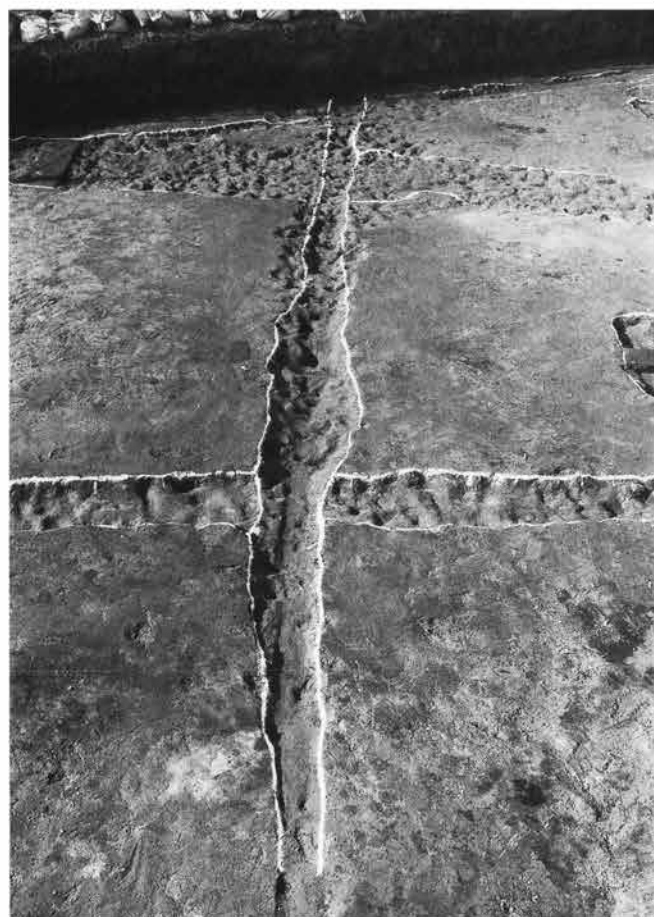
鳥山下10区96号溝遺物出土状況第4面（東より）



鳥山下10区97・99・100号溝全景（北より）



鳥山下10区103号溝全景（北より）



鳥山下10区104号溝全景（東より）



鳥山下10区105号溝全景（北より）



鳥山下10区107号溝全景 (東より)



鳥山下10区108号溝セクション (東より)



鳥山下10区112号溝全景 (東より)



鳥山下10区111号溝全景 (東より)



鳥山下10区115号溝全景 (東より)



鳥山下9区8号掘立柱建物跡全景（南より）



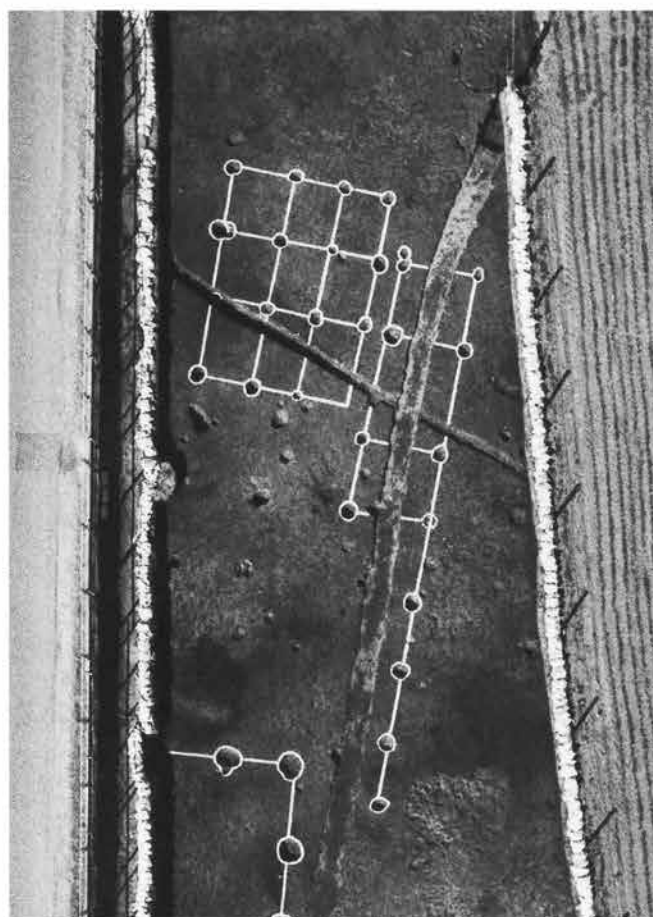
鳥山下9区9号井戸全景（南より）



鳥山下9区142号土坑全景（南より）



鳥山下9区169号土坑全景（南より）



鳥山下10区12号掘立柱建物、1号柵列跡（上空より）



鳥山下9区190号土坑全景（南より）



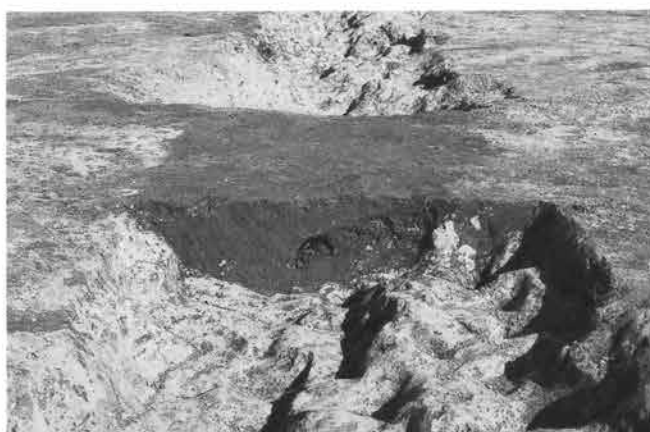
鳥山下9区215号土坑セクション（南より）



鳥山下9区80・81号溝全景（上空より）



鳥山下9区80号溝セクション（南より）



鳥山下9区81号溝セクション（南より）



鳥山下9区84号溝全景（北より）



鳥山下9区85号溝全景（北より）



鳥山下9区86号溝全景（東より）



鳥山下9区88号溝全景（西より）



鳥山下9区91・92号溝セクション（北より）



鳥山下10区93・94・95号溝セクション（東より）

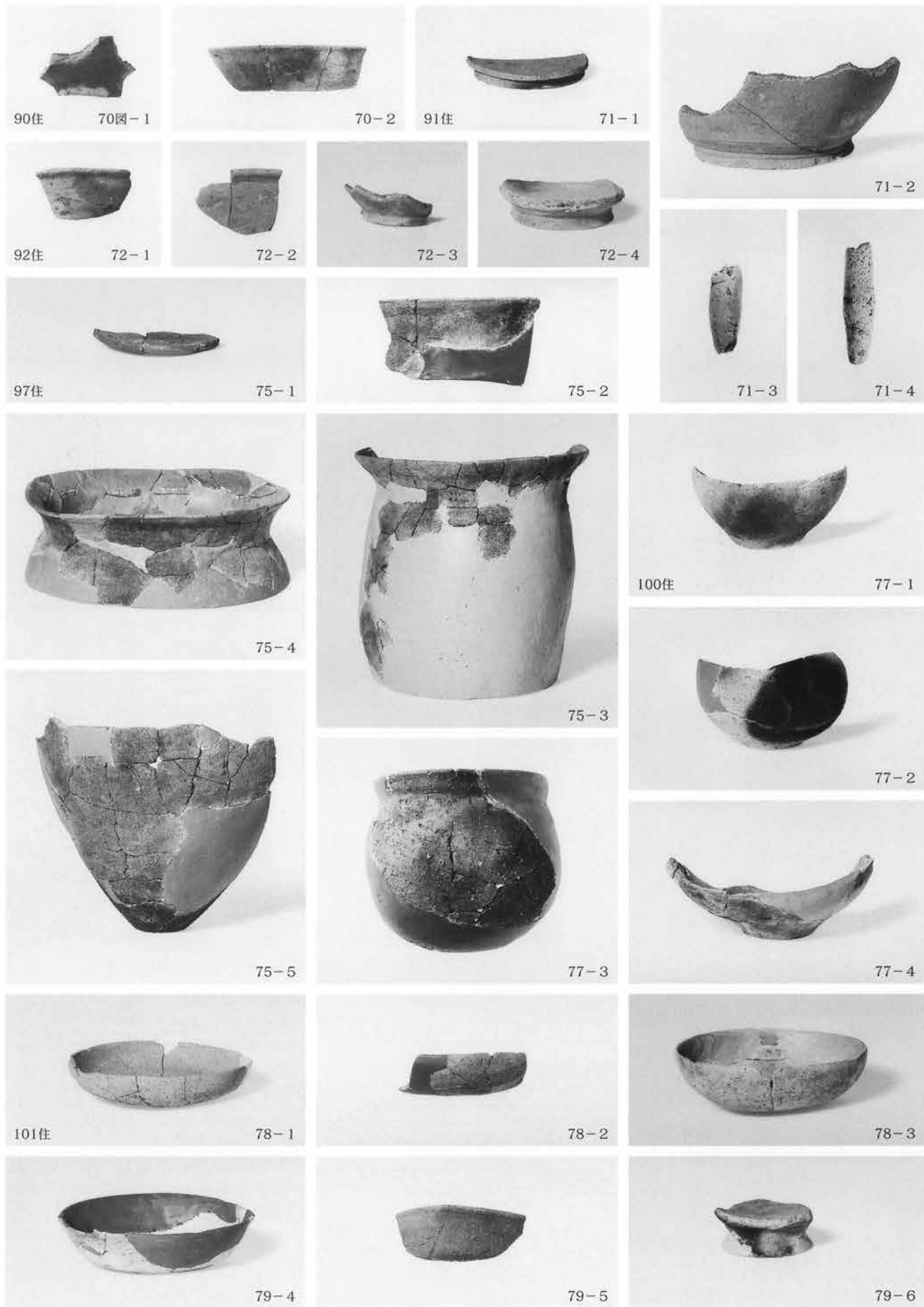


鳥山下10区103・109・110号溝セクション（南より）

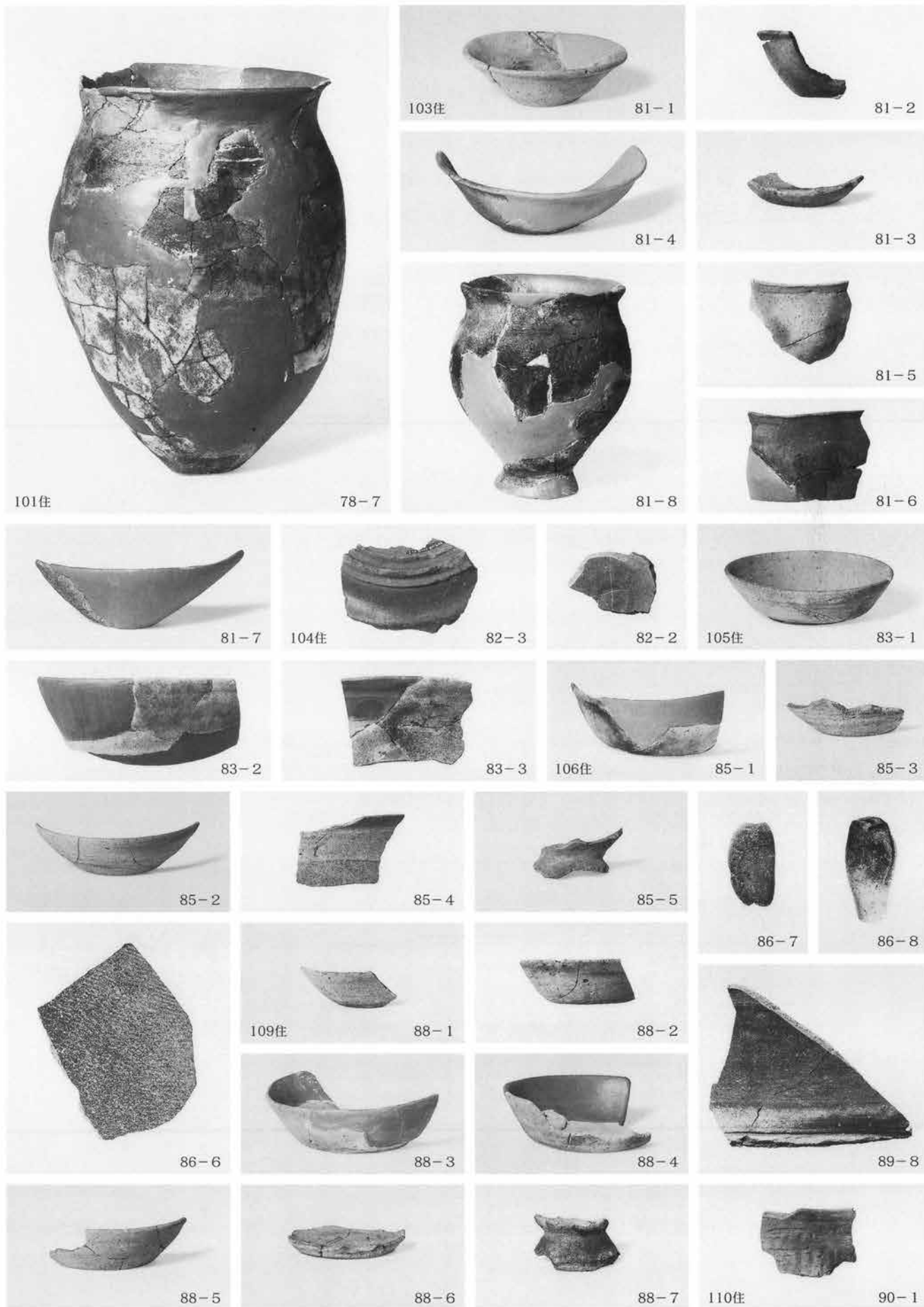


鳥山下9区調査風景（北より）

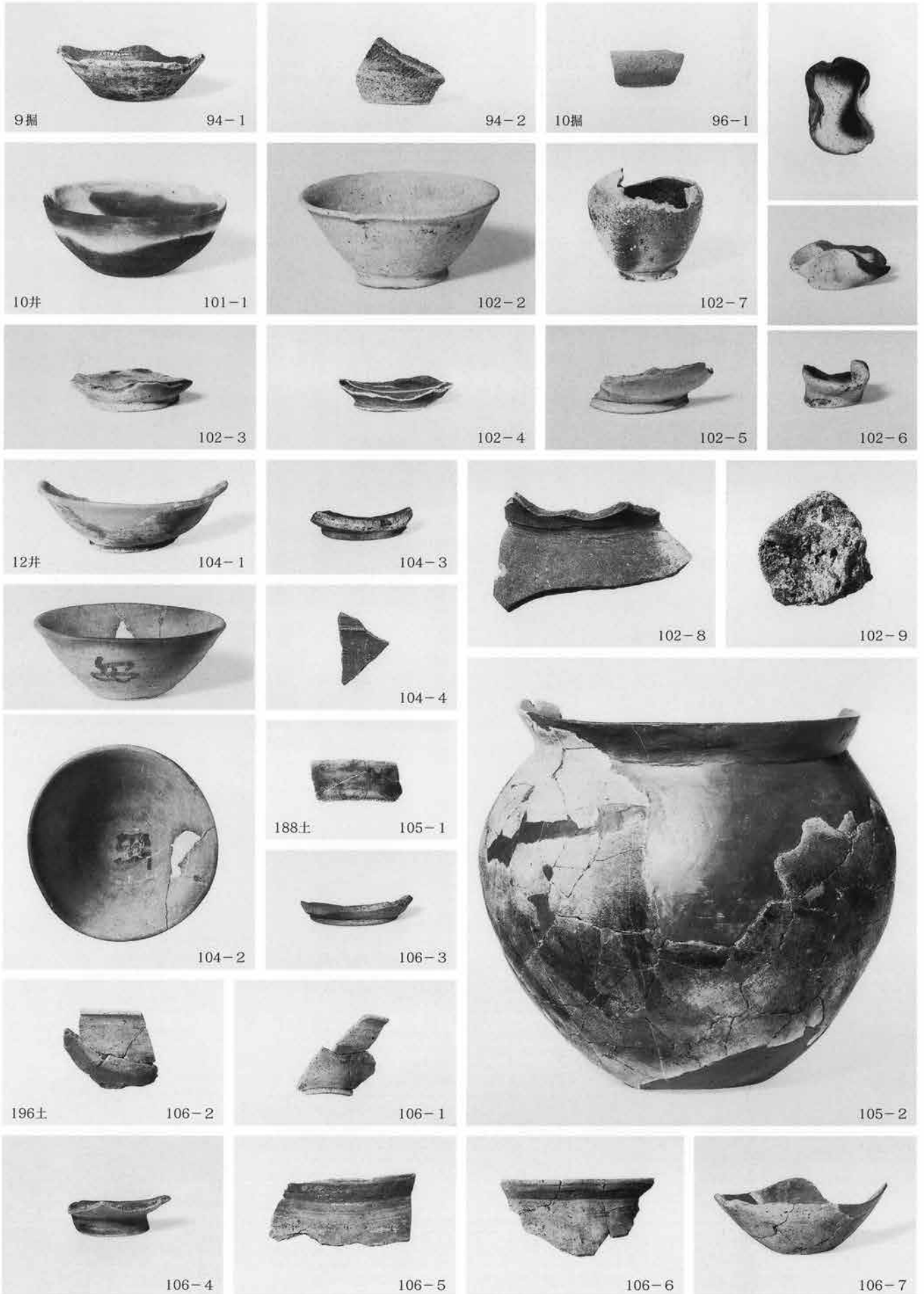
鳥山下9区90・91・92・97号住居、10区100・101号住居出土遺物



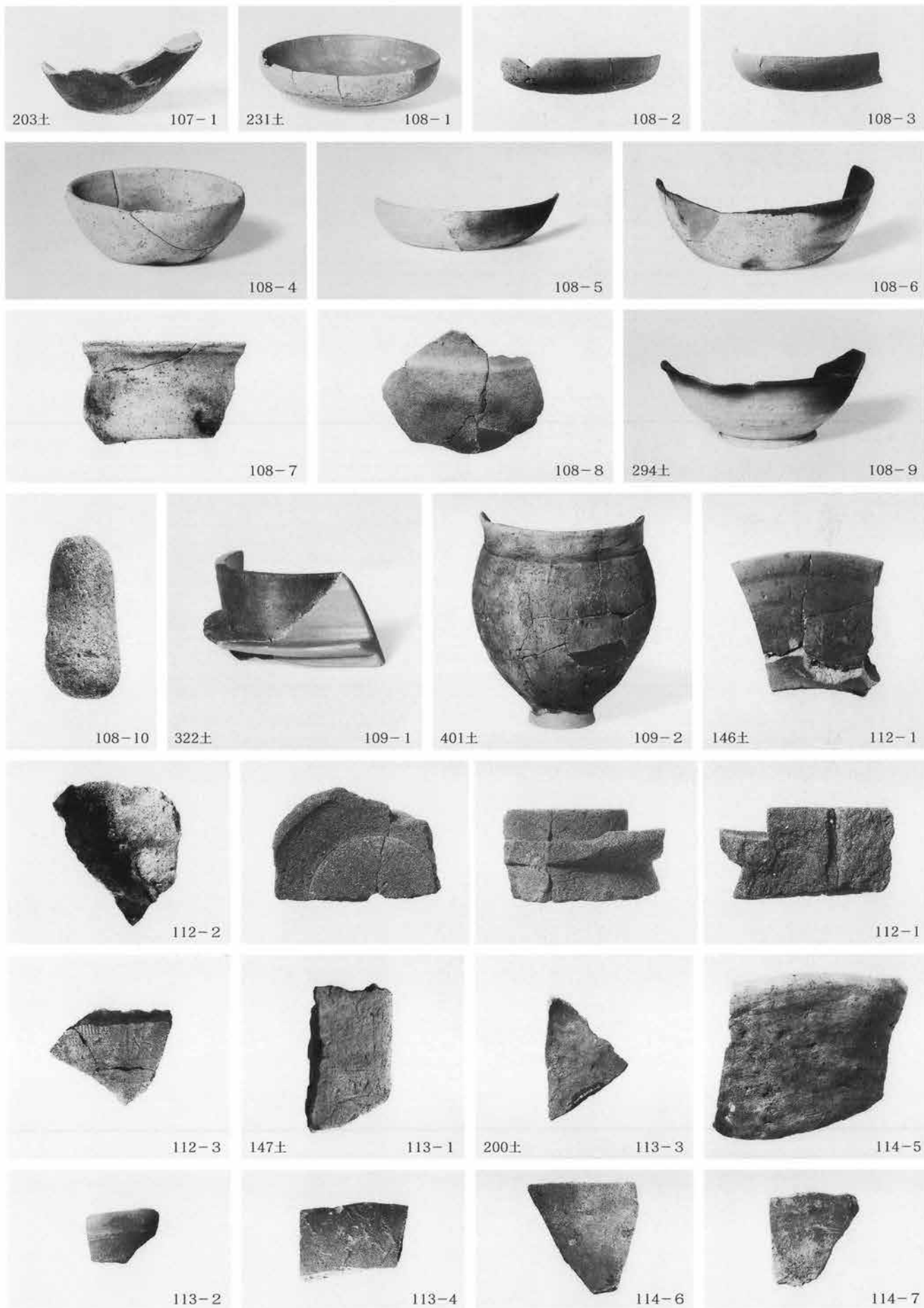
鳥山下10区101・103・104・105・106・109・110号住居出土遺物



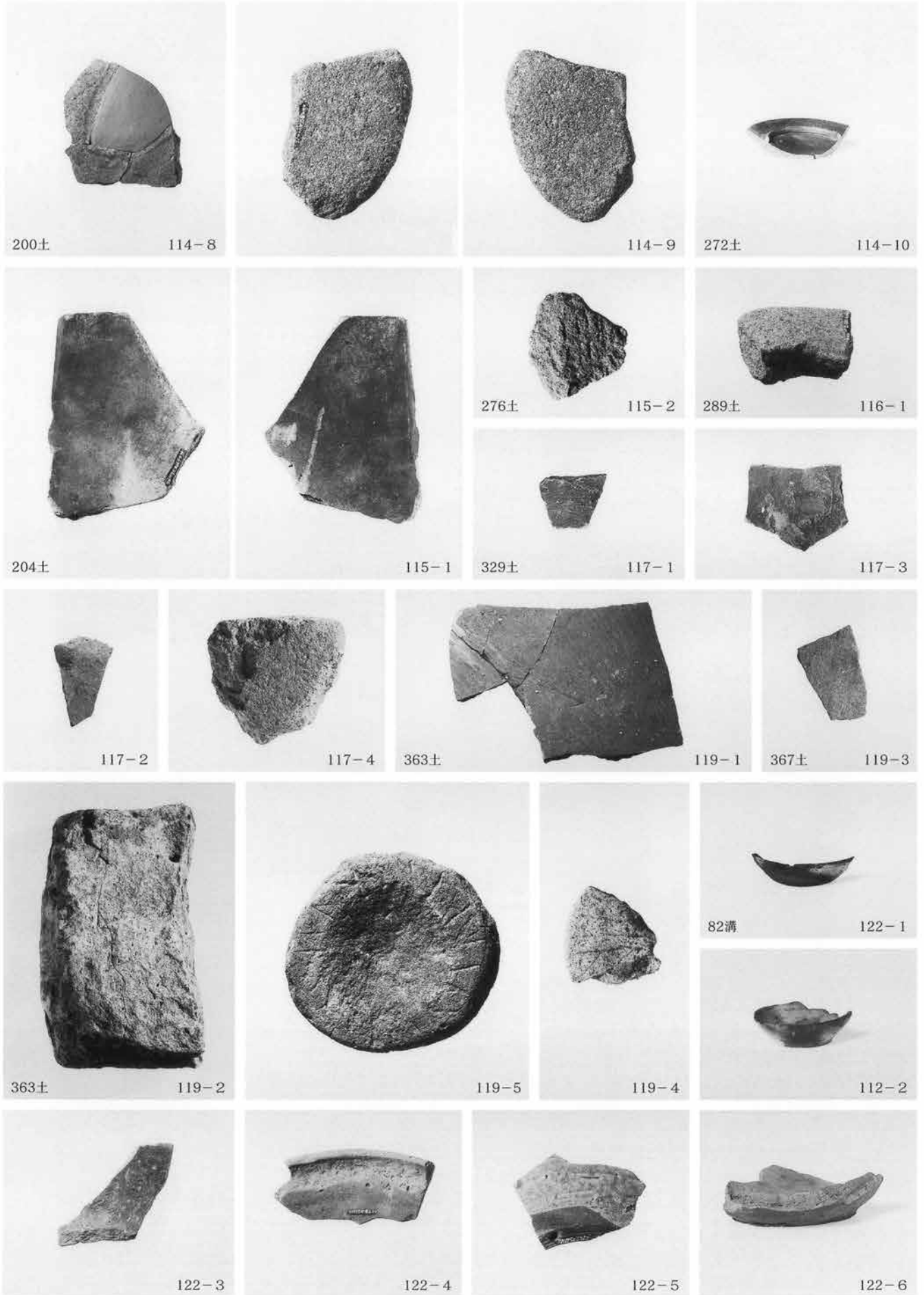
鳥山下9区9号掘立柱建物跡、10・12号井戸、188・196号土坑、10区10号掘立柱建物跡出土遺物



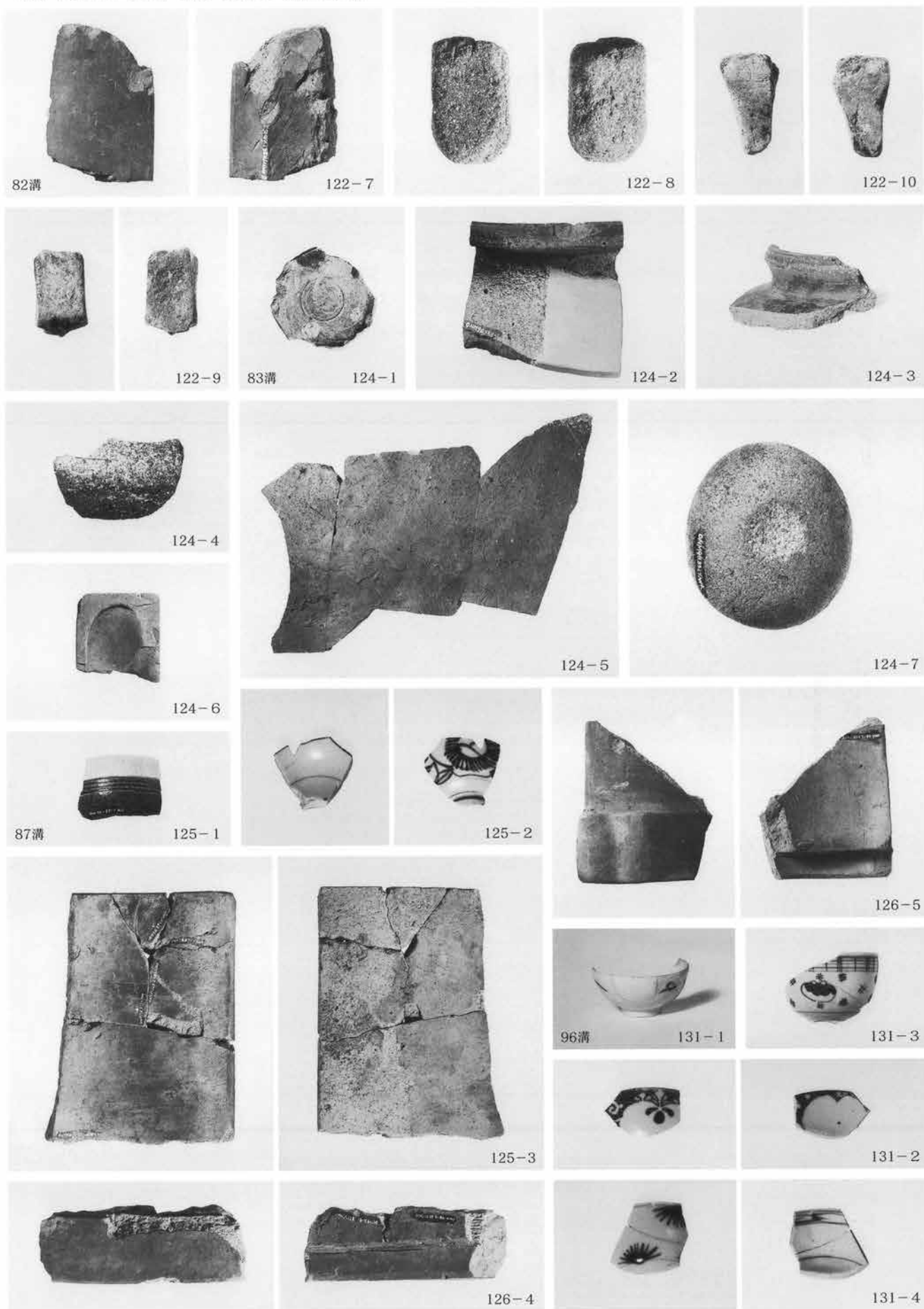
鳥山下9区203・231・146・200号土坑、10区294・322・401号土坑出土遺物



鳥山下9区200・204号土坑、82号溝、10区272・276・289・329・363・367号土坑出土遺物



鳥山下9区82・83・87号溝、10区96号溝出土遺物



鳥山下10区96号溝出土遺物



鳥山下9区81・85・89号溝、10区96・97・98・99・100・111号溝、9・10区遺構外出土遺物



96溝



133-22



97溝



134-27



133-24



99溝



135-1



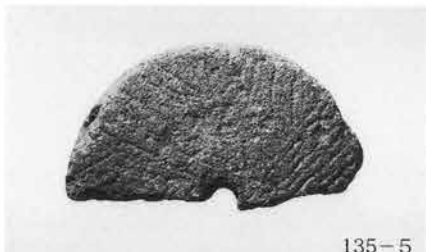
(97・98・99)号溝 134-28



135-4



134-25



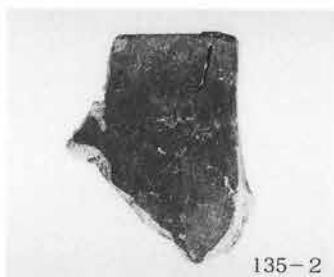
135-5



111溝 127-1



99溝



135-2



135-3



81溝

147-1



85溝

149-1



149-2



161-1



89溝

151-1



遺構外

157-1



157-2

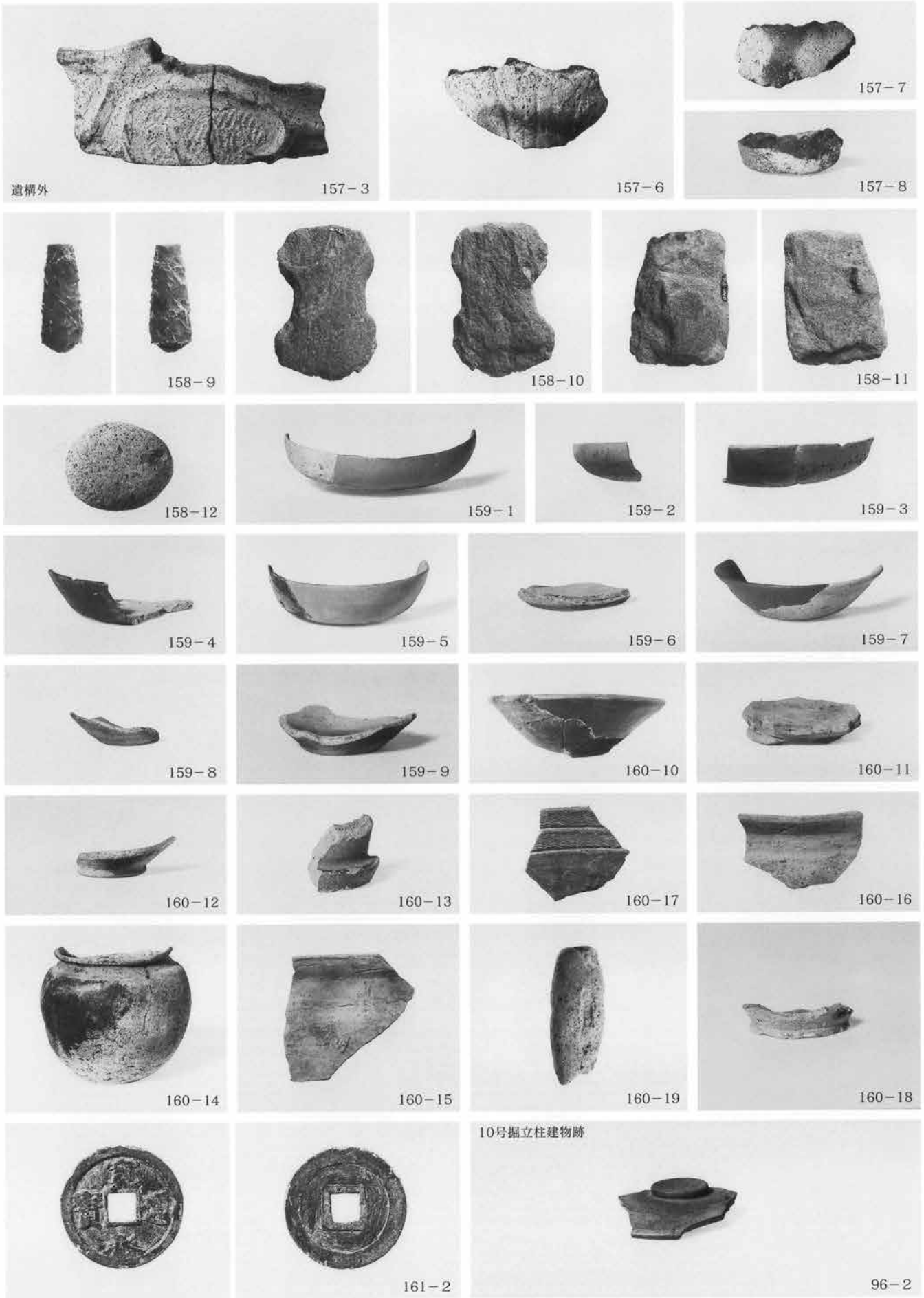


157-4



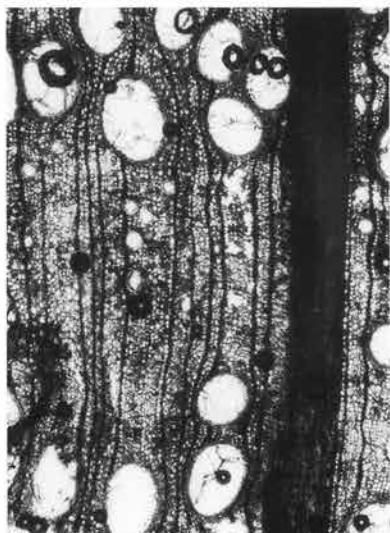
157-5

鳥山下10区10号掘立柱建物跡、9・10区遺構外出土遺物



年保遺跡出土木材の切片の光学顕微鏡写真

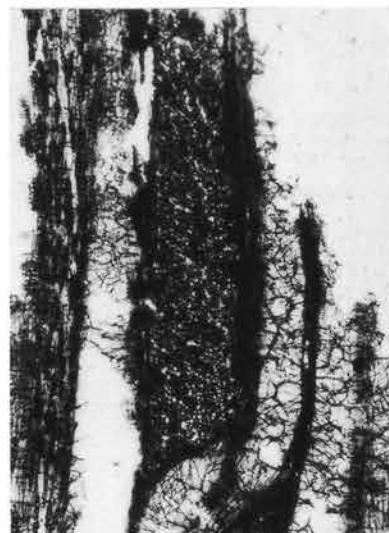
a:横断面 b:放射断面 c:接線断面



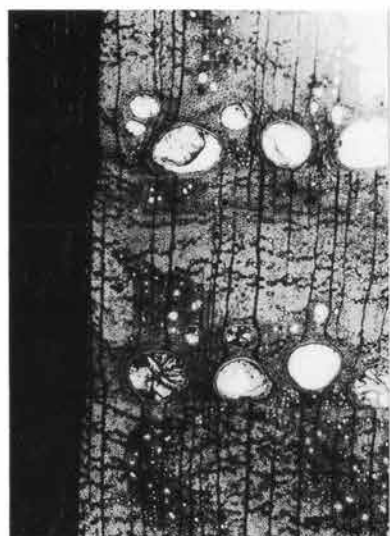
1a.クヌギ節 (326) bar:1.0mm



1b.同 bar:0.4mm



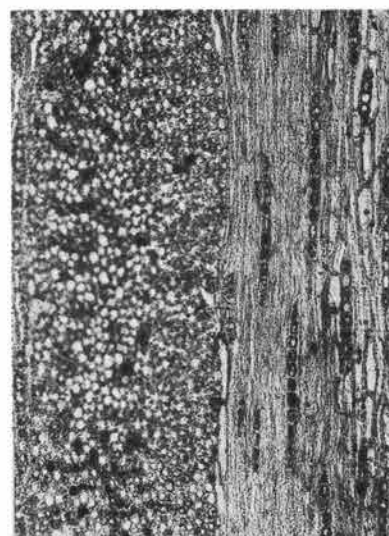
1c.同 bar:1.0mm



2a.コナラ節 (327) bar:1.0mm



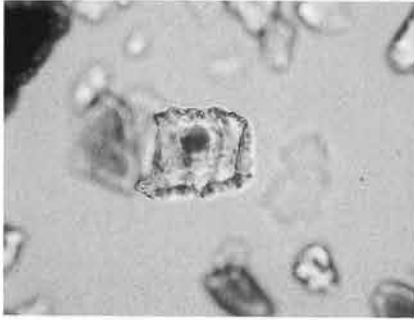
2b.同 bar:0.2mm



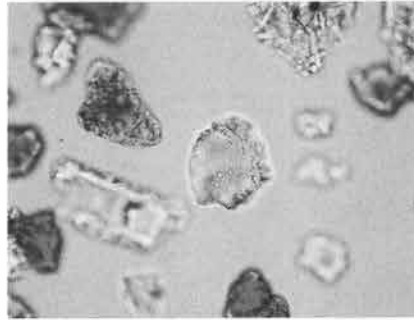
2c.同 bar:0.4mm



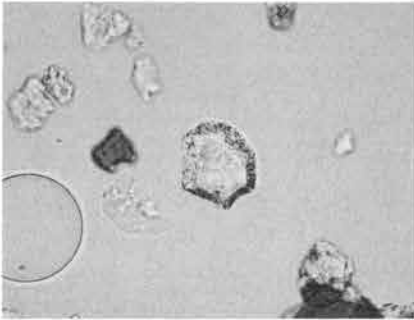
植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真



ネザサ節型
試料4



ミヤコササ節型
試料3

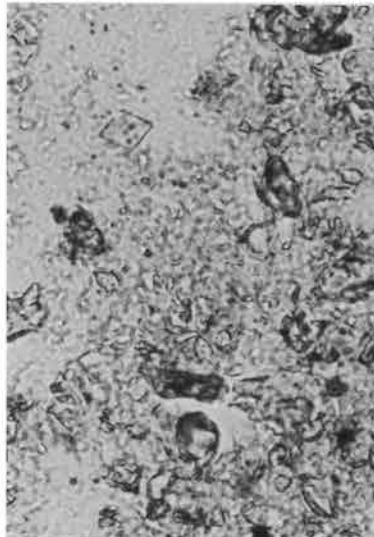


ミヤコササ節型
試料4

珪藻の顕微鏡写真



1. *Hantzschia amphioxys*



2. 弱拡大顕微鏡写真

1 ——— 10 μm
2 ——— 10 μm

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告書第321集

年保遺跡 鳥山下遺跡

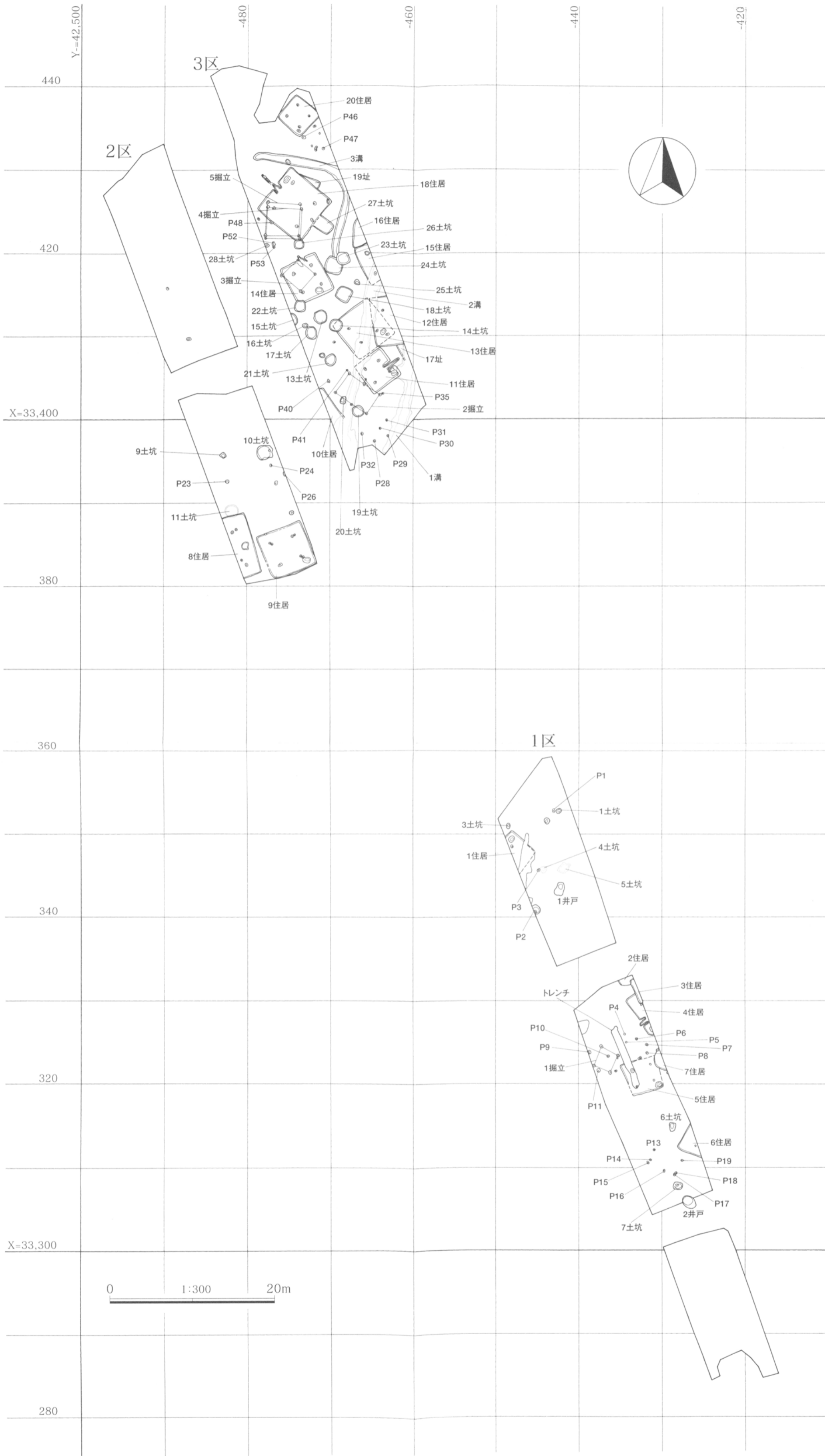
(主) 太田大間々線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

平成15年(2003年)9月25日 印刷
平成15年(2003年)9月30日 発行

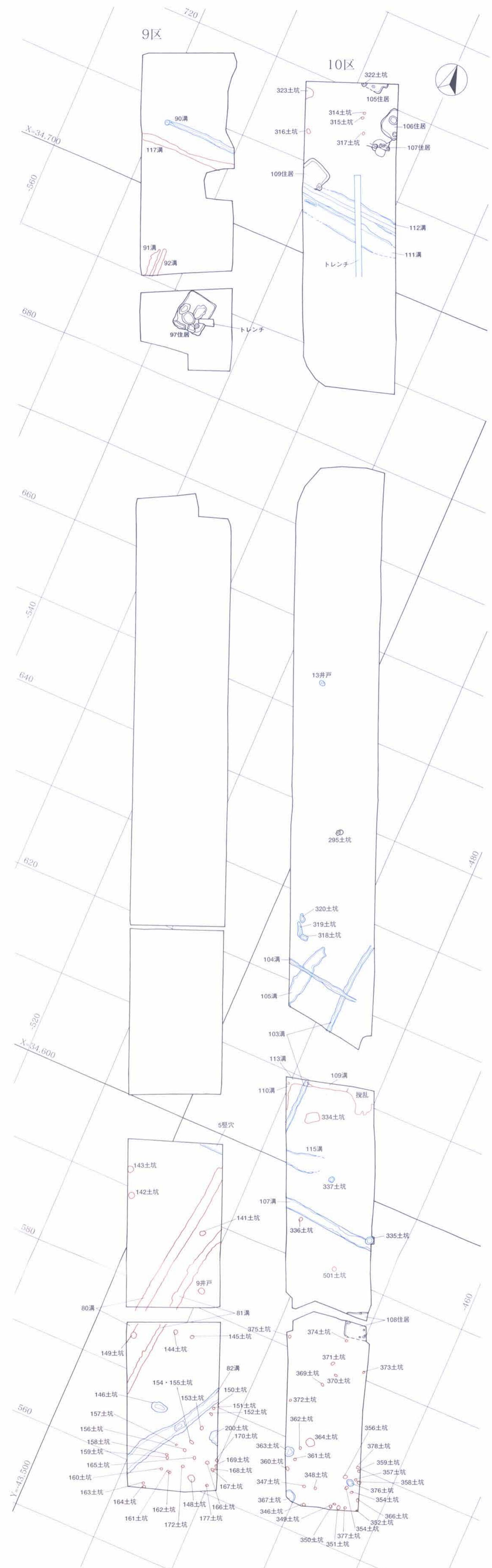
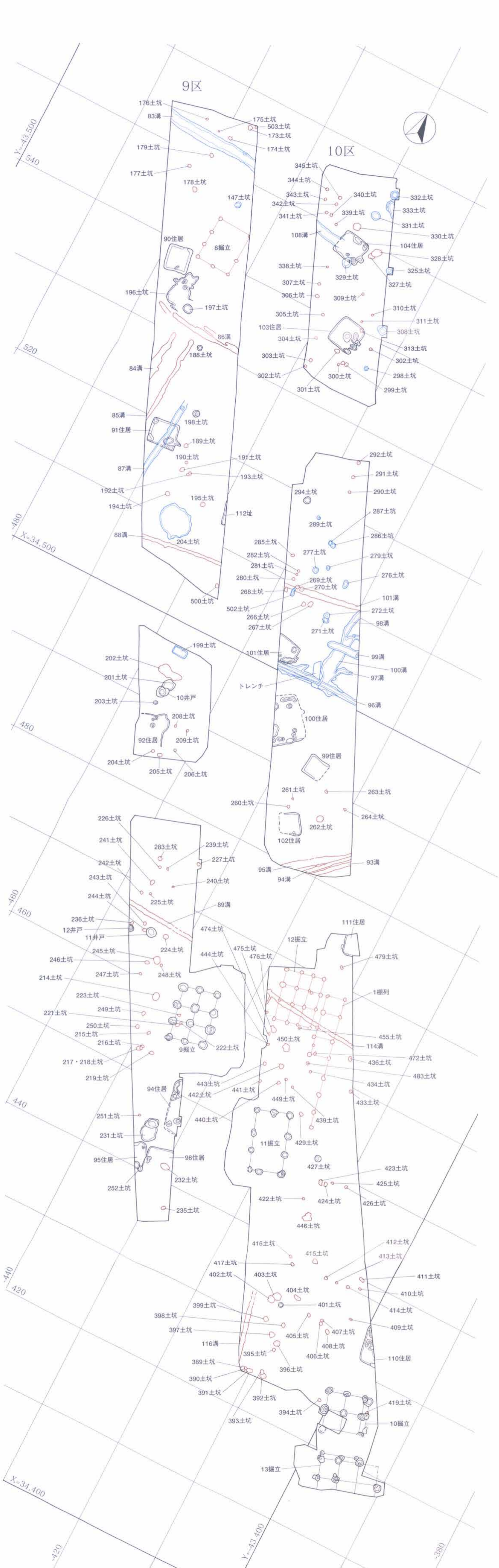
発行／編集 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社



付図1 年保遺跡全体図



付図2 鳥山下遺跡全体図